世界名作劇場シリーズ メモリアルブック

ヨーロッパ編

著 ちばかおり



既刊案内



世界名作劇場シリーズ
メモリアルブック　アメリカ&ワールド編
定価：本体2,500円（税別）

掲載作品

母をたずねて三千里

あらいぐまラスカル

赤毛のアン

トム・ソーヤーの冒険

家族ロビンソン漂流記
ふしぎな島のフローネ

南の虹のルーシー

愛少女ポリアンナ物語

愛の若草物語

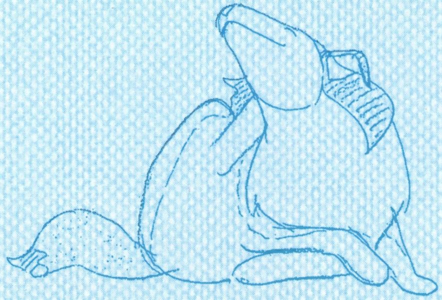
私のあしながおじさん

大草原の小さな天使
ブッシュベイビー

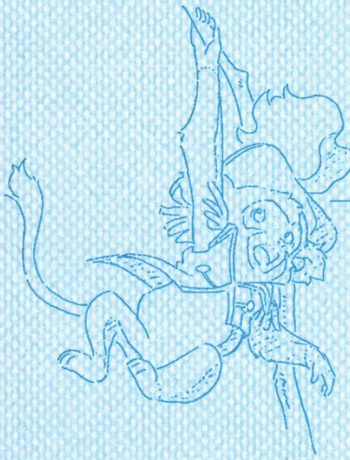
若草物語　ナンとジョー先生

七つの海のティコ

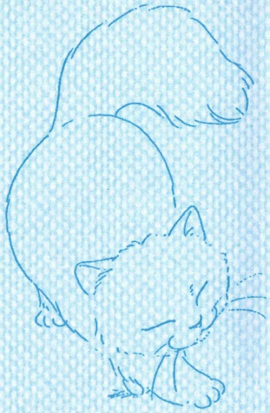
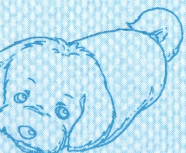
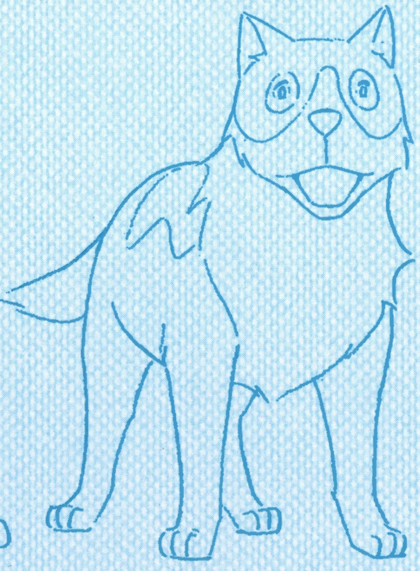
北米・中南米・他の大陸が舞台の
12作品を収録したアメリカ&ワールド編！


世界名作劇場
シリーズ
メモリアルブック
ヨーロッパ編



著
ちばかおり




Memories of the World Masterpiece Theatre

世界名作劇場シリーズ
メモリアルブック

ヨーロッパ編



ヨーロッパ編

世界名作劇場（あのころ）を忘れない

忘れられない作品がある。あのセリフ、あの場面。かつて日曜夜7時半に放送されていた世界名作劇場シリーズは、あの頃の懐かしい記憶と共に、ずっと私達の心のどこかに住み続けている。シリーズは、1975年の『フランダースの犬』から1997年の『家なき子レミ』まで、ほぼ一年に一作品ずつ23年間に渡って放送された。2007年よりBSフジから新たに3作品が放送されたのはまだ記憶に新しい。家族と一緒に観たあの頃、感動の場面をひとりでそっと観た人、ビデオで、DVDで、出会い方はそれぞれ違うかもしれない。そして観た作品も、好きだった作品も十人十色だろう。

世界名作劇場というシリーズには共通の色がある。それは他に類をみない丁寧な人物描写や自然描写、もしくは読み継がれた児童文学を土台にした高い精神性だろうか？　優秀なスタッフ達が自らに課した高いレベルに挑戦し続けたことが、各作品に同じ色を感じさせるのかもしれない。彼らの技術とその熱い情熱なしには、世界名作劇場は生まれなかったし、続かなかったろう。

本書では、各作品の名場面を振り返りつつ、作品の制作過程に作られた膨大な設定画、背景画を紹介していきたい。願わくばそこに、あの映像を生み出すためのたくさんの陰の力を感じていただきたい。

また、構成にあたっては、放送年順ではなく時代設定を軸にして、世界名作劇場ならではの歴史的な切り口を試みた。また多彩な舞台や原作にも注目してさまざまな角度から考察している。これも各作品の設定がしっかりしているからこそ初めて成立する企画だろう。

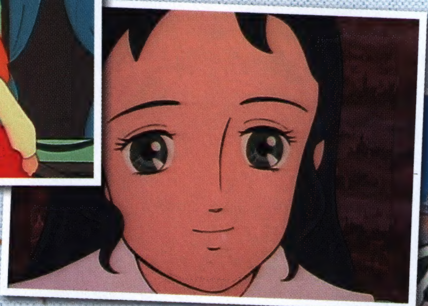
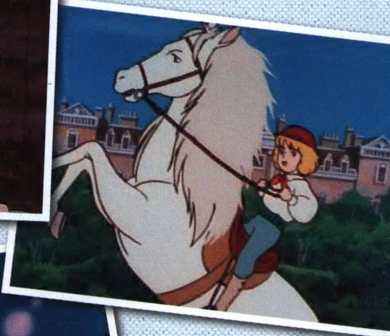
素晴らしい思い出と感動をくれた世界名作劇場へ、感謝を込めて。

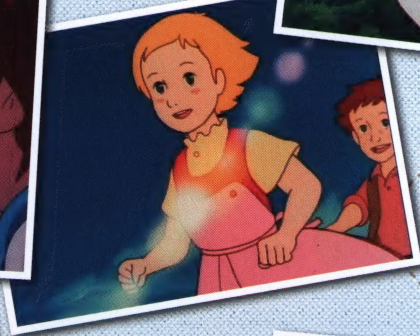
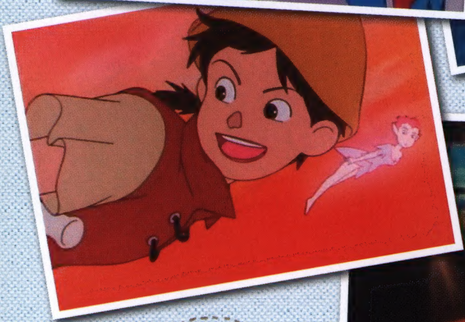


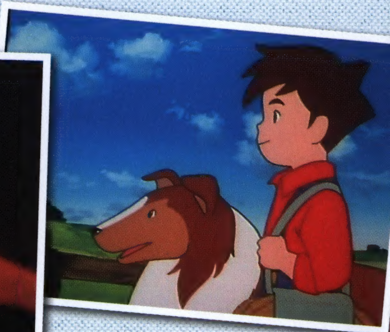








オープニング
映像より

World Map

ヨーロッパ編

現在まで26作品を数える世界名作劇場。このメモリアルブックは、資料重視の保存版として上下2冊の構成とした。本書“ヨーロッパ編”では、多くの名作文学を生み出した名作劇場の本場、ヨーロッパを舞台にした13作品を扱う。該当作品を物語の時代設定順に掲載している。違った角度からみることで、作品を再認識する機会になれば幸いである。

番組宣伝パンフレット

商品化に向けて企業に配られる作品案内パンフレットで、一般には出回らない。放映前の準備段階で制作されるため、キャラクターや色など本編とは違う場合も多く興味深い。



放送84年 『牧場の少女カトリ』

舞台 フィンランド
年代 1915年〜
全49話
➡ P247



放送95年 『ロミオの青い空』

舞台 スイス イタリア
年代 1870年代
全33話
➡ P93

放送91年 『トラップ一家物語』

舞台 オーストリア
年代 1937年〜
全40話
➡ P285



放送78年 『ペリーヌ物語』

舞台 南ヨーロッパ フランス
年代 1878年
全53話
➡ P131

放送08年 『ポルフィの長い旅』

舞台 ギリシャ イタリア フランス
年代 1953年
全52話
➡ P303



放送09年 特別付録 『こんにちはアン 〜Before Green Gables』





舞台 カナダ 年代 1890年代
全39話 ➡ P377



放送85年

『小公女セーラ』
舞台 イギリス
年代 1885年～
全46話
➡ P151

放送96年

『名犬ラッシー』
舞台 イギリス
年代 1934年～
全26話
➡ P267



放送75年

『フランダースの犬』
舞台 ベルギー
年代 1875年頃
全52話
➡ P111





放送89年

『ピーターパンの冒険』
舞台 イギリス
ネバーランド
年代 1905年頃
全41話
➡ P229



放送88年

『小公子セディ』
舞台 アメリカ
イギリス
年代 1890年頃
全43話
➡ P171





放送07年

『レ・ミゼラブル 少女コゼット』
舞台 フランス
年代 1819年～
全52話
➡ P73



放送96年

『家なき子レミ』
舞台 フランス
年代 1900年頃
全26話
➡ P211

放送83年



『アルプス物語 わたしのアンネット』
舞台 スイス
年代 1899年～
全48話
➡ P191

 （画像は番組宣伝パンフレットの表紙より。『コゼット』、『ポルフィ』は宣伝ポスターより）

年	出来事
一八〇四	ナポレオン皇帝に即位（仏）
一八一五	ワーテルローの戦いに破れ、ナポレオン没落（仏）
一八二五	蒸気機関車実用化（英）
一八三三	工場法成立　年少者の労働制限（英）
一八三七	ビクトリア女王即位（英）
一八六一	イタリア王国成立
一八六七	オーストリア・ハンガリー帝国成立
一八六八	明治維新（日）
一八六九	スエズ運河開通
一八七一	ドイツ帝国成立
一八七七	ビクトリア女王　インド皇帝に即位 インド帝国成立
一九〇三	ライト兄弟飛行機を発明（米）
一九一四	第一次世界大戦（〜一九一八）
一九一七	ロシア革命
一九二九	世界恐慌
一九三九	第二次世界大戦（〜一九四五）
一九九〇	東西ドイツが統合（独）
一九九三	EU発足

19C / 20C

ピーターパン誕生
マリア誕生
セーラ誕生
アンネット誕生
ペリーヌ誕生
カトリ誕生
ロミオ誕生
ジョン誕生
セディ誕生
ネロ誕生
ポルフィ誕生
レミ誕生
コゼット誕生

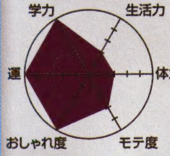
主人公たちの履歴書

Profile 小公女（プリンセス）セーラ

セーラ・クルー

年　齢 • 9歳

- 出身国　インド（大英帝国）
- 現住所　ロンドン
- 言　語　英語
- 家族構成　父
- 特　技　フランス語、朗読





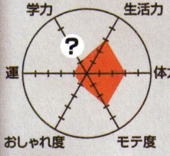
生活力と体力のなさはお嬢様育ち故。忍耐で逆転勝利を呼び込んだ。

Profile フランダースの犬

ネロ・ダース

年　齢 • 9歳（未就学）

- 出身国　ベルギー
- 現住所　ブラッケン村
- 言　語　フラマン語
- 家族構成　祖父
- 特　技　絵





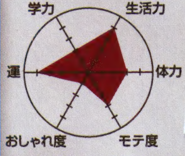
貧乏で学校も行けないネロ。ルーベンスの絵を見られたのは幸運ともいえる。

Profile レ・ミゼラブル 少女コゼット

コゼット

年　齢 • 8歳（未就学）

- 出身国　フランス
- 現住所　モンフェルメイユ
- 言　語　フランス語
- 家族構成　母
- 特　技　掃除、子守、水汲み、薪割り





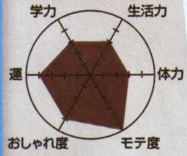
母譲りの美貌。過酷な幼少時代を経て、ここからコゼットは花開く。

Profile 小公子セディ

セドリック・エロル

年　齢 • 7歳

- 出身国　アメリカ
- 現住所　ブルックリン
- 言　語　英語
- 家族構成　母
- 特　技　野球、フルート





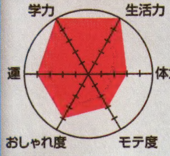
誰からも好かれる無敵の美少年。でも今はお母さんが誰より一番好き。

Profile ペリーヌ物語

ペリーヌ・パンダボアヌ

年　齢 • 13歳（未就学）

- 出身国　インド（大英帝国）
- 現住所　不定
- 言　語　フランス語、英語
- 家族構成　母
- 特　技　英語、御者





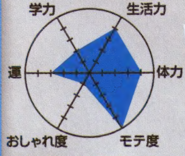
優しさと知性に富んだシンデレラガール。母譲りの教養が幸運を呼ぶ。

Profile ロミオの青い空

ロミオ

年　齢 • 11歳（未就学）

- 出身国　スイス
- 現住所　ミラノ
- 言　語　イタリア語
- 家族構成　義父、母、祖母、弟2人
- 特　技　元気





元気が取り柄の頑張り屋。なぜかモテてモテてモテまくる美少女キラー。

チャート式主人公判断

	5	4	3	2	1
学力	特待生、学年トップレベル	クラスで一番レベル	まあ普通	がんばりましょう	学校に行けたら…
運	奇跡のような偶然レベル	何かとツイてるレベル	人生いいことも悪いこともあるさ	どうもうまくいかないな〜レベル	運に見捨てられた…。やることなすこと裏目に出る
おしゃれ	おしゃれ大好き、衣装持ち、センスも良し	衣装持ち。たまにはイメチェンもする	あまり持っていないけど、おしゃれには気を使う	無頓着だけどTPOくらいは合わせます	着の身着のまま
モテ度	3人以上から好意を持たれている	2人から好意	特定のBF、GFがいる	友だちならいるけれど…	友だちもあまりいない
体力	強靭。冒険、サバイバルでも何でもOK	体力あります。体育会系	病気はしない。健康が取り柄	作品中で病気しちゃった	持病有り。虚弱で外出不能
生活力	自分で稼いで自立してる	働いている、家族の世話をしている	お手伝いできる	自分のことはできる	何もしない。夢に生きるか、超セレブ暮らしか

※物語のスタート時は変動が大きいため、年齢、住所などは10話の時点を基準にしている。

Profile 名犬ラッシー

ジョン・キャラクロー

- 年齢 • 8歳
- 出身国 イギリス
- 現住所 グリノールブリッジ村
- 言語 英語
- 家族構成 父、母
- 特技 なし



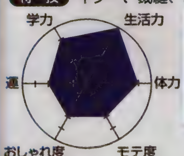


全てにおいて平均点の、ごく普通の男の子。粘り強さは特筆もの。

Profile トラップ一家物語

マリア・クッチャラ

- 年齢 • 18歳
- 出身国 オーストリア
- 現住所 ザルツブルク
- 言語 ドイツ語
- 家族構成 なし
- 特技 ギター、裁縫、歌





若い頃から苦労しているだけに自活能力抜群。教員免許もあり。

Profile ピーターパンの冒険

ピーターパン

- 年齢 • 不詳（永遠に少年）
- 出身国 イギリス
- 現住所 ネバーランド
- 言語 英語
- 家族構成 なし
- 特技 空中浮遊、笛



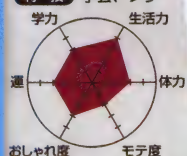


何かと両極端なピーターパン。でもネバーランドならなんでもありだ。

Profile アルプス物語 わたしのアンネット

アンネット・バルニエル

- 年齢 • 8歳
- 出身国 スイス
- 現住所 ロシニエール村
- 言語 フランス語
- 家族構成 父、大おば、弟
- 特技 手芸、ソリ



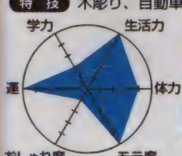


男勝りのアンネットだけど意外に家庭的。さすがダニーのお母さん代わり。

Profile ポルフィの長い旅

ポルフィラス・パタゴス

- 年齢 • 12歳
- 出身国 ギリシャ
- 現住所 シミトラ村
- 言語 ギリシャ語
- 家族構成 父、母、妹
- 特技 木彫り、自動車修理



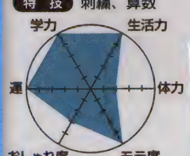


自動車修理はプロ級。周囲を巻きこむ才能は、運だけとは言い切れず。

Profile 牧場の少女カトリ

カトリ・ウコンネミ

- 年齢 • 9歳（未就学）
- 出身国 フィンランド
- 現住所 ライッコラ屋敷
- 言語 フィンランド語
- 家族構成 祖父母、母
- 特技 刺繍、算数



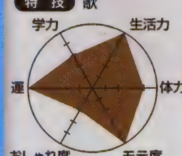


家畜番時代は貧しかったが、この後カトリは自らの努力で駆け上る。

Profile 家なき子レミ

レミ・バルブラン

- 年齢 • 10歳（未就学）
- 出身国 フランス
- 現住所 トゥールーズで足止め中
- 言語 フランス語
- 家族構成 座長
- 特技 歌





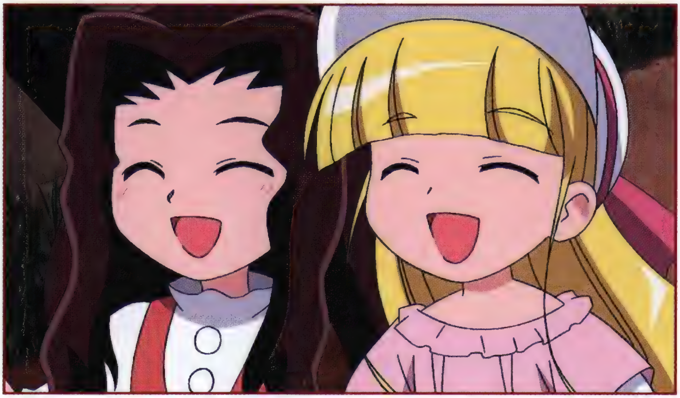
未就学ゆえ学力点は低めだが、自活できる。生活が安定すれば服だって…！



レ・ミゼラブル 少女コゼット

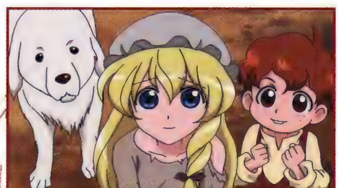
放映期間 ● 2007/01/08~2007/12/30

受け継がれていく、真実の愛と気高き精神。あの不朽の名作が、新たな視点で21世紀に蘇る。



ブランコで仲良く遊ぶ、幼いコゼットとエポニーヌ。その想い出は、数奇な運命に翻弄されたふたりの、たったひとつの絆だった。

母が迎えに来る日を信じて健気に生きるコゼット。辛い事ばかりだけど、ガヴローシュとシュシュが支えてくれた。



「私、おじさんと行きます！」
——コゼット（13話）





だけど母は天国に召されてしまう。代わりにコゼットを迎えに来たのは、優しくて不思議なおじさん…ジャン・ヴァルジャンだった。

修道院の女子学校への入学を許されたコゼットは、高等教育を受け、学友と共に、美しく健やかに育っていく。



Opening



レ・ミゼラブル
名場面集

「君を守ると、
そうお母さんに誓ったんだ」
——ジャン・ヴァルジャン（14 話）



パリの街に戻ったコゼットは、公園で出会った青年マリウスと恋に落ちる。



「僕と結婚してください」。想い出の詰まったリュクサンブール公園で、マリウスはコゼットにプロポーズをする。



ふたりの恋心を知ったヴァルジャンは、銃弾に倒れたマリウスを背中に担ぎ、パリの下水道を逃走する。全てはコゼットの為に。



コゼットとマリウスの結婚式。その日ヴァルジャンは花嫁の父となる。

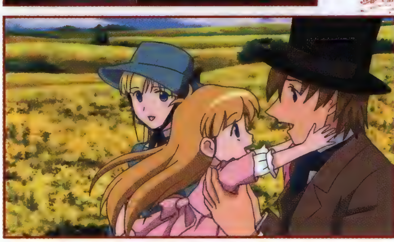
天に召される時が来たヴァルジャンは、コゼットとマリウスにに全てを告白し、銀の燭台を託す。



「ずっと見ていてね。
私の一番大好きな、お母さん」
——コゼット（49話）

母の墓前へ結婚の報告に行ったコゼットは、その街で母の深き愛を知る。





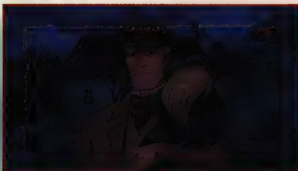
そして父の意志と母の愛は、親から子へ。過去から未来へと受け継がれていく…。

メモリアル
Story

—第16話—

パリのゴルボー屋敷

ジャン・ヴァルジャンとコゼットは、ゴルボー屋敷で新生活を始めた。これからは親子として、目立たないようひっそりと暮らす事になる。そんなある日、散歩に訪れたリュクサンブール公園で、コゼットの脳裏に大切な想い出が蘇った。



コゼットが疲れて眠っている間に、馬車はパリのゴルボー屋敷へと辿り着いた。



コゼットとヴァルジャン。ふたりきりの奇妙な、だけど穏やかな生活が始まる。



「お父さん」と呼んでほしいと言われ、はにかみながら応えるコゼット。

はい。あの…、お父さん。



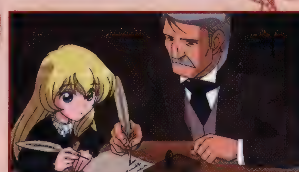
昼間は天気が良くても部屋でお勉強。



外出は何故か夕方から。コゼットは不思議に思いながらも、ヴァルジャンを信じて付き従う。



冬で花こそ咲いてなかったが、リュクサンブール公園には美しい光景が広がっていた。



一度身に付けた知識は、誰にも奪う事の出来ない、大切な財産になる。

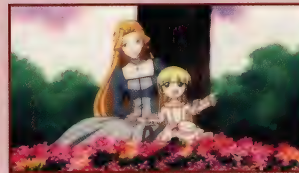
突如、コゼットの記憶が鮮烈に蘇る。





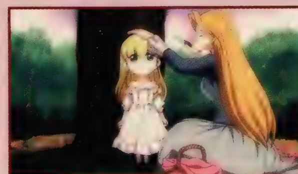
このリュクサンブール公園こそが、母と遊んだ想い出の場所だったのだ！





子守唄を唄ったファンティーヌは、公園の木にコゼットの背の高さの印を付けた。どこかに想い出の木がある！　だけど、広い公園から探し出すのは不可能に近かった。

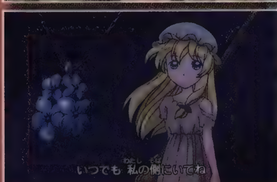




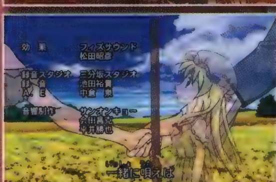
Ending



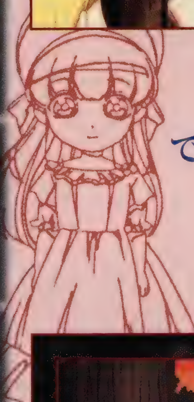








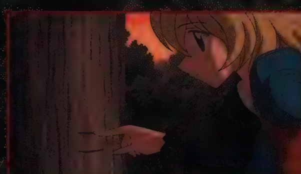




でも、お母さんの木だから！

ふたりは探す。
お母さんの木を。

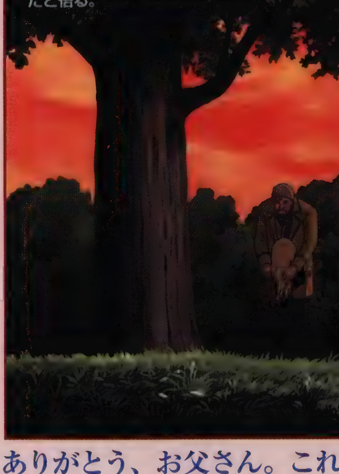




2歳の時と3歳の時に付けてもらった印。その頃の背の低さに時の経過を理解したコゼットは、母とはもう会えないのだと悟る。



風に飛ばされた帽子は、まるでコゼットを導くかのように、一本の木へと転がっていく。そこにあったのは……お母さんが付けた印！





母の死を受け入れたコゼットは、ヴァルジャンに預けていた母のペンダントを受け取るのだった。

ありがとう、お父さん。これからは私が持っているわ。



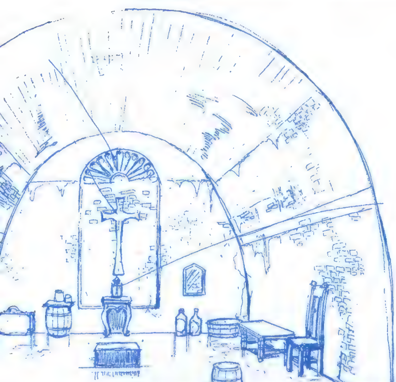
ロミオの青い空

放映期間 ● 1995/01/15～1995/12/17

煙突掃除夫として働くロミオ。辛さを耐え、同じ境遇の少年たちと育む熱い友情！　団結の歌が青空にこだまする。



家族のために自ら身を売って煙突掃除夫になったロミオには、辛く厳しい待遇と労働が待っていた。

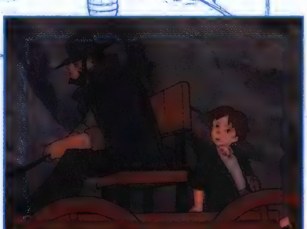




ソノーニョ村では、貧しいながらも幸せな日々を送っていたロミオ。ところが人買いルイニの策略に遭い、一家は破滅の危機に陥る。

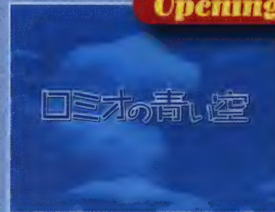


父も病気で倒れた。家族を救うには自分が"売られる"しかない。ロミオはルイニに連れられミラノへ。



世界名作劇場

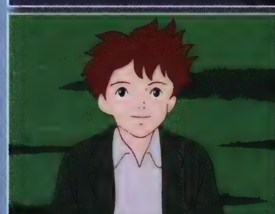
Opening







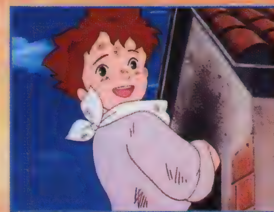






ロミオの青い空
名場面集

「スパッツァカミーノ！
煙突掃除はいかがですか」——ロミオ（8話）



煙突掃除は辛い仕事。だがトンネルの向こうに青空が待っていた。

「いつか自由に学び、
自由に生きられる時代が来る
僕たちが作っていくんだよ、新しい時代を」
——アルフレド（24話）



はじめは厳しかったロッシ親方もやがてロミオに愛情を持つ。



ミラノへの旅の途中で出会ったアルフレドと友情を誓い合うロミオ。ふたりは同じ煙突掃除の少年たちを集め「黒い兄弟」を結成する。

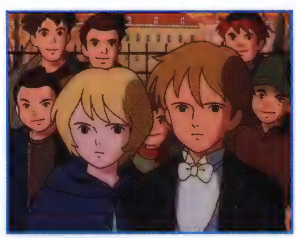




ロミオのそばには「天使」アンジェレッタがいた。だが、アンジェレッタには大きな秘密があった。

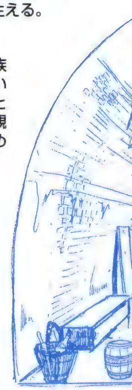


不良グループ狼団と黒い兄弟は宿敵同士。戦いを経てやがて真の友情が芽生える。



アルフレドは貴族の身分を隠していた。妹ビアンカと共に殺された両親の名誉回復を求め国王の元へ。

「勝負は永遠に預かっておくぜ」
——ジョバンニ（30話）

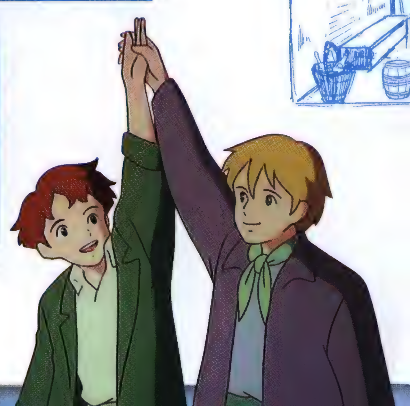




仲間との絆と大きな夢をロミオに託し、アルフレドは帰らぬ人に。



年季を終えソノーニョ村に戻るロミオに、仲間と過ごした日々がよみがえる。ロミオは誓う。永遠に忘れない、アルフレド！



メモリアル
Story

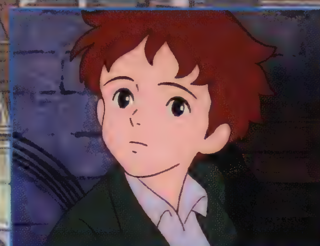
—第9話—

月夜のラブレター

ロッシ親方の家に買われ、煙突掃除をすることになったロミオ。食事もろくにもらえず、夜は物置に監禁される。そんなロミオに、夜ごとに贈り物が届くようになる。この家に誰かぼくを見守る人がいる——ロミオにとってその存在は天使そのものだった。



ロミオの「天使」。少しずつ画面に登場させ、徹底的に謎めかして描かれる。視聴者には少女であるらしいとわかるが…。ここでも後ろ姿のみ。



ロミオは「天使」にお礼が言いたかったが、伝える手段がない。

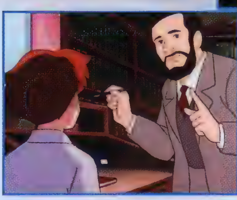


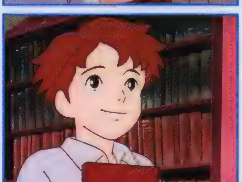
慣れない煙突上りに苦戦するロミオ。煙突に入るのは体の小さい子供の仕事だ。

絶対いるんだ　天使が。



屋根から見るミラノの眺望に、ロミオはしばし見とれた。



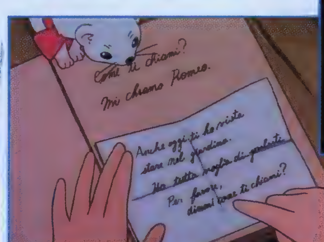


煙突掃除の依頼主カセラ教授が、ロミオへのお礼に絵本をくれた。字が読めないというロミオに、カセラは名前の尋ね方、答え方の簡単な文例を教える。



“あなたの名前は何ですか”だ。





文字が読めないとがっかりするが、昼間教わったばかりの「あなたの名前は何ですか」という一文を見つける。会いたい気持ちが募るロミオ。

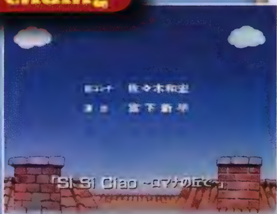


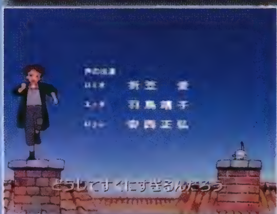
その夜、ロミオが戻ると、小箱に「天使」からの手紙が入っていた。



「ぼくはロミオ」。生まれて初めて書いた手紙を持って、物置から出ようとするロミオ。物音に気づいたエッダが見回りに来るが、なんとかしのいで「天使」のドアの下に押し込む。

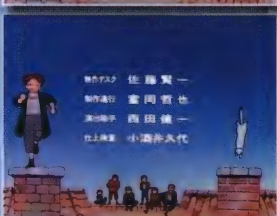
Ending

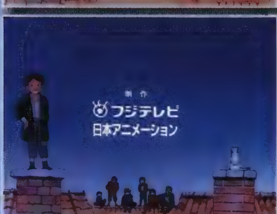


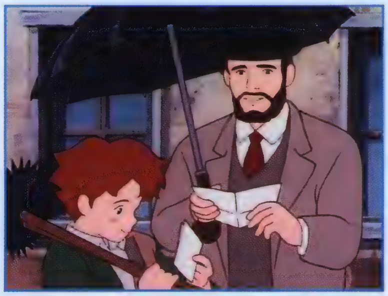


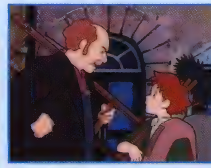






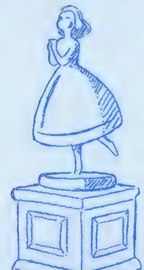


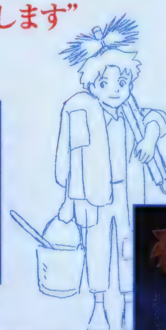




「天使」が気になって仕事に身が入らないロミオ。偶然街であったカセラに手紙の内容を聞く。「天使」の返事は"明日会いましょう"だった。

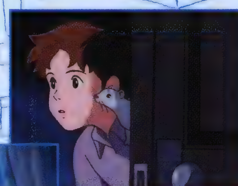
"明日みんなが寝てしまってから オルゴールで合図します" ……恋人かね？





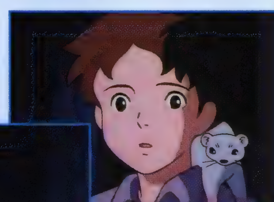


ロミオが手紙を見つめていると、オルゴールの音が…。



そっと忍んで扉を開けると、月明かりの下にひとりの美しい少女が座っていた。





青い光の中、声もなく見つめるロミオ。まさにロミオには「天使」に見えた。



ついにロミオにも視聴者にも明らかになる「天使」の素顔。少女の名はアンジェレッタ。だがこの名前が明かされるのはさらに次の話。さんざんじらしてこの回はここで完。

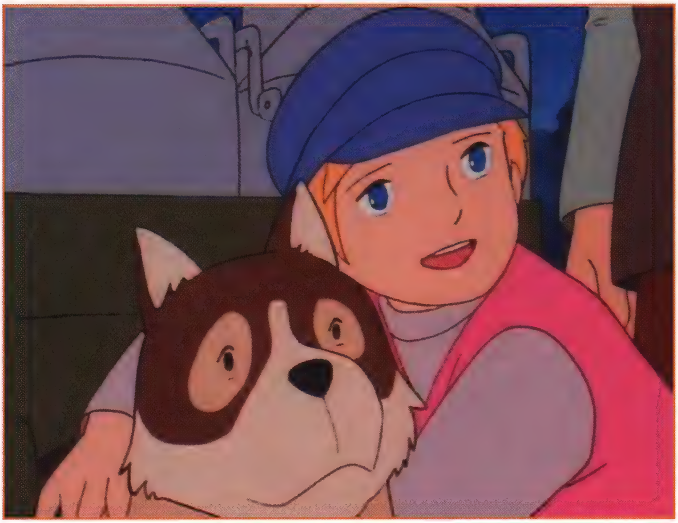




フランダースの犬

放映期間 ● 1975/01/05～1975/12/28

絵への情熱を青い瞳に秘めた少年ネロ。ネロを信頼するパトラッシュ、アロアの愛。誰もが純粋すぎる故に──。



ネロとパトラッシュ。お互いに出会ったときから、悲しみも喜びも分かち合ってきた。言葉はなくとも、心だけで伝わるほどに。

「あの子の目はただの目ではない
あの澄んだ目の中で
何かが燃えとるようじゃ」
──ノエルじいさん（13話）





夏の暑い昼下がり、パトラッシュは道ばたに捨てられた。それを知ったネロは必死でパトラッシュを捜し出し、家に連れて帰る。



金物屋に酷使されるパトラッシュ。ネロは一目会ったときからパトラッシュのことが忘れられない。

カルピス
こども劇場

Opening















フランダースの犬
名場面集

「優しい心って
どうしたら絵に描くことができるんだろう」
――ネロ（[illegible]話）

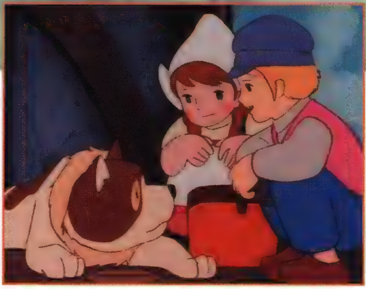
絵を描くネロを応援するアロア、ジョルジュ、ポール、そしてジェハン。







喜びと落胆、挫折。絵に対して純粋なだけにネロの心は激しく揺れ動く。



ネロの手厚い看病で元気を取り戻したパトラッシュ。

アロアとの幼い愛も見逃せない。だが少年は夢を選ぶ。



「ネロ、いい絵を　描くんだぞ」
――ジェハン（44話）





ネロを支えた人達は次々に去っていく。そしてたったひとりの家族ジェハンが亡くなり、ネロはひとりぼっちに…。

コンクールにジェハンを描くネロ。放火の汚名を着せられ仕事も失ったネロは絵に最後の望みをかける。



「パトラッシュ、もう何もかも終わったんだよ」
――ネロ（51話）



夢に殉じたネロ。小さな天才へ最後の贈り物がルーベンスの2枚の絵だった。パトラッシュと一緒。ネロはもうそれで十分だった。



私は死んでもいいからネロを助けて！　アロアの祈りはもうネロには届かない。

落選を知ったネロは心の糸が切れてしまう。「クリスマスに迎えに来る」というみんなとの再会の約束すら忘れて…。

メモリアル
Story

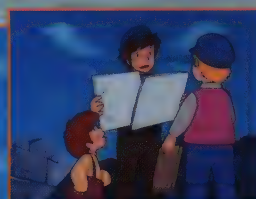
丘の上の木の下で

ネロが生まれて初めて手にした本物の画用紙。一番初めに何を描こう？　想いが強すぎるあまり、かえって描けなくなってしまったネロ。そんなネロをアロアが応援する。ネロの絵への一途な想いとネロを支えるアロアの健気さが眩しい。「フランダースの犬」はかわいそうな少年の話などではない。夢を追う少年と少年の夢を支える少女の純愛物語なのだ。


ネロが働いたお金で買った画用紙。本物の画用紙がうれしくて夜も眠れず、そっと紙をなでる。


翌朝アントワープへ行くネロに、アロアはいい絵を描いてねと励ます。


ネロは何を描こうかと思案するが、どれも新しい画用紙の描き初めにはふさわしく思えなかった。


ネロの絵を見に来たジョルジュとポールに、ネロは紙を汚すようで怖いと打ち明けた。

ダメなんだ。なんだか描けないんだ。
白い紙を鉛筆で汚すのがこわいみたいで。

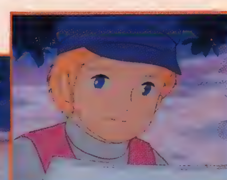

結局何も描かずに帰ってきたネロにアロアはいう。

そんなこと決まってるじゃない。
最初に描くのはパトラッシュよ。


そういってくったくなくパトラッシュと走り出すアロア。つられてネロも駆け回る。


私も見せたいものがあるとアロア。明日丘の上の木の下で見せ合おうとネロと約束。それが何かはヒ・ミ・ツ。




やっといつもの自分に戻れたネロ。堰を切ったように紙に向かう。もちろんモデルはパトラッシュ。

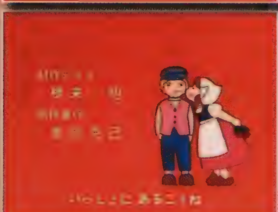
Ending















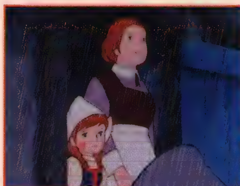
一方ネロも最高の絵をアロアに見せようと、夜遅くまで絵に手を入れていた。





アロアはレース編みを習っていた。初めての作品はネロに見せたい！ アロアは夜遅くまでレース編みに取り組む。

ネロはきっと待ってるわよ。



ネロは待っている！ アロアは走り出す。

アロアと約束したんだ。



約束の時間になった。ところが無情の雨がふたりの約束を阻む。

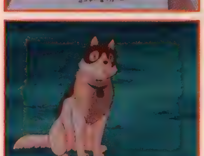


木の下にふたりが立ったとき、雨は上がった。



雨の中飛び出したふたり。信じる人が待つ丘の上の木の下へ、大好きな人の胸の中へ。





パトラッシュの絵に驚くアロア。もっと上手くなったらネロの画板入れを編むと約束するアロア。だがその約束は…。



仕上げたレース編みをネロに見せるアロア。自分に内緒で頑張っていたアロア。ネロは胸がいっぱいになる。



ペリーヌ物語

放映期間 ● 1978/01/01 ～ 1978/12/31

まだ見ぬ祖父を訪ねて、遠いフランスへ旅をするペリーヌ。出会いと別れの中で、少女は本当の愛の意味を知る。



インドからフランスへ。数千キロに及ぶ道のりはたったひとりの身内である祖父を訪ねる旅だった。だがペリーヌは祖父が両親の結婚を認めていない事実を知らない。

「あんたみたいな子を好きにならない
人間はいやしないよ」
――シモン爺さん（22話）



ボスニアで父エドモンが病死。悲しみを乗り越え、母マリと旅の写真屋をしながら旅を続けていた。



一日も早くフランスへ！ 無理を承知でアルプスを越える最短ルートをとるが、そのためマリの病気は悪化…。



Opening















ひとりぼっちになったペリーヌは、母の遺言通り祖父の元へと旅を続けた。しかしお金も尽き、疲労と空腹でついに倒れる。

「人に愛されるには　まず
自分が人を愛さなくては…」
――マリ（21話）



旅の途中で出会ったサーカスの少年マルセル。



どうにかパリまでたどり着いたペリーヌ親子。シモン荘の人々の人情に力づけられるペリーヌだったが、マリの命は消えようとしていた。



瀕死のペリーヌを救ったのは、相棒のバロン、パリカール、そしてパリカールを買ったルクリおばさんだった。





ようやく祖父の住むマロクールに着く。だがペリーヌはすぐに名乗らず、自分の力で生きていこうと決意する。

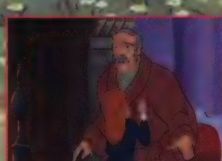


祖父ビルフランは大工場の社長だった。オーレリィと偽名を使い、女工として雇われたペリーヌは、その聡明さからビルフランの目に留まる。やがてビルフランはオーレリィを孫とは知らずに自分の秘書に起用する。

「これが私の最後の調査であります」
――フィリップ弁護士（49話）

息子エドモンの死を知ったビルフランは一度は絶望する。だがペリーヌの存在が、ビルフランに生きる希望を与えた。

ペリーヌ物語
名場面集



「ペリーヌ！　わしの可愛い孫！！」ついにその時が来た――。



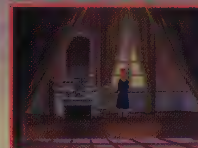
もしやこの少女は孫では？　調査を依頼していたフィリップ弁護士が結果を報告に来た。それはマロクールに初雪が降った日。



メモリアル Story

—第24話—
ロザリーの悲しみ

トロッコ押しから一躍社長秘書へ。シンデレラストーリーを地でいくペリーヌだが、孫と名乗れないままビルフランの屋敷で暮らすことに戸惑いを覚えていた。一方親友のロザリーも、ペリーヌの出世を喜びながらも一抹の寂しさを感じていた。ふたりの揺れる心と友情が見事に描かれた一話。49話の感動は、こうした一見地味な、しかし緻密な心理描写を積み重ねることで真の重みを持つ。アニメを超越した脚本と演出に脱帽する。

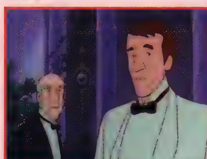


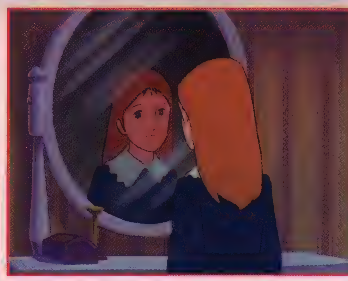
ペリーヌに与えられたのは広く豪華な部屋。これからの生活を思い佇む少女を、背後から引いたカメラでとらえ、その想いを静かに共感させる。



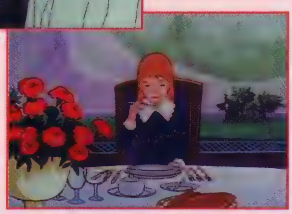
ロザリーの父が経営するレストランではもうここにオーレリィは来ないと、ロザリーが常連客のファブリの前でため息をついていた。

召使い達にとってペリーヌは貧しい女工上がりの娘。マナーなど知らないだろうと好奇と意地悪な目線をよこす。





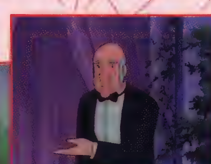
おじいさまとの初めてのディナー。でもそれは秘書オーレリィとしてだと、ペリーヌは自分に言い聞かせる。



正式な食事は数年ぶりだが、幼い頃から作法を身につけていたペリーヌは、正しいマナーで彼らを驚かせた。



廊下に父エドモンの肖像画があった。思わず足を止めるペリーヌ。息子への思いを語るビルフランの言葉を聞いてペリーヌの目から涙があふれる。



食事の後、執事のセバスチャンはゼスチャーでビルフランに本を読むよう促す。



意味を察したペリーヌは、ビルフランに本を読もうと提案する。たった一回の食事で召使いの心をつかむペリーヌの機知と素養を、数分のシーンで描ききる。『ペリーヌ物語』の名場面のひとつである。

それをみればわしがどんなにエドモンの帰りを心から待ち望んでいる気持ちもわかってくれるかな。

ええ、わかりますわ…。

…お父さん。



この日からペリーヌはビルフランと同室で仕事をすることに。



沿道で手を振るロザリー。だが馬車の操作に集中するペリーヌはそれに気づかない。



翌朝、馬車を駆ってビルフランを工場へ。慎重に手綱をさばくペリーヌ。



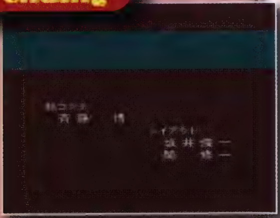
跡継ぎを狙う工場長のタルエルとビルフランの甥テオドールのふたりは面白くない。



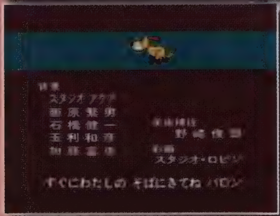


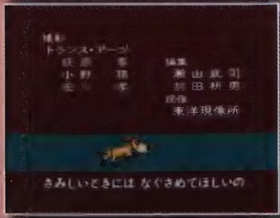
イギリスの貿易紙を翻訳するペリーヌ。着実に仕事をこなしつつも、社長秘書として絶えず緊張にさらされる身になる。

Ending







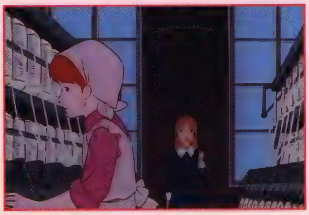




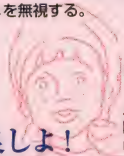
来ないわよ、来るもんですか。

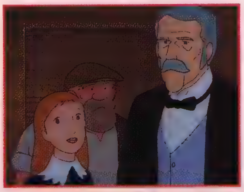


いつも一緒だったオーレリィはもう遠い世界の人。ここには来ないのだと孤独感を募らせるロザリー。



心を閉ざすロザリーはビルフランについて工場巡回するペリーヌを無視する。





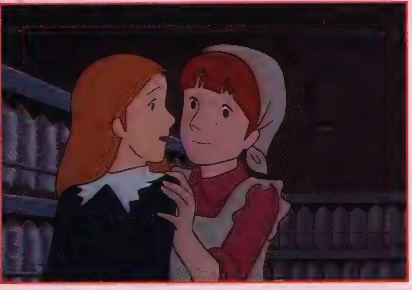
ロザリーを気遣うペリーヌはビルフランに少し時間が欲しいと申し出る。

今でも仲良しよ！

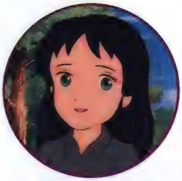




互いの絆を確かめたふたりはそれぞれの現場に戻る。揺るがない信頼に支えられて…。



ビルフランを待たせてまで自分に会いに来たペリーヌにロザリーはあわて、そして感激する。ペリーヌの友情と彼女の立場を瞬時にロザリーは理解した。



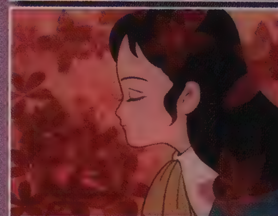
小公女(プリンセス)セーラ

放映期間 ● 1985/01/06~1985/12/29

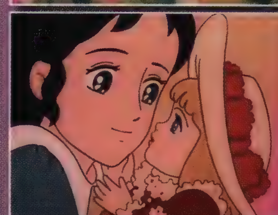
世界名作劇場

Opening









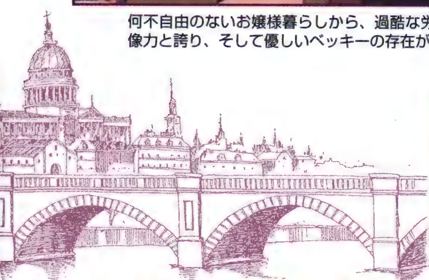




ダイヤモンドプリンセスから屋根裏のメイドへ、少女セーラは運命に翻弄されつつ、強く気高く生きていく。



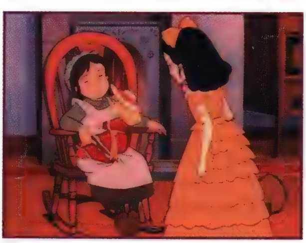
何不自由のないお嬢様暮らしから、過酷な労働を課されるメイドに身を落とすセーラ。想像力と誇り、そして優しいベッキーの存在が孤独なセーラを救った。



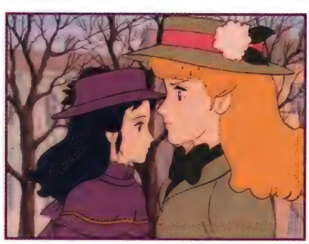
「だって私もあなたも
同じ女の子でしょ」
——セーラ(8話)



父と離れてロンドンのミンチン女子学院に入ることになったセーラは、インドへ帰る父と最後の時を惜しむ。数奇な運命の始まりだった。



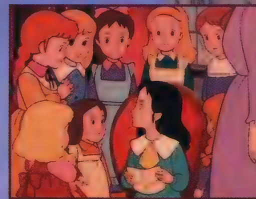
メイドのベッキーの境遇に胸を痛めるセーラは、ベッキーと友達になろうとする。

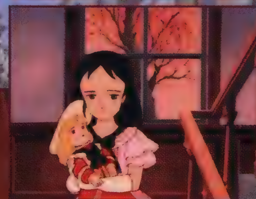


これまで代表生徒だったラビニアにとって、自分より優遇されるセーラの存在はうとましく映った。

小公女セーラ
名場面集

「私、今
負けそうになる自分に
勝とうとしているのよ」
——セーラ（39話）





11歳の誕生日を盛大に祝われるセーラの元に、父の破産と死の知らせが届く





身よりも家もなくなったセーラに帰る場所はない。辛い仕打ちに耐えながら、それでもセーラは強く生きていこうとする。







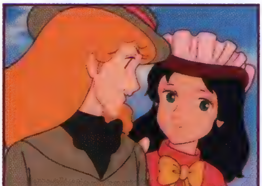
セーラの身分が変わっても、変わらない友情でセーラを支えてくれる人がいた。

「ああっ、こ　この子だ」
——クリスフォード（44話）



「君の名前は？」「セーラ、セーラ・クルーです」。ついにこの瞬間が訪れる。

学院の隣に住むクリスフォードはセーラの父の友人で、セーラを捜し続けていた。一方セーラはとうとう学院から追い出されてしまうが…。



再びダイヤモンドプリンセスになるセーラ。ラストシーン、ラビニアがセーラに贈る言葉は…。どこまでも負けを認めないラビニア！

「その頃はきっと私——
アメリカ大統領夫人に
なっていると思うけど」
——ラビニア（46話）



―第31話―

屋根裏にきた怪物

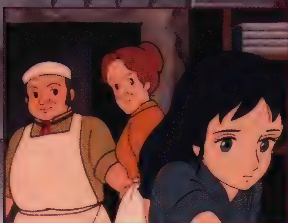
メモリアル Story

生徒達がいない夏休み。帰る場所のないセーラはただひとり学院に残っていた。ベッキーが実家から戻ってきた日、屋根裏になにやら怪しい生き物が現れる。大騒ぎのセーラとベッキー。堪え忍ぶばかりの普段の姿とは異なる、少女らしい素顔を見せるセーラに注目！　ほほえましい話ながら、幸せのラストシーンにつながるカギとなる一話。

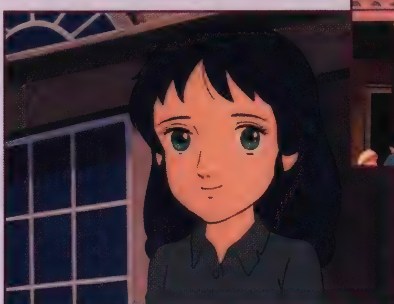


ベッキーは帰省してセーラはひとりぼっち。インドから引っ越してきた隣人が気になるセーラは、そっと様子をうかがう。





生徒はいなくても、メイドのセーラには次々に用事が言いつけられ、朝から休む間もない。





でもひとりじゃない、ピーターがいる。自分を気遣うピーターの存在がセーラにはうれしかった。



大丈夫　ピーターがいるわ。





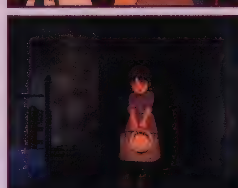
何よりもお嬢様のそばに帰って戻れただけで、
どんなにうれしいか
知れないんでございます。

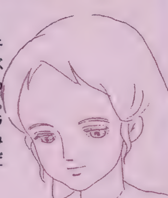


買い物から帰ると思いがけずベッキーが戻っていた。実家ではベッキーひとりの食事さえ負担になるという。辛い事情にセーラは胸を痛める。



ところが…ベッキーの背後で突然恐ろしい声が！　動転したベッキーは台所のセーラの所へ。



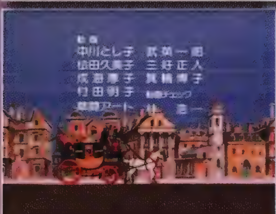


セーラは、ミンチンに夏休み中もベッキーを置いてもらうように頼む。ベッキーはセーラの真心をしみじみとかみしめるのだった。

Ending



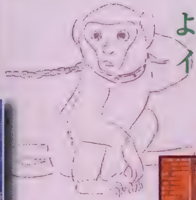












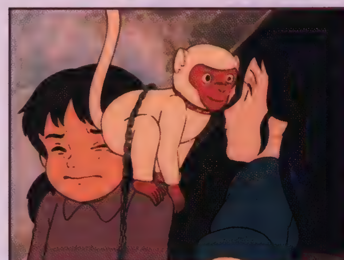
よくて？　ベッキー。
インドの言葉でごあいさつしてみるのよ。



セーラの挨拶にラムダスが応えた隙にサルのスーリャが逃げる。



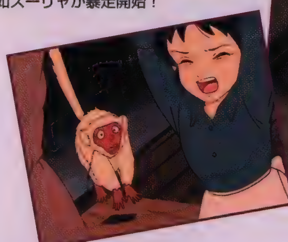
謎の怪物の正体は隣のサルだった。

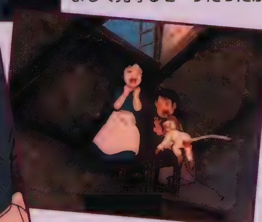


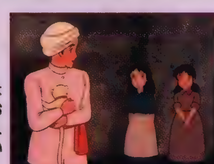
突如スーリャが暴走開始！



エミリー人形で遊ぶスーリャをほほえましく見守るセーラだったが…。







ようやくスーリャはラムダスの元へ。お礼を言うラムダスに、友達になりたいとセーラ。



鮮やかに屋根を飛び移るラムダス。この出会いが後にセーラの運命を大きく変える。



この後モーリーがふたりを呼びに来て叱る。だがセーラとベッキーは小さな幸せで胸がいっぱいだった。



その夜セーラは父に語りかける。

そうよ、お父さま。
あの方たち　インドからいらしたのよ。

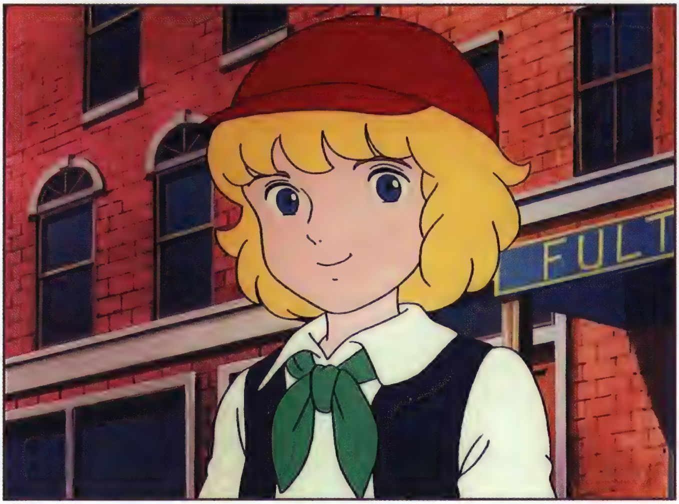


小公子セディ

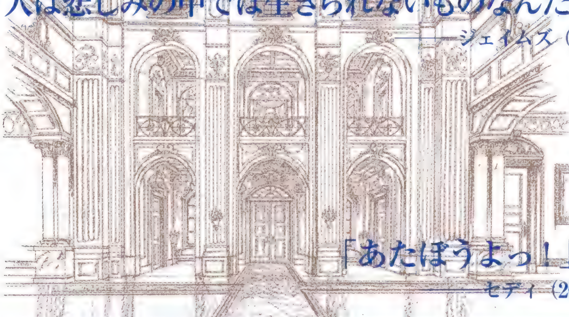
しょう こう し

放映期間 ● 1988/01/10~1993/12/25

伯爵家の跡取りとしてイギリスへ渡るセディ。無垢な美少年VS頑固老人！　舞台は華麗な英国ビクトリア時代。



ニューヨーク・ブルックリン下町。明るく優しい少年セディは、誰にでも愛されるみんなの人気者。

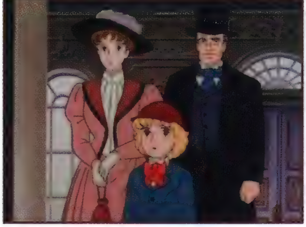


「人は悲しみの中では生きられないものなんだよ」

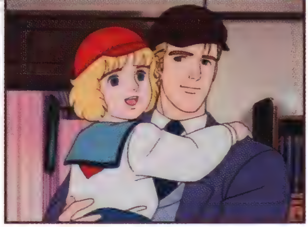
――ジェイムズ（2話）

「あたぼうよっ！」

――セディ（20話）



イギリスの伯爵邸についたセディ。思いがけず母との別れが待っていた。

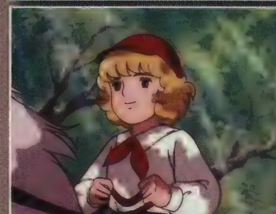


大好きな父ジェイムズが突然病で亡くなった。残されたセディは自分が伯爵家の跡取りだと聞かされる。

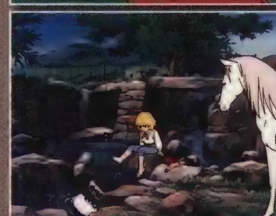


Opening

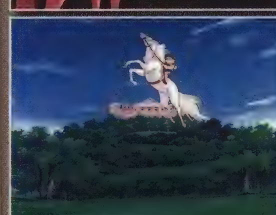


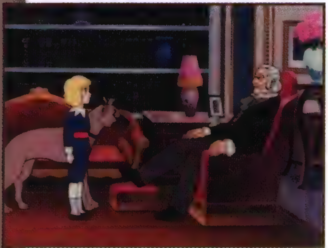






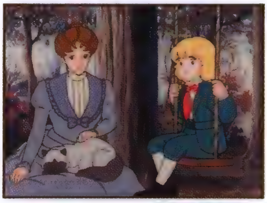






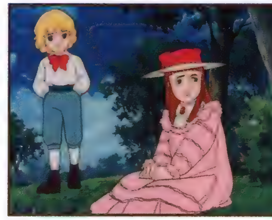
「お前はわしが怖くないのか？」——伯爵（22話）
「おじいさんはとってもやさしくて親切なんだもの」

物怖じしないで堂々と意見するセディを、伯爵はすっかり気に入る。

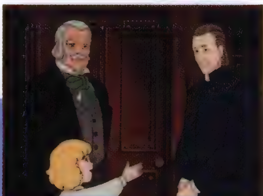




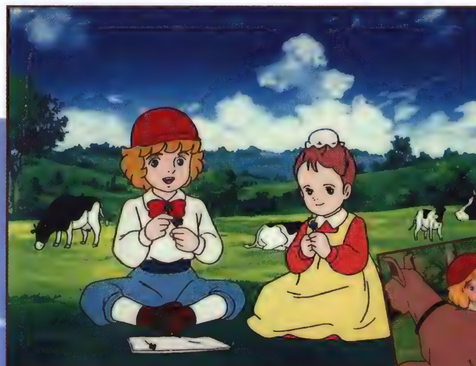
専任メイドのジェーンとは大の仲良し。

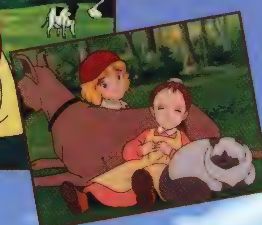


セディにかかれば、意地悪ブリジットもたちまち氷解。



母アニーと別れて暮らすことだけがセディの悩み。母を引き離す祖父の真意を知らないセディだが、持ち前の優しさで人々の心をつかんでいく。



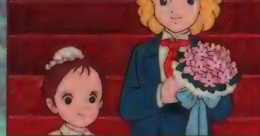


アニメのオリジナルキャラ、おちゃめなコッキーの存在が、複雑な大人の事情の中心にいるセディ（と視聴者）の清涼剤♪

「おじいさんはまちがってます」
——セディ（22話）



広大な領地も爵位もセディには興味がない。おじいさまが元気で、みんなが一緒に暮らせること。それだけを願っていた。



別の後継者が現れ、伯爵家は大混乱に。しかし運命の女神はセディに微笑む。



小公子セディ
名場面集

—第28話—

プレイボール！　伯爵対セディ！

メモリアル
Story

『小公子セディ』は野球で盛り上がってしまう28話に注目。アメリカ式民主主義をスポーツで体現（？）し楽しむセディ。次第に染まっていく周囲の人々。とうとうドリンコート伯爵まで打席に呼び込んでしまう。一方、皆から無視されつつも、お茶目さ大爆発のコッキー。随所に細かい演技を見せてくれ目が離せない！　名作史上屈指の熱いスポ根ドラマ（？）に注目！



今日は雨。退屈なセディはコッキーを誘い馬小屋で野球を始める。もちろんコッキーは野球は初めて。

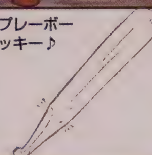


セディの手作りボールでプレーボール。ボールに遊ばれるコッキー♪





「若君！　いきます」仲間入りしたウィルキンスだが、まったくルールがわからず、体力だけが空回り。



打ってもいいの？
玉っころ。



セディの母アニーの家に来たコッキーは、力つきて寝てしまう。アニーはコッキーに代わってグローブをこしらえてやる。





みんなのめちゃくちゃな野球でも、野球はやっぱり楽しいセディ。「道具を作りましょう！」ジェーンがセディに提案。作り方はセディが指南することに。





セディと乗馬しようといそいそと支度を整えていた伯爵。しかし肝心のセディは野球に夢中。伯爵の期待を裏切る報告を持って来た執事の声がうわずる。



わたし
何でもできるわ
何でも！



バット作り、グローブ作り、やる気はあっても幼さからうまくできないコッキー。ひとりで腹を立ててプンスカ。部屋を飛び出してしまう。



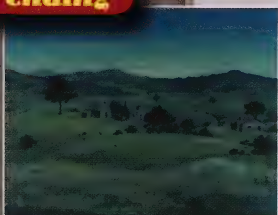
のけ者コッキーはついに一人野球。投げて打って応援する「しまっていこー!」。



セディは使用人を集めて野球の試合。なんとマウンド上はジェーン! ピッチャーに選ばれるとは、このメイド、ただ者ではない。

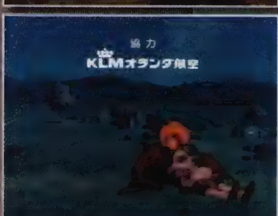


Ending











そこに伯爵登場! セディの「野球をやりましょう」の申し出に応じて、一同驚愕。シン…と静まる。



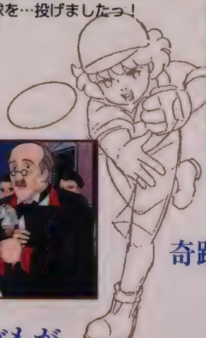
「わしがクリケットの名手だった事を忘れたのか?」「それは40年も昔のことで…」。執事は真っ青。だが伯爵はもう止まらない。



第1球目は空振り。だが伯爵は「球が遅すぎて話にならん!」と気炎をはく。使用人全員が固唾をのんで見守る中、マウンド上のセディ、第2球を…投げましたっ!

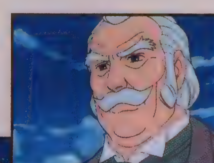


その瞬間、伯爵の目がカッと開く。カキーン! 球は遥か青空に消えていった。ホームラン!

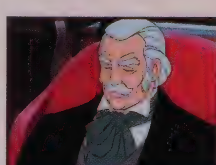




奇跡だ…。



7歳の子どもが
この年寄りを
本気にさせおった。



わしの負けだ…。呟く伯爵。心地よい敗北感に浸る。



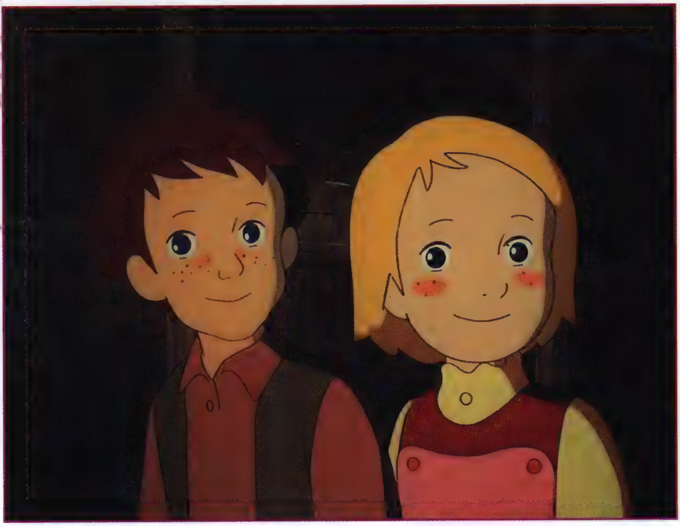
本気で勝負したものだけがわかり合える熱い視線を交わすセディと伯爵…「野球部を認める」…と伯爵が言ったかどうかは知らない。



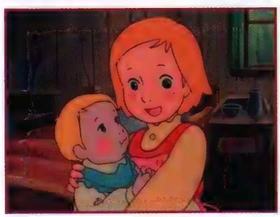
アルプス物語 わたしのアンネット

放映期間 ● 1983/01/09~1983/12/25

アンネットとルシエンは幼なじみ。仲良しのふたりに、ある不幸な事故が起こる。アルプスを舞台にした友情物語。



アンネットはおちゃめで勝ち気な女の子。男の子なんかには負けない！　意地っ張りなのが玉にキズ。



クリスマスの日、母の命と引き換えに生まれたダニー。アンネットが母親役に。



「お姉ちゃんは
ルシエンと
結婚するの？」
――――ダニー（12話）

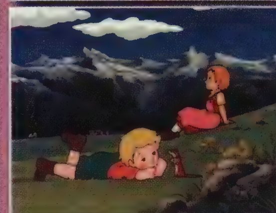


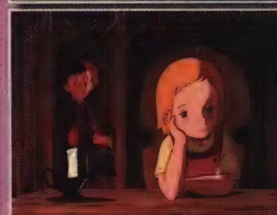
ケンカするほど仲がいいという言葉がピッタリのふたり。



Opening















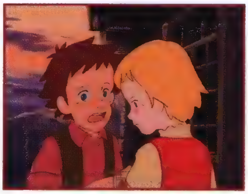
幸い命は助かったダニー。しかしその後一生松葉杖を使う身になると宣告を受けてしまう。



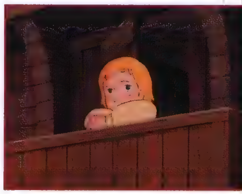
ダニーが崖から転落した。それは不幸な偶然が重なった出来事だった。しかしルシエンは自分のせいだと苦しむ。

「ダニーの足を返してちょうだい！」
——アンネット（20話）





アンネットはルシエンを許すことができない。



ルシエンを憎む気持ちは次第にアンネットの心に闇を作りだした。



村に居場所をなくしたルシエンは森のペギン爺さんに出会う。

アンネットと和解した後もルシエンはダニーの足を心配していた。ダニーの足を治せる医者に会いに行く為ルシエンは命をかけて吹雪の峠を越える。



「ダニーを…ダニーを診てくれますか」
——ルシエン（41話）



ダニーの足が治った。ルシエンとアンネットに本当の笑顔が戻る。

わたしのアンネット 名場面集

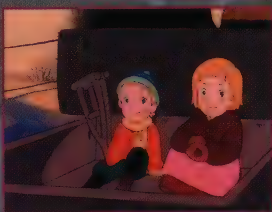
ダニーの足をきっかけに多くの人の運命は回りだし、そして大団円を迎える。

メモリアル Story

—第35話—

心の扉をひらいて

アンネットとルシエンの辛かった日々は、この瞬間のために用意されていたのかもしれない。ルシエンとの友情を取り戻したいアンネット、ペギン爺さんの元で心の平和を知ったルシエン。クリスマスの夜、そんなふたりが偶然森の中で出会う。『わたしのアンネット』いよいよ感動のクライマックス！



アンネットにとってクリスマスイブは母の命日、ダニーの誕生日…。いつも特別な日だった。

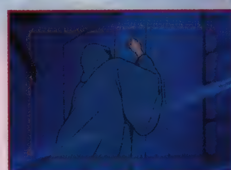




でも、今年のクリスマスはいつもと違っていた。仲違いしたまま迎えるイブの夜。うかない表情のふたり。「心の扉を開けて」という牧師の話がアンネットを揺さぶる。



クリスマスの朝、クラウスがいないといって泣くダニー。食事もしたくないという。



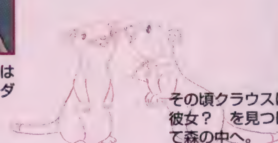




戸を開けてもらえない旅人の夢を見て目を覚ますアンネット。ふと、窓の外にクラウスの姿を見かける。



寝る前のお祈りをすれば願いを聞いてもらえるとダニーは夕方早々に布団に入る。アンネットは私が捜すからと、ダニーを安心させた。





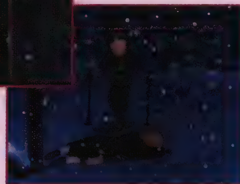
その頃クラウスは彼女？を見つけて森の中へ。

ぼく、早く夜のお祈りがしたいんだ。



その頃ルシエンは森のペギン爺さんの家で木彫りをしていた。

帰り道、人の声を聞いたルシエンが来た道を引き返すとそこにはアンネットが！





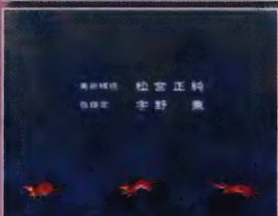
夜の森でクラウスを捜すうちにアンネットは足をくじき氷の川に落ちた。寒さと痛みで歩けない。焦るアンネット。

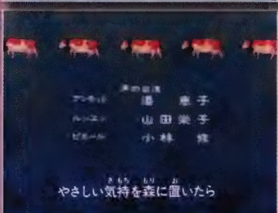


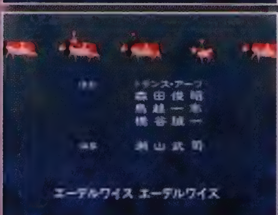
アンネットは近くの小屋に助けを求めるが人影はない。力尽きたアンネットは崩れ落ちる。

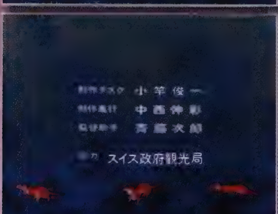
Ending











今、私の心の扉を開きます……。





遠のく意識の中でルシエンを認め、素直にありがとうというアンネット。

ソリを取りに行ったルシエンを待つアンネットに、祈りの言葉が溢れてくる。

戻ってきたルシエンに、アンネットはどうしてもここで話したいことがあると言う。





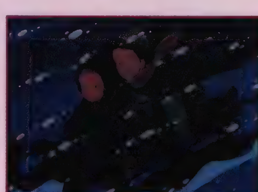
1シーン入るスープ飲みルシエン。この演出が入ることで次の山場にリアリティが出る。

どうして笑ってるの？ルシエン。

うれしいからさ。



やっと言えた「ごめんなさい」に、ルシエンは「話ってそれだけ？」とにっこり。



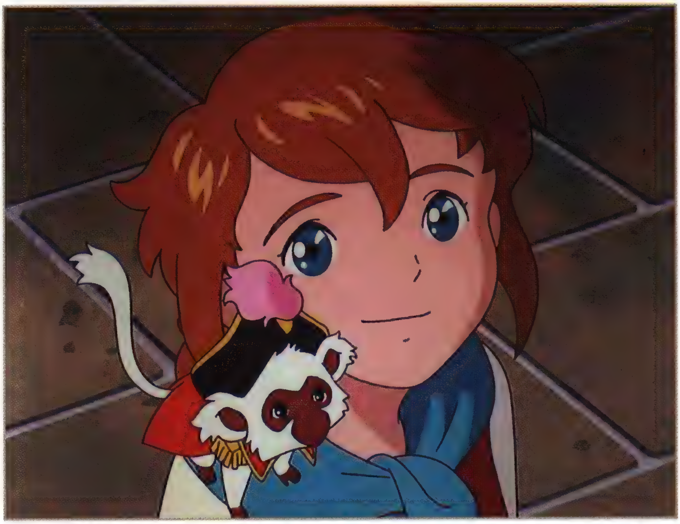
雪はひどくなっていくが、ふたりの顔は晴れ晴れとしていた。



家なき子レミ

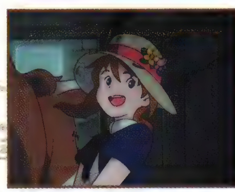
放映期間 ● 1996/09/01～1997/03/23

家なき子レミは、明るく前向きに生きてゆく。いつか本当のお母さんと会える日が来ると信じて…。



レミはヴィタリス一座の一員として働きながら、ヴィタリスから多くの事を学ぶ。読み書きを、芸を、そして生き様を…。半年にも満たないその旅は、レミの人生に多大なる影響を与えるのだった。

「前へ進めレミ、
明日を見つめて」
――ヴィタリス（6話）



母がいて、妹がいる。シャバノン村での生活は、貧しくても幸せだった。

ヴィタリス一座はレミにとり、かけがえの無い家族となっていく。だがその幸せも長くは続かなかった。





レミは父から自分が捨て子だと聞かされ、人買いに売られてしまう。それを助けたのは、旅芸人のヴィタリスだった。

世界名作劇場

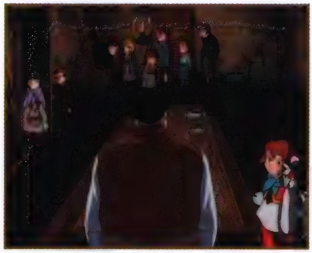
Opening



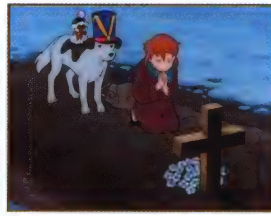
家なき子レミ
名場面集

旅の途中で出会ったミリガン夫人は、レミの本当の母親だった。病弱な息子のアーサーから目が離せないミリガン夫人に代わり、メイドのネリーがレミの行方を探す。

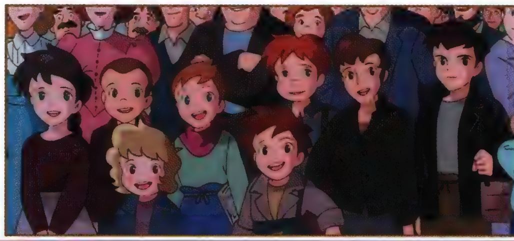




ヴィタリスの知るガスパールは既に亡く、そこにいた甥は、子供達が稼いだ金を搾り取るろくでなしだった。だけどレミには他に頼る当てが無かった。



ヴィタリスの遺言に従い、レミは共に残されたジョリクールとカピを連れ、パリに住むガスパールのもとへと旅立つ。



新たな仲間達との生活。明るくて前向きなレミの存在は、荒みきっていた子供達に夢と希望を取り戻させてゆく。



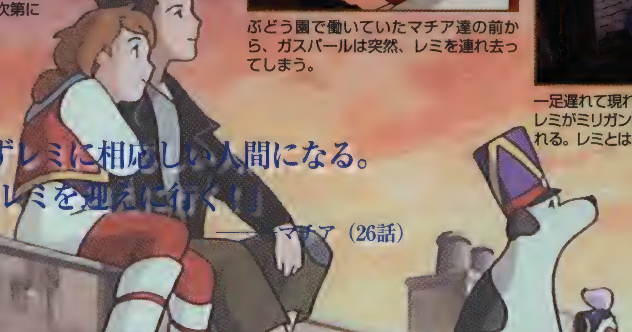
ヴァイオリニストを夢見るマチアにヴィタリスの面影を見たレミは、形見のヴァイオリンをマチアに託した。レミとマチアは次第に惹かれ合ってゆく。



ぶどう園で働いていたマチア達の前から、ガスパールは突然、レミを連れ去ってしまう。



一足遅れて現れたネリーから、マチア達はレミがミリガン家のお嬢様なのだと聞かされる。レミとは住む世界が違ったのだ。



「俺、必ずレミに相応しい人間になる。
そして…レミを迎えに行く!!」
——マチア（26話）

レミをお母さんと会わせる。それはマチア達にとって、レミとの別れを意味していた。全てを知った上でマチアはレミを救出する。



ついに母との再会を果たしたレミ。マチア達はレミの幸せを願い立ち去るが、追って来たレミ達から思わぬ申し出を受ける。ミリガン夫人が子供達のお母さんになってくれるというのだ！家なき子達の物語は、こうして幕を閉じるのだった。



メモリアル
Story



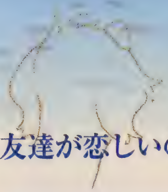
―第13話―
雪の日の別れ

馬車に跳ねられて大怪我をしたジョリクールを獣医に診せる為、夜の雪山越えを決意したヴィタリス一座だったが、狼の襲撃で大切な仲間、ドルチェとゼルビーノを失ってしまう。やっとの思いで雪山を越え、森の出口に辿り着いた時、一座を祝福するかのように朝日が昇った。悪夢の夜は終わったのだ。だがしかし、悲劇はそれで終わりではなかった…。





雪山を振り返り、ドルチェとゼルビーノを呼ぶカピ。しかし、2匹はもう二度と帰って来ない。



友達が恋しいの？　私もよ！

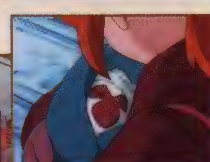


突然胸を抑え、苦しそうに倒れるヴィタリス。



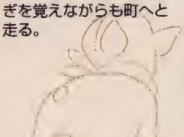
ヴィタリスは自分を心配するレミを制すると、先に町に行って獣医を捜せと急がせ、お金を渡した。





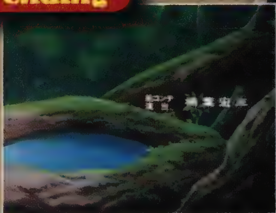
もはやジョリクールは虫の息だった。急がねば間に合わない。レミは胸騒ぎを覚えながらも町へと走る。

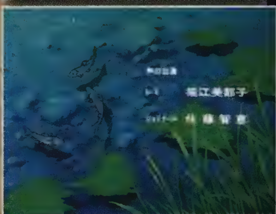


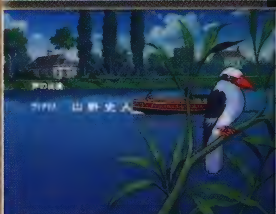


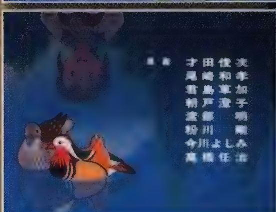
レミはヴィタリスのもとに走って戻って来ると、ジョリクールが助かったと知らせる。ドルチェとゼルビーノの死は無駄ではなかったのだ。だけどその後…、ヴィタリスは吐血して倒れてしまう。

Ending

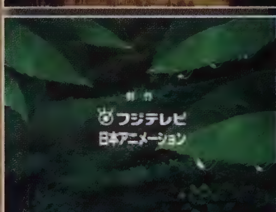












死は辛いが、別れではない。



パリを目指していたヴィタリス一座は、パリの街並が見える公園で休憩する。いつしか吹雪は止み、美しい月が登っていた。

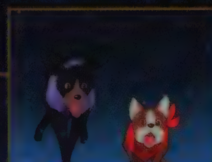


「死は決して別れではないんだ…」。己の死期を悟るヴィタリスだったが、その現実は、幼いレミには到底受け入れられなかった。



その時レミは雪の中、死んだはずのドルチェとゼルビーノを見る。

ゼルビーノとドルチェが、迎えに来てくれた……。





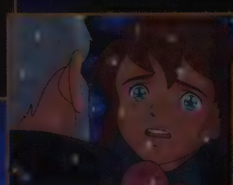
そこに穏やかな顔をしたヴィタリスが加わった。2匹はヴィタリスを迎えに来たのだ。



レミは、歩き去ろうとするヴィタリスを必死に追いかけ、引き止めてしまう。



レミの呼びかけに、ヴィタリスは最後の力を振り絞るが…。





レ…ミ…。



静かな雪の夜の中、むせび泣くレミの声だけが響いた。いつまでも、いつまでも…。



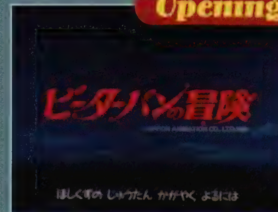
ピーターパンの冒険（ぼうけん）



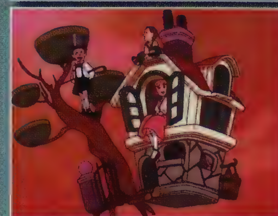
放映期間 ● 1989/01/15～1989/12/24

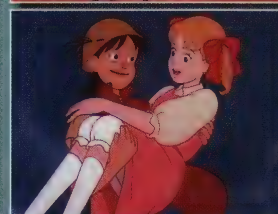
ネバーランドで繰り広げられる、夢のような冒険の日々。ピーターパンとウェンディの物語が幕を開ける。

Opening

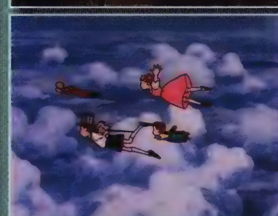














大空を自由に舞う不思議な少年ピーターパンは、人々が寝静まった夜に子供部屋を訪れると、ウェンディをネバーランドへと誘う。





「ウェンディ、君じゃなきゃダメなんだ」
——ピーターパン（2話）

「連れてって、ピーターパン！」
——ウェンディ（2話）



どんなピンチに陥っても、最後には必ずピーターパンが助けてくれる。





ネバーランドに訪れたウェンディは、木の家の子供達の『お母さん』になる。



ピーターパンの冒険
名場面集



フック船長の真の目的は、ネバーランドの王となる事だった。その為にもピーターパンは邪魔なのだ。

大人げない卑怯な作戦はお手の物。子供相手でも容赦はしない。だって海賊なのだから。



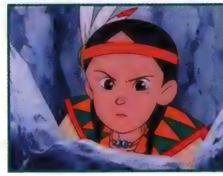


フックはタイガー・リリーと時計ワニに命を狙われている。人気者は辛い!?

強大な魔力を利用しようと企むフックは、ダークネスに共闘を申し入れる。勿論、裏切る気満々だ。



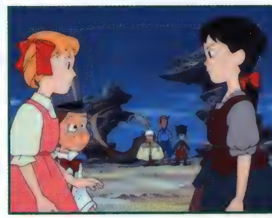
「俺に命令できるのは、
おふくろだけだ！」
——フック船長（1話）



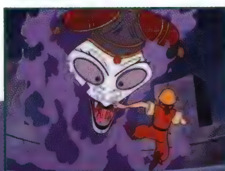


ネバーランド破壊を目論むダークネスは、命が尽きかけていた。平和を愛する心と祖母への想いで、ルナの心は揺れ動く。

ダークネスの孫娘ルナとの出会いは、ネバーランドの存亡をかけた闘いへと発展してゆく。

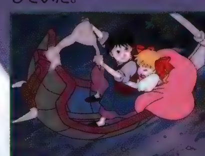


ダークネスの魔法の前には、さすがのピーターパンも太刀打ちできない。

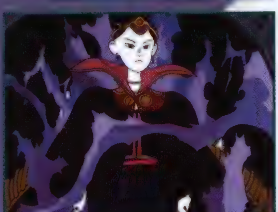




ネバーランドを守る為に、ルナは黒い鏡のカギを奪い逃走していた。



「あたしがお婆様を好きでも
軽蔑しないの？」
——ルナ（26話）



ルナは黒い鏡に取り込まれ、悪魔へと変貌してしまう。ウェンディの言葉はもう届かないのか？

「ルナは
悪魔じゃないわ」
——ウェンディ（31話）



「連れてって、
ピーターパン！」
——ジェーン（41話）



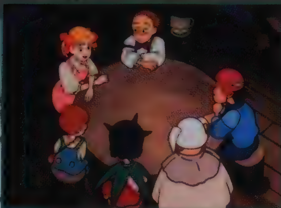
そして時は流れ、新たな冒険は、ウェンディの娘ジェーンと共に紡がれてゆくのだった。

メモリアル Story

—第16話—

ウェンディ怒る! ピーターパンて大嫌い

白いドレスに憧れるウェンディに、雪見草で白いドレスを作ろうと提案するピーターパン。ところが次の日、ピーターパンはあっさり約束を破ってしまう。
お母さんである前にひとりの女の子であるウェンディ。永遠の少年であるが故に乙女心が理解できないピーターパン。ふたりの心のすれ違い、第2ラウンドの始まり始まり。



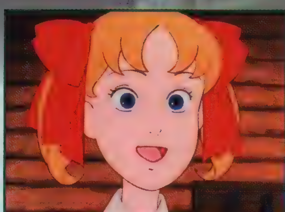
今宵は白雪姫を話して聞かせるウェンディ。物語は大団円。王子様と白雪姫の結婚式で幕を閉じる。最後に白いドレスへの憧れを語るが、子供達にはよく判らない。



女の子はみんな、ステキだって思うのよ。

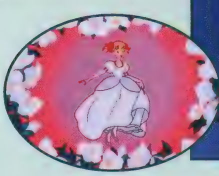


そこに颯爽と現れたピーターパン。明日は雪見草で白いドレスを作ろうと提案。ウェンディと約束する。



本当に大喜びのウェンディ。明日が待ちきれない。







嗚呼、
それなのに、それなのに。



「今日はトカゲ狩りにいくぞ～！」。あれ？　昨日の約束は？





ウェンディとの約束を知ったタイガー・リリーは、ピーターパンをいさめ、雪見草を取りに行ってやりなと言うと、早々に帰ってしまった。



約束を破った上に放置され、さすがのウェンディも怒りが頂点に。

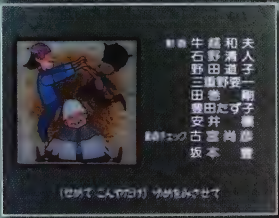
わかってないね、ピーターパンは！

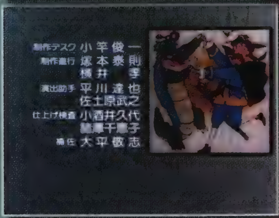
Ending









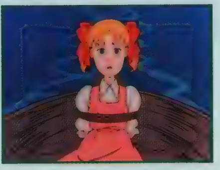




フック船長に手土産が出来て気分を良くしたスターキーは、妹からの手紙を読む事に。妹は白雪姫が好きなのだと言う。



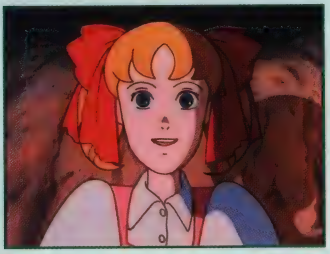
その頃ウェンディは、ひとりで雪見草を探していた所を、海賊に捕まってしまった。



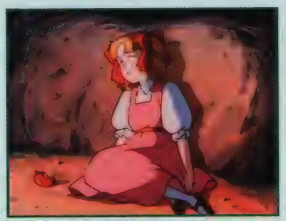


リンゴを食べて倒れた白雪姫。ネバーランドには可憐なお姫様がいないので、みんなはヒロインのイメージを全てウェンディに重ねるのだ。

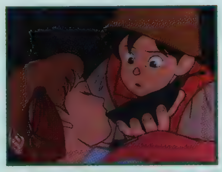
白雪姫を知らない海賊達の為に、ウェンディは物語を話して聞かせる。



きっとステキな
王子様が助けてくれるわ。
ピーターパンみたいに。



ところが眠りの木の実を食べたせいで、本物のウェンディも白雪姫のように眠ってしまう。



もちろん、ピーターパンの大活躍で事なきを得るのであった。



ピーターパンが集めて来た雪見草に、感激のウェンディ。しかし大トカゲのお土産が全て台無しにしてしまうのであった。





牧場の少女カトリ

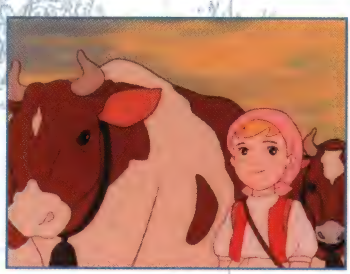
放映期間 ● 1984/01/08~1984/12/23

フィンランドの田舎で暮らす貧しい家畜番の少女カトリは、夢への階段を今、上り始める。



ライッコラ屋敷での1年はまさにカトリの修業時代。家畜番の他、麦の刈り入れ、羊の毛刈り、糸紡ぎや機織りなど、何でもこなした。素直で働き者のカトリは誰からも愛される。

「胸を張ってまっすぐ前を見て歩きたい」
——カトリ（24話）



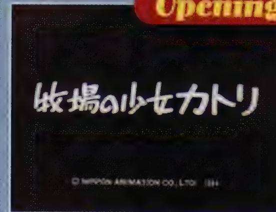
祖父母を助けるため、カトリは家畜番として住み込みで働きに出た。



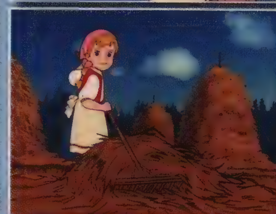
牧場で出会ったアッキはカトリに本のすばらしさを語り、知識の世界へと導く。

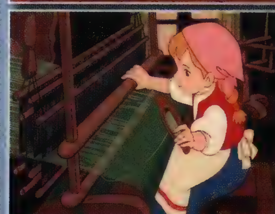
世界名作劇場

Opening







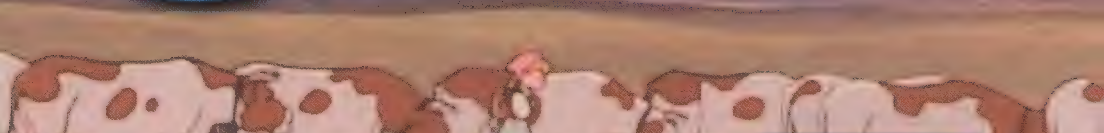


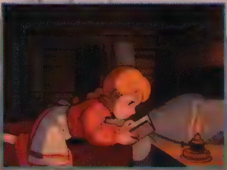




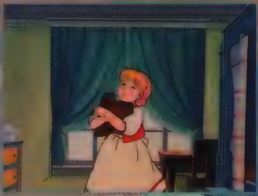
牧場の少女カトリ
名場面集

「あたし、これからも夢を持ち続ける。
ずっと持ち続ける」　――カトリ（40話）





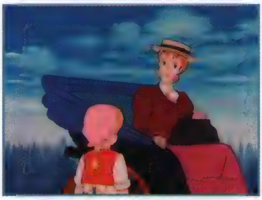
夜、寝る間を惜しんで、カトリは本を読み、勉強する。

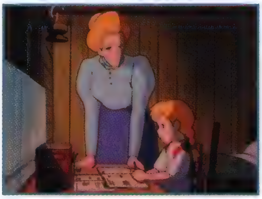




学校にも行けず、田舎で家畜番をしていた少女の前に、大きな未来が広がろうとしていた。

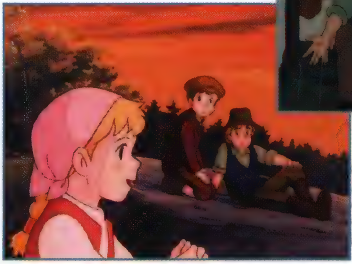






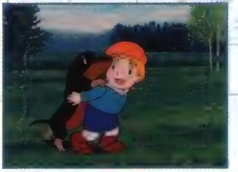
ロッタやソフィヤなど、たくさんの人に支えられ、カトリは夢への階段を一歩一歩上っていく。





恋のライバル、ペッカとマルティ。ふたりのカトリを応援する気持ちは変わらない。しかしペッカは、夢の翼を羽ばたかせ高く遠くへと飛翔するカトリに、一抹の寂しさも感じていた。

アベルとクラウス坊ちゃんは迷コンビ。クラウスがアベルを気に入ったことで、カトリの未来は大きく広がった。





「いいや、カトリは
戻らないと思う」
――ペッカ（49話）

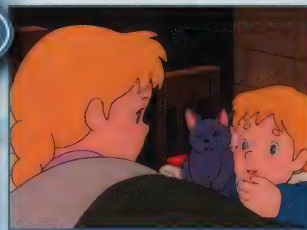
—第30話—

美しい白鳥のように

メモリアル Story

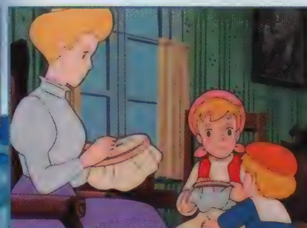


看護師や先生のように、人の役に立つ仕事をしたい…。そんな夢を抱くようになったカトリ。だが田舎にいて学校にも行っていないカトリにとって、夢はどこまでも遠い。あまり感情を表に出さないカトリの強い想いが伝わってくる秀逸の一話。



家畜番をやめ、クウセラ屋敷で働くようになったカトリは、今までに比べてあまりに楽で、これで良いのかと心配するほどだった。

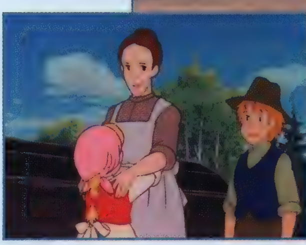




新しい仕事はお屋敷の奥様ロッタの手伝いとロッタの息子クラウスの世話だけ。おまけに刺繍も教えてもらっていた。

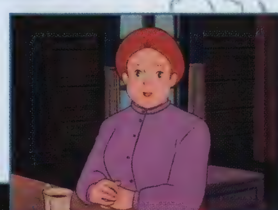
ある日、カトリは前に働いていたライッコラ屋敷に預けていた荷物を取りに出かけた。カトリと一緒に行きたくて休みをもらったペッカはこの小旅行が嬉しくてならない。





カトリは懐かしい人々と再会する。ライッコラ屋敷で働くアンネリと、奥様のウッラ。ふたりともカトリに優しくしてくれた人達だ。





ウッラのお腹には赤ちゃんがいた。娘を亡くした悲しみで心を病んでいた頃の面影は、もう無い。



看護師や先生のような人の役に立つ仕事をしたいと夢を語るカトリに、学校に行ってないから無理だと現実を突きつけるウッラ。「でもカトリならお屋敷の奥様になれるかも」…それが田舎の娘には最高の夢であった時代なのだ。

うつむくカトリにアンネリが声をかける。「努力すればなれるってことをみせて欲しい」。アンネリはカトリに自分の夢を託したのだ。

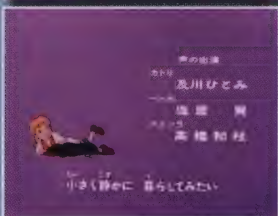


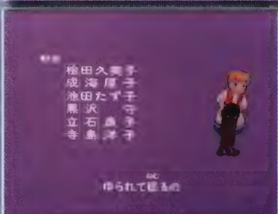
私はねえ、カトリだったらなれると思うよ。

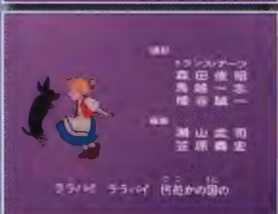


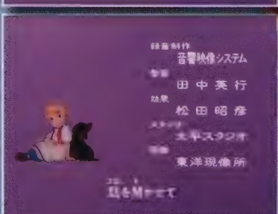
Ending



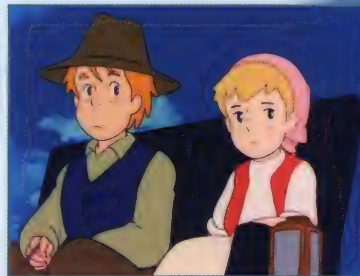










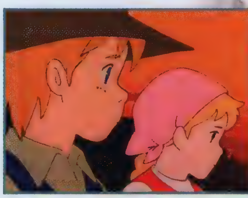


ライッコラ屋敷からの帰り道、カトリはペッカの話も上の空。夢と現実がカトリの心に重くのしかかっていた。



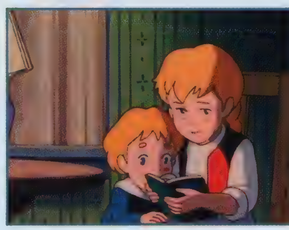
途中、お世話になったグニンラおばあさんに会おうと、チューリン村に寄ったカトリ達の前に、葬列が通りかかる。

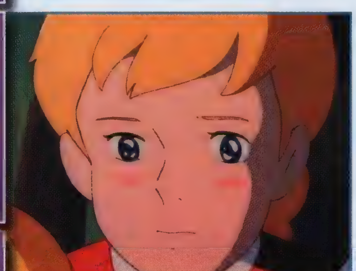




それはグニンラおばあさんの葬儀だった。現実の哀しさに、カトリはショックで言葉も無かった。

屋敷へ戻ったカトリはその夜、クラウスに本を読み聞かせをする。今夜はアンデルセンの『みにくいアヒルの子』。





「ボクは、みにくいアヒルの子じゃなくて、白鳥だったんだ……」そこまで読んだカトリは、言葉を詰まらせた。



カトリ、
あなたも白鳥になりたいのね。



どんなにがんばっても、どんなに夢見ても、おとぎ話みたいに『白鳥』になれるわけがない…。『アヒルの子』でしかない自分の現実が切なくて、カトリの目から涙が止めどなく流れる。そんなカトリを、ロッタは優しく見守るのだった。





名犬ラッシー

放映期間 ● 1996/01/14～1996/08/18

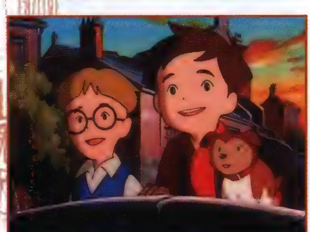
ジョンとコリー犬のラッシーは無二の親友。ラッシーとジョン、彼らを取り巻く鉱山の町グリノールブリッジ村での物語。



迷子の子犬だったラッシーは、ジョンの元で育てられることになった。

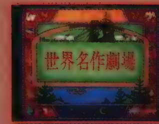
「お前、
お母さん犬が
恋しかったのか」
——ジョン（2話）





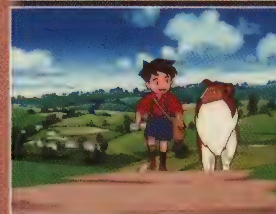


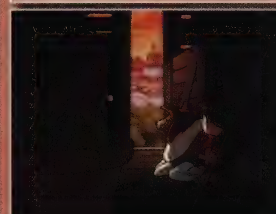
ラッシーを水門管理人から譲ってもらったジョン。ラッシーはすくすく成長した。



Opening





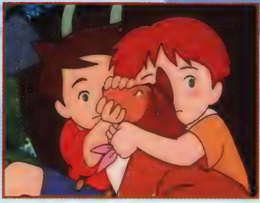






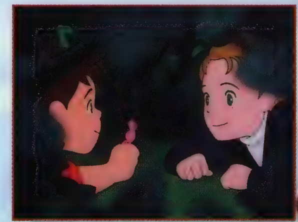


名犬ラッシー 名場面集



仲良しのサンディは元気でキュートな女の子。



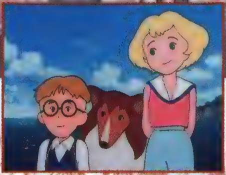


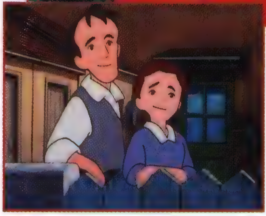
公爵の孫プリシラとの出会いは通り雨が降った日。

「こうして人の住んでる家々に囲まれてるとさ、
なんだかホッとしてくるんだ」
——ローリー（12話）







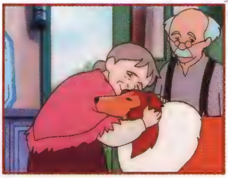


ラッシーとジョンの友情を軸に、両親や友だち、村の人々の暮らしが生き生きと描かれている。

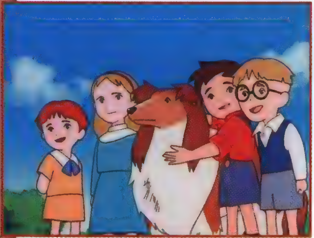
「行きなさい、ジョンの所へ」
——プリシラ（24話）







鉱山を守るためジョンはラッシーを公爵に預けた。その距離400マイル以上。ジョンに会いたい一心でラッシーは…。



「でも大丈夫よね、長い人生を
生き抜いてきた私たちですもの」
——老夫人（24話）

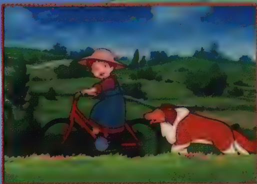


メモリアル
Story

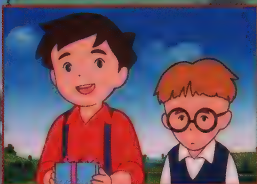
—第11話—

プリシラ・最後のわがまま

ラドリング公爵の孫娘プリシラが、ジョン達の村にやってきた。公爵家の期待を背負うプリシラ。村で過ごす数日間だけが、プリシラに許された子供の時間だった。夕暮れのヒースの丘がどこまでも美しい、お勧めの一話！



昨日プリシラと作ったケーキを持って、公爵家を訪ねるジョン達。



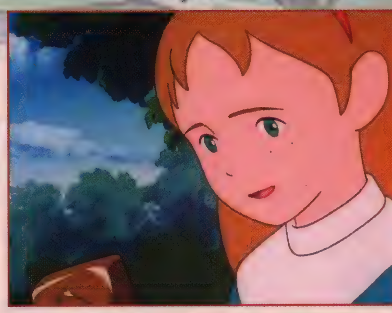
コリンは自分のせいでプリシラがケーキを食べられなかったと、気にしていた。



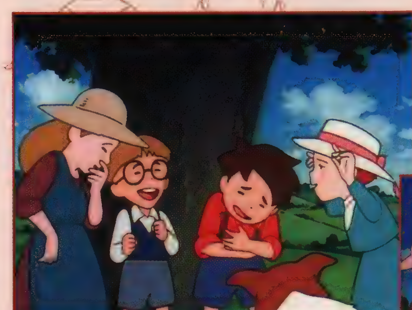
ラドリング公爵に唯一堂々と意見してくるプリシラ。公爵のお気に入りの孫娘だ。「お褒めいただいて光栄でございますこと」。



私、もっとここで
子どもの時間を
過ごしたいのにね。



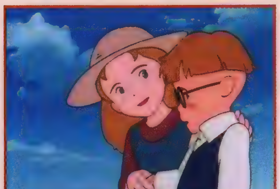
インドにいる父に代わり貴族の務めを任されているプリシラ。小さな肩に背負うものは大きい。ふと、楽しかったジョンとの思い出がよみがえる。



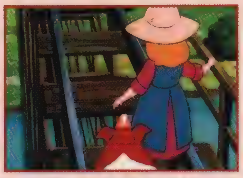
ハインツの目を盗んで脱走したプリシラは、サンディと服を取り替えて、ハインツを懲らしめ大笑い！　さあ、これから何をして遊ぼう？



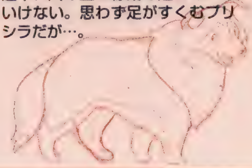
門にいたハインツは、子供達を通そうとしない。挙げ句にプリシラのケーキまでたたき落としてしまう。



ふるえているコリンを見ると、自分の怖さも忘れ、手を取って導くプリシラ。意識しすぎのコリンはもう真っ赤！



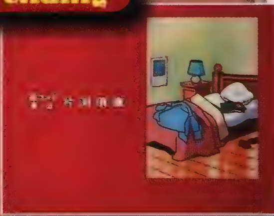
途中、川の上の線路を通らないといけない。思わず足がすくむプリシラだが…。

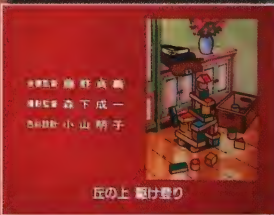




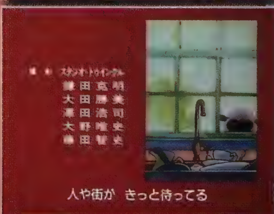
「干し草の匂いがすてき」とサンディの服を気に入るプリシラ。プリシラはジョンが話してくれた岩の城に行きたいという。だが岩の城は遠い。

Ending













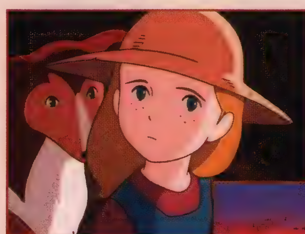


また明日遊ぼう、そんなジョンの言葉は嬉しい。だが、今夜スコットランドに帰るプリシラには、もう明日はない。



夕方遅くやっと岩の城へ着いた。ここがジョン達の秘密の場所だ。





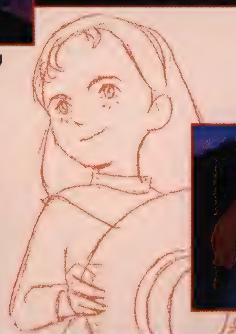
「私には明日の冒険はないんだわ」。プリシラは最後に塔の上に登りたいと頼む。

あのてっぺんには
まだ今日があるんだわ。



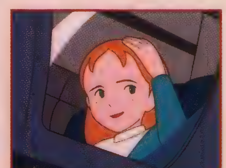


最後の陽が落ちるまでというプリシラ、一緒に見守るジョン達。



帰りが遅い、と、サンディの祖父からゲンコツをもらう。







その夜遅く、プリシラの乗せた飛行機は村を離れた。ゲンコツの痛みをこの夏の思い出にして。



サンディの祖父はプリシラが公爵の孫とは知らない。でもプリシラは一緒に叱られたことが嬉しい。



トラップ一家物語（いっかものがたり）

放映期間 ● 1991/01/13～1991/12/22

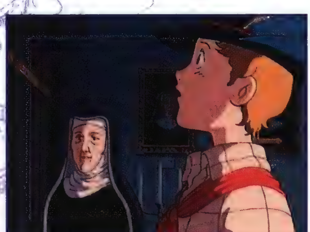
修道院からトラップ男爵邸に家庭教師として派遣されたマリア。そこには個性あふれる7人の子供達が待っていた。



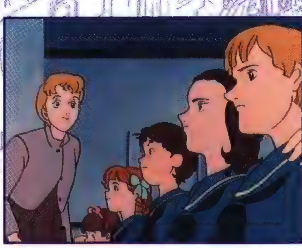
音楽が大好きで明るく破天荒なマリアは、修道院の規律にはなじめない。



「子どもはね、ダメな大人をこやしにして
大きくならなきゃ」――マリア（7話）



マリアは18歳。自分の居場所を求めてザルツブルグでも厳格だというノンベルク修道院の門をたたくが…。



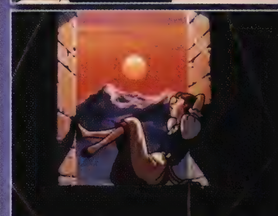
トラップ邸の7人の子供達との出会い。小さな軍隊のようにしつけられた子供に驚くマリア。



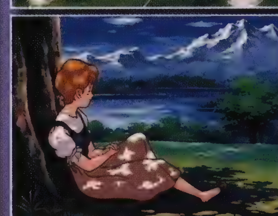
Opening







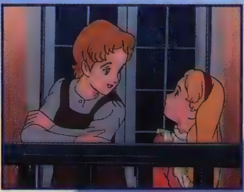


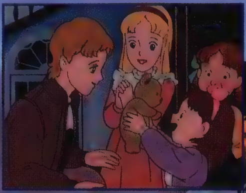




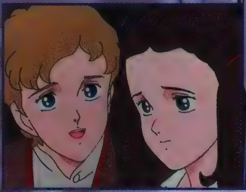
トラップ一家物語 名場面集

「さようなら、
子どもたちの母親には
あなたがなるべきよ」
——イヴォンヌ（29話）


病弱な小さいマリアがマリアの生徒。一番早く友情で結ばれるふたり。







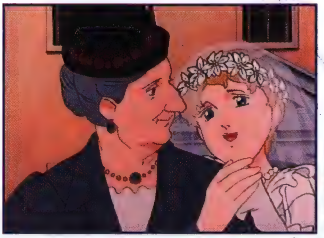

ゲオルクには美しい婚約者がいた。

子供達にとってマリアはかけがえのない人となっていく。そしてマリア自身にとっても…。

ゲオルクとマリアに自然と芽生えていた愛情。お互いに相手の存在が必要だと気づき始めていた。

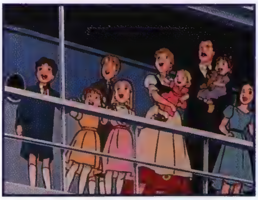

自分の本心に気づいたマリアは戸惑い、修道院に戻る。

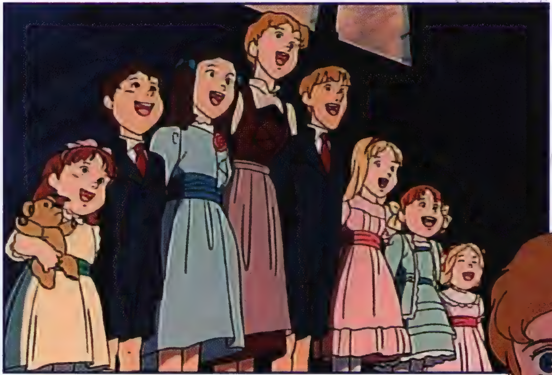
「お母さまになって、マリア先生！」
——小さいマリア（31話）

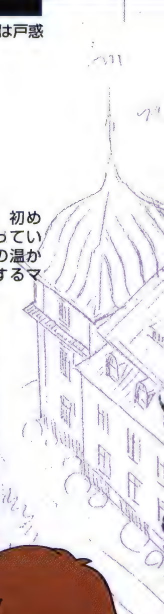

結婚式の日。初めは辛く当たっていたマチルダの温かい言葉に涙するマリア。

「艦長殿、出航準備完了！」
——フランツ（40話）




アメリカへ。ナチスの手を逃れトラップ一家の新しい生活が始まる。


家族になったマリアと子供達。楽しみで始めたコーラスはやがて評判が広まり、舞台へ。トラップ一家合唱団の誕生だ。



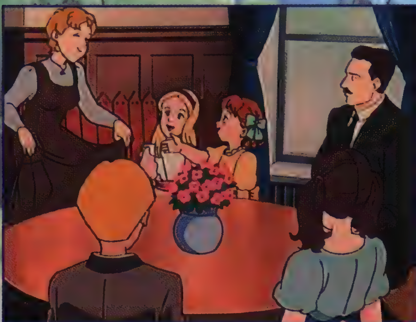


メモリアル Story

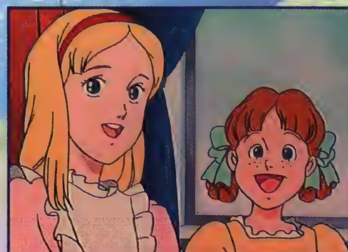
—第7話—

大人は信じられない

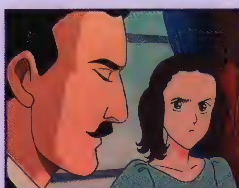
マリアがトラップ邸に来て数日、ゲオルクはマリアに、小マリアに加えてヨハンナの家庭教師も頼みたいと依頼する。ただ一人反発する長女ヘートヴィッヒ。子供達の中に新しい家庭教師マリアに対する温度差が生まれる。揺れるヘートヴィッヒの心をていねいに描いた1話。



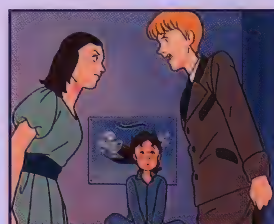
学校帰りに迷子になったヨハンナには、まだ学校は早いと、マリアに家庭教師を頼むゲオルク。マリアも喜んで応じる。



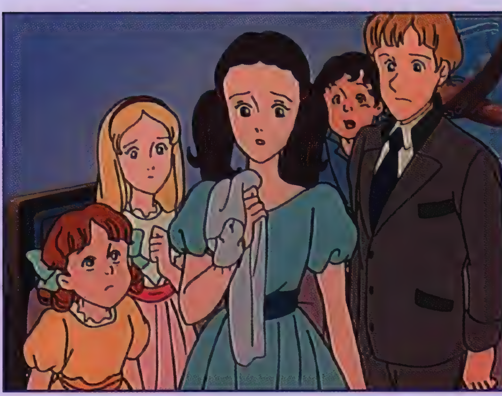
マリアに好意を寄せ始めていた小マリアとヨハンナは、父がマリアに依頼するのをみて顔を輝かせる。



反発するヘートヴィッヒ。赤の他人に家にいて欲しくないのだ。



ルーペルトがヘートヴィッヒをいさめるが、逆にケンカに。



と、とれちゃいました…。



「私のこと忘れてない？」とマリア。怒ったヘートヴィッヒは追い出しにかかるが、勢いでマリアの袖がとれてしまう。



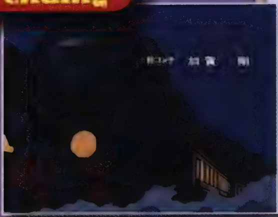
叱られると思いきや、にっこり笑うマリアにヘートヴィッヒは戸惑う。

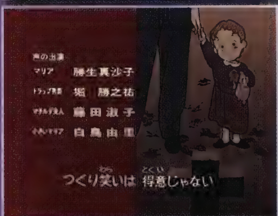


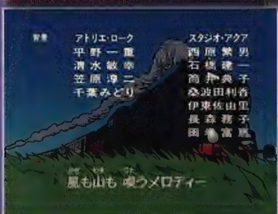


マリアは、なぜ子供達は家庭教師を嫌うのか、とローズィとミミーに聞く。理由は子供にひとりずつ家庭教師と乳母がつき、互いに権力争いをしたためだった。

Ending

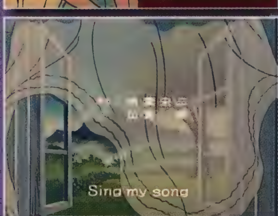


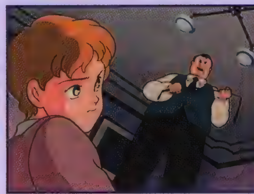








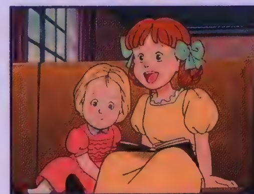




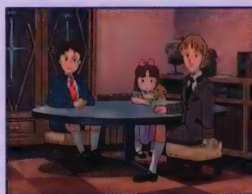
「大人は信じられない…か」。マリアにも覚えがあった。マリアの脳裏に少女時代の辛い思い出がよみがえる。



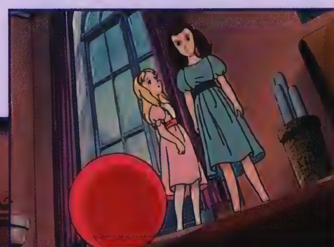
家庭教師はみんな嫌いなの。



「あたしやっぱりフロイラインマリアがいい」とヨハンナ。



ヘートヴィッヒの様子を伺う子供達。一方ヘートヴィッヒの拒絶には、亡くなった母への想いがあった。



みんなの気持ちを象徴するように赤いボールが行き交い、最後にヴェルナーからヘートヴィッヒへ。ボールは彼女の手から落ち…。

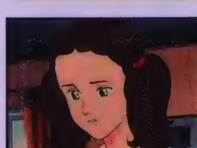


確かに今までの家庭教師とは違うみたいね。



「中身は普通の女の子よ」。マリアの言葉に心が揺れる。

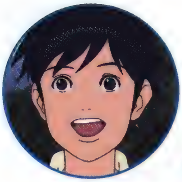




悩むヘートヴィッヒの内面を見据えるように彼女のアップで物語が終わる。



最後の決断を任せるように、小マリアが赤いボールをヘートヴィッヒにもう一度手渡す。面白い演出だ。



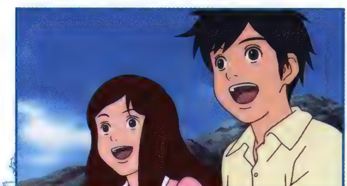
ポルフィの長い旅

放映期間 ● 2008/01/06~2008/12/28

大好きな妹ミーナを探す為、ギリシャの少年ポルフィは長い長い旅に出る。



はぐれてしまったミーナを探す為、イタリア行きの船に乗ったという僅かな手がかりを頼りに、ポルフィは故郷ギリシャを旅立つ。



運命の日――大地震が起こるまで、ポルフィ達は幸せだった。家族4人で暮らす楽しい毎日。ささやかな幸せ。未来は希望に溢れていた。





ポルフィとはぐれ、誤ってイタリア行きの船に乗り込んでしまったミーナは、旅を続けるロマの女イザベラに拾われる。

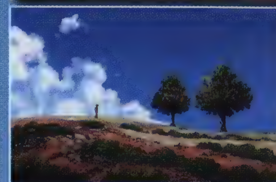
大地震は、ポルフィから夢も家も両親も、何もかも奪い取ってしまった。





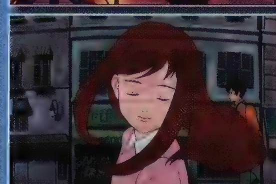
Opening



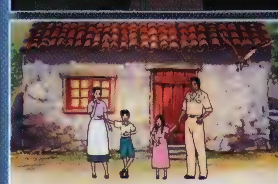










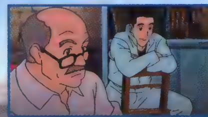


ポルフィの長い旅
名場面集

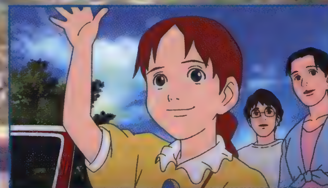


旅立ちの日、アンゲロプロスからは選別に息子の形見であるリュックを貰う。

ブリンディシの自動車修理工のレオンとマルコ親方からは職人の魂を学ぶ。

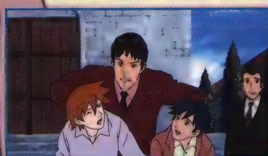


「心を真っ白にして旅立つがいい」
——アンゲロプロス（17話）



マルティーニ農園では優しい人達に囲まれ、穏やかな日々を過ごした。

やっとの思いで見つけたミーナの手がかり。しかしローマでポルフィを待ち受けていたのは、裏切りだった。





シチリア島では、恋を応援するうちにマフィアの抗争に巻き込まれかける。

「別れは出会いの始まりでもあるよ」
——マクシミリアン（22話）

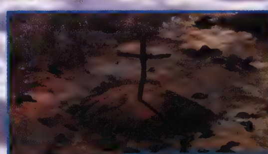


ジュリアーニ神父は絶対に諦めないポルフィに、自分が理想とする信仰の姿を見る。



仮面の少女マリッサは、ポルフィに励まされ、仮面を外して自分自身と向き合った。

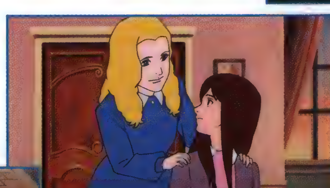
しかし過酷な旅は、ポルフィの大切なものを次々と奪っていく。想い出の品を。父の形見を。かけがえの無い友すらも……。



「みんなのおかげで、
僕はここまで来られたんだ」
——ポルフィ（52話）



力つきたポルフィを救ったのは、かつてシミトラ村で出会ったアレッシアだった。そして舞台はパリへ…。



ミーナは人気女優ティファニーに才能を見いだされ、子役として銀幕デビューする。きっとお兄ちゃんが観てくれる。迎えに来てくれると信じて…。

その頃、かつて女優だったローズのもとに居候するポルフィは、思いがけない所でミーナを見つける。

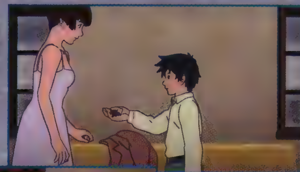




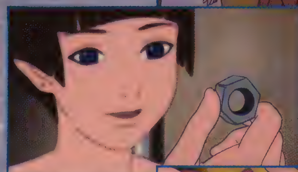
—第52話—

この瞬間のために

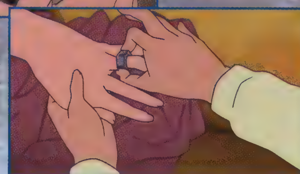
ミーナを見つけたら、ギリシャに帰ってしまう…。ポルフィと別れるのが嫌で、あの子役はミーナじゃないと嘘をついてしまったローズ。
今夜はイブ。ホワイトクリスマスだ。一晩中泣き明かし、冷静さを取り戻したローズは、自分が出来る精一杯の事をしようと決める。大好きな人の幸せの為に。



ポルフィはローズにプレゼントを贈りたかったが、ポケットにあるのはガラクタばかり。ローズは持ち物を見せてもらう。



ローズは中からナットを選ぶ。それは修理工をしてた頃の名残…。今や何の価値もない、ポルフィの夢のかけらだった。

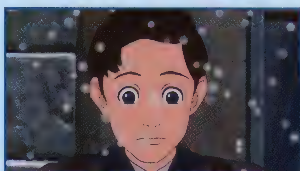


たとえガラクタでも、ポルフィの想いがこもった最高の贈物だ。ローズはナットを指輪に見立て、ポルフィに指にはめてもらう。



ローズもポルフィに贈物を用意する為、出かける事に。

電話かけて来る。サンタクロースにね♪



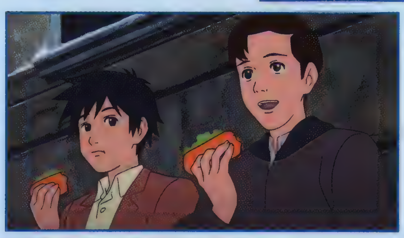
この運命的な出会いもサンタクロースからの贈物だろうか？





ザイミスは、ティファニーのもとで働くメイド、ナタリーと出会い、一目惚れしてしまう。





その頃ポルフィとザイミスは、シミトラ村を懐かしみながら、互いの成長を確かめ合っていた。



ローズが電話をかけたのは、かつての親友で、人気女優となったティファニー・オベールだった。

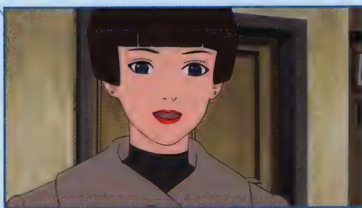
二人の為に最高の舞台を用意しましょう！



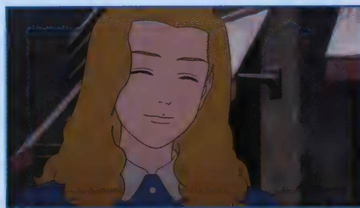


ローズはやっと手に入れた主役の座をティファニーに奪われ、卑怯な手を使ったと恨んでいた。しかし映画での演技を観て、ティファニーは実力で勝ち取ったのだとを知る。ポルフィのお陰で、やっと長年のわだかまりを捨てられたのだ。



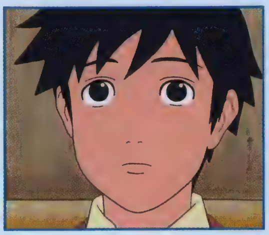


ローズが用意したポルフィへの贈物。それは…。



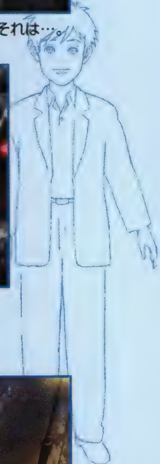
ティファニーが用意したミーナへの贈物。それは…。

Ending

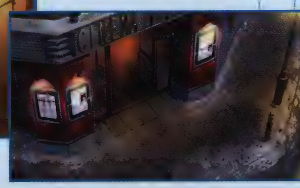




一番会いたい人との再会！

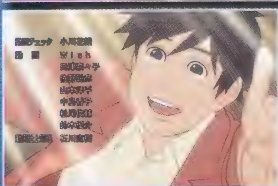


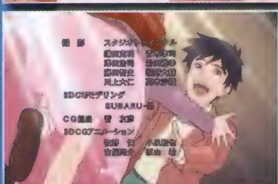


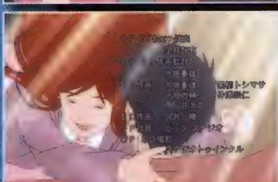


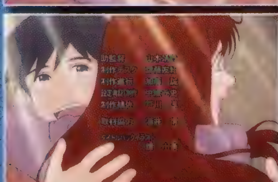
奇しくも再会の場所に選ばれたのは、
ミーナの映画を観た映画館。

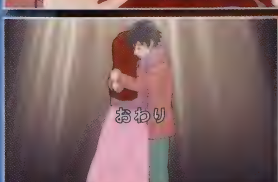














もう一度会えるって信じてた。

劇場の幕が上がる時、ポルフィの長い旅が終わりを告げる。

私も信じてた。必ず見つけてくれるって。

世界名作劇場は、原作こそは欧米のものを扱っているが、アニメーションは日本で制作されたオリジナル作品。主人公達はもちろん日本語で話してくれるが、本来彼らが発したであろう言葉——フランス語で、英語で、イタリア語では、なんと語るのだろうか？　名場面をそれぞれの言語で味わってみよう。

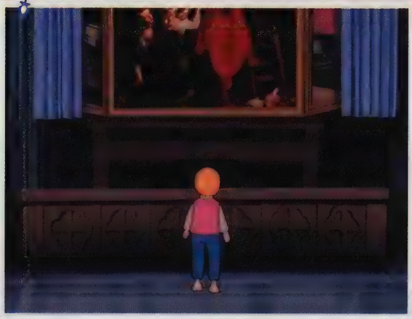
オリジナル言語で読む
世界名作劇場のあの名場面

フランダースの犬

言語　フラマン語

Patrashe, Ik heb ze gezien.
De twee schilderijen van Rubens die ik altijd al het liefst had willen zien.

パトラッシュ、ぼくは見たんだよ。
一番見たかったルーベンスの2枚の絵を。



●あまりにも有名な最終回のラストシーン。







原作は英国人ウィーダによる英語。だがネロの使っていたであろうフラマン語（オランダ語に近い）で再現してみた。

ペリーヌ物語

言語　フランス語

ペリーヌの母マリが最期に娘に託した言葉は重い。マリは英国人だが、夫エドモンはフランス人、パリでの台詞なので、フランス語にした。



●死期を悟ったマリは最後の力を振り絞ってペリーヌに語った（21話）。



Pour être aime,il faut d'abord aimer.

人に愛されるには、
まず自分が人を愛さなくては…。



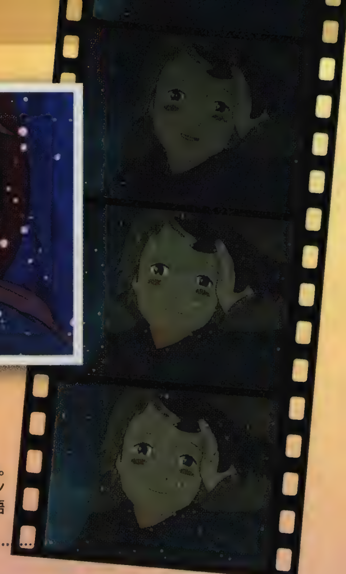
わたしのアンネット　言語 フランス語

J'ouvre la porte de mon coeur maintenant.

私は今、
私の心の扉を開きます。



●雪の中でルシエンを待ちながら、アンネットはついに心を開く。「アンネット」クライマックスシーン（35話）。



スイス西部はフランス語圏。なのでアンネットはフランス語だ。これも原作は英語で書かれている。

牧場の少女カトリ

言語 フィンランド語

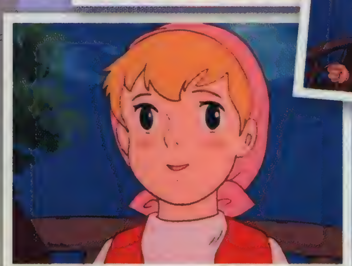
En koskaan luovu toivosta, en milloinkaan.

これからも私、夢を持ち続ける、
ずっと持ち続ける。



フィンランドは現在も都市部やインテリ層はスウェーデン語を使う。だが農村部は当時もフィンランド語だ。





●遠くトゥルクへ再び働きに出るカトリ。カトリの前には希望が広がっていた。40話は実質上の最終回と言ってもよいかもしれない。

小公女セーラ　言語 英語

Ah, at last, I've found her! This girl is Ralph's daughter.

ああっ、こ この子だ。
この子がラルフの娘だったんだ。

●探していた娘こそ、目の前にいた少女だった！（44話）





●伯爵家の全てを覆すお家騒動、伯爵はセディへの溢れる愛情をついに口にする(41話)。





小公子セディ　言語 英語

『小公女』『小公子』ともに同じ原作者による英語の物語。

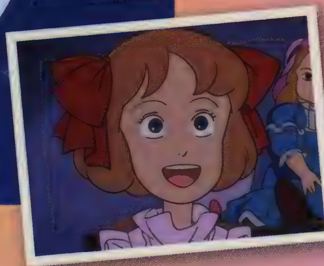
Cedric, I will never let you go. You and I are always together!

セドリック、わしはお前を離しはしない。
わしとお前はいつも一緒だ！



●ウェンディのつもりで娘ジェーンを誘うピーターパンのラストシーン（41話）。

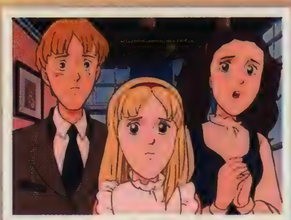
ピーターパンの冒険　言語 英語

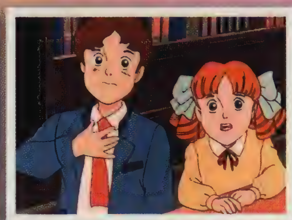


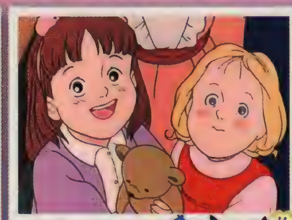
Take me with you, Peter Pan!

連れてって、ピーターパン！

ジェーンは当然英語。だがピーターパンが英語を話したかは定かではない。ただ彼も元はロンドンの公園で迷子になった赤ちゃんというのが原作の設定。









●修道院に帰って欲しくない。子供達はマリアに懇願する。感動でマリアは胸が詰まる（31話）。

トラップ一家物語

言語 ドイツ語

Frau Maria, Können Sie meine Mutter werden?

お母さまになって、マリア先生！

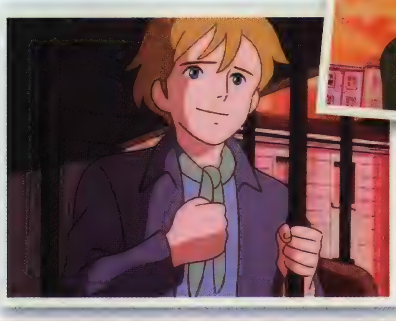
ロミオの青い空

言語 イタリア語

Ti giuro, saremo sempre insieme – nonostante una gran distanza.

誓おう　僕たちはずっと一緒だ。どんなに離れても。

スイス南部はイタリア語圏。同じスイスでもアンネットとは言葉が通じない。

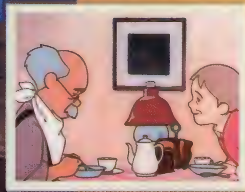






●ミラノで一旦別れるロミオとアルフレド。熱き台詞はもちろんアルフレド（7話）。

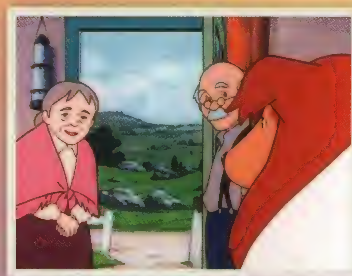




●傷ついたラッシーを親身に世話した老夫婦。遠くを想う犬の様子をみて辛い別れを決意する。

But we'll be all right, won't we?
After all, we've been through a long life.

でも、だいじょうぶよね？
長い人生を生き抜いてきた私たちですもの。



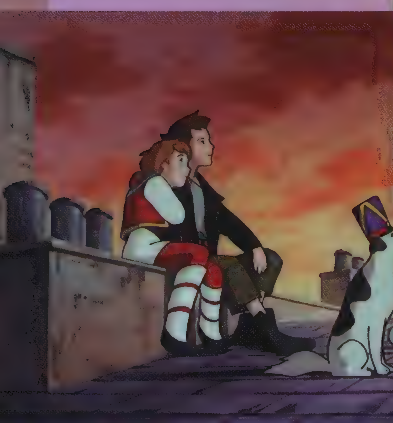
●とまどうラッシーに優しく促す(24話)。

名犬ラッシー 言語 英語

Take care. Now, go along your way.
And be happy.

気をつけてね。いいからお行き。
そして幸せにおなり。





家なき子レミ
言語 フランス語

●レミはマチアと夕焼けを見上げながらヴィタリスを思い出す。心の中で生き続けるヴィタリスは、レミに優しく微笑みかけるのだった。

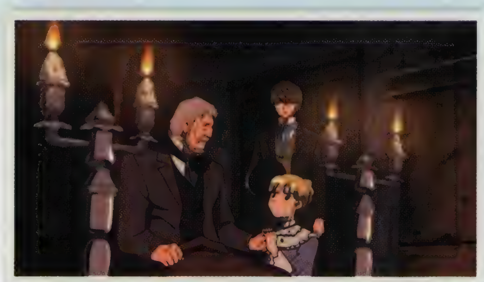
Monsieur Vitalis…
Je ne vous oublierai jamais.

ヴィタリスさん…
私、決して忘れない。

少女コゼット
言語 フランス語

Les gens peuvent changer.
Le monde aussi.

人は変わる事が出来る。
人類も同じだ。

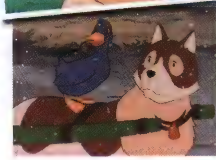
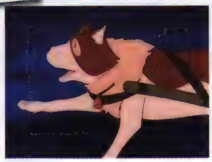


●神に召される時が刻一刻と迫る中、ジャン・ヴァルジャンはコゼットに全てを話す。自分が変われたように、世界もより良く変えられると。

翻訳(敬称略)：田部亜八(フラマン語)、Marie-annette Abe(フランス語)、津森優子(英語)、末延弘子(フィンランド語)、小山千早(ドイツ語)、上平智子(イタリア語)。

名作劇場に出てくる動物たち ヨーロッパ編

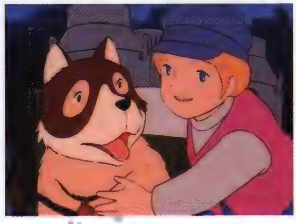


『フランダースの犬』

パトラッシュ

大切な人から受けた恩は忘れない。



ネロとパトラッシュが大好き。

クロ



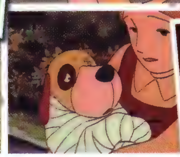
『ペリーヌ物語』

バロン＆パリカール

まぬけ顔の護衛隊長とがんばり屋のパリカールが力を合わせてペリーヌを幸せへ導く！






『家なき子レミ』

カピ＆ジョリクール

ひとりぼっちのレミを支える心強い仲間！



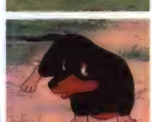


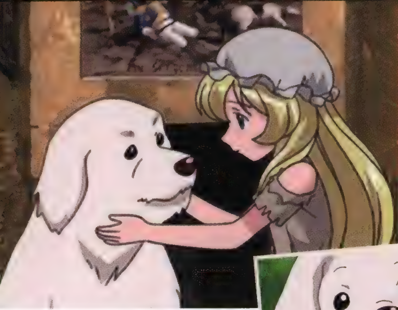
『牧場の少女カトリ』

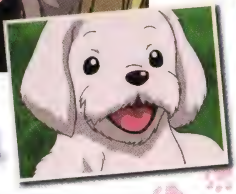
アベル

あるときは牧羊犬、またあるときは子守犬。すねた顔が可愛い人間くさいヤツ。







『少女コゼット』
シュシュ

コゼットのため
なら運命だって
変えてみせる。











どんなに離れても
僕らはひとつ。

『名犬ラッシー』
ラッシー



『ピーターパンの冒険』
ラスカル
どんぐりの首飾りが特徴！　火のついた爆弾など洗ってくれる頼りになるラスカル。



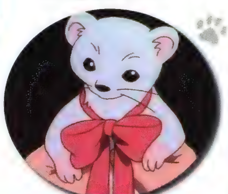
『ポルフィの長い旅』
アポロ
ネズミはポルフィにあげちゃう。



『小公女セーラ』
メルー家
セーラ、
ごはんちょうだい！



『ロミオの青い空』
ピッコロ
ロミオとアンジェレッタの縁を取りもつ。



『ピーターパンの冒険』
時計ワニ
フック船長が大好き。食べてしまいたいくらい！





『わたしのアンネット』
クラウス
ダニーの友達。アンネットとルシエンのケンカと仲直りの元（左：夏毛、右：冬毛）。

名作動物ハプニング集

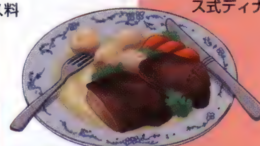
イタズラしたり、ずっこけたり、こんなショットも見せてくれる愛すべきペット達！



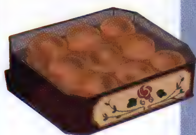
おいしい名作劇場♪ ヨーロッパ編

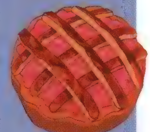


なんといっても美食の国フランス！　フランスと言えばパン。コゼットはパンで十分幸せ。様々なスィーツやフランス料理も登場。『少女コゼット』



コゼットが食べた正式なフランス式ディナー。





シスターサンプリスのお土産クッキー（左、3話）と、コゼットがもらったパリで人気のお菓子（右、7話）。

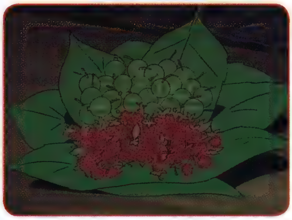


ショウウィンドーに並ぶシュークリーム。



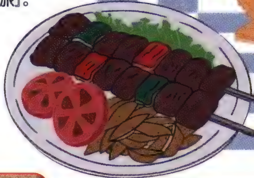
料理と言えばイタリア料理。でも『ロミオの青い空』にご馳走を期待するのは無理というもの。だがアンジェレッタがロミオにくれたチーズとパン。これ以上の美味はあろうか？



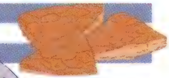


『ペリーヌ物語』ではペリーヌ手作り料理が登場。マスのソテー、スカンポのスープ、グーズベリーと木イチゴの盛り合わせ（14話）。

めずらしいギリシャ料理はこちら『ポルフィの長い旅』。



スブラキ。一口大に切った肉の串焼きで、ギリシャの代表的料理のひとつ（17話）。



お客さんに大人気のアネークのチーズパイ（6話）。

『わたしのアンネット』は、フランス料理の影響も強いスイス西部料理。張り切って作るアンネットのスープ…あれ、お父さん大丈夫…？

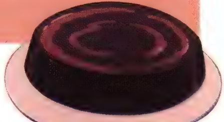






ピクニックのごちそう。黒パンにチーズに干し肉がみえるが、これらはスイス東部でよく食されるもの（20話）。

『トラップ一家物語』では、ウィーンの名物ザッハトルテ（上）も災い転じてマリア風チョコレートケーキに変身（下）（12話）。





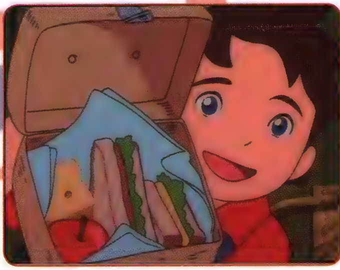


ルシエンがつまみ食いしているのは揚げパン。シナモンやチーズが入ったものが多い。

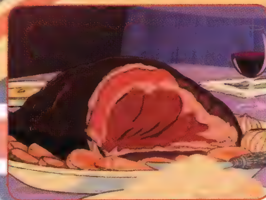


クリスマスに配られるショウガパン。

イギリス料理はまずい？　これをみてほしい。なんとフランス、イタリアを抑え、食事シーンの豊富さ美味しそうな描写は群を抜いている。



サンドイッチはイギリス発祥。薄切りパンに挟むのが本式だ（19話）。『名犬ラッシー』



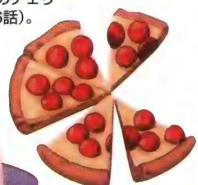
『小公女セーラ』お腹をすかせたセーラが見入っていた料理は、イギリス名物ローストビーフ（23話）。



『小公子セディ』セディの釣ったマスのソテー（20話）。



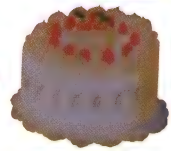
『ピーターパンの冒険』肝試しの賞品はウェンディ特製プリン（12話）。



『名犬ラッシー』サンディ特製のチェリーパイ（16話）。



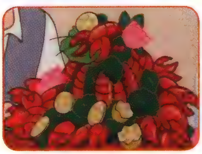
『名犬ラッシー』プリシラとサンディのシフォンケーキ（10話）。



『ピーターパンの冒険』ウェンディ特製マイケルのバースデーケーキ（9話）。



『名犬ラッシー』ヨークシャー風シチュー。パセリとセージが隠し味（2話）。

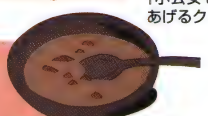


『名犬ラッシー』お母さんの誕生日祝いのゆでザリガニの盛り合わせ（5話）。



『小公女セーラ』ベッキーにあげるクッキー（8話）。





ネロの基本はパンと肉なしスープ（15話）。



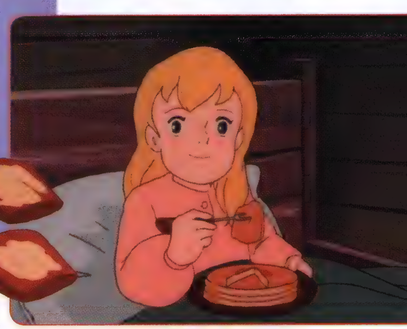




『フランダースの犬』は美食の国ベルギーが舞台。料理上手のエリーナによる豪華なメニューがコゼツ家の食卓にたびたび登場。

アロアはやっぱりいちご飴（9話）。

ジョルジュ特製、パンに肉を挟んだサンドイッチ（14話）。



『牧場の少女カトリ』病気も吹っ飛ぶウッラ奥様のパンケーキ（9話）。



『牧場の少女カトリ』いつものライ麦パンにたっぷりのバターがごちそう（26話）。







フィンランドらしいシーフードのボード料理とカナッペ（左39話、右36話）。

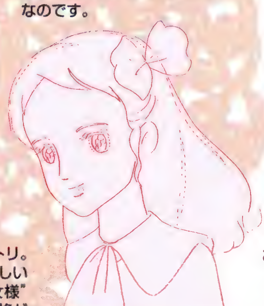
おしゃれな名作劇場♪ ヨーロッパ編



日常生活を描くときに欠かせないのが服飾。しかし誰もがお金持ちのお嬢様ではありません。貧しくて着替えすら無い子もいました。だけど貧しくとも心は錦。たとえ全身をコーディネイトできなくても、装飾品をひとつ付けるだけで誰もがお姫様に変われるのです。名作ヒロインならではのワンポイントおしゃれ、ご堪能ください。



『牧場の少女カトリ』のカトリ。ホッカムリ姿すらも可愛らしいとは、さすがは“星の王女様”の異名を持つ家畜番です。格が違いすぎます。



『小公女セーラ』のセーラ。設定では普段着でも髪にリボンをしてましたが、本編では省かれました。敢えて飾らない。それがリトルプリンセスのおしゃれなのです。



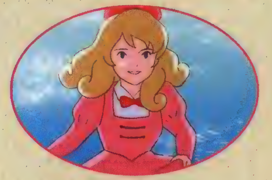
お母様の想い出の品でもあるリボンを入れた箱。ちょっとした変身アイテムですね。『トラップ一家物語』より。

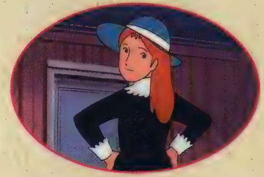


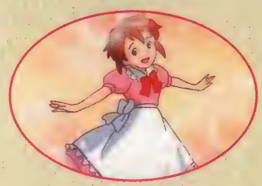
帽子 雨や日差しから頭を保護するという実用性も兼ね備えたおしゃれです。特にアウトドア派な元気ッ子にお似合い♪

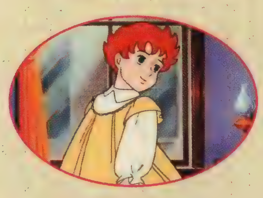


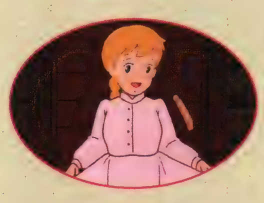
リボン 古くは古代ギリシャの時代からあったと言われます。特に可憐な美少女が使用すると、天使かと見違える程♪　ほら、ラッシーがまるで天使のよう……。



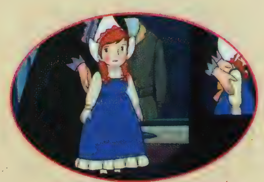
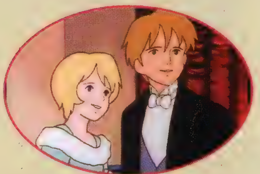
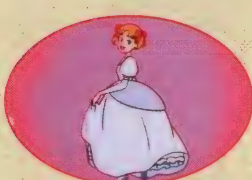




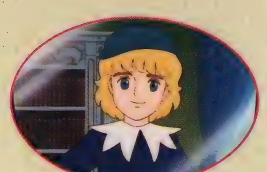


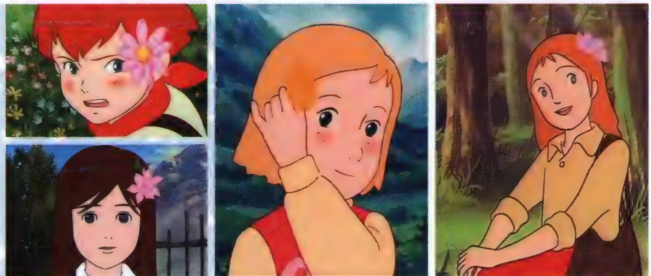




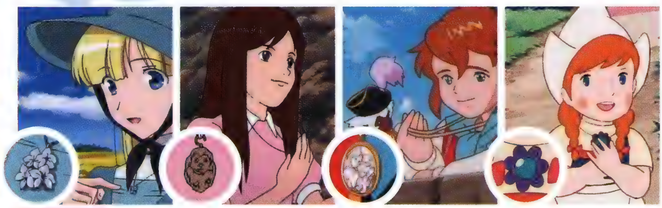






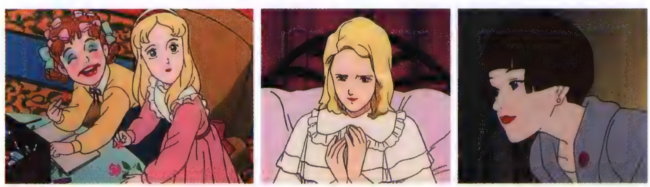




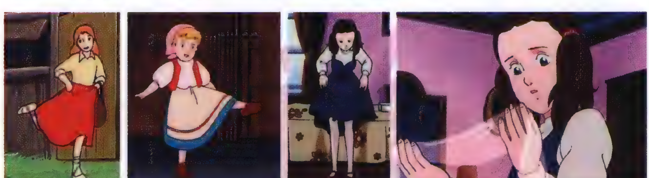
花飾り 帽子やリボンで着飾りたくても、お金はないし町でしか売ってない。だけど大丈夫！野原の花を飾るだけでも、こんなに可愛らしく変身できるのです。もうお転婆とか男勝りだなんて言わせないんだから♪



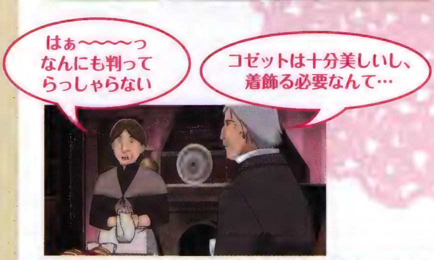
アクセサリー 特にペンダントは隠れたおしゃれです。家族からの大切な贈物が多いですが、まれに出生の秘密なんかが隠されてたりしますので、盗られないよう気をつけて。



お化粧 太古の時代から行われていたといわれるお化粧は大人のおしゃれ。中でも口紅は重要です。間違ってもフェイスペイントとは言わないで！



お御足 長くて重いスカートから解放されたお姫様には、足もとのおしゃれも重要です♪　ちなみにナイロンストッキングが発売されたのは1940年から。

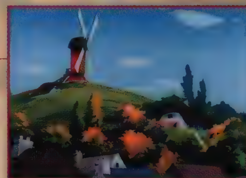


ロケーションハンティング（ロケハン）

名作劇場のクオリティを支えていたのが、作品の舞台を訪ねて取材するロケハンだ。まだ海外旅行が珍しかった時代、監督以下スタッフを伴い綿密に現地を回った。現地の風景をそのまま描くだけでなく、物語の舞台を新たに創造するという、演出も視野に入れた作業であった。（写真は全てロケハン当時のもの）

フランダースの犬

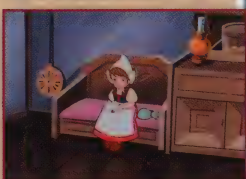
『フランダースの犬』といえば、ラストシーンの大聖堂を思い出す人が多いだろう。大聖堂があるアントワープは、作品中でも舞台として登場し、『フランダースの犬』のロケ地として有名だ。だがスタッフは、ベルギーのみならず、オランダにも足を運び、いろんな風景を拝借しながら新しくアントワープとネロの村を創造している。（1974年取材）





スタッフがベルギーに行ってわかったことは、起伏がないどこまでも平坦な大地だった。絵として変化を見せるため、アニメではあえて丘を作っている。





アロアの椅子の横にあるのは、布団を温める道具（写真中央）。白黒の写真が当時らしい。







スタッフがアントワープの市場をイメージして取材したオランダ、アムステルダムの市場。上は野菜の屋台。下はおもちゃの屋台。ネロが人形を買おうかと迷ったシーンにも登場。アロアの帽子はオランダスタイルだったことがわかる。

わたしのアンネット





舞台になったロシニエール村の広場には、おなじみの屋根付き噴水があった。現在はない。

日本では全く無名だった『わたしのアンネット』。以前同じ枠で『アルプスの少女ハイジ』が放送された10年目に、再びアルプスが舞台に選ばれたのは偶然ではないだろう。（1982年取材）

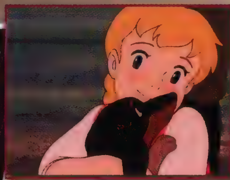




右、レマン湖遊覧船の“アンネット”達。アンネットのキャラデザインはスイスの一般的な少女像を表現したという。左、ロシニエール駅。アニメとほぼ同じたたずまい。

斎藤監督と「アベル」





牧場の少女カトリ



『牧場の少女カトリ』では初の北欧が舞台となる。スタッフはフィンランド南部を中心に取材。実際に小さな農家と大農場に滞在したり、野外歴史村を訪ねたりして、リアルなフィンランドの暮らしを創りあげた。（1983年取材）



資料用アルバム内に書き込まれたスタッフの走り書きに注目！

アベルは、「ペロ」という実在のダックスフントがモデルだった。あの存在感あるアベルはこうした取材の積み重ねの成果だ。





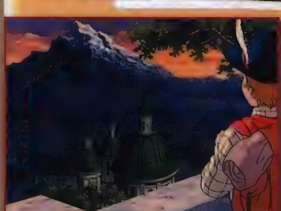
左から斎藤監督、宮崎晃氏、ひとり置いて松土隆二氏、阿部泰三郎氏。

トラップ一家物語

オーストリア、ザルツブルク周辺がモデル。取材班は範囲を広げて、チロル地方や隣国ドイツのミュンヘンまで足を運んだ。（1990年取材）



ノンベルク修道院（実在）からみたザルツブルグのパノラマ。数枚の写真を貼って背景の資料にしている。







ノンベルク修道院の中庭。マリアの結婚式後、マチルダ夫人が待っていた場所だ（左）。チロル地方の民族衣装は、アニメでも音楽祭などの場面に使用された（右）。

小公女セーラ

『小公女セーラ』では近代化が進んだロンドンだけでなく、スタッフは100年前の風景を求めて、イングランド北部まで足を伸ばした。（1984年取材）



ロンドンの中心部。1話冒頭で登場した街灯のある橋のシーンを思わせる。



黒川監督は滞在中、早起きをして周辺を散歩したという。そうやって自分の足で歩いてみたことも作品にも生かされたとのこと。







イギリスでよく見られるレンガ造りで半地下がある建物。ミンチン女子学院を連想させる。





馬車を観察する黒川監督。現地に行ってはじめてわかるものも多いそうだ。



ウィンザー城。城の中に併設されている人形の家は『セーラ』のロケハン時も取材しており、大いに参考になったと黒川氏。

小公子セディ

『セーラ』に引き続き、イギリスが舞台になる。ロンドンはあまり登場せず、伯爵の領地のある田園風景が中心だ。ドリンコート城は、イギリスの現存の宮殿を数カ所取材し、貴族の暮らしの参考にしている。（1987年取材）

黒い木の枠組みでしっくいの家は15世紀に建てられたチェダー様式のもの。『セディ』ではドリンコート村にこの様式の建物が登場。

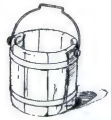




ハットフィールドハウス（左）とハンプトン・コート（右）。いずれもロンドンから近い観光の名所でもある。







レ・ミゼラブル 少女コゼット

Les Misérables

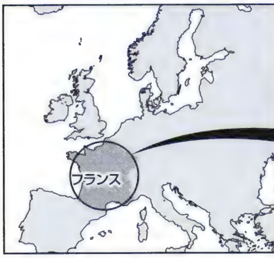


レ・ミゼラブル 少女コゼット



放映期間	2007/01/08～2007/12/30
話数	52話
原作	ヴィクトル・ユゴー

物語の舞台





舞台は王政復古後のフランス。モンフェルメイユとモントルイユ・シュル・メールで物語は始まり、やがて病める都・パリへと集束してゆく。

History

ナポレオン没落後のフランス。ルイ18世の王政復古、七月革命など、当時の社会情勢を背景に、名作劇場で最も古い時代が描かれる。

世紀	年	出来事
18C	1789	フランス革命(～1799)
	1792	王制廃止 第一次共和政(～1804)
	1796	ワーテルローの戦い
19C	1804	ナポレオン皇帝に即位 第1次帝政(～1814)
	1814	ルイ18世国王に即位 復古王政
	1815	ナポレオン復位(百日天下)
	1824	シャルル10世国王に即位
	1830	ルイ・フィリップ国王に即位 七月王政(～1848)
	1837	大塩平八郎の乱(日)
	1848	二月革命 第2次共和政(～1851)
	1851	ナポレオン3世皇帝に即位 第2次帝政(～1875)
	1868	明治維新(日)
	1875	第3次共和政(～1940)
20C	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1940	ドイツに敗北 ヴィシー政権(～1946)
	1946	第4共和政(～1959)
	1959	第5共和政(現在に至る)
21C		

1819年
春
●コゼット、預けられる

1822年
夏
●コゼット、シュシュを拾う

1823年
初夏
●コゼット8歳の誕生日
12月
●ファンティーヌ天に召される
●ヴァルジャン、正体を明かし逃亡
12月25日
●コゼット奪還

1824年
1月
●パリのゴルボー屋敷へ
春
●ピクピュス修道院へ

1829年
●マリウス、家を出る

1830年
秋
●修道院を出る
●コゼットとマリウス出会う

1831年
冬
●ゴルボー屋敷事件

1832年
春
●コゼットとマリウス再会
6月5日
●六月暴動
秋
●マリウス、コゼットに求婚

1833年
2月
●コゼットとマリウス結婚

1834年
●ヴァルジャン天に召される

ストーリー解説

幼い少女コゼットは、ワーテルロー亭の主テナルディエに預けられる。奴隷のように働かされる辛い日々。だけど、「一緒に楽しく暮らせるお家を見つけたら迎えに来る」というお母さんの言葉を信じ、健気に生きていた。

モントルイユ・シュル・メールの市長マドレーヌには秘密があった。本当はジャン・ヴァルジャンと言う名の元徒刑囚で、今も警察に追われる身なのだ。改心したヴァルジャンは罪を償う為、身を粉にして人々の為に働いていた。

そんなある日、ヴァルジャンは自分の知らぬ所で、ひとりの女性を窮地へと追いやっていたことを知る。彼女の名はファンティーヌ。コゼットの母親だった…。

愛する母を失った幼子と、贖罪に生きる逃亡犯。交わるはずの無かったふたりの運命が、神の導きによって交差する。



メインキャラクター比較表。



ワーテルロー亭。

マリウス・ポンメルシー
成長したコゼットが出会う運命の人。革命運動に参加する。

キャラクター紹介



エポニーヌ
テナルディエの娘。みんなに優しくされるコゼットが許せず、いじめてしまう。



テナルディエ
ワーテルロー亭の主。金づるのコゼットを奪われたと、ヴァルジャンを逆恨みする。



ジャン・ヴァルジャン
ファンティーヌの代わりにコゼットを迎えに来た老紳士。命に代えてもコゼットを守る。

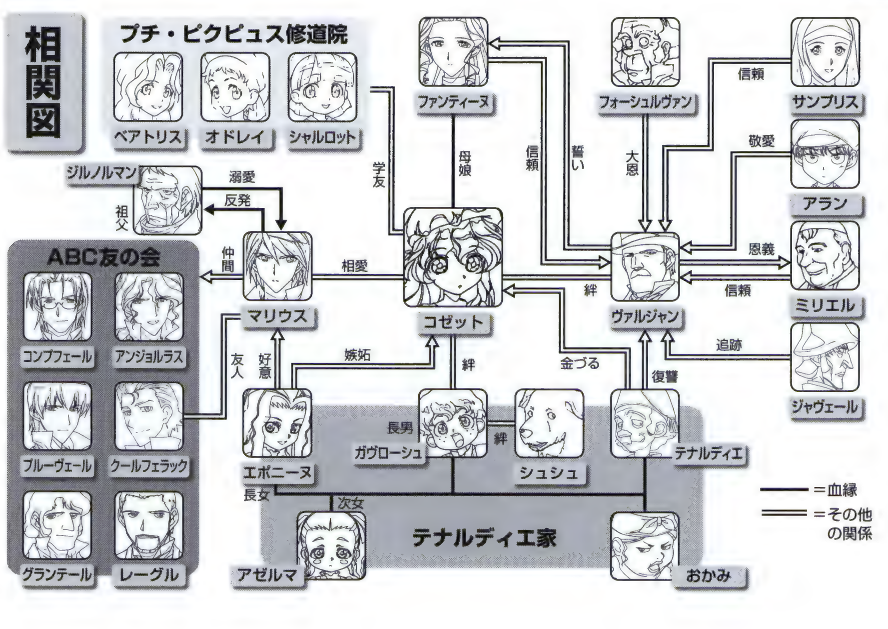


ファンティーヌ
可憐で美しい母。愛娘コゼットを1日でも早く迎えようと身を粉にして働く。



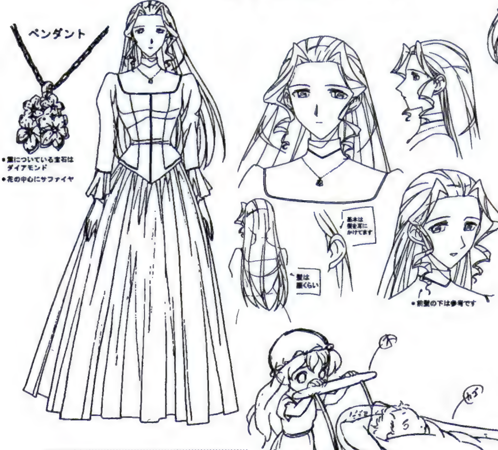
コゼット
ワーテルロー亭に預けられた少女。奴隷同然の扱いを受けるが、健気に生きる。

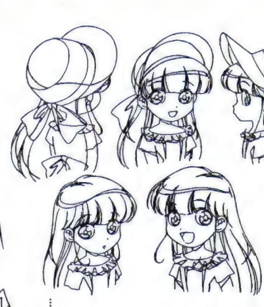
相関図



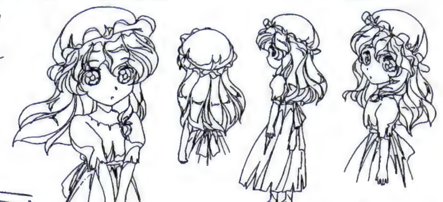
美しく清らかな母。愛娘コゼットの幸せを願い、コゼットと暮らすことだけが望みだったが、過酷な現実はそんな小さな幸せすら奪い取ってしまう。（声：萩原えみこ）

ファンティーヌ






コゼットお出かけ服。回想シーンで度々登場。

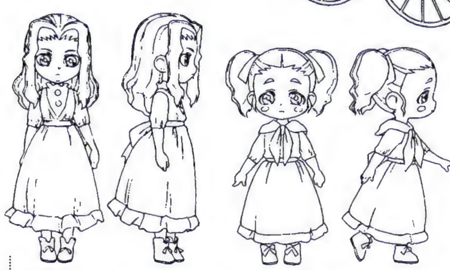


コゼット

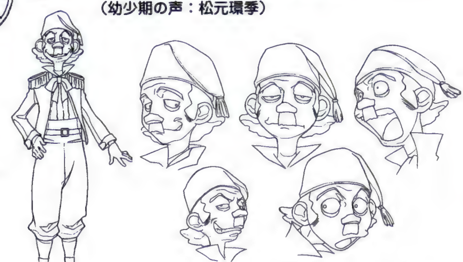
母の愛情を一身に受けて育った少女。3歳の春、止むに止まれぬ事情でワーテルロー亭に預けられるが、母の言葉を胸に、迎えに来てくれる日を夢見ながら、辛い毎日を健気に生きる。
（幼少期の声：松元環季）



ガヴローシュの乳母車。男の子を嫌うおかみは、ガヴローシュの世話をコゼットに押し付けてしまう（2話）。



エポニーヌ4歳。（幼少期の声：大塚友稀）アゼルマ2歳。（幼少期の声：鎗田千裕）テナルディエの娘達。出会ったばかりのときは、無邪気にコゼットと仲良くブランコで遊んでいた（1、2話）。



テナルディエ

かつてナポレオンの元で軍曹として戦ったという、宿屋ワーテルロー亭の主人。職探しで困っているファンティーヌを言葉巧みにそそのかし、コゼットを預かって養育費をせしめる。（声：矢部雅史）



▲モンフェルメイユ。ワーテルロー亭がある小さな村。周囲の野原では季節ごとに様々な花が咲き乱れ、コゼットの心を癒していた。



おかみ

ワーテルロー亭を取り仕切る熊のような大女だが、意外にも夫の前では従順な妻。娘を溺愛する反面、コゼットを疎ましく思っており、片っ端から仕事を押し付け、怒鳴りつけ、事ある毎にいじめる。（声：堀越真己）



アラン
兄弟想いの13歳の少年。母を病気で亡くし、弟達を食べさせる為にパンを盗むが、マドレーヌ市長に助けられ、雑用係として雇われる（1、2話）。
（声：勝杏里）

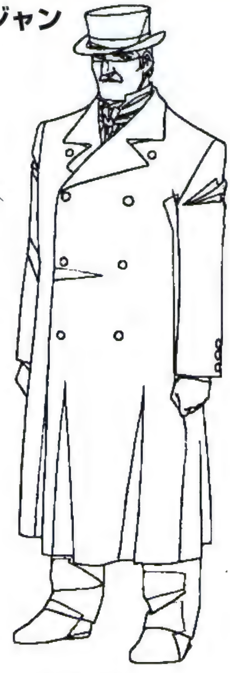
アランの弟と妹。ダニエル4歳。マリー2歳。



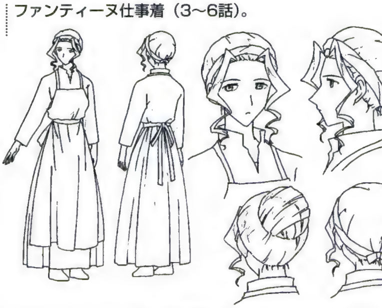
ジャン・ヴァルジャン



黒ガラス工場の経営に成功し、経営手腕を買われて、「マドレーヌ」としてモントルユイ・シュル・メールの市長に就任。貧しい人々をを救う為に心血を注ぐ。3年以上前の過去は謎に包まれている。（声：菅原正志）



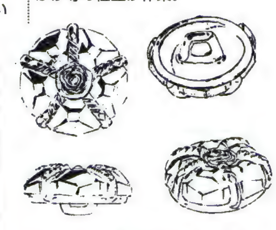
ファンティーヌ仕事着（3～6話）。

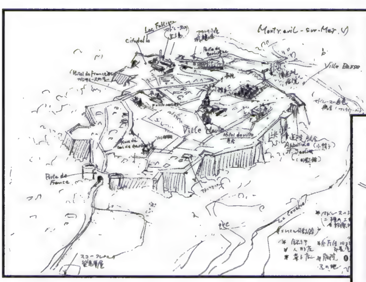




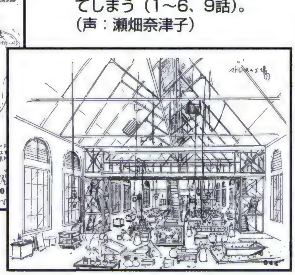
メイエ
マドレーヌ市長の信頼も厚いガラス工場監督官。だが、その厳格さが取り返しのつかない事態を招いてしまう（1～6、9話）。
（声：瀬畑奈津子）

黒ボタン。安価で綺麗な為、土産品として人気急上昇。ファンティーヌ達女工の仕事はヤスリがけ等の仕上げ作業。





▲モントルイユ・シュル・メール。城壁でぐるりと囲まれた町。マドレーヌの黒ガラス工場が成功を収め。好景気に湧いている。



◀マドレーヌの黒ガラス工場。余計なトラブルを避ける為、工場は男性と女性で別々に働かせている。

ストーリー紹介 1～4話

1話 ファンティーヌとコゼット
仕事を探して村に来たファンティーヌだが、子連れでは雇ってもらえない。そんなとき、宿屋の主人に勧められ、涙を呑んで愛娘コゼットを預けることに…。

2話 ジャン・ヴァルジャンの秘密
独り身と嘘をついて仕事を得たファンティーヌは、1日でも早く愛娘を迎える為、一生懸命働く。その頃コゼットは宿屋で奴隷のように働かされていた。

3話 新しい友だちシュシュ
コゼットとガヴローシュはかわいい子犬を見つける。宿屋でこっそり飼おうとするが、商売道具のシーツを汚してしまう。コゼットは子犬をかばうが…。

4話 お母さんの手紙
母から来る手紙はいつもテナルディエが暖炉に捨てていた。燃え残っていた手紙を拾ったコゼットは、自分の名前が何度も書かれていることを知る。

名作メモ　コゼットが預けられるのは、原作では1818年の2歳だが、アニメでは1年後の3歳に変更されている。



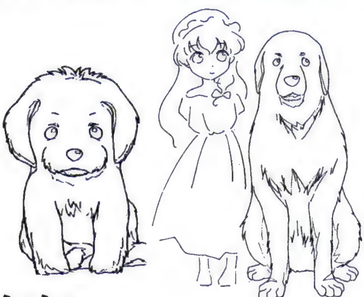
ガヴローシュ

3〜5歳。赤ちゃんの頃からコゼットに育てられ、正義感の強い男の子に育つ。コゼットを姉のように慕うが、鍛冶屋で住み込みで働くことになり、ワーテルロー亭を去る（2〜13話）。（声：小林由美子）

コゼット6〜8歳。支えてくれる人達のお陰で辛い毎日も乗り越えて来られたが、優しい人達は次々とコゼットの元を去っていく。だが独りぼっちになったクリスマスイブの夜、思いもよらぬ救いの手が。「虐げられる者」の象徴とも言えるボロボロの服だが、物語中で着ていた期間はそれほど長くない（2〜13話）。（声：名塚佳織）



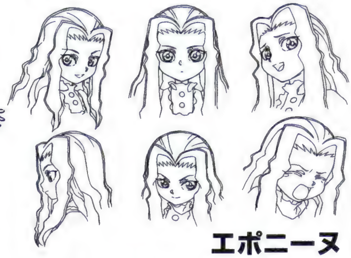




シュシュ

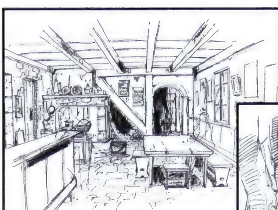
子犬の頃コゼットとガヴローシュに拾われ、成長後はコゼットを支えてきた。コゼットの頼みを受け、守護天使のごとくガヴローシュを守り支える（4〜13話、22話〜）。





エポニーヌ

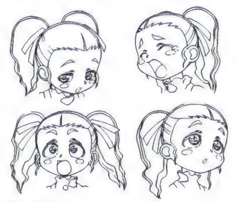
7〜9歳。みんなに優しくされるコゼットが許せず、何をされても動じない（ように見える）ことに苛立ち、いじめをエスカレートさせるが、その度に惨めな気持ちに晒されてゆく（3〜13話）。（声：笹本優子）



▲ワーテルロー亭の食堂。階段下の三角形の隙間にワラが敷き詰められている。そこだけがコゼットに許された居場所だった。



▼モンフェルメイユの森の泉。コゼットは毎日水汲みに行く。クリスマスイブ、初めてジャン・ヴァルジャンと出会う場所でもある。





アゼルマ

5〜7歳。周囲に流され、意味も判らぬまま、無邪気にコゼットいじめに加担する。カチカチのパンは大嫌い（3〜13話）。（声：間宮くるみ）

ストーリー紹介 5〜8話

5話 ジャヴェールの疑惑

路上で馬車が壊れ、人が挟まれた。急がねば助からない。マドレーヌ市長は驚くべき力で馬車を持ち上げた。それを見たジャヴェールに疑念が湧く。

6話 コゼットの誕生日

子持ちだと知られ、仕事を解雇されたファンティーヌは、市長に助けを求めるが、多忙で会ってもらえない。それでもなんとか仕事を得ようとするが……。

7話 迷子のエポニーヌ

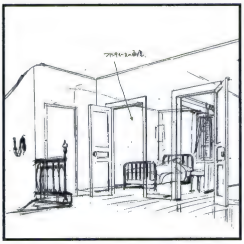
コゼットは宿の客の話から、自分が昔パリに住んでいたことを思い出す。それが許せないエポニーヌは自分もパリに行くと家出をしてしまう。

8話 お母さんのスカート

アランは市長を激しく恨む浮浪者の女性を目撃する。マドレーヌは黒ガラス工場をクビにされた女工の報告を思い出して調べさせるが、全ては手遅れだった。

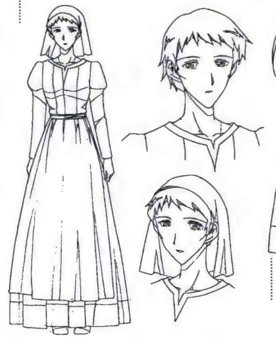
名作メモ 6話のコゼットの誕生日に咲いていた花はラベンダー。南フランスでは6月下旬から7月中旬に花をつける。

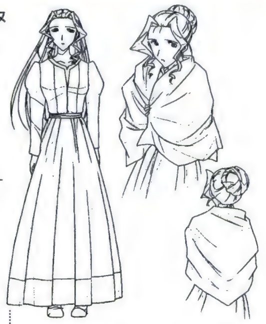




▲ファンティーヌの寝間着姿と病室病室。マドレーヌの家の一室があてられた（9～11話）。

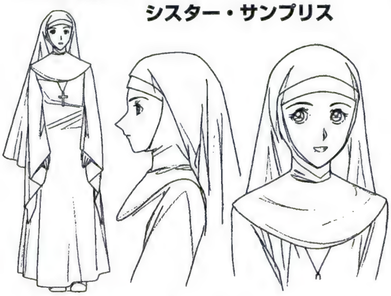
髪を切ってやつれたファンティーヌ（8、9話）。





ファンティーヌ普段着（1～8話）。

シスター・サンプリス



「嘘は罪」を信条とするが、マドレーヌ市長を守る為、生涯たった一度の嘘をつく（2～11、49話）。（声：かないみか）



アラン16歳。マドレーヌ市長の背中を見ながら成長。助手を務め、マドレーヌの意志を受け継いでいく（2～11話）。



弟ダニエル7歳。妹マリー5歳。マリーは美少女に成長（3～5話）。



ジャヴェール警部

法の正義を信奉し、犯罪者には情け容赦ない冷血漢。マドレーヌ市長がジャン・ヴァルジャンではないかと疑う（3話～）。（声：松山タカシ）



フォーシュルヴァン

すっかり落ちぶれた元公証人。よそ者のマドレーヌ市長を嫌うが、馬車の事故から救われ、心を入れ替える（3～5話）。（声：石森達幸）

ストーリー紹介 9～12話

9話 テナルディエの悪だくみ

マドレーヌは警察に掴まったファンティーヌを助けるが、彼女の命は尽きかけていた。せめて望みを叶えてやろうとコゼットを迎えにやらせる。

10話 迷いのマドレーヌ

ジャン・ヴァルジャンと間違えられ、裁判にかけられる男。娘と会うことだけが望みの瀕死の母親。男を救うか、母の望みを叶えるか。選択の時が迫る。

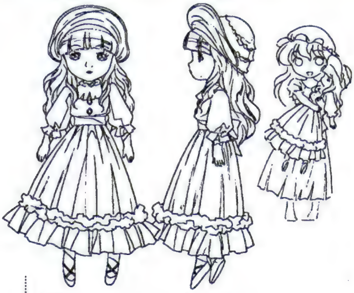
11話 サンプリスの嘘

朝、戻って来たマドレーヌは髪が真っ白になっていた。しかもまだコゼットを迎えには行っていない。そこに警察が現れ、騒ぎの中でファンティーヌは…。

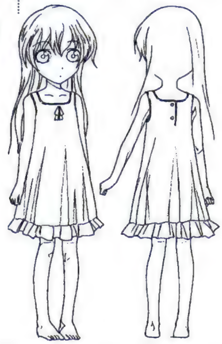
12話 ひとりぼっちのコゼット

神父が去りトロンも引越し、ガヴローシュも住み込みで働くことになった。コゼットの味方は誰もいない。クリスマスイヴ、コゼットはひとりで暗い森へ水汲みに行かされる。

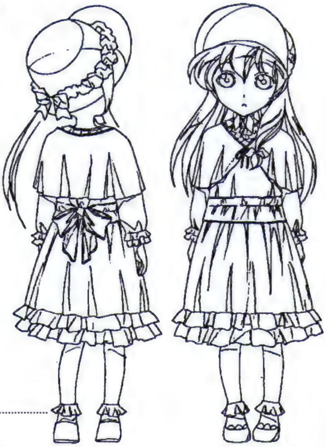
名作メモ モントルイユから馬車を乗り継いでどんなに急いでも、アラスまでは半日、モンフェルメイユまでは2日かかる。



人形カトリーヌ。コゼット曰く、お人形の国の王女様。クリスマス市で売られていた最高級品で、ヴァルジャンが買い与える（12話～）。



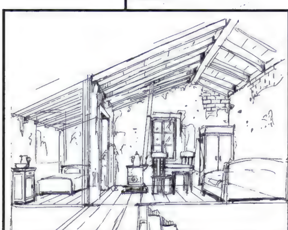
肌着姿のコゼット。眠るときはこの格好（14～17話）。



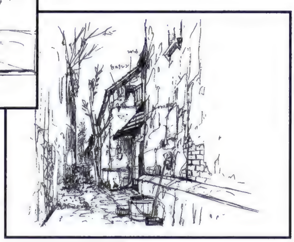
喪服姿のコゼット。ファンティーヌの喪に服す為、ヴァルジャンが用意した。母を失った悲しみ。虐げられたことで抱えたトラウマ。そして緊張感溢れる警察からの逃走。コゼットのはかなさ弱々しさが、これでもかとばかりに強調された（13～20話）。



▶パリに辿り着いたヴァルジャンは、ダンベールの名前でゴルボー屋敷の部屋を借りる。短い期間ながら、コゼットとのふたりきりの生活はヴァルジャンにとって初めての穏やかな時間だった(16～17話)。



◀ジャンとコゼットの部屋。初めての自分の部屋とベッドにコゼットは大喜び（16～17話）。



▶ゴルボー屋敷中庭。手前の花壇には花屋で貰ったマリーゴールドの種がまかれる。コゼットの部屋の窓は、脱出口として活かされる。



黄色いコートの男。仕事を貰い家族を救われた恩義から、ヴァルジャンに協力。彼から貰ったコートと帽子は、逃走編のトレードマークとなる（3話、12話）。（声：乃村健次）

ストーリー紹介 13～16話

13話 ジャン・ヴァルジャンとコゼット
コゼットを救うため、状況を見定めようと、ワーテルロー亭に客としてやって来たヴァルジャンは、テナルディエが油断のならない男だと知る。

14話 二人きりの旅
警察の手が迫っていた。そして母との再会を待ち望むコゼットには、残酷な事実を伝えねばならない。道無き道を進みながら、ヴァルジャンは苦悩する。

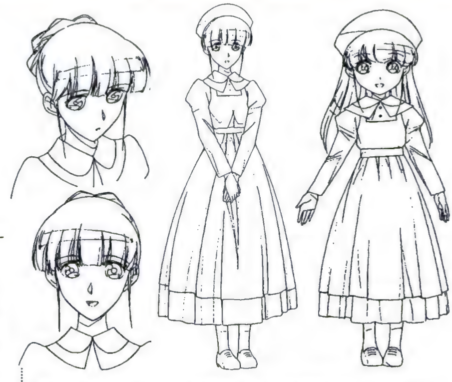
15話 二人の絆
警察の目を気にしながらの旅。逃亡中の自分と一緒ではと、コゼットの身を案じるヴァルジャンだが、うっかり目を離した隙にコゼットは迷子になる。

16話 パリのゴルボー屋敷
初めて自分の部屋をもらい喜ぶコゼットだが、昼は家で勉強。外出は夕方から。そしておじさんのことはお父さんと呼ぶことに。ふたりの奇妙な生活が始まる。

名作メモ 17話でコゼットが朗読する青い魔女と白い魔女の物語は、エポニーヌとコゼットの関係と未来を暗示した内容。

ヴァルジャンはフォーシュルヴァン氏の弟ユルティームとして、修道院の庭師の仕事を得る。以降はコゼットもフォーシュルヴァン姓を名乗ることになる（20～22話）。

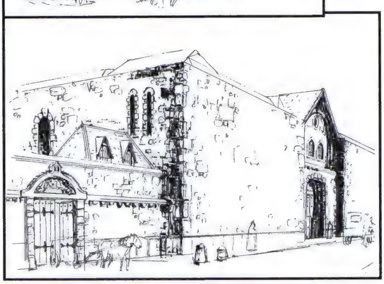




修道服姿のコゼット。修道院内にある寄宿制の女子学校に入学し、次第に本来の明るさを取り戻して美しく成長していく。右が9歳（20話）、左が14歳（20～22話）。

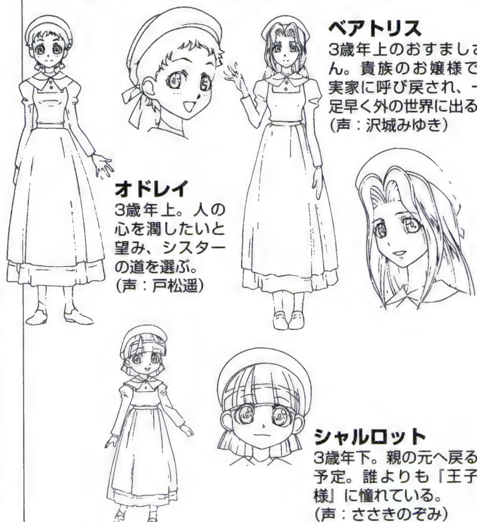
▼フォーシュルヴァンの小屋。コゼットは特別に毎日夕方の1時間だけヴァルジャン達と会うことを許されている。





▲巨大な壁に阻まれた男子禁制のピクピュス修道院。警察といえども入ることは許されない。

コゼットの仲良し学友3人組。閉ざされた修道院での生活が長いため、外の世界が気になってしょうがない（20～22話）。



ベアトリス
3歳年上のおすましさん。貴族のお嬢様で、実家に呼び戻され、一足早く外の世界に出る。
（声：沢城みゆき）

オドレイ
3歳年上。人の心を潤したいと望み、シスターの道を選ぶ。
（声：戸松遥）

シャルロット
3歳年下。親の元へ戻る予定。誰よりも『王子様』に憧れている。
（声：ささきのぞみ）

ストーリー紹介 17～20話

17話 迫り来るジャヴェール
教会の側で浮浪者に施しをする大男の噂。ジャヴェールは正体を探る為、思い切った作戦に出る。一方、ヴァルジャンはコゼットとの暮らしに油断していた。

18話 忘れていた再会
逃走の末、ふたりが迷い込んだのは、厳格な修道院の庭。墓場のような場所でヴァルジャンが出会った庭師は、思いもよらぬ人物だった。

19話 預けられたコゼット
ふたりが修道院に住む為には一度外に出ねばならない。計画のため、先にコゼットを外に出すことになるが、預けられることに怯えたコゼットは、その場から…。

20話 修道院の日々
コゼットは女子学校へ入学を許され、ヴァルジャンも庭師の仕事を得る。初めて得た穏やかな生活。そして5年の時が流れ、コゼットは美しく成長する。

名作メモ　20話の身分違いの辛い恋を唄った切ないフルートの曲は、後にエポニーヌのシーンで繰り返し使用されることに。

トゥーサン

息子夫婦を流行病で亡くし、教会で途方に暮れていたところをヴァルジャンに雇われ、コゼット達の身の回りの世話をする。コゼットにとっては新しい家族である（22 話〜）。（声：かないみか）



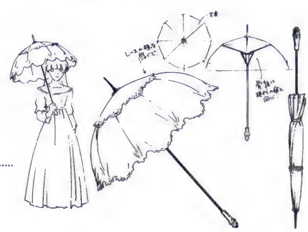


修道院から外の世界へ“巣立った”ときの服装。コゼットのドレスは修道院長が用意してくれたもので、色はネズミ色。若い娘が着るには少々地味である（22話）。

▶コゼットの新しい部屋。生活こそ質素だが、最上階から見えるパリの景色は絶景（23〜25話）。



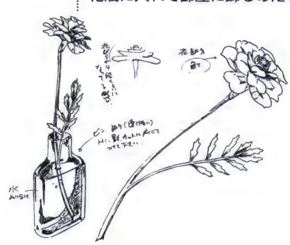
ヴァルジャンが、コゼットを喜ばそうと買った婦人用日傘。大喜びのコゼットもかわいいが、ヴァルジャンの煩悩パパぶりも実にかわいい（25話）。





▲コゼット達の新居はウエスト通りのアパート最上階。しかし不審な若者がヴァルジャン達を探っていることを知り、早々に引っ越すことになってしまう（23〜25 話）。

いつもコゼットが座っている公園の椅子に置かれていたマリーゴールド。気になるあの人（マリウス）からの贈物だと確信したコゼットは、花瓶に入れて部屋に飾るのだった（25話）。



ストーリー紹介 21〜24話

21話 マリウス・ポンメルシー
祖父を信じて父を嫌っていたマリウスは、遺言状から父の愛を知る。何が正しいか自分で確かめるため、マリウスは祖父の元を飛び出すのだった。

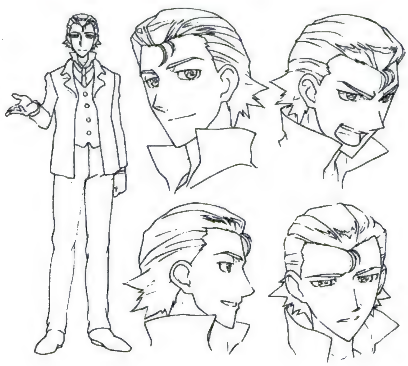
22話 それぞれの旅立ち
ガヴローシュはシュシュと共にパリを目指す。マリウスは祖父の援助を断り自活の道を模索する。そしてコゼットも、父と共に再び外の世界へ出る。

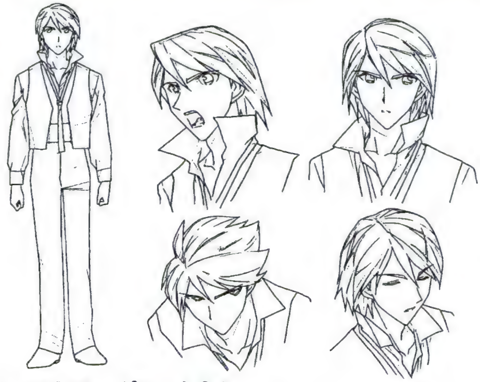
23話 パリの空の下で
生活費を抑える為、ゴルボー屋敷へ引越して来たマリウス。そんな彼を一目見て、恋い焦がれる貧しい娘。彼女こそ成長したエポニーヌだった。

24話 リュクサンブールの出会い
王党派の祖父、帝政派の父、共和派ABCの友の会。様々な考えを知り、進むべき道を迷うマリウス。そんなとき、コゼットとの運命的な出会いが訪れる。

名作メモ ゴルボー屋敷の家賃は月2フラン。ヴァルジャンとコゼットが住んでいた6年前は月4フランだった。

クールフェラック
マリウスをABC友の会へと誘う青年。ろくに面識も無いクラスメイトだったが、ひょんなことから、人生の悩みを打ち明けられる存在となり、マリウスにとってかけがえの無い親友となっていく（22～44話）。（声：竹本英史）



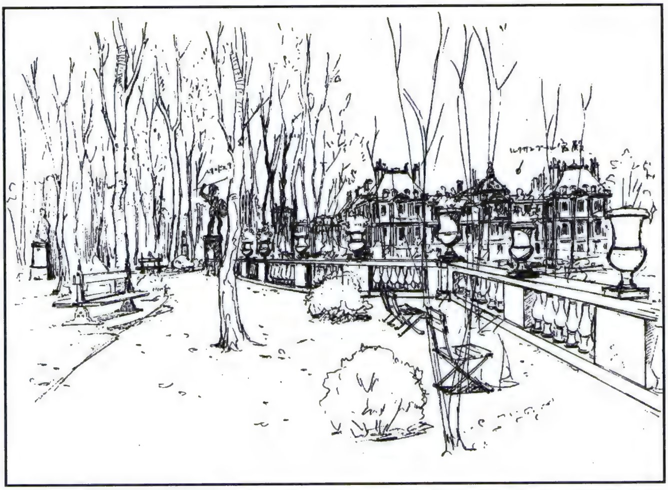


マリウス・ポンメルシー

弁護士を目指す青年。帝政派だった父の想いを知り、王党派の祖父を否定するも、貧乏生活を通して世の中の貧困を知り、共和派の学生達の主張に心が揺らぐ。進むべき道に迷い、悩み苦しむマリウスだったが、リュクサンブール公園で可憐な美少女（コゼット）を一目見た途端、全ての悩みが吹き飛んでしまう（22話～）。（声：勝杏里）

コゼットと親しくなりたいマリウスは、正装で公園に行く。が、やっとの思いで挨拶できたと思ったのも束の間、父親に鬼の形相で睨まれ、腰砕けに。その後マリウスは、あろうことかストーカー行為を働いてしまう（25話）。





▲パリのリュクサンブール公園。コゼットにとって母ファンティーヌと遊んだ、大切な想い出の詰まった場所だが、ここで運命の人と巡り会うとは、母の導きであろうか？

ストーリー紹介 25～28話

25話 届かぬ思い
自分に自信が持てないコゼットは、マリウスの視線を避けてしまう。落ち込んで帰ってきたマリウスを、そっと見つめているのはエポニーヌだった。

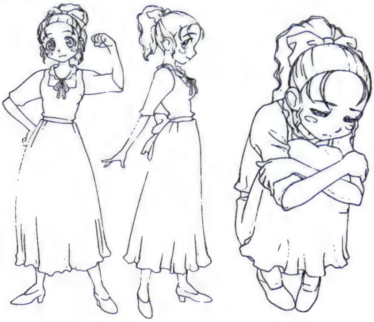
26話 パリのすれちがい
もうあの人には会えないのだろうか？ 突然の引越しに戸惑うコゼット。そんなある日、トゥーサンから、公園でマリーゴールドを持った青年の話を聞く。

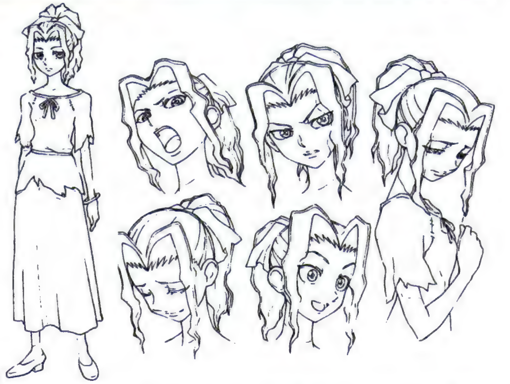
27話 飛び出した女の子
教会で倒れた女性は、預けた店から飛び出し行方不明になった娘を捜していた。自分の境遇と重ねたコゼットは、何とかふたりを会わせようと奮起する。

28話 拾われた手紙
マリウスが道端で拾ったのは、資産家に援助を求める手紙だった。落とし主のエポニーヌに返された手紙は、資産家…ヴァルジャンへと届けられた。

名作メモ 32話でエポニーヌがコゼットに気付いたのは人形を抱いてたから。幼心に忘れられない程人形が羨ましかったようだ。

アゼルマ15歳。パトロン・ミネットと共に逮捕されてしまうが、結果的にろくでなしの父親から解放される。出獄後は母と共に、故郷モンフェルメイユへと旅立つ（23〜36、50話）。





エポニーヌ17歳。モンフェルメイユから夜逃げして以来、辛い現実に流されながら生きて来たが、隣の部屋に引っ越してきた学生、マリウスを一目見たときから、心の中で何かが変わり始める（23〜36話）。

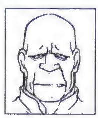


ジャヴェール警部、パリ編仕様。マリウスの通報から強盗団パトロン・ミネット逮捕のチャンスを得たジャヴェールは、勇気ある善良な市民と見込んで、マリウスに協力を求める（17話）。

パトロン・ミネット



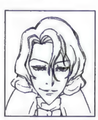
クラクズー



グールメール



ババベ



モンパルナス

パリを騒がす犯罪者集団。ゴルボー屋敷でモンパルナス以外のメンバーを一網打尽にするが、数ヶ月後に全員脱獄。ジャヴェールとパリ市警の闘いは終わらない。



テナルディエ。自分の過ちを顧みず、目先のもうけ話に釣られて莫大な借金を抱えると、ワーテルロー亭からパリへ家族で夜逃げ。ついにはパトロン・ミネットの仲間となって、家族まで犯罪に手を染めさせる。ジャン・ヴァルジャンとは真逆の生き方をした結果、家庭は崩壊。パトロン・ミネットからも疫病神扱いされ、見限られる（23〜51話）。



おかみ。家族の絆があればこそと、悪いことにも加担して来たが、長年尽くして来た夫が自分達を見捨てて脱獄したと知り、ガックリと肩を落とす。出獄した頃には憑き物が落ちるがごとく改心していた（23〜36話）。

ストーリー紹介 29〜32話

29話 テナルディエの罠
隣の住人が犯罪集団の仲間と知ったマリウスは、コゼットの身を案じ警察に通報する。ジャヴェール警部は、逆にマリウスに逮捕の協力を要請した。

30話 残されたコイン
隣の住人が父の恩人テナルディエと知り、警察への合図をためらうマリウス。しかし危険はコゼットの父だけでなく、コゼット自身にも及ぼうとしていた。

31話 穏やかなプリュメ通り
ヴァルジャンは約束通り帰って来たが、酷い火傷をしており、熱もあった。コゼットはこれまでの恩返しとばかりに父の代理を務め、看病に精を出す。

32話 あの日の面影
街をさまよい、必死の思いで愛しいマリウスを探しだしたエポニーヌ。だがマリウスから哀しい依頼をされる。自分の想い人を探してほしいというのだ。

名作メモ パトロン・ミネット（PATRON MINETTE）。直訳すると子猫ボスだが、フランスの古語で『夜明』の意味がある。

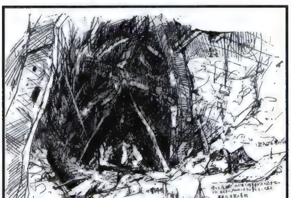


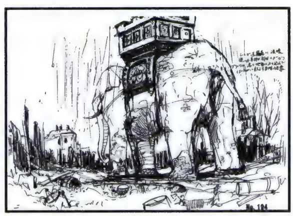


プリュメ通りの屋敷。夜の庭でコゼットとマリウスは再会する。

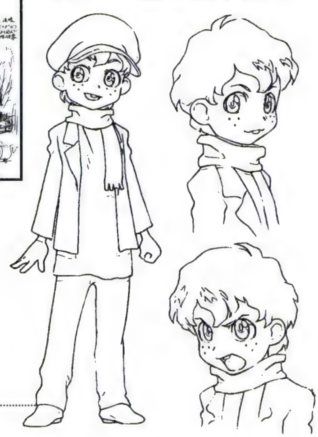


コゼットの寝間着。マリウスとの夜の逢い引きでは、就寝前だけに寝間着にショールを羽織った姿が多かった。

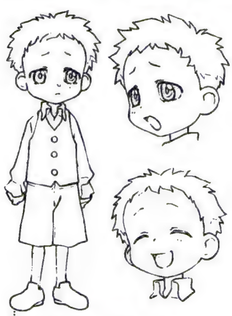




▲▶バスチーユ広場の巨象。ナポレオン政権下に作られた遺物。中が空洞になっており、ガヴローシュが根城にしている。



ガヴローシュ12〜14歳。家族とは袂を分かち、シュシュと共にパリの街でたくましく生きている。街を彷徨う兄弟ブレゾールとユーグを弟分にした頃から、世の中を変えたいと強く願うようになる（22〜51話）。



ユーグ3歳。（声：徳永愛）



ブレゾール7歳。（声：三瓶由布子）

ストーリー紹介 33〜36話

33話 あきらめかけた再会

父の出かけた夜、コゼットは庭に人影を見る。帰って来た父からは気のせいだと言われるが、次の朝、今度は庭に手紙を見つける。それは恋文だった。

34話 象の中の子供たち

ガヴローシュは街をさまよう幼い兄弟を見かける。放っておけなかったガヴローシュは、とっておきのお金でパンを買い、自分の寝床へと案内する。

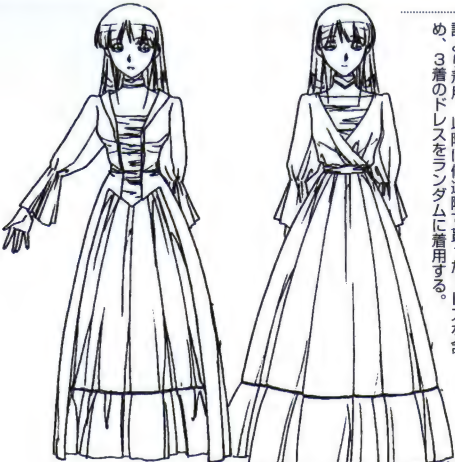
35話 パトロン・ミネットの脱獄

父テナルディエ達の脱獄計画を知ったガヴローシュは、悩んだ末、父の脱獄に協力する。酷い親だったが、生んでくれたことだけは感謝していた。

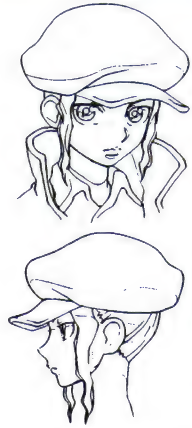
36話 病める都・パリ

パトロン・ミネットの新たな標的はコゼットの家だった。コゼットが不幸になればマリウスが悲しむ。エポニーヌにはそれが耐えられなかった。

名作メモ 34話から登場するブレゾールとユーグは、原作ではガヴローシュの実の弟達である。



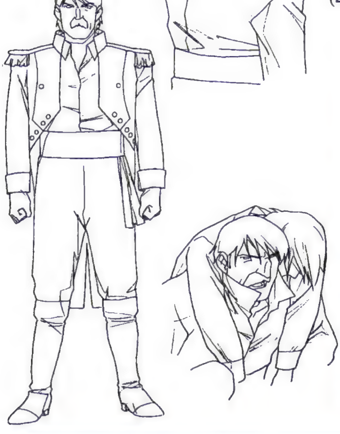
コゼットの新たなドレス。右は39話より、左は47話より着用。以降は修道院で貰ったドレスを含め、3着のドレスをランダムに着用する。





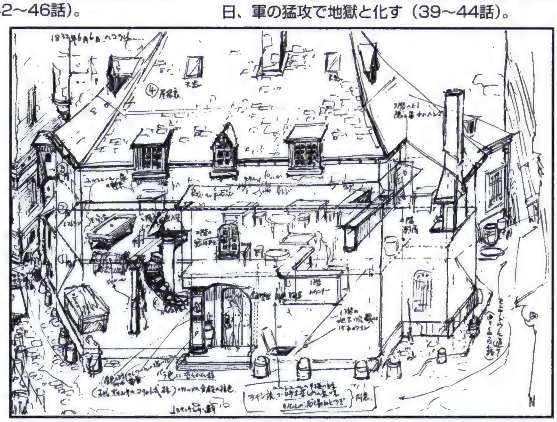
男装のエポニーヌ。突然コゼットの前に現れ、初めて本音をぶつけ合った。(36～41話)。





コゼットにマリウスという恋人がいることを知ったヴァルジャンは、調達していた軍服を着てマリウスのいるバリケードへ急ぐ。ヴァルジャンのサイズに合う服が無かったようで、前ボタンはあけたまま(42～46話)。

▼ABC友の会らがバリケードを築き立てこもる、コラント酒場ぶどう亭の見取り俯瞰図。6月6日、軍の猛攻で地獄と化す(39～44話)。



ストーリー紹介 37～40話

37話 マリウスの誤算
庭に不審者の痕跡を見つけたヴァルジャンは、イギリス行きを決める。コゼットと一緒にいる唯一の方法に気付いたマリウスは、祖父の元へ戻った。

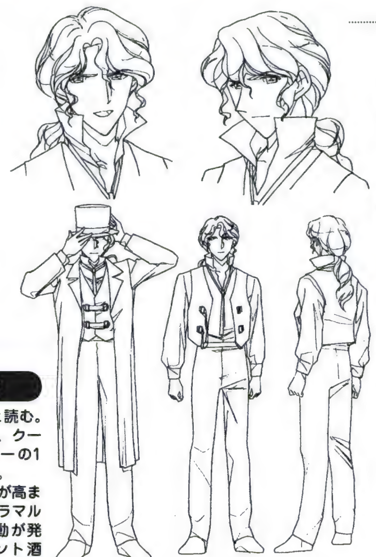
38話 コゼットとエポニーヌ
ヴァルジャンは再び不審者の痕跡を見つけ、夕方までに引っ越すことにした。コゼットはマリウスに行く先を手紙に書いて庭に置くが、そこに現れたのは…。

39話 1832年6月5日
ラマルク将軍の葬列の中、1発の銃弾が暴動を引き起こした。ABC友の会はコラント酒場にバリケードを築いて戦いに備え、マリウスも仲間と立ち上がる。

40話 革命の夜
バリケードでは警官隊との銃撃戦が始まり、マリウスの知人マブーフは革命の旗を護って銃弾に倒れた。混戦を極める中、火薬樽を抱えたマリウスが現れる。

名作メモ ラマルク将軍は実在した人物。1832年6月5日の6月暴動も実際に起きた事件。

アンジョルラス。革命運動のリーダー。恋人は祖国フランス。



コンブフェール。サブリーダー的存在。



ABC友の会

ABCと書いてアベセと読む。共和派の学生の集まりで、クールフェラックもメンバーの1人。マリウスも賛同する。

政治不信で民衆の不満が高まる中、民衆の味方だったラマルク将軍の病死を機に暴動が発生。ABC友の会もコラント酒場にバリケードを築くが、民衆は蜂起せず革命は失敗。軍の攻撃でマリウスを除くメンバー全員が玉砕した。フランス史には『六月暴動』として僅かに記録されるのみである。

ブルーヴェール。ロマンチスト。



グランテール。大酒飲み。



レーグル。



左からジョリー、フイイ、バオレル。



ストーリー紹介 41〜44話

41話 エポニーヌの恋
マリウスの盾となり、警官に撃たれたエポニーヌは、マリウスの腕の中で息を引き取った。自分の想いを伝え、隠していたコゼットの手紙を渡して…。

42話 マリウスからの手紙
深夜に届けられたコゼットへの手紙を読み、コゼットに想い人がいると知るヴァルジャン。マリウスを救うため、ヴァルジャンはバリケードに向かう。

43話 ガヴローシュの願い
大砲で破壊されたバリケードは修復したが、今度は弾丸が足りない。ガヴローシュは警官が落とした弾丸の袋を拾いに、硝煙弾雨を駆け抜けた。

44話 未来へのともしび
警察は捕虜にしたブルーヴェールを見せしめに射殺。報復に捕まえていたジャヴェールを殺そうとするが、それを止めたのはヴァルジャンだった。

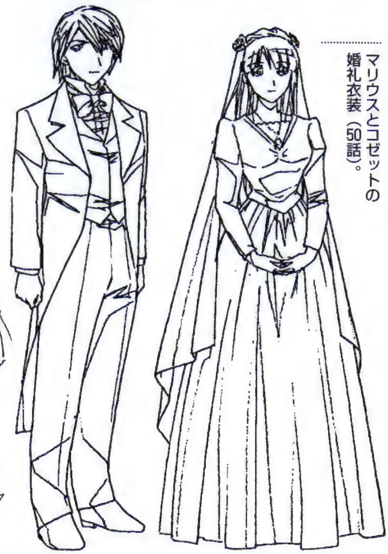
名作メモ アンジョルラスの美貌は決して誇張ではなく、原作でも金髪の美青年である。



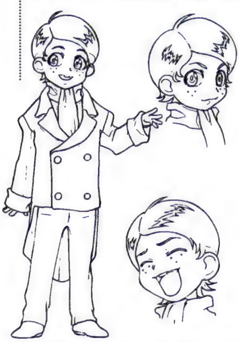
ヴァルジャンとトゥーサンの衣装（50話）。



パーティードレスのコゼット（50話）。



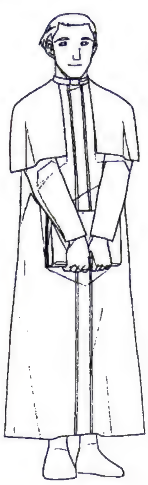
マリウスとコゼットの婚礼衣装（50話）。



ガヴローシュのおめかし着（35、50話）。

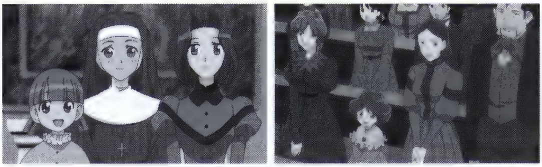


ブレソール、ユーグのちょっと綺麗な格好（50話）。





リシャール
かつてモンフェルメイユの教会で、コゼットに字を教えた神父。その縁か、コゼットの婚礼で司式者を勤め、後にヴァルジャンの作った学校で、子供達に勉強を教えることとなる（4～11話、50話～）。（声：岸祐二）



コゼットやマリウスと知り合った懐かしの人達も、ふたりの結婚を祝福する。左からシャルロット、オドレイ、ベアトリス、ミレーヌ、ポーレット、ロザリーヌ、ユシュール。

ストーリー紹介 45～48話

45話 パリの下水道
バリケードは全て陥落。ABC友の会の仲間達は射殺された。生き残ったヴァルジャンは重傷のマリウスを背中に担ぎ、迷路のような下水道を逃走する。

46話 ジャヴェールの正義
コゼットの為に全てを投げ出し、マリウスを救おうとするヴァルジャン。人間は変われるのか？ ジャヴェールの正義は根底から揺らいでゆく。

47話 心の絆
マリウスは命を取り留めるが、回復には生きる意欲が必要だった。毎日手縫いのガーゼを持って容態を聞きに来るコゼットを知った祖父のジルノルマンは…。

48話 コゼットとマリウス
コゼットの愛に支えられ、順調に回復したマリウスは、コゼットと一緒に、バリケードから救ってくれた命の恩人を探していた。

名作メモ ジャヴェールの（そしてヴァルジャンの）モデルは、犯罪者から警察長官に転身した実在の人物ヴィドックとされる。

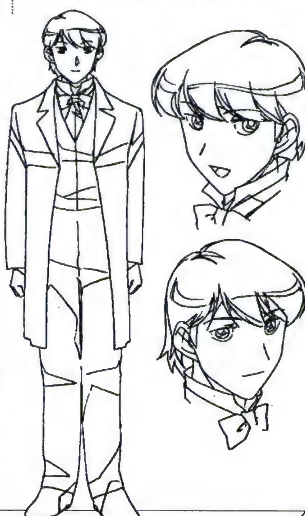


▲同じ悲劇を繰り返さないよう、黒ガラス工場の敷地内に建てられた託児所「ファンティーヌとコゼットの家」（49話）。



▲ファンティーヌの墓。アラン達によって手厚く埋葬された（49話）。

成長したアラン。マドレーヌ市長の意志を引き継ぎ、市長代理としてモントルイユ・シュル・メールを更に発展させてゆく（49話）。





変装している（つもりの）テナルディエ。しかし、コゼットやマリウスはもちろん、たまたま通りかかったジャヴェール警部にすら正体を見破られる。テナール男爵と名乗り、ヴァルジャンの過去をダシに口止め料をせしめようと目論むが…（51話）。

ミリエル司教





ミリエル司教から貰った銀の燭台。



自分はかつて徒刑囚だったこと、ミリエル司教に救われ生まれ変わったこと、しかしファンティーヌとコゼットを会わせられず、今でも悔いていること…。ヴァルジャンは死期が迫る中、全てをコゼットに告白する（52話）。

ミリエル司教と出会った頃のヴァルジャン。

ストーリー紹介 49～52話

49話 私のお母さん
母の墓前に結婚を報告する為、母の歩いた道を進み、モンフェルメイユからモントルイユ・シュル・メールへ。そこでコゼットは母の深い愛を知る。

50話 永遠のリング
マリウスは弁護士試験に合格。子供達の学校も完成した。そしてコゼットの結婚式も間近。幸せの中でヴァルジャンは自分はこれで良いのかと苦悩する。

51話 明かされた真実
ヴァルジャンはマリウスに過去を告白し、コゼットを託して失踪した。マリウスはテナルディエの話から、ヴァルジャンこそ命の恩人だったと知る。

52話 銀の燭台
1年以上経ったある日、ヴァルジャンからコゼットに手紙が届く。コゼットに全てを告白する時が、そしてヴァルジャンが神に召される時が来たのだ。

名作メモ 母の軌跡を追う49話はアニメ独自の展開によって生まれた『少女コゼット最終回』と言うべき感動巨編である。

ファンティーヌの存在感

原作のファンティーヌは非業の死を遂げた後、コゼットをヴァルジャンに託すことで役目を終えたかのように人々から忘れ去られてゆく。

しかしアニメのファンティーヌは、死してなお物語に関わる。コゼットを常に見守り、時には自然現象を利用して導き、ついには天に召されるヴァルジャンを迎えに現れるのである。

そして彼女がもっとも影響を与えたのは、その後のモントルイユ・シュル・メールだった。原作ではマドレーヌ市長が去った後、新しい市長が就任するものの、黒ガラス工場の倒産や人々のモラルの低下などにより、破滅の一途をたどってゆく。

ところがアニメでは、マドレーヌ市長の助手を務めていたアランが市長代理として一切の職務を引き継ぎ、街は更なる発展をとげる。ファンティーヌは手厚く葬られ、同じ悲劇を繰り返さないよう工場に子連れの女工の為の託児所もつくられた。

惨めな人としてではなく、街を変え、コゼットを見守り続けるファンティーヌ。そこに、アニメならではの視点が加えられている。

◎ファンティーヌの痕跡

●コゼットを見守る

コゼットはヴァルジャンが迎えに来て以来（13話～）、母の存在を強く感じるようになる。そのせいで母が死んだとは思えず、コゼットはすぐには事実を受け入れられなかった。

●自然現象で干渉

コゼットの帽子を風で飛ばし、想い出の木に導いたり（16話）、自殺しようとしていたジャヴェールに朝日を浴びせ、踏みとどまらせる（46話）。いずれも明言はされてないが、ファンティーヌの意志を感じさせる演出であった。

●ヴァルジャンを迎えに現れる

ヴァルジャンが天へ召されるとき、迎えに現れたのはミリエル司教とファンティーヌ。しかもファンティーヌはヴァルジャンが知らない美しい姿であり、姿こそ見えないものの、側にいたコゼットも母の存在を感じ取る。つまり夢や幻覚ではなく、超自然的な存在として現れたのである（52話）。



コゼットは修道女向き？

第20話『修道院の日々』にて、コゼットは女子学校への入学を許可される。修道院長はコゼットに「貴方はきっと良い修道女になるでしょう」と言うが、そのセリフの背景に、原作には興味深い理由があった。

原作でも修道院長はコゼットに修道女の適性があると判断するが、その決め手は、なんと「コゼットは美人にならないだろう」と思ったから。こんな美少女が美人にならないって…院長さま！

コゼットの恩返し

第24話でコゼットは、貧困に苦しむ子供達を見るうちに辛い過去を思い出すが、同時に編み物を始める。完成したのは毛糸の靴下。父ヴァルジャンへのささやかなプレゼントだった。多くは語らないが、ふたりにとっては特別な意味がある。

第13話でワーテルロー亭に訪れたヴァルジャンは、コゼットが編んでいた毛糸の靴下を5フランで買い取ったことにして、コゼットを休ませ、食事をさせてくれた。コゼットは辛い過去と共にそのときのことを思い出したのだ。

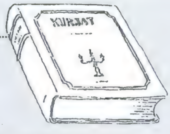
いつも与えられてばかりのコゼットにとり、それは初めての、そして精一杯の感謝の気持ちを込めた、ヴァルジャンへの恩返しだったのである。



「余りの毛糸で編んだから色が少し変だけど、暖かいはずよ」。ヴァルジャンにとっては胸が熱くなるプレゼントだった。

原作について

『レ・ミゼラブル』（1862年発表）はフランス文学史上屈指の名作といわれる大河小説である。
ジャン・ヴァルジャンの苦難にみちた人生を軸に、さまざまな状況でのあらゆる階層の人々を、愛情をこめて描いた。日本では20世紀に入ってから翻訳され、様々な出版社から出版されている。
名作劇場でも『ペリーヌ物語』や『牧場の少女カトリ』には物語の中で原作本が登場する。
有名な逸話に世界一短い手紙がある。本作の売れ行きを心配したユゴーは出版社に「?」の1文字を記した手紙を出した。すると出版社は売れ行きの凄さを表す為、「!」とだけ記した手紙を返信したのだという。



カトリが読んだフィンランド語訳版レ・ミゼラブル。

〈原作者〉
ヴィクトル・ユゴー
1802−1885

19世紀フランスを代表する詩人、戯曲家、小説家。そして政治家。日本では作家として有名。有名な代表作には『レ・ミゼラブル』の他に『ノートルダム・ド・パリ』（1831年）がある。

原作の続編『コゼット』とは？

実は『レ・ミゼラブル』には、コゼットを主人公に据えた続編が存在する。ただし、ユゴー自身ではなく、アメリカの作家による執筆である。



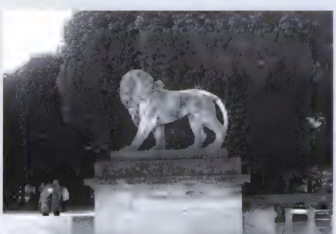
『コゼット　レ・ミゼラブル続編（上・下）』
著　：ローラ・カルパキアン
訳　：光野 多惠子
発行：三天書房　※絶版

ガヴローシュの宿命

パリの下町で自由の翼を羽ばたかせていたガヴローシュは、バリケードの前で凶弾に倒れ、そのまま死ぬはずだった。忠犬シュシュの救出劇により奇跡的に一命を取り留めるものの、その先に待っていたのは死よりも辛い生き地獄だったのでは無いだろうか。何故なら、コゼットのお供をしてモントルイユに訪れた際、ファンティーヌを死の淵に追いやったのが自分の両親だと知ってしまうのだから。
ガヴローシュに出来ることがあるとすれば、真人間に『生まれ変わる』ことだけ。だからその後の彼は、償いという足かせをはめ、学校の子供達の手本となるまでに成長する。ヴァルジャンの意志を最も引き継いだのは、実はガヴローシュだったのである。

ロケーションハンティング

『少女コゼット』では、フランスへの取材ロケが行われた。現地取材は『トラップ一家物語』以来であり、名作劇場の復活への意気込みが見て取れる。物語の舞台となるパリ、モントルイユ、モンフェルメイユはもちろんのこと、物語には直接関わらないアミアンやルーアン、移動中に見かけた田舎の風景なども静止画や動画に収められた。



▲『少女コゼット』ロケハンのときの写真より。パリを中心にフランス中を取材。リュクサンブール公園のライオン像。

▼モントルイユの市庁舎。



Gallery



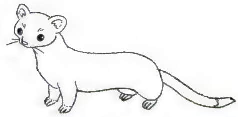
ワーテルロー亭前の道／伊藤主計

メインスタッフ

企画	前田和也（フジテレビ）／佐野浩平／石川和子
脚本	金春智子／丸尾みほ／平見瞠／横谷昌宏／池田眞美子／島田満
音楽	松尾早人
キャラクターデザイン	渡辺はじめ／吉松孝博
演出	桜井弘明／棚橋一徳／赤城博昭／土屋日／清水明／岡嶋国敏／川西泰二／荻原露光／市橋佳之／佐々木皓一
絵コンテ	桜井弘明／四分一節子／岡本英樹／井硲清高／佐藤雄助／小滝礼／尼野浩正／福田道生／小西洋子
総作画監督	渡辺はじめ／志田ただし
作画監督	藤原宏樹／山本径子／阿部千秋／加瀬政広／南伸一郎／清水恵蔵／孫吉永／宍戸久美子／渡辺昭／梶浦紳一郎／飯飼一幸／鈴木伸一
美術設定	伊藤主計
美術監督	中村光毅
撮影監督	森下成一
音響監督	早瀬博雪／高橋秀雄
色彩設計	小松原智子
プロデューサー	伊藤幸弘（フジテレビ）／山本幸治（フジテレビ）／加藤道夫／田中敦／佐藤賢一
監督	桜井弘明

オープニングテーマ「風の向こう」
作詞：斉藤由貴
作曲：いしいめぐみ
編曲：澤近泰輔
歌：斉藤由貴

エンディングテーマ「ma maman(私のお母さん)」
作詞：斉藤由貴
作曲・編曲：澤近泰輔
歌：斉藤由貴



ロミオの青い空

Romeo and Black Brothers

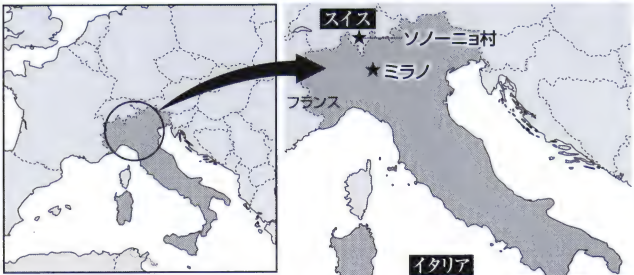


ロミオの青い空



放映期間	1995/01/15〜 1995/12/17
話　数	33話
原　作	リザ・テツナー「黒い兄弟」

物語の舞台



ロミオの故郷ソノーニョ村は、イタリア国境の近くにある、スイスの小さな村。ロミオ達子供はロカルノの街に集められ、イタリアのミラノへと送られた。

History

サルデーニャ王国を中心に統一されたイタリア王国。初代国王エマヌエール2世の元、多くの領土を取り戻し、安定していた時代。

18C

1813　ミラノ大聖堂完成

1831　サルディニア王カルロ・アルベルト即位

1839　イタリアで鉄道開業

1848　ウィーン3月革命(墺)、クストーザの戦い

1849　カルロ・アルベルト退位、ヴィットリオ・エマヌエール2世即位

19C

1859　イタリア統一戦争

1860　ガリバルディ、千人隊を創設

1861　イタリア王国成立、エマヌエール2世初代国王に

1863　奴隷解放宣言(米)

1868　明治維新(日)

1870　普仏戦争(〜1871)

1871　イタリアの首都、ローマに遷都

1878　ヴィットリオ・エマヌエール2世死去

1905　イタリア鉄道国有化

1929　世界恐慌

1939　第2次世界大戦(〜1945)

20C

1946　イタリア王制廃止

1993　EU発足

21C

ストーリー解説

ソノーニョ村の少年ロミオは、貧しいけど温かい家庭で元気に暮らしていた。ところが村祭りの日、『死神』と呼ばれる人買いルイニが、子供を買いに村にやって来る。『死神』が目を付けたのはロミオだった。

その日、ロミオの父は突然の火事で最後の畑を失い、怪我を負ってしまう。全ては『死神』の仕業だった。

父の怪我は酷く、失明の危機にあった。医者を呼ぶにはお金が必要だ。意を決したロミオは、酒場の『死神』の元へ駆けつけると、医者を呼ぶ事を条件に煙突掃除夫になる契約を結ぶのだった。

契約期間は来年の春まで。ロミオは必ず村へ帰ると心に誓い、ミラノへと旅立つ。だがロミオは知る由もなかった。その先に、運命を変える出会いや事件が待ち受けているとは…。

1870年代

春
- ソノーニョ村に日照り

初夏
- 父の畑、アナグマに荒らされる

残暑
- 村祭り
- 父の最後の畑、放火される
- ロミオ、ルイニに自分を売る
- 5ヶ月ぶりの雨
- ロミオ、アルフレドと出会う
- 子供達を乗せた船が転覆

秋
- ロミオとアルフレド、ミラノへ
- ロミオ、ロッシ親方に買われる
- アンジェレッタとの出会い
- アンゼルモに罪を着せられる
- ロミオの無実が証明され、ロッシ親方と和解
- アルフレドと再会
- 『黒い兄弟』結成
- 『狼団』と対決、勝利

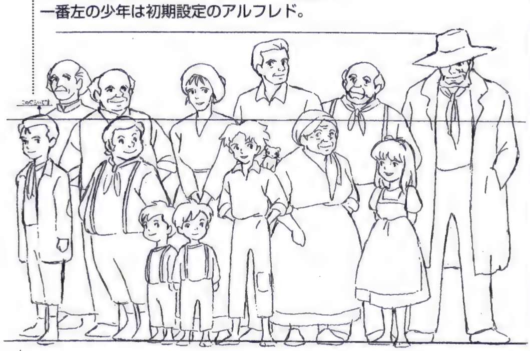
晩秋
- アンジェレッタ11歳の誕生日
- アンジェレッタ、祖母と会う
- アンジェレッタとの別れ

冬
- アルフレド、ビアンカと再会
- アルフレド、国王に謁見
- アルフレド、天に召される

1876年

春
- ソノーニョ村へ帰郷

ソノーニョ村のメインキャラクター比較表。
一番左の少年は初期設定のアルフレド。



カセラ教授の家の煙突。



キャラクター紹介



ジョバンニ
不良グループ『狼団』のリーダー。『黒い兄弟』をライバルと認め、アルフレドとの決着を望む。

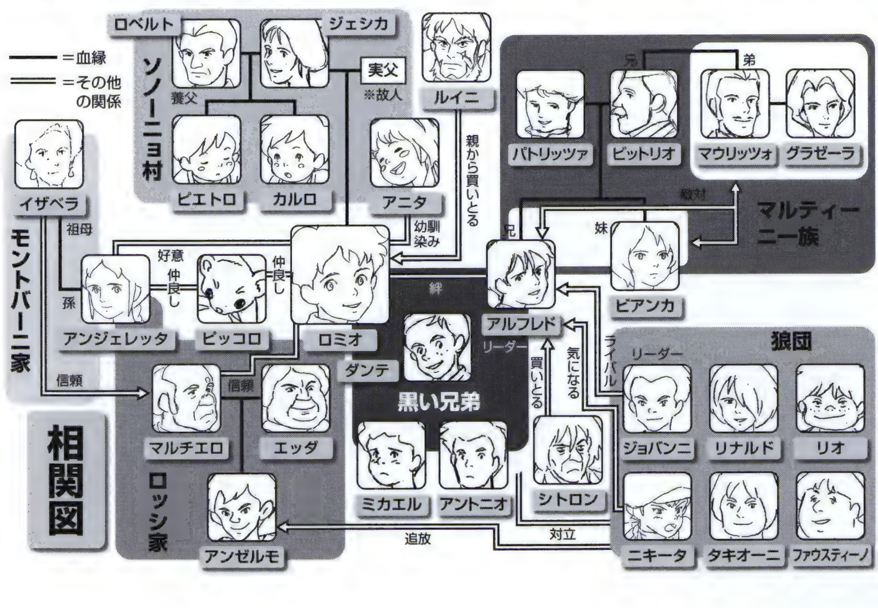
ビアンカ
アルフレドの妹で、マルティーニ家令嬢。叔父に捕われていたが、ミラノで逃走。兄と再会する。

アルフレド
知性あふれるロミオの親友。『狼団』と対峙すべく、煙突掃除夫の少年を集め、『黒い兄弟』を結成する。

アンジェレッタ
ロッシ家で暮らす天使のような美少女。病弱で部屋の外に出られず、窓からそっとロミオを見つめる。

ロミオ
家族を助けるため、自ら煙突掃除夫となる。彼の元気な姿は、人々に勇気と希望を与えてゆく。

相関図





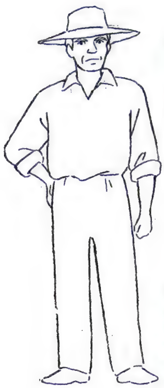
ピッコロ
オコジョでロミオの友達。
ソノーニョ村からついてきた。







ロミオ
明るくて元気な11歳の少年。無鉄砲で、夢中になると周りのことが見えなくなってしまうこともしばしば。尊敬する父ロベルトを救う為、死神ルイニと煙突掃除夫の契約を結び、医者を呼んでもらう。必ず帰ると心に誓い、ミラノへと旅立つ。（声：折笠愛）





ロベルト
厳格なロミオの父で38歳。死神ルイニの放火で最後の畑を失い、酷い怪我を負ってしまう。



カルロとピエトロ。正に瓜二つな、ロミオの双子の弟。6歳。



ジェシカ
ロミオの優しい母。
だが怒ると怖い所も？

マリア
ロミオの祖母。口うるさいが気のいい60歳。





ロミオの家。貧しくとも家族6人幸せに暮らしていた。



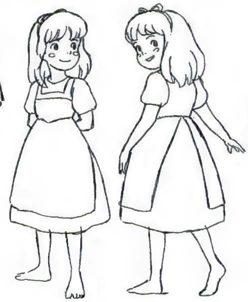
▲▶9年前のロベルトとジェシカ、そして幼いロミオ。ロベルトはロミオの本当の父親ではなかったが、ロミオを実の子のように心から愛していた。

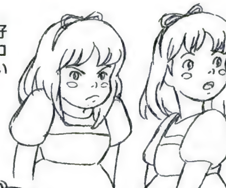
名作メモ　第1話の巻頭でめくられる本のタイトルは『Fratelli Neri』。イタリア語で『黒い兄弟』の意味。





アニタ
ロミオの幼馴染みでおませな女の子。大好きなロミオにキスをねだるが、唇はピッコロに奪われてしまう。9歳の切ない片想いであった。（声：丹下桜）



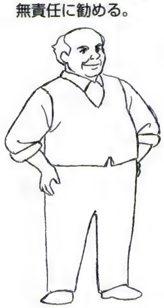


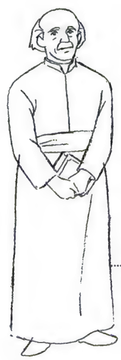


エンベリーノ
アニタのことが大好きでロミオに対抗意識を燃やす。『勇者の木登り』に出場する。13歳。



スカラ
酒場の主人。溜まったツケを少しでも回収しようと、ロミオに煙突掃除の仕事を無責任に勧める。





村の司祭。ロミオに朝の鐘付きの仕事を任せている。

ベッポ
アニタの祖父。不幸続きのロベルトを心配するが、日照りのせいで彼らにも余裕はなかった。





ロミオと共に『勇者の木登り』に出場する少年。カニオ（中央）とマルコ（右）。ふたりは友人だったことが災いし、共倒れに。

『勇者の木登り』を観戦する村の人々。





▲村祭り最大のイベント『勇者の木登り』が行われる、ソノーニョ村の中央広場。奥に教会の鐘楼が見える。

ストーリー紹介 1〜4話

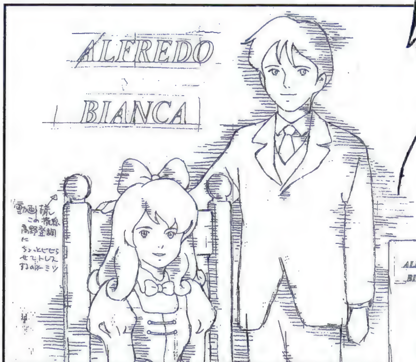
1話 アルプス−小さな村の大事件
日照が続くスイスの貧しい農村、ソノーニョに貧しい農家から子供を買い、死神と呼ばれる男ルイニがやってきた。ルイニはロミオに目をつける。

2話 運命のはじまり・炎の中の家族
ルイニの放った火でロミオの家の畑は燃えてしまった。そんなとき、父に叱られ家を飛び出したロミオは自分が父の実の子でないことを知ってしまう。

3話 さよなら・ぼくの村
火事のときの怪我が元で父が倒れた。医者に診てもらうには大金が必要だった。ロミオは家族に黙ってルイニと契約する。2日後、ロミオは村を後にした。

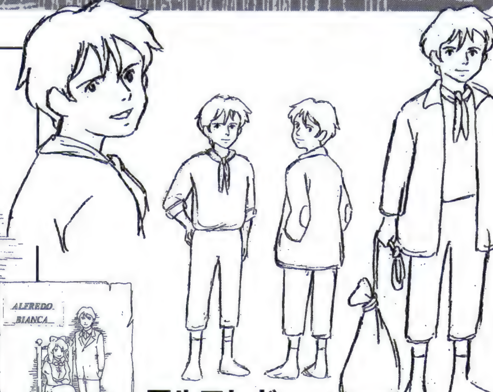
4話 似顔絵の少年
ルイニの命令でロカルノに向かう途中、ロミオは泥棒の疑いをかけられる。そんなロミオをひとりの少年が助けてくれた。少年の名はアルフレドといった。

名作メモ ピッコロは年中白い冬毛皮。本来オコジョは季節の変わり目に毛が生え変わる。夏は茶色になるのだが、ピッコロは特異体質？



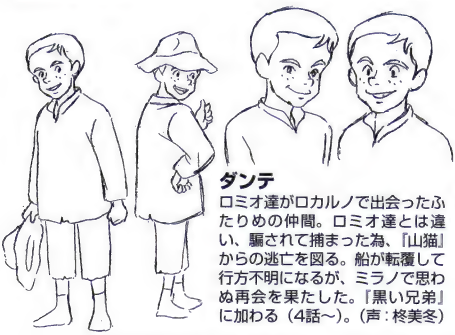


▲アルフレドとビアンカの手配書。「尋ね人。この兄妹の消息をご存知の方50フラン。さらにお連れくださった方に100フラン謝礼金をお支払いいたします」と記されている（4話）。



アルフレド

村の外に出たロミオが得た初めての、そして永遠の親友。ロミオ同様大切な人を守るため、煙突掃除夫の契約を結ぶ。知識が豊富で頭も良く、身体能力も優れているが、泳げないのが玉に傷。後に虐げられている煙突掃除夫の少年達を集め、ロミオと共に『黒い兄弟』を結成する（4話～）。（声：藤田淑子）

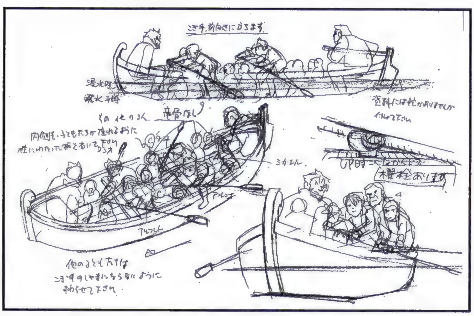


ダンテ

ロミオ達がロカルノで出会ったふたりめの仲間。ロミオ達とは違い、騙されて捕まった為、『山猫』からの逃亡を図る。船が転覆して行方不明になるが、ミラノで思わぬ再会を果たした。『黒い兄弟』に加わる（4話～）。（声：柊美冬）



ロカルノの酒場『山猫』。ルイニ達のアジト。買い集めた少年達を倉庫に隠していた（4、5話）。



▲子供達を乗せた船。嵐の夜、マジョーレ湖に漕ぎ出し転覆する（5、6話）。



アントニオ

後に『黒い兄弟』に加わる仲間のひとり。煙突掃除夫となり、二度と帰って来なかった弟がいた。船が転覆して自由になったものの何処にも行き場所が無く、結局ミラノで煙突掃除をすることに（5話～）。（声：高乃麗）



ロミオ同様集められた少年達。船が転覆した後の消息は誰にも判らない（4～6話）。



ミカエル

臆病で弱く甘えん坊。『黒い兄弟』ではみんなの弟分。転覆から奇跡的生還を果たし、ミラノで煙突掃除夫に。母を手伝っていたこともあり、裁縫が得意（5話～）。（声：石川寛美）

名作メモ ロカルノはスイス南部ティチーノ州、マジョーレ湖の北にある街。ティチーノ州はイタリア語圏なので言葉の壁は無い。



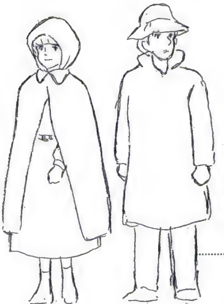
ムゼッタ
酒場『山猫』の女主人。集めた少年を閉じ込めておく為の倉庫をルイニに提供（5話）。



アントニオ・ルイニ
黒服に身を包んだ不気味な姿から『死神』と呼ばれ、恐れ忌み嫌われる人買い。幸せな家族が大嫌いで、幸せそうなロミオに目を付けた。40歳（1～7、33話）。（声：小村哲生）



リゾ
ルイニの仲間。共に子供達をミラノまで運ぶ手筈だったが、船が転覆し行方不明に。



レインコート姿のハンナとレオ。『山猫』に子供が集められているとの噂を聞き、取材に向かうが、結果的に少年達に悲劇をもたらしてしまう（4、5話）。



レオ
新聞売り。小さな新聞社なのか、社員自ら新聞を売っているようだ（4話）。



ハンナとカニーロ。ロカルノ日報を発行している新聞記者の親子。カニーロは手配書のアルフレドを街で見かけるが、事件の臭いを嗅ぎわける才能は無かったようだ（4、5話）。



マジョーレ湖畔のほら穴。船が転覆し、溺れかけていたルイニを助けたロミオとアルフレドが、ここで野宿する（6話）。

ストーリー紹介 5～8話

5話 酒場で一夜
ロミオ達はロカルノの酒場「山猫」に監禁されていた。一緒に監禁されていたダンテは、仲間を募り、酒場からの脱出を計画する。

6話 舟が沈む!!嵐の中の友情
大波を浴びてロミオ達を乗せた舟は転覆した。意識を失い波にのまれそうになっているルイニを見つけたロミオとアルフレドは彼を助け出す。

7話 天使の住む家
ミラノに着いたロミオとアルフレドは、別々の煙突掃除夫に買い取られた。別れ際、ふたりはどんなに離れてもずっと一緒だと誓い合うのだった。

8話 天使からの贈り物
ロミオの煙突掃除夫として日々が始まった。疲れ切って寝床の戻ったロミオはそこに小箱が置かれているのを見つける。中にはパンとチーズが入っていた。

名作メモ ルイニに集められた子供達は、30フランで買われ、ミラノの煙突掃除夫の親方達に100フランで売られていた（5話）。





エッダ・ロッシ
マルチェロの女房。金に汚く口うるさい。アンゼルモを溺愛している（7話～）。（声：羽鳥靖子）



マルチェロ・ロッシ
ロミオを買った煙突掃除の親方。酒好きのダメ親父だが、人が良く、後にロミオの理解者となる（7話～）。（声：安西正弘）

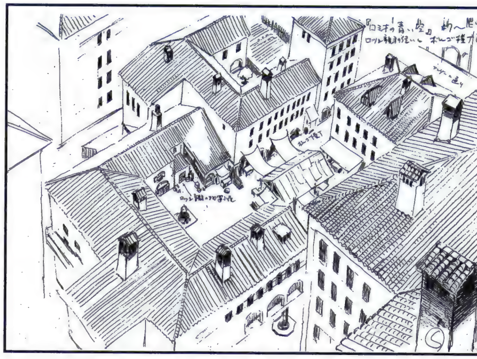




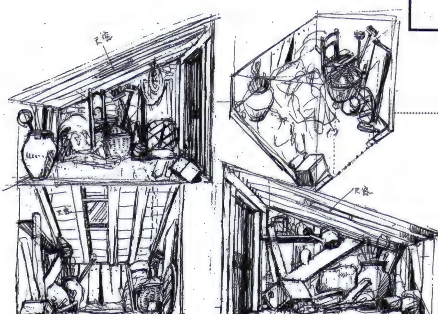
シトロン
アルフレドを買った煙突掃除の親方。安易にナイフを振り回す乱暴者で、犯罪歴があるようだ（7話～）。（声：佐藤正治）



アンゼルモ・ロッシ
ロッシ家の長男。性格は悪く、ずる賢こさは天下一品。アンジェレッタに言わせると、昔は優しいお兄ちゃんだったらしい。ロミオを敵視し陥れるが、ロミオの誠実さに勝つことは出来なかった（7話～）。
（声：柏倉つとむ）



▶ロッシ親方の住いがあるボルゴ横丁。ロミオの新たな生活拠点。



ロミオの小部屋。廊下の端にある煙突掃除夫のための部屋は、倉庫を兼ねていてホコリっぽく、逃げ出せないよう鉄格子がはめられていた（7～14話）。



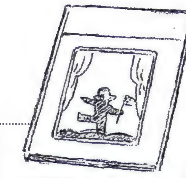
ロミオとロッシ親方の仕事姿。この姿で街中を練り歩く。



ピア
カセラ教授のもとで働くメイド。教授の信頼も厚く、煙突掃除夫の子供達にも気さくに接する（9話～）。
（声：中村尚子）



カセラ
教授。煙突掃除の仕事を通して知り合い、絵本を貰った。医師でもあり、この後ロミオ達は何度も助けられる（9話～）。
（声：有本欽隆）



カセラ教授から貰った絵本。空いたページに「あなたの名前は何ですか」「ぼくはロミオです」と書いてくれていたおかげで、アンジェレッタからの手紙に返事を書けた（9話）。



名作メモ カセラ教授の名前は、初期段階ではピンカートン教授だった。

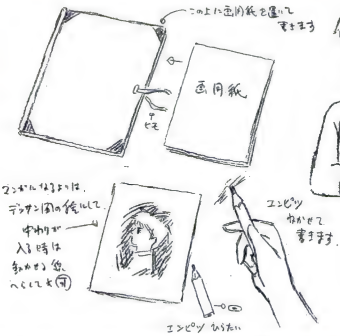


アンジェレッタ

ロッシ家で育てられている、天使のような10歳の美少女。病弱で心臓が弱くて部屋から出ることを許されず、窓に見える景色をそっと眺める毎日だった。だからこそ元気いっぱいのロミオの姿に、アンジェレッタは心をときめかせていく（9～23話）。
（声：川村万梨阿）

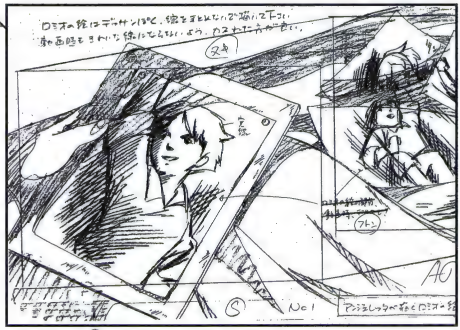






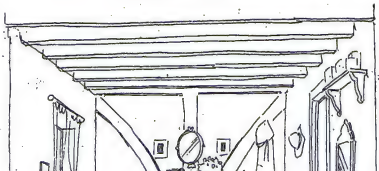


アンジェレッタのスケッチブック。



▲スケッチブックの中は、ロミオの元気な姿を描いた絵で溢れている。

▼アンジェレッタの部屋。この中だけがアンジェレッタに許された世界だった。





アンジェレッタのオルゴール。深夜に鳴り響くメロディーと「天使」の歌声は、ロミオには神秘的だった。



パルモ
アンゼルモの猫。飼い主に似てかわいくない。



パルモに追われていたピッコロはアンジェレッタに助けられる。

ストーリー紹介 9～12話

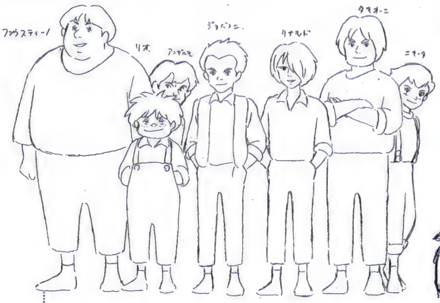
9話 月夜のラブレター
煙突掃除に訪れた先でカセラ教授からロミオは字を教わった。その晩小箱の中の手紙を見たロミオは手紙の字が教えてもらった字と同じなのに気が付いた。

10話 青空のスケッチブック
深夜ロミオは手紙の主の部屋を訪ねた。そこにはアンジェレッタという少女がいた。体が弱く外出できないアンジェレッタは、大きな空が想像できないという。

11話 友だちになろう！
狼団のリーダー、ジョバンニから面白い物を持ってこいと言われたアンゼルモは、ロミオをだまし、アンジェレッタからの手紙を手に入れる。

12話 霧の街に消える
アンゼルモは家の金を盗み、ロミオを犯人に仕立て上げた。親方に潔白を信じてもらえないロミオは天窓を突き破り、霧深いミラノの町へ脱出する。

名作メモ 煙突掃除の代金は1回につき1リラ。火を消したばかりの煙突掃除は料金が倍になることもある。



不良グループ『狼団』主要メンバー。この後対立関係にあった『サソリ団』を吸収し、更に大きなグループになる（10話～）。



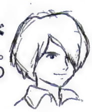
ニキータ
『狼団』の紅一点。ロミオが売られたミラノの酒場で働いていた。ロミオをトウヘンボクと呼ぶ。アルフレドに好意を抱くが、その性格故、なかなか素直になれない（7話～）
（声：石津彩）



ジョバンニ
狼団のリーダー。アルフレドをライバルと認め決着を望んだが叶わなかった。
（声：檜山修之）



タキオーニ
勝つ為には手段を選ばない。ロミオを敵視している。



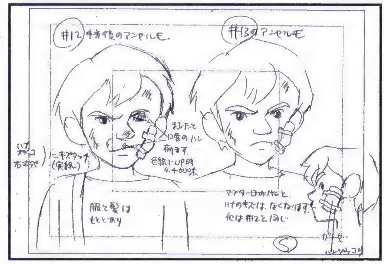
リナルド
赤毛の少年。無口な狼団のナンバー2。



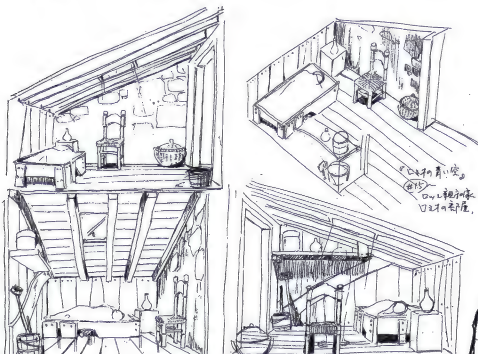
リオ
ネズミのリオ。「さすが天下の○○さんだ」が口癖。



ファウスティーノ
温厚な性格だが、周りに流されやすい。



▲嘘がばれ『狼団』を追放されたアンゼルモは、ロミオを逆恨みし、復讐を誓う（12、13話）。



新しくなったロミオの小部屋。ロッシ親方はせめてもの罪滅ぼしにと、部屋を綺麗にし、ベッドを作り、ロミオに自由を与えた（15話～）。

死神の仮装衣装に身を包んだ少年。その正体はダンテだった（13話）。



ストーリー紹介 13～16話

13話 地下水道での再会
狼団と警察、双方から追われることになったロミオは狼団に取り囲まれてしまう。そんなロミオを助けたのは、嵐の湖で離ればなれになったダンテだった。

14話 逃げるんだ!!早く
ロミオが潜り込んだ馬車は強盗団の馬車だった。強盗団が警察署の爆破を計画しているのを知ったロミオだが、逆に強盗団に捕まってしまう。

15話 火をともせ！11人の誓い
ロミオはアルフレドとの再会を果たした。ふたりは煙突掃除の少年達が互いに助け合う同盟を作る。集まった仲間達をアルフレドは黒い兄弟と名付けた。

16話 ライバルはアルフレド！
ロミオはアルフレドをカセラ教授の元へ連れて行く。本の山に目を輝かせたアルフレド。ロミオもアンジェレッタにもらった絵本を熱心に読むのだった。

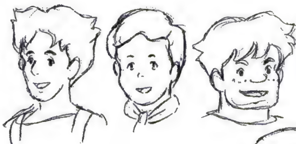
名作メモ アルフレドが関心を寄せた自由と平等を説く本を書いたヴォルテールは、18世紀に活躍したフランスの哲学者で作家（16話）。



『黒い兄弟』メンバー。煙突掃除夫の少年を目の敵にする『狼団』に対抗するため、アルフレドが組織する（15話～）。



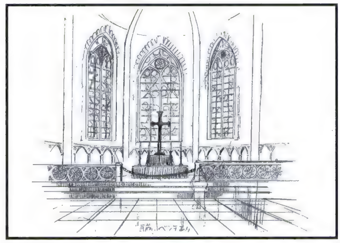
▲サン・バビラ教会。アルフレドが度々訪れ、活用される（15話～）。



左からパウリーノ、ジュリアーノ、バルトロ。契約がロミオ達より早かった為、春には一足先に故郷へ帰ることに。パウリーノは15 話から、ジュリアーノとバルトロは17話から登場。



左からベナリーボ、エンリコ、アウグスト。アルフレドの近くで仕事をしていたこともあり、度々助けられていた。契約の都合上、メンバーでは最後までミラノに残ることに（15話～）。



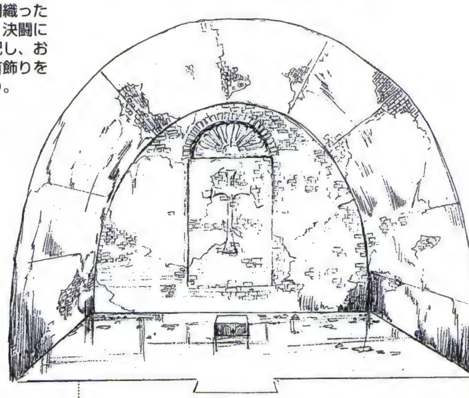
▲サン・バビラ教会の祭壇の前で、ついにロミオとアルフレドは再会を果たした（15話～）。



テオとナナ。ボルゴ横丁に越して来た人形使いのおじいさんとその孫娘。テオは息子にしてナナの父レオンを探す為、ミラノにやって来た（20話）。



カーディガンを羽織ったアンジェレッタ。決闘に赴くロミオを心配し、お守りに十字架の首飾りを贈った（18話～）。



秘密の聖堂。ナポレオンに占領されていた時代、ミラノの英雄達が隠れ住んでいた場所。地下下水道にあり、『黒い兄弟』の秘密基地となる（15話～）。

ストーリー紹介 17～20話

17話 聖バビラ教会の決闘

黒い兄弟の仲間に非道を繰り返す狼団と一度は対決しなければならないと考えたアルフレドは、周到な準備を進める。そして狼団との決闘のときが来た。

18話 朝日にとどけ! 団結の歌

アルフレドを助けるため、再び狼団との決闘に挑む黒い兄弟。一進一退の攻防の末、ついにロミオとタキオーニの1対1の勝負で決着をつけることになった。

19話 おばあちゃんは魔法使い

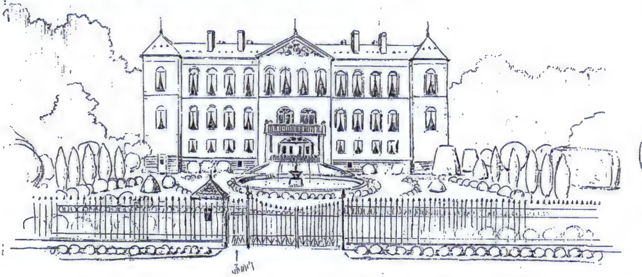
ロッシの母がアンゼルモにあげる宝物を持って訪ねてくるという。エッダとアンゼルモは宝目当てに取り入ろうとするが、気に入られたのはロミオだった。

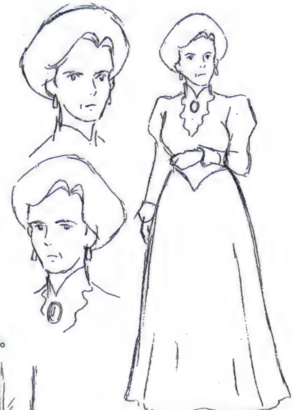
20話 テオじいさんの人形劇

向かいに住む人形使いのテオと孫娘のナナ。テオから行方不明のナナの父がミラノにいるらしいと聞いたアンジェレッタは、ロミオに捜して欲しいと頼む。

名作メモ テオじいさんはキャラクターデザイナーの佐藤好春氏が尊敬する名アニメーター、森康二氏がモデル。

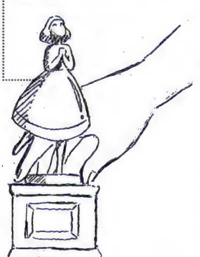
モントバーニ邸。何百年と続くミラノの名門、モントバーニ伯爵の屋敷。僅かな召使いと共にイザベラが住んでいる。





イザベラ・モントバーニ
伯爵夫人。アンジェレッタの祖母で、氷の伯爵夫人と呼ばれる。ロッシ親方とは30年来の馴染みで、誠実さを見込んでアンジェレッタの養育を任せていた（20～30話）。（声：山口奈々）

アンジェレッタのオルゴールは、アドルフォがイザベラの誕生日に贈ったものだった。

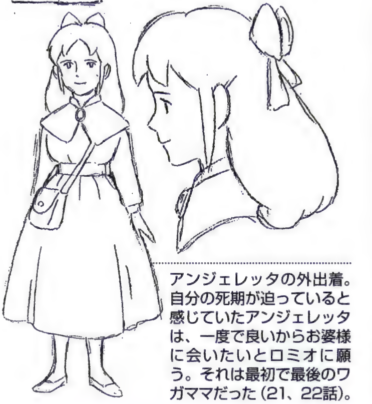




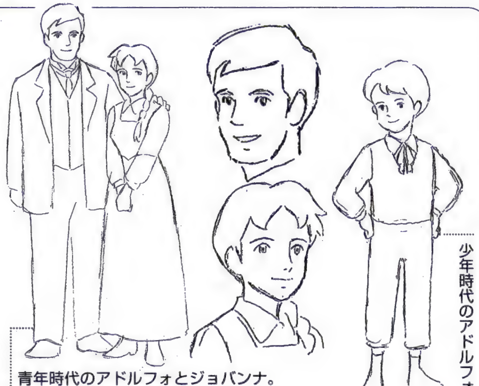
バッカス
老犬。アドルフォが少年だった頃から飼っている、イザベラの犬。

アドルフォの肖像画。





アンジェレッタの外出着。自分の死期が迫っていると感じていたアンジェレッタは、一度で良いからお婆様に会いたいとロミオに願う。それは最初で最後のワガママだった（21、22話）。



少年時代のアドルフォ。

青年時代のアドルフォとジョバンナ。アンジェレッタの両親。

ストーリー紹介 21～24話

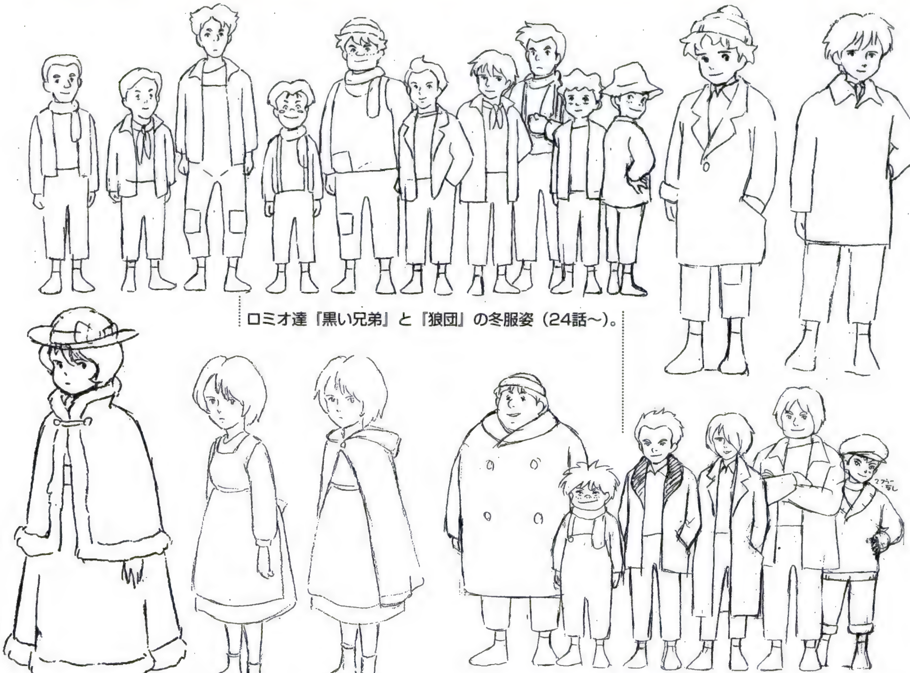
21話 アンジェレッタの秘密
ロミオはダンテの親方からアンジェレッタがロッシの本当の娘でないと聞く。ある日、上等な上着を着て出かけるロッシを見かけたロミオは後をつけた。

22話 おばあさまに会えた！
アンジェレッタはモントバーニ伯爵夫人イザベラの孫娘だった。おばあさまに会いたいというアンジェレッタを連れ、ロミオはイザベラの屋敷に潜入する。

23話 さよなら…ぼくの天使
家に戻ったアンジェレッタは昏睡状態に陥った。アンジェレッタを診察したカセラはパリにいる専門医ならアンジェレッタを治せるかもしれないという。

24話 ねらわれた兄妹
カセラから預かった本を届けるため、アルフレドを訪ねるロミオ。アルフレドはロミオに言う、自由に学び自由に生きられる時代を一緒に作っていこうと。

名作メモ ロミオが初めてひとりで読んだ物語『ブレーメンの音楽隊』はグリム童話の代表作の一つ（16話）。

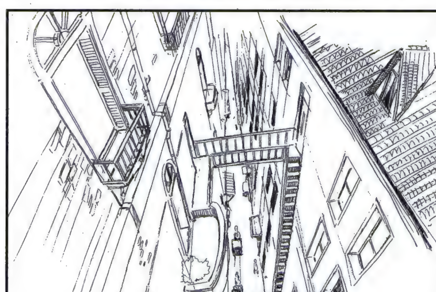


ロミオ達『黒い兄弟』と『狼団』の冬服姿（24話～）。



ビアンカ

マルティーニ子爵家息女にして、アルフレドの妹。兄アルフレドを心より愛している。叔父のマウリッツォ夫妻に捕われ、ミラノに連れて来られた。ホテルの裏窓から逃げ出そうとするなど、無鉄砲さではロミオを上回る。（声：岡村明美）



▲ホテルの外壁。ビアンカの逃走経路。たまたま煙突掃除に来ていたロミオが、落ちそうになったビアンカを助ける（24話）。

ストーリー紹介 25～28話

25話 再会！ビアンカとアルフレド

叔父マウリッツォに捕らえられたビアンカを黒い兄弟は無事助け出す。だが、聖バビラ教会で待つアルフレドにはマウリッツォの魔の手が迫っていた。

26話 誇り高き魂

ビアンカとの再会もつかの間、アルフレドは吐血し倒れる。死期を悟ったアルフレドは大公家の晩餐会に乗り込み、真実を明らかにすることを決意した。

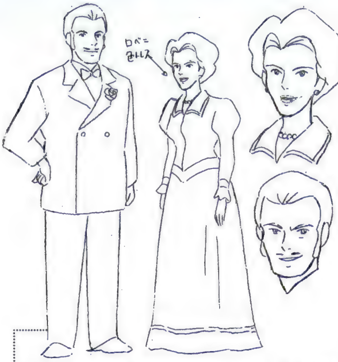
27話 長い一日のはじまり

晩餐会当日、タキオーニ達に捕らえられたアルフレドを助け出したロミオは、国王の元を目指すアルフレドを助けるため、狼団と一日だけの同盟を結ぶ。

28話 貴公子アルフレド

晩餐会が始まった。アルフレド達は屋敷の庭に潜入する。そして黒い兄弟と、同盟を結んだ狼団の応援を受けたアルフレドは一路国王の元を目指した。

名作メモ アルフレドの故郷、マルティーニ子爵家のあるピエモンテとは、イタリア北西部にある州。州都はトリノ（24話）。



アルフレド達の叔父マウリツィオと、その妻グラゼーラ。兄夫婦の富と名誉を妬み、その全てを手に入れようと殺害する。残るはマルティーニ家の宝だけだった（24〜29話）。



アルフレドとビアンカの両親、父ビットリオと母パトリッツァ。父はマルティーニ家の当主だったが、信頼していた弟夫婦に裏切られる。放火された屋敷で火と煙に巻かれる中、マルティーニの家宝をアルフレドに託し、非業の死を遂げる（24話）。

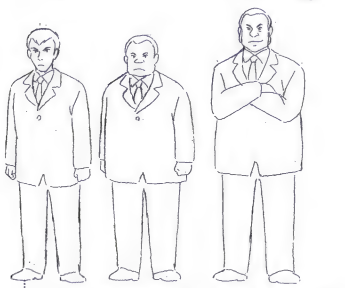


アルフレドとビアンカは、ほんの一年前まで、ピエモンテの屋敷で穏やかに暮らしていた（24話）。

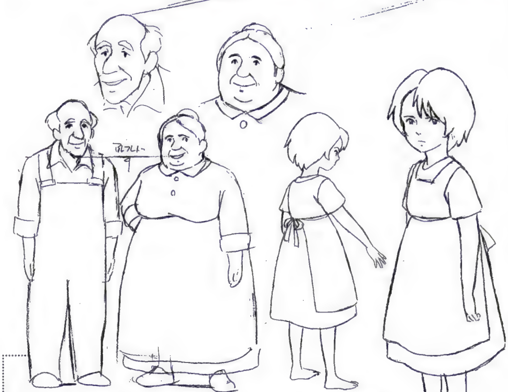




シャイロック
マウリツィオに依頼され、マルティーニ家の宝を偽造。その出来は本物以上と豪語する（26話）。



マウリツィオのガードマン。晩餐会に向かうアルフレド達の前に立ちはだかる（28話）。



アルフレド達をかくまう農夫。ビアンカは追っ手の目をごまかす為に長い髪を切った。そしてアルフレドは煙突掃除夫となり、自分を売って得た金をビアンカを養ってもらう費用として農夫に渡すのだった（24話）。

ストーリー紹介 29〜30話

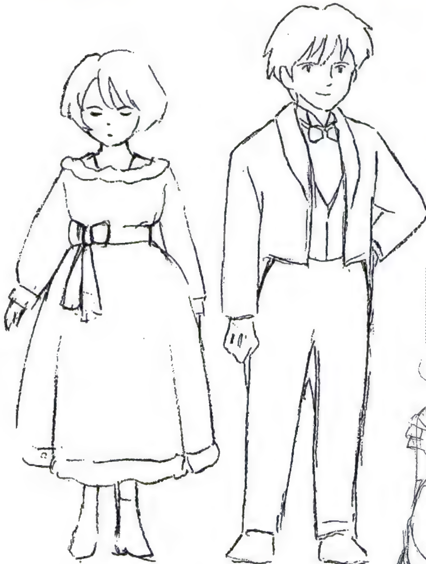
29話 永遠のアルフレド
国王の前で真実が証され、アルフレド達の名誉は回復した。ロミオとアルフレドは聖バビラ教会を訪れる。アルフレドの命は燃え尽きようとしていた。

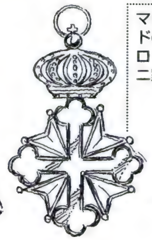
30話 最後の誓い
黒い兄弟には新しいリーダーが必要だった。ロミオが相応しいと誰もが思っているが、アルフレドを失ったロミオは無気力になっていた。見かねたダンテはロミオに決闘を申込む。

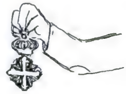
31話 本当の宝物
ミラノにサーカスがやってきた。ロミオはみんなでサーカスに行こうと知恵を絞る。そうしてロミオが見つけてきた仕事は家一軒の大掃除だった。

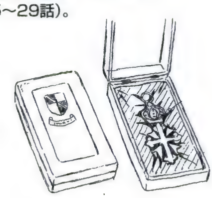
32話 素敵なクリスマスイブ
クリスマス間近、骨折したロミオはカセラ教授の家に滞在することになった。その頃ビアンカはカセラ教授の家に留まるか親戚の家に行くか、悩んでいた。

名作メモ クストーザの戦い（1848年）に勝利したと国王は語っているが、イタリア史には敗北したと記されている（29話）。









マルティーニ家の家宝。21年前、アルフレドの父ビットリオが、サルディニア国王カルロ・アルベルトから賜った勲章。マルティーニ家の証である（25～29話）。

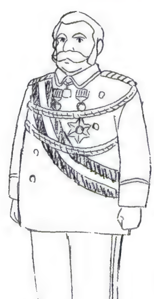


イブニングドレスのイザベラ。アルフレド達の心強い味方として氷の伯爵夫人が本領発揮！（28～29話）



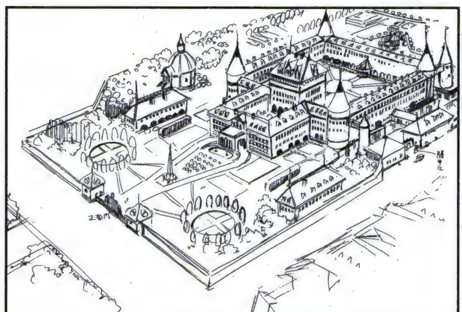
マウリツィオとグラゼーラの盛装。マウリツィオは偽物の勲章を付けて晩餐会に出席する（28、29話）。

国王に謁見する為に用意した、アルフレドとビアンカの盛装。アルフレドは両親の無念を晴らす為、大切な妹ビアンカの為、そして着せられた親殺しの汚名を晴らす為に、大公の屋敷の晩餐会へと赴く（27～29話）。

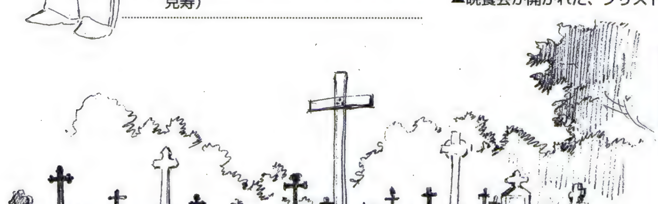




国王。統一イタリアの象徴として国民に敬愛される、イタリア王国の初代国王。国王に謁見して無実を訴えることが、アルフレドにとって最後の希望だった（25、28、29話）。（声：宝亀克寿）



▲晩餐会が開かれた、クリストフォーロ大公邸。



アルフレドの墓。『黒い兄弟』の新たなリーダーとなったロミオの手により、墓を買うお金は募金によって集められた。そしてミラノを去る春、ロミオはアルフレドの墓をニキータに託すのだった（30、33話）。

ストーリー紹介

33話

33話　空へ－自由の翼にのって

春になり、ロミオが故郷へ帰る日がきた。ロミオは仲間との再会を誓い、多くの思い出を胸にミラノを後にする。父や母の待つソノーニョ村を目指して……。

名作メモ ロミオやアルフレドが夢中になって読んだメルヴェルの長編小説『Moby Dick（白鯨）』は1851年の作品（32話）。

作品コラム

ロミオが愛した人は誰？

アニタ、アンジェレッタ、そしてビアンカ。その中でロミオが最も愛したのは、もちろんアンジェレッタだろう。理解し合い、尊重し合い、慈しみ合い、想い合う。相思相愛という言葉が、これほど似合うカップルも珍しい。

だがアンジェレッタは病弱だった。

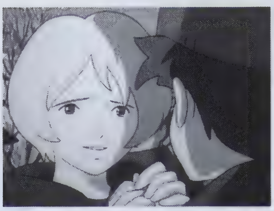
ロミオの側にいても死がふたりを分つだけ。パリに行けば最高の治療が受けられるが、ロミオとは一緒にはいけない。（※1）病気が治ったとしても、これからは貴族の世界で生きていかねばならない。アンジェレッタは、『ロミオとジュリエット』のように、ロミオとはこの世では決して結ばれない運命を悟ったのだろう。

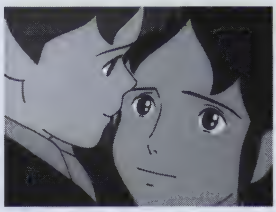
翌年の春、契約を終えたロミオはソノーニョ村へ帰る。ロミオの帰りを待っていたアニタと結ばれたか？ 否。やがて成長したロミオが結婚したのは、原作通りビアンカだった。

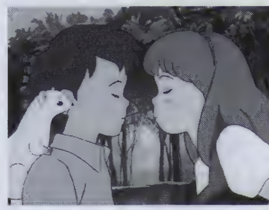
原作のロミオはアルフレドからビアンカを託されていたが、アニメのアルフレドは託す前に天に召されてしまった。つまりロミオは義務感からではなく、自らの意志でビアンカを選んでいる。

その理由に楠葉監督は、「ロミオはビアンカに兄アルフレドの面影を見たから」と語る。最終的にロミオの心をつかんだのはアルフレドなのかもしれない。

（※1）脚本家の島田満氏の裏設定によると、その後アンジェレッタは17歳で亡くなるとしていた。


▲「ビアンカ、わかってほしいな。僕がどれだけロミオを信頼しているか」。なんとアニメのアルフレドは、原作とは逆にビアンカにロミオを託していたのだ。ロミオを支え最終的に嫁いだのも、兄への愛ゆえか。


▲太陽のように元気なロミオと、月のように穏やかなアンジェレッタ。互いに足りないものを補い合える、ベストパートナーであった。天寿を全うし、神に召される日が来れば、ふたりは天国で結ばれるのだろうか。


▲「あんな危ないのに出たら、あたし許さない！」「好きならキスして」など、ワガママなお願いばかりするアニタ。それはそれで愛おしいが、背伸びをしたい年頃のロミオには、いささか子供すぎたか？

原作「黒い兄弟」との違い

主人公の名はロミオでなくジョルジョ。ジョルジョの父は実父だが、なんとジョルジョに黙ってルイニと契約を交わしてしまう。

アルフレドはお金持ちの息子というだけで貴族ではない。アニメのような見せ場も無いまま、ジョルジョにビアンカを託してこの世を去ってしまう。

アンジェレッタにも特に出生の秘密は無い。ダンテは納得しないかもしれないが、本当にエッダの娘のようだ。

カセラ教授がミラノにいたのは短期間で、スイスのルガーノが本来の住まい。後にジョルジョの逃亡先となる。ロレンツォという息子も登場する。

ビアンカは預けられた農家一家に慕われ、幸せに暮らしていた。ところが現れたジョルジョ達に兄の死を聞かされ、奈落の底へと突き落とされる。更に「ジョルジョが来たら新しい兄だと思ってついて行け」というアルフレドの遺言により、大好きな農家一家とも涙の別れをする事に。

成長したジョルジョは妻のビアンカを連れ帰郷するが、そこでアニタと再会する。アニタはロミオを待ちくたびれて、酒場の息子エンベリーノと結婚していたが、それもジョルジョが消息を絶って7年後のこと。ジョルジョを想い、生まれた息子にジョルジョと名付けていたアニタは、自分の息子を抱いて頬にキスしてこう言うのだ。

「このジョルジョは私を一人ぼっちにしないわ」



原作について

テツナーはスイス国立図書館で『小さなスイスの奴隷たち』という古い報告書を見つけ、貧しい農家の子供達がミラノの煙突掃除夫に売られていた事を知る。テツナーはこれを題材に執筆し、1941年にスイスで『黒い兄弟』を出版。以降、ヨーロッパ各地で翻訳出版、テレビドラマ化され、子供達の圧倒的な人気を呼んだ。

〈原作者〉
リザ・テツナー
1894－1963

ドイツの作家、児童文学者、民話の収集・研究家。ヘルマン・ヘッセも賞賛する昔話の語り手。ドイツ東部に生まれる。1933年、ナチスの政権掌握とともにスイスに亡命。以降、『黒い兄弟』の舞台になっているルガーノ近郊で創作活動に従事した。代表作に『67番地の子どもたち』（全9巻）などがある。

古くからあったアニメ化案

『ロミオの青い空』は、世界名作劇場の後半に登場した、今なお話題が多い人気作品である。だがこの作品は、日本アニメーションがかなり初期の段階から温めていた企画であった。

アニメ化の10年以上前に、森康二氏がキャラクター設計をしたその当時の企画書が残されている。それによると、当初、主人公の名前はロミオじゃなくて原作通りジョルジョであった。

1995年のアニメ化でロミオと改められたのは、覚えやすいイタリア風の名前にしたいという希望から。原作のストイックなジョルジョが、アニメではやや軟派な男の子になってしまったのは、その名前のせいではないとは思うが。

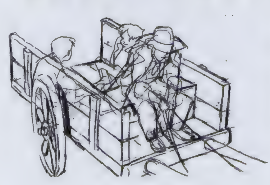


◀初期の企画書の森康二氏の絵。ピッコロの代わりにフクロウがペットとして描かれている。

煙突掃除の少年たち

原作の『黒い兄弟』は1830年頃のミラノを舞台にした物語だ。その当時の煙突掃除の少年達がいかに悲惨な生活をしていたか。

口減らしされて都会に出された少年らは、親方の所へ売られていく。小説家のディケンズの作品にあるように、子供達はまだ冷めていない煙突に突っ込まれ、火傷で皮膚がボロボロになるか、ススを吸い込んで肺の病気になるかで、およそ成人するまで生きられなかった。幸い生き延びたとして、二度と故郷に帰ることもできず、日銭稼ぎで一生を終えたという。アニメの設定は1870年代。設定は違うが、ロミオは食べ物ももらえず監禁され、アルフレドはひどい暮らしで命を落とす。「生きて帰れない」という酒場の主人のセリフが厳しい現実を物語っている。



ロカルノの町

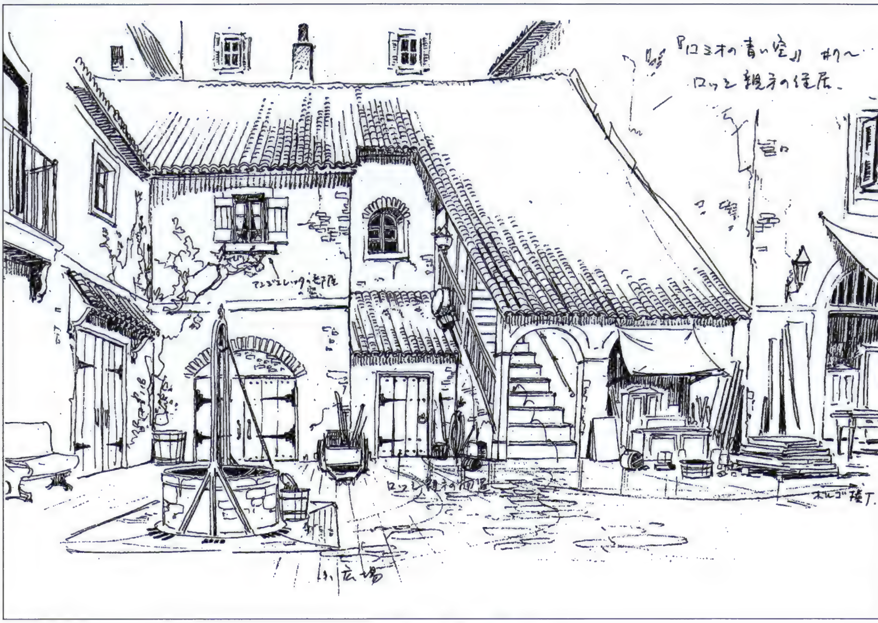
『ロミオの青い空』5、6話に出てくるロカルノの町はスイス南部のイタリア国境の町だ。ロミオらが「山猫」でとらわれ、脱出を試みたのもここである。ロカルノは夏に行われる国際映画祭で有名で、このごろは日本のアニメの評価も高く、アニメのシンポジウムも行われている。

スイスながら、ここまで来ると、空気はすっかりイタリアのそれとなる。抜けるような青い空、カラフルな町並み。町にはジェラード屋が並ぶ。イタリア国境に横たわるマジョーレ湖を前に、ロミオは何を思っただろうか？



◀スイス国境の町ロカルノから見たマジョーレ湖。イタリア行きの船も出ている。

Photo : Kaori Chiba



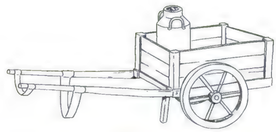
ロッシ親方の家景／伊藤主計

メインスタッフ

脚本	島田満
音楽	若草恵
キャラクターデザイン	佐藤好春
絵コンテ	横田和義／岩本保雄／松川智充／佐々木和宏／有原誠治／楠葉宏三／宮下新平
作画監督	佐藤好春／井上鋭／大城勝／アベ正己／北崎正浩
レイアウトチェック	森川聡子
美術設定	伊藤主計
美術監督	川口正明
撮影監督	森田俊昭／森下成一
録音監督	藤野貞義
色彩設定	小山明子／小酒井久代／大城千恵子
プロデューサー	余語昭夫／鈴木吉弘／鈴木専哉
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「空へ…」
作詞：佐藤ありす
作曲：岩崎琢
編曲：若草恵
歌：笠原弘子

エンディングテーマ「Si Si Ciao ～ロマナの丘で」
作詞：佐藤ありす
作曲：岩崎琢
編曲：若草恵
歌：笠原弘子



フランダースの犬

A Dog of Flanders

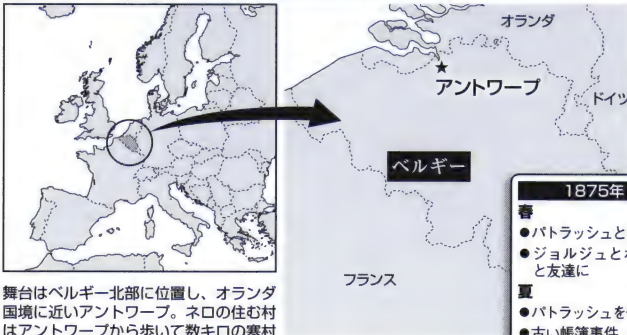


フランダースの犬



放映期間	1975/01/05 ~1975/12/28
話数	52話
原作	ウィーダ (ルイズ・ド・ラ・ラメー) 「フランダースの犬」

物語の舞台



舞台はベルギー北部に位置し、オランダ国境に近いアントワープ。ネロの住む村はアントワープから歩いて数キロの寒村という設定である。

ストーリー解説

幼くして両親を亡くしたネロは、祖父ジェハンのもとで、牛乳運びを手伝い、貧しいながらも幸せに暮らしていた。ある日ネロは、瀕死で倒れていたパトラッシュという犬を保護する。日々の食事にも事欠くネロ達だったが、パトラッシュを引き取り、手厚く看病する。元気を取り戻したパトラッシュはネロを慕い、互いに強い絆で結ばれていく。

ネロには幼なじみのアロアがいた。だが村の実力者でアロアの父親コゼツは、娘がネロを慕うのが面白くない。コゼツのさまざまな誤解がネロを苦しめるが、ネロはじっと耐えるのだった。

やがてネロの理解者が次々と去り、ついに愛するジェハンを亡くして独りになってしまうネロ。最後に残された希望は、絵のコンクールで一位を取ること。ネロはその目標に全てをかけるが…。

1875年

春
- パトラッシュと出会う
- ジョルジュとポールと友達に

夏
- パトラッシュを保護
- 古い帳簿事件

秋
- パトラッシュ強奪事件

晩秋
- イギリスからの来客
- アロアの誕生日
- アロア、イギリスへ
- クリスマス
- アロアから小包

1876年

1月
- ネロ、貴婦人に会う

早春
- ネロ、カシの木を切る

夏
- ヌレット、村を去る
- アロア、病気になり帰国

秋
- アロア、アントワープの学校へ
- 隣にセルジオ引越
- ネロ、港でアルバイト

晩秋
- ジェハン死去
- アロアの誕生日

12月
- 風車小屋の火事

12月25日
- コンクール発表
- ネロ死去

メインキャラクター比較表。



History

ベルギーがオランダから独立し、ようやく戦争から立ち直った時代。アントワープは重要な貿易拠点として発展していた。

19C	1790	ベルギー合衆国としてオランダから独立
	1797	ベルギー、フランスに併合
	1801	アントワープ大聖堂、司教区の地位失う
	1803	ナポレオン戦争(~1815年)
	1815	オランダとネーデルラント連合王国
	1830	オランダから独立宣言
	1859	ロンドン、ビッグベン完成(英)
	1868	明治維新(日)
	1877	ルーベンス生誕300年
	1885	レオポルト2世がコンゴを個人所有する
20C	1914	第1次世界大戦(~1918)ベルギー、ドイツに占領される
	1920	アントワープで夏季オリンピック開催
	1939	第2次世界大戦(~1945)
	1940	ベルギー、再びドイツに占領される
	1960	聖母教会再びアントワープ大聖堂に
	1993	EU発足
21C	2009	ベルギー首相、EU初代大統領に就任

ネロの家から見た風車。



コゼツ
村一番の権力者で風車小屋の持ち主。ネロに嫉妬に近い感情を持つ。

エリーナ
優しく聡明なアロアの母。ネロの理解者だが夫には逆らえない。

キャラクター紹介



ヌレットとクロ
ネロの隣に住み、ネロの母親代わりを自認。いたずらっ子のアヒルのクロがお気に入り。

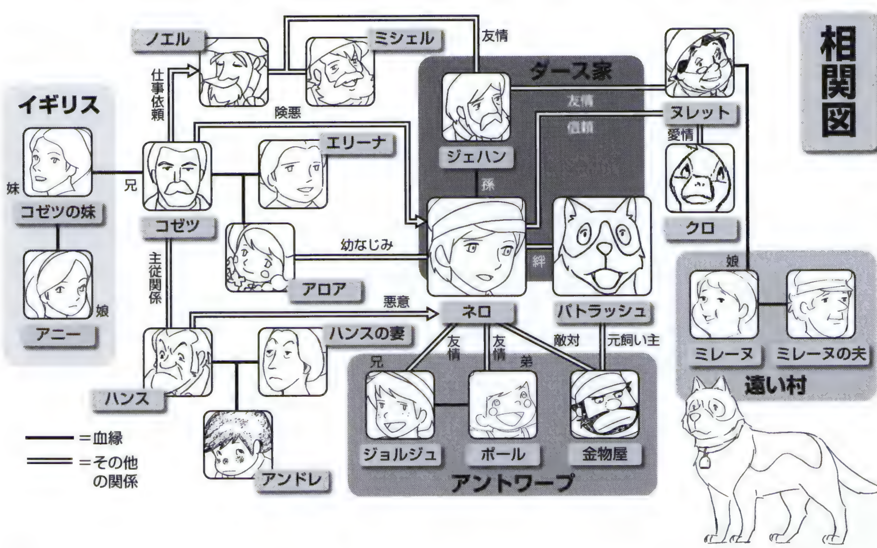
アロア
コゼツ家のひとり娘で幼い頃からネロの一番の仲良し。素直で優しく一途な少女。

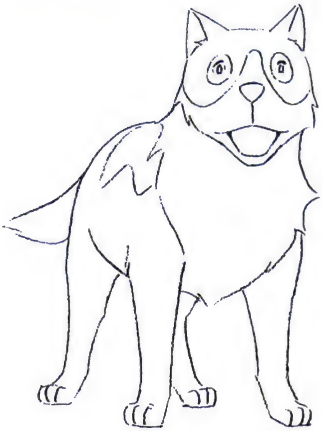
パトラッシュ
金物屋に棄てられたところをネロに助けられた。ネロと深い絆を結ぶ。

ジェハン・ダース
ネロの祖父。牛乳配達で暮らしを立てる貧しい生活ながら、ネロを慈しみ育てる。

ネロ・ダース
心優しい働き者の少年。絵を描くことが好きで、その情熱は熱く、画家になる夢を抱く。

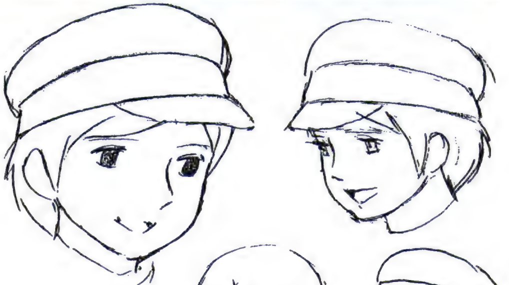
相関図





パトラッシュ

金物屋が幼い頃から育てたという労働犬。物語では触れられていないが原作では老犬。ある夏の日、疲労と乾きで動けなくなり金物屋に捨てられるが、ネロに救われる。

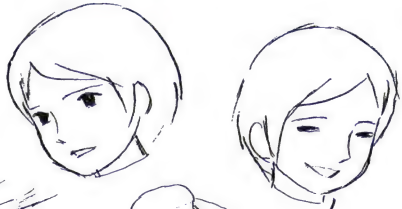




ネロ・ダース

心優しい働き者の少年。母を2歳の時に亡くし、以来祖父のジェハンとふたり暮らし。日々の食事にも事欠くが、貧しい暮らししか知らないので、それを不平に思っていない。何事にも純粋で、それ故に時に思い込みも激しい。アロアは一番大切な友達。パトラッシュとは心の兄弟関係？（声:喜多道枝）







ネロの家の納戸。パトラッシュを保護して看病した場所で、普段は牛乳車を収納している。奥にバター作りの道具が見える。



実は泳げない。

一年中このスタイル。冬はマフラーを巻くだけ。ピンクのチョッキがかわいい。





設定画の森康二氏によるネロ。本編では見られないさまざまな表情が魅力的だ。



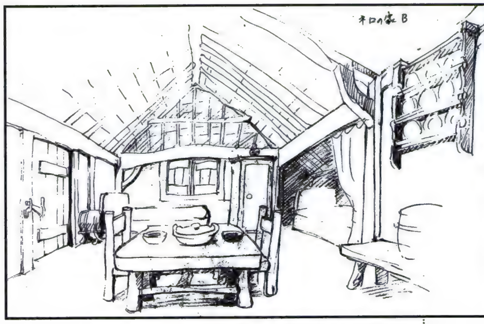
ネロが絵を描く時の真剣なまなざし。普段とは表情が一変している。だがこれこそネロの本質。あまり見せない大人びたネロの表情である。

名作メモ エンディングは1～8話までオープニングと同じ曲が流用されていた。



村人には無い柔軟な思考と、気高い精神を持つ。

若い頃兵隊として従軍し、退役時は無職だったため恩人の世話で現在の村に来た。いわば“よそ者”である。多少学問があり、読み書きもできる。



ネロの家。生活に最低限のものだけしかない。



機嫌がいいと口笛を吹く。薬草作りも得意。



ネロと出会うまで優しい言葉を一度もかけられたことがなかった。

初登場時のパトラッシュ。丸一日飲まず食わずで重い金物を曳く日もある。元々頑丈な身体だがついに限界を超えた。

ジェハン・ダース

孫のネロを引き取った時点で80歳を超えていた。ジェハンのささやかな夢はネロが手に職をつけ、旦那と呼ばれる人になること。優しくネロを育て導く。（声：及川広夫）

ストーリー紹介 1〜4話

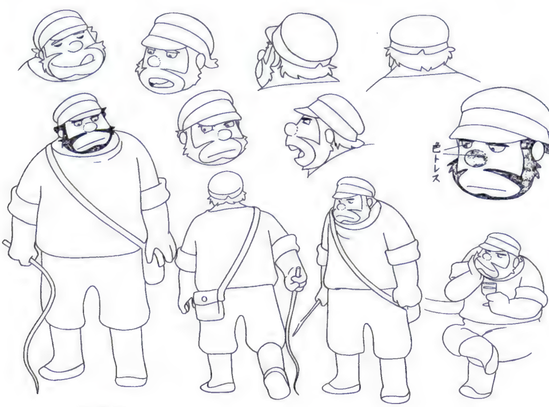
1話 少年ネロ
ネロはおじいさんと二人暮らし。貧しいふたりはアントワープの町まで牛乳運びをして生計を立てていた。ある日ネロは町で酷使されている犬に出会う。

2話 アロアと森へ
ネロはアロアと森にイチゴ摘みに出かけた。途中雨に降られたふたりは、木こりのミシェルの小屋で雨宿り。そこでアロアはネロが絵を描くのを初めて知る。

3話 アントワープの町で
アントワープに行く道すがら、ジェハンはネロの将来について夢を語った。だが大聖堂でマリアの絵を見たネロは、なぜか強く絵に惹かれるのだった。

4話 新しい友達
いつか町で見かけた金物屋の犬のことが気になるネロ。そんなある日、ネロは町でジョルジュとポールという兄弟とひょんなことがきっかけで仲良しになる。

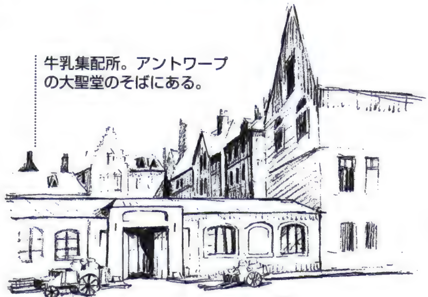
名作メモ たびたび登場する大聖堂の祭壇中央の聖マリアの絵もルーベンス作。ネロはマリアに母の面影を重ねる。



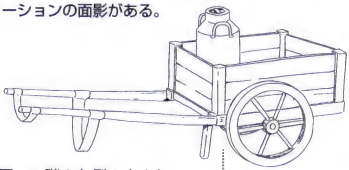
金物屋
名前は出てこないがブラバンド生まれで、飲み屋でも要注意人物で知られる。森康二氏タッチのヒゲの悪人は、どこか東映の長編アニメーションの面影がある。



金物屋の荷車を押すパトラッシュ。あちこち行商して回っているようだが、アントワープはよく立ち寄る町のようである。



牛乳集配所。アントワープの大聖堂のそばにある。



牛乳を運ぶ荷車。パトラッシュ用の当て布はジェハンが作った（12話）。

コゼツ家正面。二階の左側の大きな窓がアロアの部屋。大きな屋敷に見えるが家の半分は納屋。





牛乳集配人のおじさん。（声：西尾稔）

牛乳缶。

ストーリー紹介 5~8話

5話 パトラッシュ
ジョルジュとポールの秘密の場所に誘われたネロは、塔の上から金物屋を見かける。急いで後を追うネロは犬の名前はパトラッシュというのだと知る。

6話 がんばれパトラッシュ
やがて夏になった。ある日とうとうパトラッシュは疲労と飢えで倒れてしまう。パトラッシュが捨てられたと知ったネロは、懸命にパトラッシュを捜し回る。

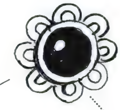
7話 スープをおのみ
家に連れて帰ったもののパトラッシュはかなり弱っていた。薬草を飲ませ、必死に手当をするネロ。翌日ジェハンは奮発して骨付き肉を買って帰った。

8話 ほえたよ おじいさん
アロアはネロとふたりでパトラッシュのベッドを作ろうと大はりきり。しかしパトラッシュはベッドよりもネロの側で寝るのを選ぶのだった。

名作メモ ジェハンが運ぶ牛乳は4缶で、取引先の酪農家は3軒。食事と家賃でぎりぎりの生活費しか稼げない。







コゼツがアロアに買ったブローチ（10話）。色は青。

アロアの帽子は実はオランダスタイル。

アロア

コゼツ家の一人娘アロア。初登場時は5歳である。最終話で7歳。まだ幼いながら一途にネロを慕う。素直で心優しく、直感で物事の本質をみる。イチゴ飴が大好き。



外出時のエリーナ。普段着にショールと帽子が加わる。







アロアの声は途中で変更されている。ヒロイン役の声がイメージに合わないと途中で変更されたのはきわめて異例。1～3話、（声：麻上洋子）、4話～（声：桂玲子）。

ストーリー紹介 9～12話

9話 おもいでの鈴

パトラッシュは走れるほどに回復した。すっかり元気になったパトラッシュを連れて町に行ったネロは、そこで金物屋に見つかってしまう。

10話 アロアのブローチ

ネロはアロアと薪を拾いに森に行った。元気になったパトラッシュも一緒だ。だがアロアは父コゼツに買ってもらったブローチを無くしてしまう。

11話 エリーナの花畑

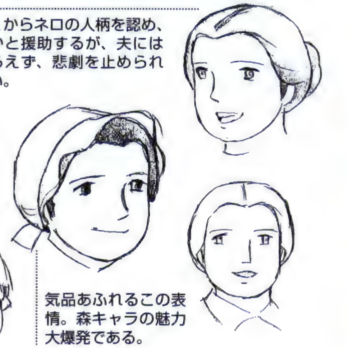
エリーナの大事にしている花畑。ところが何者かに踏み荒らされてしまう。現場には犬の足跡。ハンスはパトラッシュのしわざだと決めつけるが…。

12話 おじいさんの小さな壺

パトラッシュはどうしても牛乳車を牽こうとする。気持ちを察したネロとジェハンは牽き綱をつけてやるのだった。だが、町で金物屋に見つかってしまう。

名作メモ パトラッシュの鈴は、もともとネロの母が幼いネロの迷子防止のため、ネロに付けていたものである。





早くからネロの人柄を認め、何かと援助するが、夫には逆らえず、悲劇を止められない。

気品あふれるこの表情。森キャラの魅力大爆発である。

エリーナ

アロアの母。美しく聡明で料理の腕はコゼツも大絶賛。大の花好き。アロアが素直で良い子に育ったのはエリーナの力によるだろう。（声：中西妙子）



頑固で気難しいが、仕事はできるタイプ。でもハンスのお世辞を鵜呑みにするなど人を見る目は…？　相当にうっかり者な一面も（15話）。

コゼツ

村一番の金持ちで、風車を管理所有。村の収穫を一手に担う村長的存在。若い頃から働き者で、怠け者が大嫌い。コゼツは名字なので、名前は不明。
（声：大木民夫）



▲丘の上のカシの大木。樹齢300年はたっている。ネロとアロアの待ち合わせの場所で二人の家の中間にある。



アロアの雨合羽。17話でエリーナが着せてやる。





家に帰れば子ぼん脳のお父さんで、アロアの前ではメロメロぶりを発揮。娘に近寄るネロが気に入らない。実は壷コレクター。狩猟も趣味。

ストーリー紹介 13～16話

13話 ナポレオン時代の風車
ある日村の風車が止まってしまった。持ち主のコゼツが呼んだのが風車職人のノエル。ネロはノエルに村の人にはない何かを感じるのだった。

14話 夜空に描いた絵
途中で見かけた画家に刺激されたネロは、秘密の廃墟で、石を使って見た物を次々に絵に描いていた。絵を描きたい思いはネロの胸をいっぱいにする。

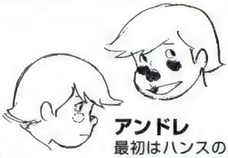
15話 古い帳簿
木の板に絵を描き続けるネロ。そんなネロを見たアロアは古い帳簿を持ち出してネロに差し出す。ところが帰宅したコゼツが必要な帳簿がないと言い出した…。

16話 10サンチームの写生帳
アロアにもらった帳簿をあっという間に使い切ってしまったネロ。画材屋で写生帳を見かけたネロは、ミシェルの手伝いをしてお金を貯めようと決心する。

名作メモ　ミシェルの手伝いで薪を背負うネロの姿は、まさに二宮金次郎である。写生帳は鉛筆もセットで10サンチーム。



ネロの寝間着。



アンドレ

最初はハンスの息子として嫌味な子供であったが、ネロに感化され改心する。後半の彼は本来の素直さが出て好感度UP。
（声：白川澄子）





ダックス

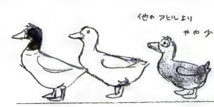
ハンスが市場で購入。アンドレのペット。同じダックスフントながら『カトリ』のアベルとは大違い。いろいろ悪さばかりする。

強者におもねり弱い者いじめ。相手が子供ならなおさら容赦なし。

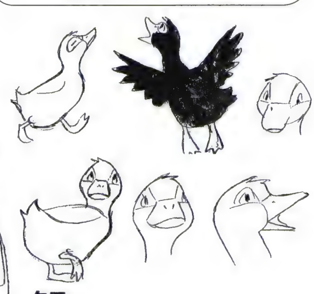


ハンス

雑貨屋の店主で計算が出来る事からコゼツに村の帳簿や貸家の家賃の集金を任されている。ただし仕事はかなりいい加減でよく言いつけを忘れる。
（声：村松康雄）

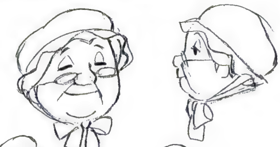


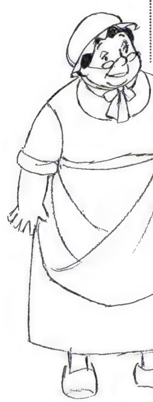
他のアヒルとクロの比較。





ジェハンと仲良しでネロの母親代わりを自認。







ヌレット

ネロの家の隣に住む。一人娘ミレーヌは結婚して遠い村にいき、現在一人暮らし。（声：遠藤晴）

生計はレース編みとアヒルの飼育（卵を売る？）で立てている模様。腰に神経痛を持つ。

クロ

いたずらっ子のアヒル。ネロを慕うあまりパトラッシュにまで嫉妬する。実は女の子（！）である。ヌレットの最愛のアヒルで、最終的にネロに預けられるが…。

ストーリー紹介 17〜20話

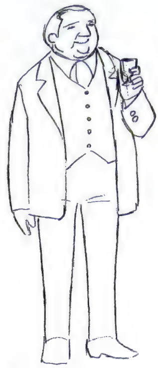
17話 丘の上の木の下で
ネロは初めて手にした画用紙に何を書けばいいか迷っていた。一方ネロに内緒でレース編みを始めたアロアは、お互いに作品を見せあおうと約束する。

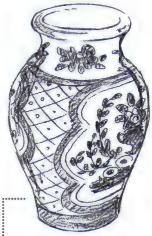
18話 いたずらっ子のクロ
隣のヌレット叔母さんに娘夫婦が訪ねてきた。一人暮らしをやめ家に来るよう説得に来たのだ。ところがいつの間にかクロが姿を消してしまう。

19話 金物屋が村に
ジェハンが犬の代金を払いに行くが金物屋は現れない。一方ジェハンが約束を破ったと思い込んだ金物屋は村に現れ、パトラッシュを連れていってしまう。

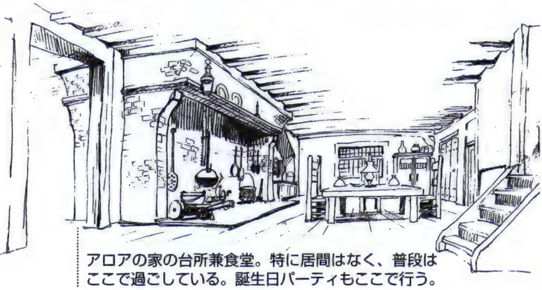
20話 どこまでも
パトラッシュが連れ去られたのを知ったネロは、金物屋を追って飛び出した。一晩中探し歩いたネロは、ついに見知らぬ村でパトラッシュに再会する。

名作メモ 金物屋から逃げてきたパトラッシュと、ネロが再会したのはルーベンの町外れ（設定書による）。





ソフィアがイギリスから送った壷。壷オタクのコゼツは大喜び。



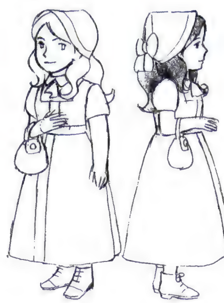
アロアの家の台所兼食堂。特に居間はなく、普段はここで過ごしている。誕生日パーティもここで行う。

ダントン
壺コレクターでコゼツの友人。アロアの誕生日パーティ中にコゼツは壺談義…。(声:大宮剣二)





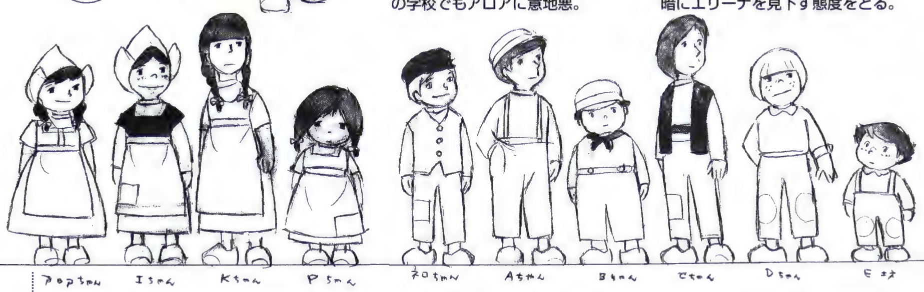
なんとなく都会暮らしのアンニュイが漂う少女



アニー
アロアのいとこ。母の価値観を受けづぎ、田舎を軽蔑。クールでスマートだが、性格は…。ロンドンの学校でもアロアに意地悪。



ソフィア
コゼツの妹でイギリス在住。都会で教育を受けた。夫の仕事の関係かかなりよい暮らしをしている。暗にエリーナを見下す態度をとる。



村の子供達。誕生日パーティや郵便屋、ノエルが来たときくらいしか登場しないが、かなりの子供がいる(ただし名はない)。

ストーリー紹介 21~24話

21話 船で来たお客さま
アロアの家にイギリスからコゼツの妹が訪ねてくる。いとこのアニーも一緒だ。一方ネロはアンドレからアロアがイギリスへ行ってしまうと聞かされる。

22話 イギリスからの贈物
アロアがイギリスの学校へ行かないと聞き、ネロは安心する。だが学校に行けることは羨ましいというネロに、アロアは怒って帰ってしまう。

23話 アロアの誕生日
今日はアロアの誕生日。ネロは何を贈ろうかと迷った末、アロアの好きな花にした。ところがみんなで遊ぶうちにコゼツの大事な壺が割れてしまう。

24話 アロアの絵
村の総出の草刈りの日。ジョルジュやポールのおかげで早く手伝いがすんだネロは絵を描きに行く。モデルはずっと描こうと決めていたアロアだった。

名作メモ ソフィアの贈り物はコゼツには壷、アロアには青いガラス玉2個。アロアはネロに一つプレゼント。



▲アロアが旅立つ波止場。ただしアントワープは海から離れており、川が港になってる。



アロアのイギリス行きの服。アントワープで購入。エリーナは大人びていると躊躇し、コゼツは地味だと迷うが店員の薦めで決定。青系で、帽子に赤い柄がついている。



アロアの見送りに新調したよそ行き服のアンドレ。何年も着られるよう？大き目。

貴婦人の亡くなった一人息子。死亡原因は理由は語られないが、ネロに良く似た少年だったらしい。



アロアの誕生会のハンス夫妻。特に貧乏でない筈だがハンスの服はちんちくりんのお古で、家庭環境はうまく機能していないようだ。



アロアの誕生会でハンスの妻初登場。名前はグレタ。（声：市川千英子）



貴婦人

ネロに亡き息子の面影を見、親切にする。息子を亡くしベルギーに傷心旅行中で、ネロに会った後、夫の待つイギリスに帰国。（声：北浜晴子）



ネロにルーベンスの隠された2枚の絵の事を教える。一緒に見に行く約束だったが…。

ストーリー紹介 25～28話

25話 アロアがいない

アロアのイギリス行きが決まった。そんな折りアロアが突然姿を消してしまう。心配したネロもアロアを探すが、アロアはひとり風車の中に座っていた。

26話 さようならアロア

イギリス行きの支度を調えにアントワープに来たアロアは、ネロと地図を見ながらイギリスは遠くないと慰め合う。出発の日、ネロは見送りに向かうが…。

27話 アロアのいないクリスマス

アロアが去って1ヶ月。ネロはアロアの身を案じていた。クリスマスの夜ヌレットとジェハンの心づくしの食事を囲むネロにアロアから小包が届く。

28話 親切な貴婦人

大雪が降った朝、牛乳運びはいつも以上に重労働だった。路上で車軸を折って困っていたところ、通りがかった貴婦人が牛乳運びを手伝ってくれた。

名作メモ　アロアの学ぶ先はイギリスの修道院の寄宿学校で、背景にビッグベンが見える事からロンドン市内と推定される。





ミシェルの住む森のきこり小屋。ネロとアロアが遊びにくる。



ミシェル
村外れの森に住む木こりで、ジェハンの友人。ネロを自分の跡継ぎにしたいと願っている。独身でひとり暮らし。木こりの腕は良く、ノエルは彼の切った木しか使わない。（声：雨森雅司）

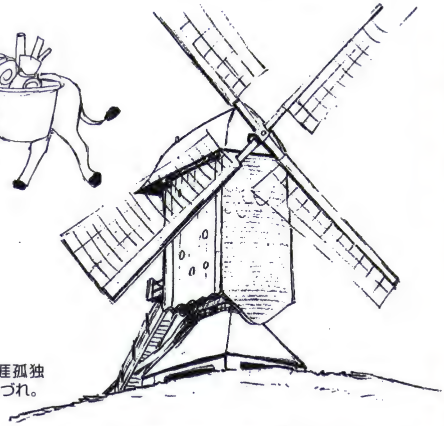
ノエル
腕のたつ風車小屋修理の職人。隣村の人間だが、いつもあちこち渡り歩き連絡がつきにくい。ロバ公と一緒に笛を吹きながら歩く。（声：永井一郎）



ネロの才能に誰よりも早く気づく。コゼツに唯一、対等に意見できる男。



ロバ公
ノエルのロバ。天涯孤独なノエルの唯一の道づれ。



風車小屋。コゼツ家所有で村の麦はすべてここで粉にし、ここに貯蔵する。ナポレオン時代（1800年初頭）から建つ。家出したアロアがいた場所でもある。

ストーリー紹介 29～32話

29話 ルーベンスの2枚の絵
貴婦人に聖母マリア以外にもルーベンスの絵があると聞いたネロは、大聖堂に行くが、絵を見るには1フランが必要だと言われてがっかりする。

30話 雪の中の約束
アロアの荷物を送りに行ったネロは、帰りに貴婦人に再会する。貴婦人はネロに一緒にルーベンスの絵を見ようと約束するが、翌朝ジェハンが倒れてしまう。

31話 ネロの決意
風車の修理をしにノエルが村にきた。ノエルはミシェルの切った木しか使わないという。だがミシェルはねんざで動けない。ネロはある決意をする。

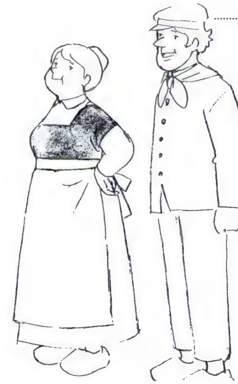
32話 大きなカシの木
ネロはカシの木を自分で切り倒そうとしていた。一方、ネロがミシェルの面倒をみていないのでは、と思ったジェハンは森へネロを叱りに行くが…。

名作メモ ルーベンスの2枚の絵を見るのにかかる代金は1フラン。1ヶ月分の家賃と同額であり、確かに高額！









ヌレットの一人娘ミレーヌ（声：藤田淑子）と夫のクロード（声：富山敬）。ミレーヌは結婚前にネロとよく遊んでくれ、ネロもミレーヌ姉さんと呼ぶ。結婚後、馬車で3日かかる遠方に引越。33話によれば秋にふたり目の子供が生まれる予定。



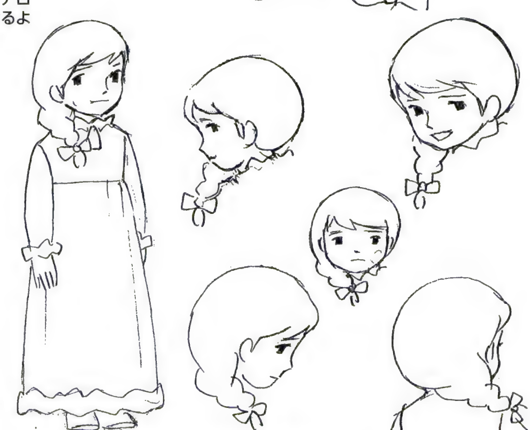
コゼツの室内着。この辺りまで話が進むと、ネロを嫌うのは貧乏でなく嫉妬だとわかってくる。



郵便屋。時々村に来る。娯楽と変化の無い田舎の村では、郵便屋さんが来ただけで大ニュースになる。
（声：神山卓三、緒方賢一）

バートランド
アントワープの医者で、アロアの病気の原因をすぐに理解し、アロアを村に帰し、ネロに会わせるよう進言する。（声：田村錦人）





ネロに夢をあきらめるなと力づける。

病気のアロア。いつものほほの赤味が消え、三つ編みもひとつだけ。熱も出てかなり衰弱しているが、いわゆるホームシックが原因。

ストーリー紹介 33〜36話

33話 こころの手紙
カシをひとりで切り倒し自信をつけたネロは、将来の夢がふくらんでいた。そしてヌレットがくれた小遣いでアロアに絵を送ろうと決めるが…。

34話 ヌレットおばさん
神経痛で動けなくなったヌレットは、娘夫婦の家に行こうと決め村を去っていった。寂しいネロにアンドレが「アロアがもうすぐ帰ってくる」と教える。

35話 お帰りアロア
アロアが帰ってくる！ うれしいはずの便りだが、どうもコゼツ達の様子がおかしい。アロアはイギリスで重い病気になって帰ってきたという。

36話 アロアのくすり
医者の進言でアロアは村に戻ることになった。アロアの容態は思わしくない。心配したネロは薬草を届けに行くが、ハンスに追い返されてしまう。

名作メモ ヌレットとジェハンの家は借家で家賃は1フラン（銀貨一枚）。ハンスが管理人である。





40話に登場する女の子。ジェハンのヒゲを触るのが大好き。母親は亡く、野菜売りをするジェハンを慕って買い物に来るたびにヒゲを触る。（声：松金よね子）



ポール

ジョルジュの弟。兄の言葉をまねする癖がある。兄に似て義理人情に厚い下町っ子。家では鶏の世話担当。動物が大好きで最後にクロを預かる。（声：菅谷政子）



ジェハン思い出の中の幼少のネロ。おそらく3～4歳の頃と思われる。



ジョルジュ

両親はアントワープで運河の運送を営む。やんちゃで兄貴肌だが、義理と人情に厚い。ネロの誠実さを気に入り、なにかとネロをサポートする。家業は継がず、メヘレンの鍛冶屋見習いに出る。（声：駒村クリ子）

ストーリー紹介 37～40話

37話 うれしい知らせ
アロアはネロに会うことで元気になっていった。だがコゼツはそれが面白くない。そんな時、ジョルジュ達が絵のコンクールの知らせを持ってきた。

38話 ネロの大きな夢
病気が治ったアロアはアントワープの学校に通うことになった。なかなか会えないネロとアロアのために、ジョルジュ達が合図の旗を道に立ててくれた。

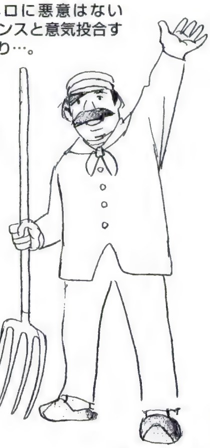
39話 心をつなぐ二つの旗
馬車が故障したと聞いたアロアは、学校まで歩くと言い出す。ネロ達といっしょに意気揚々と歩き出すアロアだったが、思った以上に道は遠く……。

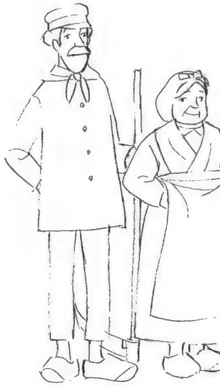
40話 おじいさんの口笛
ジェハンが自分に黙って市場で仕事をしていたと知り、ネロは大きなショックを覚える。ジェハンはネロにコンクール用のパネルを買おうとしていた。

名作メモ ジョルジュが働きに出るメヘレンは、アントワープ南東24キロ先のかつてのネーデルラントの首都。



別にネロに悪意はないが、ハンスと意気投合するあたり…。







セルジオ
ヌレットが引っ越した後に来た男。独身。野菜売りで、顧客を得ようと無料で牛乳運びを村人に提案する。（声：矢田耕司）

ホランド
ジェハンに1缶依頼していたが、セルジオに乗り換える。（声：緒方賢一）

ヘルモンド氏（声：中村武己）とその妻。ヘルモンド氏は昔は村一番の力持ちで知られていた。ジェハンには牛乳2缶を依頼。

ジェスタス（声：水島鉄夫）とイザベル（声：鈴木れい子）の夫婦。牛乳を1 缶預けている。酪農家で、なにかとネロに親切にする。無料で牛乳を運ぶというセルジオの申し出を最後まで拒み、ネロに頼む。



ネロは大聖堂のマリアの絵に母の面影をみる。





ネロの母。美しく優しい女性。ジェハンの一人娘であった。ワロン地方の人間と結婚し、ネロが2歳の時に亡くなった。大聖堂によく祈りに行き、ネロも連れて行った。

母を亡くしたころのネロ（2歳くらい）。

幼いネロ。やっとひとり立ちが出来る1歳過ぎくらい（右）と、よちよち歩きが出来る2歳くらい（左）の頃。

ストーリー紹介 41～44話

41話 なつかしい長い道
無理がたたってジェハンはとうとう床についてしまう。心配なネロは看病で絵どころではない。そんなネロを気遣いジェハンは一緒に町まで行こうという。

42話 となりに来た人
空き家だった隣にセルジオという男が引っ越してきた。セルジオは野菜売りの商売を広げようと、村人に無料で牛乳運びをすると話を持ちかけていた。

43話 アロアのおてつだい
ネロの留守の間、病気で寝ているジェハンのために、アロアが手伝いを申し出た。アロアは宿題の絵のモデルにジェハンになってほしいと頼む。

44話 おじいさんへのおみやげ
減った仕事を補おうと、ネロはジェハンに黙って港で働いていた。今日は給料日。ジェハンに肉のご馳走をしようと急いで家に帰るが…。



名作メモ　アロアが生まれた年に、ネロの母が亡くなり、ジェハンがネロを引き取った。



捜索時のジェスタス。

ステファン・キースリー
本格的に絵の勉強をしていて、画材を買いにくる。貿易商の息子で、画材をお供付きで馬車で買いにくる身分。（声：山岡葉子）







礼儀正しく紳士的。絵の受付番号は001（でもこれは従者が代わりに並んでとった番号）。



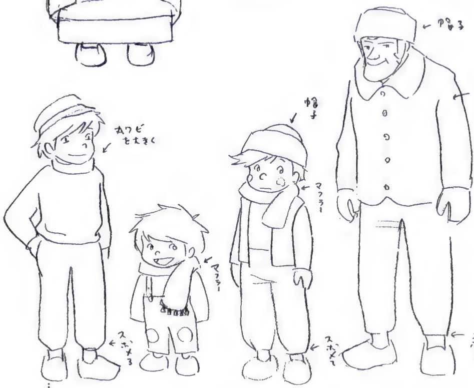
ネロ捜索時のノエル。彼の「バカもん！　あの風車を火事にしたのはハンス、お前だ」の一喝にどれほど胸がすっとした事か。

ヌレットもクリスマスにネロの所に帰る約束をしていたひとりだった。

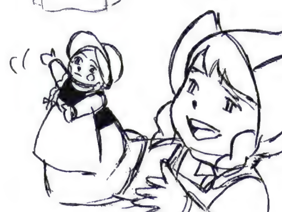


ジェハンの寝間着姿。病に倒れてもネロを心配し続け、自分のマフラーを切ってネロの手袋を作る。





ネロ捜索時のジョルジュ、ポール、アンドレ、ハンス。ジョルジュはクリスマス休暇でネロと会う約束をしていた。ハンスの涙は本物だったと信じたい。



アロアに届けた人形。結局持ち主は不明。

ストーリー紹介 45〜48話

45話 ひとりぼっちのネロ
ジェハンが死に、ネロはとうとうひとりぼっちになってしまった。メヘレンで働くことが決まったジョルジュは、ネロを励まそうとパーティを開く。

46話 おじいさんの顔
ジェハンの死以来、絵を描くことをやめてしまったネロ。一方、アロアから聞いてジェハンの死を知ったミシェルは、ネロを引き取ろうと訪ねてくる。

47話 風車小屋の火事
コンクールにはおじいさんの絵を描こう。そう決めたネロは元気を取り戻して仕事に出かけるのだった。その帰り道、クロが川で人形を見つける。

48話 なくなった仕事
風車の火事は、ネロのせいだと噂が立っていた。村人も牛乳配達をネロに頼むのを断ってきた。ひとりアロアは心を痛めていたが…。

名作メモ コンクールの1等賞には毎年200フランがもらえ絵の勉強ができる。ネロの受付番号は197番。



アロアの赤いコート。ネロ捜索時、家で待つよう言われるアロアだが、ネロの魂が消え行く瞬間、何かを直感して、アントワープへ走り出す。しかし…。



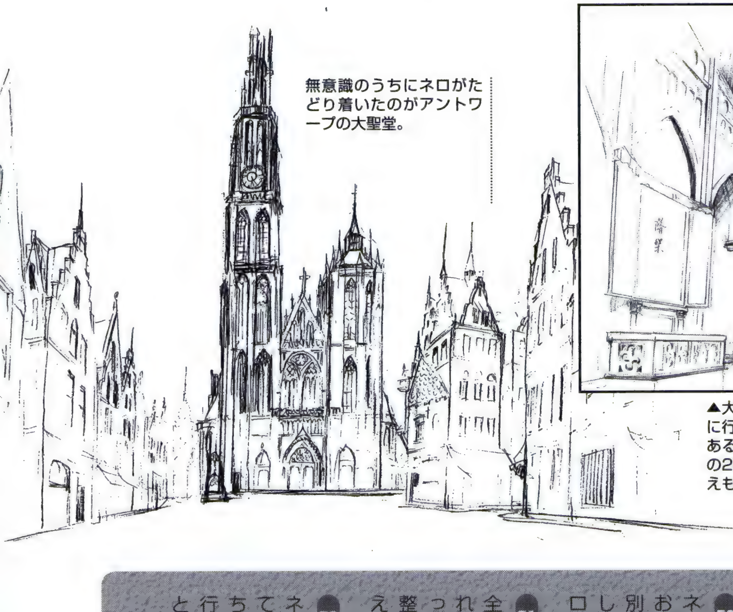
ネロ捜索時のエリーナとコゼツ。コゼツは深い後悔の中探しまわるが、ネロに呼びかける声色はいつもの怒り調子で怖い…。



ヘンドリックレイ
ネロを一等に押していた画家。ネロにルーベンスに匹敵する才能を見いだし彼を訪ねる。(声：家弓家正)



捜索時のセルジオ。彼も心配して捜索に加わる。



無意識のうちにネロがたどり着いたのがアントワープの大聖堂。



▲大聖堂正面に位置する聖母マリアの絵に行く途中、左右に覆いがかかった絵がある。ネロが長年憧れていたルーベンスの2枚の絵。ネロはそれを見届けて、飢えも寒さもない世界へ旅立っていく。

ストーリー紹介 49～52話

49話 描けたよおじいさん

仕事がなくなったネロは、コンクールに全てをかけていた。完成した絵を提出したネロは、迎えに来たミシェルにクリスマスまでこの家にいたいと頼む。

50話 発表の日

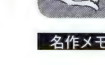
ネロのためにミシェルがくれたお金を、ネロはルーベンスの特別展のために使ってしまう。そして発表の日がきた。運命はネロに残酷な結果を差し出す。

51話 二千フランの金貨

全ては終わった…。絶望に駆られたネロは、生きる希望を見失ってしまう。家に戻り持ち物を整理したネロは、ミシェルの迎えも待たず雪の中に飛び出す。

52話 天使たちの絵

ネロが届けた二千フランをみて、コゼツは自分のしてきた過ちを悟る。村中が総出でネロの行方を捜す中、ネロは大聖堂へと向かっていた。



名作メモ ルーベンス展の入場料は50サンチーム。しかしそのためにお金がなくなりパトラッシュが飢えることに。

作品コラム

『フランダースの犬』の風景を描くカメラワーク

『フランダースの犬』を見て、ほどなく気がつくことがある。ネロ達がいつも同じ道を通って歩いているということをだ。

実は監督の黒田氏は、この『フランダースの犬』の演出の前に「映画のセットを作るように舞台を設計した」と語った。しかもネロが前を通る道ばたのお堂やはね橋、運河沿いの並木道など、特定の場所が写る場所では、毎回、どのカットもほぼ同じ位置に固定して見せたという。

なぜか？

それは物語の舞台を、見ている子供達に身近に感じて欲しいという黒田氏の考えからだ。絵だけで説明する世界では、同じ教会を描いても、角度が違えば別の風景に感じてしまう。ネロ達の住む村や、ネロが歩く道を同じ角度で繰り返し描くことで、子供達は〝自分が知っている風景〟として、親しみを持つようになると考えたのだ。

まるでカメラが追うように、ネロ達の日常を定点で捕らえるカメラワーク。かなり実写に近い手法だ。そうやって切り取った村の風景は、不思議なリアリティがある。カメラワークに注目して、この作品を見直せば、また新しい発見があるはずだ。



アントワープへ続く運河沿いの道。頑固なまでにカメラワークはいつも同じだ。



アロアの家の近くのマリア様のお堂。ここが村の入り口にあたる。向こうにはね橋があり、そこからアントワープへの道が続く。

夢に殉じたネロ



10話設定画より。二宮金次郎のネロ!?

正直で心優しい主人公が、最後は何の罪もなく死んでしまう。このラストシーンにどれだけ多くの涙が流されたことだろう。

結末の悲劇性が記憶に残り、これまでなぜネロが死んだのかはあまり検証されてこなかった。コゼツの無理解とハンスの無慈悲さが、ネロを追い詰め、生きたくても生きられなかったのだろうか。

実はそうではない。ネロの死はネロ本人にも大きな責任があったのである。コンクールに落選したことで、彼は生きる希望を無くしてしまったのだ。ネロが生きようと思えば生きられたのである。

ネロはミシェルが自分の家に来ないかという誘いも断り、もらった生活費もあろうことか、衝動的にルーベンスの展覧会に使い果たす。(そのためパトラッシュのえさ代にも事欠く)。クリスマスになれば、あと一日待てば、ジョルジュらが会いに来ることも知っていた。ネロが二千フランを届けた時エリーナも引き留めている。なのに全てを振り切って、ネロは雪の中に出て行ってしまう。

純粋なだけに、夢に生き、夢に殉じてしまうネロ。もう少し周りの人へ心を向けられたら、どれだけの人が救われたことだろう。残された人々こそ、悲劇である。ラストシーンのアロアの絶叫はあまりにも痛々しい。

名作メモ 2010年全国の盲導犬の育成普及活動を支援する「パトラッシュ基金」が発足。パトラッシュがシンボルマーク。(http://www.nippon- animation.co.jp/patrash/)



〈原作者〉

ルイズ・ド・ラ・ラメー

1839－1908

イギリス生まれで父はフランス人。20歳の時ロンドンに引っ越し、ロマンティックな作風の小説を書くようになる。内容は多少スキャンダラスな一面も持っていたが、1870年代には一世を風靡した。ベルギー旅行中の体験を元に書いた『フランダースの犬』が人気を博し、児童ものの作家としても知られるようになる。晩年はイタリア、フィレンツェ近くの小村で犬猫に囲まれて暮らした。ウィーダはペンネーム。

〈原作〉



訳　：村岡花子
発行：新潮社



▲ウィーダの生家の近くにある記念碑。すでに過去の人なのだろうか、地元の人にもほとんど知られていない。

ルーベンスの町アントワープ

『フランダースの犬』といえばアントワープ。このアントワープというのはフラマン語で〝手を投げる〟という意味で、古代、巨人の手を切り落とした英雄の伝説にちなんでついた町の名だ。そのためかアントワープには手の形をしたチョコまで売られている。ネロが通った町としてあまりにも有名だが、やはりルーベンスを抜きにしては語れない。大聖堂の近くにあるルーベンスの家は美術館として公開されており、物語に登場した絵もあの大聖堂に堂々と掲げされている。ただ、ネロの時代は誰でも無料では入れた大聖堂も、今では入場料を取る。金額は4ユーロ。貧乏人はもうマリア様にお祈りすらできないのである。



▲もはや日本人の観光のメッカと化しているアントワープ大聖堂。アニメそのままの偉容を誇り、今でも町のシンボル的存在だ。

Photo：Kaori Chiba（2点とも）

コゼツはコレクター！



コゼツは壺コレクターである。壺仲間もいて、互いにコレクションを見せ合うこともやっている。海外から取り寄せるなど、熱の入れ方は半端ではない。

なぜコゼツがネロに辛く当たるようになったか？　面白い事実がある。ある事件を境にコゼツはネロへの態度を硬化させている。その事件とは、アロアの誕生日の席でお気に入りの壺が割れたこと。むろんネロの仕業ではないが、コゼツの怒りは尋常ではなかった。そしてその日からコゼツの態度は一変する。娘可愛さやネロが貧乏なことより、本当は壺を壊された恨みなのか？と疑いたくなるほどであった。コレクターアイテムには細心の注意が必要だ。

アヴェ・マリア

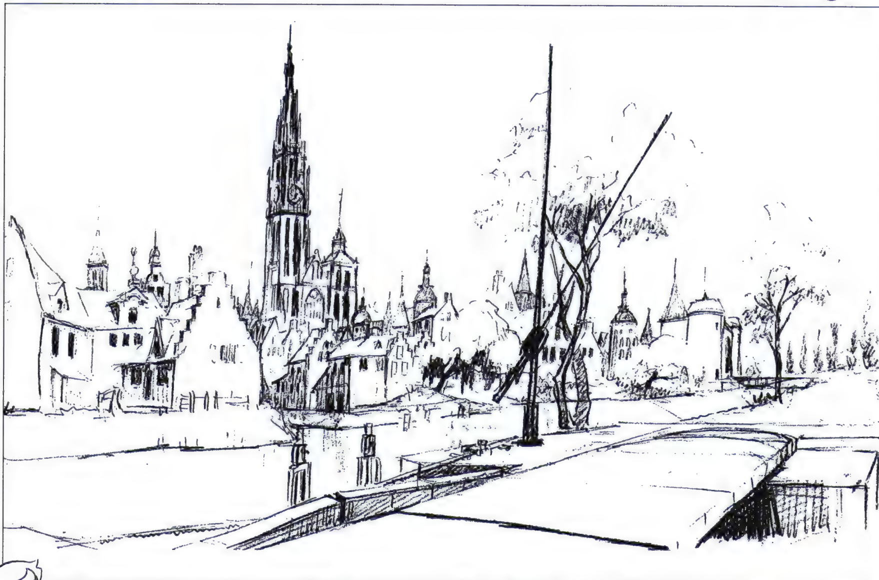


ネロを死なすのか、助けるのか？　最後の最後まで悩んだスタッフ。大もめにもめて最後は原作通り死んでしまう事になる。ラストシーンには、有名なミッチミラー合唱団をという声まで出たが、最後は女性独唱のアヴェ・マリアに落ち着いた。

アヴェ・マリアとは、「マリアに幸あれ」という聖母マリアを称える意味。アントワープ大聖堂のマリアの絵に、母の面影を見ていたネロにふさわしい歌であろう。

名作メモ　『フランダースの犬』の原作者ウィーダ自身も 30匹の犬と暮らす有名な愛犬家で、イタリアの動物愛護協会も設立した人物。





運河の水門から見た街／伊藤主計



メインスタッフ

脚本	中西隆三／加瀬高之／伊東恒久／雪室俊一／佐藤道雄／安藤豊弘／高山由紀子／松島昭／吉田義昭
音楽	渡辺岳夫
場面設定	坂井俊一
キャラクターデザイン	森康二
絵コンテ	奥田誠治／黒田昌郎／山崎修二／斧谷稔／柴田一／高畑勲／横田和善／佐々木正広／西牧秀雄／水沢わたる
作画監督	坂井俊一／岡田敏靖／羽根章悦
美術監督	伊藤主計
撮影監督	黒木敬七
録音監督	佐藤敏夫／浦上靖夫
色指定・検査	保田道世
動画チェック	前田英美
プロデューサー	中島順三／松土隆二
演出	黒田昌郎

オープニングテーマ「よあけのみち」
作詞：岸田衿子
作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士
歌：大杉久美子／アントワープ・チルドレン・コーラス

エンディングテーマ「どこまでもあるこうね」
作詞：岸田衿子
作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士
歌：大杉久美子



ペリーヌ物語

The Perrine Story



ペリーヌ物語



放映期間	1978/01/01～1978/12/31
話数	53話
原作	エクトル・マロ「家なき娘」
備考	78年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台





旅はギリシャから始まり、数カ国を経てフランスへ。“希望の土地”マロクール村はアミアンの近く。汽車だとピキニ駅が最寄り。

History

1878年のヨーロッパ。オーストリア・ハンガリー帝国は衰退が進み、オスマン帝国の繁栄も陰りが見え始めていた。

19C	1815	ウィーン条約　スイス永世中立国に
	1830	オスマン帝国からギリシャ独立
	1837	ビクトリア女王即位(英)
	1839	ダゲール、実用的写真技術を発表(仏)
	1861	イタリア王国成立
	1867	オーストリア・ハンガリー帝国成立
	1868	明治維新(日)
	1869	スエズ運河開通
	1870	普仏戦争(～1871)
	1871	パリ・コミューン
	1875	第三次共和政(仏)
	1877	インド帝国成立 露土戦争(～1878)
	1889	エッフェル塔建設
20C	1900	パリでメトロ(地下鉄)1号線開通
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1918	オーストリア・ハンガリー帝国崩壊
	1922	オスマン帝国滅亡
	1929	世界恐慌 ユーゴスラビア成立(～2003)
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1993	EU発足
21C		

1878年

3月19日
- ボスニアでエドモン他界

4月
- クロアチアへ

5月
- トリエステへ
- ベローナへ

6月
- ミラノへ

7月
- アルプス越え
- マリ体調を崩す

8月
- パリへ
- シモン荘でマリ他界
- マロクール村へ

9月
- 工場でトロッコ押し
- 狩猟小屋でひとり暮らし

10月
- サン・ピポア工場で通訳
- 社長秘書に就任

11月
- ビルフランの屋敷へ
- エドモン告別式

12月
- ペリーヌ、孫と判明
- ビルフラン、目を手術

1879年春
- 保育園落成式
- ビルフラン誕生日

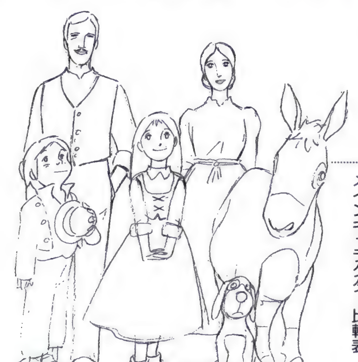
ストーリー解説

ペリーヌは家馬車で写真屋をする両親と共に、ギリシャからフランスのマロクールへと長い旅を続けていた。だが、ボスニアの小さな村にさしかかったとき、父は病に倒れ、帰らぬ人となってしまう。

残された母子は、悲しみが癒えぬまま旅を再開した。写真屋は母が引き継ぎ、仕事も旅も順調だったが、ふたりは旅を急ぐあまり無茶なアルプス越えをしてしまう。母は無理が祟って体調を崩し、パリで天国へと召されるのだった。

ひとり残されたペリーヌは、マロクールの祖父が母を嫌っていて、自分のことも決して温かくは迎えてくれないと知るが、それでも旅を続ける。何故ならそれが両親の望みだから…。

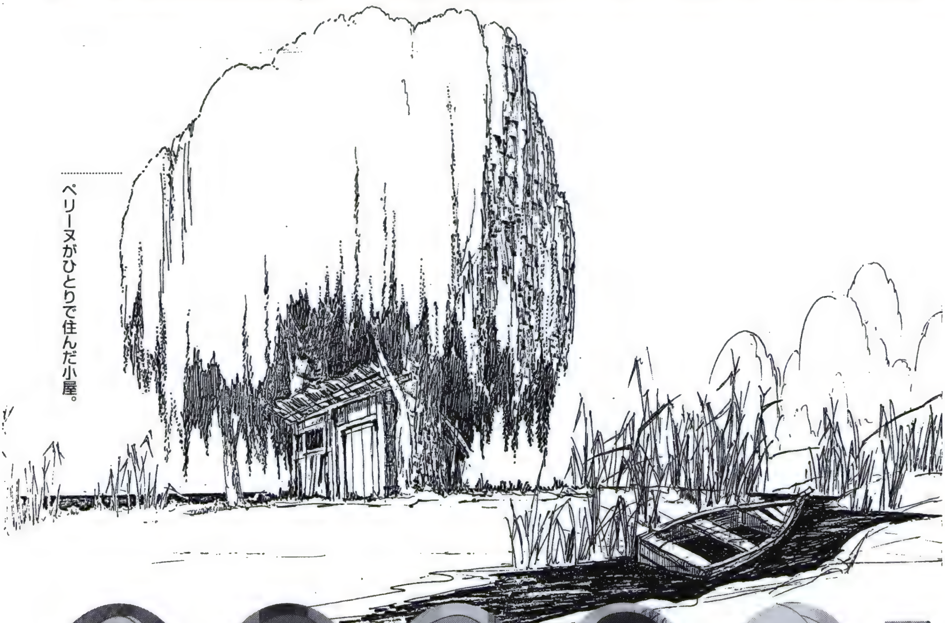
やっとのことで辿りついたマロクールで、ペリーヌは祖父が大きな織物工場の社長と知る。初めて見る祖父は、とても冷たい顔をしていた…。



メインキャラクター比較表。

レ・ミゼラブル
ロミオの青い空
フランダースの犬
1878 ペリーヌ物語
小公女セーラ
小公子セディ
わたしのアンネット
家なき子レミ
ピーターパンの冒険
牧場の少女カトリ
名犬ラッシー
トラップ一家物語
ポルフィの長い旅





ペリーヌがひとりで住んだ小屋。

キャラクター紹介



バロン
ペリーヌにとっては家族同然の犬。個性的な顔立ちをしている。ペリーヌの旅に最後まで同行する。



ロザリー
ペリーヌの親友。お喋り好きで元気な女の子。パンダボアヌ工場で働いている。



ビルフラン・パンダボアヌ
ペリーヌの祖父。パンダボアヌ工場を一代で大きくした。息子のエドモンが後を継ぐことを望んでいる。

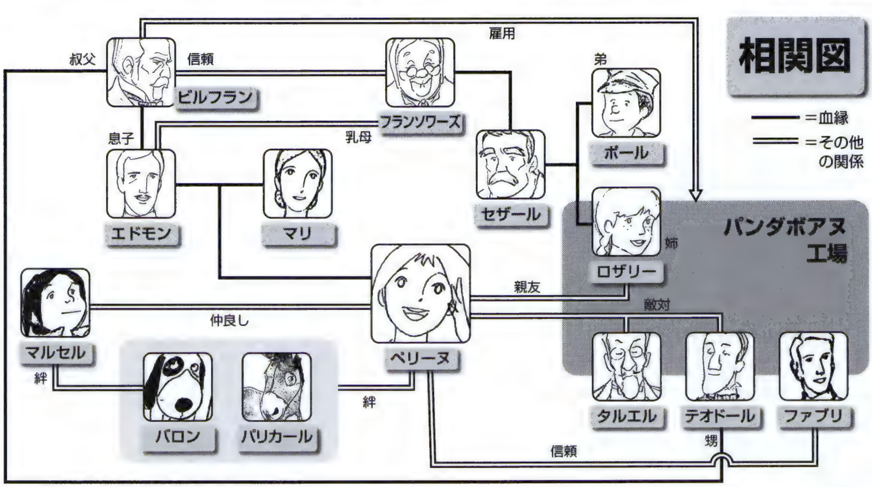


マリ・パンダボアヌ
優しく美しいペリーヌの母。夫の遺言に従い娘と共にマロクールを目指すが、旅の途中で帰らぬ人となる。



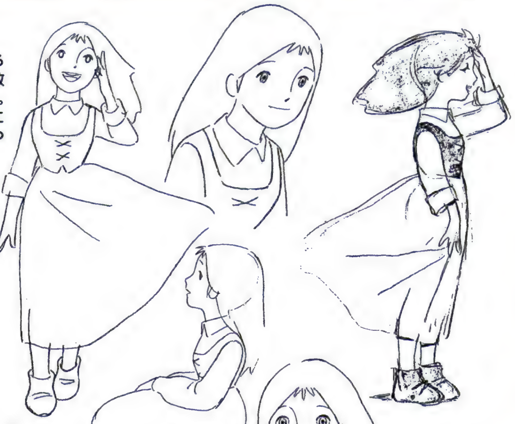
ペリーヌ・パンダボアヌ
しっかり者の13歳。父の故郷を訪ねるが、祖父に冷たくされるのを恐れオーレリィと名乗って工場で働く。

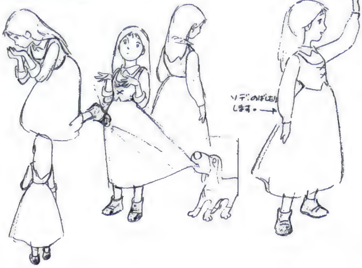
相関図

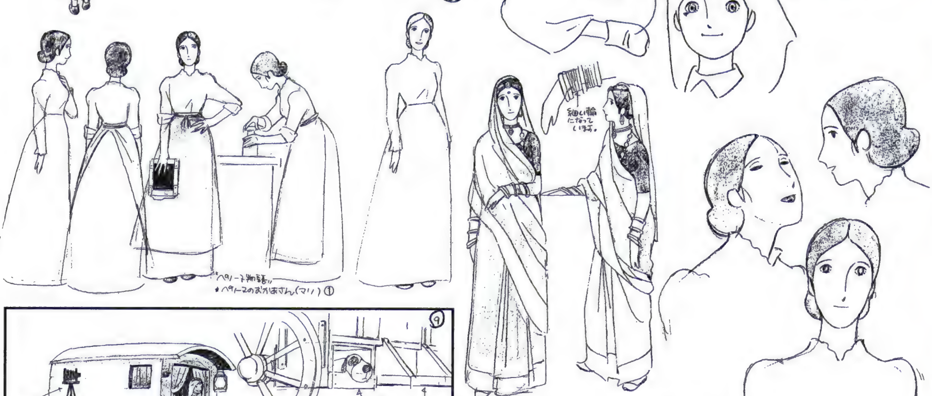


ペリーヌ・パンダボアヌ

しっかり者の13歳。まだ見ぬ祖父や、落ち着いた家のある生活に憧れる"家なき娘"である。両親から教わった高い教養と、旅の経験を通して、生き抜く力を身につけていった。旅の途中では少々幼い面もあったが、母の教えを守って誰にでも優しく接するようになり、精神的にも大きく成長してゆく。（声：鶴ひろみ）

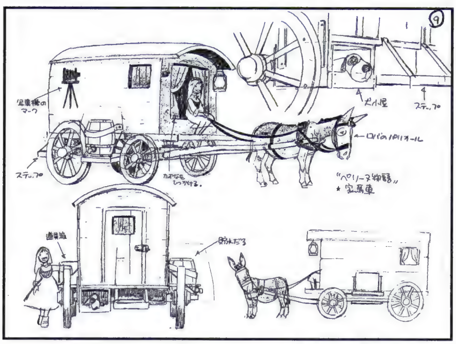




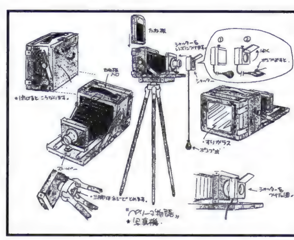


マリ・パンダボアヌ

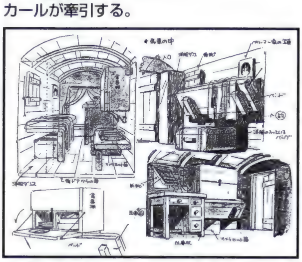
美しく優しく賢いペリーヌの母。イギリス人の父とインド人の母のハーフで、旧姓はスチーブンソン。身体が弱く人前に出るのも苦手だったが、娘の為に亡き夫の写真屋を引き継ぐ。（声：池田昌子）



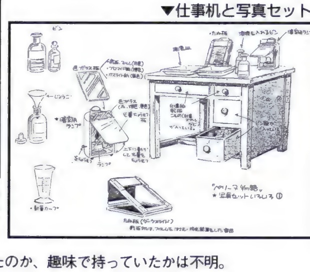
▲家馬車。写真の現像ができる特殊仕様。ロバのパリカールが牽引する。



▶マリの写真機。大切な仕事道具であると同時に、夫エドモンの形見でもある。



▲▶家馬車内部。折りたためるベッドや現像用の仕事机、食器棚など、収納へのこだわりが感じられる。



▼仕事机と写真セット。

ストーリー紹介

1話 1話 旅立ち

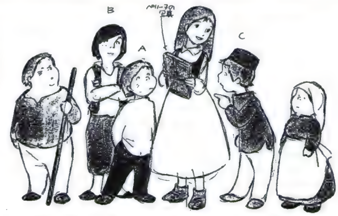
インドから祖父のいるフランスのマロクールへ向けて写真屋をしながら旅してきたペリーヌ親子。だがボスニアで父エドモンが病気で亡くなってしまう。

名作メモ エドモンはギリシャに着く前から写真機を持っていた。元から写真屋だったのか、趣味で持っていたかは不明。

ドランツ
ペリーヌ達の家馬車が人気の無い道で立ち往生していた所を助けてくれた。妻には3年前に先立たれ、3人の子供達と暮らしている（2話）。
（声：木原正二郎）







マリが見本の為に撮影したペリーヌの写真。予想以上の出来映えに自信をつけた。それにしてもサンプル用写真に、ペリーヌがとったお茶目なポーズ！（1話）



メルカ
ドランツの子供で長女。ペリーヌはメルカ達の家のある生活を羨むが、村から一歩も出たことの無いメルカはペリーヌの旅の生活を羨んでいた（2話）。（声：横沢啓子）



メルカとふたりの兄妹。



グレゴリッチの大家族。家族全員で写真に収まろうと、犬や馬まで連れ込んで大混乱。事態を収拾しようとマリは思わず大きな声を上げる（2話）。



夫イーリア。妻ミレーナと赤ちゃん。そしてイーリアの母。ご近所の無い一軒家で出産騒動。イーリアは慌てて母を迎えに行き、ミレーナは初出産でパニックになるが、マリの活躍で赤ちゃんは無事誕生するのだった（3話）。



ゴルジモフ
クロアチアの独立運動をする若い伯爵。オーストリアの兵隊から逃亡した後、野宿していたペリーヌ達と遭遇。ペリーヌ達は伯爵の逃亡を手助けすることに。お礼は再会したときにと約束するが、その後の消息は定かではない（4話）。（声：安原義人）



ヴァルドのおじいさん。猟師でクマ狩りの名人。半年前の流行り病で両親を亡くしたヴァルドを引き取る。ペリーヌ達は家馬車の壊れた水樽を直してもらった。



ヴァルド（5話）。

ストーリー紹介 2～5話

2話 遠い道
エドモンを亡くして半月。旅を続けるペリーヌ母娘は、次の村へ向かう途中雨に降られ、そのうえ馬車の車輪をぬかるみに取られて動けなくなってしまう。

3話 おかあさんのちから
ペリーヌ母娘が泊めてもらった農家には身重の妻ミレーナがいた。ところが夫のイリヤが自分の母を呼びにいっている間にミレーナが産気づいてしまう。

4話 泥だらけの伯爵
クロアチアの山道でペリーヌ母娘はゴルジモフという伯爵に出会った。伯爵はクロアチアの独立運動をしてオーストリアの兵隊に追われているという。

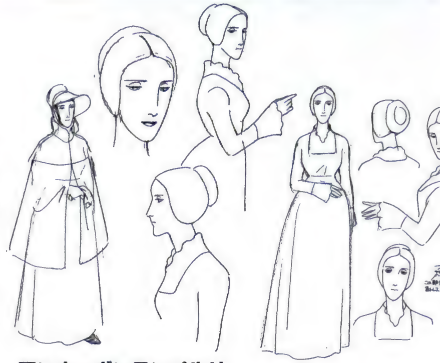
5話 おじいさんと孫
馬車の水樽が壊れてしまった。水を分けてもらいにいった家は老人と少年のふたり暮らし。親切な老人の姿に、ペリーヌはまだ見ぬ祖父の姿を重ね合わせる。

名作メモ 実際にクロアチアが独立したのは40年後。第1次大戦でオーストリアが敗戦してからだった（4話）。



トリエステの警部（右）と警官コンパーニ（左）。ボンテンペルリ夫人に通報され、ペリーヌとマリを取り調べる（6話）。





アンナ・ボンテンペルリ
たまたま見かけたペリーヌを、6年前に行方不明になった娘のジーナと思い込む。この夫人を通して母と娘の絆が描かれた（6話）。（声：中西妙子）





マルセル

サーカス団にいた陽気な少年。学校へ通う為トリエステの叔母の元に預けられたが、両親が恋しくて家出。サーカス団を追いかける途中でペリーヌ達と出会う。バロンに芸を仕込み、ペリーヌ一行の二代目護衛隊長としても大活躍（7話〜）。（声：岡村悦明）



結婚式に集まった人々。集合写真の撮影中、パリカールはぶどう酒を飲んで酔っぱらい、逃げ出してしまう（8話）。



花嫁さんと花婿さん（8話）。

鍛冶屋。家馬車の車軸にヒビが入っていた為、修理を依頼する（8話）。



ストーリー紹介 6〜9話

6話 二人の母
トリエステに着いたペリーヌ母娘は、突然警察に呼ばれる。町に住むボンテンペルリ夫人がペリーヌのことを行方不明の娘ジーナに違いないというのだ。

7話 サーカスの少年
トリエステを後にしたペリーヌ母娘は、道中マルセルという少年と出会う。マルセルはサーカス団員の両親を追い、叔母の家を逃げ出してきたのだという。

8話 酔っぱらいロバ
馬車の修理に寄った村で、ペリーヌ母娘は結婚式の写真を撮ることになった。だが、パリカールは会場にあったワインを樽一杯飲んで酔っぱらってしまう。

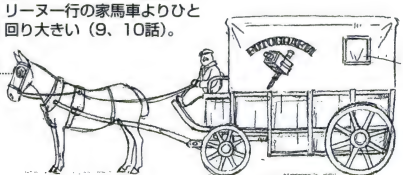
9話 商売がたき
ミラノへ向かうペリーヌ達は途中、ふたり連れの旅の写真屋ロッコとピエトロに出会った。ロッコ達が次の村で商売すると聞きマリは先の村へと向かう。

名作メモ トリエステがイタリア領になるのは、実際には第1次大戦後。当時はオーストリアの支配下にあった（6話）。



助手のロッコ曰く「世界的に有名な写真師ピエトロ・ファンファーニ先生」の撮影風景。しかし撮った写真はピントが甘く、残念な腕前だった（10話）。



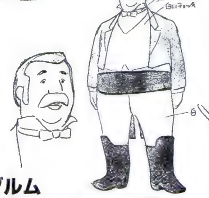


ピエトロとロッコの馬車。ペリーヌ一行の家馬車よりひと回り大きい（9、10話）。

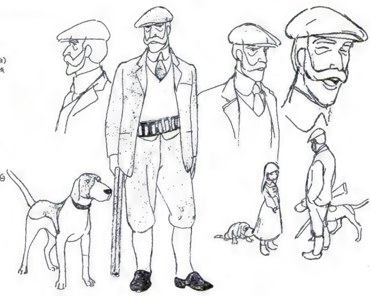
ピエトロとロッコ。偶然にもペリーヌ一行と同じ道を行くことになったイタリア人の写真屋。追い込まれたふたりはマリの写真機を盗もうとするが…（9、10話）。



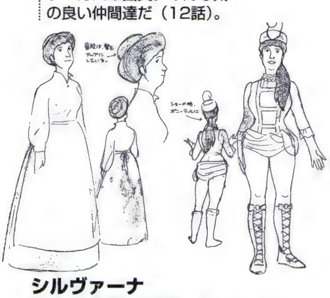
サーカスの団員。みんな気の良い仲間達だ（12話）。



ブルム
エトワール・サーカスの団長。ペリーヌ達の為に特別なショーを開いてくれた（12話）。



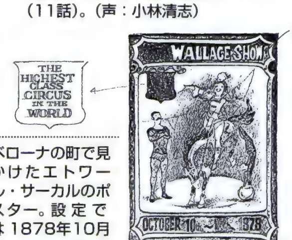
プラガ
男爵。狩りをしていた所、ペリーヌ達と遭遇する。ペリーヌ達が一晩過ごした湖は、なんと男爵の領地だった（11話）。（声：小林清志）



シルヴァーナ
マルセルの母で曲芸師。エトワール・サーカスの花形スター（12話）。



ジャン・サンド
マルセルの父でエトワール・サーカスの調教師（12話）。



ベローナの町で見かけたエトワール・サーカルのポスター。設定では1878年10月10〜15日興行とある（9話）。

ストーリー紹介 10〜13話

10話 写真機どろぼう
ペリーヌ達と同じ村で商売することになったロッコ達はペリーヌに散々にやりこめられ、村を後にした。得意満面のペリーヌにマリは不安を覚える。

11話 バロンがんばる
ミラノにあと少しのところまで来たペリーヌ達は、池のほとりで野営する。その晩、バロンと外で寝たマルセルは、池にやってきた鹿の親子を見つける。

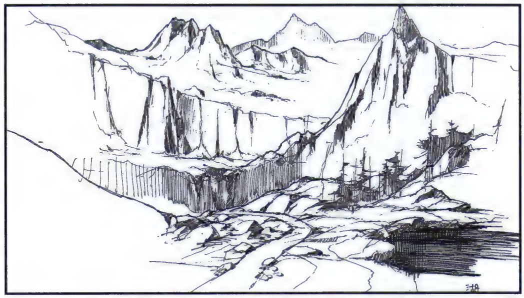
12話 たった二人の観客
ペリーヌ達はミラノに入った。だがサーカスが興行している町の中心には翌日にならないと着かない。待ちきれないマルセルは夜、ひとり馬車を抜け出す。

13話 アルプス越え
ミラノを出て10日、ペリーヌ母娘はスイスとの国境近くの宿にいた。母娘はそこからシンプロン峠を越える道を進むが、峠の道は予想以上に厳しかった。

名作メモ　9話に出てくるサーカスのポスターの興行日程は物語の時系列に合わせてアニメでは5月に変更。



イタリア北部の国境そばにある宿屋のおかみ。お金には厳しく、給料の前借りを頼むジョセフをにべもなく断った（13話）。



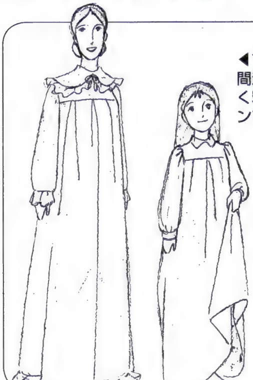
▲アルプスへの道。峠越えは予想していたよりも遥かに危険で困難だった。山を侮ってはいけない（13話）。



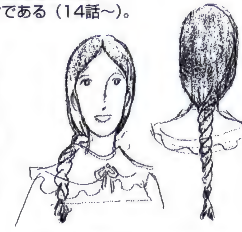
ジョセフの父。写真と共に「恩を受けた」と手紙をよこした息子に代わり、ペリーヌ達の峠越えを手助けする。彼がいなければどうなっていたことか（13話）。（声：渡部猛）



ジョセフ
ホテルで働く少年。スイスの山育ちで、ペリーヌ達の峠越えを心配する。母に送りたくてマリに写真を撮ってもらうが…（13話）。（声：大見川高行）



◀マリとペリーヌの寝間着姿。関修一氏の描く寝間着の定番デザインである（14話～）。



▲マリが眠るときのヘアスタイル。



ジョセフの弟（13話）。



スイス国境兵（13話）。

ストーリー紹介 14～17話

14話 美しい国で
ペリーヌ母娘はスイスに入った。だが、峠越えで無理をしたマリはひどく衰弱していた。そんなとき、ペリーヌが崖から滑り落ち、足を怪我してしまう。

15話 フランス！フランス！
ジュネーブへの道を急ぐペリーヌ母娘。だが、狼のいる森で道に迷ったあげく夜になってしまう。狼の迫る中、マリは無我夢中で馬車を走らせる。

16話 おかあさんの決意
マリが病に倒れて10日。ついにお金が底をついてきた。一向に回復しないマリはパリへ向けて旅立つことを決意し、エドモンの形見の宝石を売る。

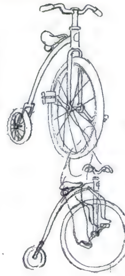
17話 パリの宿
パリに着いたペリーヌはマルセルと再会する。病気のマリのため、滞在できる場所を探すペリーヌは、マルセルの紹介でシモンじいさんの下宿屋を訪ねる。

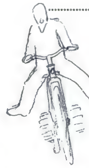
名作メモ　誰にでも親切だが他者からの親切は拒むマリ。「困った時はお互い様」の精神を学ぶのはシモン荘でだった（19話）





スイスの警官。その村では許可を取らないと街頭での営業が出来なかった（15話）。

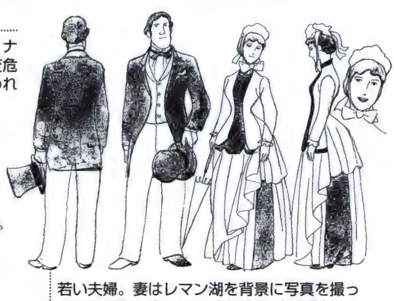




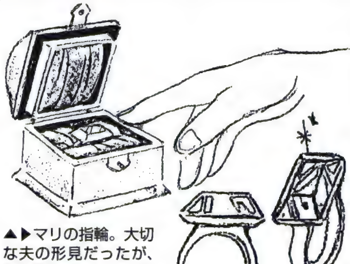
自転車はオーディナリー型。当時大変危険な乗り物と言われていた。



レマン湖近くの村で自転車を乗り回すイギリス紳士。ペリーヌ達の家馬車に激突する（15話）。



若い夫婦。妻はレマン湖を背景に写真を撮ってもらおうと夫におねだりする（15話）。



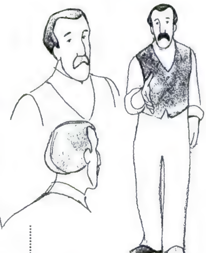
▲▶マリの指輪。大切な夫の形見だったが、宝石商に売ってお金に換える（16話）。



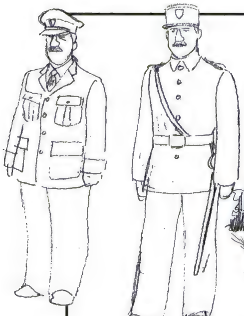
宿屋の主人が呼んだ医者。身体を治すにはゆっくり静養するようにと忠告するが、マリは受け入れなかった（16話）。



シュザンヌ
宿屋の女中。ペリーヌから無理してでも母に食事させるように と頼まれる（16話）。

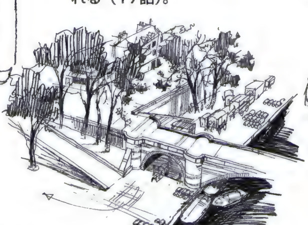


宿屋の主人。ペリーヌ達が宿代を3日以上ためた為、止む負えず請求する（16話）。

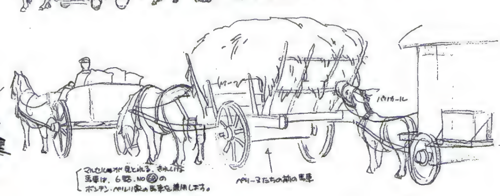


▲左は税関の役人。右はパリの警官（17話）。

▼ベルシーの税関。みんな日曜日までにパリに入りたくて土曜日に集中するので、たっぷり待たされる（17話）。







▲税関の前で順番待ちをする馬車。ここでペリーヌはマルセルと再会し、シモン荘を紹介してもらう（17話）。

ストーリー紹介 18〜21話

18話 シモンじいさん
シモンじいさんの下宿に落ち着いたペリーヌはマリのために医者を呼ぶが、マリの病は重く、診療代や薬代で、手持ちのお金はあっという間に底をついた。

19話 パリの下町っ子
マリの病気はよくなる気配がない。けなげに看病するペリーヌの姿は、欲張りなシモンをはじめ、下宿人達の心を打ち、やがて温かな交流が生まれる。

20話 パリカールとの別れ
ペリーヌはパリカールを売るためシモンと一緒に市場へ出かける。だが市場の入口でパリカールは動かなくなってしまった。困り果てるペリーヌ達。

21話 最後の言葉
マロクールに向かうことを決意したマリだが、辻馬車に乗ろうとして倒れてしまう。死期を悟ったマリはペリーヌにひとりでマロクールに行くようにと言う。

名作メモ マリが売った形見の指輪はエメラルド。家賃と診察代を払っても217 フラン残った（16話）。



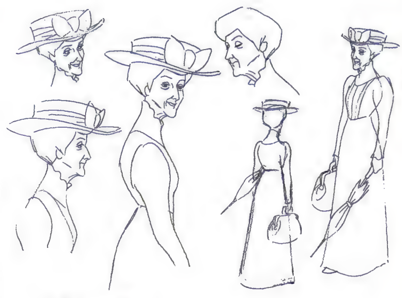
シモン
シモン荘の主。他自共に認める欲張りで、昼間から酒を飲んでいる。シモン荘の住人から冷やかされ、最初は見栄からペリーヌに親切にするが、最後にはペリーヌのことが大好きになっていた。5匹の子犬を飼っている（17〜22話）。
（声：永井一郎）

あめ屋
シモン荘の住人で入り口近くの貨車が住まい。挨拶代わりに売れ残ったあめをくれた（17〜22話）。
（声：峰恵研）

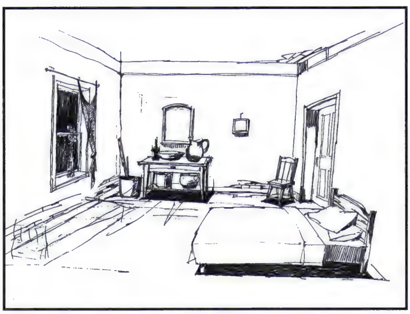


ガストン
シモン荘の住人で靴の修理屋。趣味で特製のスープを作っている。“侯爵夫人”とは長い付き合い（19〜22話）。（声：加藤精三）





カロリーヌ
シモン荘の住人で“侯爵夫人”と呼ばれる。歌が得意で、歌の本を売って生計を立てている（17〜22話）。（声：市川千恵子）



▲母の寝室。マリを休ませるためにシモン荘で借りた部屋。ここでペリーヌは母の最期の言葉を聞く（18〜22話）。



シモン荘。治安の悪いパリで野宿は危険だからと、マルセルに紹介してもらった下宿。ここでペリーヌは、マリと最後の1週間を過ごすことになる（17〜22話）。

ストーリー紹介 22〜25話

22話 忘れられない人々
マリは帰らぬ人となった。葬儀を終えたペリーヌはマロクールに向かうことを決めていた。シモン達と別れ、ペリーヌは汽車に乗るため駅へと向かう。

23話 ひとりぼっちの旅
汽車を降り、歩いてマロクールに向かう途中、パン屋に入ったペリーヌは店主のマルガレータに持っていた銀貨を偽物だと言われて取り上げられてしまう。

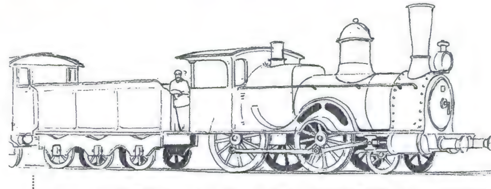
24話 美しい虹
バロンが農家の温室の花を荒らし、弁償をしたペリーヌ。手持ちのお金もわずかとなり、水も飲み干してしまったペリーヌに、夏の太陽が容赦なく照りつける。

25話 パリカール！私のパリカール!!
最後の銅貨でパンを買ったペリーヌ。だがマロクールまではあと3日はかかる。そんな中で風邪をひいたペリーヌは、とうとう森の中で意識を失ってしまう。

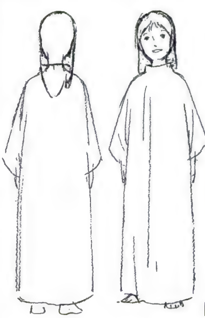
名作メモ シモン荘はベルシーの税関から城壁沿いに進み、バンセンヌ散歩道を越えて左に曲がった辺りにある（17話）。



ペリーヌがひとり旅で出会う人々。悪い人や無関心な人もいたが、彼らのちょっとした親切が、ペリーヌの旅に力を貸す。



ペリーヌが乗る汽車。パリ北駅からパリ近郊で下車（22、23話）。



▲病室着のペリーヌ。病気で倒れたペリーヌをルクリが入院させてくれた（26話）。

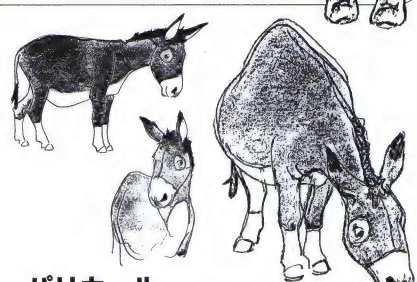


▶ひとり旅のペリーヌ。チョッキを脱ぎ“侯爵夫人”から貰った帽子をかぶっている（24〜27話）。



ルクリ

くず屋をしている男のようなおばさん。シモンじいさんとは古い付き合い。ペリーヌからパリカールを安く買い叩いたことを内心後悔していたが、思わぬ形でペリーヌに償いをする機会に恵まれる（20話〜）。（声：麻生美代子）





ルクリの荷馬車。うさぎの毛皮、ぼろくズ、古鉄などを買い取って荷台に積み込んでいる。ペリーヌが手伝ったお陰で商売も繁盛（25、26話）。

パリカール

ペリーヌ達がギリシャで家馬車と共に手に入れたロバ。強く賢い立派なロバだが、8話では酒癖の悪さが判明。19話ではシモンじいさんと飲み友達に。ペリーヌにとっては家族同然だったが、マリの薬代を作る為涙を飲んでルクリに売った。その後、思いがけない形でペリーヌを助ける。

ストーリー紹介 26〜29話

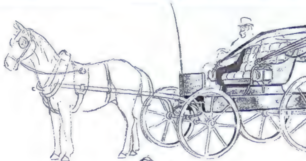
26話 親切なルクリおばさん
森で倒れていたペリーヌを助けたのはルクリだった。ペリーヌから話を聞いたルクリは、マロクールの近くまで商売をしながら一緒に行こうと言う。

27話 おじいさんの冷い顔
マロクールに着いたペリーヌはロザリーという少女に出会った。そして思いがけずビルフランの乗った馬車を目にするが、その険しい表情に圧倒される。

28話 パンダボアヌ工場
オーレリィと名乗り、ロザリーの家に泊めてもらったペリーヌは、翌日からパンダボアヌ工場でトロッコ押しの仕事をすることになった。

29話 池のほとりの小屋
ロザリーが仕事中、指に怪我をした。それを知ったビルフランは医者に診せるように言う。ペリーヌは厳しいビルフランの中に優しい一面を垣間見た。

名作メモ ルクリおばさんのことを、シモン爺さんだけは『ルクリばあさん』と呼んでいた（20話）。





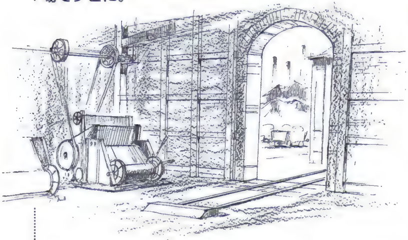
ビルフランの馬車と御者のギョーム。ギョームはビルフランの元で御者を15年務めてきたが、昼食時に酒を飲み過ぎて仕事に遅れてしまい、その場でクビに。



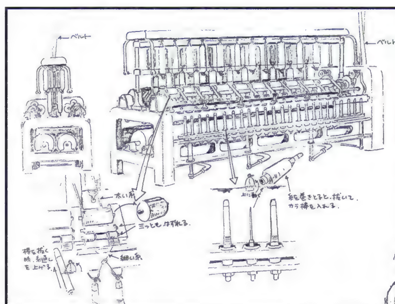


ビルフラン・パンダボアヌ

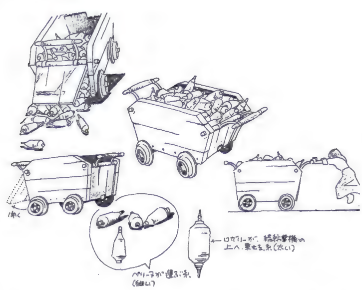
7000人もの従業員を抱えるパンダボアヌ工場の社長にしてペリーヌの祖父。仕事に厳しく頑固者で、裏切り者を絶対許さない。5年前、肺炎を患った際に失明するが、ますます仕事熱心に。ペリーヌの誠実で献身的な仕事ぶりに感心し、次第に心を開いていく。息子のエドモンの帰りを待ち望むが、それが永遠に叶わぬことだとはまだ知らない（27～53話）。（声：厳金四郎）



ペリーヌが勤める最初の職場。織物工場での経験が無いペリーヌは、一番簡単なトロッコ押しをやらされた。奇しくも職場には機械を担当するロザリーの姿も（28話～）。



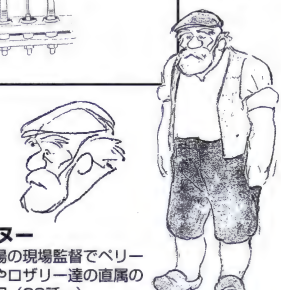
◀リング精紡機。ロザリーが担当している紡績機械。29話でロザリーは機械の歯車に手を挟んで怪我をしまう（28話～）。



トロッコ。ロザリー曰く、慣れてしまえば片腕でも押せるが、慣れるには1週間くらいかかるとのこと。トロッコ押しの初仕事ではペリーヌもヘトヘトに疲れてしまった（28話～）。

女工達。





オヌー

工場の現場監督でペリーヌやロザリー達の直属の上司（28話～）。

ストーリー紹介 30～33話

30話 自分の力で

ペリーヌは池のほとりの小屋でひとり暮らしを始めた。そんなとき、仕事中に靴が壊れてしまう。靴を買うお金のないペリーヌは自分で靴を作ることにする。

31話 お客様を迎えて

小屋での生活に慣れたペリーヌはロザリーを招待する。小屋を訪れたロザリーは身近な野生の素材で素敵なごちそうを作ったペリーヌに感心するのだった。

32話 名前の秘密

馬車の御者ができるペリーヌはファブリと一緒にベンディットをピキニの病院に連れ行く。ピキニの町でペリーヌは、ルクリやパリカールと再会した。

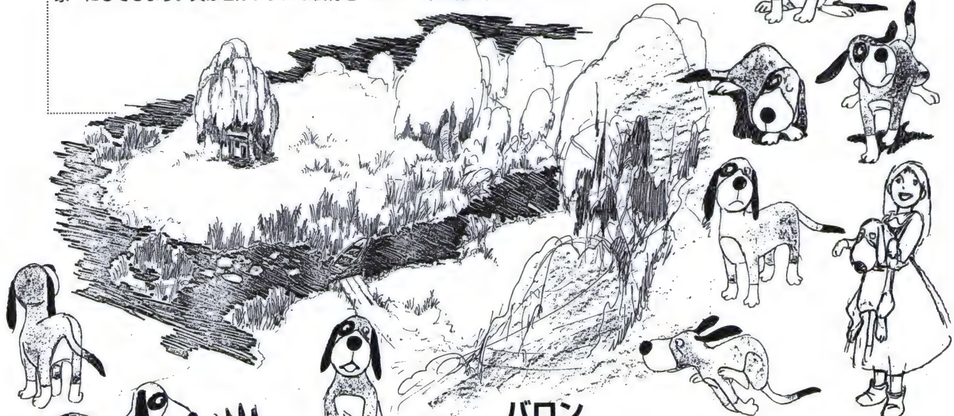
33話 テオドールの財布

工場を視察していたビルフランの甥テオドールの財布が無くなった。テオドールはペリーヌに工員達の身体を調べるように言うがペリーヌは拒否する。

名作メモ　ビルフランの馬車を引く馬の名前はココ（46話）。



狩猟小屋。秋の終わりから冬にかけてカモ撃ちをするために建てられた。ペリーヌは夏に使われないことを知り“狭いながらも楽しい我が家”にしてしまう。実はビルフランの私有地であった（28話～）。





バロン

ペリーヌ一行の初代護衛隊長。エンディングの歌詞のためか、役立たずで怠け者という印象が強いが、マルセルに仕込まれた芸で客の呼び込んだり、ペリーヌが病に倒れたときには助けを求めて走り回ったりと貢献もしている。その個性的で愛すべき風貌は、一度見たら忘れられない。



▲肌着姿のペリーヌ。着る服が一着しか無い為、眠るときはこの格好。

ファブリ

パンダボアヌ工場で働く技師。大の読書好き。ひょんなことからオーレリィに秘密があると知る。ペリーヌに好意を持っている節があり、かなり積極的（27話～）。（声：村山明）



ランプ。夜でも本が読めるようにと、ファブリからプレゼントされる。一緒に貸してくれた本は『少女コゼット』…じゃなくて『レ・ミゼラブル』（33話）。



ベンディット

ファブリの同僚で工場では英語の通訳や翻訳をしている。肺炎で1ヶ月の入院を余儀なくされるが、馬車でピキニの病院に搬送する際、ペリーヌが馭者を務めたことで、運命の歯車が動き始める（31話～）。（声：依田英助）

ストーリー紹介 34～37話

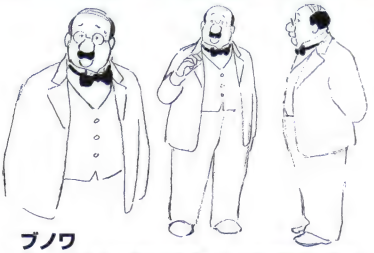
34話 忘れられない一日
すっかり仕事に慣れたペリーヌは、ある日タルエルからサン・ピポアの工場に行くように命じられた。そこでペリーヌは英語の通訳をするように言われる。

35話 英語の手紙
ビルフランの命令で英語の手紙の翻訳をしたペリーヌは、タルエルから呼ばれ手紙の内容をしつこく聞かれて、困惑する。

36話 よろこびと不安
イギリス出張からファブリが帰国した。それはペリーヌの通訳としての仕事の終わりを意味するはずだったが、ビルフランはペリーヌに仕事を続けさせる。

37話 おじいさんの大きな手
サン・ピポア工場での通訳の仕事が終わり、マロクール工場に出勤したペリーヌはビルフランに呼ばれた。ビルフランはペリーヌを自分の秘書にすると言う。

名作メモ　ペリーヌはビルフラン屋敷で暮らすようになっても何故か寝間着を買わず、眠るときは肌着姿のままだった（45話）。



ブノワ

サン・ピポア工場の工場長。新工場の設置の遅れを把握せず、いい加減な報告をした為にビルフランの逆鱗に触れてしまう（34話～）。



イギリス人技師。英語が伝わらず、途方に暮れる（34話）。



サン・ピポア工場の技術監督（左）と通訳のモンブル（右）。英語がわからず頭を抱える（34話）。

テオドール

ビルフランの甥。経営能力はかなり低そう。鈍感、横柄で従業員からはすこぶる評判が悪く、身内のペリーヌは恥ずかしくてたまらない（28話）。（声：田中崇）



テオドールの召使い。ご苦労様である。





タルエル

マロクール工場の工場長。切れ者で実力者だが人望はない。ビルフランの命令には逆らわない主義だが、虎視眈々と次期社長の座を狙っている。臨機応変、変わり身の早さはピカイチ（28話～）。（声：丸山詠二）



工場の門番。いつも遅刻するテオドールを工場内に入れるのも仕事のひとつだ（34話）。



▶タルエルの部屋。工場長の部屋は、ビルフランが使用する社長室から見て、廊下を挟んだ向かい側にある（29話～）。

ストーリー紹介 38～41話

38話 すてきなワンピース
ビルフランの命令でペリーヌは新しい服を買いに村一番の高級店に行くことになった。そこでペリーヌが選んだのは質素な紺色のワンピースだった。

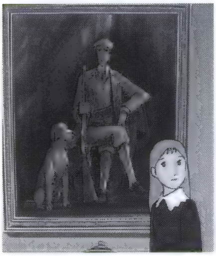
39話 インドからきた手紙
インドから手紙が届いた。ビルフランはペリーヌに翻訳させるが、内容を誰にも話してはいけないという。そこにはペリーヌの両親のことが書かれていた。

40話 バロンの災難
日曜日、バロンを連れて林を散歩していたペリーヌは池のほとりの小屋を見てみたくなった。その頃、小屋ではタルエルとテオドールが密談していた。

41話 お城のような家
ビルフランに頼まれた電報を打ちに出かけたペリーヌは、タルエルに鞄を取られたはずみで転んで足を痛めてしまう。それを知ったビルフランは…。

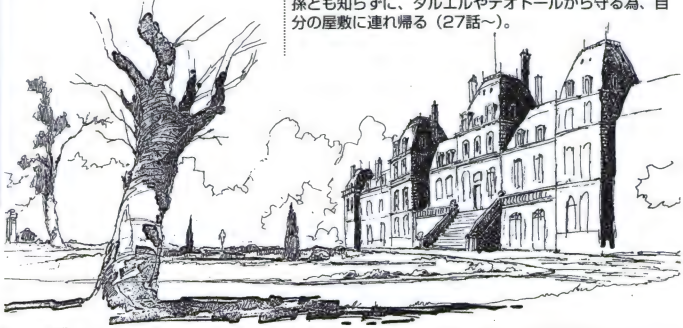
名作メモ　ラシューズ夫人は、ペリーヌにはブルーが似合うと、これまで着てきた暖色系の服をあっさり全否定する（38話）。

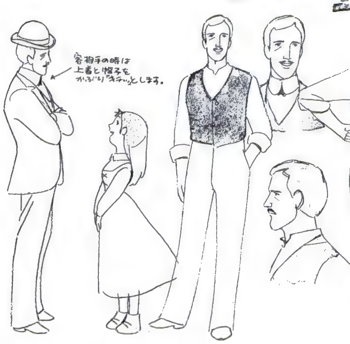




▲ありし日のエドモンを描いた肖像画（33話）。

ビルフランの屋敷。身内を側に置かず、十数人の使用人と共に独りで住んでいた。ビルフランはペリーヌを実の孫とも知らずに、タルエルやテオドールから守る為、自分の屋敷に連れ帰る（27話～）。



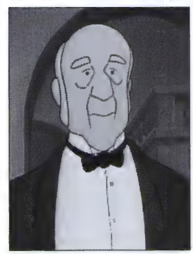


エドモン・パンダボアヌ
ペリーヌの父にしてビルフランの息子。仕事先のインドでマリに出会い…（1話）。



ボスニアにあるエドモンの墓。ビルフランがどんなに待ち望んでも、もうエドモンは帰ってこない（1話）。

ビルフランの屋敷で出会う人達



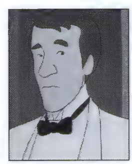
セバスチャン
執事。主人のビルフランに気付かれないよう、オーレリィをさりげなくサポート（41話～）。（声：大山豊）



ブルトヌー
ビルフランの姉。息子のテオドールを溺愛。屋敷に来たときに泊まる“蝶の間”をオーレリィに取られて、ちょっぴりご機嫌斜め。（44～46話）。
（声：京田尚子）



フェリックス
御者。ギョームの後任。



ルイ
給仕係。アンリエットと仲が良い？



アンリエット
オーレリィの小間使いを担当。

ストーリー紹介 42～45話

42話 ロザリーの悲しみ
ビルフランの屋敷に住むことになったペリーヌ。翌朝ペリーヌはビルフランと出勤するが、ロザリーはペリーヌが遠い世界の人になったと感じて悲しみを覚えていた。

43話 日曜日。ペリーヌは…
日曜日、ペリーヌはロザリーやファブリとピクニックに出かける。そこでペリーヌはファブリだけに自分がビルフランの孫だということを打ち明けた。

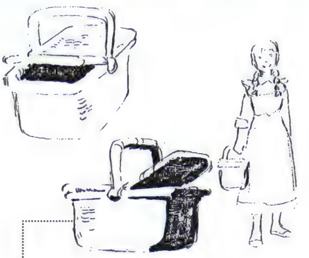
44話 いじわるな夫人
ビルフランの姉でテオドールの母親のブルトヌー夫人が屋敷を訪ねてきた。その晩、屋敷では晩餐会が開かれるが、そこへ一通の手紙が届く。

45話 ボスニアからの知らせ
もうすぐエドモンの行方がわかる。ビルフランは上機嫌だった。それから間もなくエドモンの行方を調査していたフィリップ弁護士が突然訪ねてくる。

名作メモ セバスチャンは“かわいいお嬢さん”であれば、“様”付けでお呼びしてもかまわない主義（50話）。

ロザリー

マロクールを訪れたペリーヌが初めて出会った女の子。ペリーヌとしては重そうな荷物を運ぶのを手伝っただけなのだが、ロザリーは運命的な出会いと感じ取り、事実その通りになるのだった（27～53話）。（声：黒須薫）



ロザリーのお弁当。ペリーヌと一緒に食べる為、父にふたり分作ってもらっている。





セザール

ロザリーの父。シャモニー食堂を経営している。ペリーヌが作ったすぐりジャムに感銘を受け、旅先で食べた料理の話に興味を持つ（27～53話）。（声：石森達幸）

初期設定のロザリー。モップを持つ姿はシンデレラのようだ。



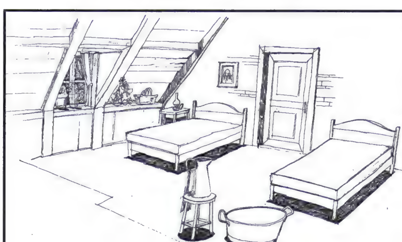


ロザリーの仕事スタイル。ほっかむり少女の伝統は『牧場の少女カトリ』へと引き継がれるのだ。



ポール

ロザリーの弟で小学校に通っている。バロンが大のお気に入り（27～53話）。（声：小山渚）



◀ロザリーとポールの部屋。マロクールに来たばかりで行く宛てのないペリーヌを、ロザリーは快く迎え、一緒のベッドに寝かしてくれた。その親切が、辛い旅を続けて来たペリーヌには嬉しくて、そのときからペリーヌとロザリーはかけがえのない親友となったのだった（27話）。

ストーリー紹介 46～49話

46話 ビルフランの悲しみ
エドモンの死を知ったビルフランは葬儀の後、部屋に閉じこもり、食事もとろうとしない。ビルフランの体を心配するペリーヌは食事をするよう説得する。

47話 オーレリィの顔
病気で寝込んだビルフランは、見舞いにやってきたロザリーの祖母フランソワーズからオーレリィの顔がエドモンの小さい頃にそっくりだと聞き、驚く。

48話 火事
オーレリィは孫かもしれない。希望を取り戻したビルフランは仕事に復帰する。その日マロクールで工員の子供を預かる家で火事が起こった。

49話 幸せの涙が流れる時
フィリップ弁護士からパリでの調査が完了し、マロクールで最後の調査を行うと電報が来た。ビルフランはフィリップの到着を待つ。自分の願いが叶うことを信じて。

名作メモ ロザリー（Rosalie）の名付け親はビルフラン。みんなに厳しいビルフランも、ロザリーには優しい（28話）。



クライマックスを盛り上げた方々



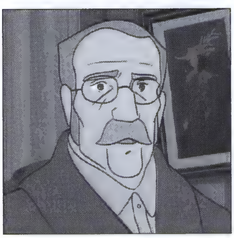
フィリップ弁護士
ビルフランの顧問弁護士。トボケたふりをしながら一気に核心に迫るその手腕は、まるで刑事コロンボ。エドモン捜索では悲しい報告をせねばならなかっただけに、新たな任務に大奮闘。パリ中を歩き回る。名作屈指の名場面49話は彼の独壇場である（43話～）。



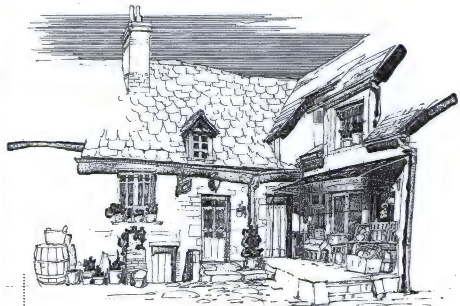
リュション先生
マロクール村の医者でビルフランのかかりつけ。肺炎に倒れたベンディットや、労働災害で怪我をしたロザリー、更には猟銃で撃たれたバロンも診てくれた（40話～）。



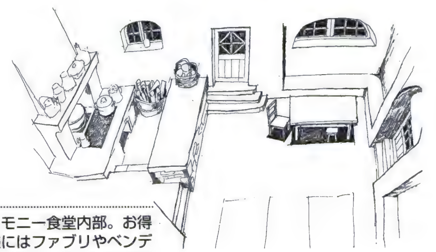
ブルム先生
リュションの見立てで危険が6分と判断されたビルフランの目の手術を見事成功。その名声はフランス中に、いや、ヨーロッパ中に響き渡ったことだろう（51～52話）。



ビルフラン
可愛い孫娘ペリーヌの顔が見られて、我が人生に一片の悔い無し？ …いやいや、これからはマロクールをフランスで一番豊かで住みよい所にするという決意に燃えているのだ（53話）。



ロザリーの家、シャモニー食堂。高級料理屋ではないが、メニューは女工の安い給料ではとても手が出ない料理ばかり（27話～）。



シャモニー食堂内部。お得意様にはファブリやベンディットなど、パンダボアヌ工場の重要人物がいる。



フランソワーズ
ロザリーの祖母で、エドモンの乳母をしていた。ペリーヌの顔が幼い頃のエドモンにそっくりであることにただひとり気付き、エドモンを失ったビルフランに新たな"生きる希望"を与える（27～53話）。（声：遠藤晴）

ストーリー紹介 50～53話

50話 初雪の降った日
ついにペリーヌがビルフランの孫であることが明らかにされた。ビルフランは孫に親切にしてくれた人達にお礼を言うためシャモニーを訪れる。

51話 おじいさんの目
孫だとわかったペリーヌの顔を見られないのがビルフランにはもどかしくてならない。ビルフランは目の手術を受けることを決意した。

52話 忘れられないクリスマス
手術から1週間が過ぎた。包帯を交換する際、2分間だけ目を使うことを許されたビルフランは、初めてペリーヌの顔を見る。その日はクリスマスだった。

53話 春の訪れ
春、目が見えるようになったビルフランの初めての外出の日。ビルフランが最初に行きたいと言った場所、それはペリーヌがひとりで暮らしていた池のほとりの小屋だった。

名作メモ ペリーヌが最終回に着るドレスの色は、39話でラシューズ夫人がペリーヌに似合うと言ったブルーだった。

ペリーヌの旅路を振り返る

1 エドモンの足跡

マリの証言やフィリップ弁護士の調査により判明したエドモンの足跡。



①デリー。エドモンがマリとカトリック教会で結婚式を挙げる。
②ダッカ。フィルデス神父からの手紙によると10年前までいたとのことだが、ペリーヌは6歳の頃いたと証言。情報には3年以上の食い違いがある。また、その後ダジールへ向かったとされるが、場所は不明。
③デラ。チベット国境に近い町。時期は不明だが何年かを過ごした。エドモンはここから友人に手紙を出している。
④スエズ。フランスへ帰るつもりで訪れたが、資金難で船旅が困難に。そこでギリシャへ渡ることに。
⑤ギリシャ。ここでパリカールを買い、家馬車の旅が始まる。時期は1877年後期〜78年初頭と思われる。

2 家族の旅路

ギリシャを発ったパンダボアヌー家の旅路は、第11話に地図で明かされた。



①ギリシャのアテネを出発。
②当時のオスマン帝国領アルバニアに入る。
③モンテネグロを経由して、再びオスマン帝国領へ。
④オスマン帝国領ボスニアの町サラエボ、トラブニック方面へ。
⑤ブソバチャ村でエドモンは肺炎のため亡くなる。



▶第１話の回想シーンは家馬車を買って間もないギリシャにいた頃だと思われる。まだバロンの姿はない。

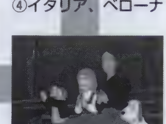
3 新たな旅立ち


①サラエボ、ブソバチャ村（3月）


②クロアチア（4月）

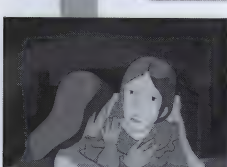

③トリエステ（5月）


④イタリア、ベローナ


⑤イタリア、ミラノ


⑥スイス、シンプロン峠（6月）


⑦スイス、レマン湖付近


⑧フランス、パリのシモン荘(8月)


⑨フランス、ラ・シャベル


⑩フランス、アミアン

⑪そしてマロクール村へ…



▶8月の終わり頃、ようやくマロクール村へ着くペリーヌ。だが、ペリーヌの旅は終わらない。ここから祖父の胸の中へ飛びこむ日までの遠く険しい道が始まる。



そしてペリーヌは、希望の土地を目指して歩き出す。だがまだ道は遠い。

原作のテーマは「意志の鍛錬」

ペリーヌの川辺でのひとり暮らしのくだりはこの物語でも見せ場の一つだが、マロがこの物語の最も大切なテーマとして挙げたのが「意志の鍛錬」。ペリーヌの自活部分だ。その舞台になる北部フランスの地理や風物を、アミアンに住んでいた友人のジュール・ベルヌ（『海底2万マイル』の作者!）に教えてもらう。現在も残っているその手紙から、ペリーヌの狩猟小屋の描写に大きな影響を与えた様子が伺い知れる。

マロはこの作品が大変気に入って、最愛の孫にペリーヌという名前をつけたほどだった。

〈原作〉



家なき娘（上・下）
訳：津田 穣
発行：偕成社

〈原作者〉
エクトル・マロ
1830－1907

フランス北西部ルーアン近くのラ・ブイユ村に生まれる。劇作家を目指した後、小説家として成功。『家なき子』（1878年）は、マロが初めて書いた児童書『ロマン・カルブリス物語（海の子ロマン）』の成功をみた編集者に依頼されて書いた作品である。姉妹編の『家なき娘』En famille（1893年）も人気があり日本でも翻訳され紹介された。

当時のフランス産業と空想社会主義

――人に愛されるには、まず自分が人を愛さなくては――

マリの言葉は、『ペリーヌ物語』の根幹である。自分の幸せだけでなく、みんなの幸せを願うこと。秘書になったペリーヌは、その地位をみんなのために使う。託児所の建設は、まだペリーヌが孫と判明する前に進言したことだ。

『家なき娘』を書くため、マロは工場などを取材し、実態を詳しく調べた。当時の労働者の実情は、大きな社会問題になっていたのである。フーリエやオーウェンなど、社会保障に目を向け、社会全体が幸せになる考えを提唱した学者もいた。後に空想社会主義と称されるその思想は、具体的な解決策を挙げられない一種のユートピア論ではあったが、『家なき娘』はマロがその思想に共鳴して生まれた作品なのだ。

ペリーヌのキャラクターデザイン

『ペリーヌ物語』のキャラクター・デザインは関修一氏。彼は世界名作劇場では、『トム・ソーヤーの冒険』、『ふしぎな島のフローネ』、『南の虹のルーシー』など数多くのキャラクターデザインを手がけているが、その最初の作品になったのが『ペリーヌ物語』だ。

それまでも日本アニメーションの他の作品に数多く参加している関氏だが、初めての名作劇場にはさすがに緊張したという。努めて初期の名作劇場の絵に似せて、森康二氏や小田部羊一氏の丸いキャラクターラインを出そうとしたそうだ。後に関氏は「あの頃は緊張でガチガチだった」と、語った。本来の画風は翌年の作品『トム・ソーヤー』で存分に発揮されることになる。



やってくれたフィリップ弁護士

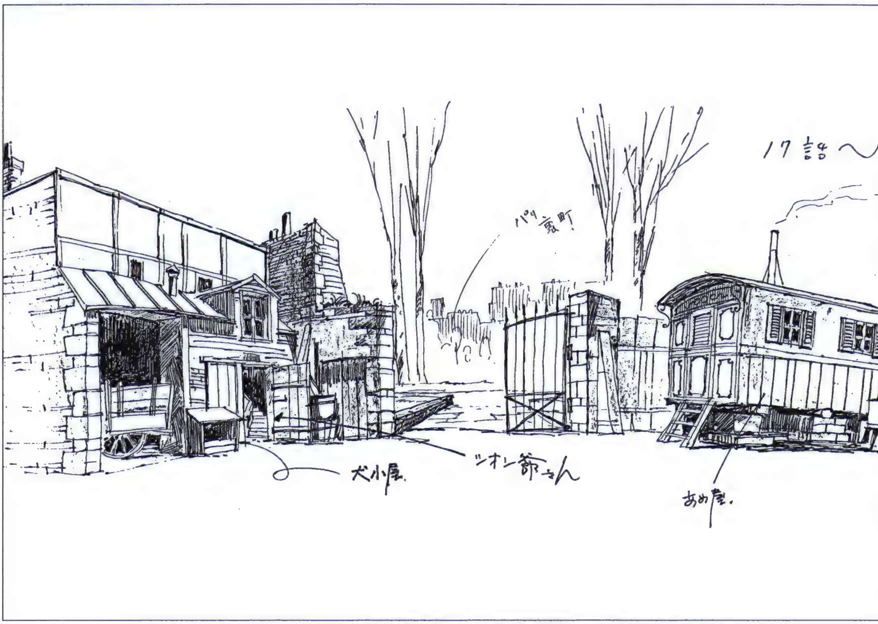
『ペリーヌ』クライマックス（49話）を盛り上げたのは、なんといってもフィリップ弁護士である。コロンボよろしく、鮮やかなテクニックでオーレリィ（ペリーヌ）を誘導する。

「……パリではパリカールに会ってきました。とても元気でしたよ」
「まあ、パリカールに?」
「はい、それにあの、男のような格好をした女の人で、ええと……」
「ルクリおばさん!」
「そう、ルクリさん。あの方がよろしくとの事でございます。…ペリーヌ様」
「!!」（はっとするペリーヌ）
「これが私の最後の調査であります」

凄腕である。彼は勘を働かせ、事前にオーレリィに犬の名を尋ねている。誰もが一目で覚えてしまうほど個性的な犬を連れていたからだ。フィリップ弁護士は「バロンという変な顔の犬を連れた女の子」の足跡をたどる事で、オーレリィとペリーヌが同一人物であると突き止めたのである。バロンにも感謝!



Gallery



シモン荘（中庭から入り口方向を見る）／井岡雅宏

メインスタッフ

脚本	宮崎晃／佐藤嘉助／加藤盟
音楽	渡辺岳夫
場面設定	坂井俊一
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	斎藤博／富野喜幸／高畑勲／池野文雄／黒田昌郎
作画監督	小川隆雄／櫻井美知代／村田耕一／百瀬義行
美術監督	井岡雅宏
録音監督	浦上靖夫
プロデューサー	中島順三／松土隆二
演出	斎藤博／腰繁男

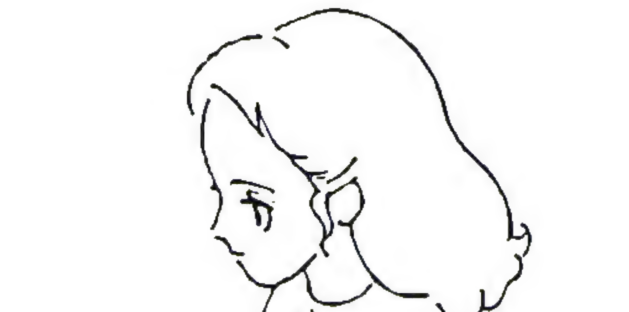
オープニングテーマ「ペリーヌものがたり」
作詞：つかさ圭
作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士
歌：大杉久美子

エンディングテーマ「気まぐれバロン」
作詞：つかさ圭
作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士
歌：大杉久美子



プリンセス
小公女セーラ

A Little Princess SARA

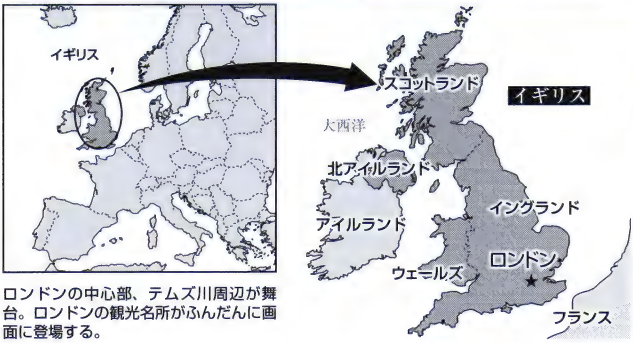


小公女(プリンセス)セーラ



放映期間	1985/01/06～1985/12/29
話数	46話
原作	フランシス・ホジソン・バーネット「小公女」
備考	85年厚生省児童福祉文化奨励賞受賞

物語の舞台



ロンドンの中心部、テムズ川周辺が舞台。ロンドンの観光名所がふんだんに画面に登場する。

History

イギリスが絶大な権力を誇ったビクトリア時代を背景に、当時の富裕層と貧困層の暮らしを切り取る。植民地インドも背景として登場。

19C	1802	イギリスで労働基準法成立
	1825	ヨハン・シュトラウス2世生まれる
	1833	イギリス工場法（子どもの労働時間制限）
	1837	ビクトリア女王即位（英）
	1859	ビッグベン完成
	1863	ロンドンで地下鉄開通
	1868	明治維新（日）
	1869	スエズ運河開通
	1877	イギリス領インド帝国成立
	1889	ホテルサヴォイ開業、イギリス児童虐待防止保護法
	1899	ヨハン・シュトラウス2世没
20C	1901	ビクトリア女王没（ビクトリア時代終わり）
	1914	第1次世界大戦（～1918）
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦（～1945）
	1940	ロンドン大空襲
	1947	インド独立
	1952	インド共和制へ移行
	1974	コヴェントガーデンの市場移動へ
	1993	EU 発足
21C		

ストーリー解説

19世紀も終わりに近づいた霧深いロンドン。レディとしての教育を受けるため、遠いインドからミンチン女子学院に入学することになったセーラ・クルー。聡明で優しく誰とも分け隔てなく接するセーラは、すぐにみんなの人気者になった。一方で院長のミンチンは、何不自由なく育ってきたセーラに妙なねたみを覚えていた。また代表生徒の座を奪われたラビニアも、面白くない。

そんなセーラの11歳の誕生日に悲劇が降りかかる。セーラの父が破産し、亡くなったというのだ。その日からセーラの待遇は一変する。屋根裏に追われ、メイドとしてこき使われることになったセーラ。辛い毎日を励まし支えてくれたのは、同じメイドのベッキーだった。ところが隣家にインドから来た紳士が引越してきてから、セーラの周りで不思議なことが起こり始める。

1885年

冬
- セーラ、中途入学

早春
- セーラ11歳の誕生日
- セーラの父ラルフ死去
- メイドの生活へ

5月
- ラビニアが特別室へ移る
- ラビニア誕生日
- 年少組のフランス語の先生に

7月
- 夏休み
- 隣に謎の紳士が引越してくる

9月
- ガラス割り事件
- セーラ大病、魔法始まる

10月
- セーラ、馬小屋へ

11月1日
- セーラ、学院から追放

11月2日
- セーラ、学院に戻る

11月3日
- セーラ、クリスフォードと遂に出会う

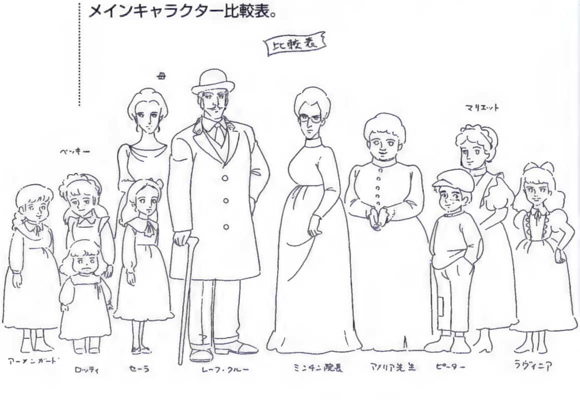
12月24日
- クリスマス会

1886年

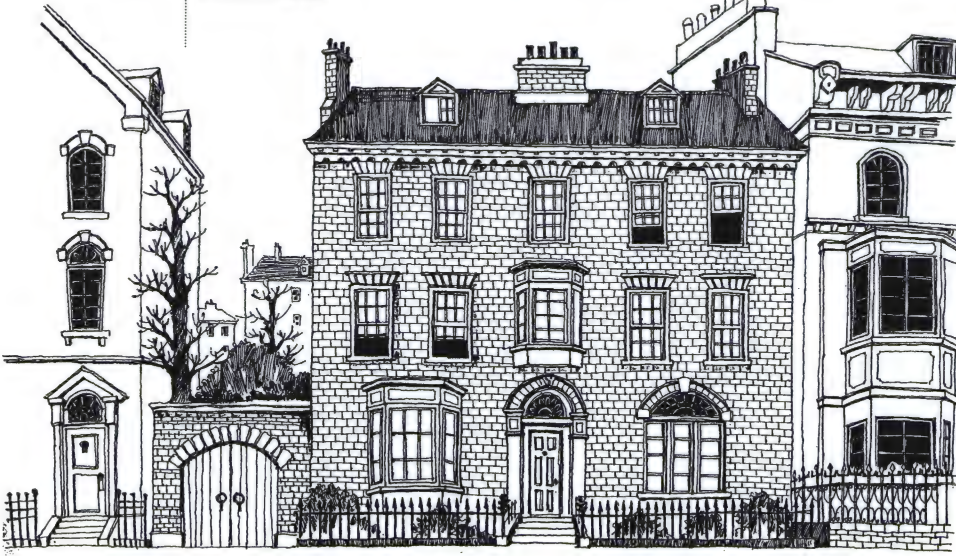
1月？
- セーラ、インドへ一時帰国

4月？
- セーラ、帰国予定

メインキャラクター比較表。



ミンチン女子学院。



キャラクター紹介



ラビニア・ハーバート
元代表生徒。プライドが高い上に意地悪。セーラを目の敵にする。アメリカ人。



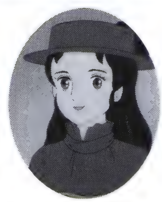
アーメンガード・セントジョン
ドジでのんびり屋の同級生。不器用ながらセーラを慕い陰ながら応援する。



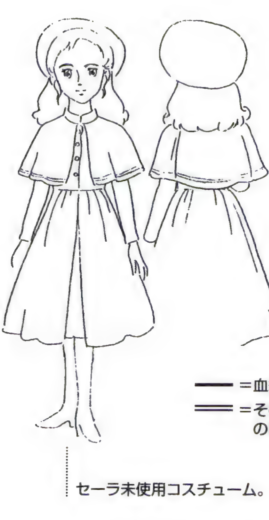
ミンチン
学院の経営に全てをかける院長。金の切れ目が縁の切れ目。性格も執念深い。



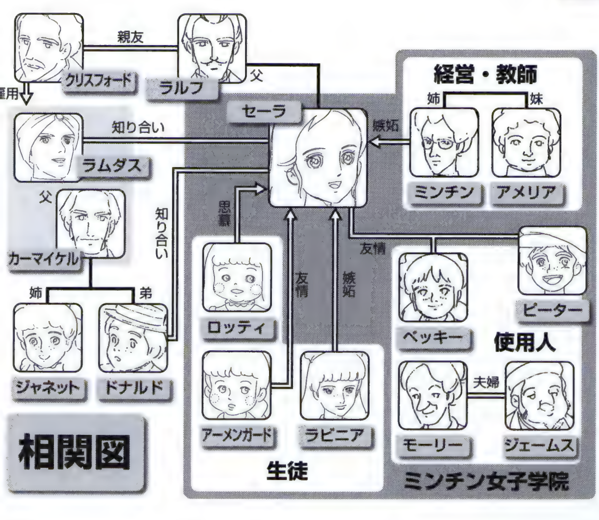
ベッキー
ヨークシャーから出稼ぎに来た貧しい娘。優しくしてくれたセーラに尽くす。



セーラ・クルー
聡明で優しく想像力豊かな少女。インド生まれで英語とフランス語が話せる。



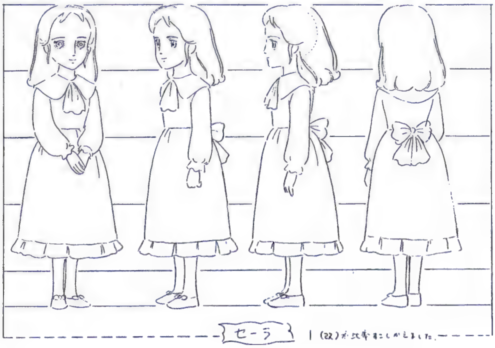
セーラ未使用コスチューム。



──＝血縁
＝＝その他の関係

セーラ・クルー

インドのお城のような屋敷で育った少女。父の故郷ロンドンでレディとしてのマナーを身につけるために渡英。4歳のときに亡くした母はフランス人でフランス語もネイティブ並。インド暮らしのため、挨拶ならインドの言葉もわかる。語学はもちろん、ダンスや作法も、入学前に身についていた。「誰かになったつもり」の空想ごっこが好き。10歳。（声：島本須美）







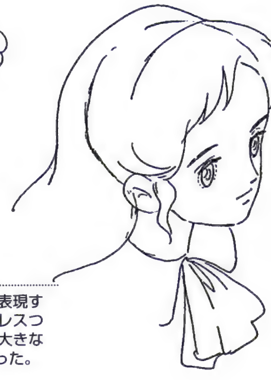


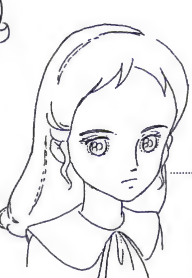
勉強はできるが実は口べたで社交辞令が苦手なため、ある種の人には反感を買ってしまう。



父がダイヤモンド鉱山を有していたことから、ダイヤモンド・プリンセスとあだ名される。







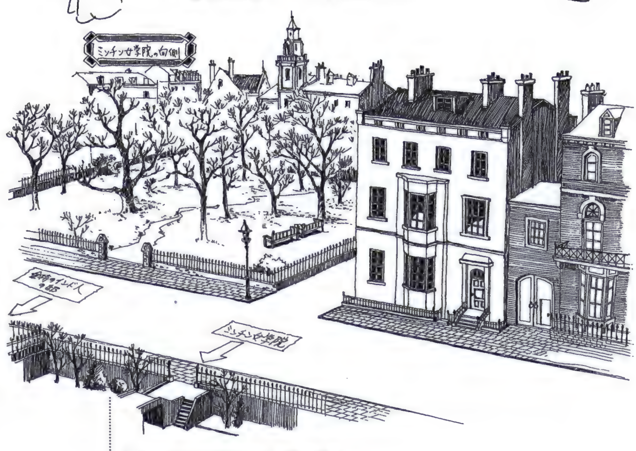
セーラは我慢強く、芯の強い少女。情熱家であるが、感情はあらわにしない。これも育ちの良さから来るのだろう。

セーラのつややかな黒髪を表現するため、名作劇場初の色トレスつきの髪となる。星の入った大きな瞳も大きなインパクトがあった。

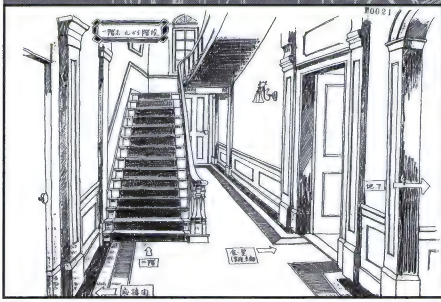




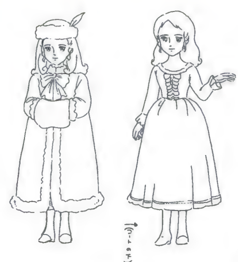
父曰く「小さなオオカミ」のように新しい本に飢えている、という本の虫。しかも読むのは大人向けの歴史や詩の本。



ミンチン女子学院向かい側の風景。



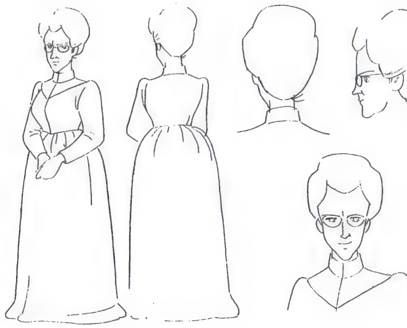
▲ミンチン女子学院の1階ホール。セーラの目から見る学院の第一印象が、ていねいに描かれていた。



セーラ初登場のドレスとコート。まさにプリンセスの貫禄。

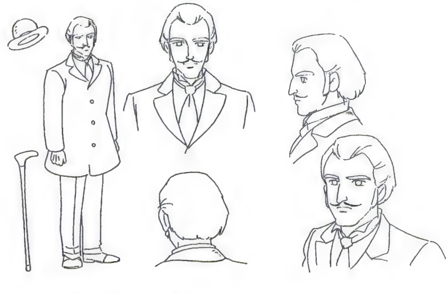
1話。主役のセーラはなかなか顔を見せない。どんな少女なのかと期待が高まる演出である。





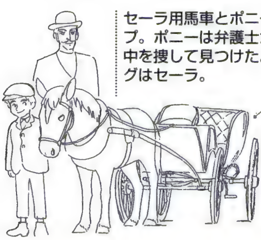
ミンチン

ミンチン女子学院の院長。お金にうるさく性格もキツイ。オールドミス。弱きをくじき強きを助ける、わかりやすい性格。入学当初よりセーラに反感を持つ。弱点は権力とフランス語。幼い頃両親を亡くし叔母の家で働きながら慈善学校を卒業。住み込みの家庭教師を経た苦労の生い立ちを持つ。（声：中西妙子）



ラルフ・クルー

セーラの父でロンドン生まれ。セーラの将来のためにミンチン女子学院を選ぶが…。セーラを大変可愛がり「私の小さな奥さん」と呼ぶ。（声：銀河万丈）

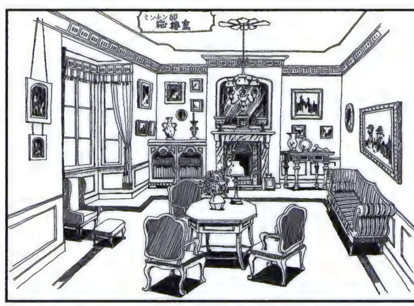


セーラ用馬車とポニーのジャンプ。ポニーは弁護士がロンドン中を捜して見つけた。ネーミングはセーラ。



オウムのボナパルト。半分フランス人のセーラらしいネーミング。

「セーラ」としかいわない。



▲応接室。1話でランプシェードに映りこんだミンチンが怖い。

ストーリー紹介 1～4話

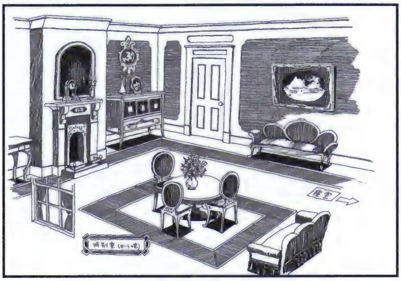
1話 ミンチン女子学院
インドで育ったセーラ・クルーは寄宿学校へ入るため、父とロンドンにやってきた。寄宿学校の院長ミンチンはお金持ちの娘セーラを特別待遇で迎える。

2話 エミリー人形
セーラはまだ出会っていない理想の人形にエミリーと名前を付けていた。父がインドへ旅立つ日、ふたりはロンドンの街の中をエミリーを探して回る。

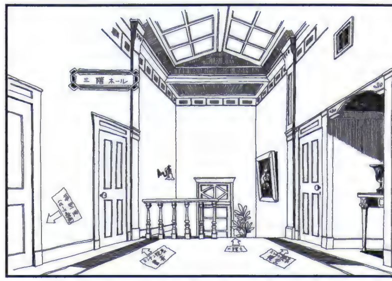
3話 はじめての授業
初めての授業はフランス語だった。セーラが困惑するのを見たミンチンは、フランス語が苦手なのだと思いこむ。ところがセーラは流暢なフランス語で話し始め、皆を驚かせた。

4話 親友アーメンガード
クラスメイトのアーメンガードはフランス語が大の苦手。セーラはラビニア達にからかわれ、落ち込むアーメンガードを自分の部屋に招待する。

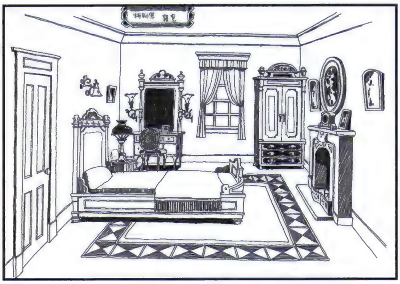
名作メモ　ミンチン女子学院の英語表記はMiss Minchin Select Seminary for Young Ladies.



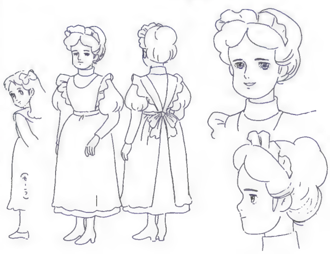
▲セーラの部室。めいっぱい豪華にしたつもりが、セーラ父に質素とケチつけられる。



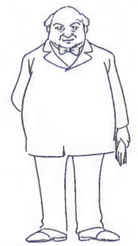
▲セーラの部室は3階のミンチンの部屋の向かい側。ミンチンの「目が届く」ということである。天窓があり自然光が入る。



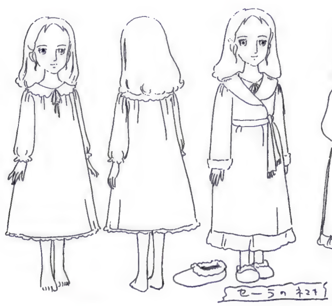
▲居間に続く寝室。左のドアは浴室。ベッドの上に額縁があったのを弁護士が移動指示。理由は「お嬢様の上に落ちたら大変」だから。



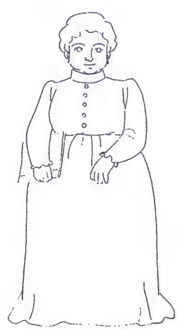
マリエット
セーラ専用のメイド。若いがベテランで、原作ではフランス人という設定。（声：高木早苗）

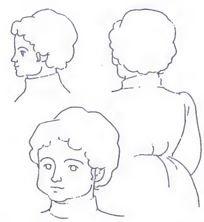


バロー
弁護士。セーラの父の財産管理人で債権者。金の切れ目が縁の切れ目の現実家。ラルフにミンチン女子学院を推薦した。（声：藤本譲）



セーラの寝間着とガウン。セーラの持ち物は全て高級な舶来品で数もダース単位で注文。アメリアを羨ましがらせる。





アメリア
ミンチンの妹。心優しいが優柔不断で、何事につけて姉の顔色を伺い、逆らえない。オルガン担当。流行に敏感で姉に隠れておしゃれをしている。（声：梨羽由記子）

ストーリー紹介 5～8話

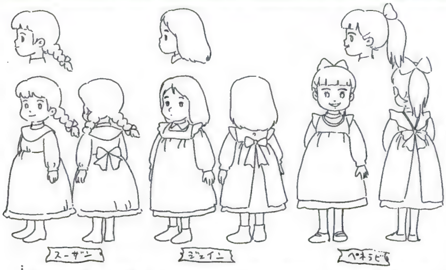
5話 泣き虫ロッティ
学院で一番小さなロッティは大の泣き虫。ある日、ミンチンに注意をされたロッティは学院から姿を消してしまう。ロッティは近くの公園で見つかるが……。

6話 灰かぶりベッキー
学院にベッキーという少女がメイドとして雇われてきた。仕事に不慣れなベッキーは何をやっても失敗ばかり。セーラはそんなベッキーを気遣うのだった。

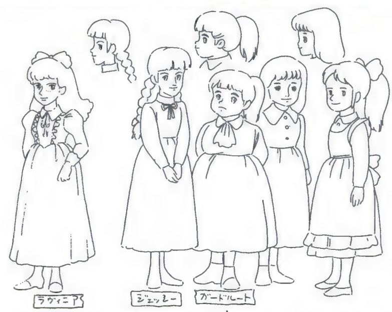
7話 代表生徒
日曜日、ミンチンはセーラは列の先頭に立って教会に行くように言う。さらに市長夫人の視察に際し、セーラを代表生徒に決めた。おもしろくないのはラビニアだった。

8話 親切なお嬢様
セーラは働きづめのベッキーのことがずっと気になっていた。ある日、セーラが部屋に戻ると、掃除の途中で疲れて眠り込んでしまったベッキーがいた。

名作メモ ベッキーの起床時間は朝5時、仕事の終わりは深夜0時過ぎで、その間仕事詰め。なんと19時間労働である。

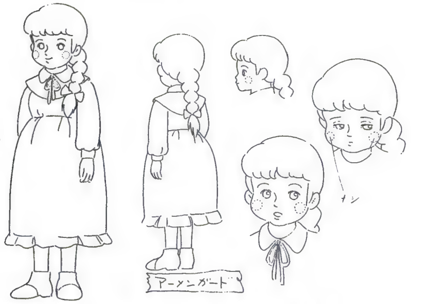


左から軍人の娘スーザン、工場長の娘ジェイン、医者の娘ペネラピ。みな裕福な家庭の子女である。



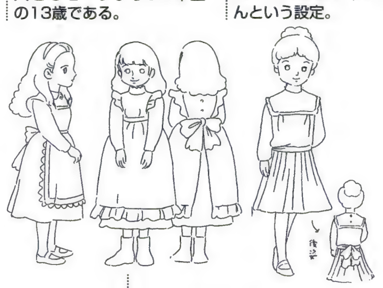
ラビニアとその取り巻きジェシーとガードルート。3人ともセーラより3つ年上の13歳である。

奥のドルシラは父が炭坑の重役の娘、手前のダイアナはおしゃれさんという設定。

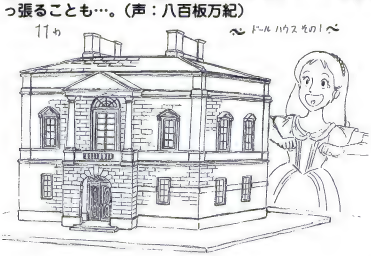


アーメンガード・セントジョン

ジェシー曰く「学院一ののろまさん」。父は大学教授で7、8カ国語を話すが、勉強苦手な彼女はフランス語さえ重荷。頭脳は叔母ゆずりらしい。忘れっぽく不器用だが、心優しい少女。セーラを慕うが、それが時にセーラの足を引っ張ることも…。（声：八百板万紀）



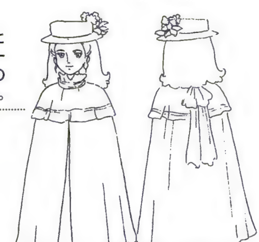
左から不思議の国のアリスのようなリンダ（鉄道会社の技師長の娘）、クリステル（マンチェスター出身）、右はいたずらっ子ジェニファ。ただし、いたずらシーンは一度も登場しない。



セーラもびっくりのドールハウス。父から贈られた11歳の誕生祝い。ただし代金はバロー弁護士立て替え。結局セーラは一度も遊ぶことはなかった…（11話）。



教会に行くときの紫のコート。セーラの一番上等な服。



セーラ外出着。白い毛皮と赤地の温かそうなサンタカラー。コートだけで何種類ものバリエーション有り！

ストーリー紹介 9～12話

9話 インドからの手紙
代表生徒になってからも優しいセーラは慕われていた。セーラはみんなが仲良くなれるようにとお茶会を企画する。そこにインドからの手紙が届いた。

10話 二つのプレゼント
ダイヤモンド鉱山の話に喜ぶミンチンは、セーラの誕生日に豪華な服を買った。一方ベッキーは自分の大切なショールを切って作った針刺しをセーラに贈る。

11話 プリンセスの誕生日
セーラの誕生日。学院では盛大に誕生パーティが開かれていた。そこへバロー弁護士が来て、ミンチンにセーラの父が事業に失敗した上、死んだと告げる。

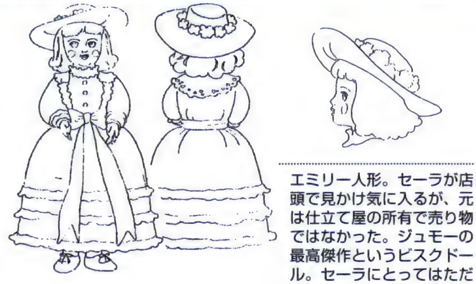
12話 屋根裏の暗い部屋
一文無しになったセーラ。いったんは学院から追い出そうとするミンチンだったが、学院の評判を落とすまいと、セーラをメイドとして置くことにする。

名作メモ ベッキーが贈ったセーラへの誕生プレゼントは、祖母のショールを切って作った針刺し。

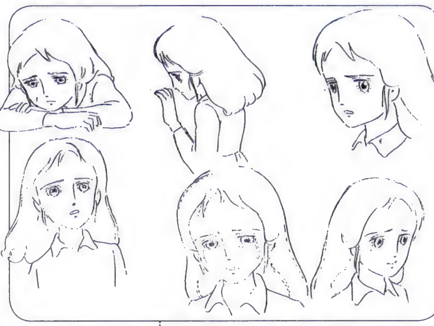


ベッキー

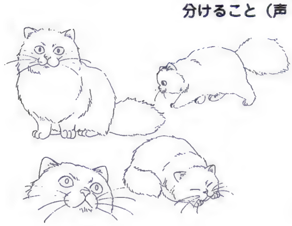
ヨークシャーなまりの田舎娘。父を亡くし稼ぎ頭としてロンドンに出てきた。セーラを健気に慕い続ける姿はいじらしい。特技は棒石けんを見分けること（声：鈴木みえ）。



エミリー人形。セーラが店頭で見かけ気に入るが、元は仕立て屋の所有で売り物ではなかった。ジュモーの最高傑作というビスクドール。セーラにとってはただ一つの父の形見となる。



12話以降のセーラ。表情が一段と暗い。

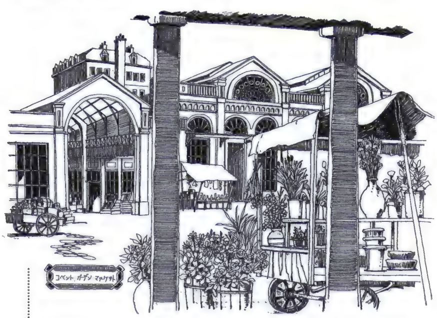


シーザー

ペルシャ猫。学院の飼い猫のようだが、ミンチンからは嫌われている。飼い主は不明。



母がまだ元気な頃カシミールの別荘で撮影したもの。この写真とエミリーだけがセーラに残された。

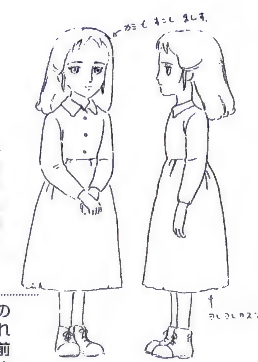


コヴェントガーデン。「マイ・フェア・レディ」でもおなじみ、ロンドンにあった実在の青果市場。現在は人気の観光マーケット。





セーラの買い物姿。賢いセーラはおつりを間違えないため買い物に関しては重宝される。



12〜43話までのセーラ。与えられたボロ服は、以前学費が払えず辞めた生徒のお古。

ストーリー紹介 13〜16話

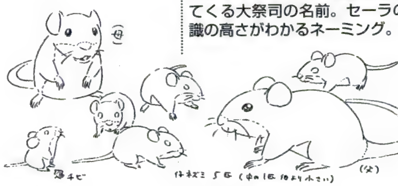
13話 つらい仕事の日
ミンチンはセーラをモーリーの元へ連れて行き、ベッキーと同じように働かせるように言う。それはセーラにとってつらい仕事の日々の始まりだった。

14話 深夜のお客さま
メイドになったセーラにラビニアは辛く当たる。そんなセーラの姿にアーメンガードはひとり心を痛めていた。その晩セーラが屋根裏部屋に戻ると、そこにアーメンガードが待っていた。

15話 街の子ピーター
初めてお使いに出され、市場に来たセーラは、そこでお金を盗られてしまう。途方に暮れるセーラの前に市場の手伝いにきていたピーターが声をかけた。

16話 ロッティの冒険
ある晩怖い夢を見たロッティは、勇気を出してセーラがいる屋根裏への階段を上がった。久しぶりにセーラと話せたロッティは、ようやく安心してセーラのベッドで眠るのだった。

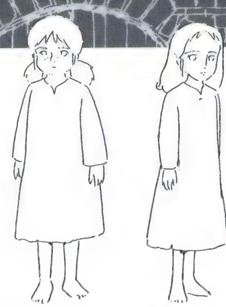
名作メモ 15話冒頭でセーラがオカリナで吹く曲は挿入歌「水色の空へ」。歌そのものも42話で流れる。



メルキゼデクとは、旧約聖書に出てくる大祭司の名前。セーラの学識の高さがわかるネーミング。



屋根裏のネズミ一家メルキゼデク。子ネズミ（森康二氏デザイン）がラブリー！

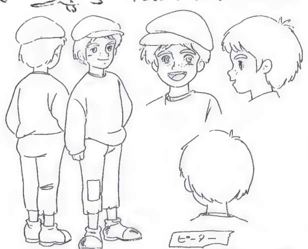


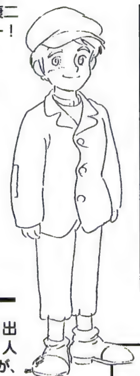
セーラとベッキーの寝間着。ミンチンがくれたボロしかないセーラにベッキーが寝間着をかしてくれた。



ロッティ

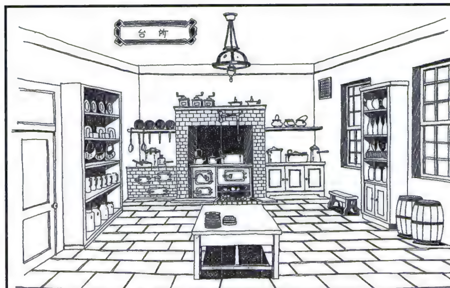
泣き虫ロッティ。4歳。「だってママがいないもん」が口癖。セーラをママと慕う。（声：渡辺菜生子）





ピーター

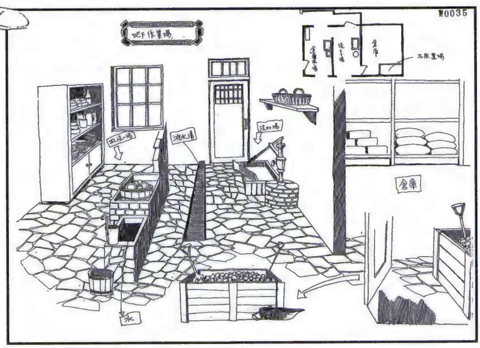
怪我をした父に代わりセーラの御者を願い出た。セーラ没落以後は、学院外の強力な助っ人となる。15話で「セーラ」と呼んでみせるが、その回限りであった。（声：坂本千夏）



▲台所。モーリーとジェイムスの居城。ジェイムズは調理担当だがモーリーは小言担当？



モーリー（声：向殿あさみ）とジェームス（声：郷里大輔）学院の料理人。性格は悪いが夫婦仲は妙に良い、悪のおしどり夫婦。



▲セーラの仕事場のひとつ地下作業場。皿洗い場と石炭置き場、洗濯場がある。夏はともかく冬は寒く厳しい環境。

ストーリー紹介 17〜20話

17話 小さな友メルの家族

ネズミのメル一家のために、セーラにお土産を持っていく約束したアーメンガード。だが朝食のパンを持ち出そうとしてラビニアに見つかってしまう。

18話 悲しいメイポール祭

メイポール祭の日。セーラとベッキーは朝から何も食べる暇がないほど忙しい。お使いの帰り道、セーラは小さな男の子からお金を恵まれショックを受ける。

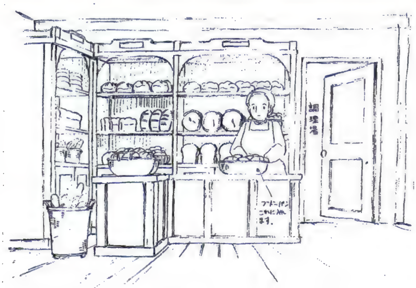
19話 インドからの呼び声

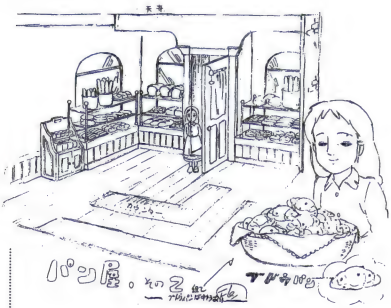
セーラが以前父に宛てて書いた手紙が戻ってきた。父の死について詳しく知りたいというセーラの願いを知ったピーターは、インドの警察に手紙を出すことを思いつく。

20話 謎の特別室生徒

ラビニアのセーラやベッキーへの仕打ちは厳しくなるばかり。そんなとき、セーラは特別寄宿生室の掃除を言いつかる。新しい特別寄宿生はラビニアだった。

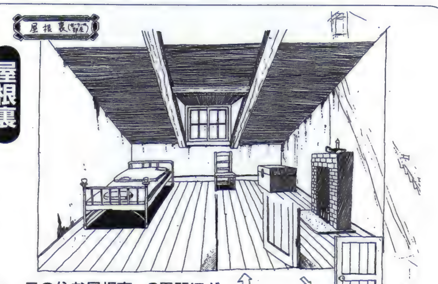
名作メモ インドまで当時手紙で往復50日かかる。セーラはインド行きの船の船員に父の消息を尋ねる手紙を託す。



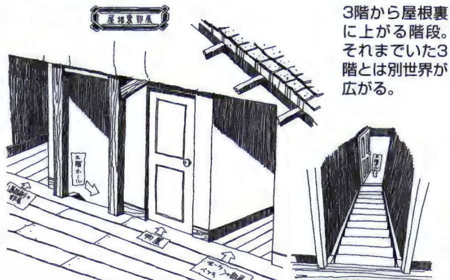


セーラが4ペンス銀貨を拾ったのはパン屋の店先。優しい夫婦が切り盛りする。焼きたてブドウパンが美味しそうである（23、46話）。

屋根裏

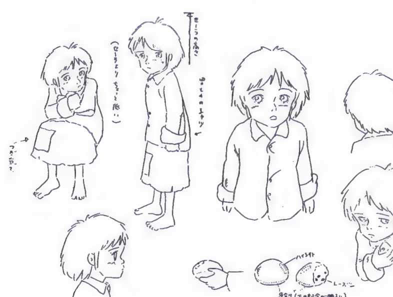


セーラの住む屋根裏。8畳間ほどあり、意外と広い。天井も高いので、窓から外を見るときは机の上にイスを置く。



3階から屋根裏に上がる階段。それまでいた3階とは別世界が広がる。

屋根裏にはセーラとベッキーの居室の他、物置もある。



アンヌ パン屋の前にいた少女。もう何日も食事をしてなかったようだ。セーラの行為がきっかけで運命が変わる。（声：本多知恵子）



屋根裏のパーティで、セーラの想像の中のドレス姿。ベルサイユ宮殿の侍女という設定である。出てきたマリー・アントワネットらしき人影は…。

ストーリー紹介 21～24話

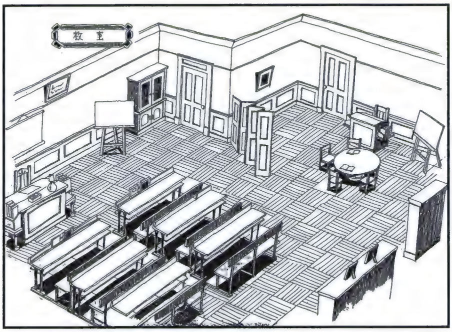
21話 涙の中の悲しみ
セーラの態度が悪いと注意を受けたジェームスは、セーラの買物に難癖をつけ、再度市場へ行かせる。だが雨が降り始め、市場は終わって閑散としていた。

22話 屋根裏のパーティー
アメリア先生が留守の晩、アーメンガードとロッティが屋根裏部屋にやってきた。セーラ達が空腹だと知ったアーメンガードはお菓子を持ってくるという。

23話 親切なパン屋さん
屋根裏のパーティがミンチンに見つかって以来セーラ達はずっと食事を減らされていた。空腹で倒れそうなセーラは道で銀貨を拾う。そこはパン屋の目の前だった。

24話 エミリーの運命
ラビニアの誕生日。ラビニアはセーラからプレゼントという名目でエミリーを取り上げてしまう。そんなラビニアに抗議の声を挙げたのはロッティとアーメンガードだった。

名作メモ アーメンガードの父が送ってきた本はカーライル著の「フランス革命史」。アーメンガードには難しすぎ（22話）。



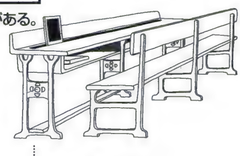
▲学院の教室。設定画面右上には年少組のためのスペースがある。



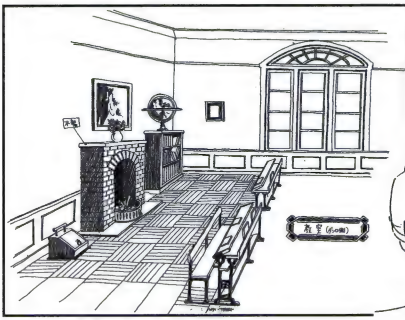
転んだセーラを思わず助けるバッキンガム宮殿の衛兵。彼らは本来何があっても動いてはいけないのである。



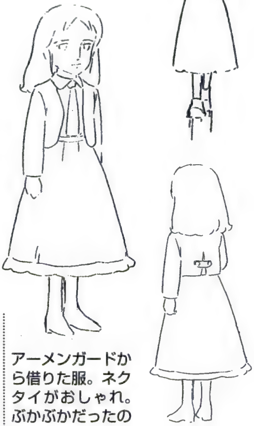
雨の日のセーラ。イギリスといえば傘。セーラの傘も正しいこうもり傘である。



教室の机とイス。



▲教室の後ろにある暖炉。ベッキーがセーラの物語に夢中で聞き入った場所だ。



アーメンガードから借りた服。ネクタイがおしゃれ。ぶかぶかだったのでは？



ミンチン表情集。人相はその人自身を表すというが…。



アメリアの話から苦労人だとわかるが、学院経営までの道はどれほど厳しかったことだろう。



デュファルジュ

フランス語担当の先生。故郷は南フランス。セーラのよき理解者。ラビニアの告げ口で学院を辞めさせられる。口癖は「オーノンノン」。（声：上田敏也）



ロンドン市長夫人。フランス語が堪能なセーラに関心を示す。ロンドン市長夫人が訪問するほどミンチン女子学院は有名なのだろうか？（声：花形恵子）

ストーリー紹介 25～28話

25話 一日だけのシンデレラ

市長夫人がまた学院の視察に来ることになった。市長夫人はセーラが大のお気に入り。そこでミンチンはセーラに視察の間だけ代表生徒の代わりをさせることにする。

26話 年少組の小さな先生

市長夫人の進言でセーラはロッティ達年少組にフランス語を教えることになった。授業中お話を聞かせていたセーラをミンチンは授業をしていなかったとして平手打ちする。

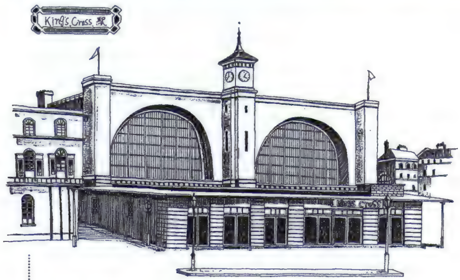
27話 デュファルジュ先生の帰国

フランス語の宿題でデュファルジュ先生に恥をかかされたと逆恨みしたラビニアは、ミンチンにデュファルジュ先生がセーラをひいきしていると訴える。

28話 夏休みの大騒動

夏休みの帰宅を前に生徒達は浮かれている。だがロッティだけはセーラのいない家には帰りたくないと言ってセーラを困らせていた。

名作メモ　セーラが年少組に読んだのはアルフレッド大王の物語。大王は英国に初めて学校を作ったという人気の高い王。

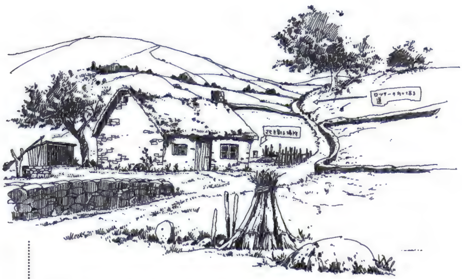


セーラがベッキーを見送るキングスクロス駅。
現在もヨークシャー方面行きの列車はここから出る。

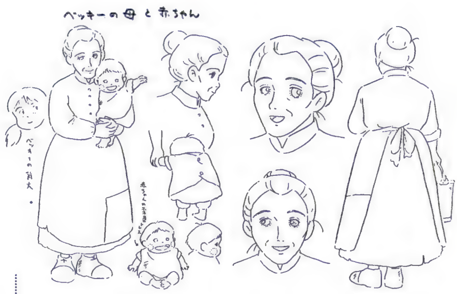


田舎から出てきたときのベッキーの服。これが精一杯の一張羅。学院で出されたメイド服に「こんな立派な服ははじめて」と大喜びするほどだった。

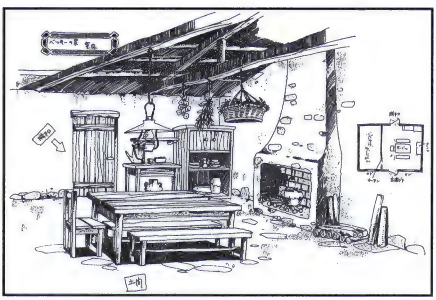
ベッキーの傘と籐のトランク。



ベッキーの故郷アッシュフィールド村。イングランド北部ヨークシャー地方にあると設定されている。



ベッキーの母。地主から借りたお金を返すため、野菜やアヒルの玉子、ラベンダーなどを売るが、なかなか生活は楽にならない。（声：榊原良子）



▲二間しかないベッキーの実家。床は土間で食堂の他はベッドルームがひとつだけ。



テディ
ベッキーの弟。牛の世話をしている。（声：伊倉一恵）

アーサ
ベッキーの妹。豚や馬の世話をする。（声：神代智恵）

ストーリー紹介 29〜32話

29話 ベッキーの里帰り
汽車を乗継ぎ、久しぶりに家族の元に帰ったベッキーは家族水入らずの幸せな夜を過ごす。屋根裏でひとりだけの寂しい夜を過ごすセーラを慰めたのはネズミのメル一家だった。

30話 インドから来た紳士
ある日、学院の隣の空き家に人が引越してきた。引越してきたのはインドの大金持ちだという。インドという響きに懐かしさを感じるセーラだった。

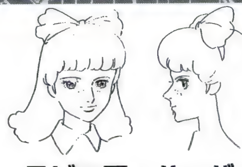
31話 屋根裏にきた怪物
隣の主人の病気のことが気にかかるセーラ。そんなとき、ベッキーが予定よりも早く戻ってきた。ところがベッキーは屋根裏で奇妙な叫び声を聞いて大騒ぎ。

32話 壁の向う側の秘密
夏のある暑い日、買い出しに出かけたセーラは以前お金をくれた少年と再会した。少年はこれから父とお見舞いに行くという。それは学院の隣の屋敷に住む病気の主人のところだった。

名作メモ　ベッキーの家族は母と祖母、弟妹、そして赤ちゃん。ベッキーが出稼ぎに出るのは口減らしでもある。



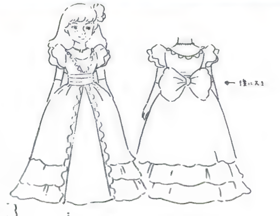
エミリーの前の持ち主であった仕立屋の店主。2話に続き10、34、41話にも登場。セーラに何かを感じ、事あるごとに親切にする。（声：神山卓三）



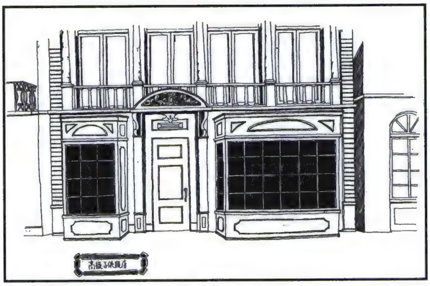
ラビニア・ハーバート

初登場時13歳。両親はアメリカ人。父は油田所有者で意外に正義漢。ラビニアは派手な母似か？（声：山田栄子）

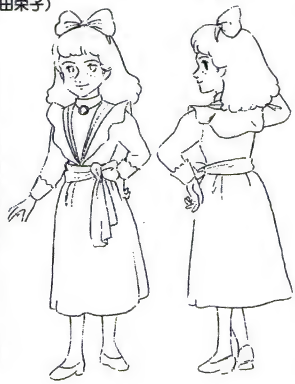




24話のバースデイパーティーのドレス。



▲子供服専門の仕立屋の全景。かつてエミリーはこの店の出窓に置かれていた。



34話からのラビニアの服。

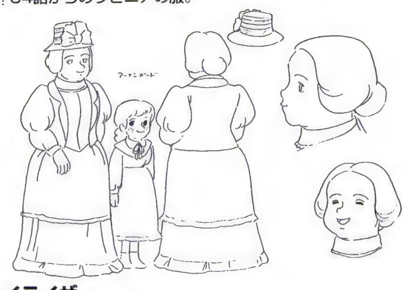


謎の特別寄宿生で現れるときの服。（20話）

ラビニアにとって意地悪は気晴らしであり退屈しのぎ。没落したセーラをいじめる理由は「落ち目になったのにちっとも堪えたふりをみせないから」。



ロンドンの外れにあるイライザの家。途中暗い森を抜けないとならず、夜は馬車が必須。趣味の薬草園が裏庭にある。



イライザ

アーメンガードの叔母。体型も物忘れっぷりもアーメンガードにそっくり。お人好しで薬草に詳しい。お菓子作りは得意だがピーターの名前は覚えない。（声：片岡富枝）

ストーリー紹介 33～36話

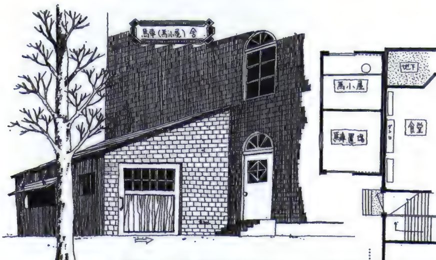
33話 新学期のいじわる
夏休みが終わり、学院に生徒が戻ってきた。ラビニアはさっそくセーラ達に因縁をつける。ラビニアはセーラを打とうとするが、セーラが振り払った拍子に窓ガラスが割れてしまう。

34話 嵐の中のつぐない
激しい雨の日、ラビニアの部屋に入り込んだシーザーがインク壺を倒し、ラビニアのドレスを汚してしまう。そこにいたセーラは、その責任を取らされる。

35話 消えそうないのち
セーラが高熱を出した。しぶしぶミンチンは医者に診せるが、セーラが伝染病だと聞いて大騒ぎ。心配するアーメンガードは郊外に住むおばのところに薬をもらいに行こうとする。

36話 魔法のはじまり
高熱を出したセーラはずっと眠り続けていた。クリスフォードの指示で屋根裏部屋の様子をうかがっていたラムダスはある計画を思いつく。

名作メモ ヤブ医者ワイルドの見立てによるとセーラはコレラ。学院中大騒ぎになる誤診であった。

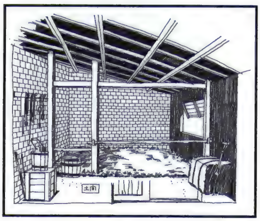


馬車舎。設備はあるものの、維持費がかかるためか女子学院には通常は馬車はない。セーラの馬車は特例。

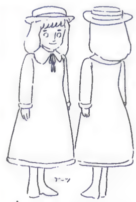
ミンチン女子学院・冬の装い



ミンチンとアメリアのコート。ちなみにミンチンの帽子は、その後路上に置き去りの運命。



▲セーラは自分の馬ジャンプのいた場所に、住むことになる（38〜42話）。



ドルシラ。41話で衝撃？のキスシーン有り。（声：津島瑞穂）



リンダ。中立派。（声：坂本千夏）

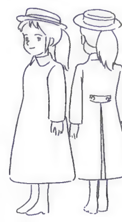
クリステル。中立派。（声：梨羽由記子）



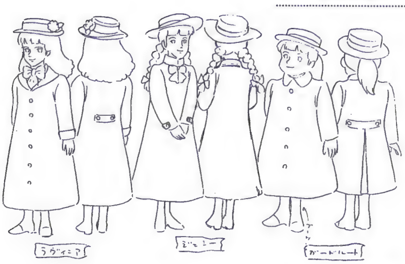
アーメンガードのコートは緑。



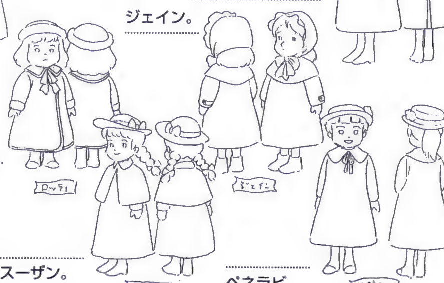
アップの髪ががわいいジェニファ。（声：神田和佳）



ダイアナ。ドルシラのお相手はこの子。中立派。当初ラビニアの一味という設定だった。



ラビニア一味。三つ編みのジェシー（声：中野聖子、飯塚はるみ）。ポニーテールのガートルード（声：佐々木るん）。共に時の権力者におもねる主義で、形勢によりラビニアを裏切る。その意味でラビニアは孤独な少女である。



ジェイン。

ロッティ。

スーザン。

ペネラピ。

ストーリー紹介 37〜40話

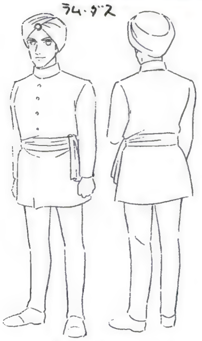
37話 屋根裏は大混乱
すっかり元気になったセーラはベッキーと市場へ買い出しに行く。一方、セーラのことが心配なピーターは煙突掃除になりすまして、学院に潜入する。

38話 こわされた魔法
セーラとベッキーの様子に不思議に思ったミンチンだが、その理由はわからずじまい。そしてその夜も、セーラ達が屋根裏部屋に戻ると、魔法のごちそうが用意されていた。

39話 馬小屋の寒い夜
ごちそうが見つかり、屋根裏部屋を追い出されたセーラは寒い馬小屋で朝を迎えた。ベッキーから事情を聞いたピーターがセーラに会いに来る。

40話 アメリア先生の涙
セントジェームス公園で池に落ちたアメリアは、腰を痛めてしまう。つきっきりで看病するセーラに、アメリアは姉ミンチンのひどい仕打ちを詫び、涙するのだった。

名作メモ ピーターの「お嬢さま俺の家に来てください」。これってかなり告白。でもセーラは精神論でかわしちゃう（39 話）。



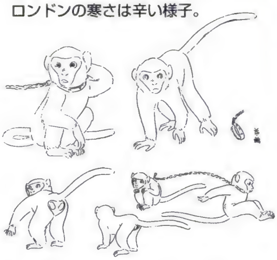
重い食器や料理を音も立てずに宙を飛んで運ぶ。運動能力抜群。

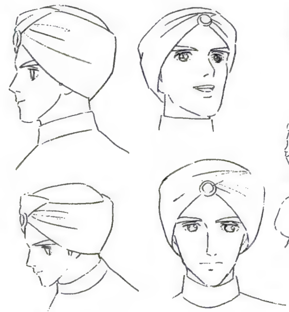


通常ターバンを身につけるのはインドのシーク教徒。ターバンの中には長い髪の毛が隠れている。

スーリャ

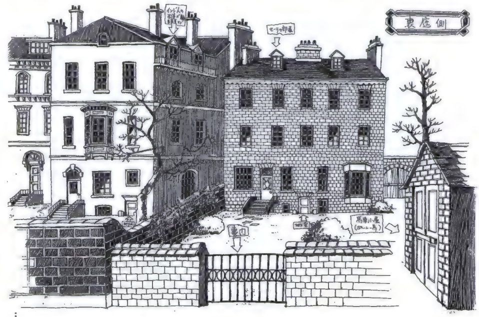
おそらくインド原産のサル。ロンドンの寒さは辛い様子。



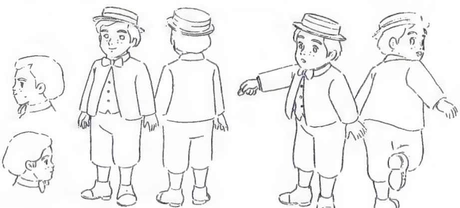


ラムダス

クリスフォードがインドから連れてきた青年。若いが執事も務める。英語も堪能。（声：田中秀幸）



ミンチン女子学院を裏庭からみたところ。セーラの屋根裏とスーリャのいる隣の窓の位置関係がわかる。



ドナルド

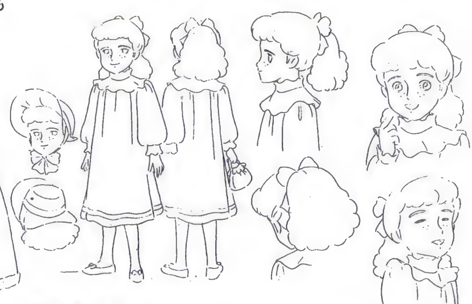
カーマイケルの息子で初登場は18話。セーラに6ペンスを恵む。善良で率直。思ったことをズケズケいうが悪意はない。（声：堀江美都子）



インド人の侍従達。英語はわからない。



カーマイケルの妻。
（声：佐々木るん）



ジャネット

ドナルドの姉。暴発気味の弟の抑え役。お嬢様育ちで常識派だけど、まだまだ好奇心は抑えられない子供年齢。原作にはもうひとりノラという姉妹がいる。（声：向殿あさみ）

ストーリー紹介 41〜44話

41話 妖精たちのパーティ
ハロウィンの夜、生徒達は楽しい時間を過ごしていた。妖精探しのゲームの最中、馬小屋に来たロッティはラビニア達に驚かされて、ランタンを投げ出してしまう。

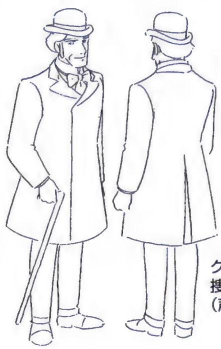
42話 雪の日の追放
馬小屋が火事になった。かろうじて逃げ出したセーラだが、ミンチンはセーラが火をつけたと責め立て、とうとうセーラは学院を追い出されてしまう。

43話 幸せの素敵な小包
自分の力で生きていこうとマッチ売りの仕事を始めたセーラ。そんなセーラをアメリアが迎えに来た。学院にセーラ宛の小包が届いたというのだ。

44話 おお、この子だ!
カーマイケルから報告を受けていたクリスフォードのもとに、逃げ出したスーリャを届けにセーラが訪ねてきた。セーラがインドの言葉を知っていると聞いて、クリスフォードは驚く。

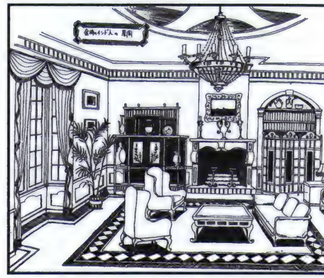
名作メモ ミンチンの過去は40話でついに明かされる。わずか3カットだが、三つ編にめがねの少女として登場。

カーマイケル





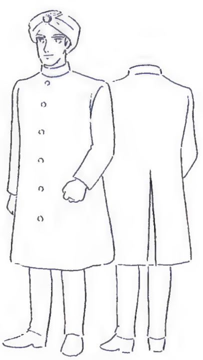
クリスフォードの顧問弁護士。ラルフの娘を捜し出すようにと依頼されていた。
（声：屋良有作）



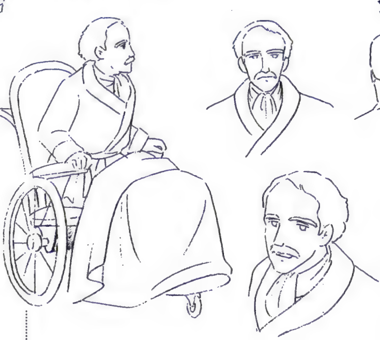
▲「ああっこの子だ」が印象深いクリスフォード邸の居間。

クリスフォード

クリスフォードはラルフの親友で共同出資者。ラルフの死後に発見されたダイヤモンド鉱山で再び大金持ちに。全てをラルフの娘に譲ろうと捜していた。
（声：仲村秀生）



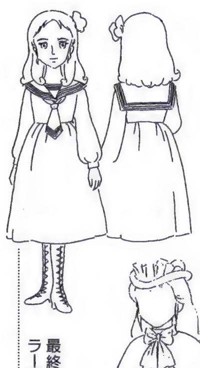
正装ラムダス。



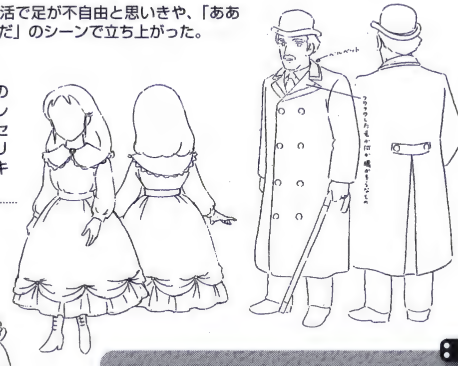
車いす生活で足が不自由と思いきや、「ああっこの子だ」のシーンで立ち上がった。



次第に彼の関心はラルフの娘のことよりセーラに向いてしまう…。



最終回のセーラー服。



右側の屋根裏の少女宛のドレス。もちろんセーラにピッタリサイズ。ベッキーの分は？



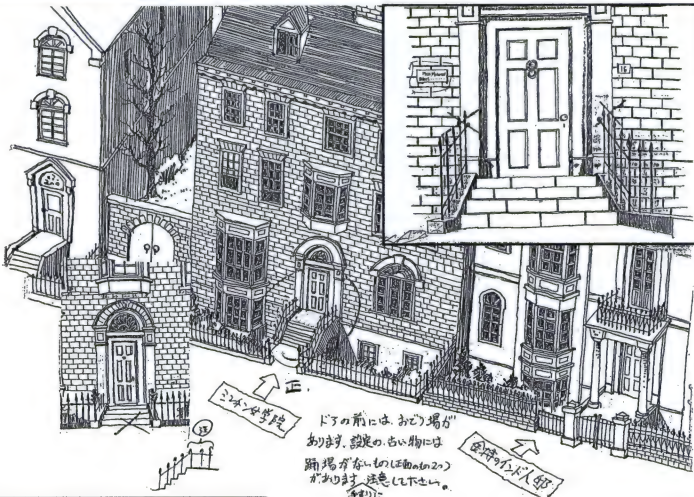
ラストで返り咲くプリンセス・セーラ。次々と豪華衣装が登場する。

ストーリー紹介 45〜46話

45話 ミンチン院長の後悔
セーラを捜して、クリスフォード邸を訪れたミンチンはそこでセーラが莫大な遺産の相続人になったことを知らされる。茫然自失で学院に戻ったミンチンを、今度はアメリアが厳しく責め立てた。

46話 また逢う日まで
クリスマスの準備で忙しい学院。だがクリスフォード邸での一件以来ミンチンはすっかり気落ちしていた。そこにセーラとクリスフォードが訪ねてくる。

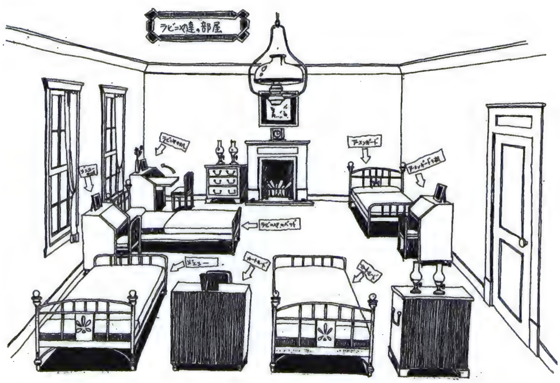
名作メモ　老けて見えるがクリスフォードはなんと30代である。しかも独身。



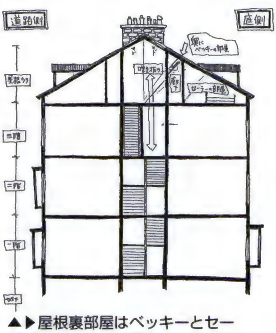
ミンチン女子学院を俯瞰で見た図。画面右側がクリスフォードの引越してくる家である。

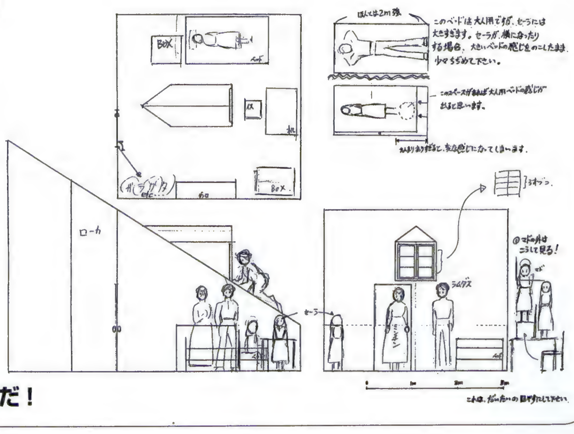
ミンチン女子学院は寄宿制

ミンチン女子学院は寄宿制の学校になっていて地階に生徒用の食堂、1階が学習スペース、2階より上が生徒の居室となっている。生徒は夏休み以外、ほとんどを学院内で過ごすことになる。100年以上前のロンドンでは、良家の子女はこうした小規模の私塾に入るのが一般的であった（男子はパブリックスクール）。その授業内容は主にダンスやマナーに関することで、あまり学問に比重を置かれなかった。ミンチン女子学院でも、地理や歴史の授業はあるが、やはり淑女教育が中心。社交でも重要なフランス語に力を入れており、それが目玉にもなっていたようだ。



▶2階のラビニアの居室。当初ラビニアは4人部屋。ストレスがたまりそうな集団ベッドという環境に甘んじていたのは謎。





▲▶屋根裏部屋はベッキーとセーラが使用。他の使用人は地階に居室がある。セーラ達の部屋は意外に広く16㎡ほどある。

特別図解 これが屋根裏部屋だ！

セーラのロンドン案内

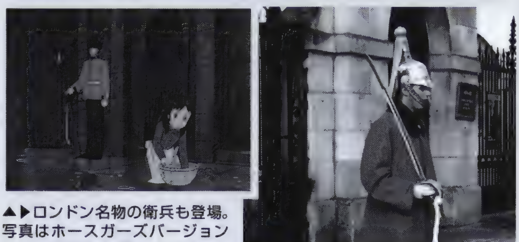
舞台は名作初のロンドン。そのためか『小公女セーラ』にはロンドン名物が次々登場。ロケハンのおかげで今もセーラの頃と変わらない風景を楽しめる。ところで1話のセーラ達、ホテルサヴォイを出た後、馬車はウォータールー橋近くと設定されているミンチン女子学院とは正反対の方向へどんどん進む。視聴者への観光サービスだったのだろうか?



▲▶「あれはウエストミンスター寺院ね」とセーラ。馬車はなぜかバッキンガム宮殿の方向へ!?



▲▶別れの日、セーラと父はセントポール寺院でお祈り。女子学院の生徒もここに礼拝に来る。



▲▶ロンドン名物の衛兵も登場。写真はホースガーズバージョンで、銃の代わりに剣を持っていた。



▶有名なビッグ・ベンも出て来る。鐘の音を聞いたセーラは本を読んで想像した通りと感激する。

イギリスの階級社会の壁は厚いか?



セーラは、父の死に伴いメイドへと身を落とす。だが、幸運なことにダイヤモンド鉱山は再び発見され、父の友人に探し出されたセーラは名誉も財産も取り戻した。

そこで気になるのはベッキーだ。お嬢様だった頃セーラは、ベッキーにこう言う。

「私もあなたも同じ女の子よ」

ベッキーはセーラが貧しくなったときも変わらずセーラをお嬢様と慕う。だが同じ立場になったセーラは「どちらも同じ女の子」を身をもって実践し、ふたりは本当の友情で結ばれたはずだった。

さて、セーラの復活に伴い、ベッキーは対等の友だちに昇格したか? 否である。

ベッキーの身分はセーラ専用に変わっただけで、相変わらずメイドではないか。ベッキーが辞退したのかどうかは描かれない。だが最終回、当たり前のようにベッキーは荷物を持ち、セーラもベッキーに「お嬢様」と呼ばせる。

イギリスの階級制度は、上流、中産、労働階級と現在でもはっきり分かれているという。

セーラの友情はあくまで上から下目線のものだったのか? セーラの育ったインドもそうだが、イギリスの階級社会の壁は厚いようだ。

「どんなことが起こったって、お嬢様はプリンセスさまなんです」



小公女になりたかった原作者・フランシス

比較的裕福な家庭に生まれたフランシスだったが、４歳のとき、父の急死によって、生活が一変する。高級住宅街から、川向こうの下町へ。お金の有無で分かれる明暗を、フランシスは終生忘れなかった。だが、どんなに貧しくとも〝小さなレディであること〟を繰り返し教えたのは母親だった。

心機一転を計って渡ったアメリカで母も亡くなり、フランシスは、大衆作家として妹達の生活を支えることになる。原稿の送料を野ブドウ摘みで稼がないといけない貧しさの中で、ロマンチストのフランシスは、どこかで自分の出席を待つパーティがあるに違いないと夢見続けていた。『小公女』は、そんな彼女の子供時代の自伝であり、夢物語なのである。

〈原作者〉
フランシス・ホジソン・バーネット
1849－1924

〈原作〉

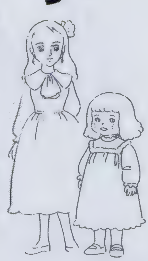


『小公女』
訳：伊藤 整
発行：新潮社

イギリス、マンチェスターの商人の家に生まれた。父の死後、生活苦からアメリカに渡り、家計を助けるために小説を書き始める。『小公女』の他、『小公子』、『秘密の花園』が今日知られているが、大人向きの小説も多数書いた。作家として大成功を収めるものの、長男の死、不幸な結婚など私生活は決して恵まれていなかった。

（原作者名表記はOPクレジットによる）

年齢の謎・原作セーラ



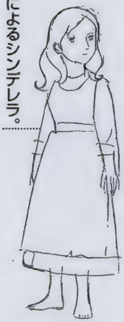
アニメはセーラ10歳で始まる1年間の物語。ラビニアはセーラより年上の13歳。中学生が小学生を本気でいじめたようなものだった。

原作ではセーラは7歳で入学。11歳の誕生日に父が亡くなり。13歳で復活する6年間の物語だ。ただしフランシスは年齢を計算しなかったのか、最後は10歳の筈のロッティが幼児のままで、ラビニアは20歳になってもまだ生徒だったりする。

レイアウト・森康二氏

オープニングにクレジットされている森康二氏は、東映長編アニメの名アニメーターであり、温かい絵柄と卓越した才能で、日本のアニメ界をリードし続けた人である。晩年目を悪くされ第一線を退かれたが、この『小公女セーラ』では、レイアウト構成という、アニメーションの要を担当している。

セーラの語るお話「シンデレラ」や若かりしミンチン、ネズミのメルなど、森氏自身が原画を描かれたものもあり、必見である。



森康二氏によるシンデレラ。

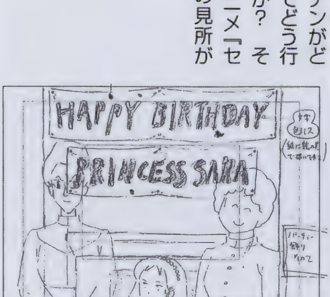
主役はミンチン！

監督の黒川氏は、『セーラ』の原作を読んで頭を抱えた。なにせ主役のセーラは、心であれこれ考えるけれど、ほとんど行動してくれない。これが文学とアニメーションの違いかも知れない。心のあり方を自分に問い続けるセーラは、何も動かないので絵にならないのだ。

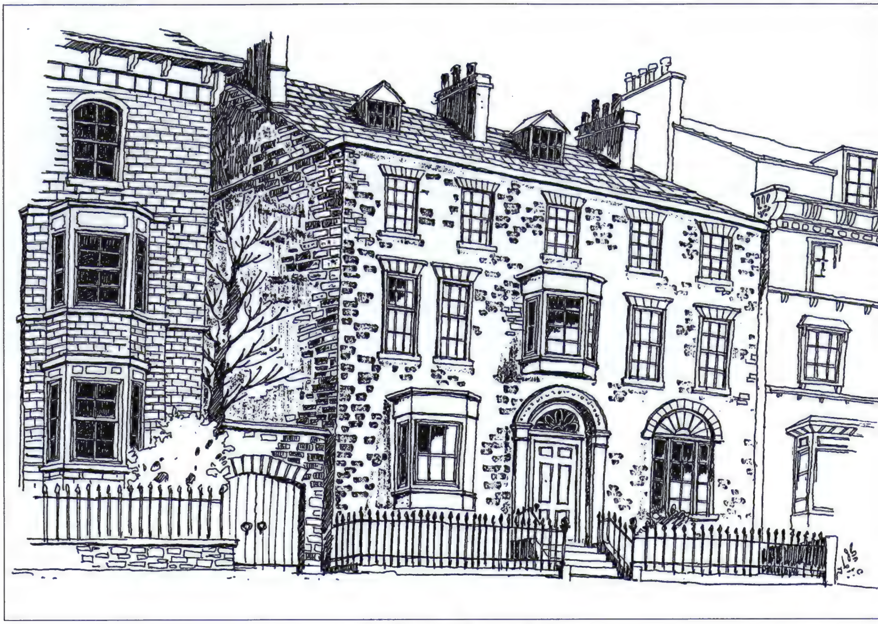
アニメーションで表現するのに、これでは何をどう描けばいいのだろう？　黒川氏は悩んだ挙げ句、ミンチンを主人公にしたらどうか、と考えた。学校にはたくさんの人物がいる。まずミンチンは彼らにどう対応するだろうか？　そこからストーリーが動き出す。ミンチンが動けばセーラも動かざるを得ない。

ミンチンを主人公に、女の性（さが）を描こうという発想は、当時のスタッフを驚かせた。だが斬新な発想は人気を呼び、名作劇場は再び高視聴率を取り戻す。

ミンチンがどう考えてどう行動したか？　そこにアニメ『セーラ』の見所がある。



Gallery



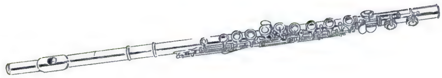
ミンチン女子学院／川本征平

メインスタッフ

脚本	中西隆三／椋露地桂子／鎌田秀美
音楽	樋口康雄
レイアウト監修	森康二
キャラクターデザイン	才田俊次
絵コンテ	黒川文男／黒田昌郎／楠葉宏三／鈴木孝義／坂本雄作／平林淳／腰繫男／矢沢則夫／岡部英二／鈴木幸雄／吉田健二郎
作画監督	大谷敦子／山崎登志樹／才田俊次／石井邦幸
美術設定	川本征平
美術監督	沼井信朗
撮影監督	森田俊昭
録音監督	小松亘弘
色指定・検査	宇野薫
演出助手	花井信也／斎藤次郎／山口武志
プロデューサー	中島順三
演出	黒川文男

オープニングテーマ「花のささやき」
作詞：なかにし礼
作曲：森田公一
編曲：服部克久
歌：下成佐登子

エンディングテーマ「ひまわり」
作詞：なかにし礼
作曲：森田公一
編曲：服部克久
歌：下成佐登子



小公子（しょうこうし）セディ

Little Lord Fauntleroy

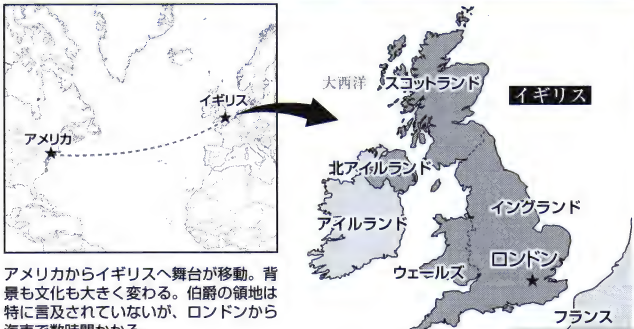


小公子(しょうこうし)セディ



放映期間	1988/01/10〜1988/12/25
話　数	43話
原　作	フランシス・ホジソン・バーネット「小公子」

物語の舞台



アメリカからイギリスへ舞台が移動。背景も文化も大きく変わる。伯爵の領地は特に言及されていないが、ロンドンから汽車で数時間かかる。

ストーリー解説

アメリカ・ニューヨークの下町ブルックリン。セディは7歳。明るく素直なセディは、みんなの人気者。そんなある日、大好きな父が急死する。悲しみにうちひしがれるセディと母アニーの元に、イギリスからの使者が驚くべき知らせを持って訪ねてきた。セディを伯爵家の跡継ぎに、迎えたいというのだ。

セディの将来を考えたアニーはイギリス行きを決意する。だが、ドリンコート伯爵は駆け落ちで結婚したアメリカ人のアニーを嫌い、セディと引き離してしまう。母と分かれて暮らすことにセディは動揺するが、やがて持ち前の快活さと純真さを取り戻し、周囲の人々の心をつかんでいく。そしていつしか頑固な祖父、ドリンコート伯爵の心も解けていった。

ところがセディの跡継ぎ披露パーティの夜、本当の跡継ぎが現れたと知らせが入る…。

1890年

春
- ビーヴィス死亡
- 家族でイギリス訪問

5月頃
- セディ、祖父に手紙書く
- ジェイムズ発作起こす
- ジェイムズ亡くなる

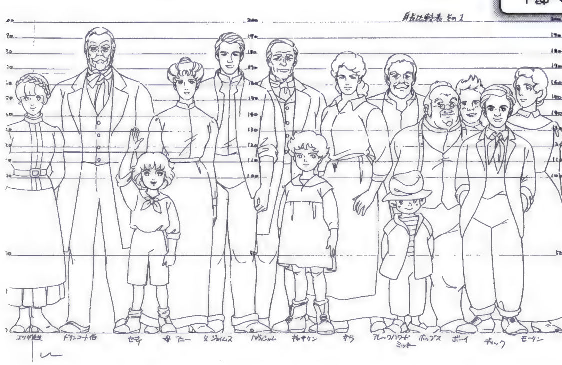
初夏
- セディ、アニーとイギリスへ

夏
- セディ、伯爵と初めて遠乗り

秋
- アールスコートの建替開始
- 伯爵、ロンドンへ

収穫祭
- サーカス
- セディのお披露目パーティー
- ドリンコート家お家騒動

初冬
- 伯爵、アニーと和解
- ホップスらドリンコート邸へ



キャラクター比較表。

History

19世紀末、アメリカとイギリスの文化と社会の違いを少年の目を通して描く。ビクトリア時代末期の豪華衣装の競演も見もの。

19C

1837	ビクトリア女王即位(英)
1861	アメリカ南北戦争(〜1865)
1863	奴隷解放宣言(米)
1868	明治維新(日)
1877	インド帝国成立
1878	エジソン、電球を実用化(米)
1883	ブルックリン・ブリッジ完成(米)
1886	ニューヨークの自由の女神像完成(米)
1890	ドジャースの前身ブルックリン・ブライドグルームズ、ナ・リーグで優勝(米)

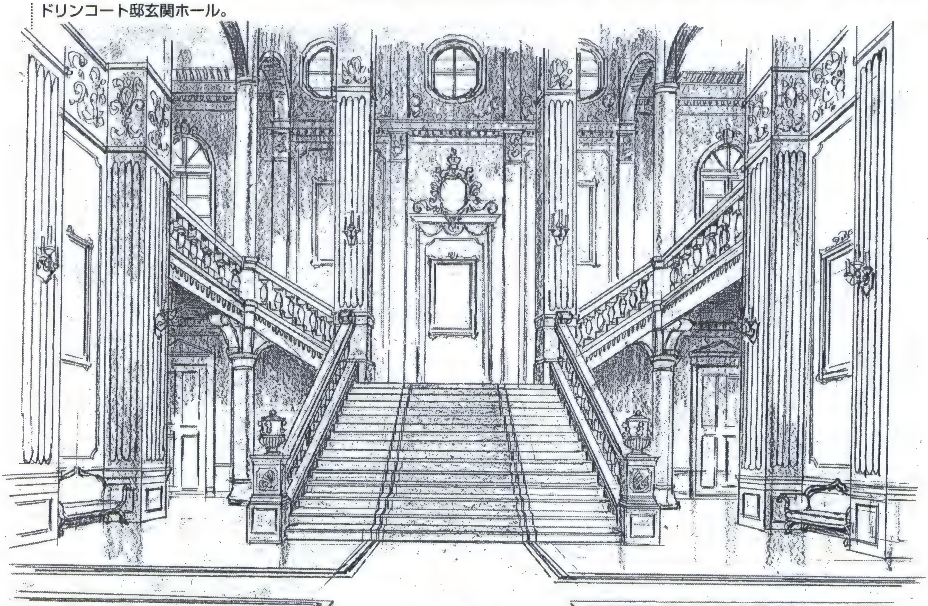
20C

1901	ビクトリア女王死去(英)
1904	ニューヨークに最初の地下鉄開通(米)
1914	第1次世界大戦(〜1918)
1929	世界恐慌
1939	第2次世界大戦(〜1945)
1955	ドジャース、ヤンキースを破り、初のワールドシリーズ制覇(米)
1958	ドジャース、サンフランシスコへ移転(米)
1993	EU発足

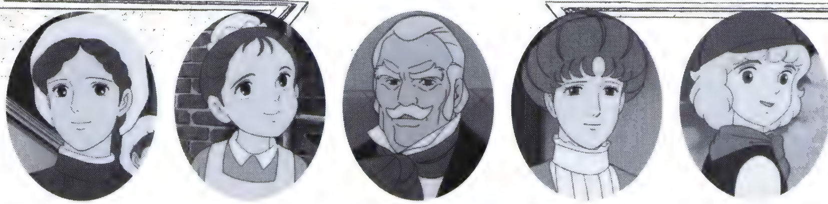
21C

2001	アメリカ同時多発テロ(米)

ドリンコート邸玄関ホール。



キャラクター紹介



ジェーン
セディの専任メイド。セディの保護者を自認。セディとは姉弟のように仲良しになる。

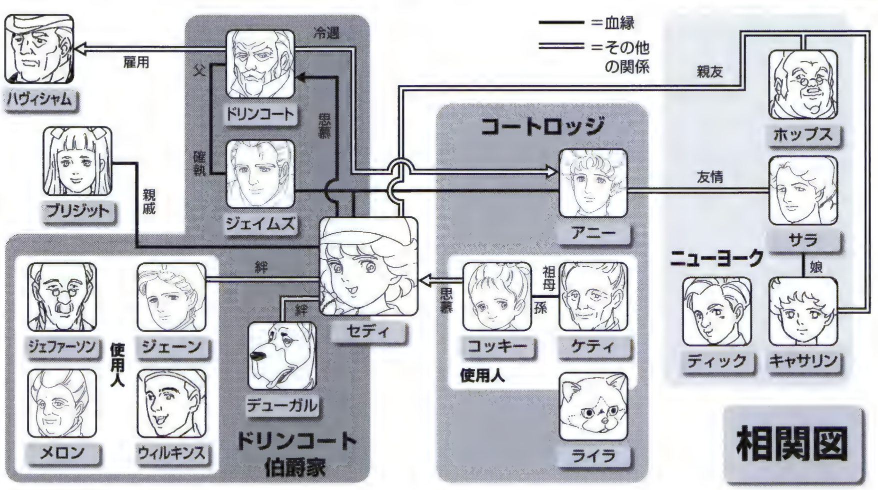
コッキー
アニーの召使いケティの孫娘。セディが大好き。明るくお茶目で、おませな女の子。

ドリンコート伯爵
セディの祖父。イギリス名門貴族の当主で伯爵家を守ることを第一とする。気難しく利己的な性格。

アニー
心優しく美しいセディの母。困っている人を放っておけない。アメリカ人。

セディ(セドリック)
明るく素直で、人を疑うことを知らない。NYの下町育ちだが、両親の影響か、生来の気品を持つ。

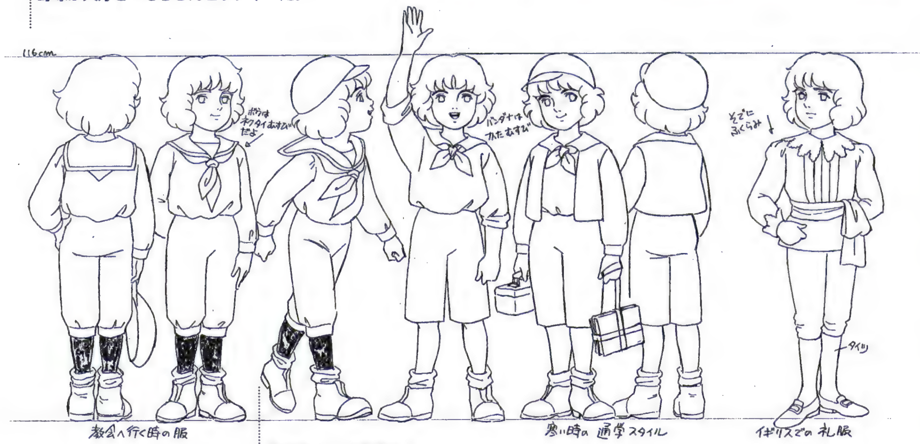
相関図



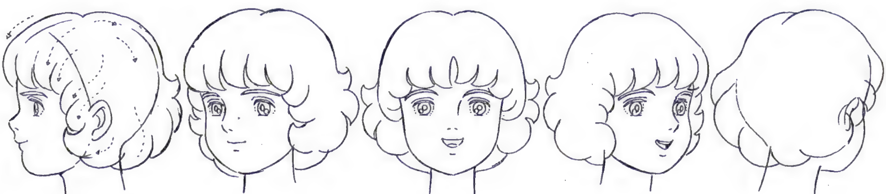
セディ（セドリック）・エロル

イギリス人の父とアメリカ人の母を持つニューヨーク生まれの少年。明るく素直で皆の人気者。困っているものを放っておけない優しい心は母譲り。貧しい下町に育ちながらも、なお気品と育ちの良さを感じさせる。それもひとえに両親の影響であろうか。（声：折笠愛）

野球が大好き！もちろんピッチャーだ。

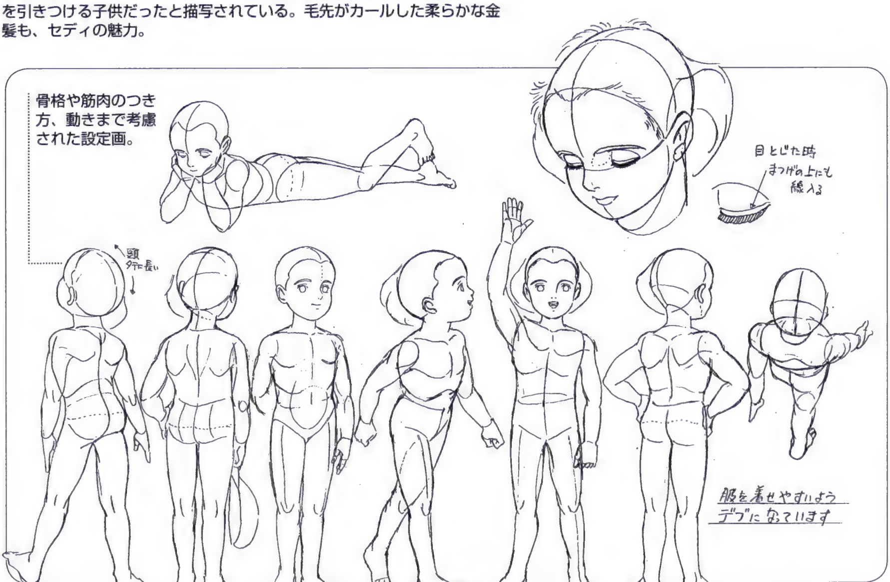


服はアニーの手作り！

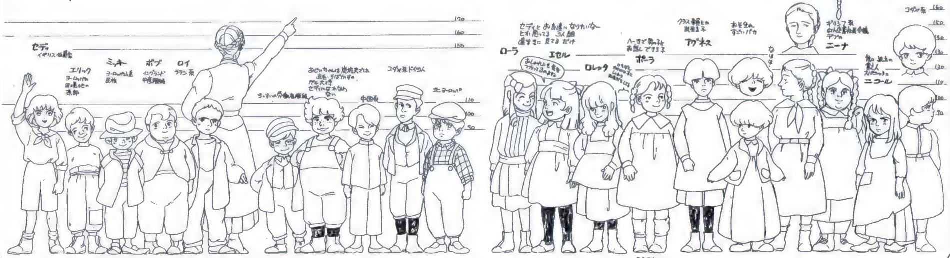


顔は父ジェームスの若い頃そっくりらしい。原作では赤ちゃんの頃から人を引きつける子供だったと描写されている。毛先がカールした柔らかな金髪も、セディの魅力。

骨格や筋肉のつき方、動きまで考慮された設定画。



セディのセディの通う小学校の男子生徒＆女子生徒、ほんのちょい役でも名前と性格、出身民族など設定されている。ニューヨークの下町らしく多様な民族が混在しているのがわかる。





キャサリン

姉御肌でさっぱりした性格の現代っ子。ちょっととろい？ セディに世間の常識を教えてあげたりする。夢は歌手。歌手になる前は女優であった。歌は聖歌隊に選ばれる実力を持つ。（声：佐久間レイ）

▼セディの部屋。譜面台や野球のポスターなどセディの部屋らしい小物が見える。電気は通っている。

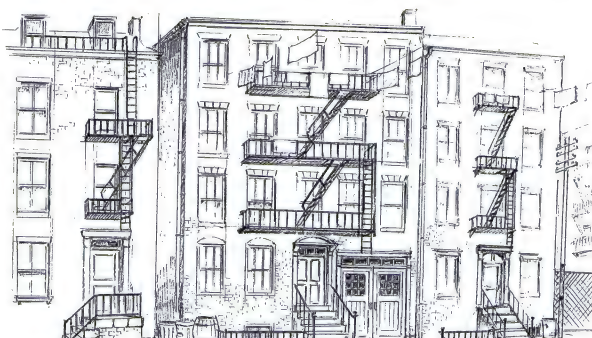






サラ

キャサリンの母で、アニーの友人。逞しい下町の肝っ玉母さん。（声：吉田理保子）



セディ達一家が住むビル。ニューヨークらしい外階段（カーストアイアン）である。セディの住まいは2LDK。

ストーリー紹介 1〜4話

1話 ニューヨークはぼくの街!

セディはニューヨークのブルックリンに親子3人で暮らしていた。ある日、父のジェイムズは新聞記事で兄ビーヴィスが亡くなったことを知る。

2話 ぼくにおじいさんがいた!!

ジェイムズからイギリスの祖父が病気だと聞いたセディは、お見舞いに行こうという。ジェイムズは家族3人でイギリスへ行くことを決意した。

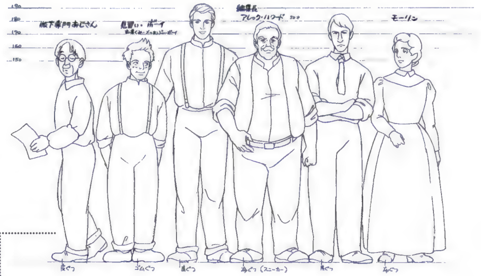
3話 おじいさんは悪いひと?

祖父のお見舞いに両親とイギリスまでやってきたセディは、ジェイムズから思いもよらぬことを聞かされる。祖父は貴族のドリンコート伯爵だと言うのだ。

4話 ぼくはなにも知らなかった!

イギリスから戻った後、ジェイムズは体に異常を感じながらも猛然と仕事をする。深夜に帰宅し、やつれた顔で眠るジェイムズがセディは心配でならない。

名作メモ カーストアイアンビルは1860〜80年にニューヨークで流行した建築様式。つまりセディの家は当世風なのである。



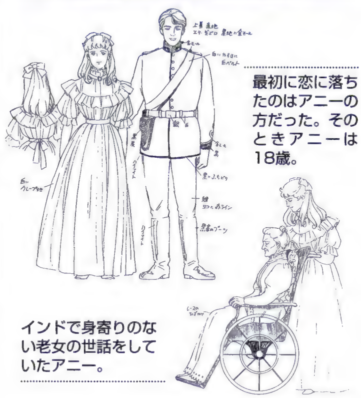
セディの父ジェームスの勤務先、ザ・モーニング・ジャーナルのメンバー。ミニコミ誌の編集部くらいの規模か？



アニー・エロル

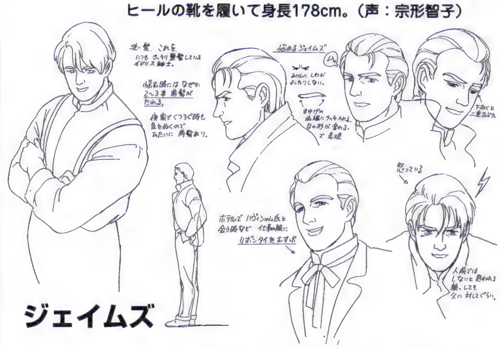
セディの母。落ち着いて見えるが、なんとまだ28歳！ヒールの靴を履いて身長178cm。（声：宗形智子）

アニー回想シーンより



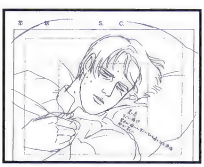
最初に恋に落ちたのはアニーの方だった。そのときアニーは18歳。

インドで身寄りのない老女の世話をしていたアニー。

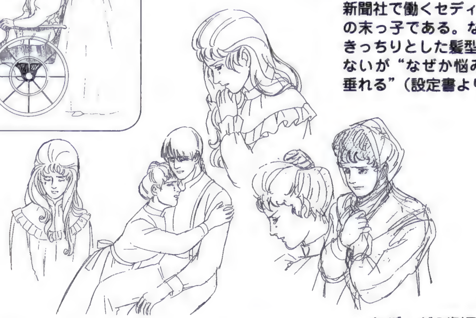


ジェイムズ

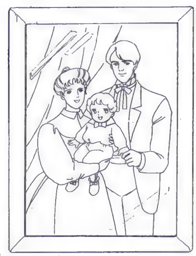
新聞社で働くセディの父。イギリスの伯爵家の末っ子である。なんと言っても英国紳士。きっちりとした髪型は、人前では決して崩れないが“なぜか悩みがあると前髪が2、3本垂れる”（設定書より）。（声：小川真司）



▲過労から心臓発作を起こし瀕死のジェイムズ。きれいな男は乱れてもなお美しい。



ジェイムズの臨終のラフ画より、悲しみのアニー。あまりにもあっけないジェイムズの最期であった。



セディが2歳頃の家族写真。

ストーリー紹介 5～8話

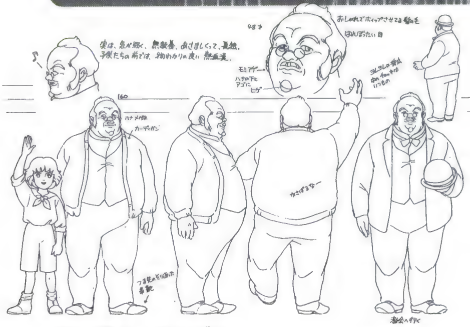
5話 死なないで父さん！
ジェイムズは重い心臓病を患っていた。体調の回復しない中、ジェイムズはセディと約束した釣りに出かけ、波止場で久しぶりに穏やかなひと時を過ごす。

6話 母さん、ぼくは泣かないよ！
ジェイムズが亡くなった。悲しみの中、アニーはフルートでアニーローリーを奏でてみせる。それは以前、ジェイムズがアニーに教えてくれた曲だった。

7話 ぼくが母さんを守る！
セディの奏でるフルートを聴いていたアニーは、セディにジェイムズとの馴れ初めを話す。ふたりが出会ったのはインドだった。

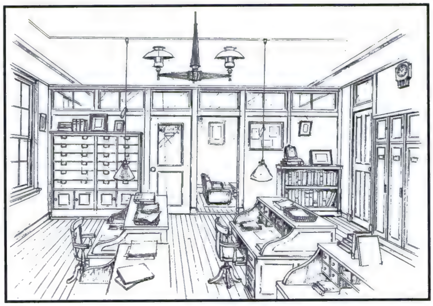
8話 母さんは、絶対に悪くない！
コールデットという貴婦人からドレスの仕立てを依頼されたアニーは、ドレスをパーティまでに仕上げるため、毎晩遅くまでミシンの前に座り続ける。

名作メモ 死に際にセディにリクエストしたアニー・ローリーはジェイムズの好きな曲。恋人を思う歌詞が綴られたスコットランド民謡。

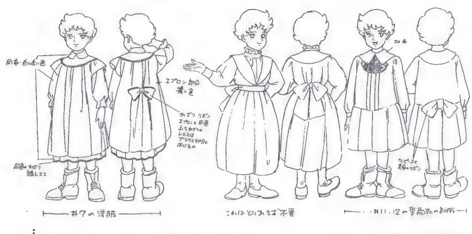


サイラス・ホッブス

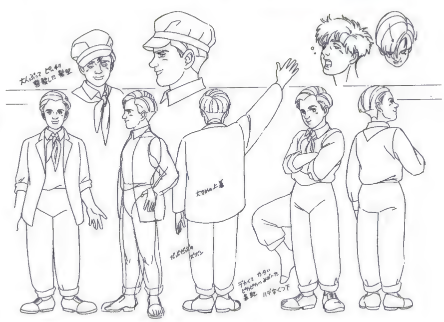
野球が大好きの食料品店主。イメージだけで貴族というものを嫌う。セディの絶大な信頼を受けているが、実は気が弱く無教養。子供達の前では物わかりのいい親父を演じている。48歳。（声：上田敏也）



▲モーニング・ジャーナルの編集室内。電気や電信機がみえる。新聞社のようであるが、ジェイムズが何の担当かは不明。

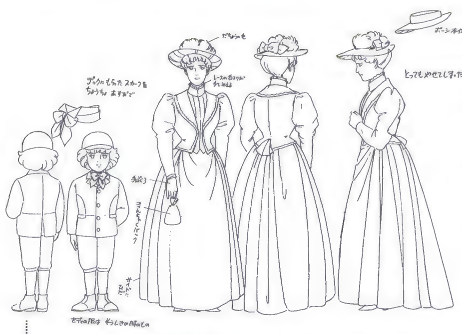


左はアニー手作り服を着たキャサリン（7話）、右端は聖歌隊の制服（11、12話）。真ん中の服は没デザインである。

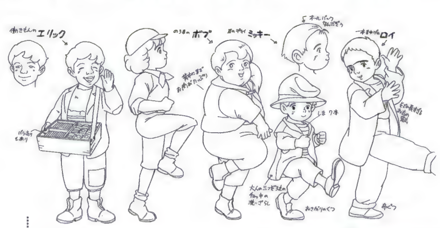


ディック・ティプトン

ニューヨーク時代のセディの兄貴的存在の少年。大人ぶってピッチリした髪型にしている16歳。靴磨きを生業にしているが、勤勉で利発。向上心も高い。物語終盤、ある役割のために再登場する。身長160cm。（声：柴本広之）



セディとアニーの渡英時の装い。セディはディックにもらったスカーフを衿に飾る。葬式のときも同じジャケットだった。



ニューヨーク時代のセディの友だち。みんな野球が大好き。左から働き者のエリック、セディ、のろまのボブ、耳のでかいミッキー、一本眉毛のロイ（説明は設定書より）。

ストーリー紹介 9～12話

9話 母さんが…倒れた!

過労でアニーが倒れた。アニーを助けたいセディは、靴磨きの少年ディックに仕事を手伝わせてくれるよう頼む。そこへ弁護士のハヴィシャムが現われた。

10話 いやだ!! イギリスなんか行きたくない!

セディを伯爵家の後継者として迎えたいというハヴィシャムの申し出を断ったアニー。だがその日、セディが暗くなっても帰らず不安になる。

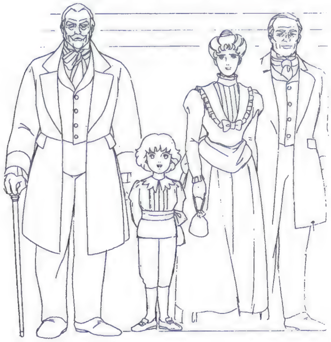
11話 ウソだ!! ぼくが貴族になるなんて!

自分の身に何かあれば、セディは独りぼっちになってしまう。孤児院での幼い日々を思い起こしたアニーはセディを伯爵家の後継者にすることを決断する。

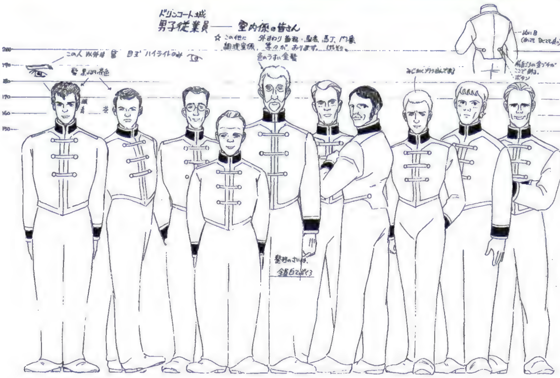
12話 さようなら!! ぼくの街ニューヨーク!

セディはアニーとふたりでイギリスへ行けることになった。しかし、それは大好きなホッブスやディック、仲良しのキャサリン達との別れを意味していた。

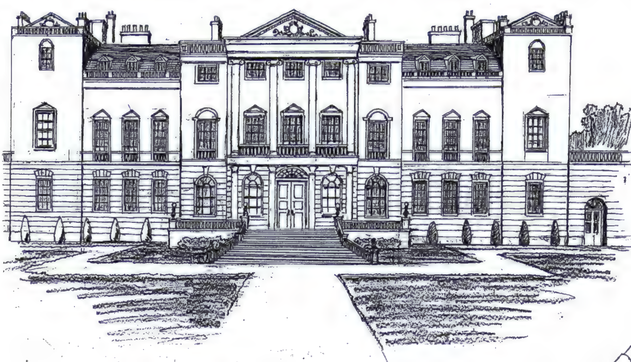
名作メモ 両親を亡くしたアニーはボストンの孤児院育ち。15歳でインドのデリーの独居老人の世話係として引き取られた。



ドリンコート伯爵、セディ、アニー、弁護士のハヴィシャム。

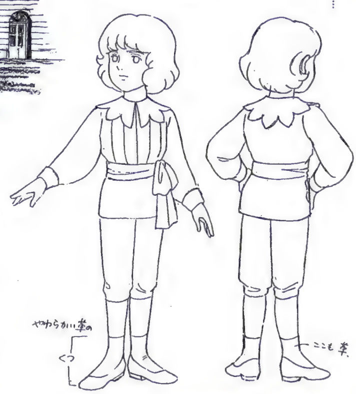


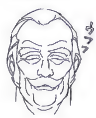
ドリンコート邸の男子従業員。室内係のみでこの人数！他に外回り勤務、御者、馬てい、調理担当などまだまだ多数…。目の色や髪型、など、セリフがないキャラまで細かく設定されている。



ドリンコート邸を正面から見た図。ドリンコート村の奥、高い丘の上にある。セディの部屋は裏庭の方に面している。18世紀から19世紀初頭に英国で流行したジョージアン調にのっとったネオクラシック様式の風格のある建物。

小公子といえばこれ！　噂のフォントルロイスタイルである。濃紺のベルベットの服に白いレースの衿。腰には絹のサッシュ。





イギリスの貴族制度

イギリスでは、昔も今も厳然とした身分階級が存在する。貴族の身分は世襲制で、貴族院に議席権を持つ。伯爵がロンドンに定期的に滞在するのは、議会に出席するためである。

ストーリー紹介 13～16話

13話 どうして母さんと離れてくらすの!?

ドリンコート伯爵の屋敷に着いたセディとアニー。セディが自室を案内されている間、別室に呼ばれたアニーは、思いがけない話を聞かされる。

14話 猛犬デューガルはぼくの友だち!!

アニーは伯爵の屋敷から遠く離れたコートロッジという館で暮らすことになった。一方セディは身の回りの世話するメイドのジェーンを紹介される。

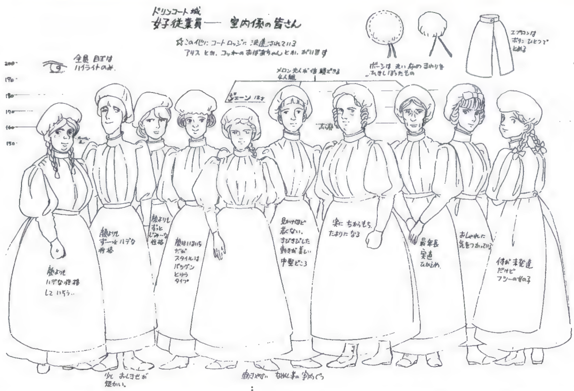
15話 母さんの悪口は言わないで!!

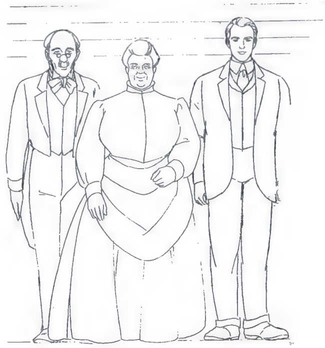
セディには家庭教師がつけられ、貴族としての教育を受けることになった。さっそく乗馬を教わるセディ。そこへ親戚の娘ブリジットがやってくる。

16話 コッキーはおちゃめな女の子!!

屋敷を飛び出し森で道に迷ったセディは、コッキーという少女と出会う。家に帰るというコッキーについていくと、そこにはアニーの姿があった。

名作メモ 広大な領地を持つ伯爵。村の名も駅名もドリンコート。門から屋敷まで3.4マイル（5.6キロ）もある。





伯爵家の人々

こちらは女性従業員室内係一同。アリスとケティがここからコートロッジに派遣されている。

左から執事のジェファーソン、家政婦頭のメロン夫人、ジェイムズ。



セディが母を想って吹くフルート。曲は主にアニーローリー。フルートは父に習った。

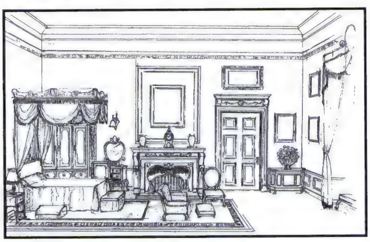


ドリンコート伯爵

イギリスの名門貴族の当主。設定画は伯爵百面相!? 伯爵の横目使いが多いのは首を回すのが大儀なためだとか。（声：渡部猛）



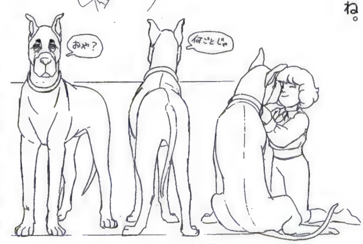
伯爵のめがね。



▲セディの寝室。ニューヨークの狭い部屋から一転超豪華な寝室へ。環境は変わってもセディはセディ。

デューガル

伯爵そっくりの老犬。誰にもなつかないがセディには…。犬種はグレート・デン。名作一、二を争う目元がうっとうしい犬として、『わたしのアンネット』のペーペルといい勝負である。



ストーリー紹介 17〜20話

17話 うれしい！ やっとおじいさんに会える!!

コートロッジから屋敷へ戻る途中、セディは司祭のモーダントと出会った。モーダントはセディが小さかった頃のジェイムズにそっくりだという。

18話 おじいさん！ ぼくがセディです!!

ロンドンから伯爵が帰ってきた。さっそく挨拶に行ったセディは祖父に会えたうれしさからしゃべり続けるが、アニーの話をすると伯爵の顔色が曇った。

19話 馬に乗れるなんてほんとうに素敵だ！

ジェーンと一緒に村にやってきたセディ。途中で会ったコッキーはセディに村を案内して回る。そこでセディはピーターという腕白そうな少年に出会う。

20話 おいしい？ 釣り名人のおくりもの!!

ピーターはセディとコッキーを秘密の釣り場に連れて行ってくれた。釣れた鱒を持ち帰ったセディは、伯爵に食べさせようと屋敷で調理してもらう。

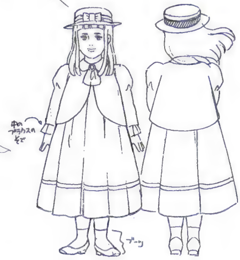
名作メモ 伯爵の正式名はドリンコート・ジョン・アーサー・モリアクス・エロル。妹からはアーサーと呼ばれる。

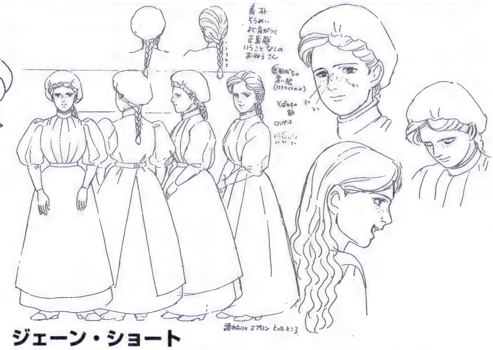
セディのスカーフ。もともと青いスカーフだったが、ディックからもらった赤いスカーフを愛用。



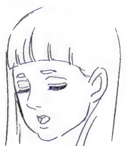


ハリス夫人
ブリジットの冷徹な母。こわいこわい夫人。（声：榊原良子）



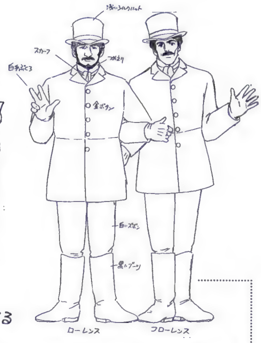


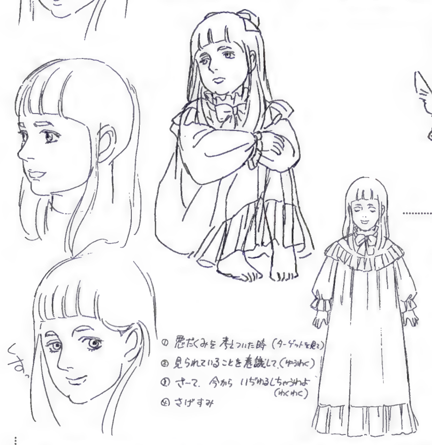
ジェーン・ショート
メイド頭メロンの信頼厚く、若様づきの召使いに選ばれる。セディとはすっかり意気投合し、「セディ」「ジェーン」と呼び合う仲。素朴で聡明、よく気がつく正義漢。母親と離れて暮らすセディの保護者を自認するパーフェクトなメイド。18歳。（声：山田栄子）



ブリジット・ハリス
セディの親戚にあたる貴族の少女。11歳。毎日なんとなくアンニュイで暇を持てあまし気味。会話も性格も自己中心。探求心が高じてちょっとサディスティック。（声：松井菜桜子）



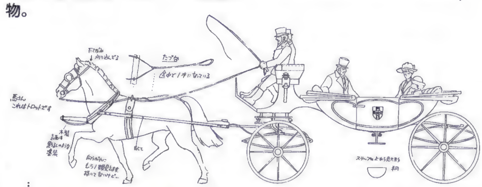




セディに接するうちに、警戒心を解き、素顔をみせるように。作品中で最も成長した人物。

♪ぼくの名前はローレンス、ぼくの名前はフローレンス。ふたり合わせて…ドリンコート城の御者ペア（13話初登場）。

夏の休暇を利用して母親とドリンコート邸に避暑に訪れた模様。城では主に乗馬をして楽しむ。普段はロンドン在住。ロンドンへの往復は汽車を利用する。



伯爵家の2頭立て馬車。紋章入りのオープンカーである。

ストーリー紹介 21〜24話

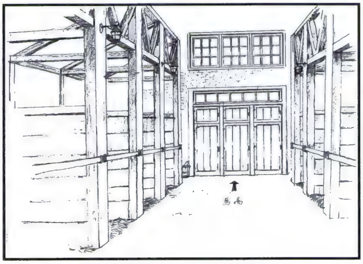
21話 四ツ葉のクローバーがくれた勇気！
ブリジットが伯爵の大事にしている壺を壊してしまった。だが伯爵は偶然壺のある部屋に居合わせたジェーンが壊したと誤解し、彼女をクビにしてしまう。

22話 セディが起こした奇跡!!
ブリジットは伯爵に自分が壺を割ったと正直に話すが、許してもらえない。そんな伯爵にセディは「おじいさんは間違っています」と言うのだった。

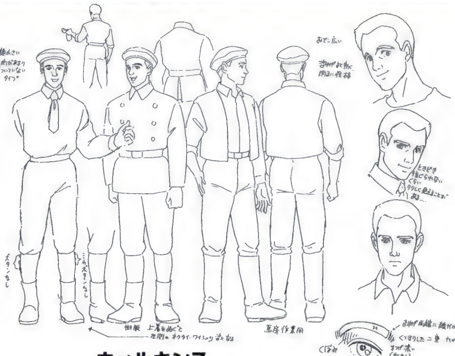
23話 母親には絶対に会わすな!!
教会の礼拝ではアニーに会える。セディにはそれが楽しみだった。一方、痛風で礼拝に行けなくなった伯爵はメロンにセディとアニーを会わせるなと命じる。

24話 おじいさんの嫌いなアメリカ人の手紙！
乗馬の練習をするセディの元にホッブスから手紙が届いた。近くで練習を見ていた伯爵にセディは手紙を読んで聞かせるが、突然伯爵の表情が険しくなる。

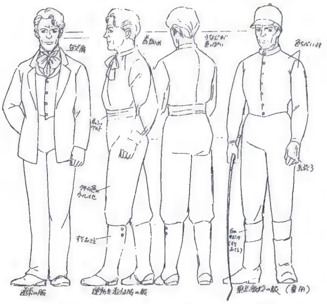
名作メモ ジェーンが若君のことを「セディ」と呼ぶのは、そう呼ばないと友だちじゃない、とセディがむくれたため（21話）。



▶馬小屋。雨の日はセディのキャッチボール場になる。ボールがお馬さん達に当たりそうで危ないですよ、若君！



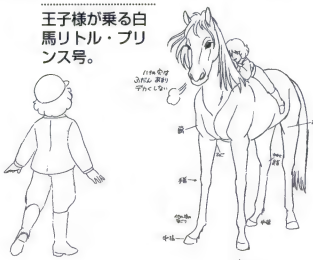
ウィルキンス
リトルプリンス号の馬てい兼調教師。22歳。若き熱血漢で、スポーツは得意らしい。まじめですぐムキになる性格。若君のおもちゃ？（声：島田敏）



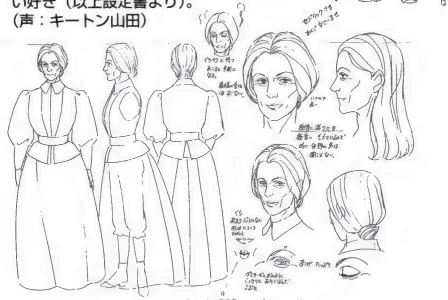
チェンバレン・ウェィストレイク
セディの体育全般の家庭教師で乗馬、テニス、水泳、ポロ、フェンシングを指導。45歳独身。男らしさを追求しているもののついなよっとしてしまう。とってもきれい好き（以上設定書より）。
（声：キートン山田）



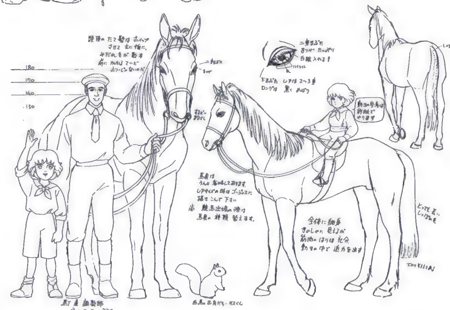
伯爵とセディの乗馬スタイル。



王子様が乗る白馬リトル・プリンス号。



エリザベス・トレイシー
恐ろしくも熱心なセディの教育係。40歳独身。ラテン語、数学、歴史が担当。堅物だが、大好きな歴史の話になると、つい熱くなってしまう。（声：鵜飼るみ子）



リトル・プリンス号
4歳の美しい白馬。背中までの高さは160cm。細長く華奢だが、よく引き締まった筋肉。リスが友達。

ストーリー紹介 25～28話

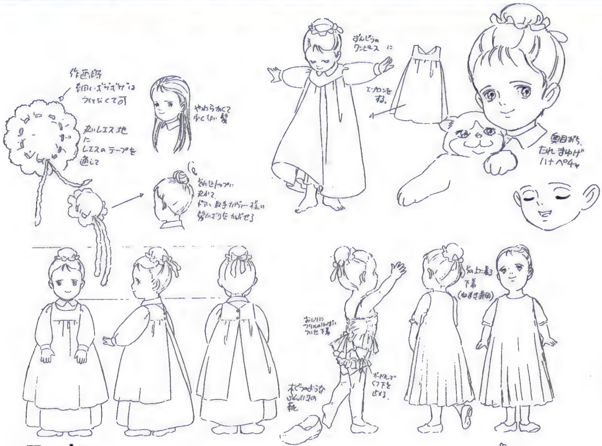
25話 未来の名君セディ、初めての仕事！
伯爵に許され、セディとアニーは遠慮なく会えるようになった。そんなある日、モーダント司祭が病気の小作人のことで伯爵を訪ねてくる。

26話 落馬！ 大ケガ!? ぼくが悪いんです！
セディに白馬をプレゼントした伯爵は、いつか一緒に遠乗りに行こうと言う。セディは一日も早く遠乗りに行けるようにと練習に明け暮れる。

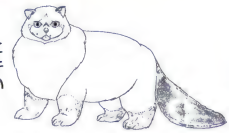
27話 いつの日かドリンコート伯爵になる！
セディと遠乗りに出かけた伯爵は、セディが道中で会う多くの村人に慕われているのに驚く。そしてふたりは領地を見渡せる丘の上までやってきた。

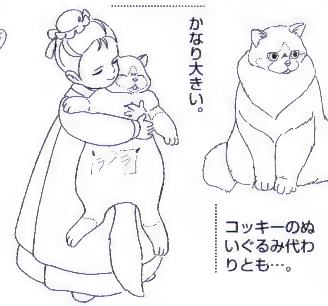
28話 プレイボール！ 伯爵対セディ！
ある雨の日、馬小屋でボール遊びをして、すっかり野球熱に火がついたセディ。使用人達を巻き込み野球の試合を始めるが、そこに伯爵がやってくる。

名作メモ リトル・プリンス号の初登場時には、あまりの美しさのためか？本当に全身が光り輝いた（25話）。



ライラ
デブ猫。品種はヒマラヤン。コッキーの飼い猫で、いつも一緒。





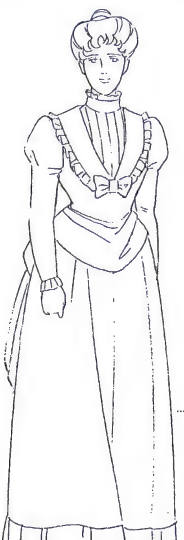
かなり大きい。

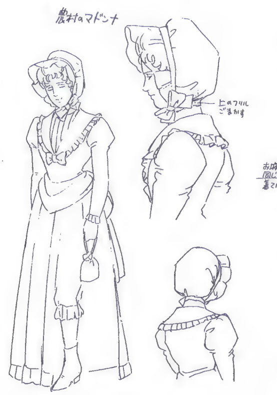
コッキーのぬいぐるみ代わりとも…。

コッキー
体は小さいが気持ちはいつでも前向きで強気な女の子。両親はすでに亡いが、祖母のケティの元で明るくのびのび育っている。何気ない仕草までお茶目で印象的。5歳。（声：堀江美都子）

アリス
コートロッジに派遣された室内係。しっかり者。人選はメロン夫人と思われる。
（声：高木早苗）







アニーのコートロッジ生活での服。ハヴィシャムが用意したお仕着せで、流行遅れのドレスである。若干28歳でまだ若さいっぱい。家事はしなくていいので、たっぷり空いた時間はもっぱらボランティアに活用。



ケティ
コッキーの祖母で、アニーの身の回りの世話に派遣されている。耳は遠いがとっても元気。コッキーのお茶目さはケティばあちゃん譲り。お団子ヘアもお揃い。（声：島美弥子）

ストーリー紹介 29～32話

29話 伯爵が怒った！ ニューイックを呼べ!!
乗馬の途中、足を怪我した少年ハートルと出会ったセディは、馬に乗せて家まで送る。そこはアールスコートという貧しい人達の暮らす地区だった。

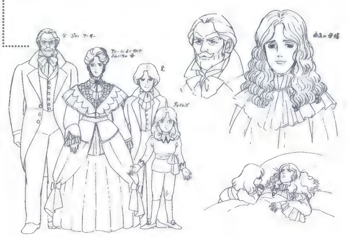
30話 母さんの病気はぼくがなおす！
ハートルのことが心配なセディは、度々アールスコートを訪ねる。同じ頃アニーはアールスコートに住むルシルという病気の老夫人を世話していた。

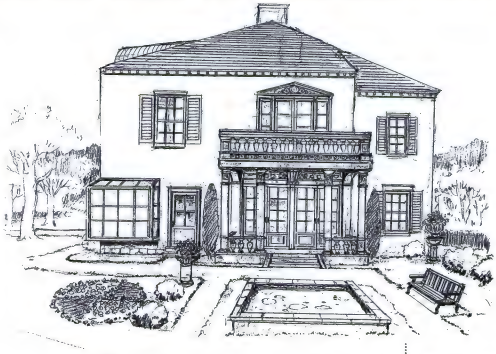
31話 おじいさんは鬼伯爵なんかじゃない！
アニーが倒れたと聞き、駆けつけたセディ。夜通し看病した甲斐もあり、アニーは快方へと向かう。一方、ハートルの家の修理は未だに手つかずだった。

32話 本当だよ！ これ母さんの馬車なんだ！
アニーが村中を回っていると知った伯爵は、メロンから話を聞く。そしてアニーが病人や子供に手のかかる家を回って助けていると知るのだった。

名作メモ ヒマラヤンは実は1920年代にアメリカで誕生した種類。ペルシャとシャムの掛け合わせで性質は温厚。

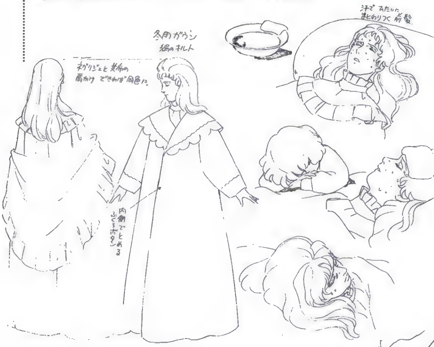
25年前の伯爵一家。なんと伯爵の妻はアニーそっくりなのだ。





アニーがセディと分かれて暮らすコートロッジ。菜園と庭もある。

病気で寝込むアニーのガウン姿（31話）。

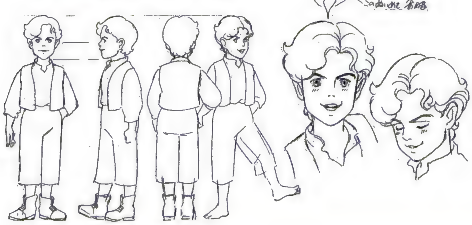


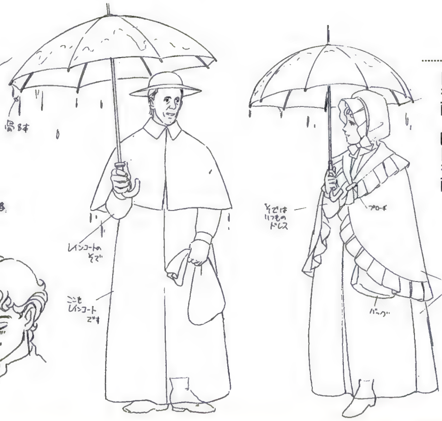


▲ここに来るまでの生活を考えると、アニーにとっては初めて体験する贅沢な暮らしである。

ピーター
村一番の悪ガキ？　酪農農家の息子。セディの男気に惚れ、意気投合する。セディにとっては村事情通の先輩。コッキーいわく「ずる休みの名人」。（声：鈴木みえ）







アニーと牧師の雨の日の訪問スタイル。イギリスだから今日も雨、昨日も雨…。

ストーリー紹介 33～36話

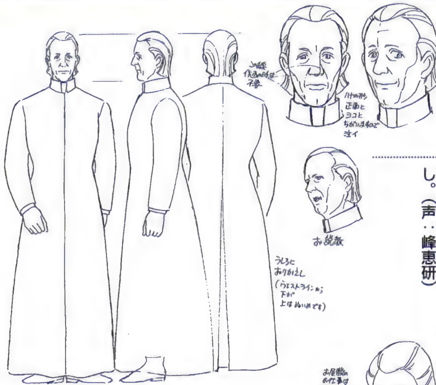
33話 奇跡！ きまぐれ？ 伯爵の決意！
セディと遠乗りに出かけ、アールスコートに訪れた伯爵は、その惨状を見て驚く。屋敷に戻った伯爵はニューイックにアールスコートの建て替えを命じた。

34話 コッキー危ない！ 崩れ落ちたレンガ!!
アールスコートの建て替えが始まった。一方伯爵は、貴族院が始まりロンドンへと旅立つ。早く帰ってきて欲しいと見送るセディに伯爵は感激する。

35話 助けてセディ！ 消えたコッキーのなぞ！
ニューイックが悪事を企んでいることに気づいた村の子供達とセディ。そこで夜、資材置場に張り込むことにするが、その話をコッキーが聞いてしまう。

36話 サーカスにつれてって！ 村の収穫祭
収穫祭の日、村にサーカスがやってくる。喜ぶセディだが、アールスコートの子供達はみんな浮かない顔だった。サーカスを見るお金がないのだ。

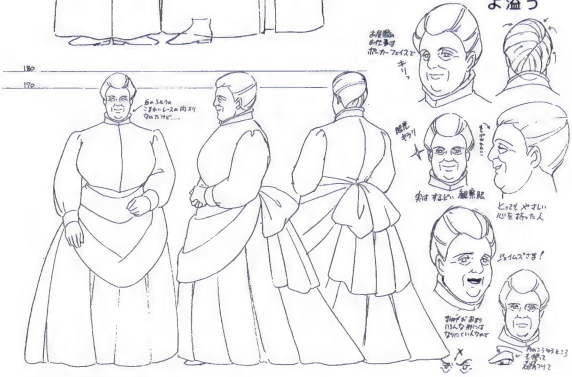
名作メモ　コッキーの母は生まれてすぐに亡くなり、父はコッキーが2歳のときに事故死。現在は祖母とふたり暮らし。



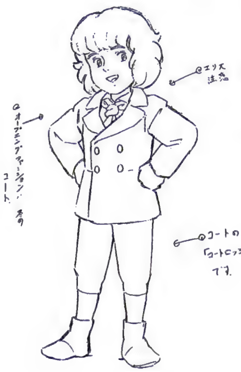
モーダント神父。堅物そうな外見だが意外に人間味溢れるお方。アニーとなかよし。（声：峰恵研）



ジェファーソン
執事。鬼伯爵の元で一番神経をすり減らしている男。
（声：北村弘一）

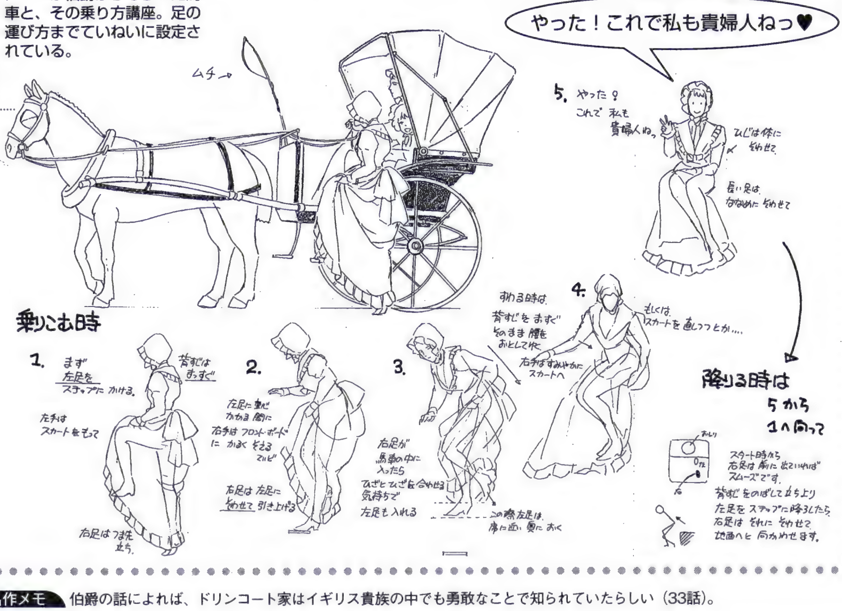


メロン夫人
お屋敷の人事と業務を指揮する家政婦長。執事と並ぶ伯爵家の2大トップ。穏やかで心優しい夫人だが、観察眼はするどい。24話ラストで喜びのあまり走り出す姿が印象的。（声：斉藤昌）



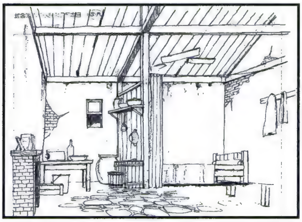
セディ冬のコート。OPでも着用。

アニーが伯爵からもらった馬車と、その乗り方講座。足の運び方までていねいに設定されている。



名作メモ 伯爵の話によれば、ドリンコート家はイギリス貴族の中でも勇敢なことで知られていたらしい（33話）。





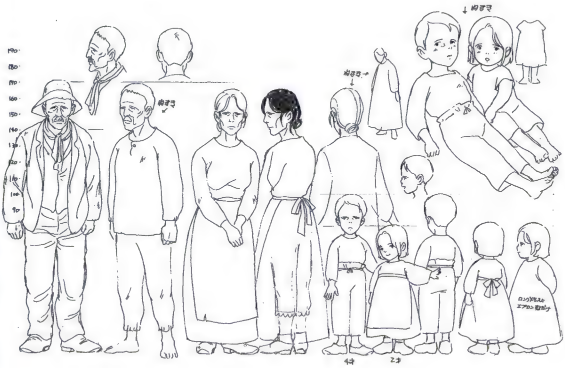
▲アールスコート改装前。土間作りで雨漏りも普通。



▲改装後のアールスコート。こざっぱりしたレンガ作りになった。工事中、コッキーはこのレンガで巨大積み木を作って遊ぶ。

アールスコートの子供達。





アールスコートに住む貧しいヒギンズ一家。



ニューイック
土地の管理を任されているが、かなりいい加減。
(声：郷里大輔)

外出時のジェーンの服装。ジェーンの姉は村のパン屋を経営。





ドリンコート村中心部。16世紀頃に建ったと思われるチューダー調の古い家が並び、美しい。



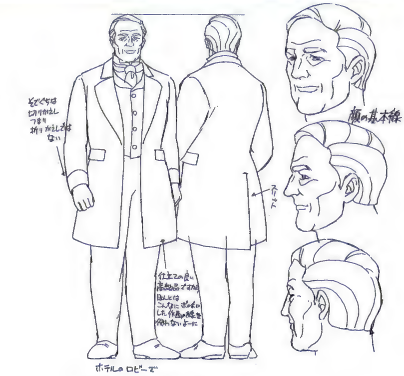
 コッキー行方不明事件と資材横領事件に奔走するセディ達。でも最後、コッキーは忘れられて…（35話）。

ドレスをかきあげて走り回る超おちゃめさん。



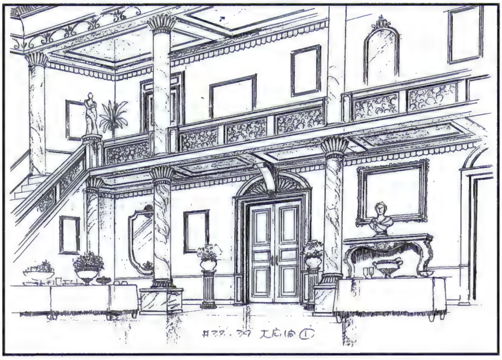
コンスタンシア・ロリデル男爵夫人

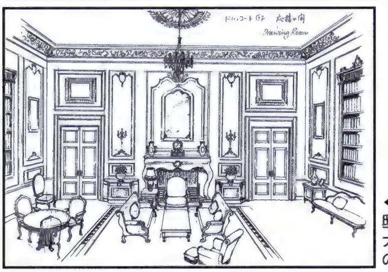
ドリンコート伯爵の妹。セディにおばあさまと呼ばせる（声：水城蘭子）。35年ぶりにドリンコート邸を訪れた。右は夫のハリー・ロリデル男爵（声：永井一郎）。おちゃめな夫人と寡黙な夫。いいコンビである。



ウィリアム・ハヴィシャム

ドリンコート伯爵の信頼厚い顧問の弁護士で正義の味方。あれだけ人の多いニューヨークで、あっという間にジェイムズの居所を見つけ出した凄腕である。52歳。（声：阪脩）

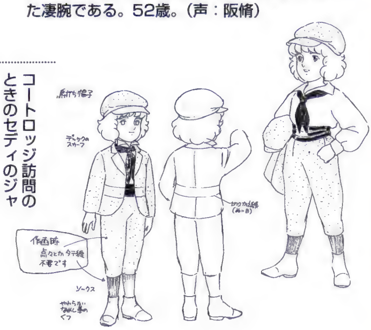


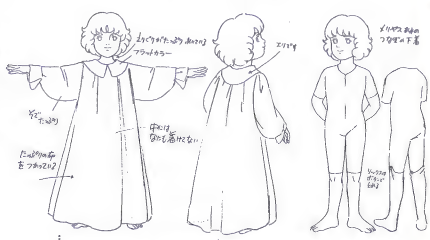


▲セディお披露目パーティ会場になった1階大広間。パーティの最中、ロンドンから悪い知らせが届いた。

◀ドリンコート邸応接間。ミンナとの最終対決の舞台。

コートロッジ訪問のときのセディのジャケット（25話～）。





城でのセディの寝間着と下着。寝間着には贅沢に布を使用。

ストーリー紹介 37～40話

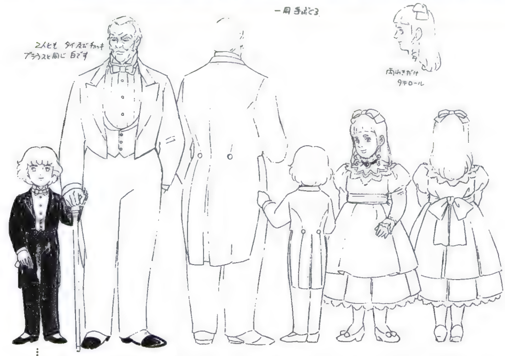
37話 僕におばあさんがいた！ 母さんの味方？
伯爵はセディのためにパーティーを開くことにした。このパーティーを前に、伯爵の妹のコンスタンシアが35年ぶりに屋敷にやってくることになった。

38話 危うしセディ！ ロンドンからの知らせ!!
パーティの招待客リストにアニーの名がないと知ったコンスタンシアは、独断でアニーに招待状を出すよう命じる。それを知った伯爵は激怒した。

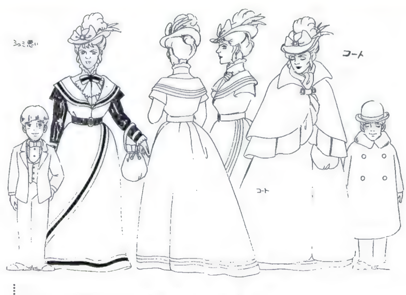
39話 僕はニセモノ？ 現れたもう一人の若君！
長男ビーヴィスの元妻と子供が現われた…。ハヴィシャムのもたらした情報は屋敷中を不安にさせた。事実なら、その子が伯爵家の後継者となるのだ。

40話 僕は、リトルプリンスじゃない！
セディとアニーがアメリカへ帰るという噂が流れると、コートロッジに大勢の人達がやってきた。人々の「帰らないで」という言葉にセディは感激する。

名作メモ 伯爵はタバコが大嫌い。愛煙家のロリデル男爵に“パイプをやめろ”と注意。現代の世論を反映か（37話）。



セディのお披露目パーティーでの盛装。パーティーにはイギリス中の貴族が集まった。ダンスではブリジットがセディをリード。



ミンナのドレス。色は真っ赤に黒！



ミンナ
ドリンコート伯爵の死んだ長男ビーヴィスの元妻。伯爵家乗っ取りのために実の息子さえ利用する悪女。（声：増山江威子）





トム
ミンナの息子。素直な子ゆえ、ミンナに逆らえない。孤児院で育ち、赤ちゃんの頃からの栄養不足でやせている。6歳という触れ込みだが、どう見てもセディより年上。（声：近藤玲子）

ドリンコート邸を訪れた際のホッブスとディック。ディックはセディと交換したスカーフがネクタイ代わり。左はディックの兄、ベン（声：屋良有作）。



ディックはその後ホッブスの養子になる。



トムとミンナの寝間着姿。



トムはベンの息子だった。ベンに引き取られたトムはアメリカ西部の農場で暮らすことに。

ストーリー紹介 41〜43話

41話 セディが狙われる!? 悪女ミンナの陰謀！
コートロッジのアニーを訪ねた伯爵は、これまでの仕打ちを心から詫びる。一方セディは、伯爵と初めて遠乗りに行った丘に馬を走らせた。

42話 ミンナの秘密！ アメリカからの電報！
ミンナは裁判を先延ばしにする代わりに、セディを屋敷から追い出せと要求してきた。それを知ったセディは、伯爵に内緒で屋敷を出る。

43話 おめでとう！ 君こそリトルプリンスだ！
コートロッジの前に停まった馬車から現れたのは、ホッブスとディックだった。ホッブス達はセディを助けるため、アメリカからやって来たのだ。

名作メモ　実はコッキーはダイエット中である（38話）。

作品コラム

『セディ』のファッションデザイン

セディの物語はイギリス、ビクトリア時代が舞台。しかも物語は貴族の暮らしが中心だ。この豪華で華やかな舞台設定をどう見せるか？『セディ』は貴族の世界がちゃんと描けないと、作品がダメになると楠葉監督は考えた。だからこの人、櫻井美知代氏抜きには語れない。

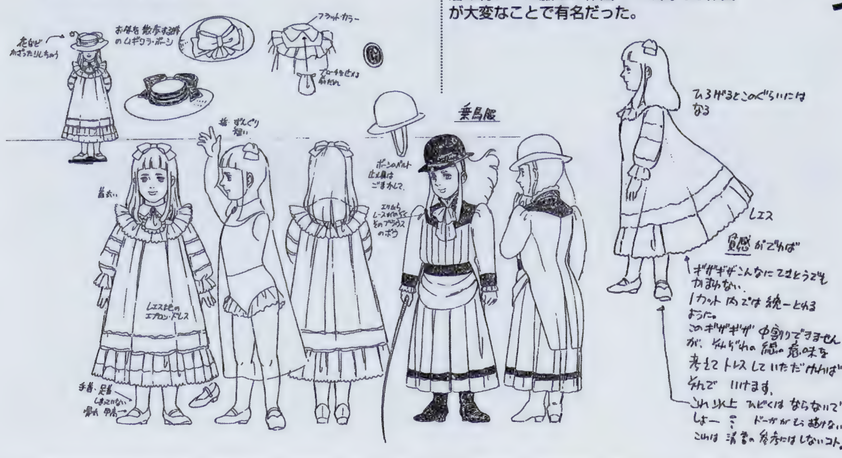
貴族の世界を描かせたら第一人者の櫻井氏。楠葉氏が監督に決まる前から、キャラクターデザインに櫻井氏が選ばれていたのも、映画や舞台が好きで、衣装にも詳しい彼女だからこそ。

櫻井氏の繊細なレースの表現や衣服のヒダなどが、べたっとしたアクリル系絵の具で塗るセル画でどこまで表現できたかどうかは本編を見て欲しいが、設定画に描かれた作画メモに、その意気込みは十分感じられる。



アニーが作るコールデット夫人のドレス。この細かさを見よ！

ブリジットの豪華普段着と、乗馬服。普段着の総レース服は、作画マンの間でも作画が大変なことで有名だった。



アメリカとイギリスで大人気をとった『小公子』



伯爵はやっぱり紅茶。でもミルクは先に入れない。

時は19世紀末。アメリカはイギリスから独立して100年、今や世界の大国へと大きく成長していた。一方でかつての大英帝国の栄華は陰りを見せていた。両国の主従関係は、当時、微妙なバランスの上にあったのである。

『小公子』はその時代に発表され一世を風靡した。物語にはドリンコート邸での優雅な貴族の暮らしが描かれた。その伝統と格式こそ、新しい国アメリカに決定的に足りないコンプレックスだった。

こうしてアメリカの読者は『小公子』のイギリスの貴族社会や古き良き伝統に憧れ、またイギリスの読者にはニューヨークで生き生きと民主的に暮らすセディ達が、とても魅力的に映った。

イギリスとアメリカを舞台に、両国のプライドを上手に刺激する『小公子』。大反響を生んだこの作品は当時の国際関係にまで影響したと言われている。

原作者・フランシスの見果てぬ夢

貧乏生活から一躍人気作家としてデビューを飾ったフランシスは、寸暇を惜しむように作品を発表し続けた。成功とは裏腹に、ふたりの息子と夫と過ごす時間は減っていった。

その後フランシスは次男のヴィヴィアンをモデルに『小公子』を書く。最愛の長男ライオネルが病気で亡くなった後は、ヴィヴィアンが母を慰め、生涯を『小公子』のモデルとして生きた。彼こそが彼女の一番の犠牲者であった。

衣服に異常なまでに執着を示し、豪華な館の主として庭作りにお金をつぎ込むフランシスは、堅実で質素なアニーとは対照的である。だがフランシスは、息子から最愛の人と慕われ、最後に伯爵邸に迎え入れられたアニーのような、母親のシンデレラストーリーをずっと夢見ていたのかも知れない。

〈原作者〉

フランシス・H・バーネット

1849－1924

〈原作〉



『小公子』

訳：坂崎麻子
発行：偕成社



▲フランシスが購入し、館主となったメイサムホール。広い庭園の片隅にあった執筆の小部屋から『小公子』『秘密の花園』が生み出された。（イングランド、ケント州）
Photo：Kaori Chiba（3点とも）





◀▼最愛のライオネルを石像に彫り自分の墓（写真中央）の側に置いたフランシス。残されたヴィヴィアンは、彼女の死後どう生きたのだろう。（アメリカ、ニューヨーク州）

当時の大人気振りとセドリックスタイル

セディの着ているビロードの衣装は、なんと原作者フランシスの考えだしたもの。『小公子』の爆発的な人気とともに、広く母親達が自分の子供に着せたいナンバー1になった。19世紀末、この服が大流行する。

白襟に黒のビロードの清潔感あふれる印象の服は、当時の英国貴族への憧れもあり、アメリカ中産階級に広く支持されたのである。



「セディ」といえばこのスタイル。

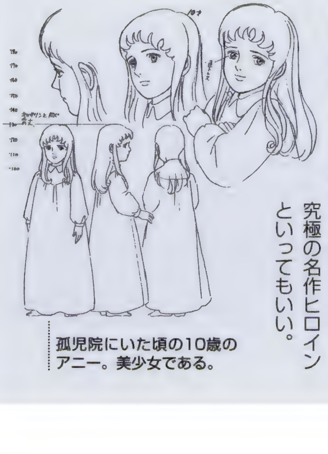
真のヒロインはアニー？



考えようによってはこの人が主役である。孤児院で育ち、心の冷たい老婆に引き取られ、身の回りの世話をしていた辛い10代。その彼女の前に、ある日、本物の王子様が現れたのである。

自分のために身分まで捨ててくれたジェイムズ。玉のような息子も授かった。だが幸せは続かない。運命はアニーを試練する。

ある意味、生まれながらに高い身分を持ち、周囲の人に愛されて不自由なく育ったセディより、じっと耐えて、明日を信じて、人を愛し続け、最後に幸せをつかむ彼女こそ、究極の名作ヒロインといってもいい。



孤児院にいた頃の10歳のアニー。美少女である。

Gallery



ホッブスさんの店内／沼井信朗

メインスタッフ

脚本	石森史郎
音楽	森田公一
キャラクターデザイン	櫻井美知代
絵コンテ	池野文雄／斎藤博／辻伸一／鈴木孝義／黒田昌郎
レイアウトチェック	前田英美
作画監督	しまだひであき／賀川愛／山崎登志樹／本木久年／藤井裕子／櫻井美知代
美術監督	沼井信朗
録音監督	山田悦司
彩画	スタジオロビン
プロデューサー	中島順三／遠藤重夫／小牧次郎
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「ぼくらのセディ」
作詞：山上路夫
作曲：森田公一
編曲：大谷和夫
歌：西田ひかる

エンディングテーマ「誰かを愛するために」
作詞：山上路夫
作曲：森田公一
編曲：大谷和夫
歌：西田ひかる

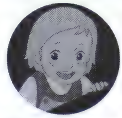


アルプス物語 わたしのアンネット

The Alps Story : My Annette



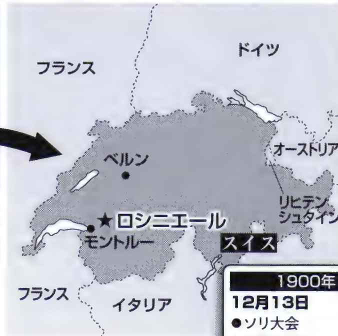
アルプス物語 わたしのアンネット



放映期間	1983/01/09～1983/12/25
話　数	48話
原　作	パトリシア・セント・ジョン「雪のたから」
備　考	83年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台





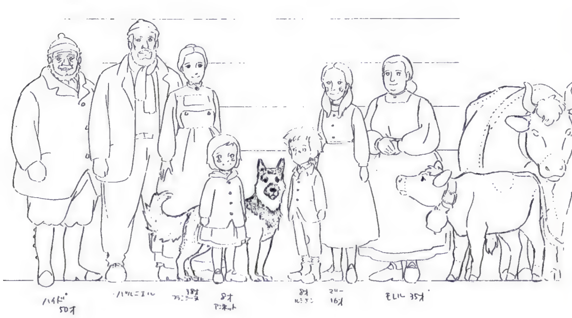
スイス西部のフランス語圏、ロシニエール村が舞台。アルプス山脈の外れに位置し、世界的な保養地モントルーが近い。

ストーリー解説

アンネットとルシエンは幼なじみ。同じ歳のふたりは幼い頃から兄姉のように仲が良かった。まもなく20世紀を迎えるクリスマスイブ、アンネットに弟が生まれた。しかし母は持病の悪化でそのまま息を引き取ってしまう。残された赤ちゃんにダニーと名づけ、アンネットは自分が母親代わりになろうと誓うのだった。

それから5年が過ぎた。ある日、アンネットとルシエンは些細なことからケンカをしてしまう。お互いの誤解が解けぬまま、ダニーが崖から落ちるという思わぬ不幸な事故が起きた。ダニーは命を取り留めたが、一生松葉杖の体になってしまう。事故のきっかけを作ったルシエンは自分のせいだと苦しみ、アンネットもルシエンを許せずに悩む…。罪という重いテーマを正面からとらえ、ふたりの友情の行方をていねいに描いた意欲作。

メインキャラクター比較表。



1900年

12月13日
- ソリ大会

12月24日
- クリスマスイブ 母死去

同日
- ダニー誕生

1901年

早春
- クロード来る

初夏
- 牧場へ 牛騒動

8月末
- フランツ引越してくる

1905年

春
- 村に鉄道開通
- ダニーとアンネット、モントルーへ

12月25日
- クラウス登場

1906年

4月
- ダニー崖から落ちる

7月
- ノアの方舟事件

夏
- 牧場へ

秋
- 展覧会事件

晩秋
- フランツ転校

12月25日
- アンネットとルシエン和解

1907年

3月2日
- ルシエン吹雪の峠越え

3月3日
- ローザンヌへ

3月中旬
- ダニーの足の手術成功

5月
- マリーの結婚式

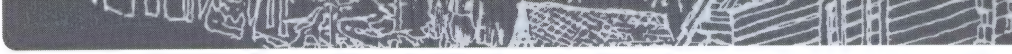
6月
- アンネット達卒業式

History

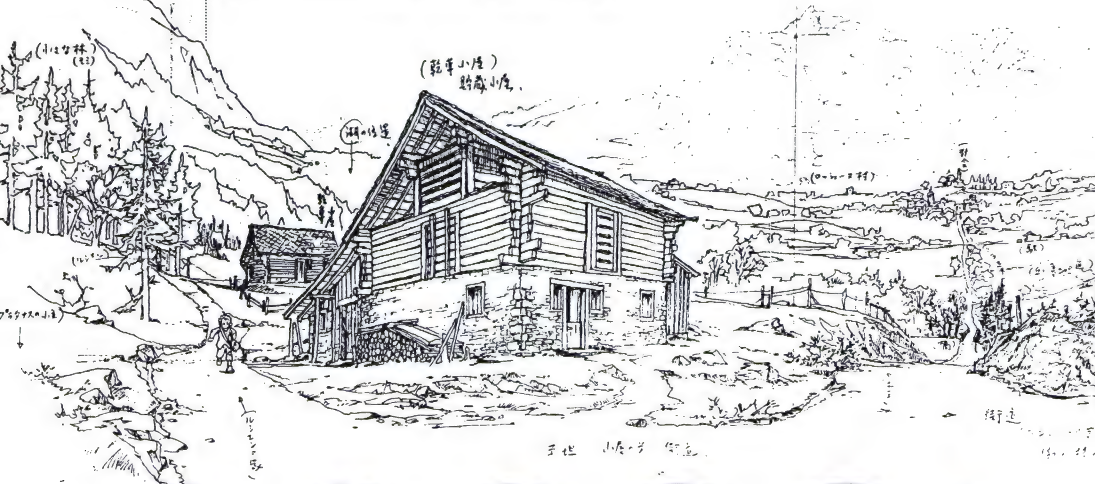
20世紀を迎えたスイス。山村ではまだ昔ながらの牧畜を中心とした暮らしがあった。鉄道の開通が村の一大事だった時代の物語。

19C	1815	ウィーン条約 スイス永世中立国に
	1825	蒸気機関車実用化(英)
	1848	スイス連邦成立 スイス初の鉄道開通
	1868	明治維新(日)
	1871	ドイツ帝国成立(独)
20C	1905	ロシニエールに鉄道開通
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
21C		

レ・ミゼラブル
ロミオの青い空
フランダースの犬
ペリーヌ物語
小公女セーラ
小公子セディ
1899 わたしのアンネット
家なき子レミ
ピーターパンの冒険
牧場の少女カトリ
名犬ラッシー
トラップ一家物語
ポルフィの長い旅



アンネットとルシエンの学校に行くときの待ち合わせの場所。



キャラクター紹介



ピエール
アンネットの父。再婚も考えず男手でふたりの子供を育てている実直な農夫。



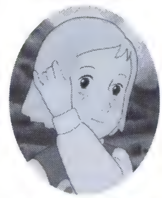
クロード
ピエールの叔母で優しいおばあちゃん。アンネットの心を優しく導く相談相手でもある。



ダニー(ダニエル)
疑うことを知らない素直で無垢な愛すべき子供。だが率直な物言いがときには刃になる。

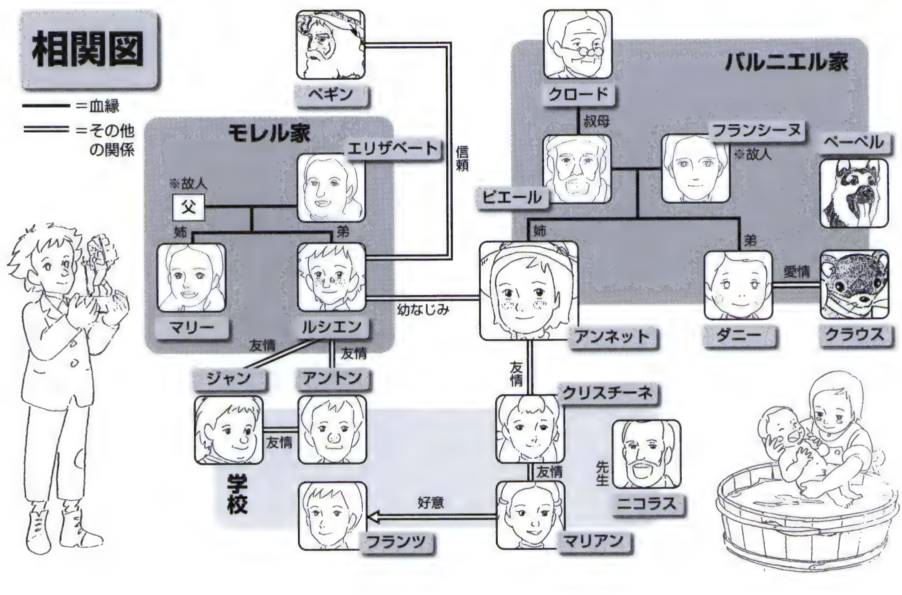


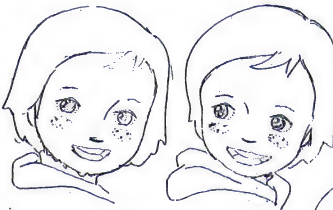
ルシエン・モレル
ぶっきらぼうだが優しく純朴な男の子。気が弱く、アンネットには強く出られない。



アンネット・バルニエル
勝ち気で意地っ張りな女の子。ルシエンの前ではつい意地を張る。ダニーの保護者。

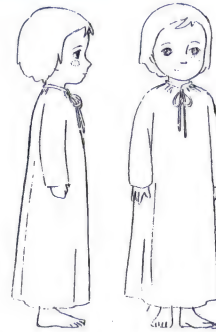
相関図





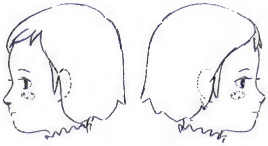
アンネット・バルニエル

初登場時7歳。本当は素直な優しい子だが勝ち気で意固地になるところがある。そのうえ早とちりのあわてんぼう。村長曰く"村一番のおてんば"で、ソリ競争でも男の子を抜いていつも一番。男勝りだが、意外にも手芸が得意。将来の夢はバレリーナ（！）。
（声：潘恵子）

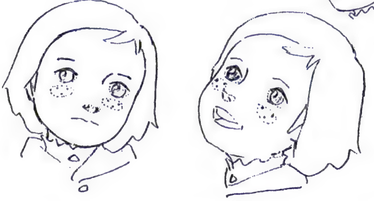


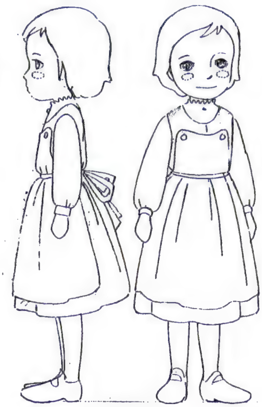
アンネットは4月生まれ。





アンネットの寝間着姿（7歳時）。







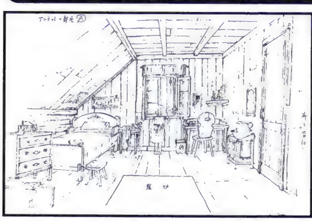


コートを着用したとき。

7歳のアンネット。そばかす、短髪で現代っ子風の女の子。物語ではアンネットの7歳から14歳（？）までが描かれる。

アンネットの服装。民族衣装風のワンピース。ピンクの前掛けは取り外しができる。

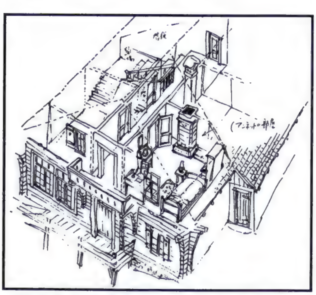
バルニエル家とアンネットの部屋



▲アンネットの部屋内部。ストーブ側から見たところ。木目の温かさを感じる。



バルニエル家の俯瞰図。牛小屋の裏手は牧場へとつながっている。



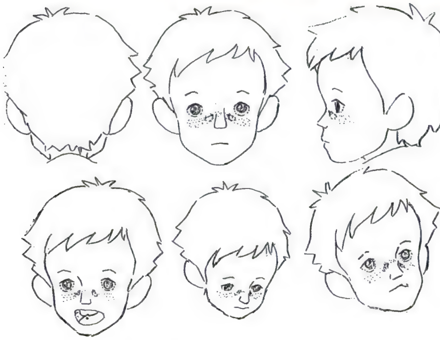
▲アンネットの部屋は2階のテラスの向かって右側。暖炉の煙突を覆ったストーブがあるため、冬も暖か。テラスの左側はダニーの部屋になる。ストーブなしで寒そう？



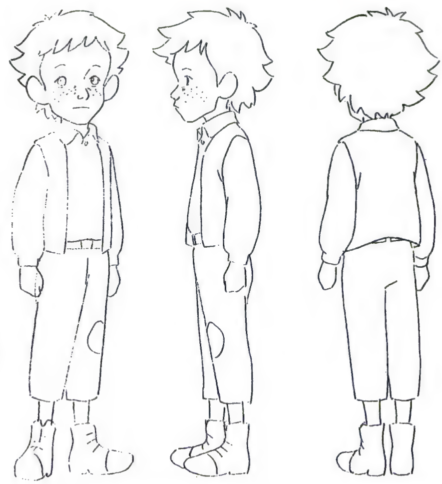
スイス山岳地方（特に西部）によく見られるシャレースタイルの農家。バルニエル家には母屋と牛小屋があり、その間に大きなニレの木がある。

ルシエン・モレル

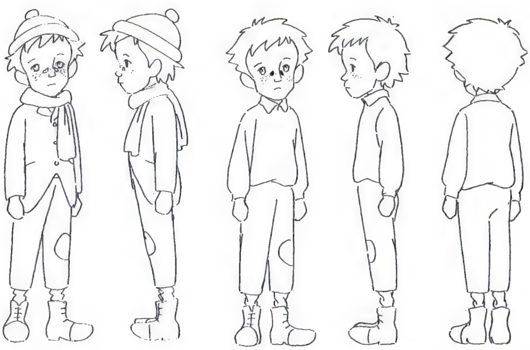
アンネットと同じ歳で初登場時は7歳。アンネットとは幼なじみで、一番の仲良し。仲が良すぎてケンカも多い。純朴で心優しい少年だが、一方で短気で思い込みが激しいところもある。アンネットにはいつも振り回されっぱなし。木彫りが得意。（声：山田栄子）



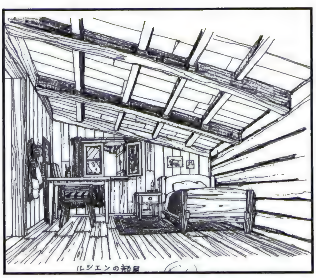
7歳のルシエン表情集。まだあどけなさが見える。



本人は何となく意識しているようだが、アンネットに淡い恋心を抱いている。だからこそ、ちょっとした問題もこじれてしまうわけだが…。（12歳のルシエン）



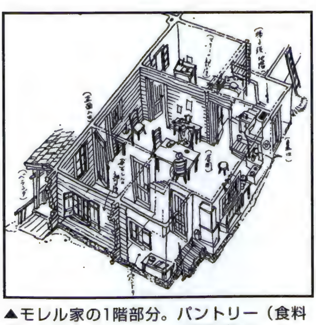
12歳のルシエン。山村の貧しい家の子らしく服は質素。



▲ルシエンの部屋。3階の屋根裏部分にあたる。アンネットの部屋に比べて質素。

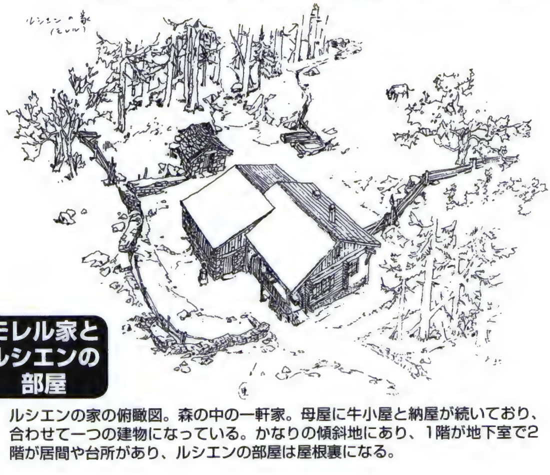


▲モレル家を横から見たところ。このテラスの高さから木彫りを落とせば壊れるのもわかる。



▲モレル家の1階部分。パントリー（食料庫）と居間、母とマリーの部屋がある。

モレル家とルシエンの部屋

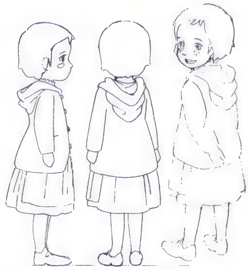


ルシエンの家の俯瞰図。森の中の一軒家。母屋に牛小屋と納屋が続いており、合わせて一つの建物になっている。かなりの傾斜地にあり、1階が地下室で2階が居間や台所があり、ルシエンの部屋は屋根裏になる。

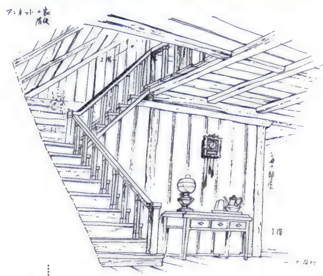


ピエール

アンネットの父。農夫らしい大きく頑丈そうな体型だ。（声：小林修）



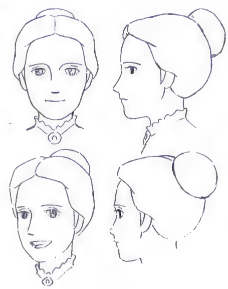
アンネットのコート姿。物語は晩秋からはじまる。



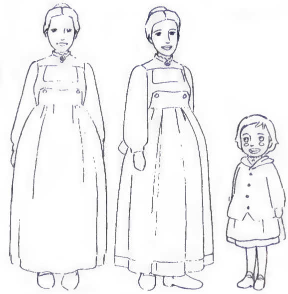
アンネットの家の階段。壁には鳩時計。



ピエール表情集。頑固なまでの実直さ、忍耐強さが伺える。パイプで一服する表情が可愛い。



フランシーヌの表情集。



フランシーヌ

アンネットの母。35歳。優しく働き者の女性。12月末に赤ちゃんが生まれる予定。（声：増山江威子）



丘の中腹にある教会。村でただひとつの教会で、原作ではプロテスタントだが、アニメでは神父が出たり牧師が出たりと宗派が混乱している。





元来心臓が弱かったが、出産間近になって風邪を引き、肺炎を起こしてしまう。

ストーリー紹介 1～4話

1話 アンネットとルシエン

アンネットとルシエンは仲良しの幼なじみ。でもおてんばなアンネットと気弱なルシエンはついケンカばかり。アンネットの家ではもうすぐ赤ん坊が生まれようとしていた。

2話 ソリ競争の日

もうすぐ村の伝統のソリ競争。アンネットは必ず勝つと意気込んだ。アンネットは予選を1位で通過するが、その頃母の体調が悪化していた。

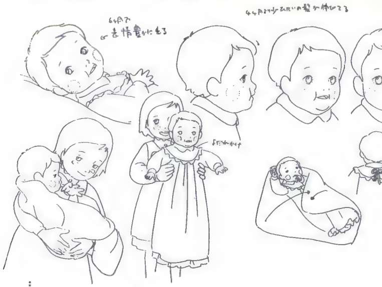
3話 愛と悲しみと

母は心臓が弱い上に肺炎を起こしていた。なんとか持ち直し、アンネット達は安心する。やがてクリスマスイブ。ミサから帰ると、母が出産を迎えていた。

4話 おかあさんになったアンネット

生まれたばかりの赤ちゃんを残して母が亡くなった。アンネットは母を想い悲しみに暮れるが、赤ちゃんのために自分がお母さんになろうと決意する。

名作メモ 設定によると父の身長は185cm、モレルは160cm。7歳時のアンネットは105cm、ルシエンは110cm。



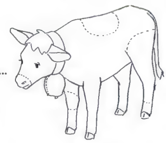
ダニー（6ヶ月）。かなり表情が出てきた頃。ダニーは月齢ごとの設定が用意された。



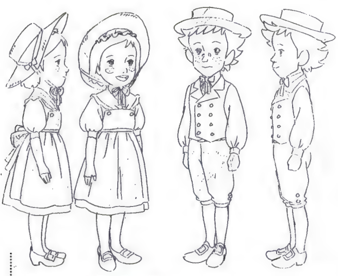
子連れ通学のアンネット。おむつやミルクを持って、張り切り新米ママぶりを発揮。

ペーペル
アンネットの家の牧牛犬。シェパード種。クラウスのいたずらにじっと耐えるけなげな犬。





やんちゃな仔牛のロゼッタ。



秋祭りに着る民族衣装。祭りのメインイベントはチーズ品評会。この年、ピエールは見事3位。



フェルナンデル
バルニエル家の隣に住む同業者。夏のチーズ作りはピエールと共同で行う。（声：北村弘一）





クロード
ピエールの叔母で、ダニーの子守のためにルツェルンから越してきた。当初は厳格で口やかましく、何でもきちんとしていないと気が済まない…性格のはずだったが。設定画は旅姿（5話）。（声：沼波照枝）



マリー
ルシエンの姉。登場時は16歳。モントルーのホテルで客室係として働く、親思いの優しい娘。実はかなりのお祭り好き。（声：吉田理保子）



エリザベート・モレル
ルシエンの母。35歳。牧畜を営むが雌牛は3頭のみで、生活は厳しい。長女マリーが出稼ぎしている。いろんなことで気苦労が絶えない。（声：片岡富枝）

ストーリー紹介 5～8話

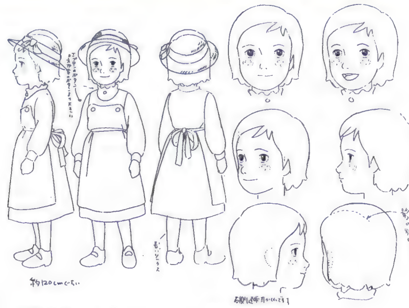
5話 あたらしい家族
ダニーの子守と家事の手伝いのため、ルツェルンから祖母が来ることになった。口やかましく気難しそうな祖母に、アンネットは反感を覚えてしまう。

6話 牧場にて
今日は山の牧場に牛を連れて行く日。アンネットとルシエンも一緒だ。山小屋を掃除し草刈りするふたり。ところが牛のロゼッタが危険な谷へ行ってしまう。

7話 チーズを作ろう
山小屋での二日目、アンネットとルシエンはフェルナンデルのチーズ作りを見に行った。楽しい山の生活に、ふたりは来年も一緒に山へ来ようと約束する。

8話 秋まつりの日に
夏休み中に仲良しになったフランツはドイツ語しか話せない。そんなフランツに肩入れするアンネットは、誤解からルシエンに手を挙げてしまう。

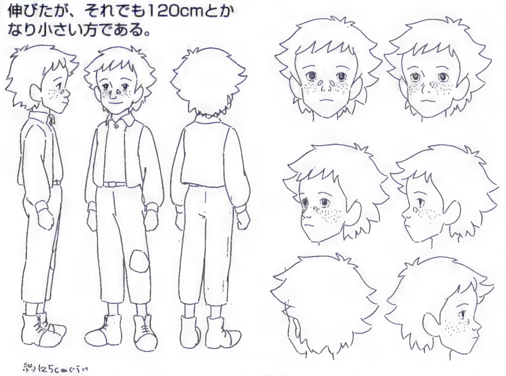
名作メモ ルシエンの父は借金をしたまま5年前（ルシエンが2歳のとき）に亡くなっている。借金の額は50フラン。



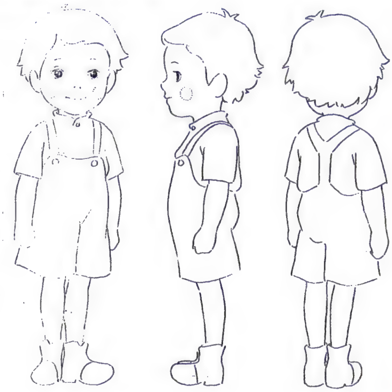
12歳になったアンネット。背も伸びたが、それでも120cmとかなり小さい方である。



ロシニエール駅。開通式は村をあげての大イベントだった。アンネットとルシエンは、それまで汽車を一度も見たことがなかった。



12歳になったルシエン。身長は125cm。こちらもかなり小柄だ。

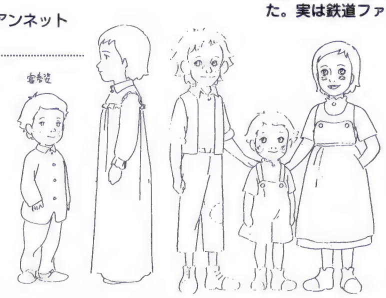


ダニー

5歳。無邪気で素直な心優しい子供に成長した。実は鉄道ファン。（声：室井深雪）

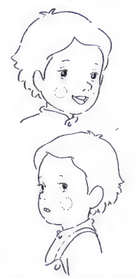


ダニーの外出着。色の配色が可愛い。



ダニーとアンネットの寝間着。

ルシエンとダニーとアンネットの比較図。



ストーリー紹介 9～12話

9話 村に汽車がやってきた

それから5年が過ぎた。幼かったダニーも、もう5歳。明日はロシニエールに鉄道が開通する日。駅では村中の人が集まって盛大に開通式が行われる。

10話 ふたりの冒険旅行

アンネットとダニーを乗せたまま、汽車は駅を出てしまった。切符がないアンネットは車掌に見つからないように、あの手この手で切り抜けるが…。

11話 クリスマスの贈り物

クリスマスイブ、スリッパを置くとプレゼントが来ると信じるダニーに、アンネット達は弱っていた。ところが翌朝スリッパに、オコジョが入っていた。

12話 白い森のできごと

男達が銃を持って森に狩りに来た。動物達を守ろうと、アンネットとルシエンらは共同作戦をはる。形勢が悪くなったそのとき、見知らぬ老人が現れた。

名作メモ クラウスの名前はクリスマスの聖人、聖ニコラウスから。アンネット案の“ナポレオン”はダニーによって却下。

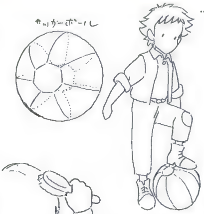




ルシエンのナイフ。

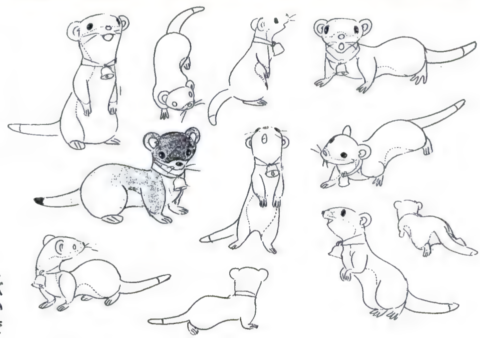


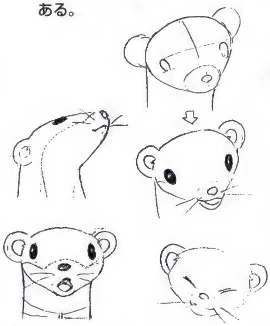
アンネットの手鏡。クロードからもらったもの。



サッカーボール。

クラウス
おこじょ。夏毛、冬毛それぞれのバージョンあり。かなりのお調子者である。





クラウスはペーペルに比べて、かなりアニメ調だ。元々原作では子猫という設定だった。



クラウスの寝床。

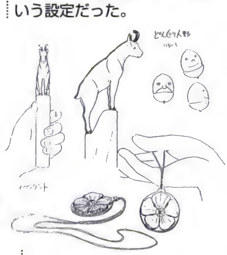


モローさんのネコのお乳で育つ。

クラウスが入っていたダニーの赤いスリッパ。



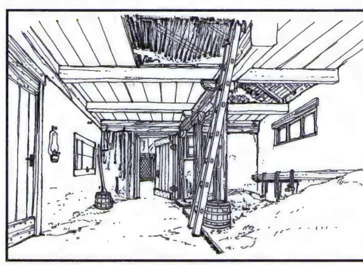
ダニーが転落した崖。



上はルシエンがダニーへ贈るはずの木彫りのカモシカ。下はアンネットの誕生プレゼントに彫ったペンダント。



ダニーは右足の骨折だけですみ、命に別状はなかったが…（16話）。



▲モレル家の牛小屋兼干し草置き場。動転したルシエンは、ここに潜り込む（15話）。

ストーリー紹介 13～16話

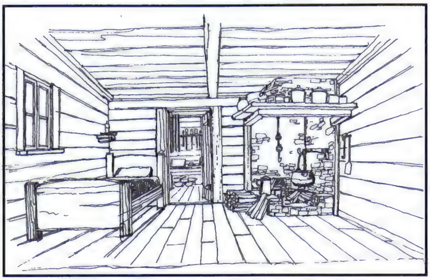
13話 すれ違うこころ
些細なことからすれ違ってばかりのアンネットとルシエン。アンネットは仲直りしよう反省するが、そんなとき、ダニーが泣きながら帰ってくる。

14話 おそろしい出来事
アンネットとルシエンはお互いに仲直りしたいと思っていた。もうすぐアンネットの誕生日。ルシエンはアンネットに木彫りの首飾りを作ろうと思い立つ。

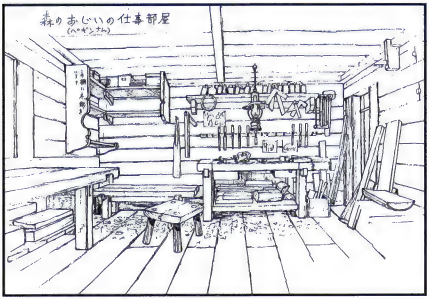
15話 ダニーを助けて！
誤ってクラウスを谷に落としてしまったルシエン。クラウスを助けようとダニーも崖から落ちてしまう。怖くなったルシエンはその場を逃げ出してしまう。

16話 病院
ダニーは無事だったが、診察の結果、足をひどく骨折していることがわかった。一方、村の人々の噂を恐れたルシエンは、学校に行けず、森をさまよっていた。

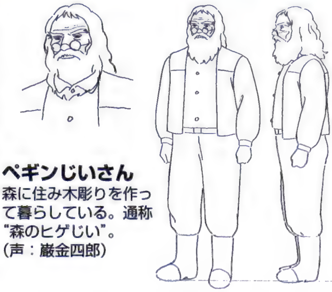
名作メモ ルシエンの苦手は算数。かけ算と割り算の組み合わせになると全く手が出ない（13話）。



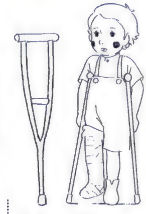
▲ペギンじいさんの家、入り口から見た図。奥の間が仕事部屋。



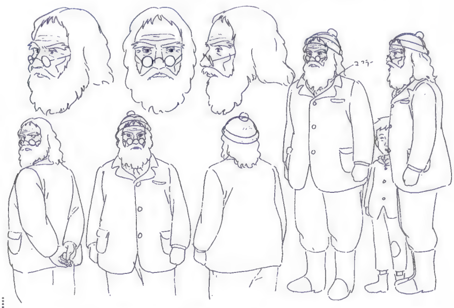
▲奥の間の仕事部屋。木彫りの道具一式がある。



ペギンじいさん
森に住み木彫りを作って暮らしている。通称"森のヒゲじい"。
(声：巌金四郎)



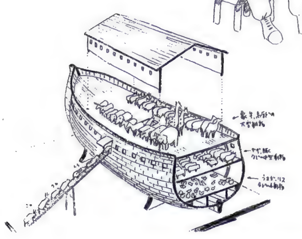
ダニーの松葉杖。ピエールの手作りである。



村人とほとんど交流はなく変人と思われている。それは彼自身、過去と後悔から人との交流を避けているため。ヒゲの量と強面で、村の子供からも恐れられているが、ルシエンへ見せる優しさが本当のペギンの姿だ。



ペギンの木彫りは本式のもの。ルシエンに伝授する。



ルシエンが作ったノアの方舟。動物がつがいで何十種類も入った力作。



刑務所でのペギン。銀行の金に手をつけ牢屋へ。その間に最愛の妻は亡くなる。



壮年時代のペギンと家族写真。一人っ子で甘やかされて育ったペギン。銀行に勤め美しく優しい女性と結婚後、ふたりの子をもうけるが、酒とばくちで転落してしまった。



ペギンの寝間着（20話～）。何かとポンポンつきの帽子を愛用するペギン。まるでサンタ！

ストーリー紹介 17～20話

17話 森の老人
周囲の目を避け、森で木彫りをしていたルシエンは、そこでひとりの老人ペギンと出会う。ペギンは、人里離れた森の中で木彫り細工をして暮らしていた。

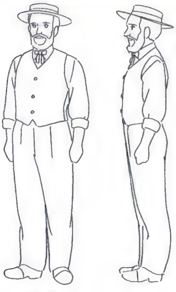
18話 ダニーの松葉杖
ピエールの作った松葉杖で歩く練習を始めたダニー。その頃、学校では春のピクニックの計画が進んでいた。だがアンネットもルシエンも参加しないという。

19話 思いがけない診断
ルシエンはペギンに本式の木彫りをやってみないかと言われ、心を動かされる。次の日曜日、ピエールとアンネットはダニーの足の診断結果を聞きにいく。

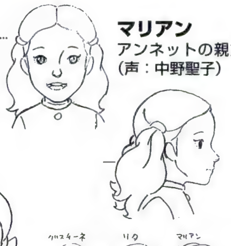
20話 ノアの方舟
ルシエンはダニーのためにノアの方舟の木彫りを作って持っていく。だがアンネットは「ダニーの足はもう治らない」と、方舟を投げ捨ててしまう。

名作メモ アンネットの弱点は脇。松葉杖が脇に触れるだけで笑い出してしまい、うまく使えない（19話）。



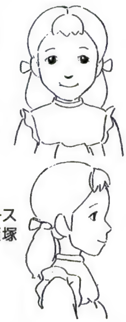


ニコラス
先生。まじめ顔して実はひょうきん。そそっかしい。（声：徳丸完）

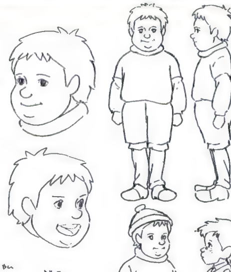


マリアン
アンネットの親友。（声：中野聖子）

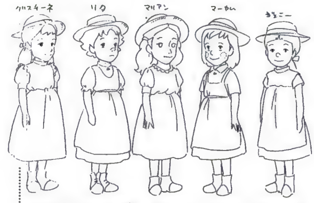
アンネットが泣くともらい泣きする優しい子。フランツが好き。



クリスチーネ
おっとりした子。レース編みが得意。（声：飯塚はる美）



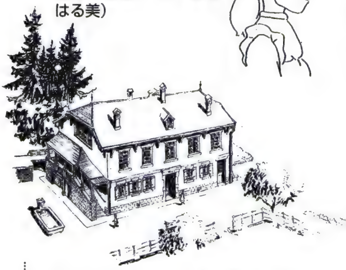
ジャン
粗野なところもあるが面倒見のいい親分肌の少年。（声：青木和代）





クラスメート達。左から、クリスチーネ、リタ、マリアン、マーカム、ジェニー。

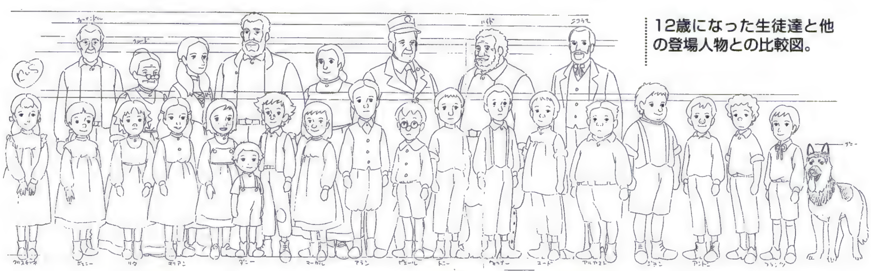
ジャンと子分？のアントン（ルシエンの隣）、ミカエル（右端）。時々ルシエンもジャンのいたずらに加わってしまう。



小学校の校舎。かなり大きな建物。教会の近くにある。アンネット達は1 階右手の教室。



クラスメート（男子）。左から、アラン、ピエール、トニー、ウェルナー、コード、マルカスト、ジャン、ミカエル、アントン、ルシエン。



12歳になった生徒達と他の登場人物との比較図。

背の高さなど、かなり細かく設定されている。犬のペーペルの左隣の少年がドイツ語圏から転校してきたフランツ。

ストーリー紹介 21～24話

21話 罪の重さ
アンネットは絶対許さないだろう。ルシエンは苦しみに押しつぶされそうだった。ペギンはそんなルシエンを見かねて、かつての自分の罪を話し出す。

22話 ダニーの宝物
ダニーはアンネットが投げ捨てたノアの方舟を見つけて大喜び。アンネットはダニーがまるでルシエンを恨んでないことに戸惑い、自分のしたことを後悔する。

23話 悲しい嘘
モレルとマリーはダニーの足が一生治らないのか知ろうとバルニエル家を訪ねた。そこに入ってきたダニーは、自分の足が治らない事実を知ってしまう

24話 アンネットの涙
ダニーが事実を知ったことでアンネット達に新たな悲しみが加わった。その翌朝、ダニーの姿が部屋から消えた。アンネットは心配して森へ探しに行く。

名作メモ 将来の夢はフランツは先生、アントンは機関士、ジャンはレストラン経営、ルシエンは彫刻家。



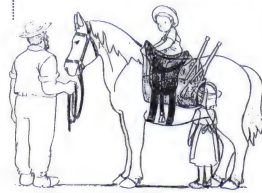


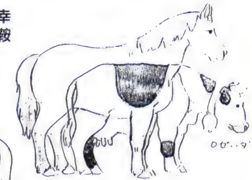
ニコラス先生の登山姿。



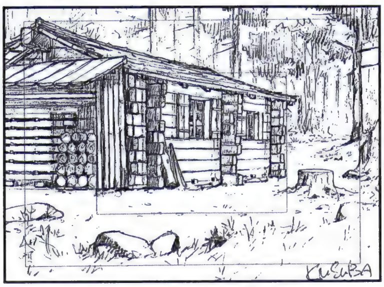
ダニーの麦わら帽子。山の牧場で着用。

成長したロゼッタと馬の比較。（幸いロゼッタは雌牛であった）馬の鞍にはダニーの松葉杖入れがある。

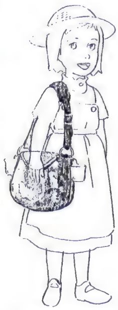








▲森の奥にあるペギンじいさんの小屋、外観。

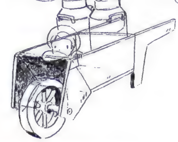




注文のカウベルをかじ屋のモリッツおじさんに受け取りに行くアンネットとそのカバン（25話）。

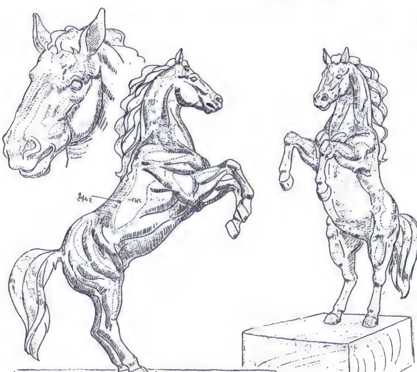
ミルク缶（時々ダニーも）を運ぶ一輪車。





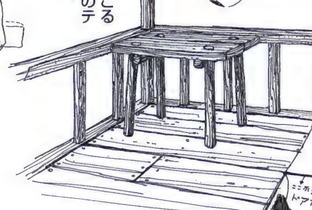


牛のカウベル。人の頭よりも大きい。これこれ、アンネット。かぶり物ではありませんよ。





悲劇が起こるモレル家のテラスの机。



ルシエンがペギンの指導の下、展覧会用に作った馬の木彫り。"事故"がなければ一等だったであろう。ルシエンは展覧会後にダニーにプレゼントするつもりだった。

ストーリー紹介 25〜28話

25話 おもいでの牧場

山の牧場へ牛を連れて行く季節がきた。いつもならルシエンもピエールの手伝いで一緒に上がる。だが、ルシエンはアンネットに遠慮して断るのだった。

26話 遠い雲 遠い日々

山の牧場にいるアンネットにジャン達がピクニックの計画を持ってきた。ピエールはルシエンを訪ね、ぜひピクニックに行って欲しいと言う。

27話 ニコラス先生の教え子たち

ダニーが村へ帰った日、ニコラス先生が山の牧場を訪ねてきた。ルシエン達が先生を案内して山の上へ行くが、途中で霧に包まれてしまう。

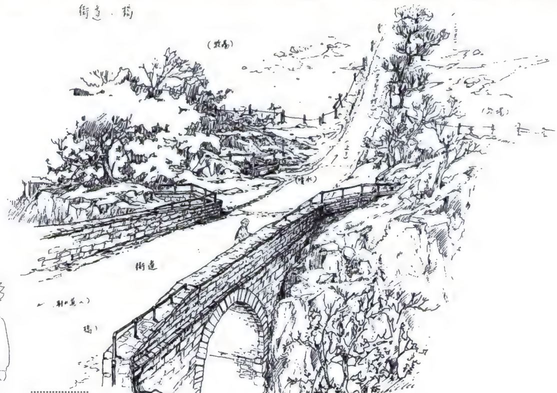
28話 展覧会にむけて

村の子供達は展覧会の作品作りに夢中になっていた。ルシエンは木彫りに自信満々だ。そんなある日、アンネットはルシエンの家までお使いを頼まれる。

名作メモ バルニエル家の牛は23話時点で9頭。それぞれ全ての牛の模様の設定が作られた。



ルシエンビジョンの悪夢のアンネット



石橋から村の方角を見る。毎朝アンネットとルシエンはこの橋を渡って学校へ行く。

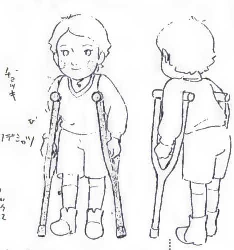


カタツムリが好物…ではない。

峠からの帰り道、ルシエンが迷子になる森で出会ったセントバーナード犬。名前はルドルフ。



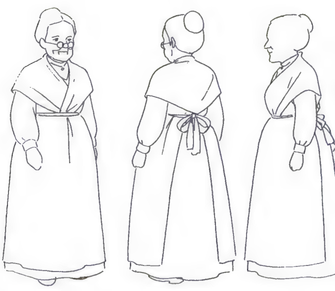
ルシエンが潜り込んだ荷馬車の農夫（30話）。ルシエンに弁当を分けて、励ましてくれる。



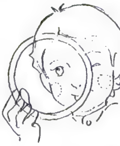
ダニーの松葉杖姿。



アンネット制作のクラウスをデザインで編み込んだ毛糸のベスト。もちろんダニーサイズ。



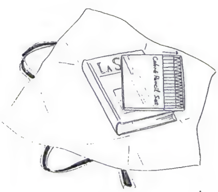
クロードの普段着（冬服バージョンはショールが追加）。



ダニーの輪投げの的はクラウス！（31話）



モレルの晴れ着。展覧会に着用。



1等賞の子に与えられる賞品「La Suisse（スイスの山の写真集）」と色鉛筆。ダニーの売り込みが功を奏し、視学官のパニエルはアンネットに賞を与える。

ストーリー紹介 29〜32話

29話 こわされた夢
壊れた木彫りの馬を見たルシエンはアンネットの仕業と気づく。アンネットはルシエンが出品をあきらめた展覧会で一等を取るが、心は痛むばかりだった。

30話 後悔の涙
アンネットは木彫りを壊したことをとても後悔していた。翌日ルシエンは学校に来なかった。心配したアンネットは、ジャン達と一緒に森に向かう。

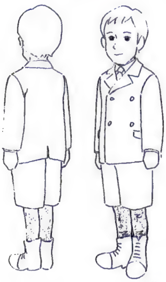
31話 峠へつづく道
ルシエンは次の日も学校へ行かず、荷馬車に潜り込んで峠へと向かっていた。一方、アンネットはペギンから、ルシエンがアンネットやダニーのために木彫りを作っていたと聞かされる。

32話 伝えたい真実
峠を越えたルシエンは、彼方に輝くレマン湖に希望を感じるが、思いとどまり母の待つ家へ帰る決意をする。だが、帰り道ルシエンは道に迷ってしまう。

名作メモ　展示会に出す作品は、クリスチーネとマリアンはレース編み、工作苦手なジャンは熊手…。

フランツ・ヨーゼフ

村役場勤務の父がローザンヌの役所に転勤。また転校することになる。（声：川島千代子）





フランツが好きなマリアンは、彼のイニシャルを刺繍してプレゼント。



ルシエンが徹夜で作ったフランツに贈るワシの彫刻。



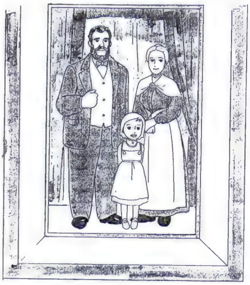
いたずら用のカエルを捕獲する竿。



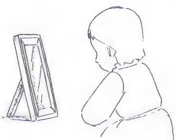
ルシエン達の秋服（セーター）。日頃の憂さ晴らしか、ルシエンは急にいたずらっ子の仲間入り（33話）。



アンネットの夢に出てくるキリストらしい男（35話）。



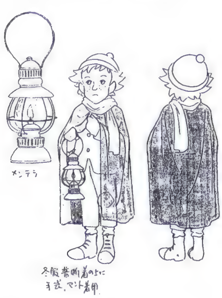
母と一緒の家族写真（35話）。

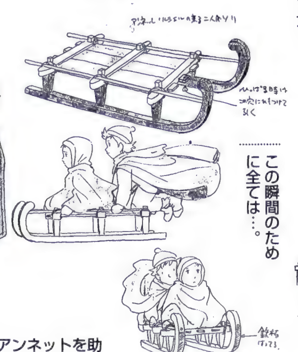




雪の夜に現れる雌のおこじょ。クラウスの彼女？（35話）

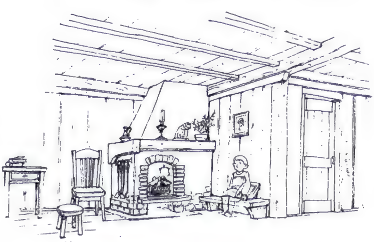
心配するダニーをよそに、クラウスは彼女とうきうきクリスマスデート。





この瞬間のために全ては…。

雪の日のルシエンのマント。アンネットを助けに行くソリと、救助されるアンネットの設定（35、36話）。



1階の暖炉の前のベンチは、アンネットが自分の心を見つめ直すシーンに、何度も使われている。

ストーリー紹介 33～36話

33話 勇気ある告白

ジャン、アントン、ルシエンのいたずらはひどくなるばかり。責めるアンネットに、ルシエンは「アンネットは悪いことした事がないのか」と問いかける。

34話 さようならフランツ

アンネットはルシエンに本当のことを話そうとするが、なかなか機会が見つからない。そんなとき、フランツがローザンヌに転校することになった。

35話 心の扉をひらいて

クラウスを探しに雪の中を出かけたアンネットは、転んで足を痛めた上、川に落ちる。寒さと痛みで動けないアンネット。そこにルシエンが通りがかった。

36話 よみがえった友情

お互いを許し合えたアンネットとルシエン。ようやく訪れた心の平安に、ふたりは幸せな気持ちで家路につく。翌日アンネットは真実を話そうとニコラス先生を訪ねた。

名作メモ フランツはドイツ語圏のシャウハウゼン州クロイツリンゲンから来た転校生だった。当初はフランス語が話せず。





ルシエンがダニーに作ったソリ。右足が曲がらないダニーのために普通のソリより長い。



ピエールのダブダブセーターを着たルシエン（36話）。



アンネットを家まで連れて行くルシエン。アンネットはすでに凍死寸前であった（36話）。



ダニーと雪だるま。目は石で鼻はニンジン。



モレル家の居間兼台所。バルニエル家のそれに比べ、生活必需品ばかりで、余裕は感じられない。だが温かみのある木の家である。ルシエンの部屋は絵の右手の階段を登る。



ピエール防寒着。冬服普段着で登山用ソックス着用、上着はボタンで前を閉じる。



ルシエンの彫った彫刻。モデルはペギン爺さん。



ギベット医師の宿泊先でマリーの勤務先のホテルモントルー。大きな噴水がありレマン湖沿いにある高級ホテル（40話）。



ルシエン決死の峠越えスタイル（39、40話）。



登りは辛いが峠まで行けば後はスキーが使える。

ストーリー紹介 37〜40話

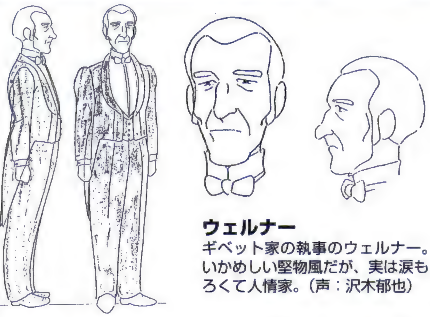
37話 二人のたからもの
ニコラス先生はアンネットとの約束通りルシエンを表彰してくれた。賞品は以前アンネットがもらった本。ふたりはその本を一月交代で持つことにした。

38話 ルシエンの誓い
もうすぐソリ競争。アンネット達も練習に熱が入る。そんなときダニーがソリ競争に出たいと言い出した。ルシエンはダニーのために徹夜でソリを作った。

39話 吹雪の峠をこえて
ある晩ルシエンはマリーからダニーの足を治せるかもしれない医者がモントルーのホテルに泊まっていると聞く。だが医者は明日朝には旅立つというのだ。

40話 立ち上がれルシエン
ルシエンは峠に向かっていた。ルシエンを捜し、無事を祈り続けるアンネット達。猛吹雪の中、森を抜けたルシエンだったが、力尽きて倒れてしまう。

名作メモ　第8回のソリ大会はアンネットとルシエンが同着一位。昨年まではアンネットが毎年一位だった。



ウェルナー
ギベット家の執事のウェルナー。いかめしい堅物風だが、実は涙もろくて人情家。（声：沢木郁也）



ギベット先生
ルシエンが命がけで会いに行く人。（声：山内雅人）

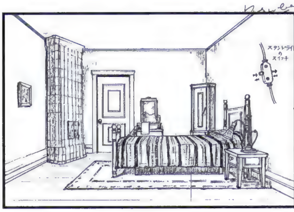
ローザンヌの大病院の院長で、遠くまで名を知られる骨の名医。ルシエンの話からペギンじいさんに強く興味をひかれる。



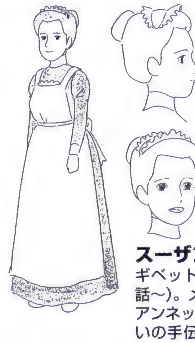
ギベットから借りた縞々パジャマ。



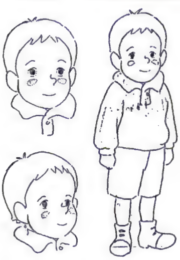
ギベット邸。大病院の院長宅だけあって、かなり大きな屋敷。ローザンヌの町外れ、丘の中腹にある。



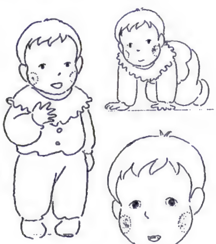
アンネットが泊まる部屋。サイドテーブルには電気スタンドがあり、アンネットとダニーはびっくり！



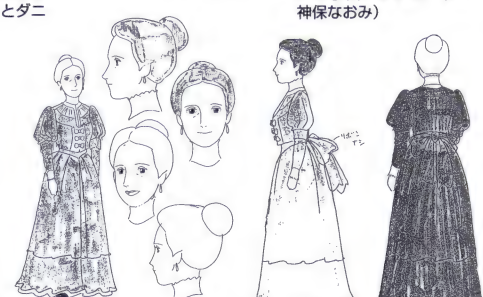
スーザン
ギベット家のメイド（43話～）。メイドは彼女一人。アンネットは一緒に茶碗洗いの手伝いをする。（声：神保なおみ）



マーク
長男、4歳。ダニーと真っ先に打ち解ける。（声：三田ゆう子）



クレール
まだ1歳の次男。いつもお母さんにだっこされている。



エレーナ
ギベットの妻。容姿がアンネットの母フランシーヌにそっくりで、アンネットを驚かせる。優しい女性。子供も小さく若いはずだが、やや老けた印象が。（声：梨羽雪子）

ストーリー紹介 41～44話

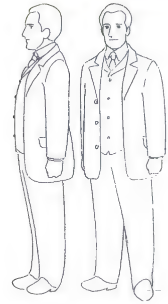
41話 ダニーを診てくれますか
医師のギベットに、ダニーの診察を頼むと、ルシエンはそのまま倒れてしまう。ルシエンの決死の願いを知ったギベットは、ダニーの診察を決断する。

42話 ペギンじいさんの秘密
ルシエンは、ダニーの治療費のお礼のためペギンを訪ねていた。そこへもう一組の訪問者が現れた。アンネットに案内されてきたギベットだった。

43話 希望の町ローザンヌ
アンネットとダニーはギベットの病院のあるローザンヌに到着した。ローザンヌは大都会。ダニーの入院中、アンネットはギベットの屋敷で暮らすのだ。

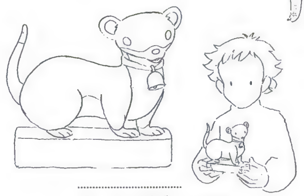
44話 ギベット家のひとびと
クラウスを病室に連れてきたダニー。病室内はすっかり和やかムード。一方、一人になったアンネットは、次第に寂しさが込み上げてくるのだった。

名作メモ ダニーの足の治療には手術後2ヶ月必要。さらにその後の歩行訓練に3週間を要した。

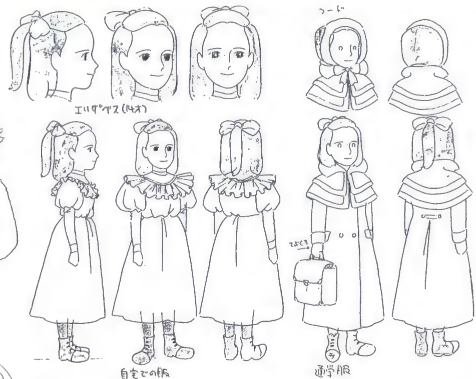


セザール・バロー
マリーの結婚相手。レマン湖の遊覧船の船員である。

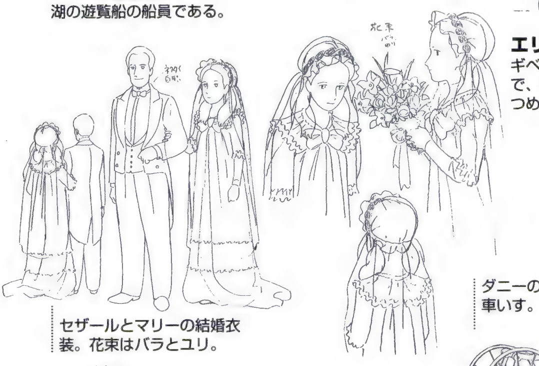
並べると本物と区別がつかない？



ルシエンがダニーのお見舞いに作ったクラウスの木彫り。夏色に着彩されている。



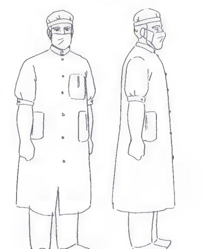
エリザベス
ギベット家の長女。14歳。姉弟で一人だけ年が離れているので、ほとんど一人っ子のような性格。プライドが高く言動もきつめだが、別に意地悪というわけではない。（声：麻上洋子）



セザールとマリーの結婚衣装。花束はバラとユリ。



ローザンヌで再会したときのフランツの服装。



手術衣のギベット。



ダニーの車いす。

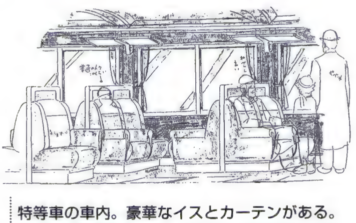




卒業証書とニコラス先生へバラの花束。



アンネットの花嫁衣装。アンネットの空想なので、イメージはまだ子供のまま。ドレスは白。



特等車の車内。豪華なイスとカーテンがある。物語中で説明はないが、ギベットが同行する際は特等車。バルニエル家が自腹で行く際は木のイスの2等車と、描き分けられている。



ダニーのリハビリ用の鉄の足。重い！

ストーリー紹介 45〜48話

45話 手術の日
ダニーの足を手術する日がきた。ダニーは怯えるが、アンネットには見守ることしかできない。同じ頃ルシエン達も手術の成功を祈っていた。

46話 再会
手術から一ヶ月、重いおもりをつけたダニーの足は時々ひどく痛んだ。そんなときローザンヌに転校したフランツが病院にいるアンネットを訪ねてきた。

47話 輝く光の中で
ピエールとルシエンがダニーの見舞いにきた翌日、ついにダニーのギプスが外れた。それから一ヶ月後、ダニーを乗せた汽車は村に向かっていた。

48話 友情よ永遠に
ダニーはすっかり元気になった。ペギンはローザンヌに旅立ち、マリーの結婚式が行われた。そして月日は流れ、アンネット達の卒業式の日がきた。

名作メモ マリーの花嫁衣装の色を想像する女の子達。クリスチーネは淡いピンク。マリアンは淡いブルー。アンネットは白。

実演！バルニエル家特製チーズ

スイスといえば、アルプスといえば、チーズなのである！

『アンネット』でもバッチリ、チーズ作りが登場する。しかもアンネットの父ピエール直々作り方の説明までしてくれる。どこかのおんじよりも丁寧なのでわかりやすい。スタッフは取材に基づいて、その手順をていねいに絵にしている。その成果は7話を見てほしい。

ところでアンネットの一家が作るのはヤギではなく牛の乳のチーズ。ロシニエールはスイス名産のグリュイエールやエメンタールの産地に近いチーズどころでもあるのだ。



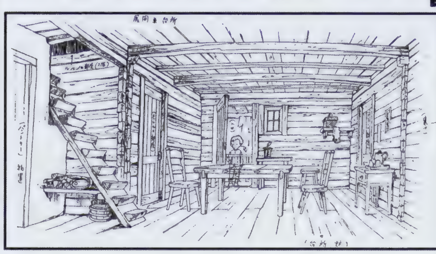
上記はチーズの手順のほんの一部。村では秋まつりの日にチーズの品評会も行われる。ピエールは3位に入賞の実績有り。

ふたりの美術監督

当初『わたしのアンネット』の美術監督は、井岡雅宏氏が決まっていた。『アルプスの少女ハイジ』で美しいアルプスを表現した彼の手腕が買われたのだ。だが、井岡氏は長年の無理がたたって体調を崩してしまい、ロケハン先のスイスでついに倒れてしまう。急遽後を受けて『トム・ソーヤーの冒険』の阿部泰三郎氏が引き継いだ。だが井岡氏の健康は戻らず、1985年帰らぬ人となってしまった。

▼井岡雅宏氏が描いた数少ない『アンネット』の美術設定。



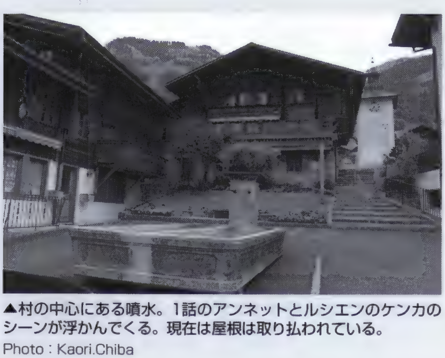


▶阿部泰三郎氏の人の暮らしが感じられる絵も魅力的。

ロシニエール村

モントルーから各駅停車の列車で1時間弱。山間の静かな村ロシニエールには、アニメと同じ風景が今も広がっている。自動車が走っていることを除けば、物語の舞台になった頃と風景は変わっていないのだろう。

ところで、アニメも原作もロシニエールをモデルにしているが、ルシエンが越えた峠だけは著者の創作である。実際はモントルーまでいくつも峠が連なり、むろん吹雪の日にスキーでいける距離ではない。



▲村の中心にある噴水。1話のアンネットとルシエンのケンカのシーンが浮かんでくる。現在は屋根は取り払われている。
Photo：Kaori.Chiba

キリスト教と「アンネット」

『アンネット』の原作者、パトリシアは、宣教師として、多くの子供達にキリスト教を分かりやすく伝えたいと思っていた。キリスト教の中心にある〝罪と贖罪〟。それをアンネットとルシエンの友情を通して描こうとしたのだ。





クラスにひとりはいそうな世話焼きで勝ち気な少女アンネット。一方幼なじみのルシエンは、心優しいが内気で不器用な少年だ。物語の中で、ルシエンは不慮の事故とはいえ、アンネットから許してもらえない罪を負う。子供が背負うのにはあまりにも重い十字架で、アニメでも何話も続くふたりの葛藤は観ていて辛いものがあった。

　キリスト教の背景がない日本人には、この物語のテーマである罪の許しとはなにか、わかりにくい。原作を読んだ楠葉氏も大いに解釈に悩み、結局原作通りに描くほかなかったという。それであえて原作のテーマを、クロードおばあちゃんを通して希釈せずに語らせたのだ。

　アンネットを導き、説教を説くクロードは、パトリシアのメッセージそのものなのである。

〈原作者〉

パトリシア・M・セントジョン

1919－1993

両親が南米からイギリスへ帰国する途中の船の中で生まれた。イギリスで幼少を過ごし、6歳の頃キリスト教への信仰を持って以来、終生敬虔なクリスチャンとして生きる。7歳の時家族とスイスに渡り、山の暮らしの中で得た体験が後に『雪のたから』の元となる。イギリスに戻ったパトリシアは看護師となり、兄の務めるモロッコの病院で30年間勤務した。児童書を中心に15冊以上の本を出版している。

〈原作〉



雪のたから

訳　：松代恵美
発行：いのちのことば社



ペギンじいさんが家族への贖罪のために彫ったマリア像。息子ギベットへの贈り物だ。ここにもう一つの贖罪が『アンネット』で描かれている。

「わたし」とは誰なのか?



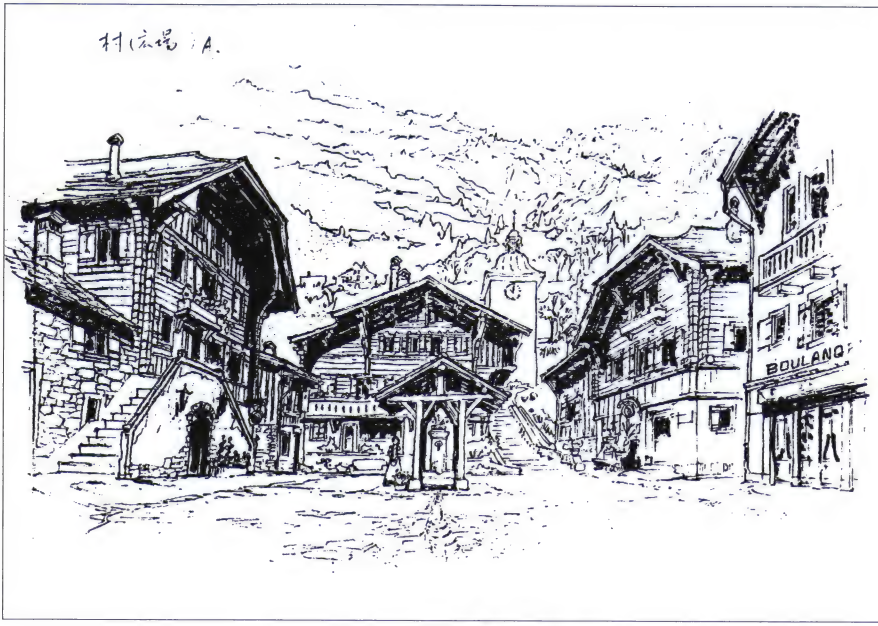
『わたしのアンネット』。このタイトルの〝わたし〟とは一体誰か?

　アンネットの母が、アンネットに語る最期の言葉「私の、アンネット…」。それは〝天国からあなたを見守りますよ。可愛い私のアンネット〟という母の愛を込めた言葉だった。

　アンネットがどんなに失敗しても、悪い子のときも、いつでも愛して見守ってくれる。寄り添う母の想い。それはもっと広げると神の視点でもある。神はすべてを赦し愛される——。だから〝神様の〟アンネットなのだ。

　それからもう一つ、一緒に物語を見守る私達。視聴者にとっての〝私のアンネット〟でもあってほしい。これが制作者の思いでもあった。苦しみながらも大きく成長するアンネットという少女を、そしてルシエンを見守っていきたい。

Gallery



ロシニエールの村の広場／井岡雅宏

メインスタッフ

脚本	吉田憲二
音楽	広瀬量平
キャラクターデザイン	竹松一生
絵コンテ	楠葉宏三／黒川文男／横田和善／清瀬二郎
作画監督	竹松一生／前田英美／佐藤好春
美術監督	井岡雅宏／阿部泰三郎
美術補佐	松宮正純
撮影監督	黒木敬七
録音監督	小松亘弘
色指定	宇野薫
プロデューサー	松土隆二
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ　「アンネットの青い空」
作詞：阿木耀子
作曲・編曲：広瀬量平
歌：潘恵子

エンディングテーマ　「エーデルワイスの白い花」
作詞：阿木耀子
作曲・編曲：広瀬量平
歌：潘恵子

家なき子レミ

Sans famille

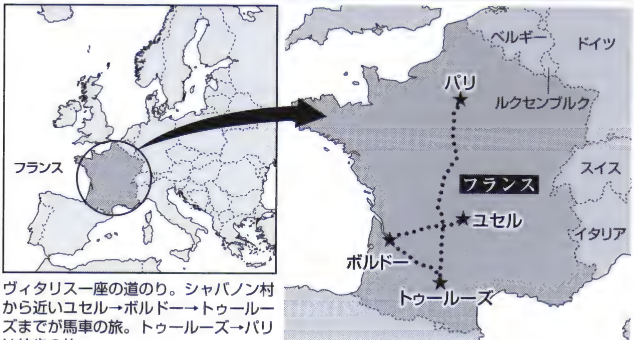


家なき子レミ



放映期間	1996/09/01～ 1997/03/23
話　数	26話
原　作	エクトル・マロ「家なき子」
備　考	96年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞

物語の舞台



ヴィタリス一座の道のり。シャバノン村から近いユセル→ボルドー→トゥールーズまでが馬車の旅。トゥールーズ→パリは徒歩の旅。

ストーリー解説

少女レミは優しい母とかわいい妹に囲まれ、シャバノン村で貧しいながらも幸せに暮らしていた。だが10歳の誕生日の夜、突然帰って来た父ジェロームから衝撃の真実が明かされる。レミはパリで拾われた捨て子だったのだ。

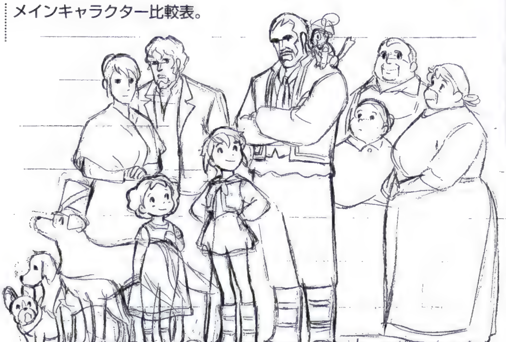
当面の生活費が必要なジェロームは、自分の子ではないレミを人買いに売ってしまう。そんなレミを救ったのは、誕生日にたまたま知り合った旅芸人、ヴィタリス一座だった。

このままシャバノン村に残っても、大好きなお母さんを不幸にしてしまう……。居場所を無くしたレミは、ヴィタリスに誘われるまま旅芸人となる道を選ぶ。それは長く苦しい試練の始まりだった。

「前へ進め！　明日を信じて！」

ヴィタリスのかけ声を胸に、レミは今日も前へと歩いてゆく。

メインキャラクター比較表。



1900年頃

残暑
- レミとアンヌ誕生日
- レミ、ヴィタリス一座に

秋
- ヴィタリス逮捕される
- レミ、ミリガン夫人と出会う

冬
- ドルチェとゼルビーノ雪山で死亡
- パリを目前にヴィタリス死亡
- レミ、ガスパールの元へ

翌年

春
- マルセル、子猫を拾う
- リーズ、下水道へ迷い込む

初夏
- レミ、ミシェル一座と共に興行

夏
- マルセル、病気で倒れる
- マチア、バイオリンを貰う

秋
- レミ、廃坑に閉じ込められる
- 子供達、ぶどう詰みで農園へ
- レミ、ミリガン夫人と再会

History

19世紀が終わりを告げ、激動の20世紀を迎えたばかりのフランスが舞台。

1827	フランス初の商業鉄道開業
1836	エトワール凱旋門完成
1853	パリ大改造（～1910）
1855	パリ万博（1回目）
1867	パリ万博（2回目）、日本が国際博に初参加
1868	明治維新（日）
1875	オペラ座（ガルニエ宮）落成式 サクレ・クール寺院建設開始（～1914）
1878	パリ万博（3回目）
1889	パリ万博（4回目）、エッフェル塔建設 フランス革命百周年 柔道家嘉納治五郎、初めて欧州に渡る
1900	パリ万博（5回目） パリオリンピック同時開催 メトロ（地下鉄）1号線開通
1914	第1次世界大戦（～1918）
1925	パリ万博（6回目）
1929	世界恐慌
1937	パリ万博（7回目）
1939	第2次世界大戦（～1945）
1949	人身売買禁止条約を発効（国連）
1993	EU発足

19C
20C

ガスパールの部屋
があるアパート。





アンヌ・バルブラン
捨て子だったレミを我が子のように愛し、健やかに育てた義理の母。

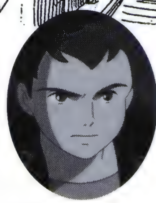
キャラクター紹介



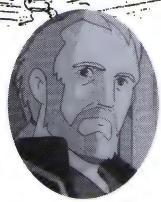
ミリガン夫人
息子アーサーの転地療養の為、イギリスから渡って来た。レミの本当のお母さん。



アーサー・ミリガン
イギリスの名門、ミリガン家の長男。病弱で歩く事もできず、悲観していた。



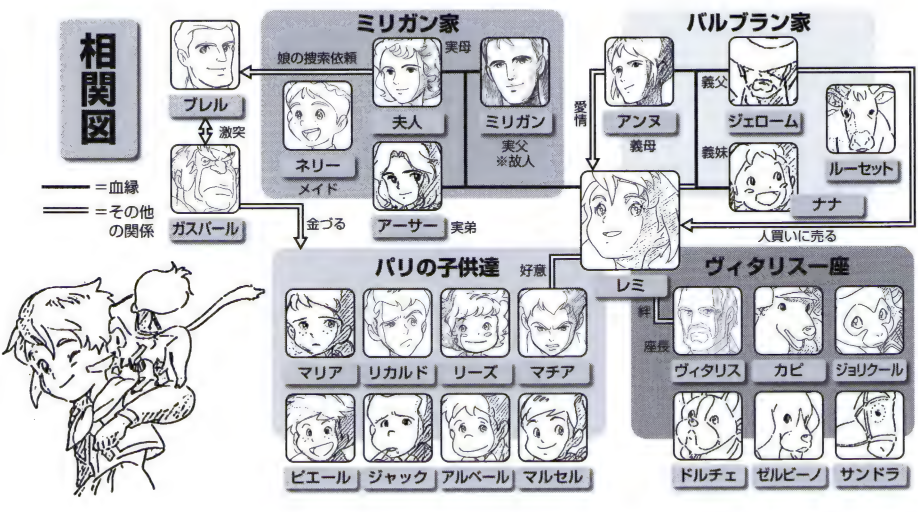
マチア
ガスパールの元にいる孤児の子供達のリーダー。ヴァイオリニストを夢見る。



ヴィタリス
ヴィタリス一座の座長。人買いに売られたレミを助け、旅芸人として育てる。



レミ
明るくて歌の上手な少女。いつの日か本当の母に会えると信じて、今日も前へ進む。



バルブランの家

家はユセルに近い、シャバノン村にある。出稼ぎに出ている父ジェロームの稼ぎと、雌牛ルーセットのお乳が貴重な収入源であった。

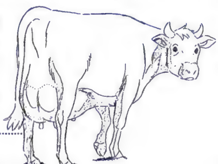




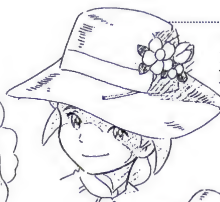


レミ

明るく元気で歌が上手な10歳の少女。家族想いで面倒見も良い。バルブラン家の長女として育てられるが、実は捨て子だった。義父に人買いへ売られ、シャバノン村に居場所がなくなってしまう。そこをたまたま知り合ったヴィタリス一座に助けられ、レミの運命は大きく動き始めるのだった。(声:堀江美都子)



バルブラン家の雌牛ルーセット。ルーセットのお乳で作るバターはとってもおいしいと評判だった。

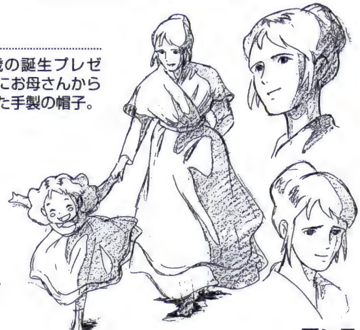


10歳の誕生プレゼントにお母さんから貰った手製の帽子。









アンヌ

10年前、赤ちゃんを病気で亡くして沈んでいた時にジェロームが連れ帰ったレミは、まるで神様からの贈物だった。それ以来、アンヌはレミを我が子のように愛し、育て続けて来た。(声:弘中くみ子)

ナナ

バルブラン家の実子。レミに負けず明るく元気な女の子。姉のレミを慕っている。6歳。(声:嶋方淳子)







10年前のジェローム。見た事も無い上等な産着を着た赤ちゃんをパリで拾い、警察と共に親を捜す。それが見返りを期待しての行動だったとしても、レミの幼い頃の記憶にあるジェロームは、間違いなく「世界一優しいお父さん」であった。

ジェローム・バルブラン

半年前、仕事中に転落し足に大怪我をした。仕事もできなくなり、それ以来すっかり荒みきってしまう。もはや優しいお父さんの面影は無かった。(声:田中正彦)

名作メモ 名作劇場で主人公が男の子から女の子に変更されたのは『ふしぎな島のフローネ』以来2度目である。

シャバノン村

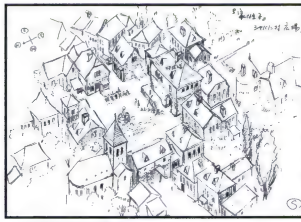
明るくて元気なレミは村のみんなと仲良しだ。



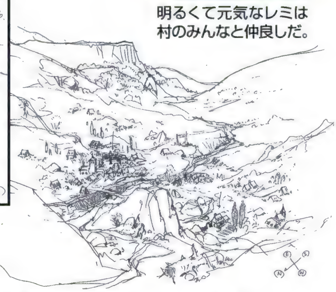
アコーディオン奏者。



のど自慢に出場するルコント（1話）。



▲のど自慢大会が開催されたシャバノン村の広場。





ポリネール
人買い。20フランで買ったレミを、欲しがるヴィタリスに100フランで売りつけようとするが…（2話）。



ラモン
ジェロームの入院費を貸した代わりにルーセットを貰う約束をしていた（1話）。



シャバノン村の村長。字が読める偉い人。村で他に字が読める人は神父くらい。



コクラン
酒屋の主人。



ルコント
雑貨屋の主人。



アンリ

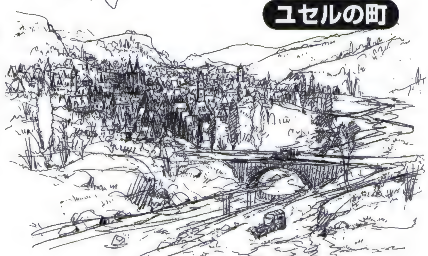
ユセルの町

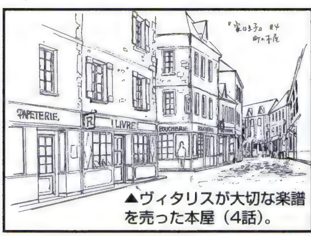


コラール
流行作家。『10の魔法の物語』を執筆する（4話）。



ナナの面影を持つカトリーンと、その父ピエール。レミの歌にお金を払ってくれた初のお客さん（3話）。





▲ヴィタリスが大切な楽譜を売った本屋（4話）。



ジャンとその母。ジャンは病気の母を医者に診てもらいたくてヴィタリス一座の稼ぎを盗んでしまう（3話）。



レミの衣装を買いそろえた古着屋の主人（3話）。

ストーリー紹介 1～4話

1話 悲しい誕生日
今日はレミと母の誕生日。村ののど自慢大会の優勝商品が綺麗なお皿だと知ったレミは、母に贈りたくて大会に出場する。その夜、父が帰って来た。

2話 さよならお母さん
レミは捨て子だった。怪我で働けない父ジェロームは、生活費欲しさにレミを人買いに売ってしまう。そこに現れたのは旅の芸人ヴィタリスだった。

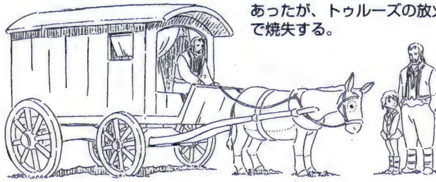
3話 ヴィタリス一座
ヴィタリス一座の一員となったレミは、早速出し物の役を与えられるが、初舞台は大失敗。更にヴィタリスから預かった稼ぎを町の少年に盗られてしまう。

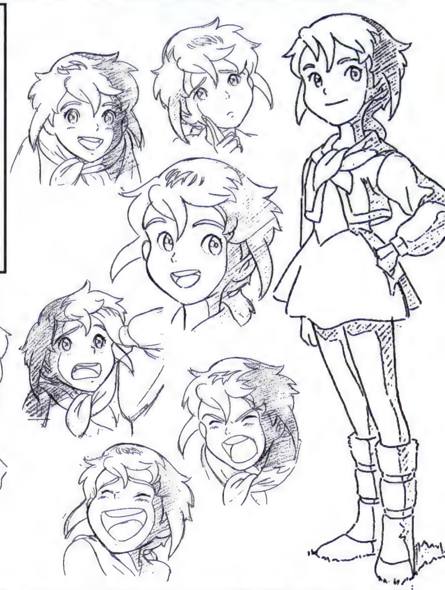
4話 素敵な贈り物
レミが読み書きできないと知ったヴィタリスは、レミに文字を教える。向学心を持たせようと本屋に連れて行くと、そこに流行作家のコラールが現れる。

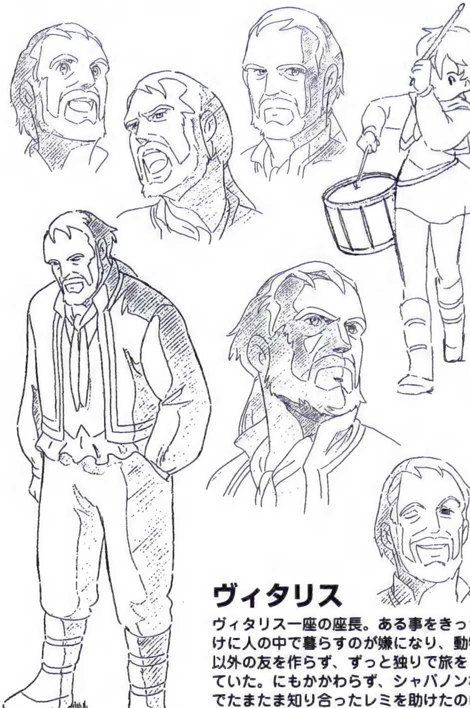
名作メモ のど時自慢大会でルコントが唄うナポリ民謡『オー・ソレ・ミオ』が作詞作曲されたのは1898年（1話）。

ヴィタリス一座の家

寝泊まりできる家馬車。牽引するのはロバのサンドラ。小さいながらも楽しい我が家であったが、トゥルーズの放火で焼失する。





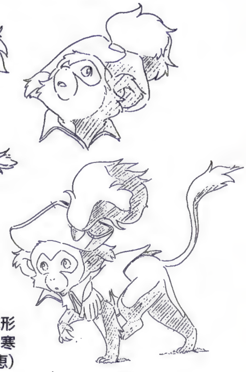


芸人姿のレミ。衣装はユセルの古着屋で買いそろえる。人目につく服を選び、最後の仕上げにヴィタリスがハサミでスカートを短くした。以降、レミの普段着となった。村を離れたばかりの頃は「泣き虫レミ」と呼ばれていたが、一座のみんなに支えられ、次第に本来の明るさを取り戻してゆく。

ヴィタリス

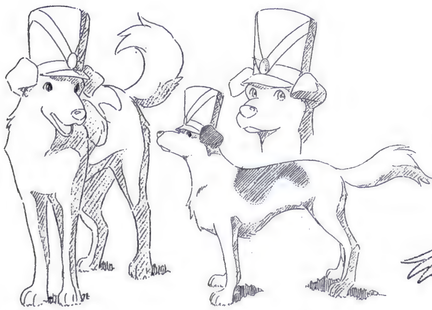
ヴィタリス一座の座長。ある事をきっかけに人の中で暮らすのが嫌になり、動物以外の友を作らず、ずっと独りで旅をしていた。にもかかわらず、シャバノン村でたまたま知り合ったレミを助けたのはどうしてか…。別れた「愛する人」の面影を重ねたのだろうか？
（声：山野史人）





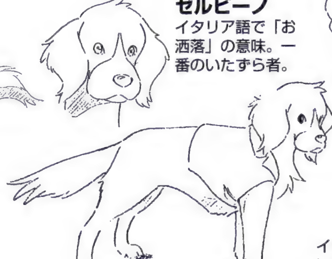
ジョリクール

人懐っこい猿で一座の花形スター。南国育ちの為、寒さに弱い。（声：佐藤智恵）



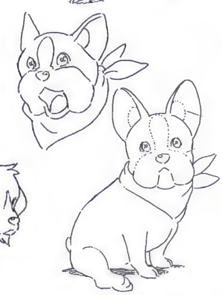
カピ

イタリア語のカピターノ、「かしら」の意味。動物達のリーダー格で、ヴィタリス亡き後もレミを支え続ける。



ゼルビーノ

イタリア語で「お洒落」の意味。一番のいたずら者。



ドルチェ

イタリア語で「優しい」「甘い」でイタリア流の女性へのほめ言葉。レミが加わるまでは紅一点であった。

名作メモ 原作のレミの綴りはRemi。世界名作劇場のレミの綴りは女性名のRemy である（4話）。



幼い頃のピエールとニーナ。生前の母はマリア像が起こす奇跡の物語を、繰り返し子供達に話して聞かせていた（5話）。

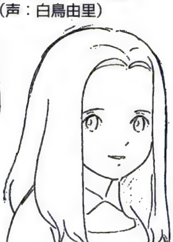


ニーナ
ピエールの妹。母の死がショックで言葉が上手く出なくなってしまう（5話）。



ピエール
いたずらばかりしている悪童だが、妹想い。母の話を信じてマリア像に百度参りをする（5話）。





サラ
盲目の少女。7年前にアンドレ親方に引き取られ、陶芸作りの修行に励んでいる。タロットカードが得意で、レミに母との再会が近いと占うが…（6話）。
（声：白鳥由里）



イヴォンヌ
赤子のときに生き別れた娘を探して旅をしている（6話）。



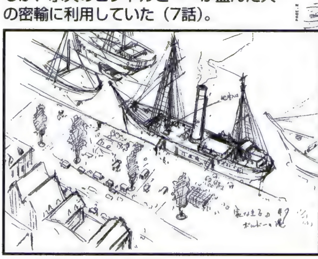
アンドレ
陶芸職人。死んだ妻と同じ名前のサラが他人とは思えず、引き取って弟子として育てている（6話）。

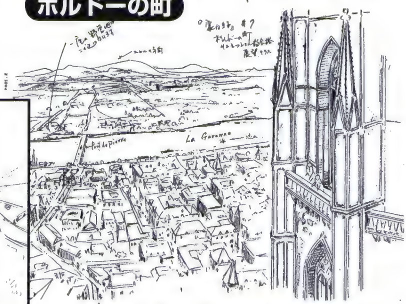


エミール
プリマベラ号の見習い水夫。父を亡くし、家族の為に働く。田舎ではカピに似た犬を飼っていた（7話）。

ボルドーの町

▼ボルドーの港。停泊しているのはプリマベラ号。イギリスへワインを運んでいるが、水夫のビクトルとべべが盗んだ犬の密輸に利用していた（7話）。





サン・ミッシェル教会塔から望む街並。

ストーリー紹介 5～8話

5話 奇跡のマリア像
孤児院の子ピエールは、言葉を無くした妹の回復を願い、毎晩屋敷に忍び込んでマリア像に祈りを捧げていた。だが百日目の朝、秘密を知られてしまう。

6話 幻のお母さん
山道で立ち往生するヴィタリス一座。それを助けた馬車には、赤子の頃に生き別れた娘を捜す女性がいた。その日レミは、町で盲目の少女サラと知り合う。

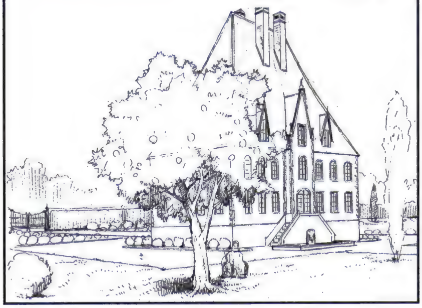
7話 もうひとつの家族
港街ボルドーに訪れたヴィタリス一座。レミには川に停泊する沢山の船が珍しかった。その頃、街には犬を捕まえてサーカスに売り飛ばす不届き者がいた。

8話 さよなら私たちの家
トゥールーズでは連続して放火窃盗事件が起きていた。警察はよそ者であるヴィタリスを疑う。そんなある夜、レミは犯人とぶつかり、顔を見てしまう。

名作メモ サラを弟子にしたアンドレと、レミを一座に加えたヴィタリス。似た物同士だからか短期間で意気投合（6話）。

ミリガンの屋敷

トゥルーズ郊外にある屋敷はアーサーの療養の為の住まい。本邸はイギリスにある。

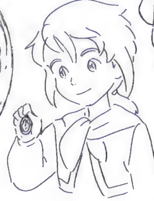




ミリガン夫人に助けられ、包帯を巻かれたレミ。幸いな事に怪我は軽傷だった。



レミが赤子の頃から持っていたカメオ。同じ物をミリガン夫人も…





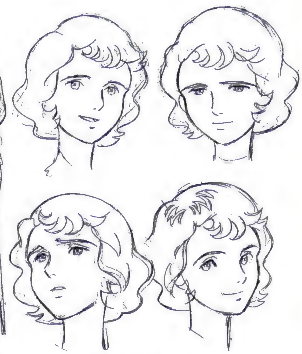
レミのリュック。





ミリガン氏の肖像画。目を覚ましたレミを見つめるうち、ミリガン夫人は何故か遠い昔に亡くした夫を思い出すのだった。





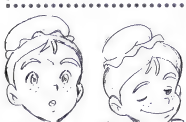
ミリガン夫人

娘は赤子の頃誘拐され行方不明。更に愛する夫は病気で亡くす。最後の希望である息子のアーサーも病弱で歩けず、気苦労が絶えない。そんなとき、警察署の前で倒れたレミと運命的な出会いを果たす。（声：山田栄子）



設定画のプロフィール

・25歳。明るい。
・その場を和ます笑顔。
・インド人と英国人のハーフ。
・趣味読書。
・犬が好き。

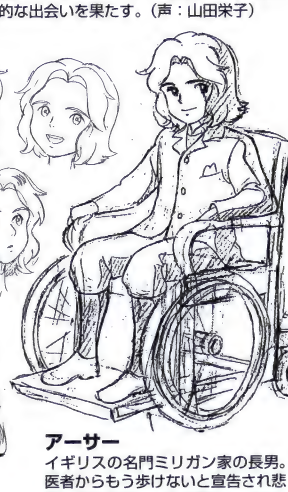




ネリー

ミリガン家のメイド。童顔でそばかすもあるが成人女性。ミリガン夫人の信頼も厚く、後にパリに向かったレミの捜索を託される。（声：林原めぐみ）



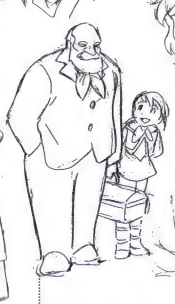


アーサー

イギリスの名門ミリガン家の長男。医者からもう歩けないと宣告され悲嘆に暮れるが、レミの励ましと母の愛に支えられ、本来の明るさを取り戻してゆく。（声：冬馬由美）



料理担当のおばちゃんメイド。口の軽いネリーのたしなめ役。





庭師のおじいさん。

名作メモ 小さいパンは3スー。大きいパンは5スー。『レ・ミゼラブル』の時代より物価が上がっている（9話）。

トゥールーズの町

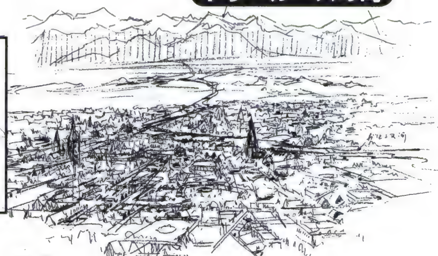




巡査長。ヴィタリスを放火犯と決めつけ逮捕したり、レミを突き飛ばして怪我させたりと、ろくなことをしない（8～9話）。



▼ヴィタリスが捕われている警察署。門前でレミとミリガン夫人が運命的に出会う（9話）。





釈放され、ミリガン邸に訪れたヴィタリスは、暖かい暖炉の前で一休みさせてもらう。獄中生活でヴィタリスの身体はすっかり弱っていた（11話）。

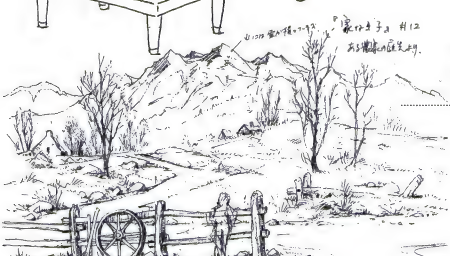


ミミ
パン屋の娘。ヴィタリスが放火犯として疑われる中、ただひとりレミ達を信じる（8～9話）。





コート姿のレミ（12話～）。



悲劇が待ち受ける雪山（12話）。



馬車に跳ねられ重傷を負ったジョリクール（12、13話）。





コート姿のヴィタリスとリュック（12、13話）。



雪山の狼。その牙はドルチェとゼルビーノの命を無慈悲に奪い取っていく（12話）。



帽子が脱げた満身創痍のカピ（12話）。

ストーリー紹介 9～12話

9話 運命の出会い
逮捕されたヴィタリスの面会を断られ、警察官に突き飛ばされたレミ。意識を取り戻すとそこは大きな屋敷の中。レミを助けたのはミリガン夫人だった。

10話 ひとりぼっちのアーサー
ミリガン夫人の息子アーサーは車椅子の生活に苛立っていた。主治医の話から自分の足が治らないと知って絶望したアーサーは、屋敷を抜け出してしまう。

11話 ペンダントの秘密
レミのお陰でアーサーは明るさを取り戻した。ミリガン夫人はこのままレミに居てほしいと願う。そんなとき、釈放されたヴィタリスがレミを迎えに来る。

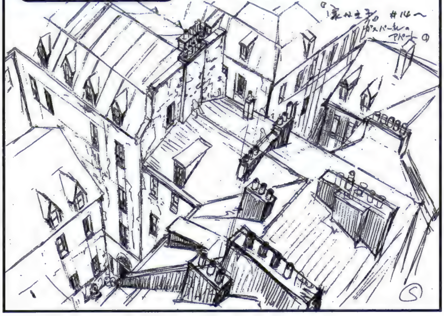
12話 悲しみの雪山
ジョリクールが馬車に跳ねられ大怪我をしてしまった。獣医に診せなければ助からない。隣町に向かう為、ヴィタリス一座は冬の山越えを決断する。

名作メモ カピは帽子を取ると凄く地味で、普通の犬にしか見えなくなってしまう（12話）。

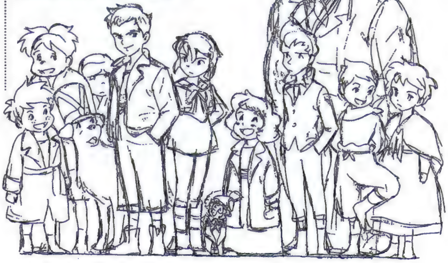


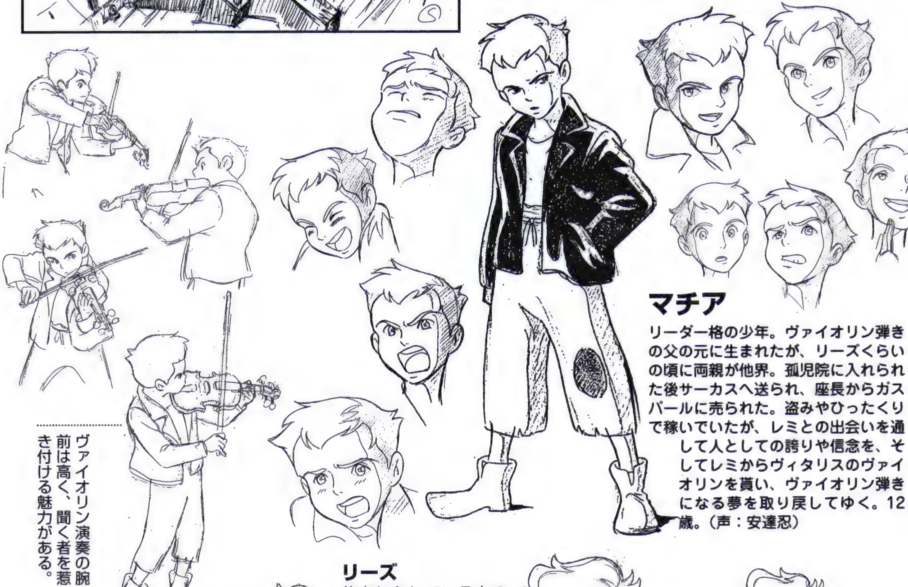
パリの仲間達の寝床

ガスパールの部屋の屋根裏部屋。雨露こそ凌げるものの、そこは『家』と呼べるような場所ではなかった。



ガスパール親方と子供達の比較。ガスパールは身寄りが無いか、借金のかたに連れて来られた子供を集め、こき使っていた（14話～）。





ヴァイオリン演奏の腕前は高く、聞く者を惹き付ける魅力がある。

マチア

リーダー格の少年。ヴァイオリン弾きの父の元に生まれたが、リーズくらいの頃に両親が他界。孤児院に入れられた後サーカスへ送られ、座長からガスパールに売られた。盗みやひったくりで稼いでいたが、レミとの出会いを通して人としての誇りや信念を、そしてレミからヴィタリスのヴァイオリンを貰い、ヴァイオリン弾きになる夢を取り戻してゆく。12歳。（声：安達忍）

リーズ

花売りをしている女の子。誰よりもレミになついている。最年少の6歳。（声：かないみか）

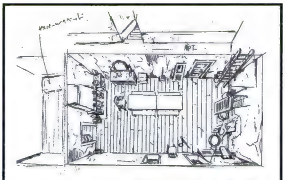


名作メモ レミが当初着ていた服がどうなったかは不明。4話の古着屋に売られたか、8話の火事で焼失したと思われる。

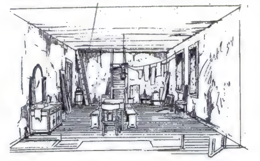


▲▼ルールシーヌ通りにあるアパートの入り口。ガスパールの部屋は4階にある。

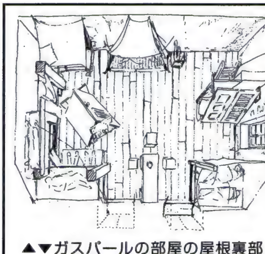




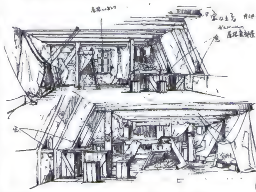
▲▼アパートのガスパールの部屋。みんなで食事をする中、稼ぎの足りない子供は見せしめに鞭で打たれた。隣にガスパールの私室がある。







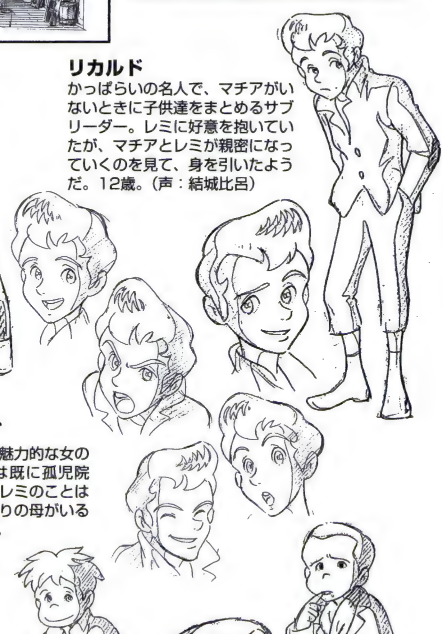
▲▼ガスパールの部屋の屋根裏部屋。子供達は廃材などで覆いを作り、部屋の中にそれぞれの『個室』を確保している。

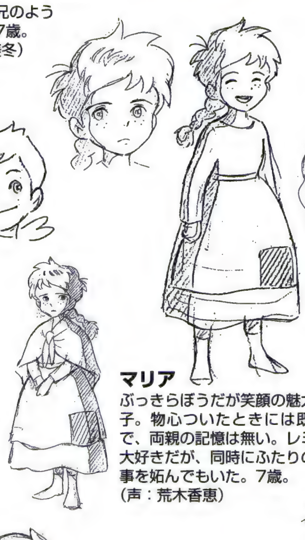


マルセル マチアを兄のように慕う。7歳。（声：柊美冬）

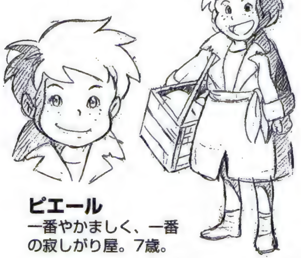


リカルド
かっぱらいの名人で、マチアがいないときに子供達をまとめるサブリーダー。レミに好意を抱いていたが、マチアとレミが親密になっていくのを見て、身を引いたようだ。12歳。（声：結城比呂）





マリア
ぶっきらぼうだが笑顔の魅力的な女の子。物心ついたときには既に孤児院で、両親の記憶は無い。レミのことは大好きだが、同時にふたりの母がいる事を妬んでもいた。7歳。（声：荒木香恵）



ピエール
一番やかましく、一番の寂しがり屋。7歳。



アルベール
おっとりした性格だが、キレると一番危ない奴に。8歳。



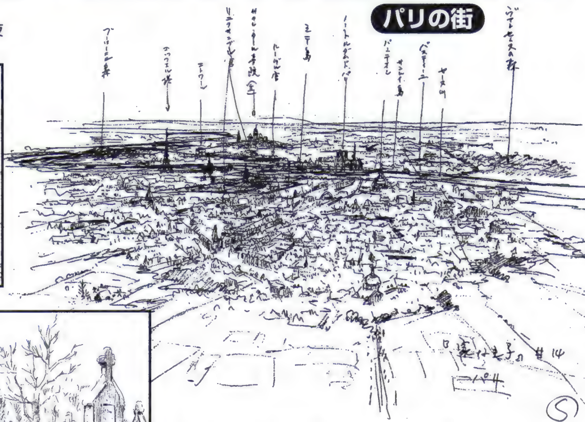
ジャック
リカルドの弟分。8歳。

名作メモ ガスパールの仕事は子供達を斡旋する人材派遣業。要望の無いときは、靴磨きや新聞・花の販売をさせている。

パリの街



▼ヴィタリスとレミが最後の時を過ごした月夜の公園。遠くにパリの街並が見える（13話）。



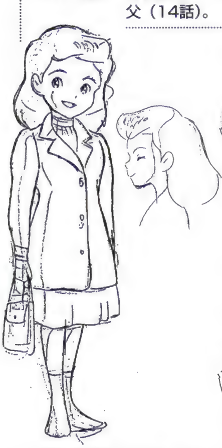


▶ヴィタリスが埋葬された共同墓地。ジョリクールの回復を墓前に報告し、レミ達はパリへと旅立つ（14話）。

ミッシェル通りの不良グループ。レミ達が苦労して稼いだお金を奪い取る。リーダーは右のポール、15歳（15話）。



ジョリクールが退院するまでの間、レミを世話してくれた神父（14話）。



飼い主の女の子（16話）。





マルセルが拾った子猫。白いのでシロと名付けるが、本当の名前はショコラだった（16話）。



▲子猫の為に見つけた公園の木の家（16話）。

ストーリー紹介 13〜16話

13話 雪の日の別れ

大きな犠牲を払いながら雪山を越えたヴィタリス一座。レミは獣医の元へと走る。ジョリクールを入院させて戻ると、今度はヴィタリスに異変が…。

14話 新しい旅の始まり

ヴィタリスの墓に別れを告げると、レミ達は再び歩き始める。まずはガスパールを頼ってルールシール通りを目指すが、パリの街はあまりにも広かった。

15話 新しい仲間

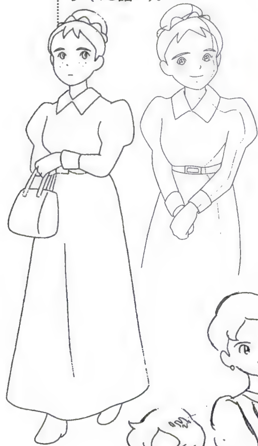
ガスパールのもとでは食い扶持を稼がないと鞭で打たれてしまう。レミはジョリクールやカピと大道芸に励むが、稼ぎを不良グループに奪われてしまう。

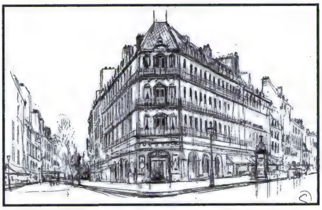
16話 雨の日の子猫（未放映）

マルセルは迷子の子猫を拾う。シロと名付け、家で飼おうとするが、ガスパールが許すはずも無い。そこでレミはシロの為に公園に家を見つける。

名作メモ 真夏のパリでセミの声が聴こえるが、実際にはパリにセミはいない（22話）。

レミを探すネリー。外出着はメイド服からエプロンを外しただけのシンプルなもの（18話～）。



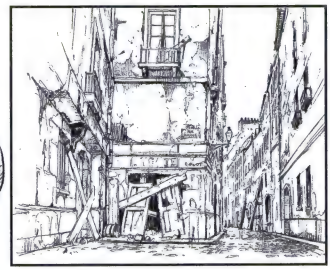


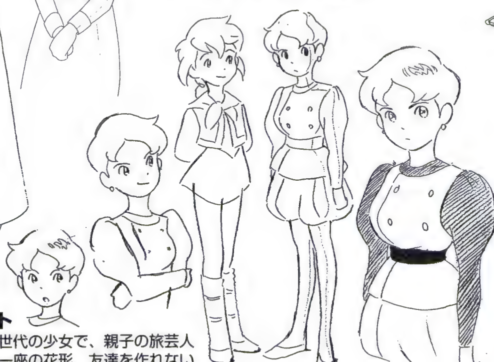
▲ミリガン夫人達が宿泊するグランドホテル（18、25、26話）。



リーズが人形を盗んだ玩具屋の主人。日頃から万引き犯には恨みがあるようで、人形を返しに来たレミに殴る蹴るの暴行を働く（17話）。

▼ジョリクールを追って空き家に入ったリーズは、床にあいた穴から地下室に落ちてしまう（17話）。

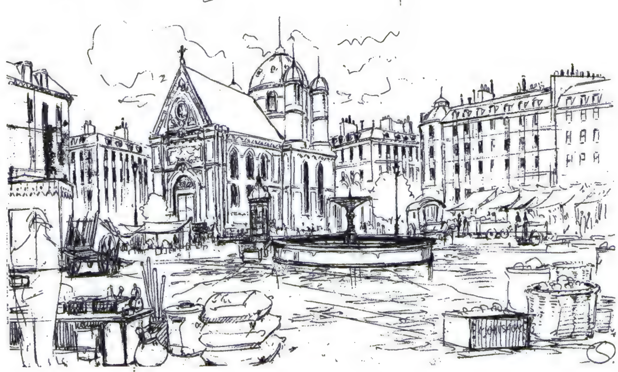




コゼット
レミと同世代の少女で、親子の旅芸人ミシェル一座の花形。友達を作れない旅芸人の生活に嫌気がさし、両親に反発していた（19、20話）。



コゼットの父、座長のミシェルと、コゼットの母ジョアンナ。大市で興行する為ルーアンから来た（19、20話）。



年に一度、パリで一週間に渡って開催される大きな市。子供達にとっては一番の稼ぎ時だ（19、20話）。

ストーリー紹介 17～20話

17話 地下迷路での誓い
リーズが盗んだ人形を返しに行ったレミは、激怒した玩具屋から暴行を受ける。リーズは自分のせいだとショックを受け、その場から逃げ出してしまう。

18話 すれちがう母と子
ミリガン夫人とアーサーはレミを探す為、パリを訪れていた。しかしアーサーは気候が合わず体調を崩してしまう。夫人は捜索をメイドのネリーに託した。

19話 旅の一家（未放映）
年に一度の大きな市が始まり、レミは旅芸人の家族ミシェル一座と知り合う。だが、一座の花形である娘のコゼットは両親に反発し、出演を拒否していた。

20話 心の友達（未放映）
レミとコゼットのコンビは評判も良く、ミシェル一座の興行は大盛況に終わった。仲良くなったコゼットに一緒に旅をしようと誘われ、レミの心は揺れる。

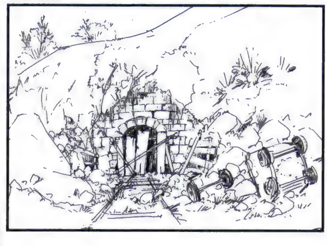
名作メモ ぶどう踏みをするレミの姿は時代的に見て過激すぎる為、マチア達男性陣にはとても見せられない（23話）。



マルセルを診てくれた医者。ただひとり、治安の悪いルールシーヌ通りまで来てくれた(21話)。



子供達の夏服（21話）。



▼レミが閉じ込められた廃坑（22話）。



ベルグヌー

昔、村一番の坑夫だった。誰もがレミ生存を絶望視する中、最後までマチアを励ます（22話）。



廃坑の村の子ジャンヌとその両親（22話）。

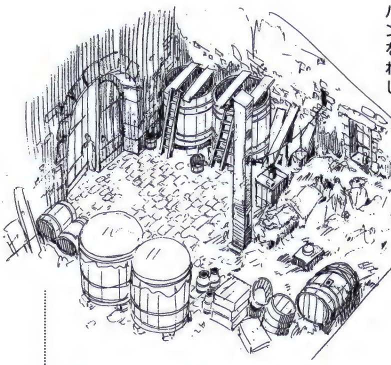


スカーフを外したレミ（22話）。

アルベルト

パリの音楽院でヴァイオリンを教える音楽家。マチアを音楽の道へと誘うが、それは仲間達との別れを意味していた（23話）。





農園の納屋。ぶどう詰みの仕事が終わるまでの子供達の寝床（23、24話）。

ストーリー紹介 21〜22話

21話 想い出のバイオリン

マルセルが病に倒れた。診てくれる医者は見つけたが、みんなの稼ぎを集めても薬代には届かない。そのときマチアはレミのヴァイオリンを手に取った。

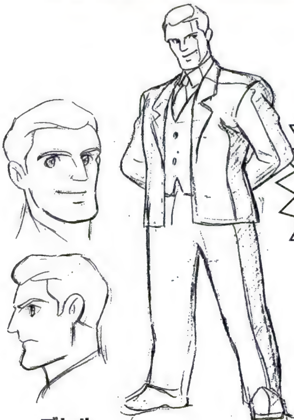
22話 地下からの生還

仕事をさせる為、ガスパールは子供達を馬車に乗せてぶどう園へと向かう。だが、休憩で立ち寄った村の廃坑で落盤が起き、レミが閉じ込められてしまう。



願い事を叶えてくれる泉。迷信だと思いつつもレミとマチアは祈った。互いの夢が叶う事を。そしてふたりはずっと離れないと誓うのだった（23話）。

名作メモ 楽符の読めないマチアが弾いている曲はいつも『アヴェ・マリア』。





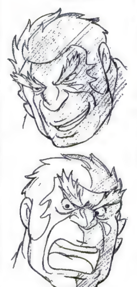


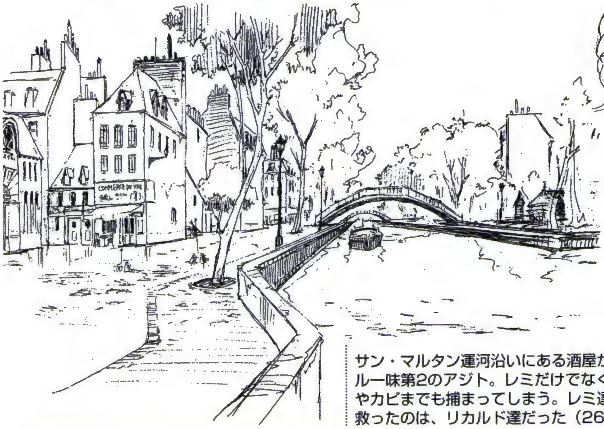
ブレル
正義の人、ブレル弁護士。ミリガン夫人に依頼され、ネリーと共にレミを探す。直接対決では、電光石火の一本背負いでガスパールを制した（18話〜）。（声：速水奨）



▶ガスパール一味の第1アジト。周りの建築物と比べて妙に背が高い。やはりお姫様を閉じ込めるのは高い塔という事か（24、25話）。

ガスパール
悪の人、ガスパール親方。身寄りの無い子や借金のかたに売られた子を引き取り、こき使って小金をせしめる小悪党。ずる賢くしたたかに生きてきたが、レミがイギリスの名門ミリガン家のお嬢様だと知るや、欲に目がくらみ、安易な営利誘拐に走ってしまう（14 話〜）。（声：福田信昭）





サン・マルタン運河沿いにある酒屋がガスパール一味第2のアジト。レミだけでなく、マチアやカピまでも捕まってしまう。レミ達の窮地を救ったのは、リカルド達だった（26話）。



ガスパールの仲間達（24〜26話）。

ストーリー紹介 23〜26話

23話 ふたりの願い
ぶどう詰みの仕事が始まった。その合間にもマチアはヴァイオリンの練習を欠かさない。すると音色に誘われ、ひとりの男が現れる。彼は音楽家だった。

24話 引き裂かれた愛
レミの行方を突き止めたブレルとネリーは、ガスパールの悪評を知り独自の捜査を始める。それに気付いたガスパールは、村へ先回りしてレミを拘束した。

25話 脱出！
カピの案内でガスパールのアジトにたどり着いたマチアは、ジョリクールと力を合わせレミを救出。パリへと逃走する。しかし…。

26話 私のお母さん
マチアとカピも一緒に拘束され絶体絶命のレミ。その頃パリに戻ったリカルド達は、グランドホテルから出て来たガスパールを見つけ、こっそり追跡する。

名作メモ　名作シリーズにおいては、権力をかさにきる印象の強い警察だが、レミの最終回では汚名を返上する機会が与えられた。



『家なき子レミ』の時代を考察する

①エッフェル塔
1889年に開催されたパリ万博（4回目）にあわせて建設された。赤ちゃんのレミが拾われた時点ですでに完成していた（第2話）。
②オー・ソレ・ミオ
イタリアのナポリ民謡。作詞作曲されたのは1898年。雑貨屋のルコントがのど自慢大会で唄う（第1話）。
③ヴァイオリン協奏曲
チャイコフスキーはヴァイオリン協奏曲を1曲しか作曲しておらず、作曲された年は1878年。ヴィタリスの楽譜に掲載されている（第4話）。
④自動車
プジョー、ルノー、パナールなど、19世紀末にはフランスにも自動車メーカーが設立されていた。しかし『レミ』には全く登場せず。
⑤1900年
パリ万博（5回目）とパリ五輪が同時開催されている。しかし『レミ』では話題にもならず。

『レミ』の時代設定はいつ?

『家なき子レミ』は、前半のヴィタリス一座編が夏の終わりから冬までであり、後半のパリ編は翌年である。

原作は1878年刊行。だがアニメの時代設定は違う。雪の降るパリで赤ちゃんのレミが拾われたとき、エッフェル塔は既に完成していた。建設されたのは1889年だから、レミが10歳の誕生日を迎えた第1話の年代は1899年以降となる。雑貨屋のルコントがのど自慢大会で『オー・ソレ・ミオ』を唄ったことも、結果的にそれを裏付けている。

ところで『レミ』には自動車が全く登場しない。自動車会社は19世紀末からフランスにもあったので、田舎はともかく、大都会パリで登場しないのは不自然だ。

エッフェル塔と自動車。ふたつの要素から一番矛盾が少ない年代を選ぶなら1899年スタートである。だがレミ達がパリに着く翌1900年は万博とオリンピックの二大世界イベントが同時開催中。わざわざそこに当てるなら、演出上どこかに触れるのが自然だろう。よって第1話は矛盾が少ない1900年スタートとするのが妥当だ。ただし、あくまで消去法による考察なので断定はできない。

ヴィタリスの謎

ヴィタリスには謎が多い。第13話では初めて本人の口から過去が語られるが、人間不信に陥ったことや愛する人と死別したことが明かされるのみである。だが、『レミ』の時代を大まかながら特定したことで、ヴィタリスの謎は深まる。

彼はそもそも何歳なのか? 第4話でヴィタリスは大切な楽譜を本屋に売る。本屋の主人は、楽譜にサインを見つけ、17歳の頃に手に入れたものだと判断する。この楽譜はヴァイオリンの名曲集。掲載されているチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲が作曲されたのは1878年だ。

以上のことから、ヴィタリスが1878年に17歳なら、レミと出会った年が1900年として、ヴィタリスの年齢は39歳。見た目以上に若そうだ。もっと若い可能性もある。

考えられるのは、楽譜に書かれたサインがヴィタリスのものではないこと。もうひとつは、ヴィタリスは辛い経験で白髪になったという仮定だ。

どちらにしても、ヴィタリスの愛する人が関係している可能性は高い。楽譜は愛する人の形見だったのだろうか。





ヴィタリスが書いた物語に登場する、お姫様とドラゴン。囚われのドラゴンを愛した姫は、ドラゴンを救う為に我が身を犠牲にする。ただのおとぎ話ではなく、ヴィタリス自身の過去を、愛する人との別れを元に書いたのかもしれない（4話）。

どことなく風貌がヴィタリスに似ているドラゴン。

原作について

「家なき子」（Sans famille）は、1878年に発表された児童文学。日本で紹介されたのは1903年。以降様々な出版社から翻訳され、日本でも多くの映像作品が作られた。
女の子が主人公の同名作品に、安達祐実主演のテレビドラマがあるが、エクトル・マロの原作とは全くの無関係である。





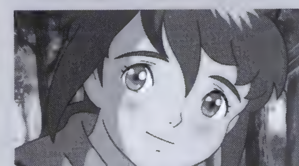
〈原作〉
家なき子
訳　：二宮フサ
発行：偕成社

少女になったレミ

原作とは全く別の道を歩むことになった『家なき子レミ』だが、変更点は極めてシンプルである。主人公レミを男の子から女の子に変えただけ。それ以外の変更点のほとんどは、整合性を突き詰めただけなのである。
特に著しく変更された後半エピソードだが、完全オリジナルというわけでなく、可能な限り原作からエピソードを拾い再構築されている。
その結果生まれたのが、どこか『黒い兄弟』を連想させる〝家なき子〟達の物語。物語の始まりが似てるとよく言われる『レミ』と『ロミオ』。『ロミオ』もアルフレドを通してミリガン家のお家騒動に似たエピソードが描かれているが、これも両作品の監督が同じ楠葉氏によるというのが、無関係ではないだろう。

◉原作のあらすじ

少年レミは、優しい母と暮らしていたが、父から自分が捨て子だと知らされ、旅芸人のビタリス老人に売られる。レミはヴィタリスや動物達と大道芸をしながらフランス各地を旅する。
ヴィタリス達を亡くしたレミは、園芸家アキヤン一家との生活や、新たな仲間マチアとの旅を経て、ある日、生みの親の所在を知る。
だが、訪問先にいたのは、親どころか赤子のレミをさらった張本人だった。旅の途中で出会ったミリガン夫人が陰謀に巻き込まれようとしていると知ったレミは、夫人を追い新たな旅に出る。旅の終わりに本当の母がいるとは夢にも思わずに。

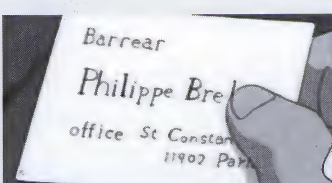


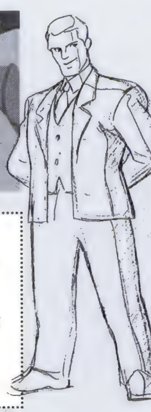
▲原作を知ったレミに「私が男の子だったら良かった？」と問われれば、ヴィタリスもマチアも「1ダースの男の子よりお前がいいよ、レミ」と、迷わず答えるだろう。

原作との主な変更点
- 19世紀に女子にズボンは無理があるので20世紀へ
- ヴィタリスとは父と息子から恋愛に近い関係へ
- マチアとの関係は親友から恋人へ
- リーズは未来の花嫁から義妹へ
- ミリガン家のお家騒動はレミが女の子では成立しない

正義の人！　弁護士ブレル

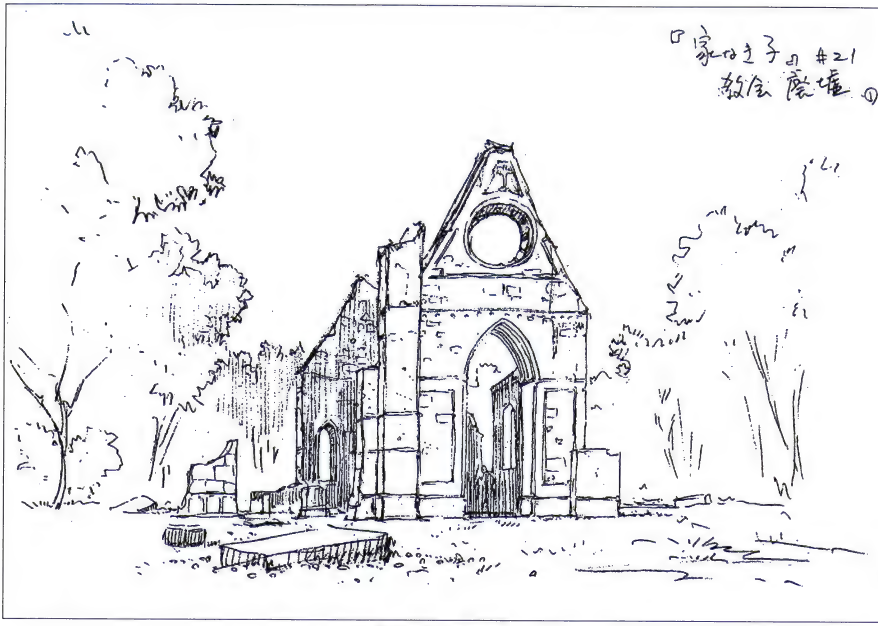
名作劇場には様々な人物が登場するが、『正義』に特化した人物は登場しなかった。絶対的な悪が存在しない名作劇場には不要だったのかもしれない。しかし、時代の流れなのか、名作後期には悪人が度々登場し、凶悪化が進んでゆく。哀しいかな警察は頼りにならず、子供だけで立ち向かうのも限界。『正義の人』の登場は、もはや避けられない状況だったのか。
こうして登場したブレル弁護士だが、設定書のプロフィールを読めば、まるで少年探偵団を連れて歩く探偵小説の主人公だ。





設定書に書かれたプロフィール
- 頭が良い。　・正義感が異様に強い。
- 仕事大好き。　・恋人募集中。
- 学生時代ラグビーをやっていた。
- 仕事の依頼者に対して真剣になるあまりノイローゼになることもしばしば。
- 他人の不幸を黙ってみていられない。
- ビール大好き。　・女も大好き。

Gallery



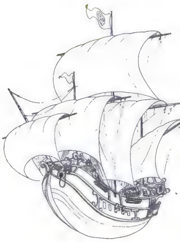
教会廃墟／伊藤主計

メインスタッフ

脚本	島田満／小山眞弓
音楽	服部克久
キャラクターデザイン	大城勝
絵コンテ	高木淳／寺東克己／飯島正勝／鈴木孝義／杉島邦久
作画監督	大城勝／井上鋭／森川聡子／丸山宏一
美術設定	伊藤主計
美術監督	川口正明
撮影監督	熊谷幌史
録音監督	藤野貞義
色指定	小山明子
動画チェック	佐藤耕
編集	名取信一／上遠野英俊　ほか
プロデューサー	佐藤賢一／瀧山麻土香
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「愛について」
作詞：さだまさし
作曲・編曲：服部克久
歌：さだまさし

エンディングテーマ「しあわせの予感」
作詞：岡田富美子
作曲・編曲：服部克久
歌：Youca

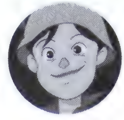


ピーターパンの冒険（ぼうけん）

Peter Pan & Wendy

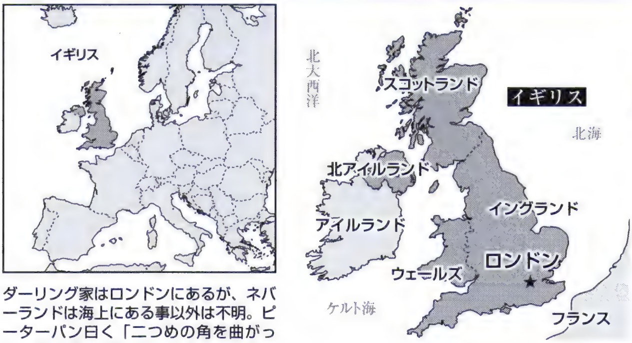


ピーターパンの冒険（ぼうけん）



放映期間	1989/01/15～1989/12/24
話　数	41話
原　作	ジェームズ・M・バリ「ピーターパンの冒険」
備　考	89年中央児童福祉審議会特別推薦

物語の舞台



ダーリング家はロンドンにあるが、ネバーランドは海上にある事以外は不明。ピーターパン曰く「二つめの角を曲がって、朝まで真っ直ぐ行った所」との事。

ストーリー解説

木枯らしの吹くある夜の事。ウェンディとジョンは、不思議な少年ピーターパンの夢を見る。ふたりで一緒に同じ夢を見ただけでなく、お母さんも名前に聞き覚えがあるという。ピーターパンがいると確信したウェンディは、その夜、窓のカギをかけずに眠る。ナナの吠える声で夜中に目を覚ますと、ナナはピーターパンの影をくわえていた！　ピーターパンが子供部屋に来ていたのだ。

そして次の夜、両親がパーティーに出かけ、子供達だけが家で待っていると、ついにピーターパンが現れた。影を取り戻したピーターパンはウェンディをネバーランドへと誘う。

「連れてって、ピーターパン！」

夢と冒険の国ネバーランド。そこでウェンディ達兄弟を待ち受けるものとは？　いよいよ冒険が始まる。

1905年頃

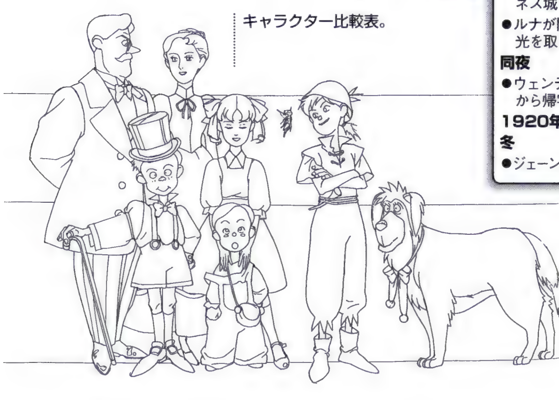
冬
- ウェンディ達、ネバーランドへ
- ウェンディ、お母さんになる
- ジョン、タイガー・リリーに初恋
- シンデレラの馬車号完成
- フック船長、城にて決起
- 木の家、巨大砲の砲撃で大破
- 海賊対子供達、フック城で大決戦
- 子供達勝利、フック城崩壊
- ダークネス城に黒い鏡が蘇る
- 動く家、シンデレラ二世号完成
- ルナ、黒い鏡のカギを持って逃走
- 子供達、ティンクを迎えに妖精の谷へ
- フック船長、空飛ぶ海賊船建造
- ルナが黒い鏡継承。ネバーランドの危機
- 海賊対子供達、ダークネス城で最終決戦
- ルナが闇を打ち破り、光を取り戻す

同夜
- ウェンディ達、大冒険から帰宅

1920年頃？

冬
- ジェーン、ネバーランドへ

キャラクター比較表。

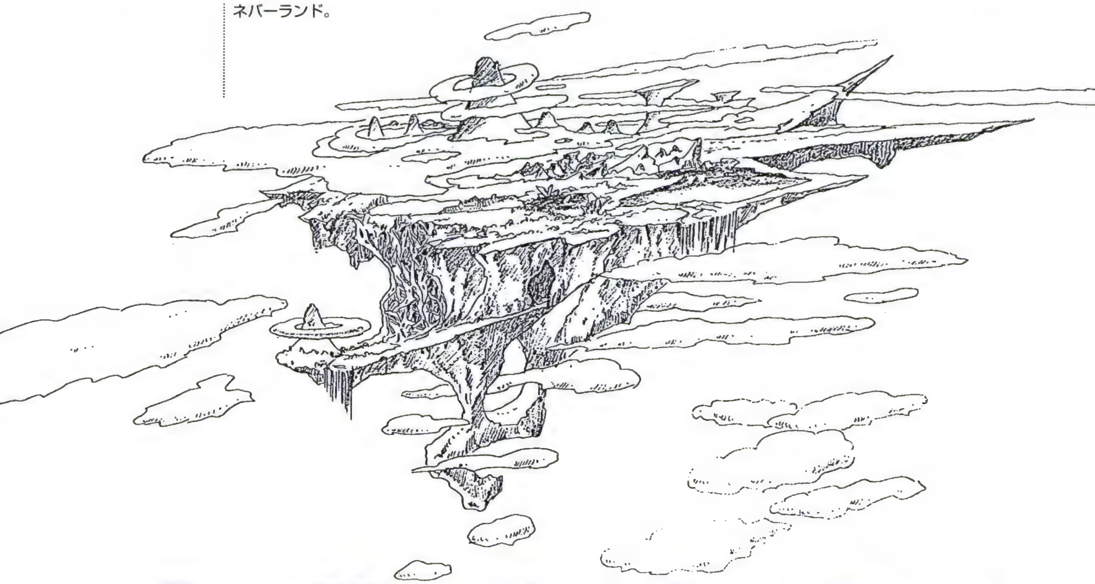


History

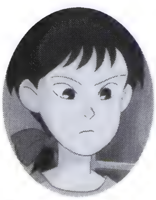
20世紀初頭の大英帝国。発展したロンドンは人口が440万人を超え、公害や貧困など現代的な都市問題が深刻化していた。

17C	1661	イングランド王チャールズ2世　戴冠式
18C	1728	ジェームズ・クック誕生(～1779)
19C	1825	イギリスで世界初の商用鉄道開業
	1841	ケンジントン宮殿の庭園を一般公開
	1851	ロンドン万国博覧会(1回目)
	1859	ビッグベン完成 ダーウィン、『種の起原』出版
	1868	明治維新(日)
	1894	タワーブリッジ完成
20C	1900	夏目漱石、ロンドンに留学(～1902)
	1902	日英同盟締結(～1923)
	1903	ライト兄弟飛行機を発明(米)
	1904	日露戦争(～1905)
	1908	ロンドンオリンピック(1回目)
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1948	ロンドンオリンピック(2回目)
	1969	アポロ11号月面着陸(米)
	1993	EU発足
21C	2001	アメリカ同時多発テロ
	2012	ロンドンオリンピック(3回目)

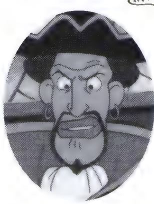
ネバーランド。



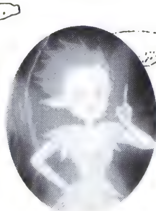
キャラクター紹介



ルナ
ネバーランドの破壊を目論むダークネスの孫娘。祖母への愛と正義感との板挟みで、心は揺れている。



フック船長
打倒ピーターパンに執念を燃やすが、実はネバーランドの王を目指している。



ティンカー・ベル
ピーターパンと行動を共にする妖精。嫉妬深さが玉に傷。

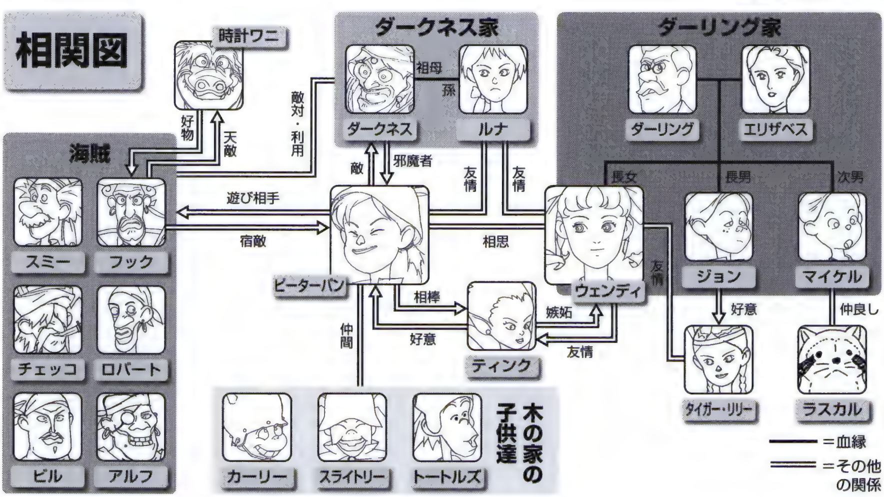


ウェンディ
家事が得意で世話好きな少女。木の家の子供達の"お母さん"になる。



ピーターパン
空を飛ぶ不思議な少年。冒険好きで退屈が大嫌い。ウェンディ達を夢と冒険の国ネバーランドへと誘う。

相関図





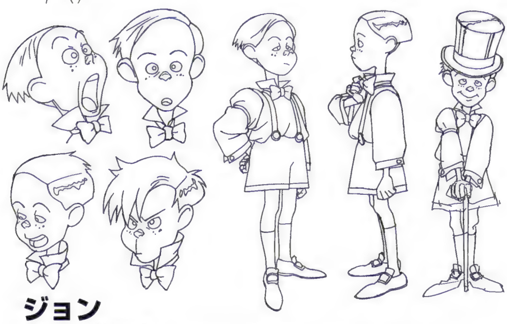
ウェンディ

ダーリング家の長女。フルネームはウェンディ・モイラ・アンジェラ・ダーリング。世話好きな女の子。夢の中に現れるピーターパンに興味を持つ。（声：松井菜桜子）







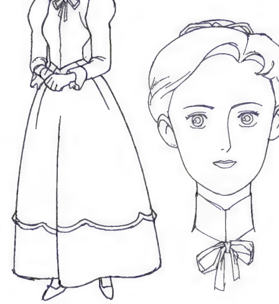


ジョン

ダーリング家の長男。フルネームはジョン・ジュリアン・ダーリング。海賊に憧れている。（声：羽村京子）

エリザベス

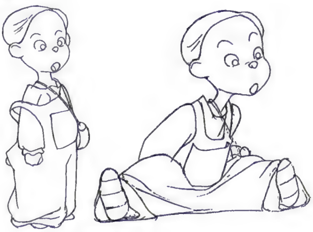
聡明で美しく、そして優しいウェンディ達の母。ピーターパンの名前に聞き覚えがある（1話）。（声：鈴木弘子）



ナナ

マイケルの子守りをする天才犬（1、2、41話）。（声：山寺宏一）





マイケル

ダーリング家の次男で末っ子。おねしょがまだ治らない。（声：渕崎有里子）

ウェンディとジョンの外出着（1、41話）。





書店の老人。ピーターパンの事を聞きに来る子が時々現れる事を、ウェンディ達に話す（1、41話）。

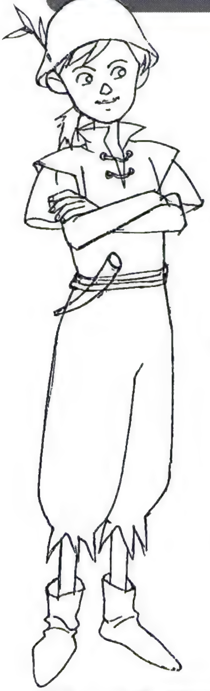
ダーリング

ウェンディ達の父。現実主義者で子供達が早く大人になる事を望んでいる（1話）。（声：玄田哲章）





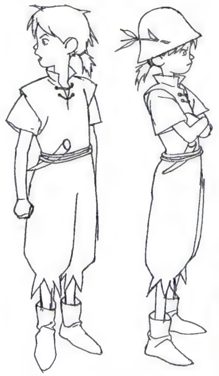
乗合自動車。馬車と自動車の間の子のようなレトロチックなデザインが素敵すぎる（1話）。



ピーターパン

自由に空を飛ぶ永遠の少年。冒険が大好きで退屈が大嫌い。ウェンディ達の子供部屋に訪れ、ウェンディをネバーランドへと誘う。イメージカラーは枯れ葉を思わせる茶色。（声：日高のり子）



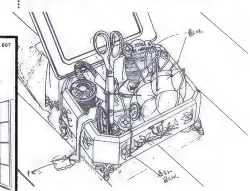




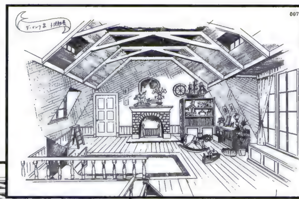
ティンカー・ベル

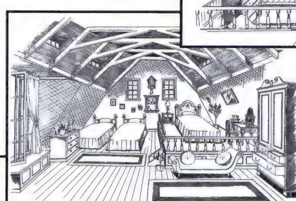
ネバーランドの妖精。通称ティンク。ピーターパンが大好き。特別扱いされるウェンディに嫉妬心を募らせる。（声：島本須美）





ウェンディの裁縫箱（2話）。





▲◀ダールング家の子供部屋。最上階にある。



▼ダーリング家。何故かピーターパンは、ダーリング家の子供部屋に度々訪れている。大きな窓があり、入りやすいのだろうか？



寝間着姿のウェンディ達（1、2、41話）。

ストーリー紹介 1〜4話

1話 早く来て！ みんなの憧れピーターパン

ピーターパンの夢を見たウェンディ。弟のジョンも同じ夢を見た。お母さんまでその名を知っているという。ピーターパンって本当にいるの？

2話 ネバーランドへGo! Go! Go!

その夜、ウェンディ達の部屋にピーターパンが来た。落とした影を見つけるが、元通りにくっつかない。それを見たウェンディは縫いつけてあげる。

3話 海賊が出た！ 夢と冒険の国ネバーランド

ネバーランドに来た途端、海賊から大砲を受けるウェンディ達。嫉妬するティンクは、ウェンディを悪魔の鳥と騙しトートルズ達に矢で射させる。

4話 登場！ 時計ワニはフック船長の友だち？

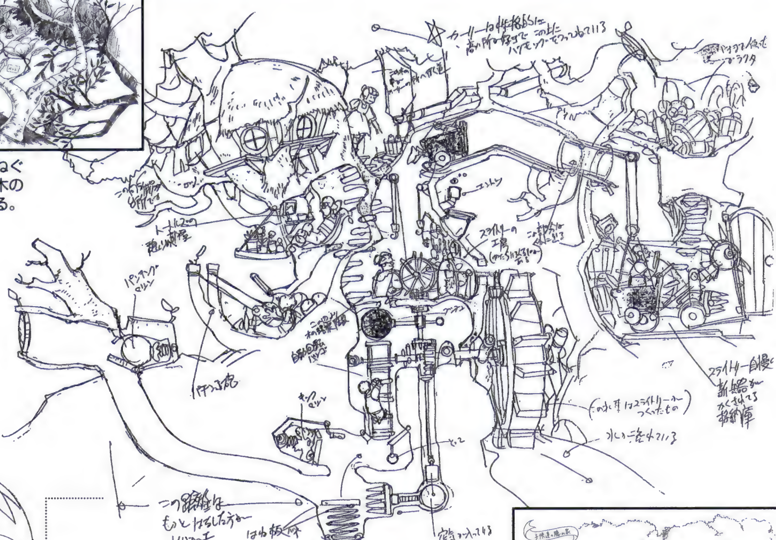
木の家での生活が始まった。早起きしたウェンディは、子供達のために朝食を用意する。木の家の子供達は大感激。ウェンディお母さんってすごい！

名作メモ ティンカー・ベルのティンカー（tinker）とは「鋳掛け屋」だが、英国の古い言い方で「いたずらっ子」の意味がある。



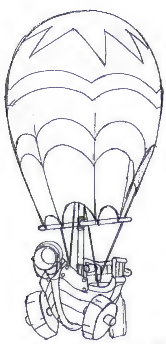
▲ティンクのねぐら。子供達の木の家の屋根にある。

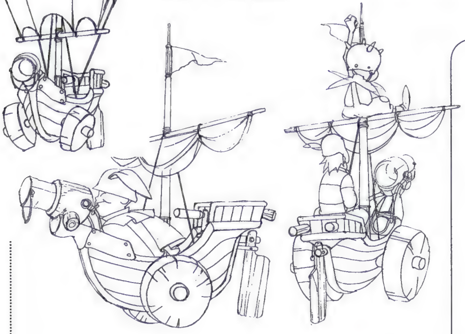
木の家



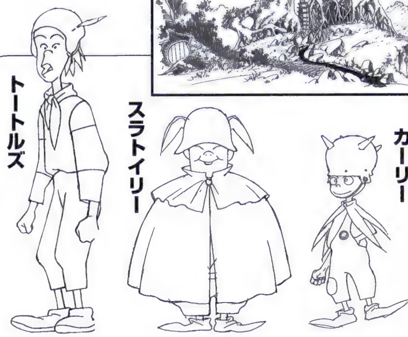


子供達が住む木の家。巨木の中には複数の空洞があり、それぞれ工房や倉庫などに使用。入り口は侵入者を防ぐ為、水車を動力に様々なトラップが仕掛けられている。正に『秘密基地』である（3～20話）。





シンデレラの馬車号。ウェンディから聞いた物語『シンデレラ』に着想を得て、スライトリーが作った水陸両用の機動兵器。後に気球が追加され飛行能力も得る（11～23話）。



木の家の子供達。左から、トートルズは臆病でドジが多いが、人一倍ウェンディを慕っている。スライトリーは木で作れる物なら何でも作ってしまう。カーリーは熱血漢（3話～）。

ストーリー紹介 5～8話

5話 フック船長はミシンの音が大嫌い！
ウェンディはベッドカバーを縫いはじめた。ミシンがあればもっと早くできるという。早速スライトリーはミシンを作ることに。でもミシンが何のことか分からない。

6話 ジョンの初恋？ おてんば娘現れる！
ピーターパンに嫉妬して掃除を怠けたジョンは、ティンクにそそのかされ、海賊になろうと決意する。道の途中、ジョンの背後に少女の影が迫っていた。

7話 ウェンディ頑張る！ 卵は誰にも渡さない
朝早くウェンディを連れ出したピーターパンは、ネバーバードの卵をプレゼントする。3年に一度しか産まない貴重な卵で、フック船長も狙っていた。

8話 作戦開始！ 時計ワニを笑わせろ！
子供達に時間を守らせるため、時計が欲しいとウェンディに頼まれたピーターパンは、時計ワニの時計を吐き出させるためにフック船長の服を盗んでくる。

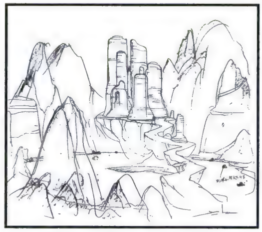
名作メモ ネバーバードの卵を食べると100年長生きすると言われる。だけど、年を取らないネバーランドで意味あるの？？



タイガー・リリー

ピカニニ族の族長の娘。「3歳の3月3日の満月の晩に、影を踏まれた女の子は、踏んだ相手を殺さないと幸せにならない」という部族に伝わる言い伝え（迷信？）に基づき、フック船長の命を狙う。ピーターパンとの関係は戦友同士といった感じだ（6～23話）。
（声：川村万梨阿）

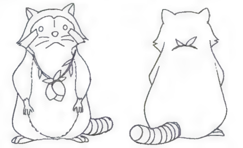




▲イエローバレー。タイガーリリー達ピカニニ族の集落がある。

ラスカル

木の家に度々訪れるあらいぐま。デザイン的にはドングリの首飾りを追加された以外は、『あらいぐまラスカル』のラスカルと全く同じ（4話～）。

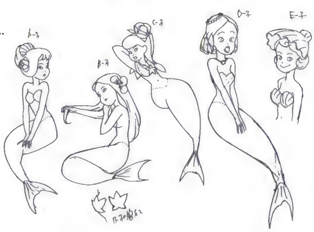




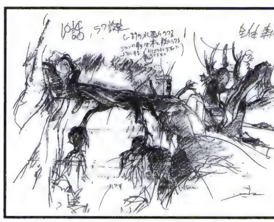
ピカニニ族の酋長。リリーの父。



▲3年に一度しか卵を産まないネバーバードの巣があった谷間。ネバーバードの卵を食べると百年長生きできるという（7話）。

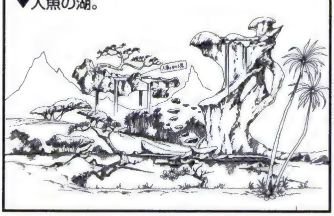


人魚達。みんなピーターパンが大好き（3、9話）。

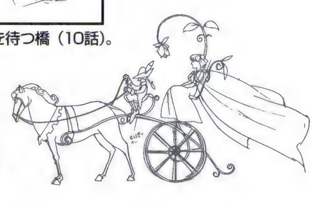


▲ジョンがタイガー・リリーを待つ橋（10話）。

▼人魚の湖。







ウェンディシンデレラとピーター王子。子供達はネバーランドしか知らない為、自然と身近な人から登場人物をイメージするのであった（11話）。

ストーリー紹介 9～12話

9話 ネバーランドの法律？ 毎日が誕生日だ！
毎日をみんなの誕生日にと言い出したピーターパンは、ウェンディにケーキを5つも作らせ、木の実を集めに出かけるが、すぐに約束を忘れてしまう。

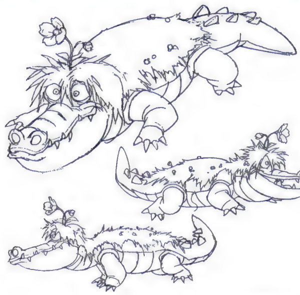
10話 怪しげな行動！ジョンを尾行しろ
ジョンは毎日、森の丸木橋の上で、ある人が通るのを待っていた。気を利かしたピーターパンはジョンの待ち人、タイガー・リリーを連れて来る。

11話 新兵器！ 水陸両用シンデレラの馬車？
ウェンディが寝物語に話す「シンデレラ」に、想像を膨らます子供達。だけど、会ったことのない『おばあさん』だけは想像することができない。

12話 海賊も逃げる？ マイケルの恐い話！
今日は雨がひどくて外では遊べない。退屈したピーターパンは、みんなで順番に怖い話をして、誰が一番勇気があるかを試すことになった。

名作メモ ネバーランドでは母親が登場しない。既に死んでるか行方不明なのだ。そしてウェンディも『偽物のお母さん』である。

時計ワニ
昔飲み込んだ時計のカチコチと鳴る音と共に現れる事から、そう名付けられた。フック船長の右手の味が忘れられず、事ある毎に付け狙う。







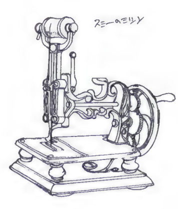
フック船長
粗暴で残酷だが、海賊にしては珍しく清潔でオシャレ好き。ハープシコードを弾くなど高い教養も垣間見られる。母を誰よりも愛し尊敬している。ピーターパンを目の敵にするが、実はネバーランドの支配を目論んでいた。（声：大塚周夫）

フック海賊団の水夫達。左から、力自慢のビル。銃の達人ロバート。読み書きが一応出来るスターキー。ナイフ使いのチェッコ。万能型のアルフ。









スミー水夫長
海賊とは思えぬ穏やかな性格で、高齢のため実戦からは退き、フック船長の身の回りの世話を担当。フック船長の母とも面識がある。宝物は命の次に大事なミシン。（声：緒方賢一）

フックの母の肖像画。スミーの話ではフック船長が7歳のときに亡くなった筈だが、描かれている絵は老婆にしか見えない。高齢出産だったのだろうか？（6、11話）



フックの懐中時計。「我が愛する息子ジェイムズ・フックへ 母より」と記述されている（8話）。





ストーリー紹介 13～16話

13話 救出作戦開始！ピーターパンを助けろ
フック船長の罠にかかり、ピーターパンが捕まってしまった。ティンクはみんなに伝えるが、いつもの嘘だと思われ、相手にしてもらえない。

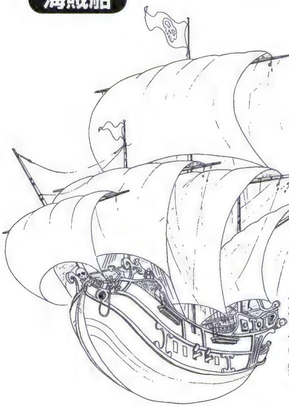
14話 スノルム山の悪魔とマイケルの勇気
ウェンディが風邪で倒れてしまった。熱を下げるには氷が必要だと聞いたマイケルは、ティンクと共に、遠くのスノルム山まで氷を取りに向かう。

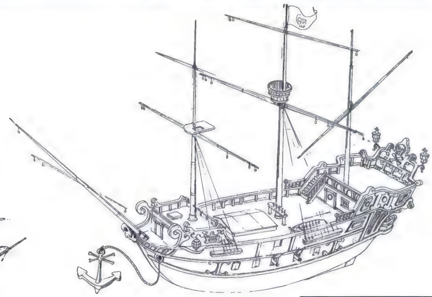
15話 フックを裏切れ！海賊をやめたチェッコ
フック船長に処刑される所を、ピーターパンに助けられた海賊のチェッコは、ピーターパンに仲間にしてほしいと懇願する。本当に裏切ったのだろうか？

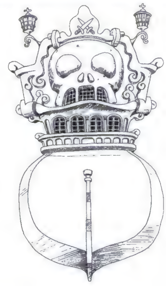
16話 ウェンディ怒る！ピーターパンて大嫌い
ピーターパンに雪見草でドレスを作ろうと言われ、楽しみにしていたウェンディ。ところが次の日、ピーターパンは約束をあっさり反古にしてしまう。

名作メモ フック船長は6話、11話と2度に渡り母の命日を偲んでいる。瞬く間に1年過ぎたのか、フック船長の勘違いかは不明。

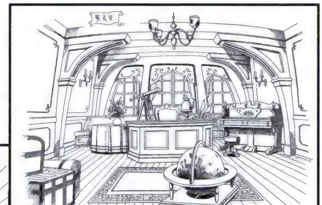
海賊船





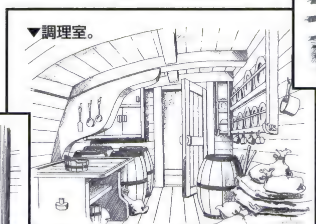


入り江に停泊しているフック船長の海賊船。機動力を重視した小型のガレオン船で、少人数でも運航可能。フック船長達と共に7つの海を股にかけて来たが、大海原に戻る事無く、フック城の崩壊と共に入り江に沈む。

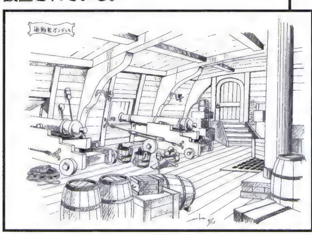


▲海賊船船長室。珍しい品が色々置かれているため、物珍しさから、度々ピーターパンの侵入を許している。

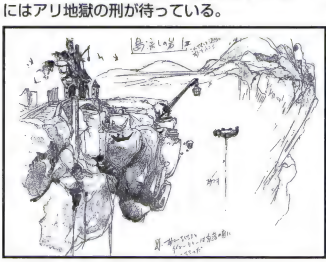
▼調理室。

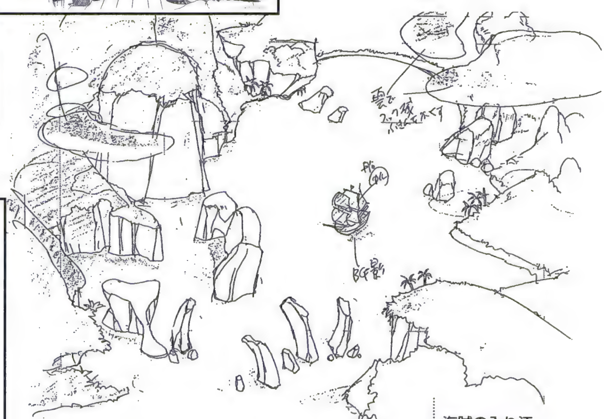


▼海賊船ガンデッキ。大砲は10門設置されている。



▼島流しの岩。海賊の裏切り者を処刑する為に作られた施設。ボートで連れられた先にはアリ地獄の刑が待っている。





海賊の入り江。

ストーリー紹介 17～20話

17話 ジョンが眠れない！眠りの精を捕まえろ

不眠症になったジョンは、何をやっても眠れず、イライラしていた。ふとピーターパンは、海賊船から眠りの精の歌声が聞こえて来たことを思い出す。

18話 勇気を示せトートルズ！海賊の旗を奪え

トートルズのいつものドジで、危なく死ぬ所だった子供達。仲間はずれのトートルズを心配したウェンディは、ひとりで行動するトートルズについて行く。

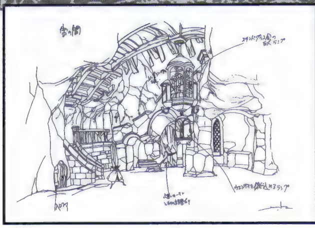
19話 フックの決意！消えた海賊船の謎？

ピーターパンとの最終決戦に挑むべく、秘密の城に海賊船を隠すフック船長。だが、大切なマントをピーターパンに奪われ、フックの怒りは頂点に。

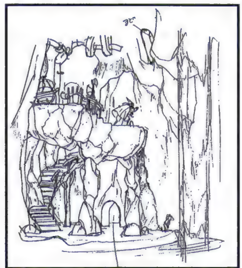
20話 絶体絶命！ウェンディが霧の谷に消えた

フック船長にそそのかされたティンクは、ピーターパンには内緒でウェンディを誘き出す。一方、フック船長は城の巨大砲で木の家を狙っていた。

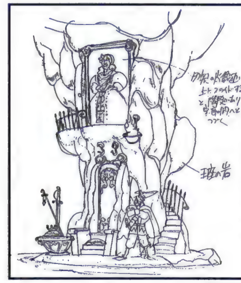
名作メモ フック船長のスタイルは典型的なカリブの海賊。ただし超兵器の数々にはスチームパンクの影響が見られる。



▲宝の間。

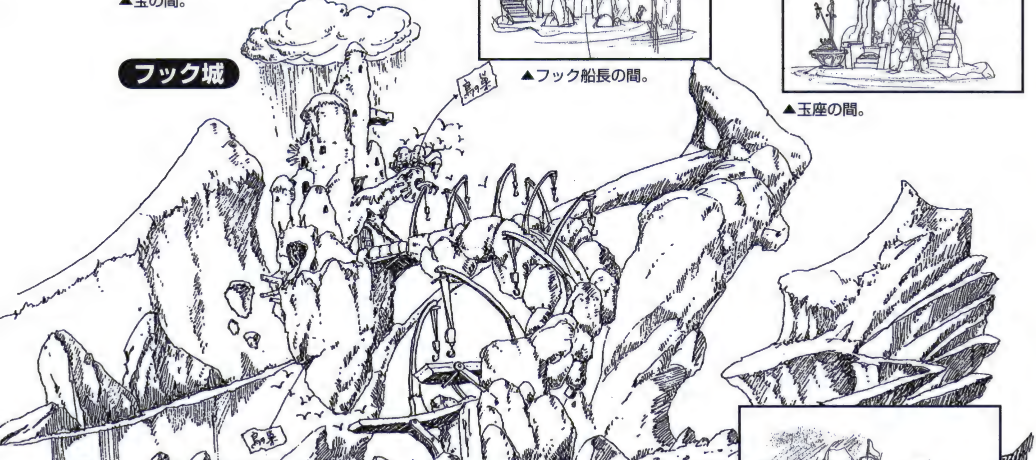


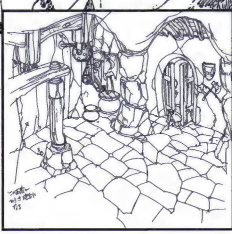
▲フック船長の間。



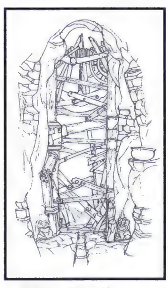
▲玉座の間。

フック城





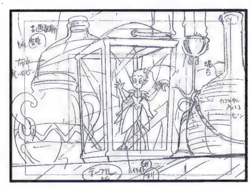
▲巨大砲の間。



▲地下トラップ。



▲海賊船格納洞窟。



◀カンテラに閉じ込められたティンク。フック船長に騙され、ウェンディ誘拐に加担してしまう。

フック城。古城、財宝、ハイテクメカに、超兵器の数々。少年の夢を象徴するのが子供達の木の家ならば、男のロマンを象徴するのがフック城と言えよう。残念ながら自爆装置は無かったが（19～23話）。

ストーリー紹介 21～24話

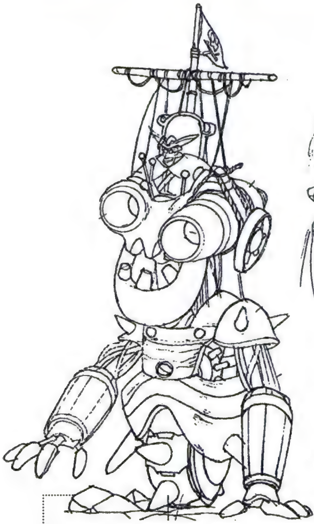
21話 ウェンディを救え！命をかけたティンク
子供達の木の家は壊され、ウェンディはさらわれた。そして城の地下の罠に捕らえられたピーターパンは、絶体絶命のピンチに陥っていた。

22話 秘密兵器始動！フック船長最後の切り札
フック船長の機動兵器はパワーがあっても動きが鈍い。ピーターパンの敵ではなかったが、ウェンディを人質に取られてうかつに攻撃できなかった。

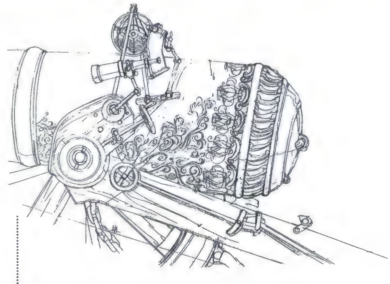
23話 謎が深まる！ティンクの故郷を探せ
フック船長との戦いに勝利したピーターパンだったが、己を恥じたティンクはみんなの元を去ってしまう。その頃、ネバーランドは異変が起きていた。

24話 恐ろしい黒マントの集団と謎の美少女！
シンデレラ2世号が完成し、妖精の谷を目指すピーターパン達。その夜、突然空を飛ぶ船が現れた。黒マントに追われる少女はダークネスの孫だった。

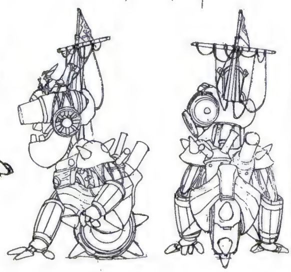
名作メモ フックは19 話で「もうじきチャールズ2世の戴冠式」と語る。フック達がネバーランドに来たのは1661年頃なのだ。







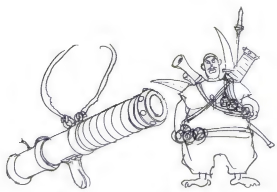
チャールズ砲。世界最大口径の大砲リトルデービッドにも匹敵する巨大砲。さすがにフック船長ひとりでは扱いきれず、情報収集の観測員と、弾込め要員が必要だった（20話）。

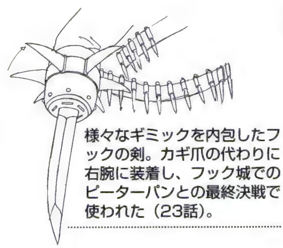


宝の間に隠していた秘密最終兵器は、なんと海賊船をモチーフにしたロボットだった。パワーも機動性も優れていたものの、自在に空を飛び回るピーターパンに一歩及ばなかった（22、23話）。

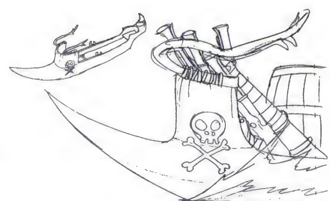


▲巨大砲の最後の一発が直撃し、子供達の木の家は無惨な姿へと変わり果てた（20話）。





様々なギミックを内包したフックの剣。カギ爪の代わりに右腕に装着し、フック城でのピーターパンとの最終決戦で使われた（23話）。





バズーカ砲と重装備のビル。砲弾を打ち出す手持ちの大砲。力自慢のビルにしか扱えないようだ（19話）。



手漕ぎスピードボート。一気に砂浜に乗り上げ、上陸する事が出来る（19話）。

ストーリー紹介 25～28話

25話 お帰りティンク！妖精の国はふしぎな国

浮き石さえあれば、シンデレラ2世号も飛ぶことができる。カーリーとスライトリーは、みんなに黙って抜け出し、浮き石を探して妖精の国に迷い込んだ。

26話 復活フック船長！空飛ぶ海賊船建造計画

フック船長は再起をかけ、船の墓場で新たな海賊船を建造していた。ルナは黒い鏡のカギを取り戻そうと、人気のないシンデレラ2世号に侵入する。

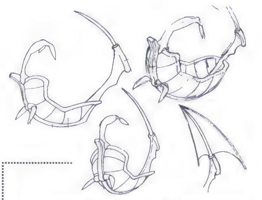
27話 ジョンの憧れ！木馬に乗った騎士

ウェンディ達の前に、トン・チホーテと名乗る騎士が現れた。彼はフック船長と戦い、倒して来たのだと言う。だが、フック船長は倒されてはいなかった。

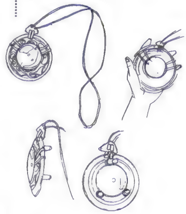
28話 悪魔になったウェンディ

空飛ぶ船を華麗に乗りこなすウェンディ。料理を上手に作るルナ。ふたりは気分転換に服を交換したのだった。たわいのない遊び心が思わぬ事態を招く。

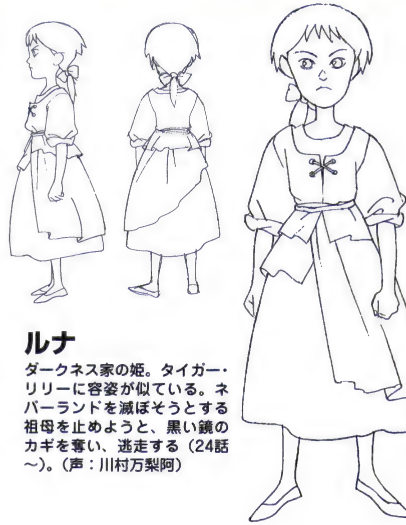
名作メモ 浮き石は妖精の粉が固まったもの。ネバーランドが海上に浮遊しているのも大量の浮き石の為と推測される。



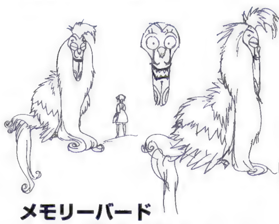
小型飛行艇。ダークネスの技術で作られた船。地上を浮遊し高速移動する（24話～）。



黒い鏡のカギ。ルナがいちるの望みをかけて奪い取り、黒い鏡を止める（24話～）。



ルナ
ダークネス家の姫。タイガー・リリーに容姿が似ている。ネバーランドを滅ぼそうとする祖母を止めようと、黒い鏡のカギを奪い、逃走する（24話～）。（声：川村万梨阿）



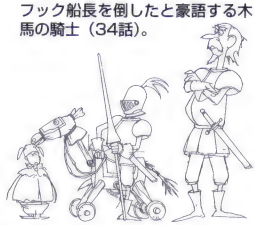
メモリーバード
雨の巨人の頭の上に棲む。ティンクの故郷の情報と共に、黒い鏡の復活を警告する（23、36話）。



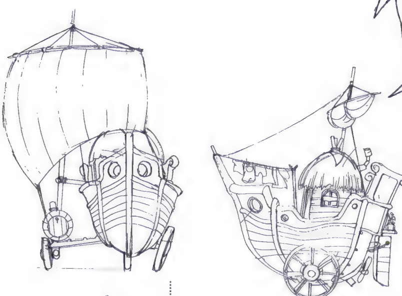
プシケ
フローラという妖精の種族の子供。ピーターパンをママと慕う（29話）。

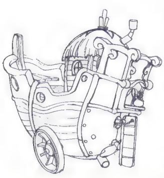


汽車みたいな声と煙を出すスチームバード（34話）。



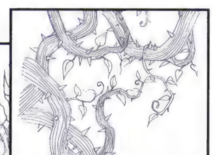
トン・チホーテ
フック船長を倒したと豪語する木馬の騎士（34話）。





シンデレラ二世号。ティンクを迎えに妖精の谷まで行く為、長旅に備えて建造した動く家。木の家が秘密基地なら、こちらは移動基地である。浮き石入手後は浮遊能力も追加される（24話～）。





◀▲妖精の森。ティンクに力を貸して海賊を追い払う（35話）。

ストーリー紹介 29～32話

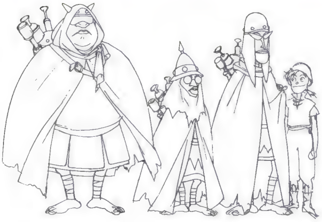
29話 妖精プシケ！勇気を出して飛び立て
ピーターパンをママと呼ぶ幼い妖精プシケ。だけど彼女は空が飛べなかった。故郷に帰らないとプシケは死んでしまう。時間はあまり残されてなかった。

30話 浮上開始！フックの空飛ぶ海賊船
錨を下ろすのを忘れたシンデレラ2世号は、眠っている間に魔海の孤島に流されていた。しかも火を吐く巨大魚に狙われ、逃げられなくなってしまう。

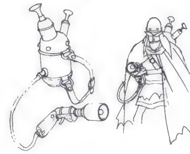
31話 夢がない！飛べなくなったピーターパン
シンデレラ2世号の前に、気味の悪い森が現れた。そこに生えていた変な木の実を食べたせいで、ジョンもピーターパンおかしくなってしまう。

32話 海賊と一緒に探せ、白い鏡の謎
白い鏡を使えば、黒い鏡の力を消すことができるという。迷宮殿にあるのだが、肝心の場所が分からない。そこでピーターパンは海賊達を利用することに。

名作メモ フローラはローマ神話の花の女神の名前。プシケは同じくローマ神話のキューピットの妻の名前から来ている。



黒マント
ダークネスの配下で、黒い鏡のカギを取り返そうと、ウェンディ達を付け狙う。3人いるが名前は特に無い（24話～）。





ダークネス

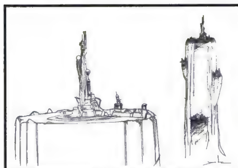
ルナの祖母。黒い鏡を使って子供達から夢を奪い、ネバーランドの破壊を目論む闇の魔法使い。恐ろしい魔法を使うが使う度に自分の命を削ってゆく（24話～）。（声：京田尚子）



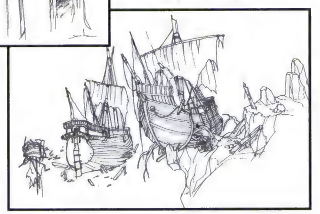
悪魔になったウェンディ。ルナに付ける筈だった悪魔のブレスレッドを誤ってウェンディに付けてしまう（28話）。



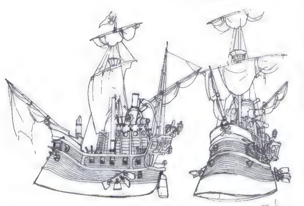
悪魔のブレスレッド（28話）。

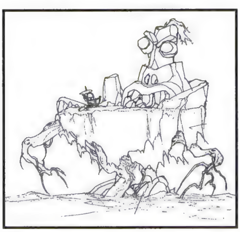


▲ダークネスの根城、ダークネス城。



▼船の墓場。再起をかけるフック船長が船の材料を手に入れる為に潜伏（26話）。

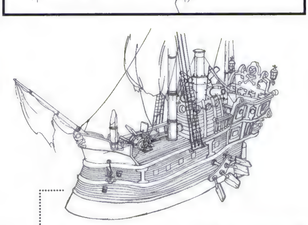




◀魔海の孤島。シンデレラ二世号が風に流され辿り着く（30話）。



魔海には、岩をも燃やす炎を噴く怪魚が棲んでいた（30話）。



空飛ぶ海賊船。フック船長が船の墓場で秘密裏に建造。浮き石を使い、飛行能力を得る（30話～）。

ストーリー紹介 33～36話

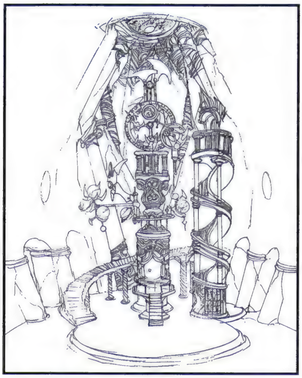
33話 ルナの涙！私はダークネスの魔女？
迷宮殿の場所を探るため、黒マントを捕まえようと罠を張るピーターパンとルナだが、罠に気付かれ、逆にウェンディが捕まってしまう。

34話 汽笛が聞こえる？幽霊機関車を探せ！
ルナが手に負えない黒マント達は、フック船長の力を借りるべく接近するが捕まってしまう。その夜、ジョン達は汽車の走る音を聞く。

35話 強敵！手を組んだフックとダークネス
フック船長は捕らえたルナを手土産に、ダークネス城へと向かう。ルナは黒雲谷を抜ける道を記した地図を書き、魔法で鳥に変え、ピーターパンに送る。

36話 冒険中止？みんなの胸がドキドキ痛い！
黒雲谷の抜け道を探すピーターパンとウェンディは、海賊船の攻撃ではぐれてしまう。気がつくとウェンディはメモリーバードの背中にいた。

名作メモ ローマ神話の月の女神ルナ。狂気の意味のルナティック。ルナの名はネバーランドの希望と絶望を同時に暗示させる。

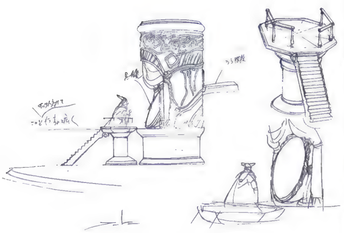


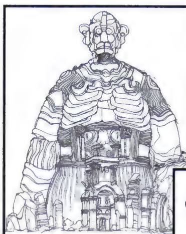
▲鏡の部屋。ダークネス城の中心部。ここから闇の力が発せられ、ネバーランド中に広がってゆく。





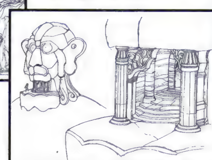
祖母の力を受け継ぎ、新たなダークネスとなったルナは、過去の記憶を失っていた。その魔力は祖母を遥かに上回り、ネバーランドは次々と闇に蝕まれていく。

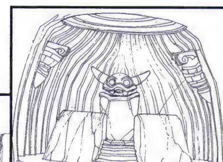




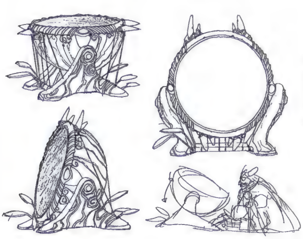
▲迷宮殿の巨像。

▼巨像入口。中に喋る浮き顔石室がある。

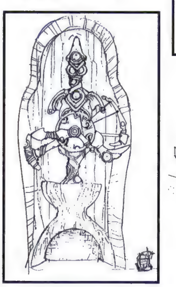




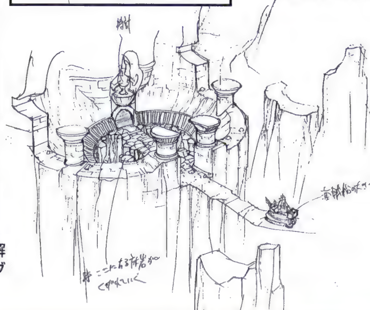
▲喋る浮き顔。「光りさす時 迷宮への道」と、謎めいた言葉を発する。



全ての元凶、黒い鏡。だが実は、黒い鏡と白い鏡は表裏一体の存在であった。



▲迷宮殿の時計。謎を解いた先に現れたのは、ダークネス城だった。



迷宮殿洞窟。巨像の奥に続く洞窟の先には巨大な時計仕掛けが待ち受けていた。

ストーリー紹介 37～40話

37話 史上最大の迷路！ ダークネス城への道

黒雲谷は抜けたものの、ダークネス城がどこにあるかまだ分からない。光りさす時迷宮への道。この謎を解かなければ、先には進めないのだ。

38話 黒い鏡始動！ ネバーランドが大ピンチ

黒い鏡のカギを手に入れたフックは、早くもダークネスに反旗を翻す。ダークネスは魔法で撃退するが、魔法を使う度にダークネスの命は削られて行く。

39話 フックの野望！ ダークネス城を乗っ取れ

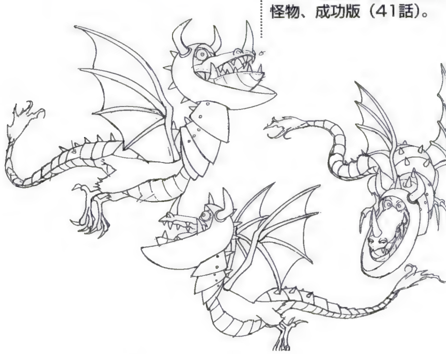
ダークネスの暗黒の力はルナへと受け継がれ、新たなダークネスが誕生する。ルナには昔の記憶が何もかも無くなっていた。ルナは悪魔になってしまったのだろうか？

40話 最後の決戦！ ピーターパン対フック船長

フック船長はダークネスとなったルナに取り入り、ネバーランドの支配を目論む。だが、ダークネスが望むのはネバーランドの破壊だった。

名作メモ 原作ではウェンディのお母さんが、男の子（ロストボーイ）達を全員引き取り、社会復帰させてしまう！

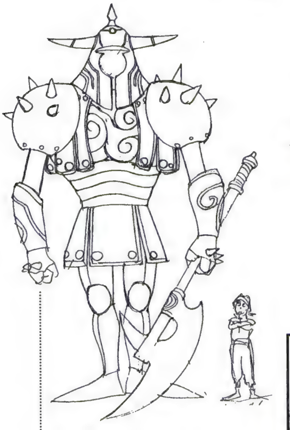
フック船長が魔法で出した怪物、成功版（41話）。





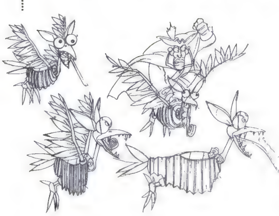


幼子ルナ。ルナの優しい心が具現化された姿。ダークネスにとっては迷いを生じさせるだけの邪魔な存在でしかない（41話）。



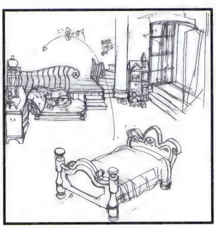
闇の騎士（40、41話）。

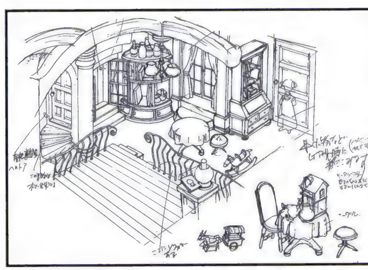
フック船長が魔法で出した怪物、失敗版。



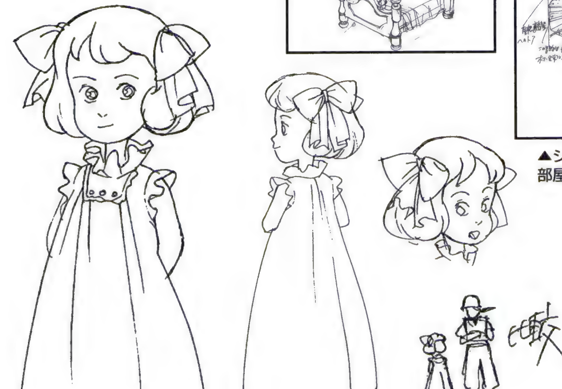


黒い鏡の中の世界でウェンディの前に現れた謎の存在は、幼子ルナを抹殺しようと目論む。ダークネス一族を支配し操る悪魔そのもの？（41話）





▲ジェーンの部屋。ウェンディ達が使っていた子供部屋を、今はジェーンが独占している（41話）。



ジェーン
ウェンディの娘。フルネームはジェーン・モイラ・アンジェラ・ダーリング。ピーターパン達の事はウェンディから詳しく聞いていた（41話）。（声：松井菜桜子）

ストーリー紹介

41話

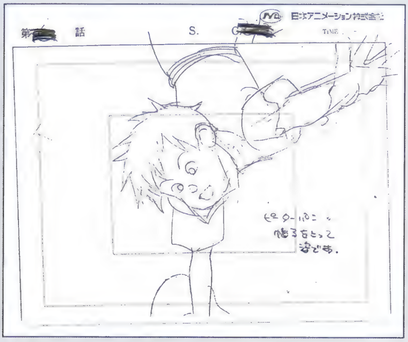
41話 さよならピーターパン！夢と冒険の国

フック船長が放った砲弾で、ルナとウェンディは黒い鏡の中へと消えてしまう。そこで見たのは、泣きじゃくる幼子。心優しきルナの良心だった。

ピーターパンの服の色

ディズニーのアニメーションですっかり緑の服がトレードマークになったピーターパン。名作劇場のピーターパンは茶色。あまりぱっとしない色かもしれないが、実はこちらの方が原作通り。ピーターパンの格好は〝筋だらけになった枯れ葉と木から木からにじみ出る汁でできた服〟。つまり枯れ葉色なのだ。

ちなみにティンカー・ベルの服装は、〝筋だらけの透けた服〟と描かれているが、こちらはピンクの透過光を使って、妖精の光を表現している。



▲ピーターパンのレイアウト（6話）より。

検証・ネバーランドはどこにある？

答えは簡単である。ピーターパン曰く、

「2つ目の角を曲がって、朝までまっすぐ行ったところ」

彼の言うとおり辿ると、おそらくネバーランドは北海上空付近にあるようだ。それでは検証してみよう。

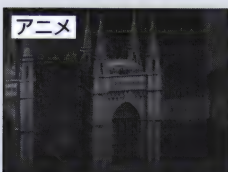


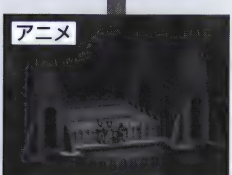
タワーブリッジをくぐりシティ方向へ。





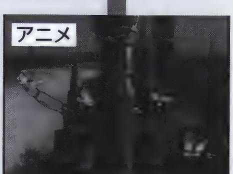
テムズ川沿いの公園？に立ち寄り…（ここで1回曲がり？）。







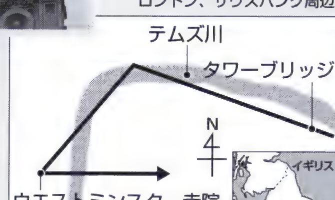
ウエストミンスター寺院の屋根で一休み。



それからもう1回曲がって国会議事堂あたりを旋回し、一路朝の方向へ。

朝といえば東。真東に向かえば北海に出てしまう。北海上空なのか？

ロンドン、サウスバンク周辺。





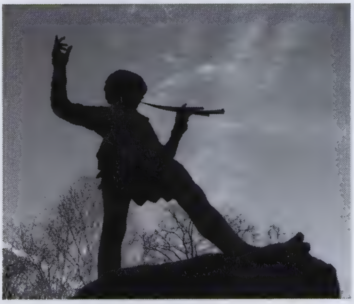
ただし原作では「ピーターは、ほんのでまかせを言ってみただけ」。ネバー・ランド（neverland）とは、どこにもない国、という意味である。

冒険ごっこが生んだ物語

『ピーター・パン』は、バリがケンジントン公園で知り合ったデイヴィーズ家の子供達との友情から生まれた作品であった。妻メアリーとの間に子供が出来なかったバリは、デイヴィーズ家の子供達をこよなく愛し、毎日のようにインディアンや海賊に扮して冒険ごっこを楽しんだ。少年達との遊びを通して『ピーター・パン』の物語が形になっていったのである。

海賊役はいつもバリ。つまりフック船長のモデルはバリ自身。乳母のナナも、バリの愛犬で子供好きだったニューファンドランド犬のルアス。そしてピーターパンのモデルは、バリの一番のお気に入りマイケル少年といわれている。

デイヴィーズ夫妻が相次いで病死し、バリは5人の少年の後見人として生涯関わっていく。



▲ケンジントン公園のピーター・パンの像。1912年、公園の一角に一夜のうちにピーター・パンの像が現れた。バリが子供達を驚かそうと、極秘に制作を進めていたのだ。



▲バリの住んでいたケンジントン公園に近くの家。

〈原作〉



ピーター・パン

訳　：本多顕彰
発行：新潮社

〈原作者〉
ジェームズ・M・バリ
1860－1937

スコットランドで生まれる。ロンドンに出た後、記者を経て劇作家になる。ケンジントン公園で出会った少年達の家族との交流から生まれた戯曲『ケンジントン公園のピーター・パン』が大ヒット。舞台の成功を受けて小説化されたのが本作。晩年、英国を代表する作家として、准男爵の称号を授与された。

なぜ小児病院がクレジットされているか?

生涯子供を愛したバリは、ロンドンのグレート・オーモンド街小児科病院に『ピーターパン』の出版と上演の権利をプレゼントした。通常原著作者の死後50年で権利は切れるが、そこは妖精の国イギリスのこと、政府の特別なお計らいで、さらに延長された。その後、権利延長のためバリの続編執筆者を公募するなど、今も小児科病院にバリの思いが届けられている。

だが、さすがのバリも、アニメーションになるとは想像しなかったろう。



▶病院の入口には小さなピーターパンの像がひっそり飾られている。

オープニングにセル画2000枚!

2000枚。ピーターパンのオープニングにかけた枚数だ。これはどうかすると30分のテレビアニメが1本作れる枚数である。しかも同じ動作の繰り返しで稼ぐ枚数じゃない。ピーターパンだから全身で動き回るのである。つまり全身の動きをすべて作画するのである。本編も1話は軽く1万枚を超えたというピーターパン、とにかく動く! これぞアニメーションである。

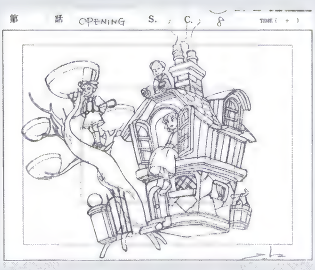
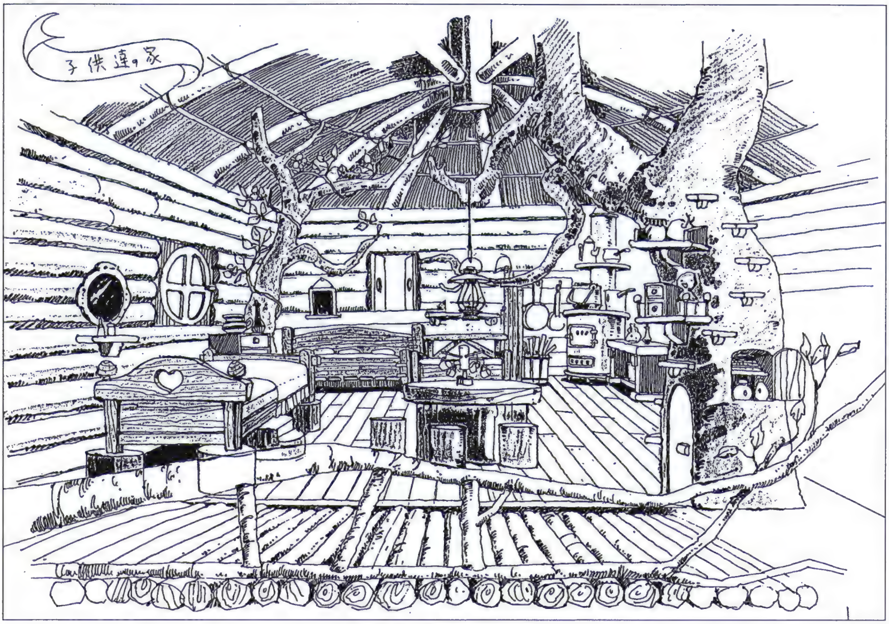


Photo : Kaori Chiba（全点）

Gallery



子供達の部屋／川本征平

メインスタッフ

脚本	雪室俊一／島田満
音楽	渡辺俊幸
キャラクターデザイン・場面設定	なかむらたかし
絵コンテ	辻伸一／楠葉宏三／黒川文男／鈴木孝義／吉田茂承／古川順康／腰繋男／松見真一／横田和善／矢沢則夫／黒田冒郎／なかむらたかし
作画監督	川崎博嗣／大久保富彦／賀川愛／遊佐和重／沖浦啓之／谷口守泰／石之博和／ふるたしょうじ
美術設定	川本征平
美術監督	高野正道
色彩設定	小山明子
背景	アトリエローク／スタジオアクア
プロデューサー	遠藤重夫／立川善久
監督	黒田昌郎

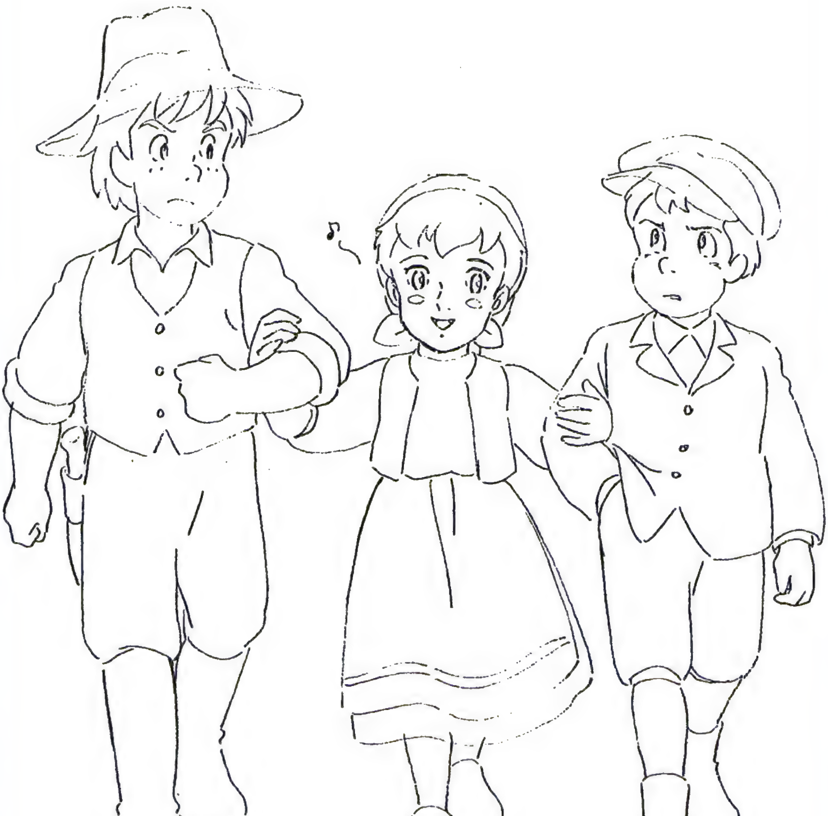
オープニングテーマ「もう一度ピーターパン」
作詞：秋元康
作曲：井上ヨシマサ
編曲：西平彰
歌：ゆうゆ

エンディングテーマ「夢よ開けゴマ！」
作詞：秋元康
作曲：井上ヨシマサ
編曲：佐藤準
歌：ゆうゆ



牧場の少女カトリ

Katri, the Cow Girl



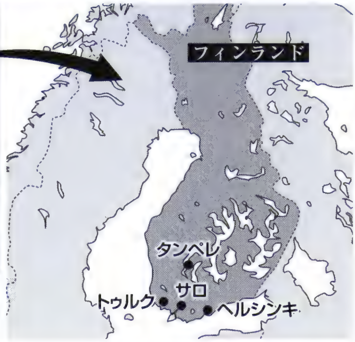
牧場の少女カトリ



放映期間	1984/01/08～1984/12/23
話　数	49話
原　作	アウニ・ヌオリワーラ
備　考	84年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台





フィンランド南部。首都ヘルシンキとトゥルクの間に位置するサロ近郊にある農村が舞台。

History

第1次世界大戦中。ロシアの圧政からの独立気運が高まり、同時に女性の自立も見え始めた、夜明け前ともいうべき時代。

19C	1809	スウェーデン、フィンランドをロシアに割譲
	1842	『カレヴァラ』出版
	1843	アンデルセン『みにくいアヒルの子』発表
	1849	大卒の女性医師誕生(米)
	1860	ナイチンゲール看護学校設立(英)
	1862	『レ・ミゼラブル』出版
	1868	明治維新(日)
	1876	『トム・ソーヤーの冒険』出版
	1899	シベリウス交響詩『フィンランディア』発表
20C	1903	ライト兄弟飛行機を発明(米)
	1904	日露戦争(～1905)
	1908	T型フォード発売(米)
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1917	ロシア革命　ロマノフ王朝終焉
		フィンランド独立
	1918	フィンランド内戦
	1922	ソビエト連邦成立
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1991	ソビエト連邦崩壊
	1993	EU発足
	1995	フィンランドEU加盟
21C		

ストーリー解説

20世紀初頭のフィンランド。幼いカトリは1年ぶりに帰ってくる母を待っていた。母がお土産にくれた子犬にアベルと名付け、母との幸せな一時を過ごすカトリ。だが生活は苦しく、母は幼いカトリを残し、再び働きに出なくてはならなかった。それも今度は遠いドイツまで。

それから3年が過ぎ、カトリは9歳になった。カトリは祖父母の元で暮らし、母の帰りを待つが、戦争が始まり手紙も途絶えてしまう。

そんなある日、牛を売りに行った祖父が、熊に襲われ大怪我をした。家の窮状を理解したカトリは働きに出ることを決意する。遠い屋敷で家畜番として住み込みで働くのだ。そこでカトリを待っていたのは様々な出会いだった。

フィンランドの国民的作曲家シベリウスの交響詩フィンランディアに乗せて綴られる少女カトリの成長の物語。

1912年

春(6歳)
- 母、ドイツへ出稼ぎ

1915年(9歳)

春
- マルティと出会う

5月
- ペッカと出会う
- ライッコラ屋敷に奉公

夏
- アッキと出会う

秋
- 羊を拾う
- グニンラ、ライッコラ屋敷に
- 窃盗未遂事件

晩秋
- ペッカ、クウセラ屋敷へ

1916年(10歳)

5月16日
- ライッコラ屋敷を去る

5月末
- クウセラ屋敷に奉公

初夏
- 女医ソフィアと出会う

1917年(11歳)

5月
- クウセラ屋敷を去る
- ロッタの待つトゥルクへ
- クラウスの家庭教師に就任

夏
- 入試合格、特待生に

9月
- 自由学院初等部6年生に

1918年(12歳)

春
- 母と6年ぶりに再会

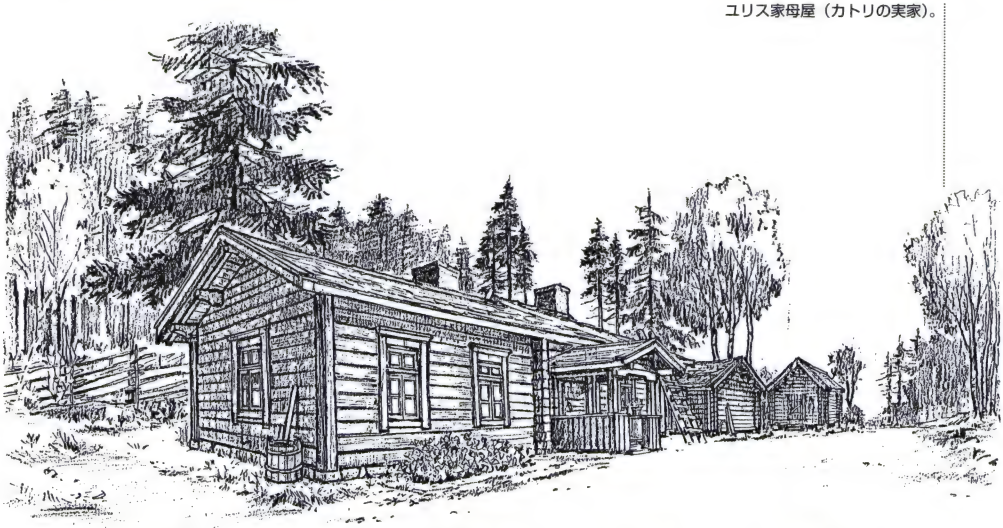
7月
- 母と帰郷



メインキャラクター比較表。

レ・ミゼラブル
ロミオの青い空
フランダースの犬
ペリーヌ物語
小公女セーラ
小公子セディ
わたしのアンネット
家なき子レミ
ピーターパンの冒険
牧場の少女カトリ 1915
名犬ラッシー
トラップ一家物語
ボルフィの長い旅

ユリス家母屋（カトリの実家）。



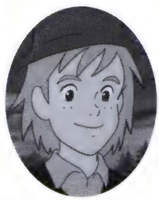
キャラクター紹介



サラ・ウコンネミ
カトリの母。ドイツへ働きに行くが、戦争が始まり、音信不通になる。



アベル
サラがカトリにおみやげとしてくれたダックスフント。家畜番から子守までこなす、カトリの強力な相棒。



ペッカ
ペンティラ屋敷の家畜番。田舎育ちの素朴な少年。マルティとカトリを巡り火花を散らす。

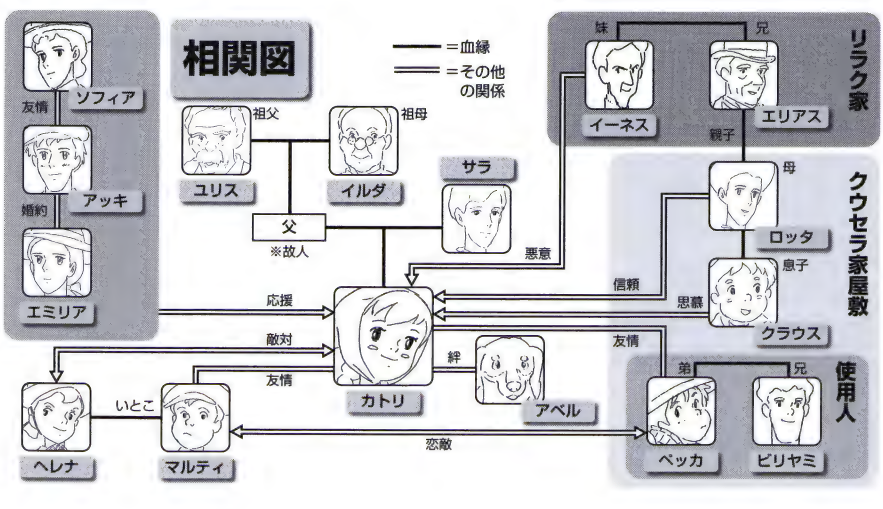


マルティ・ハルマ
ハルマ屋敷のお坊ちゃんで、カトリの遠い親戚。お坊ちゃん育ちのわりに、ケンカ早い。



カトリ・ウコンネミ
聡明で勤勉で、その上、おちゃめ。祖父母を助けるために、住み込みの家畜番として働きに出る。

相関図



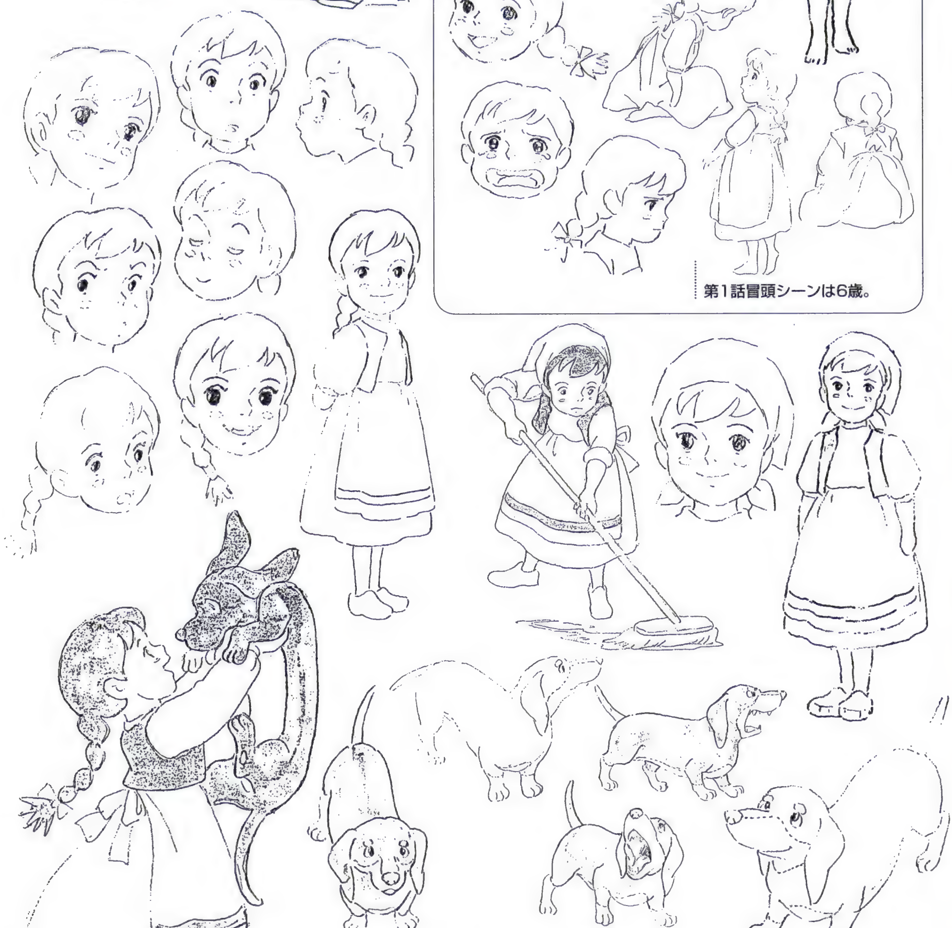
カトリ・ウコンネミ

ドイツに働きに行ったまま音信不通の母の帰りを待ち、祖父母と暮らす。9歳。賢くて、働き者で、努力家。さらに、強運の持ち主というスーパーガール。祖父母を助けるため、家畜番として住み込みで働きに出るが、様々な出会いを通じ、次第に人の役に立つ仕事をしたいという夢を持つようになる。
（声：及川ひとみ）





第1話冒頭シーンは6歳。





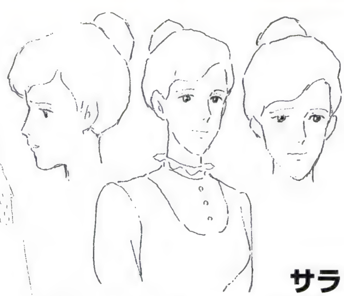
アベル

カトリが6歳の時、1年ぶりに帰宅したサラがおみやげにくれたダックスフント。カトリ日く「なまけもん」だが、実は家畜番をしっかりこなすカトリの頼もしいパートナー。すねたり、ヤキモチ焼いたり、表情豊か。クウセラ屋敷に行ってからはクラウス坊ちゃんのおもちゃと化す。（声：龍田直樹）

名作メモ パルキ村で学校に行っているのはハルマ屋敷の子供達だけ。カトリは牧師から簡単な読み書きを教わった。





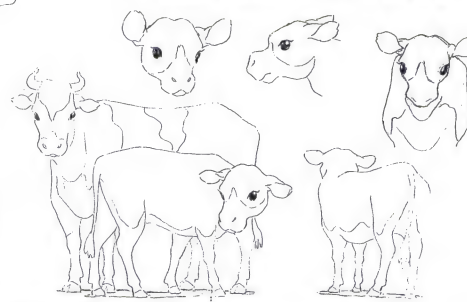


イルダ
カトリの祖母
神経痛の持病がある。（声：京田尚子）

サラ
夫を亡くし、カトリが6歳の時、雇い主に気に入られ、ドイツまで働きに行くが、戦争が始まり、音信不通になった。（声：藤田淑子）

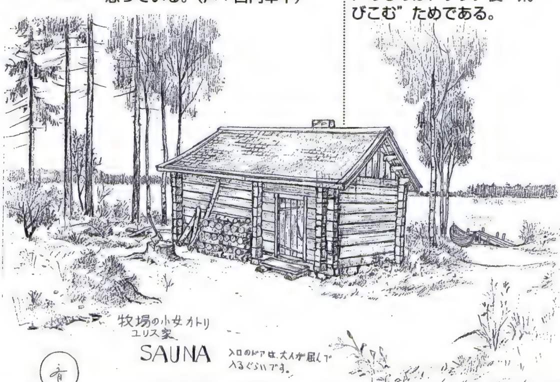


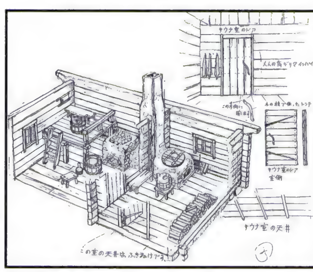
ユリス
パルキ村に住むカトリの祖父。頑固者だがカトリには甘い。心臓を患っている。（声：宮内幸平）



ユーラと母牛。母牛は売りに出される途中、熊に襲われ殺されてしまう。

ユリス家のサウナ。湖沿いにあるのは、サウナ後“飛びこむ”ためである。





▲ユリス家のサウナ。フィンランド人にとってサウナは欠かせないもの。だからといって大ケガをした体で無理にサウナに入ってしまうユリス。案の定高熱を出してしまう。

ストーリー紹介 1～4話

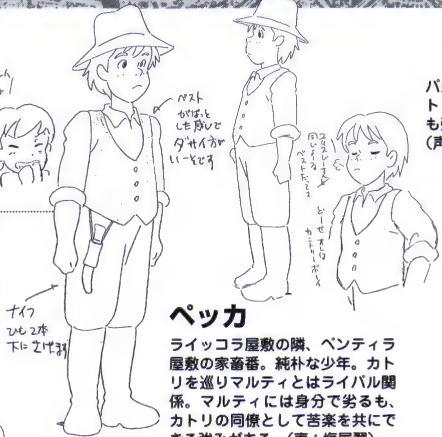
1話　別れ
フィンランドの農村で暮らす少女カトリ。カトリの母サラは家政婦として働くため、カトリと遠く離れて暮らしていた。ある日サラが1年ぶりに帰宅する。

2話　友だち
カトリの家の牛が熊に殺され、祖父のユリスも怪我をした。カトリは家計を助けるため働きに出たいという。そんな時カトリは牧場でひとりの少年と出会う。

3話　春のあらし
ハルマ屋敷のぼっちゃんマルティと友達になったカトリは、マルティに誘われ、湖の島まで釣りに行く。だが乗ってきたボートが嵐で流されてしまった。

4話　決意
ハルマ屋敷に来ている靴職人のトポルが家畜番を探しているという話をマルティが教えてくれた。早速、カトリはユリスと一緒にトポルに会いに行く。

名作メモ　マルティから学校では戦争がいつ終わるか教えてくれないと聞き、「学校ってあんまり役に立たないところなのね」とカトリ。

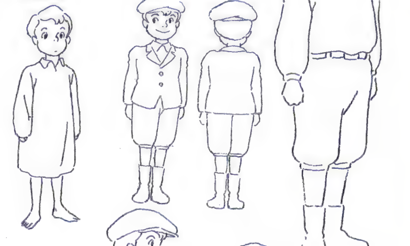


設定書に書かれたカトリのセリフ「うわさのポテトボーイね」が可笑しい。

マルティ・ハルマ

パルキ村の名士ハルマ家のお坊ちゃんで、カトリとは遠縁にあたる。カトリのためには体も張る正義漢。ケンカもなかなか強い。
（声：古谷徹）



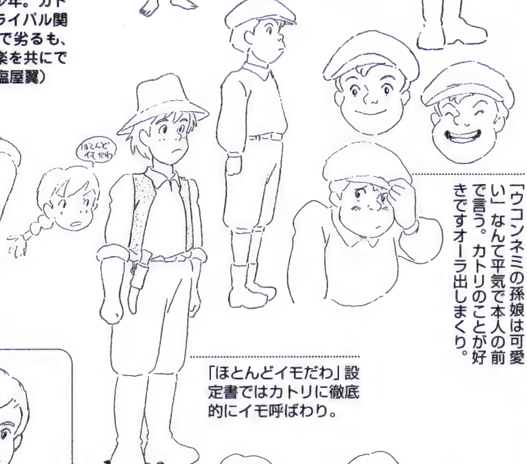


ペッカ

ライッコラ屋敷の隣、ペンティラ屋敷の家畜番。純朴な少年。カトリを巡りマルティとはライバル関係。マルティには身分で劣るも、カトリの同僚として苦楽を共にできる強みがある。（声：塩屋翼）

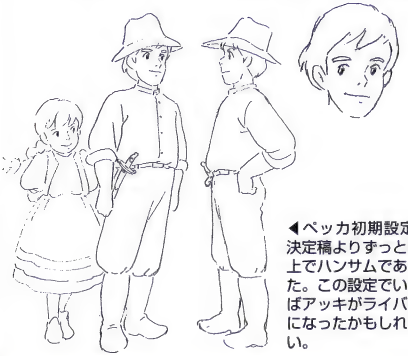


ペッカ準決定稿。ベストとナイフが違う。この時点では名前はマンダだった。設定が進むにつれダサくなっていくペッカ…

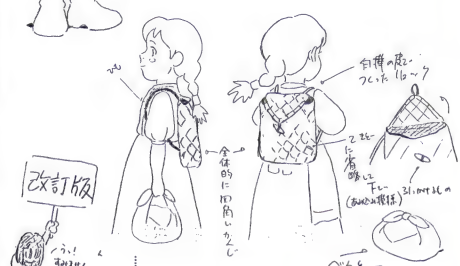


「ほとんどイモだわ」設定書ではカトリに徹底的にイモ呼ばわり。

「ウコンネミの孫娘は可愛い」なんて平気で本人の前で言う。カトリのことが好きでオーラ出しまくり。



◀ペッカ初期設定。決定稿よりずっと年上でハンサムであった。この設定でいけばアッキがライバルになったかもしれない。



ライッコラ屋敷に行くときの姿。

ストーリー紹介 5〜8話

5話 出発
ライッコラ屋敷で働くため出発したカトリをマルティは途中まで送ってくれた。そしてマルティと別れた後、カトリはペッカという少年と出会う。

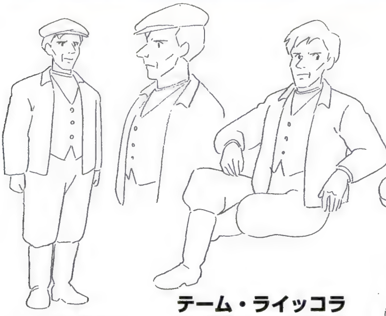
6話 主人
ライッコラ屋敷にやってきたカトリは、屋敷の奥様ウッラに会うが、どこか様子がおかしい。それは2年前に突然娘を亡くしてからだという。

7話 奥様
家畜番の仕事にもすっかり慣れたカトリに屋敷の主人テームは来週から牛を北の牧場へ連れて行くようにという。そこは崖のある危険な牧場だった。

8話 災難
ウッラから頼まれて家畜番の最中に村までフィンカブラの苗を取りにいくことになったカトリ。だが牛達を残してきたのは北の牧場だった。

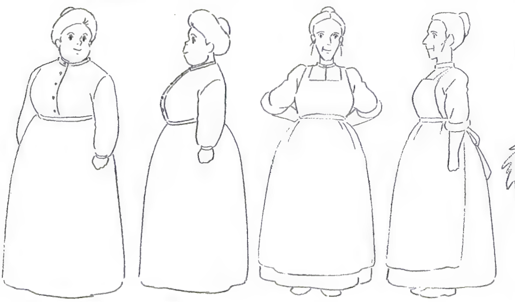
名作メモ ライッコラ屋敷から南の牧場までは片道約1km、牧場の長い方の辺は約500m。

ライッコラ屋敷の人々





テーム・ライッコラ
ライッコラ屋敷の主人。少々短気なところはあるが、心を病んだ妻ウッラを受け止める優しさも持ち合わせている。カトリとアベルを高く評価している。（声：野島昭生）



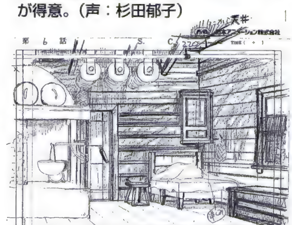


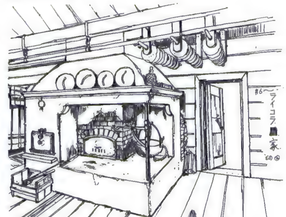


エスコ
テームの叔父。主に道具の修理などを担当。カトリのよき理解者。（声：上田敏也）

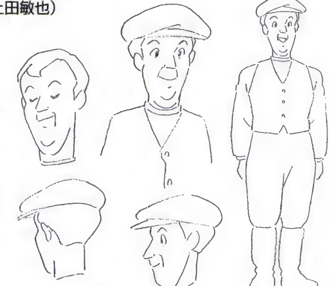
ウッラ・ライッコラ
ライッコラ屋敷の奥様。娘を亡くして以来、心を病むが、カトリと出会い次第に回復。クレープ作りが得意。（声：杉田郁子）

アンネリ
ライッコラ屋敷の使用人。ウッラのサポート役。カトリとは仲良し。（声：鈴木れい子）





ライッコラ屋敷の暖炉付近。左はカトリの使っていたベッド。暖炉のすぐ傍にある。寒い時期はこのベッドで寝起きする。



ビヒトリ
ライッコラ屋敷の使用人。テームのサポートをすることが多い。（声：藤井つとむ）

ストーリー紹介 9～12話

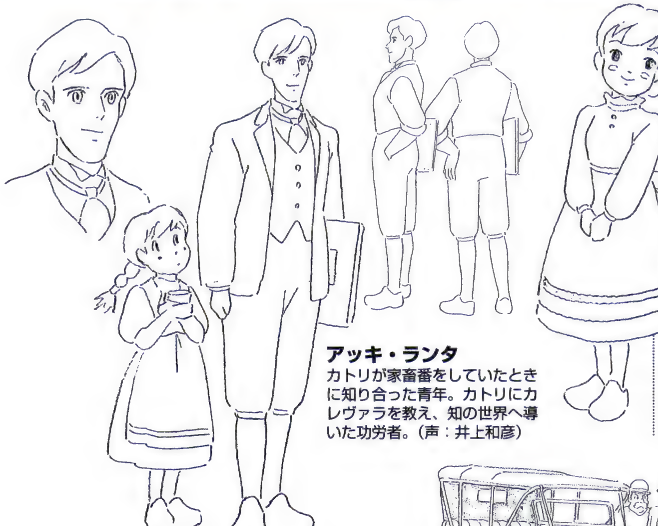
9話 愛情
カトリは熱を出した。夏休みになり、近くの別荘に泊まりに来ていたマルティは、テームに自分が家畜番をするので、カトリを休ませて欲しいと頼む。

10話 約束
熱が下がらないカトリの代わりに次の日も家畜番を引き受けると約束したマルティ。だが翌朝、マルティは約束の時間になっても屋敷に姿を見せない。

11話 喧嘩
マルティが家畜番をしていると、突然激しい雷雨になった。そこへペッカがやってきた。ふたりはちょっとしたやりとりから殴り合いの喧嘩になってしまう。

12話 手紙
カトリとペッカのところにマルティがやってきた。再びペッカとマルティは言い争いになるが、カトリは喧嘩をするならふたりとも友達じゃないと叱る。

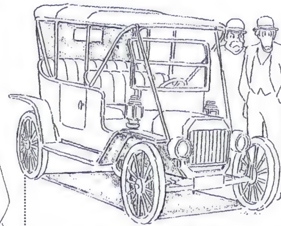
名作メモ サラからユリスに届いた手紙は1年前にフランクフルトから出されたものだった。



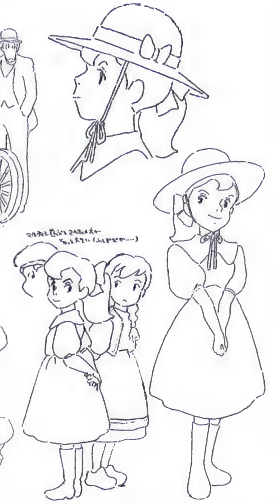
アッキ・ランタ
カトリが家畜番をしていたときに知り合った青年。カトリにカレヴァラを教え、知の世界へ導いた功労者。(声：井上和彦)

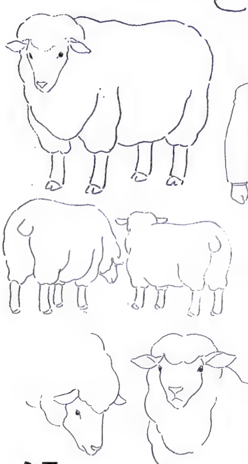


初めてのお給料としてもらったワンピース。普段着用。生地はテームの見立て。淡いオレンジ色はテームの趣味か？



アッキを逮捕しに来た国家警察。自動車は1908年に発売され一世を風靡したT型フォード。









ヘレナ
マルティのいとこ。マルティがカトリをチヤホヤするのが気に入らず、何かとカトリに意地悪な態度をとる。他がみんなカトリびいきになる中、彼女だけは最後まで意地を通した。あんなによくできた子が近くにいたんじゃ、同じ年頃の女の子としては辛いもの。(声：小林優子)

シロ
北の牧場でカトリが見つけた迷子の羊。飼い主が見つからず、カトリのものになった。ライッコラ屋敷の羊と区別するために左前足に目印が結んである。カトリはシロの毛でセーターを作った。

ストーリー紹介 13～16話

13話 素敵な贈物
カトリが家畜番をしていると、そこへアッキと名乗る青年がやってきた。アッキはカトリにフィンランドの叙事詩カレヴァラの一節を教えてくれる。

14話 はじめての招待
アッキがくれたカレヴァラの本にカトリは夢中になる。そんなカトリをアッキは別荘に招待してくれた。だがアッキはカトリの目の前で逮捕されてしまう。

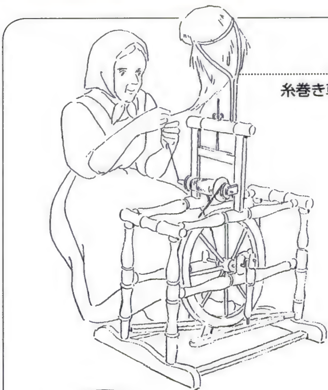
15話 おもいがけないお給料
マルティは明日、家に帰ることになった。祖父母への手紙を託したいカトリだが、マルティのいとこのヘレナが、帰宅は今日に変更になったと言いに来る。

16話 迷子になった羊
秋のある日、北の牧場で見慣れない羊を見つけたカトリは、屋敷に連れて帰った。羊は飼い主が現れなければ、カトリのものになるかもしれないという。

名作メモ カトリの新しい服は普段着。よそ行きは来年の春に貰うはずだったが、翌春すぐに辞めたため、約束は立ち消えに。

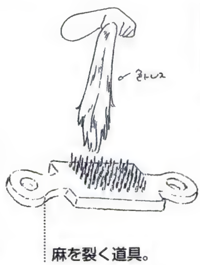
フィンランドの農村の暮らし

カトリではフィンランドの農村の暮らしが丁寧に描かれている。そのため、農機具などの設定も細かい。



糸巻き車。

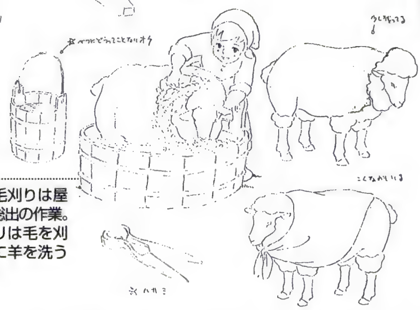




麻を裂く道具。



鎌と鎌を研ぐ道具。



羊の毛刈りは屋敷中総出の作業。カトリは毛を刈る前に羊を洗う担当。

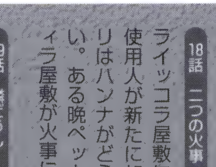






お使い帰りのカトリに絡んだ悪ガキども。





ハンナ
かつてライッコラ屋敷で働いていた使用人で、突然舞い戻ってきた。実は盗賊団の一味。アベルと相性が悪い。（声：吉田理保子）

アルノ
テームのいとこ。（声：大山高男）

ストーリー紹介 17～20話

17話 狼を退治する日
カトリは自分の羊にシロと名づけた。その頃、村では狼の被害が相次ぎ、一斉に狼狩りすることになった。だが手違いでシロがその囮にされてしまう。

18話 二つの火事
ライッコラ屋敷にハンナという使用人が新たに加わった。カトリはハンナがどうも信用できない。ある晩ペッカの働くペンティラ屋敷が火事になる。

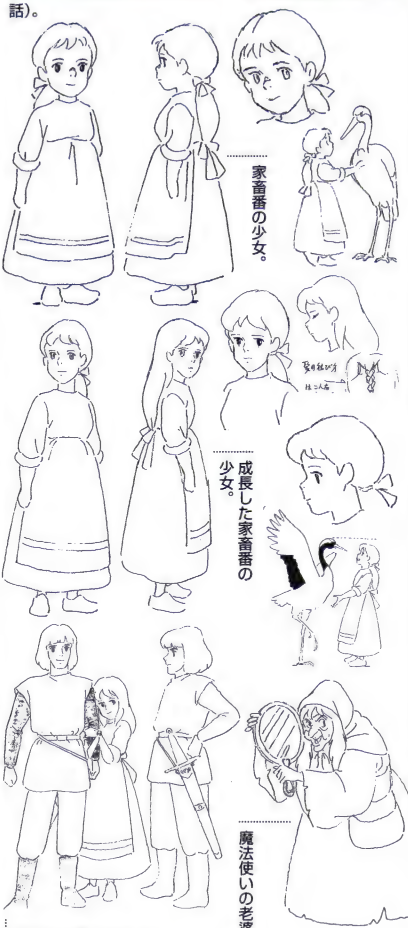
19話 隣どうし
火事で焼け出されたペッカはライッコラ屋敷で寝泊りすることになった。喜ぶカトリだが、テームはペンティラ屋敷の牛を買い取るつもりらしい。

20話 来た人と去る人
冬の間、ライッコラ屋敷で糸をつむいだり、布を織ったりするグニンラばあさんがやってきた。グニンラはハンナについても何か知っているようだった。

名作メモ テームは鉄砲の名人。間一髪のところで、カトリの羊シロを狙った狼を仕留める。

22話より「鶴の恩返し」

グニンラがおばあさんが話してくれた話の登場人物（22話）。



家畜番の少女。

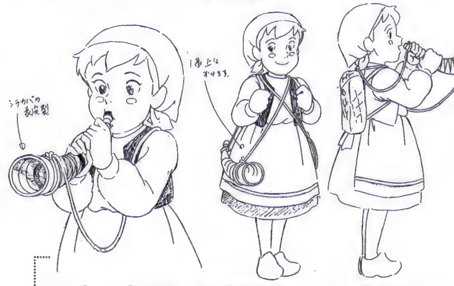
成長した家畜番の少女。

元の姿に戻った王子。

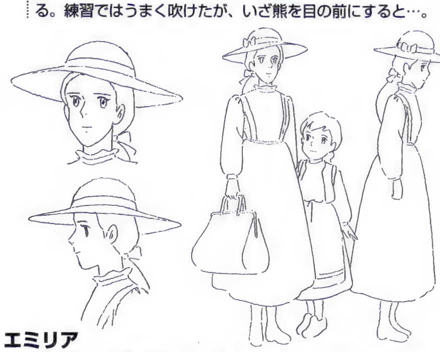
魔法使いの老婆。



グニンラ
普段はチューリン村に住んでいるが、冬の間ライッコラ屋敷に住み込んで、糸紡ぎや布の折り方を教えてくれる。「お話」をたくさん知っている。（声：高橋和枝）



オープニングでおなじみの角笛を吹くカトリ。熊が出たら吹くようテームから渡された。笛は白樺の皮でできている。練習ではうまく吹けたが、いざ熊を目の前にすると…。



エミリア
看護婦。ライッコラ屋敷からパルキ村へ帰る途中に転んでケガをしたカトリを助けた。カトリはエミリアを見て看護婦にあこがれる。だが一見看護婦とは思えないほんわかしたお嬢さん。（声：水倉久美子／山本百合子）

ストーリー紹介 21～24話

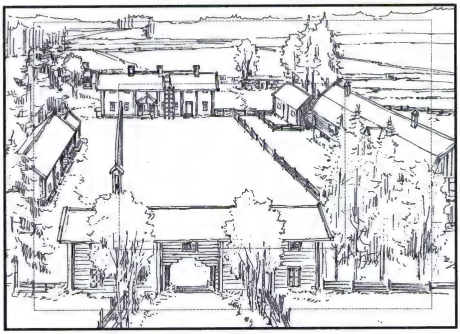
21話 アベルが狙われた
ある晩、ハンナがアベルに噛みつかれた。アベルはひもで繋がれることになるが、グニンラはカトリに、ひもを解いてから寝るよう耳打ちする。

22話 春を待ちながら
ペッカが旅立ち、間もなく冬が訪れた。長い冬の楽しみはグニンラの語る数々の民話だった。グニンラはある晩、家畜番の少女の話を聞かせてくれる。

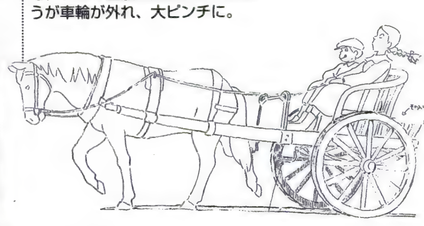
23話 熊と牛はどちらが強いか
再び牧場へ牛を連れて行く季節がやってきた。久しぶりに牧場へ出かけたカトリは熊が出たと聞き、急いで屋敷へ引き返すが、その途中、熊と遭遇する。

24話 出会いと別れ
熊の出没で家畜番には大人が立つことになった。ライッコラ屋敷の仕事を失ったカトリに、ペッカは自分が働くクウセラ屋敷に来るよう声をかける。

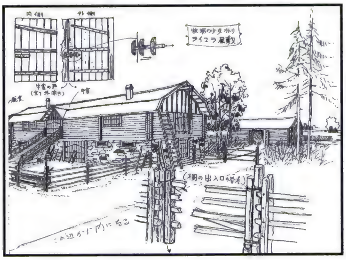
名作メモ テームがカトリに書いてくれた職業証明書の日付は1916年5月16日。



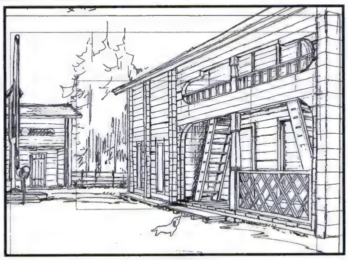
◀ライッコラ屋敷俯瞰図。道路から屋敷の入り口までは緩やかな上り坂になっている。



マルティの馬車。26話でカトリをクウセラ屋敷に送るときにも使うが車輪が外れ、大ピンチに。



▲牛小屋の入り口付近。カトリはここから牛を牧場へ連れていく。



▲夏小屋。使用人が夏の間寝起きする別棟。カトリは個室がもらえて大喜び。夜遅くまで本を読みふけった。



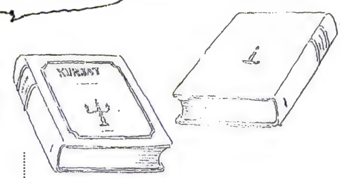
マリ

マルティの姉。箒を持ってマルティを追い回すような猛烈姉ちゃんだが、カトリに本をくれる気のいい娘でもある。(声:津賀有子)



ロシアから逃げてきたアッキ。ある時は画家志望の大学生。ある時は新聞記者。ある時は独立運動の闘士。カトリのピンチにはどこからともなく現れる白馬の王子のようだ。





マリがくれた本、『KURJAT』。ヴィクトル・ユゴー作、『レ・ミゼラブル』のこと。ペリーヌも読んだ知性派名劇ヒロイン必読の書。原作は長編で大人でも読破するのは大変。

ストーリー紹介 25～28話

25話 島での出来事
1年ぶりに実家に帰り、マルティとも再会したカトリは湖の島へ釣りに行くが、そこでハンナとその一味を見かける。一味はハルマ屋敷を狙っていた。

26話 助けてくれた人
カトリはマルティの馬車でクウセラ屋敷に送ってもらうが、途中で馬車が壊れてしまう。そこへ偶然通りかかったのはハンナ一味の馬車だった。

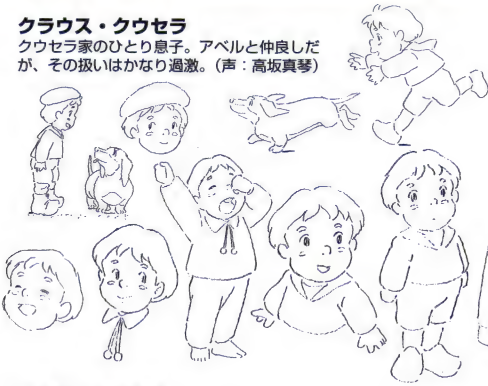
27話 都会育ち
クウセラ屋敷に着いたカトリだが、頼みのペッカは不在。奥様のロッタはカトリに自分の身の回りの世話と息子クラウスの相手をしてくれるよう頼む。

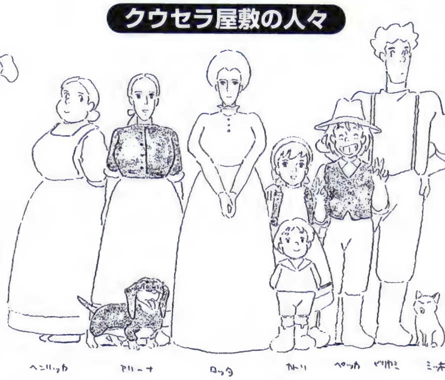
28話 新しい生活
カトリはロッタの刺繍の手伝いとクラウスの遊び相手の毎日。ある晩、クラウスが高熱を出した。カトリとペッカは夜道を馬車で医者を呼びに走る。

名作メモ ライッコラ屋敷を辞めたカトリが実家にいたのはわずか5日。「あと10日もいたら働きに出たくなくなる」がカトリの理由。

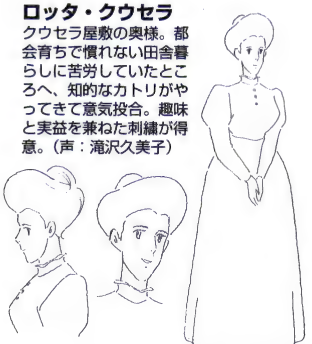
クウセラ屋敷の人々

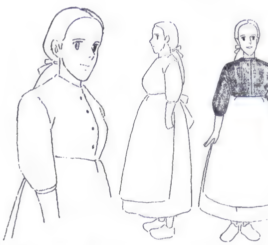
クラウス・クウセラ
クウセラ家のひとり息子。アベルと仲良しだが、その扱いはかなり過激。（声：高坂真琴）



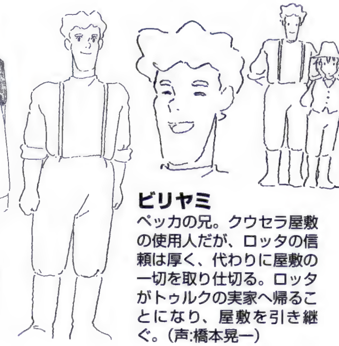


ロッタ・クウセラ
クウセラ屋敷の奥様。都会育ちで慣れない田舎暮らしに苦労していたところへ、知的なカトリがやってきて意気投合。趣味と実益を兼ねた刺繍が得意。（声：滝沢久美子）

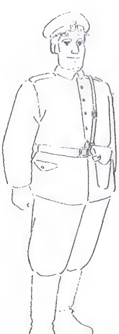




アリーナ
クウセラ屋敷の使用人。ビリヤミと結婚して、お屋敷の奥様となる。カトリに「奥様」と呼ばれ、思わず「もう一回言ってみて！」。（声:木藤総子）



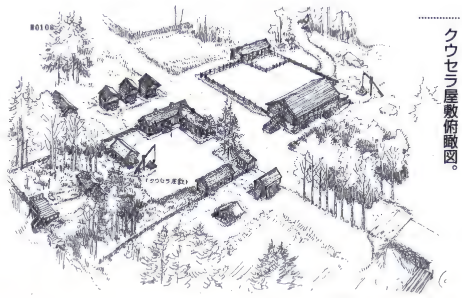
ビリヤミ
ペッカの兄。クウセラ屋敷の使用人だが、ロッタの信頼は厚く、代わりに屋敷の一切を取り仕切る。ロッタがトゥルクの実家へ帰ることになり、屋敷を引き継ぐ。（声:橋本晃一）



カルロ・クウセラ
ロッタの夫。軍人、大尉。ドイツへ出征し、帰らぬ人となる。（声:西村和道）



ヘンリッカ
クウセラ屋敷の使用人。最初は特別扱いのカトリに嫌みを言うが、カトリの働きぶりに舌を巻き、カトリがクウセラ屋敷を去るときには、美味しいお弁当を作ってくれた。（声：片岡富枝）



クウセラ屋敷俯瞰図。

ストーリー紹介 29～32話

29話 夢を見ていた
クラウスを診てくれたのは医者のソフィアだった。カトリは医者の仕事に憧れるが、ソフィアは医者になるには大学で勉強しなければならないという。

30話 美しい白鳥のように
ライッコラ屋敷を訪れたカトリ。人の役に立つ仕事に就きたいカトリを、屋敷で共に働いていたアンネリは「あんただったらできるわ」とやさしく励ます。

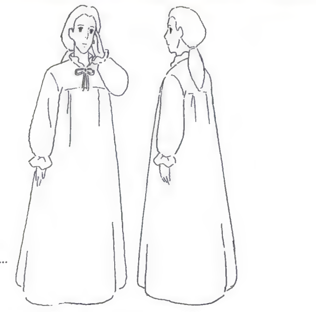
31話 本が送られて来た
カトリの刺繍の腕は日増しに上達していたが、時々数を間違えてしまう。そんな時、カトリ宛の小包が届く。それはアッキが送ってくれた数の本だった。

32話 魔法の本と悪魔
クラウスを散歩に連れていったカトリは、靴職人のラスキに出会う。ラスキは昔一度だけ悪魔にあったことがあるといい、不思議な話を聞かせてくれた。

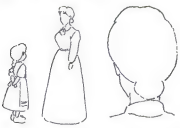
名作メモ ネコのミッキがアベルの小屋を占領したのを見たカトリの一言。「驚いた。このネコ相当なもんね」。

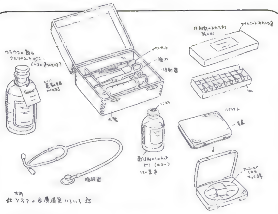
ソフィア・ニーラネン
医者。クラウスが高熱を出した時、往診してくれた。医者になりたいと夢見るカトリに、田舎にいてはなれないと、厳しい現実を伝える。自動車を乗り回す先進的な女性。普段は知性あふれる品のある女性だが、ハンドルを握ると性格が変わる。
（声：松島みのり）





寝間着姿のロッタ。夫のクウセラ大尉が亡くなり、そのショックと疲れで、ヘルシンキで倒れてしまった。ロッタの珍しい髪を下ろした姿。(35話)





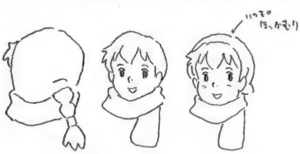
▲ソフィアの診療道具。今では考えられないが、当時注射器は使い回しが当たり前だった。



クラウスの相手をしてソリ遊びをするカトリ。

ミッキ
アベルの小屋を平然と占領する肝っ玉の座った猫。元はソフィアの猫だった。









ペッカとカトリ。冬の装い（36話）。



クラウスの冬の装い（36話）。



カトリの刺繍。モデルはミッキ!?

ストーリー紹介 33〜36話

33話 喜びと悲しみ
優しいロッタの元での幸せな毎日を送るカトリ。忙しかった農作業が一段落した屋敷ではペッカの兄ビリヤミと使用人アリーナの結婚式が行われていた。

34話 ヘルシンキ行き
結婚式の最中、ロッタの夫クウセラ大尉が怪我でヘルシンキの病院へ運ばれたという知らせが来た。ロッタはカトリとクラウスを連れヘルシンキへ向かう。

35話 父と娘
クウセラ大尉が亡くなった。ヘルシンキでの滞在費が足りなくなったロッタはカトリを知人の元へ使いにやる。そこでカトリは偶然ロッタの父に出会った。

36話 奥様の決意
屋敷をビリヤミ夫妻に売り、トゥルクの実家に戻る決意をしたロッタは、カトリに一緒に来て欲しいといい、カトリも乗り気。ペッカは深い寂しさを感じる。

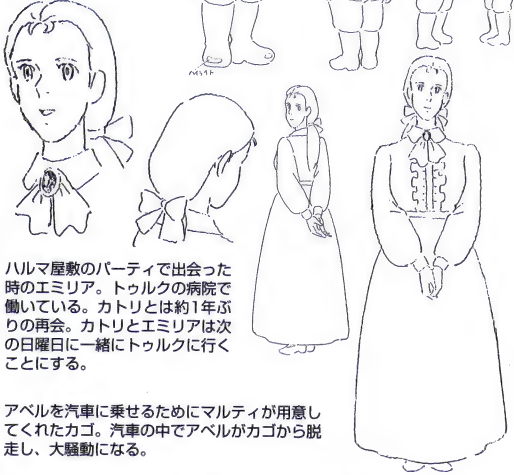
名作メモ　クウセラ屋敷を朝5時に馬車で出発して最寄り駅のサロにつくのは昼前になる。歩けば1日。

ベイネ・ハルマ
マルティの父。ハルマ屋敷の主人。カトリの家とは遠縁。相当ケチではあるが話のわからない男ではない。カトリのおかげでマルティがまじめに勉強するようになり感謝している様子。（声：辻村真人）

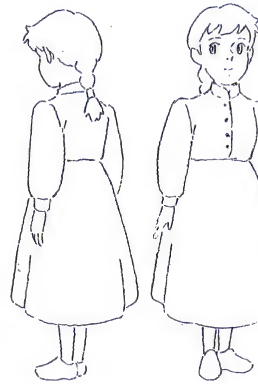




ウッラの赤ちゃん、エルナ。願い通りの女の子。

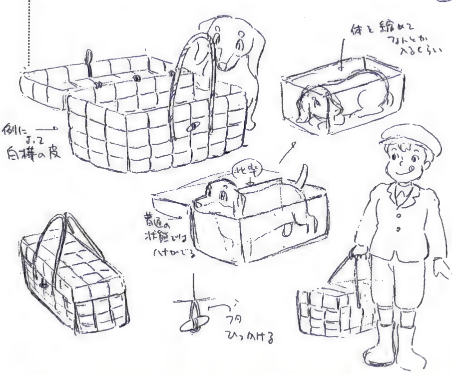


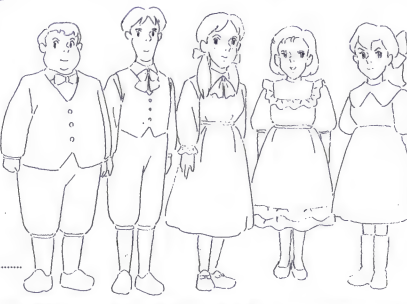
ハルマ屋敷のパーティで出会った時のエミリア。トゥルクの病院で働いている。カトリとは約1年ぶりの再会。カトリとエミリアは次の日曜日に一緒にトゥルクに行くことにする。



ハルマ屋敷のパーティに着ていった服。「きれいだ」とマルティ。だが、マルティがあまり服ばかり褒めるので、カトリは怒ってしまう。マルティには乙女心わからない。

アベルを汽車に乗せるためにマルティが用意してくれたカゴ。汽車の中でアベルがカゴから脱走し、大騒動になる。





ハルマ屋敷のパーティに来ていた子供達。ヘレナは彼らにカトリが家畜番だというが誰も信じない。腹立ち紛れにカトリの服にビールをかけ、ハンカチを刺繍入りだと言って見せびらかすが、カトリに手痛い逆襲を受けた。

ストーリー紹介 37～40話

37話 迷子のアベル
トゥルク行きの相談のため1年ぶりに帰省するカトリ。アベルを屋敷に置いていくが、アリーナが紐をほどいた途端、カトリを追って走り出した。

38話 それぞれの道
カトリを実家まで送ってきたペッカはカトリと一緒にマルティを訪ねる。1年ぶりに会ったマルティは大きく成長していた。3人は湖の辺で夢を語り合う。

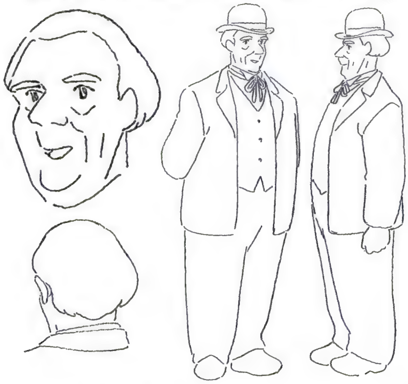
39話 ハルマ屋敷のパーティ
マルティはハルマ屋敷で行われたパーティにカトリを招待する。だがそこに来ていたヘレナはカトリに意地悪いことを言い、わざと服にビールをかける。

40話 道づれ
カトリはハルマ屋敷のパーティで再会したエミリアと同じ汽車でトゥルクへ行く約束をする。当日、マルティはカトリを馬車で駅まで送ってくれた。

名作メモ サロからトゥルクまでの汽車賃は100カペイカ。アベルも同額だったが、かごに入れることを条件に半額に値切る（40話）。

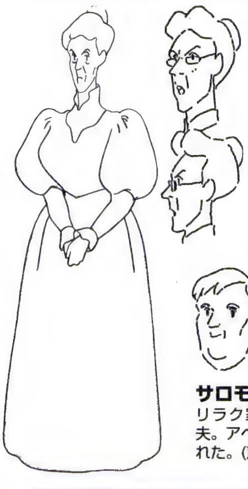
リラク家の人々

エリアス・リラク
ロッタの父。貿易関係の仕事をしている。ヘルシンキで夫を亡くしたロッタと再会。温和な人柄で公平にものを見る目を持つ。ロッタと同じくカトリびいき。(声：勝田久)





イーネス・リラク
エリアスの妹。早くに妻を亡くしたエリアスに変わり、リラク家の一切を取り仕切る。ロッタが田舎出のカトリを特別扱いにするのが気に入らず、カトリに冷たく当たる。(声：中西妙子)



クラウスの外出着姿。



ロッタの外出着姿。





ノーラ
リラク家の踊る料理人。パッパパッパパラッパー♪
(声：嶺あつ子)



サロモン
リラク家の庭師。ノーラの夫。アベルの小屋を造ってくれた。(声：郷里大輔)

セルマ
リラク家のメイド。最初はカトリに冷たく当たるが次第に理解するようになる。(声：山田礼子)

ストーリー紹介 41～44話

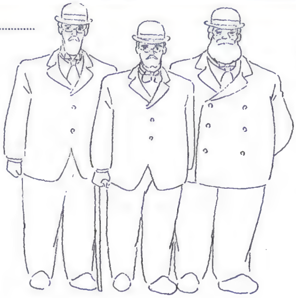
41話 トゥルクの人々
偶然汽車でアッキと乗り合わせたカトリはトゥルクに着いた。だが屋敷で待っていたのはロッタの叔母イーネスだった。イーネスはカトリに冷たく当たる。

42話 絵のない絵本
ロッタ達とカトリが一緒に食事をすることにイーネスは猛反対。カトリはクラウスの家庭教師だと言うロッタに、イーネスは、カトリをテストすると言い出す。

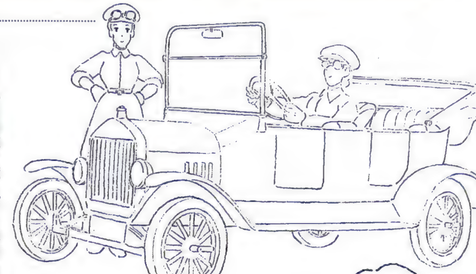
43話 自動車に乗った!
イーネスの算数のテストもクリアし、ロッタやクラウスと公園へ出かけたカトリは、帰り道に偶然自動車に乗ったソフィアに会い、乗せてもらうことにする。

44話 にくらしい娘
ロッタが刺繍の勉強のため、父と共にスウェーデンへと旅立っていった。屋敷に戻ったカトリにイーネスは広い部屋の掃除をひとりでするよう言いつける。

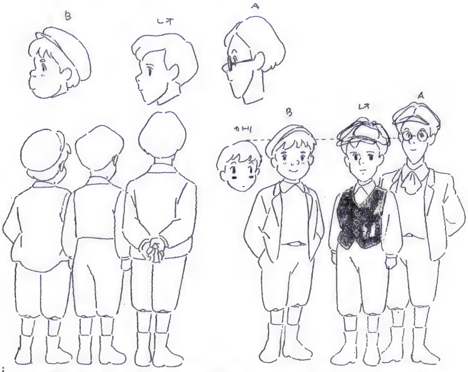
名作メモ ソフィアは自動車を買って3日目。すでに一度横倒しになっている（43話）。



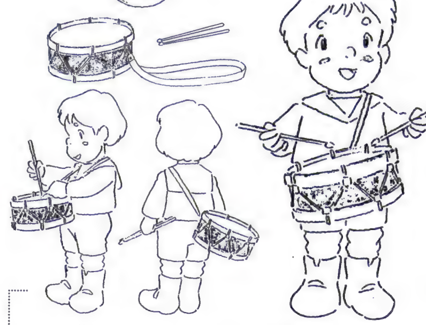
レーニン一行。カトリはアッキに招待されたレストランで一行を目撃する。



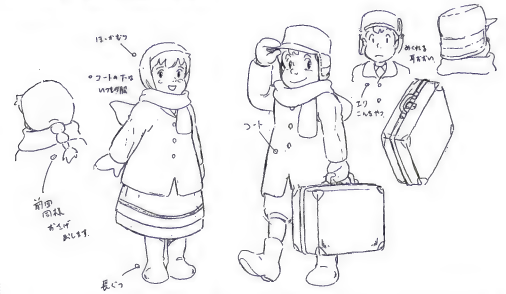
ソフィアの自動車。荒っぽい運転に乗せてもらったカトリとロッタは閉口。アベルもダウン。クラウスだけが大はしゃぎ。



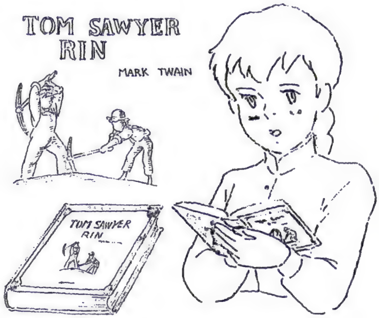
レオ(声：伊倉一恵）とその友だち。カトリとはトゥルクの公園で出会う。自由学院の6年生。



太鼓で遊ぶクラウス。太鼓はロッタのスウェーデン土産。家の中でドンドンするクラウスにロッタは閉口。「あのお土産は失敗だったわ」。



カトリとマルティの冬着姿。クリスマス休暇になり、トゥルクの中学に進学して寄宿生活のマルティは実家に帰る。友達（マルティ）をトゥルクの駅まで見送りとは優雅な使用人である。



カトリが自由学院の入学試験の面接で読むように言われた本『トム・ソーヤーの冒険』。よく見ると表紙のシルエットは…。

ストーリー紹介 45～48話

45話 疲れた一日
カトリが掃除をしている間に、庭で遊んでいたはずのクラウスとアベルがいなくなってしまった。カトリは公園まで探しに行くがなかなか見つからない。

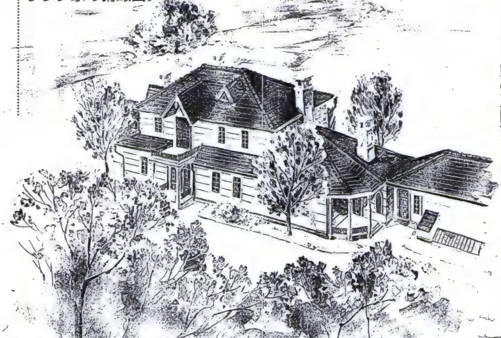
46話 美しいもの
イーネスが大切にしている高価な花瓶に花を差したカトリ。イーネスは花が花瓶の美しさを損なうといって激怒し、カトリにすぐに花を捨てるよう命じる。

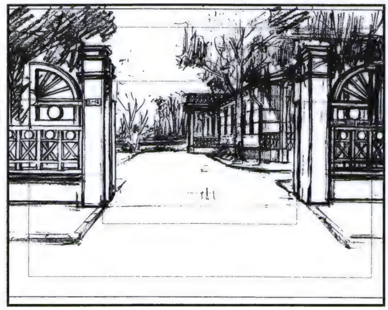
47話 お土産のランドセル
ロッタがクラウスを置いていったのは強い子になって欲しいから。母の願い通りクラウスはたくましい子に育っていた。そしてロッタが帰国する日が来た。

48話 ああ入学
カトリは入学試験を前に不安でいっぱいだった。そんなカトリをアッキやマルティが激励してくれる。カトリはみんなの応援を受け、試験に挑んだ。

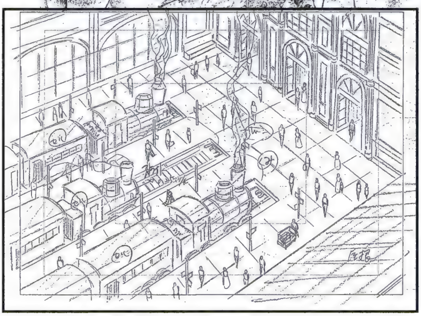
名作メモ イーネスがカトリに出した算数の問題の例は36.8－2.82÷03×3.5。もちろんカトリは正解（43話）。

リラク家の俯瞰図。

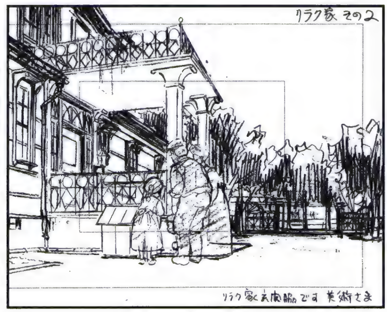




▶リラク家の正門前。

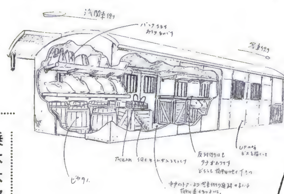


▲ヘルシンキ駅構内。



▶リラク家玄関脇。手前はサロモン作のアベルの小屋。時々ミッキに占領される。

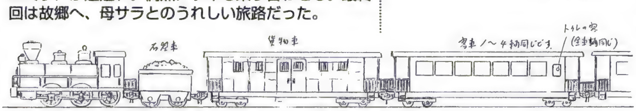
トゥルクへ行く時アベルが乗せられた貨物車。普段物わかりがよすぎるくらいのカトリが、車掌にアベルを客車に連れて行かせてと、珍しくだだっ子。



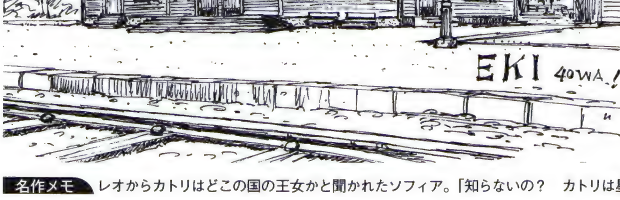
病室のサラ。娘との6年ぶりの再会だった。



カトリが乗った汽車。カトリは物語中4回汽車に乗る。ヘルシンキへはロッタとクラウスが一緒。帰りはそれにロッタの父エリアスが加わった。トゥルクへはエミリアが道連れ。偶然アッキも乗り合わせる。最終回は故郷へ、母サラとのうれしい旅路だった。



サロの駅。ヘルシンキへ向かう列車とトゥルクへ向かう列車がある。最終回、里帰りするカトリとサラをペッカがここで出迎えた。

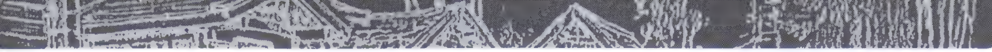


ストーリー紹介 49話

49話　おかあさんの帰国

カトリが学校に通い始めて数ヶ月後、フィンランドは独立し、ドイツとの戦争も終わった。そしてカトリが待ちに待った母の消息を知らせる手紙が届いた。

名作メモ レオからカトリはどこの国の王女かと聞かれたソフィア。「知らないの？　カトリは星の王女様なのよ」。



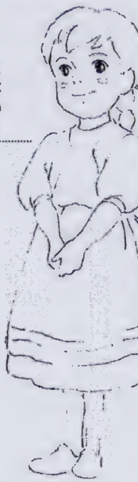
作品コラム

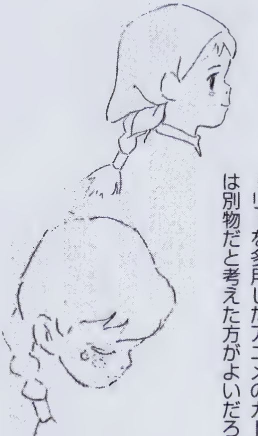
カトリ翻訳物語

『牧場の少女』を日本に紹介したのは『カレワラ』を日本に紹介した森本覚丹氏の妻、森本ヤス子氏。彼女が戦争で軽井沢で疎開中、隣にコルピネンさんという牧師夫人と幼い息子が住んでいた。疎開生活で他にすることもなかった森本氏は、夫人が持っていた本を彼女の息子に読み聞かせていた。その本の名前は『女の一生』。ある女性の一代記だったが、少女編を訳し終わった頃、戦争が終わり、コルピネン一家はフィンランドに帰っていった。その後、森本さんの元に講談社から世界の名作というシリーズを打診され、フィンランドを舞台に加えるならこれだと、題名も『牧場の少女』と直して出版した。元の少女編だけでも、かなりの長さがある重厚な内容だったが、筋もシンプルに変えたという。

著者のアウニ・ヌオリワーラ氏も、森本氏ならと日本での翻訳を快諾し、多少変えても大丈夫と好意的だった。しかしその寛容さ故か、後に質の悪い無許可の要約本が出回る事態になってしまった。

一方、アニメの原作は、日本アニメーションが独自に日本フィンランド文学協会の渡部翠さんに依頼。独自に翻訳して使用した。エンディングに協力とクレジットされているのはそのためである





カトリの名前も日本語訳のために可愛い響きのものに改めた。「本当はカトゥリ…何とかという長い名前」だったと、森本ヤス子氏談。

～本当のカトリ～

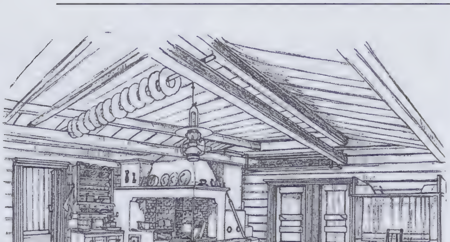
原作者のヌオリワーラの祖母の生涯を描いたものとされているが、未訳の上、フィンランドでも絶版になって久しく、詳細は不明。カトリの少女時代に限っても働き者であることに変わりないが、母親サラ（原作には母親の名前は出てこない。）は再婚し、カトリには生き別れた妹レイナがいる、など全体的に込み入っており、かつ陰惨な話も多い。原作の舞台を借用しつつオリジナルストーリーを多用したアニメのカトリとは別物だと考えた方がよいだろう。

フィンランドの農村

カトリの暮らしていたフィンランド南部の農村地帯の風景が登場する。ロケハンに出発前、ストーリーを読んだスタッフは、苦労して働く少女の物語からフィンランドに貧しいイメージを持っていたが、実際のフィンランドは質素な暮らしではあるが、そこには本当の豊かさがあると感じたという。

カトリに描かれた心の豊かさ。これこそは制作スタッフのロケハンの成果だろう。

スタッフは実際に大きな農家や家族経営の小さな農家、野外民族博物館などを精力的に観察した。当時（現在でも）あまり知られていないフィンランドの農村風景を、カトリの背景から垣間見ることができる。



ライッコラ屋敷の居間。天井に並んでいるドーナツ状のものは、フィンランド特有のパンで、ライ麦を使ったハパンレイパ。



原作について

邦題『牧場の少女カトリ』は森本ヤス子氏のネーミング。原作は女の一生を3部構成で書いた大作で、『牧場の少女カトリ』はその少女編になる。

〈原作〉



訳　：森本ヤス子
発行：いのちのことば社

〈原作者〉
アウニ・ヌオリワーラ
1883－1972

フルネームはアウニ・エリザベス・ヌオリワーラ。タンペレ生まれで、師範学校を卒業後、国民学校で教師をした後は音楽や美術を学ぶためイタリアへ留学している。フィンランドに戻った後は再び教師となって音楽とフランス語を教えるが、結婚後、作家としての人生を歩む。『牧場の少女』以外にも10以上の小説を発表しているが、地元フィンランドにおいてもすでに過去の作家として、現在は忘れられている。

フィンランド映画「牧場の少女」

１９３８年に製作されたフィンランド映画『牧場の少女』。なんと大人になったカトリが登場する実写映画だ。フィンランド映画らしく、感情の抑揚を抑えた、ひたすら地味な演出が続く。内容は成人したカトリの奉公先での苦労と恋。最後は恋が成就してハッピーエンドである。

シベリウスとカトリの時代

『カトリ』の時代背景にフィンランドの独立がある。ロシアの圧政に苦しんでいた当時のフィンランド。物語にも描かれていたアッキのように独立運動に身を捧げる若者も多かった。

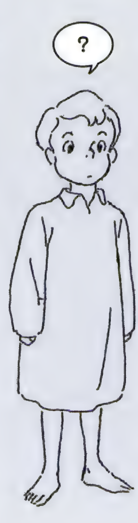
そんな独立前の国民の気分を盛り上げるかのように作曲されたのが、フィンランドの作曲家ジャン・シベリウスの交響詩『フィンランディア』。この曲はロシア側の演奏禁止にあいつつも、曲名を変えて演奏され続けた。その後もフィンランドの第二の国歌とされ、讃美歌としても親しまれている。『カトリ』全編に流れるこの曲は、この独立の機運と同時に、カトリというひとりの少女の自立も重ねられていたのではないだろうか。

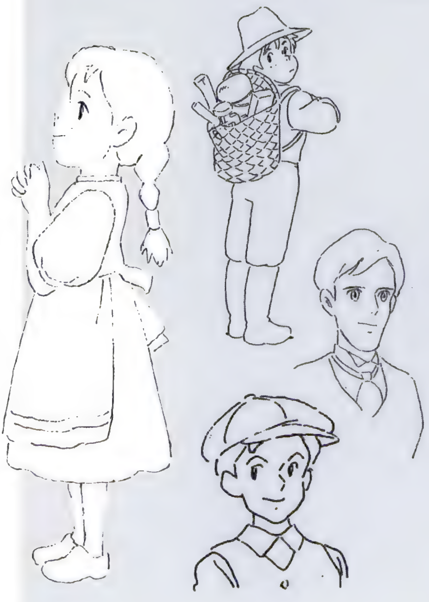
罪深きヒロイン

名作一男心を迷わせたヒロイン。

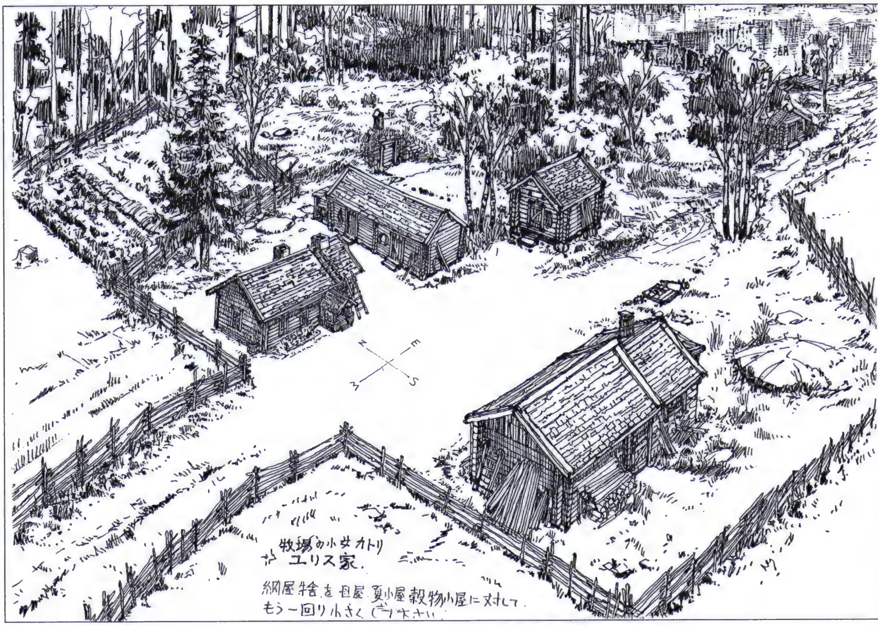
おそらくそれは、カトリ。カトリ・ウコンネミだ。貧しい家畜番ながら、素直さと賢さを持ち、勤勉で頑張り屋、そして健気で可愛いときている。そんな少女は名作シリーズにたくさんいそうだが、カトリほどモテた娘はいない。まずマルティとペッカ。お互いに自分がカトリの一番の仲良しと譲らず、相手を恋のライバル視。

でもふたりがにらみ合っている内に美青年アッキが鳶のようにカトリのハートをつかんでしまう（?!）。後半登場のレオの出遅れ感は否めないのだった…。





Gallery



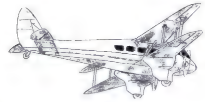
カトリの実家で祖父母が住むユリス家遠景/阿部泰三郎

メインスタッフ

脚本	宮崎晃
音楽	冬木透
キャラクターデザイン	高野登
絵コンテ	楠葉宏三／清瀬二郎
作画監督	高野登／森友典子／佐藤好春／保谷裕江
美術監督	阿部泰三郎
特殊効果	義山正夫
色指定	宇野薫
背景	スタジオアクア／スタジオロフト
プロデューサー	松土隆二
監督	斎藤博

オープニングテーマ「Love with you～愛のプレゼント～」
作詞：伊藤薫
作曲：三木たかし
編曲：鷺巣詩郎
歌：小林千絵

エンディングテーマ「風の子守唄」
作詞・作曲：伊藤薫
編曲：鷺巣詩郎
歌：小林千絵

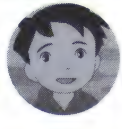


名犬ラッシー

Lassie



名犬ラッシー



放映期間	1996/01/14〜1996/08/18
話数	26話
原作	エリク・ナイト「名犬ラッシー」

物語の舞台





イングランド北部のヨークシャー地方が『ラッシー』の舞台。後半ラッシーはさらに北のスコットランドまで送られる。

History

世界恐慌が終わって数年後のイングランド。産業革命と共に発展を歩んだ炭坑の町の興亡とそこに生きる村人の暮らしが描かれる。

19C

1825 蒸気機関車実用化(英)
1837 ビクトリア女王即位(英)
1868 明治維新(日)
1903 ライト兄弟飛行機を発明(米)
1908 ロールス・ロイス設立(英)
1909 飛行機で初の英仏海峡横断
1914 第1次世界大戦(〜1918)

20C

1927 リンドバーグ大西洋無着陸横断に成功
1929 世界恐慌
1939 第2次世界大戦(〜1945)
1969 アポロ11号月面着陸(米)

21C

ストーリー解説

イングランド、ヨークシャー地方にあるグリノールブリッジは炭坑の村。炭坑事務長の息子ジョンは、ある日村はずれでコリー犬の子犬を見つける。子犬の名前はラッシーという。ラッシーを想うジョンを気に入った飼い主はジョンにラッシーを譲ってくれた。ジョンとラッシーは村でのさまざまな出来事を通して、お互いの絆を深めていった。

そうして2年が過ぎた夏。村のウェリントン鉱山が閉山の危機を迎えた。石炭の新しい鉱脈が見つからないのだ。地質調査の結果、ついに鉱山の持ち主ラドリング公爵から閉山の決定が出される。ジョンはラッシーを賭けて、閉山を撤回するよう直訴。公爵に引き取られたラッシーは遠いスコットランドの公爵の屋敷へ連れて行かれた。事情を知らないラッシーは、ひたすらジョンを想い続けるのだった。

1934年（月は推定）

夏
- ラッシーと出会う

1935年

冬
- マフラー泥棒事件

春
- ラッシー、穴に落ちる

8月
- プリシラ、村に来る

1936年

5月
- サンディの牛泥棒事件

6月
- アイアン事件、カリー先生結婚
- 海辺に遠足

7月
- 鉱山閉山の知らせ

8月
- ラッシー、公爵邸へ
- ラッシー、村へ向かって旅を開始



メインキャラクター設定画。







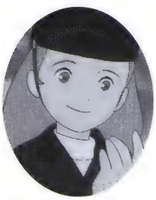
キャラクロー家の裏庭。

サム・キャラクロー
のんびりした物腰だが実は努力家の情熱家。鉱山の事務長。



メリッサ・キャラクロー
ユーモアと知己に富んだジョンの母。村で唯一の看護師。

キャラクター紹介



プリシラ
ラドリング公爵の孫娘。貴族の任務をこなしつつ、勇気と優しさを併せ持つ少女。



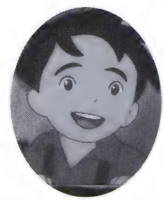
コリン
村の雑貨屋の息子でジョンの親友。病気がちで気も弱いが、読書家で意外と早熟な面も。



サンディ
ジョンの仲良しのおませさん。農家の娘で、いつも元気。飾らない素朴な明るさが魅力。

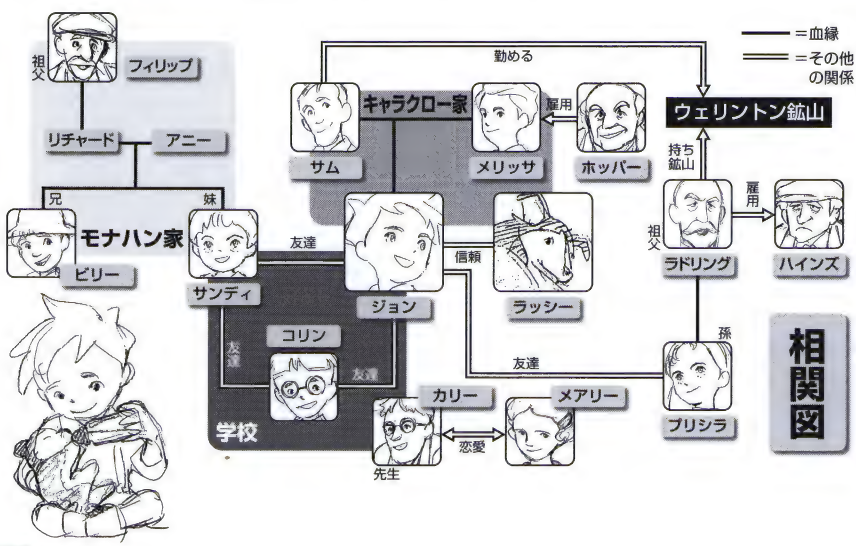


ラッシー
迷子になったところをジョンに保護された。成長した後はジョンのサポーター的存在に。



ジョン・キャラクロー
キャラクロー家の一人息子。粘り強くて頑張り屋なのは父親譲り。

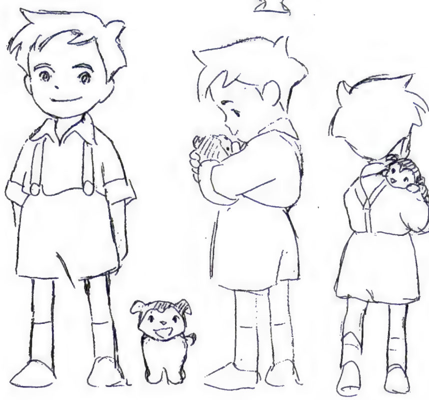
相関図



ジョン・キャラクロー

初登場時は9歳。困った人を見たら放っておけないところはキャラクロー家仕込み。何事にも粘り強く納得いくまで決して引き下がらない根性の持ち主。でも世事にうとく（？）サンディに言わせれば「子ども」。
（声：日高奈留美）

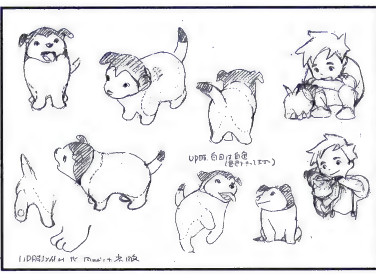




9歳のジョンとチビラッシー。



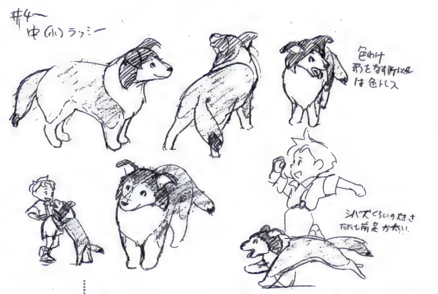
11歳時のジョン。服装は変わらないが等身と表情に変化がある。



◀初登場時（1〜3話）のラッシー。



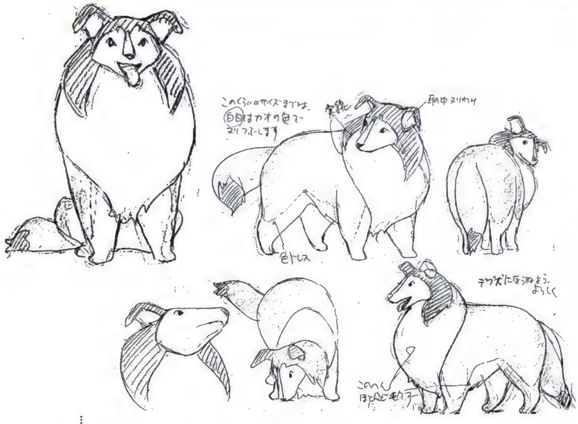
成長過程のラッシー。6〜8話で徐々に大きくなるよう細かな指定が用意された。



4話からのやや成長したラッシー。まだ子犬なので前足も太い。設定によると大きさは柴犬くらい。

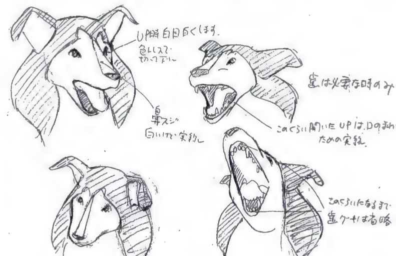
『名犬ラッシー』は全26話かけて2年間の出来事を追っている。子犬で登場したラッシーが成犬になるまでの移行期間については、各話ごとに体格や表情を細かく描き分け、成長していく姿を追っている。多くのアニメで省かれるこうした動物の成長過程を、この作品ではこだわりをもって描いてみせた。

名作メモ ラッシーの大きさは14話で最終的な大きさになる。

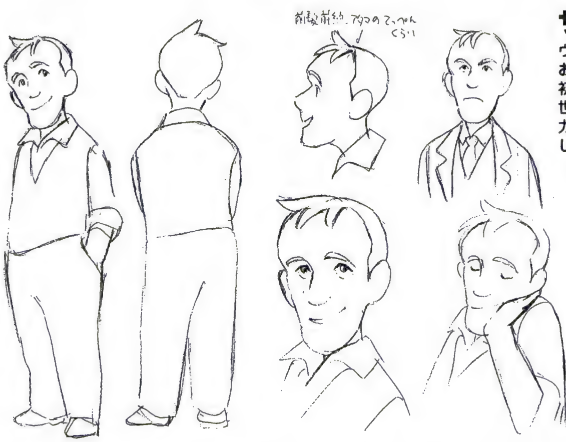


ラッシー

コリー犬。ジョンの親友であり、サポーターともいえる賢い犬。元の飼い主に連れられて、母犬と一緒に外国へ行く途中、立ち寄った水門で迷子になり、水門管理の男に託されていた。ラッシー（Lassie）とは英語で“お嬢さん”“少女”の意味。作品内では特に触れられていないが、この名の通り、ラッシーは雌犬なのである！（声：山崎たくみ）（～11話）



成長しきったラッシー。表情も幼犬のときと違いできるだけ擬人化を避けた絵になっている。

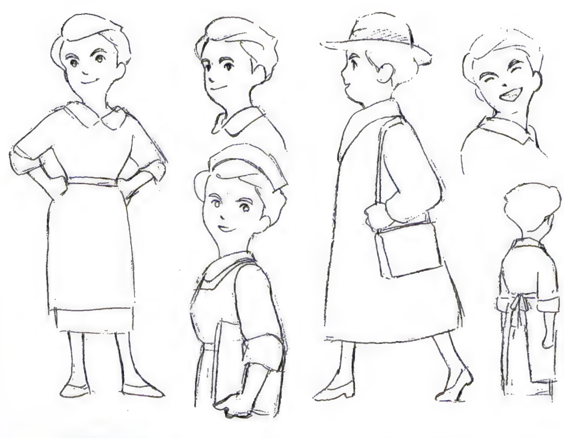


サム・キャラクロー

ウェリントン坑の事務主任。一見のんびり屋で鷹揚、おっちょこちょいだが、いざとなると頼りになる男。初めて村に来たときは大学出たての若造だったが、世界恐慌下のウェリントン坑を立て直したという実力の持ち主。単なる事務屋ではなく、地質学にも詳しく炭坑夫仲間の信頼も厚い。（声：野島昭生）

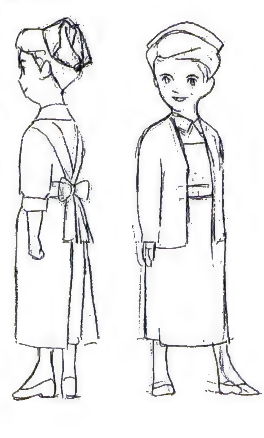
本気モードのサムは、普段とは表情が一変。シリアスも似合うのだ。





メリッサ・キャラクロー

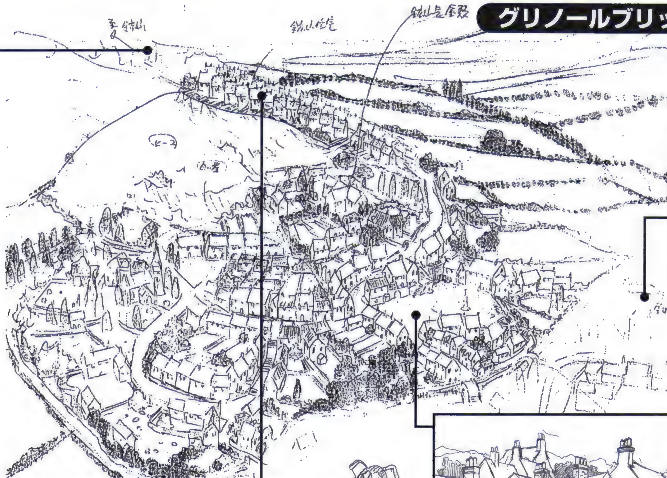
村で唯一の看護師でポッパー先生の片腕。しっかり者でホッパー曰く「いざとなれば百人力」。村人の信頼も夫同様厚い。ユーモアを解し、不器用な夫を上手にリードする、世界名作劇場シリーズの中でも新しいタイプの女性。（声：吉田理保子）



メリッサ看護師スタイル。

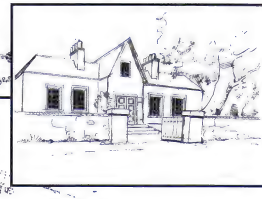
名作メモ　キャラクロー父子ともに愛読書はジュール・ベルヌの作品。

グリノールブリッジ村とキャラクロー家



グリノールブリッジ村全景。

▼ジョンが通う村の学校。ラッシーは校門の内側の木の下でジョンを待つ。

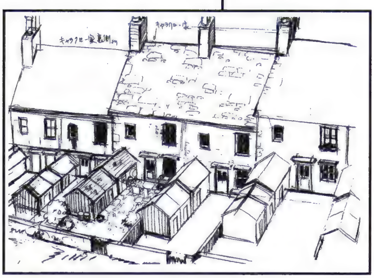




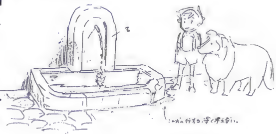




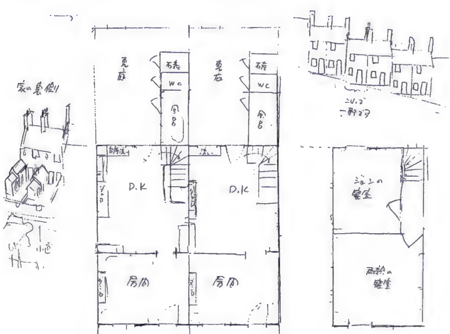
▲村の広場。向かって右端がコリンの父が経営する雑貨屋で、左角がパン屋。



▲裏庭側からみたジョンの家の俯瞰図。

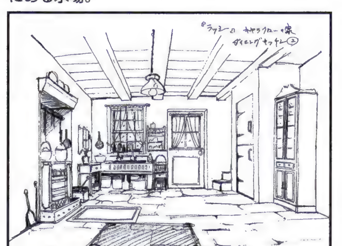


広場の階段脇にある水場。

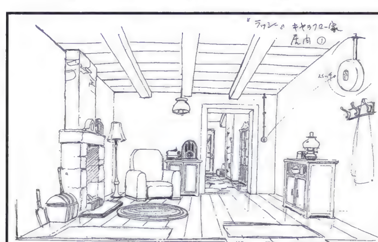


ジョンの家見取り図

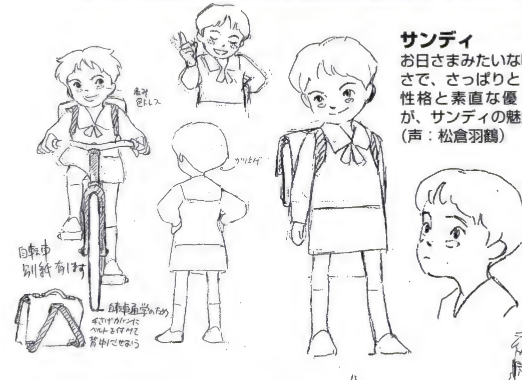
1軒で2世帯になっているタウンハウス。部屋も少なく必要機能だけのコンパクトな炭坑従業者用の住まいだ。風呂とトイレは後の増築なのか裏庭に別棟建てである。



▲ジョンの家の台所。扉を開けると裏庭に出る。



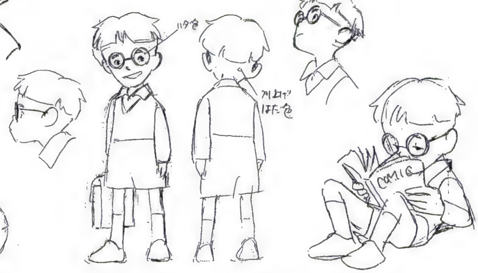
▲台所に続く居間。ラジオが時代を表している。



サンディ
お日さまみたいな明るさで、さっぱりとした性格と素直な優しさが、サンディの魅力！（声：松倉羽鶴）



▶ウェリントン坑の大滑車。村の一番高いところにあるシンボル的存在だ。

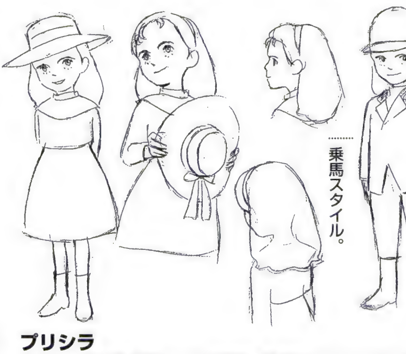


コリン
9歳～。読書好きで内気な雑貨屋の息子。店番もするが知らない人に話しかけるのが苦手。友だちは少なく、病気がち。だがいわゆるガリ勉のステレオタイプではない、味な少年。（声：田中真弓）



サンディ、9歳時の設定。等身が若干違う。1話でジョンに対して言う「子どもね」は彼女らしい名台詞。



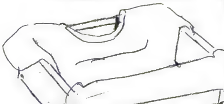


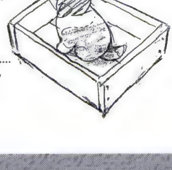
乗馬スタイル。





中に敷いたシャツはジョンが3歳のときのお古。





2話でジョンが用意したラッシーの寝床。でもラッシーがじっとそこにいるわけもなく…。

プリシラ
ラドリング公爵お気に入りの孫娘。普段はスコットランド北部の屋敷に滞在するが、毎年夏の数日をグリノールブリッジ村で過ごしている。厳格な祖父に対し唯一意見を堂々と言う存在である。インドにいる父に代わり貴族の勤めをこなす。（声：國府田マリ子）

ストーリー紹介 1～4話

1話 ひとりじゃない
母が仕事で遅くなる日。ジョンはコリンを遊びに誘うが、逆に配達の手伝いを頼まれた。ジョンは町外れで草むらにうずくまるコリーの子犬を見つける。

2話 大さわぎの留守番
子犬を放っておけなくて家に連れて帰ったジョンは、さっそくミルクを与えて可愛がる。だがジョンが目を離した隙に子犬の姿が見えなくなった。

3話 さよならラッシー
ラッシーはどうやらボートに乗って流れてきたらしい。ジョンは親犬を捜そうとコリンと上流に向かった。ジョン達は上流で水門の管理人に出会う。

4話 父さんの給料日
ラッシーはずっとジョンと暮らせることになった。そして今日はサムの給料日。さらにメリッサの誕生日だった。ところがサムはなかなか帰ってこない。

名作メモ ジョンは甘党。大好物は砂糖を山盛りに入れたオートミール！





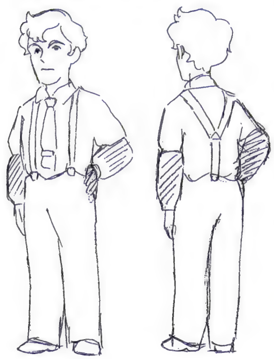
ビリー
サンディの兄。家業を手伝い、羊飼いをしている。（声：阪口大助）



ビンゴ
ラッシーの母親代わりであり羊番の師匠ともいう牧羊犬。

フィリップ・モナハン
サンディの祖父で酪農家。今は息子夫婦に任せて第一線を退き、羊の番をしている。（声：丸山詠二）

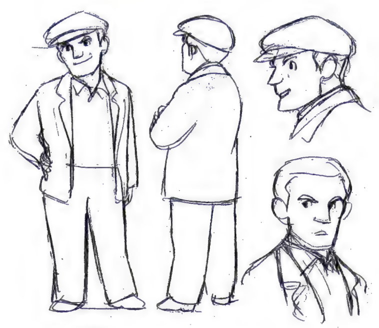




エルロイ
新人の鉱山事務員。サムの部下。本人は自分をクールなやり手と思っているが、実はかなりのおっちょこちょい。（声：山崎たくみ）



4話に登場した美しいエルロイの妻。（声：深水由美）



ブロック
ウェリントン鉱山で働くため村に来た坑夫。4話で初登場。（声：田中和美）



ジョンの肌着姿とサンディの寝間着（共に9歳時）ふっくらしたサンディの寝間着が可愛い。

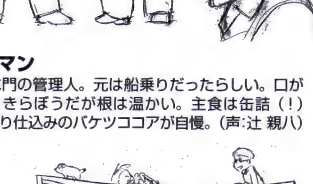


グッドマン
運河の水門の管理人。元は船乗りだったらしい。口が悪くぶっきらぼうだが根は温かい。主食は缶詰（！）で、船乗り仕込みのバケツココアが自慢。（声：辻 親八）



これがザリガニ捕りの装備だ！

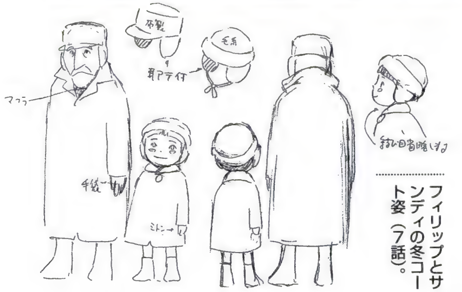




ラッシーが乗って流されてきたボート。グッドマン所有らしい。

ディアフォード沼へザリガニ捕りに行くときのジョン達の持ち物。せっかくのお弁当も、ラッシー以外は貨車に置き忘れてしまった。（5話）

名作メモ ディアフォード沼まで約10キロ。歩き疲れたサンディが歌うのが「ロンドン橋落ちた」。（6話）



フィリップとサンディの冬コート姿（7話）。



嵐の日のジョン達の雨合羽。左からホッパー先生、メリッサ、ジョンとビリー（6話）。



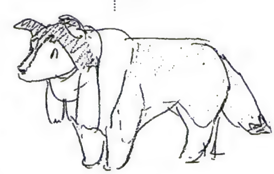
キャラクロー家の冬の外出着スタイル。



老モートン
不摂生でメタボなご老人。心臓が弱い。（声：村松康雄）



リチャード
コリンの父。村で唯一の雑貨屋を経営。郵便配達も受け持っている。カメラも得意で村の写真屋でもある。（声：牛山 茂）



マフラーをつけたラッシー。マフラーはコリンのもので色はグリーン。



バーンセン
酒好きでお人好しなおじいさん。元は機関士だったが酒のために左遷。「酒は人生の潤滑油」がモットー。仕事中も酒は必須。（声：石森達幸）





コリンの寝間着姿（7話）。

ストーリー紹介 5～8話

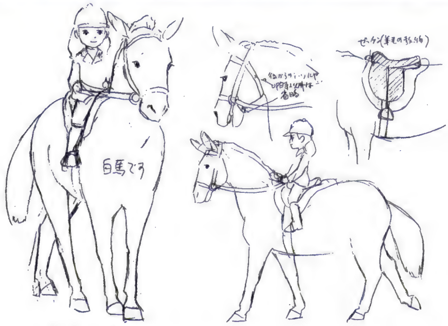
5話 ごちそう求めて6マイル
母の誕生日にザリガニをご馳走しようと、サンディと出かけたジョン。だが隠れて貨車に乗ったのを見つかって、ラッシーもろとも降ろされてしまう。

6話 嵐の中をかけぬけろ
村に大嵐が近づいている。サムは仲間と共に滑車の補強に向かった。風雨がひどくなる中、急病人の知らせが入る。メリッサはすぐに飛び出すが……。

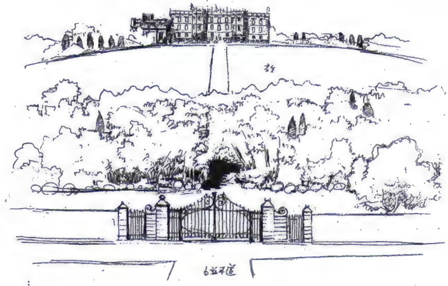
7話 マフラー泥棒を捕まえろ
グリノールブリッジ村に初雪が降った日、コリンは体調を崩して学校を休んでいた。その頃学校では生徒達のマフラーがなくなったと騒動が持ち上がっていた。

8話 ラッシーなんか大嫌い
ラッシーは毎日正確な時間に学校の門までジョンを迎えに来る。ラッシーが皆にほめられるのを見て、ジョンは世話をしているのは自分だとふくれてしまう。

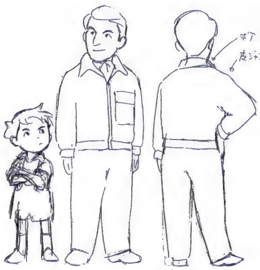
名作メモ　コリンが学校を休んで読んでいる本はホームズシリーズの「バスカビル家の犬」（7話）



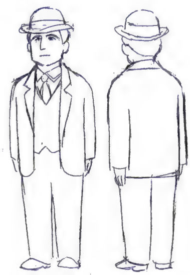
ビューティ
プリシラの馬。名の通り美しい白馬。ハインズは調教が済んでいない馬をプリシラに渡してしまう。



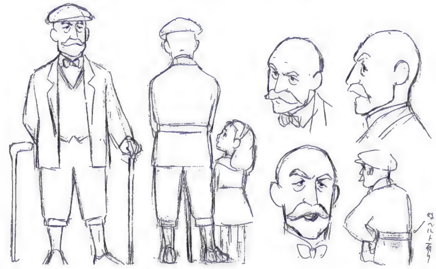
グリノールブリッジ村郊外にあるラドリング公爵の屋敷。これで別宅だから恐れ入る。通常門は締まっているが、門の右手にプリシラ脱走用（？）の木がある。



公爵家の自家用機の操縦士。ジョンを操縦室に入れてくれない（当然？）。



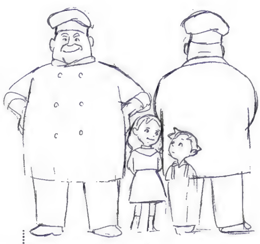
公爵の秘書。普段は公爵怖さ？でさえないが、炭坑に来るときはキリッとする。



ラドリング公爵
ウェリントン鉱山の持ち主。スコットランド北部にも自分の領地を持つ。厳格で頑固、怒りっぽい故に皆に恐れられている。犬コレクターとして名を知られている。（声：寺島幹夫）



公爵の食事の給仕をするメイド。公爵の食事中はずっと直立不動！



公爵家のコック長。コック長ともなると上級使用人に類する。プリシラ様のおてんばに振り回される。（声：塩屋浩三）



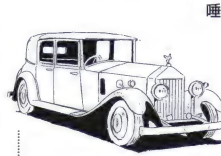
ハインズ
公爵家の馬や犬の飼育係。原作によるとロンドン出身。どういう経緯で公爵家に雇われたか不明だが、馬や犬の扱いは眉唾もので権力におもねる陰湿な男。猫背。（声：平野正人）

ストーリー紹介

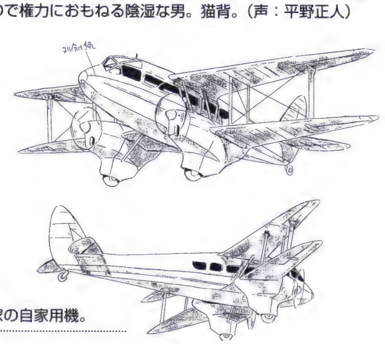
9話

9話　空から来たおてんばお嬢様

ラッシーがジョンのところに来て1年たった。ラッシーを見つけたあの日に会った少女に、ジョンは思いがけず再会する。その少女はプリシラといった。

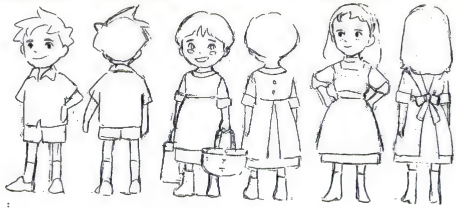


プリシラの乗る車。ロールスロイスの最上級モデル、ファントムIIで1930年型。ボディカラーは白と茶。



ラドリング公爵家の自家用機。

名作メモ　プリシラがみんなで作ったのはバニラのシフォンケーキ。



子供達のお菓子作りスタイル（10話）。ジョンの服は通常の色違いバージョンで、この話のみの限定服だ。



ケーキ作りの材料と道具。味覚や嗅覚に優れたサンディはお菓子作りも大得意。師匠はメリッサらしい。



服を取り替えたプリシラとサンディ（11話）。



小型犬のトゥーツ。

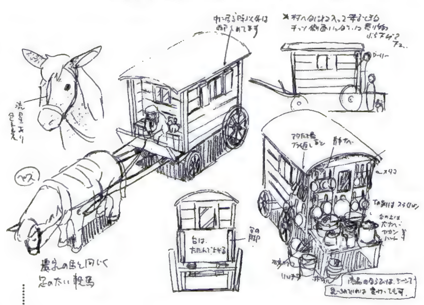


ローリー

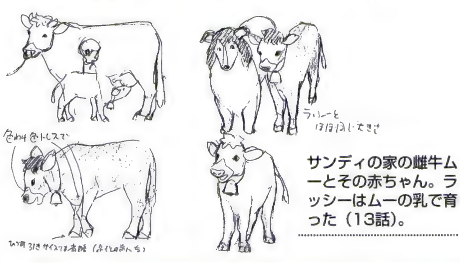
田舎の町を回って鍋を売る行商人。犬のトゥーツと組んで芸をし人を喜ばせるのが好き。明るく陽気なロマンチスト。（声：掛川裕彦）



村の郊外にあるサンディの家。茅葺きの16世紀チューダー様式の建物で、相当古い農家であることが伺われる。



ローリーの馬車。普段は商品は中に仕舞っている。馬の名前はベス。特技は「馬車を引っ張ること」。



サンディの家の雌牛ムーとその赤ちゃん。ラッシーはムーの乳で育った（13話）。

ストーリー紹介 10～13話

10話　はじめてのケーキ作り

プリシラはラドリング伯爵の孫娘で、夏の間だけグリノールブリッジ村に滞在するのだ。プリシラはジョンを訪ねようと、こっそり屋敷を抜け出した。

11話　プリシラ・最後のわがまま

みんなで作ったケーキをプリシラに届けに行ったジョン達。屋敷では門前払いを受けるが、隙を突いて脱走したプリシラと皆で岩の城へと向かった。

12話　火事をおこしたのは誰だ

鍋や金物を売る旅の商人ローリーが村にやってきた。すっかり仲良くなるジョン達だったが、その晩起きたパン屋のぼや騒ぎで、ローリーが疑われる。

13話　サンディは牛どろぼう？

サンディの家の牛ムーの乳の出が悪い。ムーを手放すと聞いたサンディは、ムーを森に隠してしまう。翌日、牛泥棒が出たと村中の騒ぎになってしまう。

名作メモ　12話よりラッシーの声は効果音に変わる。



ロバート・L・カリー
ジョンのクラスの担任。生真面目で融通が利かないが、純情で詩を愛するロマンチスト。冗談を解せず生徒ウケは余りよろしくない。（声：島田 敏）



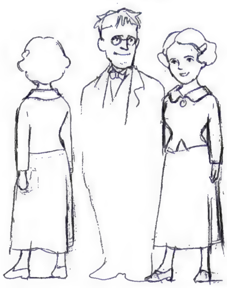
めがねは耳ではなく鼻にかけるタイプ。



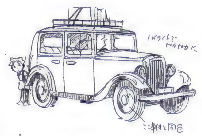
アイアン・コッパー
28歳。村の近くで行き倒れたところをサムに助けられ、回復後に鉱山へ就職。無口で動物好き。趣味は木彫り。大きくて力持ち。（声：大塚明夫）



ウォルター
ブルックの部下。運悪くダメな上司についてしまった…。（声：柴本浩行）



カリーとメアリーとの交際は3話から画面の隅で密かに進行している。



警部達の乗ってきた車旅の荷物でいっぱい。

ブルック
警部。刑事生活15年のベテランだが実績不足が密かなコンプレックス。自白強要、ニセの物証etc…で何が何でも逮捕ありきの暴挙に。（声：広瀬正志）







ライス
村のパン屋の主人。サンディ曰く「ライスさんちのパンは最高よ」。性格は頑固で怒りっぽく早とちり。メアリーは彼の自慢の娘。（声：平尾仁彰）



ホッパー先生
村唯一の病院、鉱山付属診療所ただひとりの医者。いろんな村を渡り歩いてグリノールブリッジに落ち着いた過去を持つ。強面だが実は子供好き。趣味は釣り。（声：佐藤正治）

ストーリー紹介 14～17話

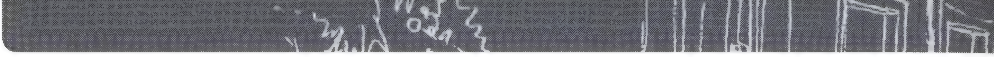
14話 怪しい大男を追跡しろ！
道で倒れていたアイアンという男を、サムが家に連れて帰ってきた。サムはアイアンに炭坑夫の仕事を紹介する。そこに刑事が訪ねてきた。

15話 アイアンの無実をはらせ！
アイアンは無口だが心が優しい男だった。ところが刑事はある強盗事件の犯人だと決めてかかっていた。ジョンは彼の無実を信じるが…。

16話 急げ！ホッパー先生を助けろ
ホッパー先生は大の釣り好き。この日も午前の診療が終わってラッシーと一緒に近くの川に来た。ところが橋が崩れてホッパー先生は谷川に落ちてしまう。

17話 カリー先生の結婚
カリー先生とメアリーの結婚が決まった。しかし結婚式を明日に控え、メアリーはなぜか浮かない。カリーが何か大事なことを忘れているというのだ。

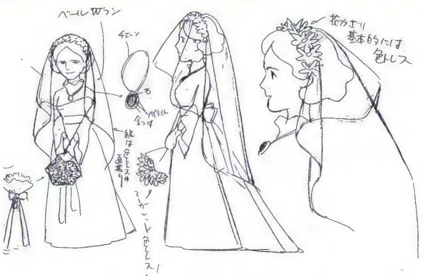
名作メモ カリーとメアリーの馴れ初めは、ピクニック用のパンをメアリーが学校に届けたことがきっかけ。



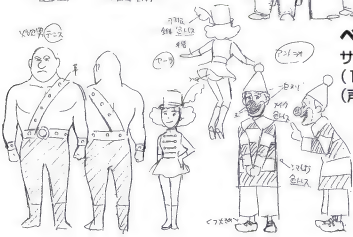
ゾウのロザリンド。ベンジャミンサーカスの花形だが…。



ベンジャミン
サーカスの団長。（18話）
（声：西村知道）



メアリーの花嫁衣装（17話）。ブーケの花はジョン達が摘んだマーガレット。



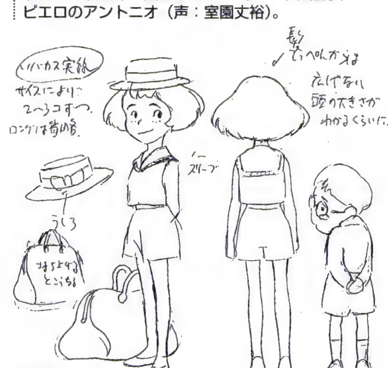
サーカスの団員達。左から火吹き男のデニス（声：江川央生）、曲芸のセーラ（声：平松晶子）、ピエロのアントニオ（声：室園丈裕）。



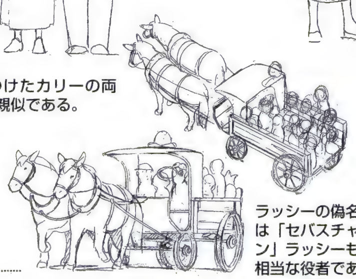
メアリー
パン屋の看板娘で村一番の美人と評判。カリーとは2年越しのおつきあい。
（声：野田順子）



結婚式に駆けつけたカリーの両親。カリーは母親似である。

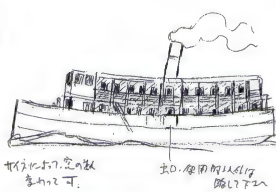


クリス
コリンが客船で出会った少女。前の月に母を亡くし、ひとりで父のいるオーストラリアへ向かっている（19話）。（声：西村ちなみ）



船着き場まで行くのに子供達が乗る荷馬車（19話）。

ラッシーの偽名は「セバスチャン」ラッシーも相当な役者である（19話）。

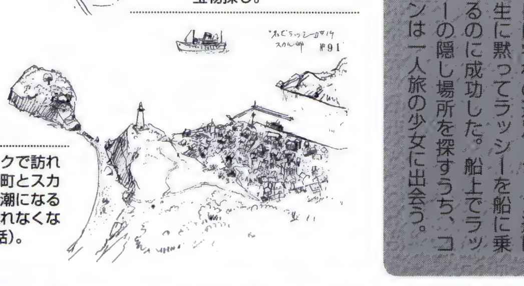




ジョン達が乗る船。川を下ってスカル岬のある海辺の町まで行く客船。



スカル岬へ行く理由は、母との思い出が詰まった宝物探し。



ピクニックで訪れた河口の町とスカル岬。満潮になると島に渡れなくなる（19話）。

ストーリー紹介 18～19話

18話 大騒動！サーカスの象が逃げた
グリノールブリッジ村にサーカスがやってきた。出し物は象の曲芸。ところが団長のお仕置きでエサをもらえなかった象は、お腹をすかせて檻から出てしまう。

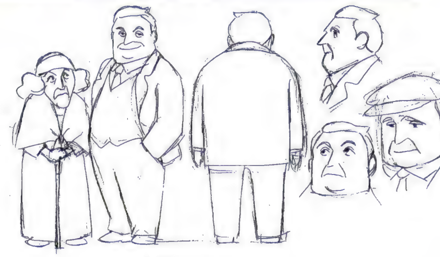
19話 コリンの初恋とたからもの
今日は学校の遠足。ジョン達は先生に黙ってラッシーを船に乗せるのに成功した。船上でラッシーの隠し場所を探すうち、コリンは一人旅の少女に出会う。

名作メモ コリンが主役の19話。クリスのために頑張る「オレがなんとかするよ、だから行こう」。





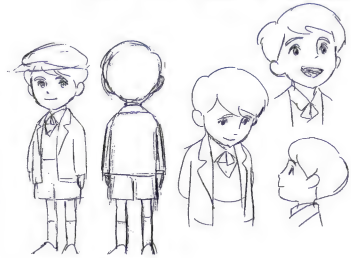
フォレスト婆さん
通りに面した部屋にいて、通りの出来事は全て把握している。炭坑夫だった夫ジョージを亡くして一人暮らし。キレると怖い。（声：津田延代）



アルバート
フォレスト婆さんの一人息子。船乗りを夢見て家出。いろいろあった末に貿易会社を成功させた。ロンドン在住。（声：福田信昭）



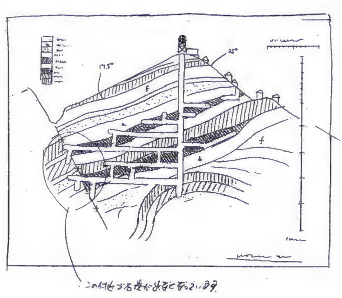
ドーハン
鉱山の主任だが小心者で何かとお騒がせな人。悩める男である。（声：山下啓介）



ロイ・ジョージ・フォレスト
アルバートの息子。ジョージは祖父の名前から。父の思いを受けついで村を訪ねた。（21話）（声：安達 忍）



公爵が依頼した地質学の専門家で大学の教授。淡々としたお方。後にあっさり間違いを認める。（声：岸野幸正）



ウェリントン坑の地下断面図。サムは新しい石炭層がある可能性を信じた。



炭坑の仲間とサム。みな体格がよく、明るく気持ちの良い連中である。ヤマの男の誇りをかけて、閉山を食い止めようと一致団結する。

ストーリー紹介 20〜23話

20話 大変だ！母さんが倒れた
村に風邪が大流行していた。メリッサは休む間もなく働いていたが、とうとう熱を出して倒れてしまう。ジョンは母の代わりに往診の手伝いを始めた。

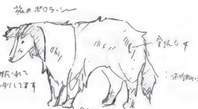
21話 おばあちゃんに会いたい
フォレストを訪ねてきた中年の男。彼はフォレストの息子だった。だが何度来ても彼女は扉を開こうともしない。そんなある日、村に見知らぬ少年が現れた。

22話 ジョンの決意・鉱山を救え！
鉱山からもう以前のように石炭がとれなくなっていた。閉山の噂が村に流れ人々は不安になっていた。サムは新しい鉱脈を捜そうと必死に奔走するが…。

23話 頑張れジョン・ラッシーを守れ！
ラドリング公爵に直談判しに行ったジョンは、閉山の決断を待ってもらうためにラッシーを身代わりに差し出した。そして自分も炭坑に入る決意をした。

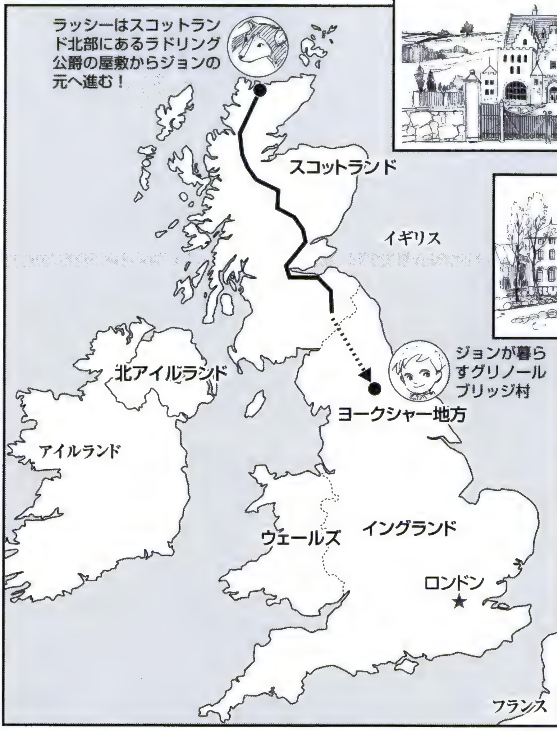
名作メモ 鉱山の存続の決め手は古生代のアンモナイトの化石。発見者はサンディで調べたのはコリン！

ラッシーが歩いた道のり

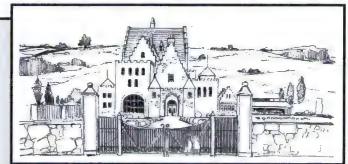




ラッシーが歩いた距離は400マイル。なんと約650キロ！過酷な旅ですっかりボロラッシーに。



▼ラドリング公爵のスコットランドの屋敷。





▲ラッシーが飛び入り参加した裁判所。



ネス湖の近くでラッシーを絵に描く画家。

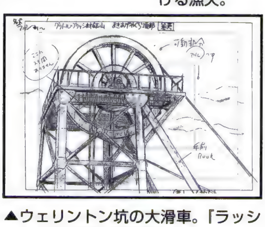


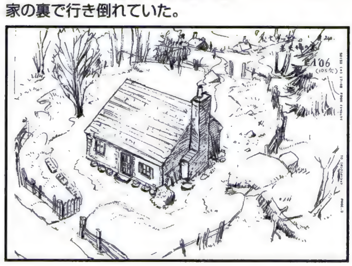
優しい老夫婦ダン（声：山野史人）とダリー（声：鈴木れい子）。最愛の一人息子を第一次大戦で亡くしている。



ラッシーを見かける漁夫。

▼ラッシーを保護する老夫婦の家。ラッシーはこの家の裏で行き倒れていた。





▲ウェリントン坑の大滑車。『ラッシー』のシンボルでもあった。



ラッシーをハーセルフ（彼女自身）と名づけて看病する。



マクニース
取材に来るロンドン新報の記者。強引な取材でジョン達をうんざりさせる（26話）。（声：塩屋浩三）

ストーリー紹介 24〜26話

24話 消息不明・ラッシーを捜せ！
スコットランドに連れて行かれたラッシー。その悲痛な様子を見たプリシラは檻を開けて逃がしてしまう。ジョンの元へ！遥かな旅が始まった。

25話 お帰り ラッシー
ついに新しい石炭の鉱脈が見つかった。安心したジョンはそのまま寝込んでしまう。その頃ラッシーは足を引きずりながら南を目指して歩いていた。

26話 夢に向かって走れ！
再会したジョンとラッシー。そのニュースは美談としてイギリス中の新聞に紹介された。取材攻勢に困惑するジョンは、祝賀パーティ会場を抜け出した。

名作メモ 急遽、夏で番組が終了するのが決まり、山場となる筈のラッシーの旅は2話だけの急ぎ足となった。

作品コラム

ヨークシャー気質

ヨークシャー気質というものがある。ヨークシャーはイングランド北部の一番大きな州で炭坑が盛んだった土地だ。長い冬、冷たい風が年中吹く厳しいヨークシャーには、荒々しさの中に我慢強さと粘り強さを持つ人間を生み出す。その性質たるや、寡黙で一度決めたらてこでも動かない一途さを持つ。

なにより特筆することは、ヨークシャー人は、誰も皆犬が好きだということ。人々はみな犬を愛し、犬を育てるのが上手だ。原作ではジョン（原作ではジョー）の父は炭坑夫で、かつ犬を育てる名人と描かれている。無骨だが、犬の手入れをさせたら超一流。アニメではサラリーマン風のインテリジェンスな父親が登場したが、原作の無骨な炭坑夫も味わい深い。



ジョン達のクラスメート。
みんな元気なヨークシャーっ子。

イギリスと炭坑

世界に先駆けて始まったイギリスの産業革命（※1）は、燃料源たる石炭に支えられて大英帝国の発展させた。鉱山労働者はその多くが元農夫で、命の危険が伴う仕事にもかかわらず、なり手に事欠かなかった。それは熟練も要らず、他の業種に比べ賃金が格段に高かったからだ。

だがラッシーの時代（1930年代）にはエネルギーは石油に取って代わられ、石炭産業は斜陽に向かっていた。その上、世界恐慌（※2）が追い打ちをかけていた。アニメではウェリントン鉱の埋蔵量低下が閉山危機の理由だったが、多くは生産量を減らされていたのである。

彼らは鉱山を中心にした生活共同体をつくって暮らしていて、仲間との結束は堅い。外部との接触は、時折立つ市かサーカスの巡業くらい。そのお祭り的気分や彼らの排他性が、アニメによく描かれている。

（※）1760〜1830年（※2）1929年

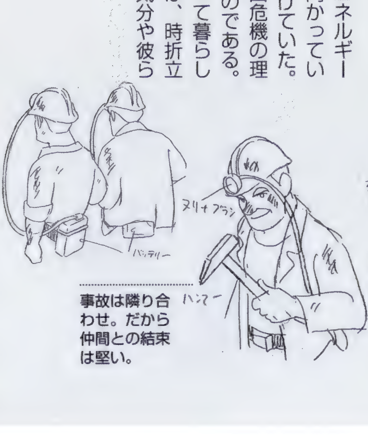


鉱山の中心に立つ滑車。石炭や人員を坑道へ運ぶため、縦穴（立坑）上部に設置し、巨大な巻き上げ機で運搬する。（イギリス National Coal Museum）

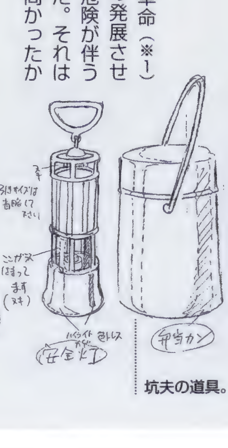


石炭を燃料にする蒸気機関車も、同じく産業を支える動脈だった。（イギリス、キースリー）

Photo：Kaori Chiba



事故は隣り合わせ。だから仲間との結束は堅い。



坑夫の道具。



映画になったラッシー

『ラッシー』はこれまで何度も映像化されている。映画は1943年のMGM 映画『名犬ラッシー』が大ヒットし、ラッシーシリーズの製作が行われた。プリシラ役のエリザベス・テイラーはこれがデビュー作だったが、主演のラッシー役パルの人気の方が高かったという。またテレビシリーズとして、コリー犬を主人公にした〝名犬〜〟シリーズも、多く作られ、中には原作から名前だけ借りたホームドラマも数が多かった。



『名犬ラッシー』(DVD)

発売・販売元：松竹

〈原作者〉
エリク・ナイト
1897-1943

イギリス、ヨークシャー生まれ。アメリカに渡り小説家、脚本家として知られた。2歳のとき父を亡くし、母は働くためロシアに渡ったため、ひとり親戚の家を点々と渡って暮らした。小学校を出ると工場や製材所など様々な仕事をした。そのとき体験したことが後の小説に活かされている。『名犬ラッシー』は彼の唯一の児童文学である。



訳　：永坂令子
発行：偕成社

本当のラッシー

もともと小説家だったエリクの、唯一の児童文学といえる『名犬ラッシー』。初めは短編小説として、アメリカの週刊誌サタデー・イブニング・ポストに掲載したものだった。知人に勧められて子供向きの長編物語に直したのが、『名犬ラッシー』（1940年作品）である。ラッシーにはモデルの犬がいた。エリクがその頃飼っていた雌のコリー犬で、名前をトゥーツという。そう、ローリーが連れていたあの犬が、本物のラッシーの名前なのだ。

ある日ドライブの途中で行方不明になったトゥーツを、新聞広告を出して探しても見つからず諦めていたら、なんと1ヶ月後に戻ってきた。元々犬好きのエリクはこの感動を受け、『ラッシー』はトゥーツについて書いた物語だと周囲に語っている。



『ラスカル』と『ラッシー』の意外な関係

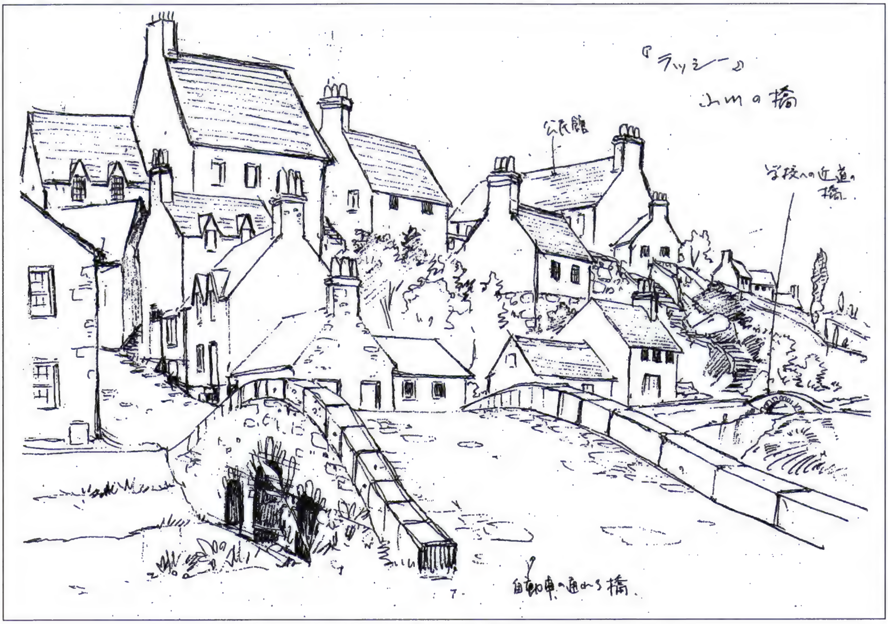
『名犬ラッシー』の作者エリクと『ラスカル』の作者スターリング・ノースは、共通の出版社を通じて知り合いだった。スターリングは一家をあげてラッシーの物語に夢中になり、とうとうコリー犬を飼って名前もラッシーと名づけるほどに入れ込んだという。

森に住むスターリングは、子供の頃飼っていたラスカル同様、大人になってもアライグマを愛していた。だが、スターリングのラッシーはあまりに自分の任務に忠実だったので、スターリングの家の近くに来るアライグマを片っ端から追い払ってしまい、スターリングを寂しがらせたそうだ。



ラッシーの走り方、作画例。





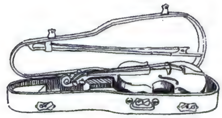
小川の橋／伊藤主計

メインスタッフ

脚本	松井亜弥／三井秀樹
音楽	笹路正徳
キャラクターデザイン	森川聡子
絵コンテ	寺東克己／飯島正勝／ワタナベシンイチ／小林孝志／片渕須直／神谷純／紅優／中西伸彰／藤森一真
作画監督	佐藤好春／井上鋭／大城勝／森中正春／平松禎史／森川聡子
美術設定	伊藤主計
美術監督	森元茂
撮影監督	森下成一／熊谷悦史
録音監督	藤野貞義
色彩設定	小山明子／大城千恵子／篠山智恵子
動画チェック	佐藤耕／内田覚
プロデューサー	余語昭夫／鈴木吉弘／鈴木専哉
監督	片渕須直

オープニングテーマ「終わらない物語」
作詞：とみたきょうこ
作曲：桐生千弘
編曲：笹路正徳
歌：森岡純

エンディングテーマ「少年の丘」
作詞：森雪之丞
作曲：桐生千弘
編曲：笹路正徳
歌：森岡純



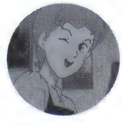
いっ　か　もの　がたり

トラップ一家物語

The Trapp Family Story



トラップ一家物語
(いっかものがたり)



放映期間 1991/01/13～1991/12/22
話数 40話

物語の舞台



ドイツ国境に近いオーストラリア、ザルツブルク。地理上、ドイツの影響を受けやすかった。



History

第2次世界大戦の靴音が聞こえてくる不穏な時代。ナチスの暗い影が覆い始めたオーストリアでの物語。

ストーリー解説

１９３６年夏、オーストリア、ザルツブルクの駅に登山服の若い女性が降り立った。彼女の名前はマリア・クッチャラ。師範学校を卒業した彼女は、自分の身を神に捧げようと、修道院を訪ねるところだった。

ところが何事も型にはまれないマリアは、厳しい修道院の規律を守れず、失敗ばかり。

ある日修道院長から呼ばれたマリアは、７人の子供がいるトラップ男爵の家に、９ヶ月の任期で家庭教師に行って欲しいと言われる。

とまどいながら屋敷に赴くマリアだったが、持ち前の元気を取り戻し、明るく振る舞うのだった。初めは警戒していた子供達もマリアの飾らない人柄に次第に心を開き始めた。

ゲオルクとマリア、子供達の心がひとつに結ばれた頃、マリアの任期が終わる６月が目前に迫っていた。

1936年

夏
- マリア、ノンベルク修道院へ

9月
マリア、トラップ邸へ

秋
- マリア、修道院へ帰る（また戻る）

晩秋
- ゲオルク、イヴォンヌと婚約

1937年

1月
- 一家でスキーへ

5月
- イヴォンヌとの婚約破棄

7月
- マリア、ゲオルクと結婚
- ゲオルク破産

9月
- トラップ一家合唱団結成

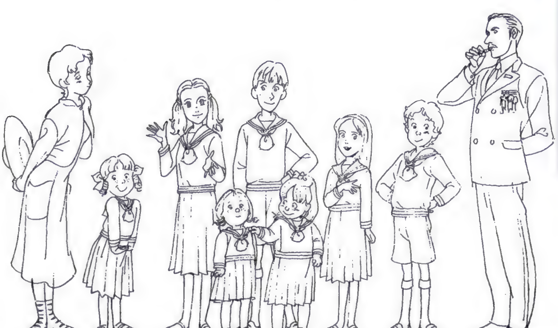
1938年

3月
- ナチス侵攻

4月頃
- マリア、ミュンヘンへ診察に

晩秋
- アメリカへ亡命

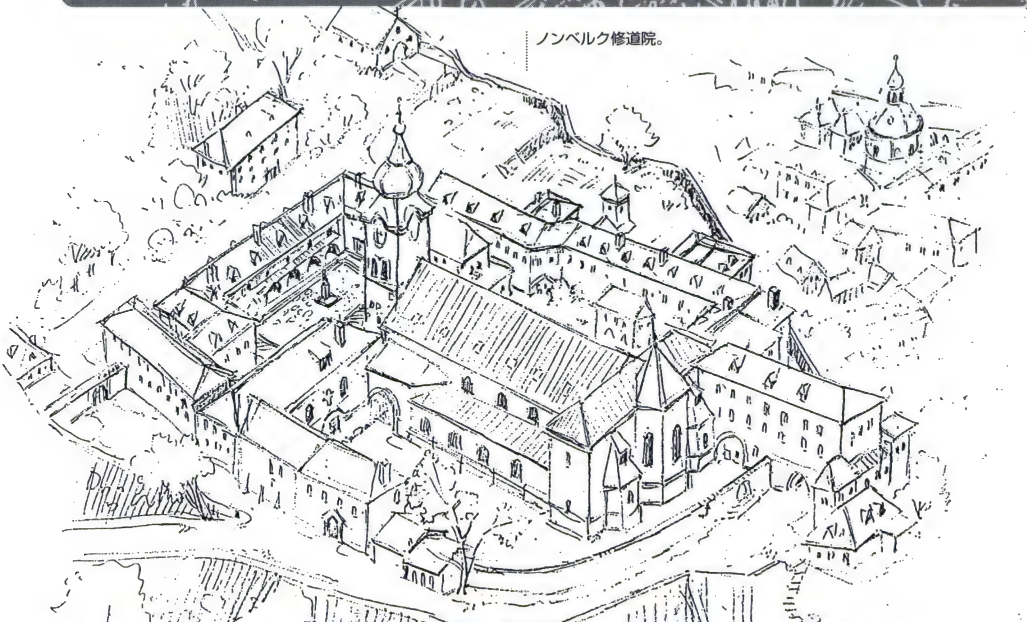
19C	1867	オーストリア・ハンガリー帝国成立
	1868	明治維新(日)
20C	1903	ライト兄弟飛行機を発明(米)
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1918	オーストリア・ハンガリー帝国解体
	1929	世界恐慌
	1934	ヒトラー総統に就任(独)
	1938	ナチス侵攻、オーストリア併合(独)
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1969	アポロ11号月面着陸(米)
	1989	ベルリンの壁崩壊(独)
	1990	東西ドイツ統一(独)
	1993	EU発足
21C		



トラップ一家とマリアの設定画。

トラップ一家物語

レ・ミゼラブル
ロミオの青い空
フランダースの犬
ペリーヌ物語
小公女セーラ
小公子セディ
わたしのアンネット
家なき子レミ
ピーターパンの冒険
牧場の少女カトリ
名犬ラッシー
1937 トラップ一家物語
ポルフィの長い旅

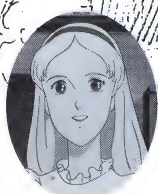


ノンベルク修道院。

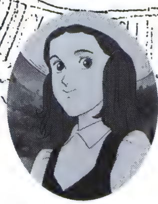
キャラクター紹介



イヴォンヌ
ゲオルクが婚約を考えている女性。本人もその気あり。伯爵令嬢で、絶世の美女。



マリア
心臓が弱く病気がちなトラップ家の次女。心優しくみんなのことを考えている。8歳。



ヘートヴィッヒ
トラップ家の長女で女学院に通う。気が強くいじっぱりの難しいお年頃。13歳。

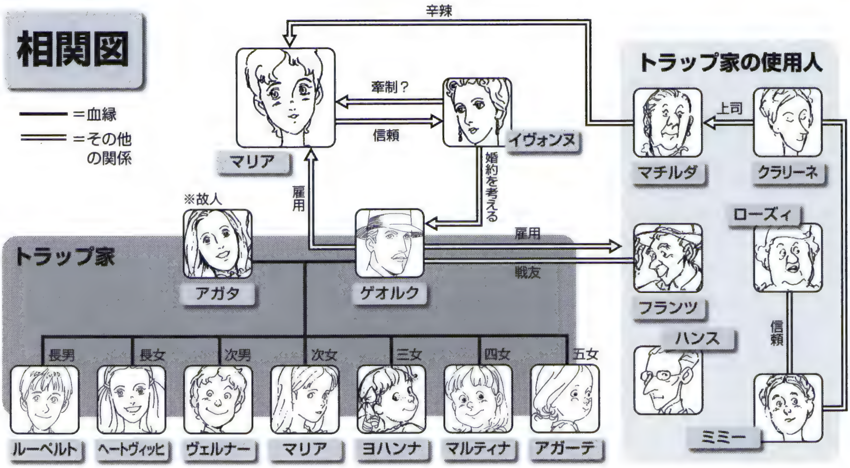


ゲオルク・フォン・トラップ
オーストリア海軍の英雄。妻は亡く、残された7人の子供の父親。



マリア・クッチャラ
修道女志願の18歳。過酷な生い立ちを持つが、何事も前向きで明るく愛情深い女性。

相関図



マリア・クッチャラ

家が貧しくて奨学金で師範学校に行き、卒業したばかり。教師を目指していたが、卒業記念のアルプス登山で神に仕えることを決意。その勢いで修道院の門をたたいてしまう。18歳。
（声：勝生真沙子）



まだまだ学生気分が抜けない見習い修道女マリア。





普段の陽気な彼女からは想像つかない過酷な生い立ちを持つ。





型にはまらない破天荒な性格、とにかく前向きでいつでも元気いっぱい。そんな無鉄砲な彼女も、トラップ邸での暮らしの中で次第に大人の女性としての落ち着きを身につけていく。



母は2歳のとき、父は9歳のときに亡くした。その後は叔母の家に預けられたが…。

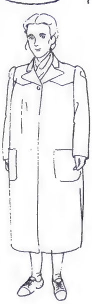


マリアの父。



父はエンジニアで外国を点々としていた。妻を亡くして生活が不規則に。マリアが5歳のときにウィーンに戻り一緒に暮らし始めるが、4年後に死亡。





マリアが生まれたのはウィーンに向かう汽車の中。ザルツブルク近くを通過するときだったという。







マリアの母。死因は肺炎。幼子の養育に困った父は、父のいとこにマリアを預けた。

養母（父のいとこ）と2歳のマリア、5歳のマリア。





叔母と13歳のマリア。

ジークフリード

裁判官。マリアがやって来たときには、心の病に罹っていた。
（声：佐藤正治）







幼いマリア。父が亡くなった後は叔母の元へ。叔母の娘婿ジークフリードのしつけは厳しく、13歳のマリアはたびたびムチでぶたれた。

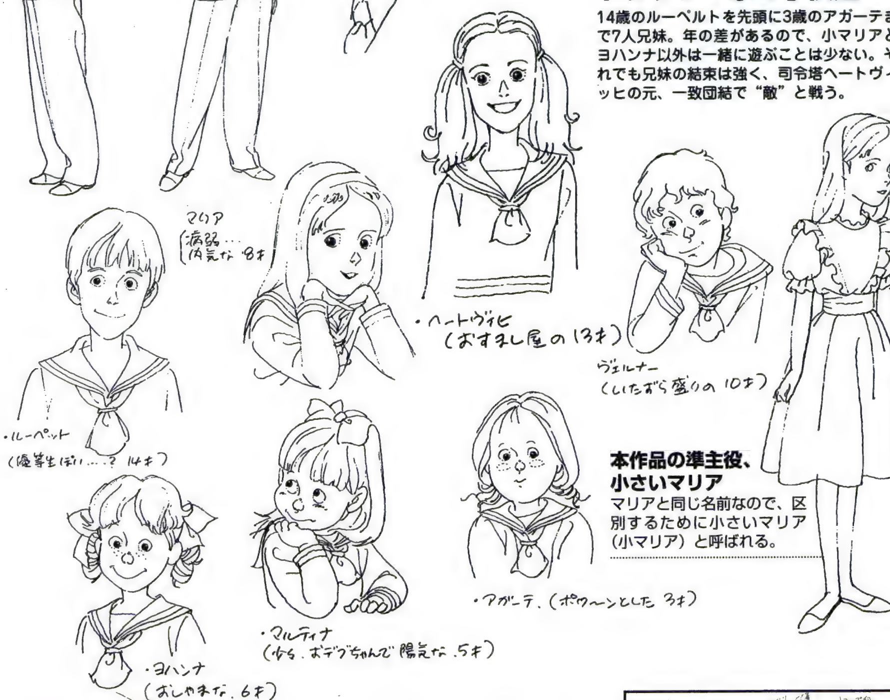


ゲオルク・フォン・トラップ

マリア・テレジア勲章を授けられたオーストリア海軍の英雄で、元潜水艦のキャプテン。その功績で男爵の位を授けられた。第一次大戦終結後は、海運事業を営んでいる模様。父は軍人。亡き妻アガタとの間に7人の子供がいる。
誠実で決断力があるが、マリアに対する感情は彼の想定外だった。

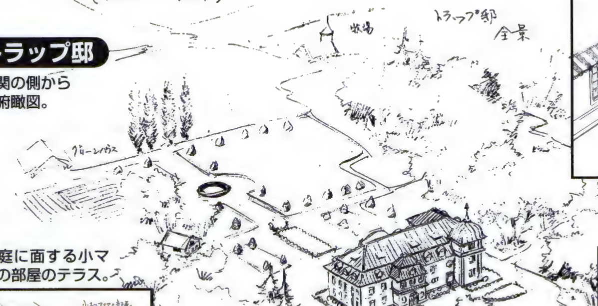
トラップ一家の子供達

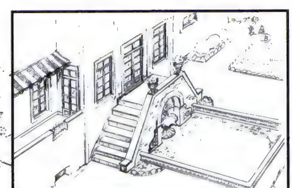
14歳のルーペルトを先頭に3歳のアガーテまで7人兄妹。年の差があるので、小マリアとヨハンナ以外は一緒に遊ぶことは少ない。それでも兄妹の結束は強く、司令塔ヘートヴィッヒの元、一致団結で"敵"と戦う。



本作品の準主役、小さいマリア
マリアと同じ名前なので、区別するために小さいマリア(小マリア)と呼ばれる。

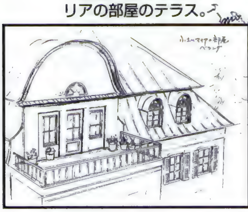
トラップ邸
表玄関の側から見た俯瞰図。

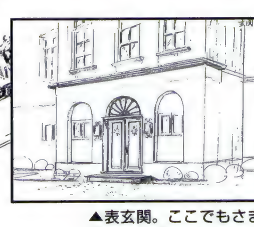




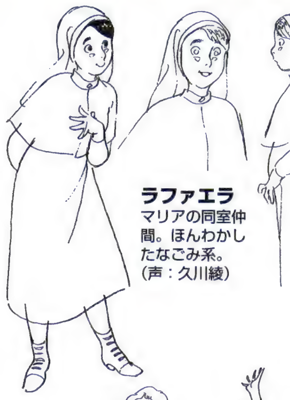
▲建物裏手の裏庭に出る階段。

▼裏庭に面する小マリアの部屋のテラス。





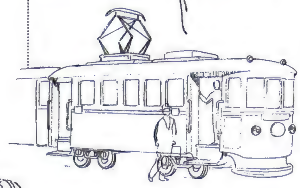
▲表玄関。ここでもさまざまなドラマが生まれた。



ラファエラ
マリアの同室仲間。ほんわかしたなごみ系。（声：久川綾）



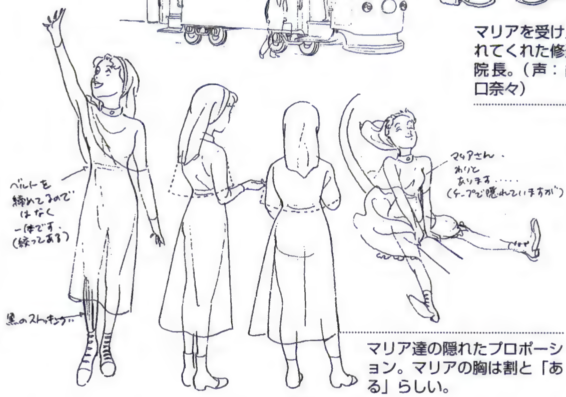
登山服のマリア（1話）。アルプス登山帰りなので、装備は本格的である。



ザルツブルク市内を走るトラム。



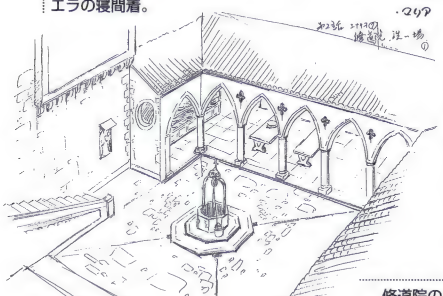
マリアとラファエラの寝間着。



マリア達の隠れたプロポーション。マリアの胸は割と「ある」らしい。



マリアを受け入れてくれた修道院長。（声：山口奈々）



修道院の中庭。



ノンベルク修道院のシスター達。1～2話のみならず、その後も時々登場する。

ストーリー紹介 1～4話

1話 私、修道女志願です
修道女になろうと決心したマリアは、ザルツブルグでもっとも厳格なノンベルク修道院の門を叩く。だが自由奔放なマリアは次々と騒動を引き起こす。

2話 シスターとしての未来
ノンベルク小学校で実習するマリアは、歌でたちまち子供達の心をつかむ。修道会からの視察も無事乗り切ったマリアに院長は思いがけない提案をする。

3話 艦長と7人の子供たち
家庭教師として、トラップ男爵の屋敷に派遣されることになったマリア。屋敷を訪ねたマリアの前にトラップ男爵は笛の合図で子供達を呼ぶのだった。

4話 26人目の家庭教師
マリアの役目は病弱な小マリアの家庭教師だった。料理番のローズィから小マリアが食事をろくにとらないと聞いたマリアは、小マリアの部屋を訪ねる。

名作メモ マリアは1月25日生まれの山羊座。



登山服は貧しい人に寄付され、マリアに渡されたのは流行遅れのお古。

トラップ邸の門。建物の大きさにマリアは驚く。

トラップ邸に行くマリアの服。

マリア
心臓が弱く病気がちで学校に行くのは医者に止められている。（声：白鳥由里）

子供達を呼ぶホイッスル。それぞれに音のパターンが決まっている。

子供達の通学スタイル。学校に上がったばかりの6歳のヨハンナには、学校は遠く、通学が負担だった。

マリアが乗る自転車。（6話）

小マリアのベッドそばにある母の写真。

小マリアのお人形。

ストーリー紹介 5～8話

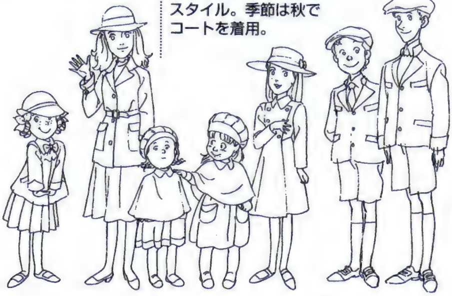
5話 マリアは騒ぎの張本人
小マリアが大切にしているのリボンの箱をメイドのクラリーネが取り上げてしまった。マリアは家政婦長のマチルダにリボンを返すようにと頼みに行く。

6話 迷子とはらぺこ騒動
ヨハンナはまだ学校に通い始めたばかり。ある日の帰り道、ヨハンナがいなくなってしまった。探しに出たマリアだが、食事抜きでフラフラだった。

7話 大人は信じられない
ゲオルクはマリアにヨハンナの勉強も見てやって欲しいという。喜ぶ小マリアとヨハンナ。ヘートヴィッヒ以外の子供達は次第にマリアに心を開き始めていた。

8話 礼儀作法が大事です!?
トラップ邸の子供達は、木登りやボール遊びをすることを禁止されていた。マリアは子供達がもっと気軽に遊べるようにと運道靴と普段着を買ってくれるようにマチルダに頼む。

名作メモ トラップ邸の庭のゲオルク自慢のアキノキリン草（アメリカ産）は絶対に摘んではいけない。



ザルツブルク市内観光スタイル。季節は秋でコートを着用。



「姫」と聞いてマリアがイメージしたイヴォンヌ！ ありがちな…。

イヴォンヌ

ベルベデーレ伯爵の令嬢。美貌と抜群のプロポーション、エレガントな物腰、莫大な財産と身分。その上ゲオルクに惚れている。…だがゲオルクは何故か踏み切れない。（声：山田栄子）





マチルダ夫人の外出着。



お肌のお手入れ…（イタリア式美容術らしい）。（8話）

マチルダ夫人

トラップ邸の家政婦長。ウィーンから来た男爵夫人で、プライドも高い。彼女なりに子供達のことを考えている。趣味はトランプ占い。（声：藤田淑子）

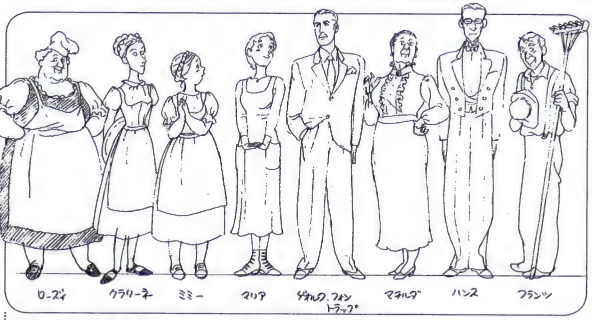


母にバイオリンを習っていた頃の思い出シーンから、ルーペルト、8歳とヘートヴィッヒ、7歳。



毎回違うイヴォンヌの最新モードファッションに注目！ これは9話で着用。





トラップ邸を支える人々。左からコックのローズィ、メイドのクラリーネとミミー、マリア、ゲオルク、マチルダ夫人、執事のハンス、庭師のフランツ。



ハンス

トラップ邸の執事。職務に忠実でご主人思い。いかめしい顔と裏腹に優しく親切である。実は彼女がいるらしい。（声：平野正人）

ストーリー紹介 9～12話

9話 トラップ男爵の婚約者？

ゲオルクのもとにイヴォンヌが訪ねてきた。父の再婚話に反感を持つヘートヴィッヒと小マリア。そんな中、皆でザルツブルク観光に出かけるが…。

10話 ミシンとヴァイオリン

マリアは小マリアのために物置からヴァイオリンを持ち出すが、ゲオルクに見とがめられる。それは亡くなった妻アガタのヴァイオリンだったのだ。

11話 どろんこ遊びは最高！

子供達をもっと外で遊ばせたい、小マリアにも同じ楽しみをと悩むマリア。そこで小マリアは自分が実行委員長になって家族の運動会を開こうと提案する。

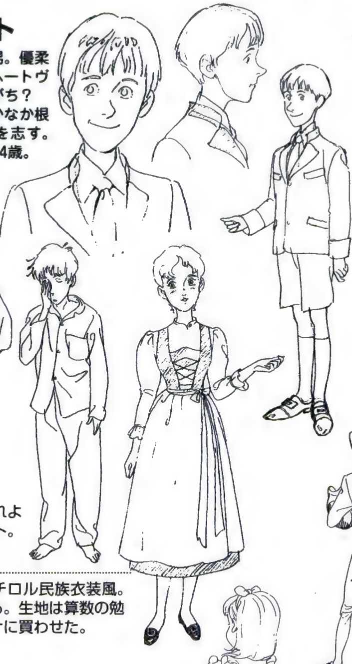
12話 マリア風チョコレートケーキ

マチルダ夫人が妹の急病で家を開けることになった。これ幸いに使用人達は次々と出かけてしまう。残ったマリアは子供達とケーキを作ろうと提案した。

名作メモ もともとトラップ邸はある公爵が狩りのために建てた別邸であった。

ルーペルト

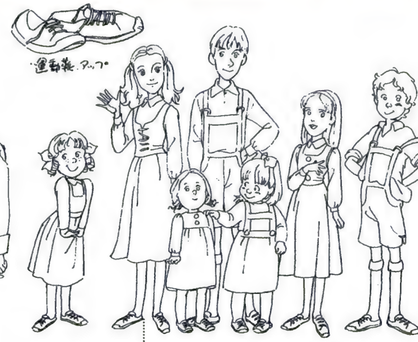
トラップ家の長男。優柔不断で主導権はヘートヴィッヒに取られがち？ コツコツ型でなかなか根性もある。医学を志す。趣味は木彫り。14歳。（声：安達忍）





寝起きのよれよれルーペルト。

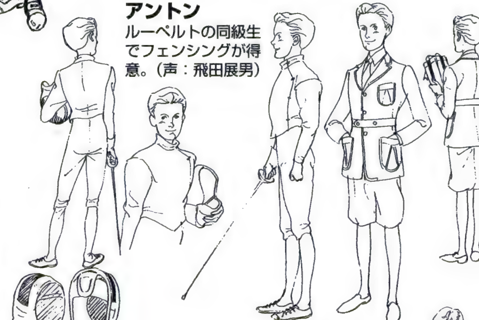
マリアの秋服。チロル民族衣装風。何と手作りである。生地は算数の勉強のためヨハンナに買わせた。（10～33話）



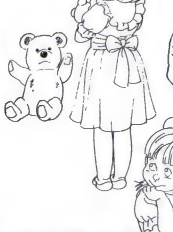
運動会のスタイル。さすがに女の子にズボンという選択はなかった。（11話）

アントン

ルーペルトの同級生でフェンシングが得意。（声：飛田展男）







マルティナ

トラップ家の四女。無口でおとなしいがかなり頑固な面もある。母を亡くした愛情不足か？ ぬいぐるみのクマのニコラを片時も離さない。（声：鈴木砂織）



ナスターシャ・イワノブナ

ロシア系で祖父がロシアに住む。政情の変化でロシアに移住することに。ヘートヴィッヒの一番の友達。（声：天野由梨）

ストーリー紹介 13～16話

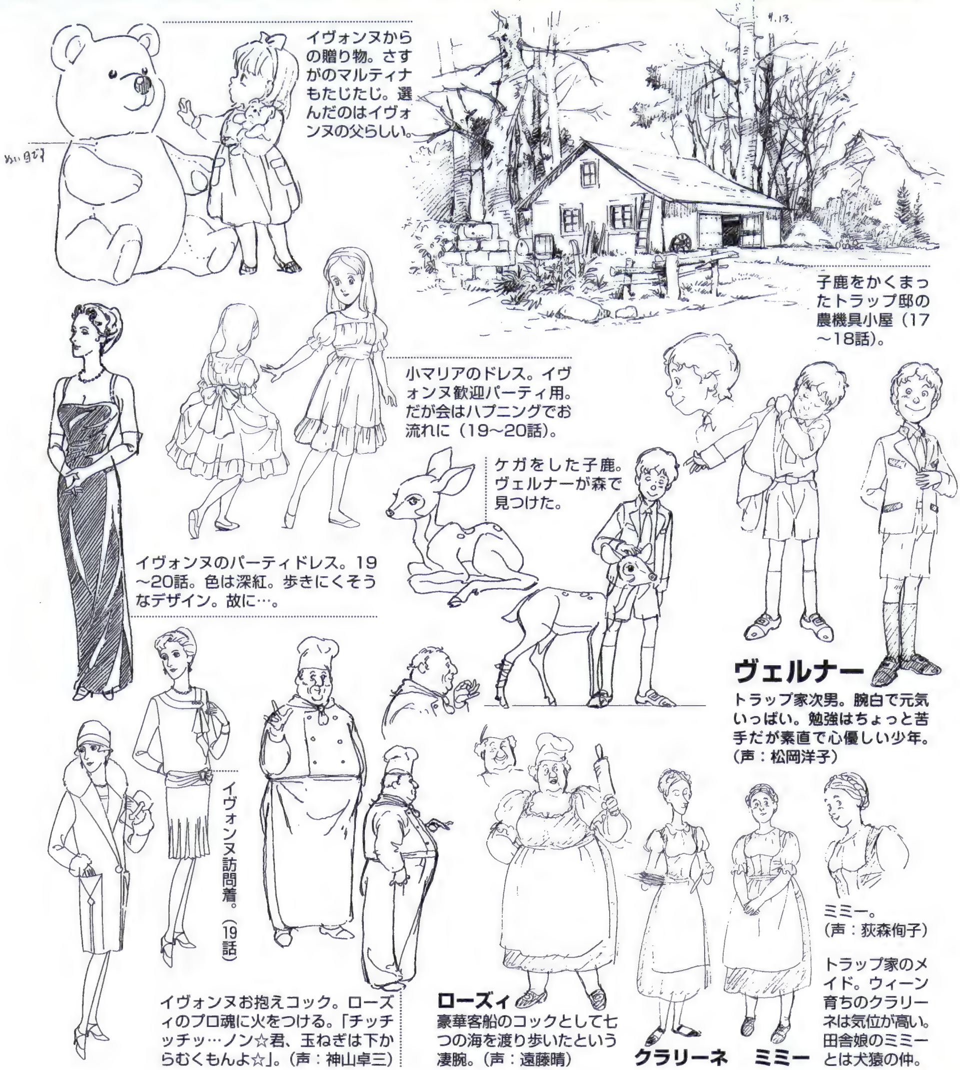
13話 ドン・キホーテの初恋
ルーペルトはフェンシングの特訓中。もうすぐ学校で対抗試合があるのだ。同じ頃、ヘートヴィッヒの親友のナスターシャがロシアへ移住することになった。

14話 オルゴールの秘密
ナスターシャのオルゴール人形が壊されていた。犯人だと疑われたルーペルトは学校で1、2位の腕のアントンとフェンシングで勝負すると言い出した。

15話 マルティナと熊のニコラ
マチルダ夫人の誕生プレゼントに歌を贈ることにした子供達。秘密にしようと森で練習をするが、目を離した間にマルティナが川に落ちてしまう。

16話 マリア先生がいない家
マルティナが熱を出した責任を取り、マリアはノンベルク修道院へ帰った。小マリアとヨハンナはふたりだけでノンベルク修道院まで訪ねていく。

名作メモ 13、14 話の背景に、当時オーストリアではドイツ人が台頭しロシア系は居辛くなっていたというのがある。



イヴォンヌからの贈り物。さすがのマルティナもたじたじ。選んだのはイヴォンヌの父らしい。

子鹿をかくまったトラップ邸の農機具小屋（17～18話）。

小マリアのドレス。イヴォンヌ歓迎パーティ用。だが会はハプニングでお流れに（19～20話）。

ケガをした子鹿。ヴェルナーが森で見つけた。

イヴォンヌのパーティドレス。19～20話。色は深紅。歩きにくそうなデザイン。故に…。

ヴェルナー
トラップ家次男。腕白で元気いっぱい。勉強はちょっと苦手だが素直で心優しい少年。（声：松岡洋子）

イヴォンヌ訪問着。（19話）

イヴォンヌお抱えコック。ローズィのプロ魂に火をつける。「チッチッチッ…ノン☆君、玉ねぎは下からむくもんよ☆」。（声：神山卓三）

ローズィ
豪華客船のコックとして七つの海を渡り歩いたという凄腕。（声：遠藤晴）

ミミー。（声：荻森侚子）

トラップ家のメイド。ウィーン育ちのクラリーネは気位が高い。田舎娘のミミーとは犬猿の仲。

クラリーネ　**ミミー**

ストーリー紹介 17～20話

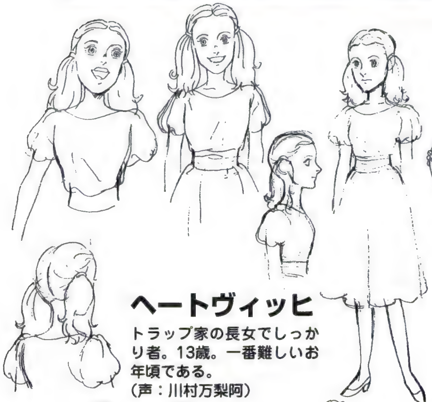
17話 傷ついた子鹿
木から落ちてズボンを破いたヴェルナーは、皆に貴族の自覚が足りないと責められ、家を飛び出してしまう。そして森の中でケガをした子鹿と出会う。

18話 生きとし生けるもの
納屋にケガをした子鹿をかくまっていることはヴェルナーとマリアふたりだけの秘密だった。ところが子鹿はマチルダに見つかってしまう。

19話 イヴォンヌ姫のお土産
ベルベデーレ伯爵から手紙が届いた。伯爵自らトラップ邸を訪れ、イヴォンヌとの婚約を進めたいというのだ。一方、子供達には戸惑いが広がる。

20話 それぞれの人生
イヴォンヌとマリアが階段から落ちてケガをした。入院したふたりをゲオルクと子供達が見舞いに行くが、子供達の関心はマリアの方ばかりだった。

名作メモ ゲオルクはウィーンの社交界を逃げてザルツブルクに来た経緯がある。



ヘートヴィッヒ

トラップ家の長女でしっかり者。13歳。一番難しいお年頃である。
（声：川村万梨阿）



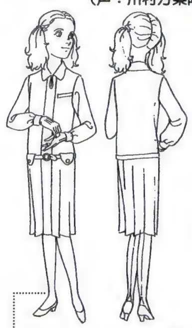
イヴォンヌ入院時のガウン。絹のつやつや感がすごい



イヴォンヌ入院時のヘアアレンジ。令嬢はどんなときにも崩れないのである。



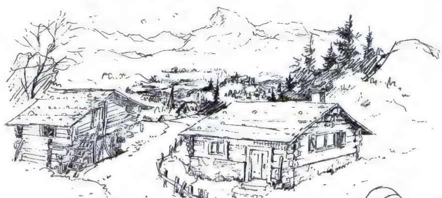
マリアの入院服はこんなもの。



ヘートヴィッヒの家出スタイル。



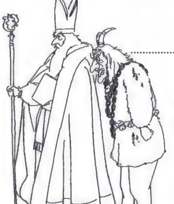
ヘートヴィッヒ捜索でローズィから借りたコート。だぶだぶ。



トーマスの家。祖父とふたり暮らし。ヤギを飼っている。



聖ニコラスの連れたクランプス。悪い子にお仕置きする。中身はフランツ。



聖ニコラス。よい子にプレゼントを持ってくる。中身はハンス。





トーマス

マリアの教え子。ヘートヴィッヒを保護する。第2話以来の久々の登場。



ヘートヴィッヒ家出コート。



ヘートヴィッヒ捜索に協力するラファエラ（22話）。



マリア冬の服。いつもの服に上着を着用。

ストーリー紹介 21～24話

21話 トラップ男爵の決断

退院したマリアを歌で迎える子供達。だがマリアはわざと冷たく当たり、部屋に閉じこもった。しかしマリアの本心はイヴォンヌに見透かされる。

22話 1人で生きていける?

ゲオルクがイヴォンヌとの婚約に向かった。ヘートヴィッヒは婚約を止めるためウィーンへ行こうと家を飛び出すが、駅でお金を全部盗られてしまう。

23話 天使への願い事

もうすぐクリスマス。マリアと子供達はクリスマスリースを作る。マリアはリースは居間に飾るものだ言うが、トラップ邸にはそんな場所がなかった。

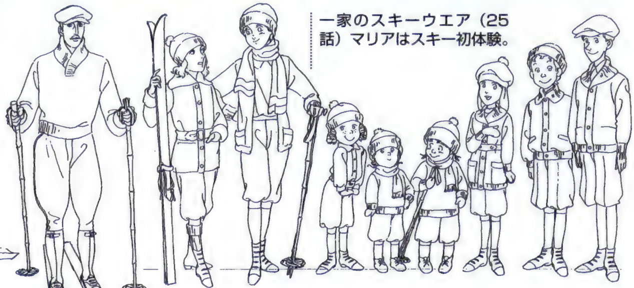
24話 クリスマス・キャロル

マリアと子供達がクリスマスの飾りを作っていると、イヴォンヌとの縁談にさわると心配したマチルダ夫人が、同じ部屋に皆が集まることを禁止する。

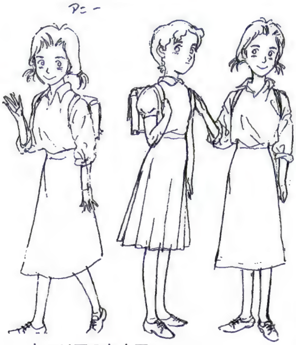
名作メモ ヘートヴィッヒの所持金は23シリング80グロッシェン。ウィーンまでの三等切符なら買える。



寄付のため刺繍するマリア（27話）。



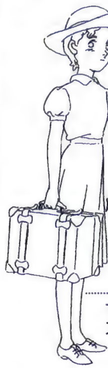
一家のスキーウエア（25話）マリアはスキー初体験。



マリアの友人アニー。マリアは家出後アニーの家へ。（声：平松晶子）



後見人の養母は優しい人だった。（声：中村万里）



マリア家出スタイル。



マリアが育てたアルペンローゼの苗。イヴォンヌへのお見舞い。



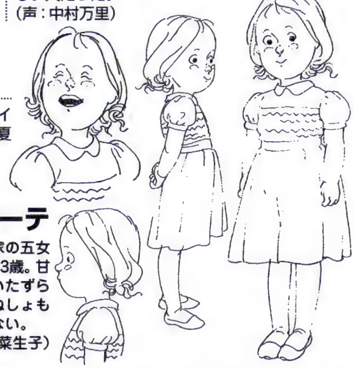
風邪で療養中のイヴォンヌのガウン。まさにプリンセスな室内着。



イブニングドレス。姫なので当然何着も持っている（26話）。



マチルダ、イヴォンヌ初夏の装い。（29話）



アガーテ

トラップ家の五女で末っ子。3歳。甘えん坊でいたずら盛り。おねしょもまだ直らない。（声：渡辺菜生子）



デルクルト伯爵夫人

イヴォンヌの叔母。58歳。（声：大方斐紗子）

ストーリー紹介 25～28話

25話 白銀のアルプスにて

イヴォンヌからアルプスの別荘に招待された。マリアも一緒だ。スキーができると子供達も大喜び。ひとりルーペルトだけは悩みを抱えていた。

26話 オレンジと花の苗

イヴォンヌの見舞いに行くゲオルクに、マリアは子供達からのお見舞いだと言って花の苗を持たせるが、イヴォンヌは誰がそれを選んだか気づく。

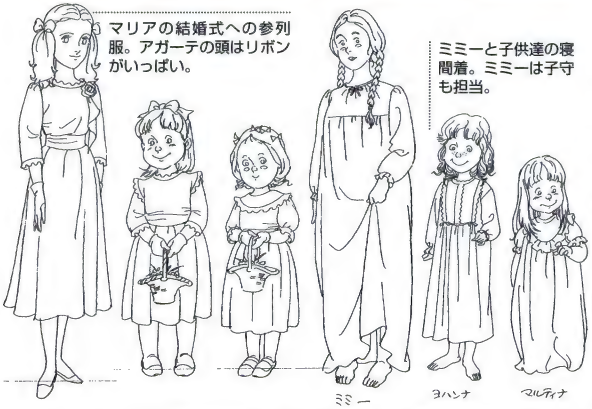
27話 昨日・今日・明日

刺繍をするマリアの元に子供達が集まっていた。そこでマリアは昔の思い出を語って聞かせる。それはマリアが高等師範学校に合格した頃の話だった。

28話 いたずらアガーテ

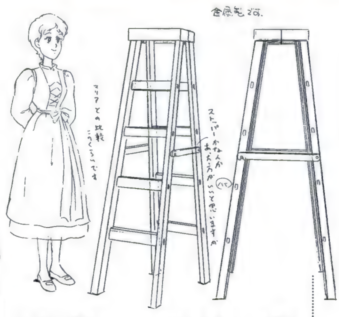
ある日イヴォンヌがこっそりと屋敷を訪ねてきた。子供達と仲良くなるコツをマリアに聞きたいという。そのときアガーテがハサミを持ち出し、大騒動に。

名作メモ スキー先はイヴォンヌの父ベルベデーレ伯爵のキッツビュールの別荘。上流社会の冬の社交場である。

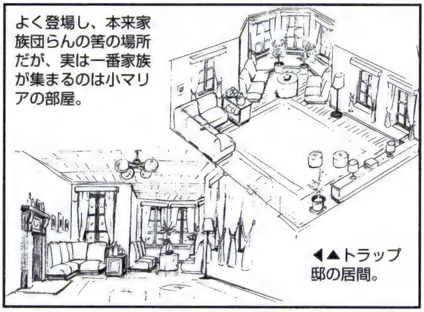


マリアの結婚式への参列服。アガーテの頭はリボンがいっぱい。

ミミーと子供達の寝間着。ミミーは子守も担当。

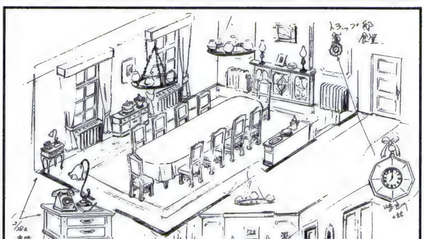


30話の重要シーンを演出する脚立。金属製。



よく登場し、本来家族団らんの筈の場所だが、実は一番家族が集まるのは小マリアの部屋。

◀▲トラップ邸の居間。



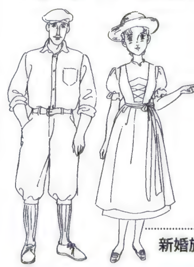
▲登場回数が多かった食堂。つまり家族が揃う場所である。



マリアの花嫁衣装。送り主はアガタの両親、ホワイトヘッド男爵夫妻。マリアは感激する。



クラリーネはマチルダと共にウィーンへ帰る。最後に見せた笑顔が印象的。（声：色川京子）



新婚旅行は一家でハイキング！





マリアへ贈られたマチルダの腕時計。

ストーリー紹介 29～32話

29話 妻になる人、母になる人

自分がいるからイヴォンヌと子供達が仲良くなれないと感じたマリアは修道院に戻る決意する。一方、イヴォンヌもゲオルクの本当の想いに気づいた。

30話 結婚してくれますね?

マリアが修道院へ帰る日が近づいた。何をしても楽しい気持ちになれない子供達。ヘートヴィッヒがマリアにずっといてもらう方法を思いつく。

31話 神様の思し召し

マリアと結婚するためなら貴族をやめる。ゲオルクの言葉にマリアも結婚を決意する。だが自分は修道院に預けた身。院長に相談しようと、修道院へ向かう。

32話 七月の花嫁

ゲオルクはマリアとの結婚を前にウィーンに住むアガタの両親ホワイトヘッド男爵夫妻を訪ねる。一方マチルダはふたりの結婚を受け入れられずにいた。

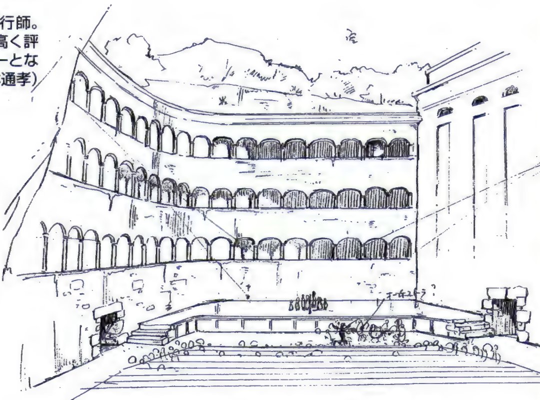
名作メモ 失恋のイヴォンヌは翌月3歳年下のイギリス貴族と電撃結婚。自暴自棄になっていたようである。



ワグナー氏
アメリカの興行師。一家の才能を高く評価。スポンサーとなる。（声：小林通孝）



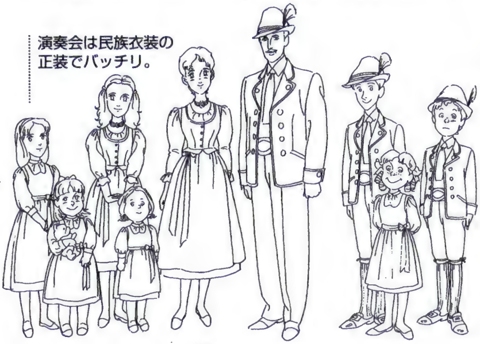
ロッテ・レーマン
オペラ歌手。投宿先のトラップ邸で一家に歌の才能を見いだす。（声：秋元千賀子）



祝賀劇場の舞台。ザルツブルク音楽祭の会場でもある（34話）



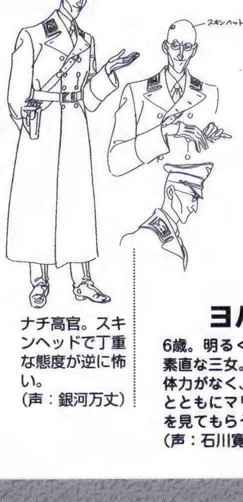
ヒトラー
実在の人物。マリアとゲオルクはミュンヘンのレストランでまさかの遭遇。（声:福田信昭）



演奏会は民族衣装の正装でバッチリ。



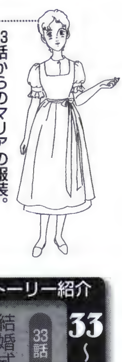
ミュンヘンの病院へ行くときのマリアの服装。ドイツへ行くためか？ いつもの民族衣装ではない。



ナチ高官。スキンヘッドで丁重な態度が逆に怖い。（声：銀河万丈）



ヨハンナ
6歳。明るく無邪気で素直な三女。通学する体力がなく、小マリアとともにマリアに勉強を見てもらうことに。（声：石川寛美）



33話からのマリアの服装。

ストーリー紹介 33～36話

33話 本当の家族
結婚式の翌日、新婚旅行代わりのハイキングから戻ると1本の電話が入った。ゲオルクが全財産を預けていたランメル銀行が倒産したというのだ。

34話 ファミリー合唱団誕生
トラップ邸にオペラ歌手のロッテ・レーマンが下宿することになった。ロッテは子供達の歌を聴くと、ぜひ音楽祭のコンクールに出場するよう勧める。

35話 歌声は風にのって
音楽祭が終わって間もなく、ザルツブルクのラジオ局からトラップ一家合唱団に出演してもらいたいと電話が入った。だがゲオルクは渋っていた。

36話 ナチス侵攻
合唱コンクールやラジオ出演など、忙しい日々の続いたトラップ一家にようやく静かな生活が戻った。だが翌年3月ドイツ軍がオーストリアに侵攻した。

名作メモ ルーペルトは医科大学の予科に合格。インスブルックへ。生活費は本屋のバイトで稼ぐ。



結婚したミミーの住むオーバーグルグルの山荘。カールのおじから引き継いだものである。

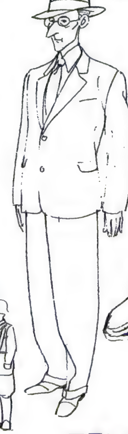


ヴァスナー神父
トラップ邸に下宿。一家の歌の指導者として、一家に同行することに。（声：森功至）

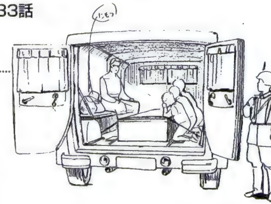


カール
トラップ邸に牛乳配達に来ていた。ミミーと結婚後、おじの跡を継いで農業を営む。亡命時のカールは実に頼もしい働きをする。（声：小林通孝）

亡命ハイキングの服。33話の新婚旅行にも着用。



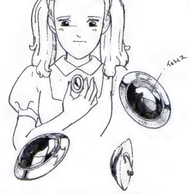
ハンスは2年前からナチスに入党していたという。ナチス侵攻後、人格、人相まで激変させた。



国外逃亡に利用した霊柩車。神父（ヴァスナー）付き。



設定上の臨月のマリア。隣は変装したヴェルナー。実際は使用されていない。



ヘートヴィッヒの思い出のブローチ。最後にローズィに渡す。





フランツ
ゲオルクの海軍時代の部下。共に苦難を乗り越えた戦友として忠義は厚い。ただの庭師ではないのである。（声：大山高男）

ストーリー紹介 37～40話

37話 あたらしいご挨拶
ドイツ軍の侵攻後、ヨハンナ達の通う学校の様子は一変した。ヨハンナは新しいご挨拶だと言って、「ハイル、ヒトラー」と言うよう強要される。

38話 ハンスの秘密
診療に訪れたミュンヘンでマリアは妊娠を告げられる。喜ぶマリアに、医師は、過労の上に腎臓が弱っているから子供を産むのは無理だという。

39話 誇りと信念
ゲオルクにUボートの司令官就任の打診があった。だがゲオルクはこれを無視する。すると次はヒトラーの誕生日に祝いの歌を歌えと言ってきた。

40話 さようならわが祖国
一家はナチス党員のハンスにさとられないよう、ハイキング姿で家を出た。オーストリアを脱出し、イタリアを抜け、一家はアメリカをめざして進む。

名作メモ ヴェルナーが考えだした「ハイル、ヒトラー」の代わりの挨拶は「アヒルこけた！」。

作品コラム

「サウンド・オブ・ミュージック」と「トラップ一家物語」

ジュリー・アンドリュースが主演し、名曲『ドレミの歌』『エーデルワイス』などで一世を風靡した映画『サウンド・オブ・ミュージック』。この映画と『トラップ一家物語』は、ともに同じ原作を元に作られたものだ。大ヒットを飛ばした有名な映画なだけに、アニメもオープニングに『ドレミの歌（※1）』を使用するなど、映画を意識した作りになっている。

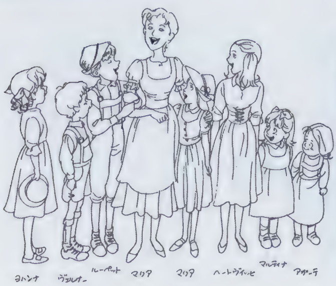
関修一氏のキャラクター・デザインも、子供達やイヴォンヌなどのデザインに映画の名残を感じる。ただジュリー・アンドリュースだけは「彼女をモデルに絵を起こすと、幼い感じになってしまう」からと、若干大人っぽい絵柄にしたそうだ。

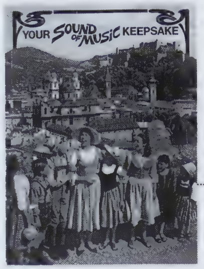
『サウンド・オブ・ミュージック』は、元々ミュージカルだったものを映画にしたもの。ハリウッドらしく、ドラマティックで感動的に仕上げている。より原作に忠実に描いた『トラップ一家』にも、ときに映画のシーンを思わせるカットがある。映画版と比較してみるのも面白い。

（※1）版権の関係でオンエア時のみの使用。



ジュリー・アンドリュースと同じ決めポーズのアニメ版マリア先生。実はこのトラップ邸を訪ねるときの服は映画と同じデザイン。





「サウンド・オブ・ミュージック」の映画の一場面。左の設定画と同じ構図があって興味深い。ザルツブルクのガイドブック表紙より。

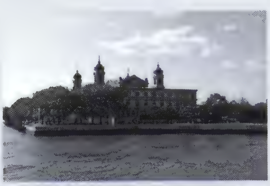
本当のトラップ一家

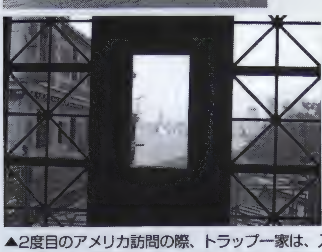
アニメよりも波乱だったマリアさんの人生

『トラップ一家物語』や『サウンド・オブ・ミュージック』のヒロイン、マリアは実在の人物だ。どちらもナチスの手を逃れ国外へ脱出してしたところで物語は終わっているが、実在のマリアの波乱の人生には、まだ続きがある。

アメリカへ渡ったマリア達は、興行の成績が奮わず、マリアの不用意な一言から、入国を拒まれたり、契約を打ち切られたり、家族が離れて暮らさなくてはならなかったり、様々な困難に直面するのだ。だが実在のマリアもアニメ同様、前向きな生き方でそれらを乗り越えていく。

そんな彼女達がバーモント州のストウに、ようやく安住の地を得たのは１９４１年のこと。お金のない彼らは、自分達で畑を作り、家を造り、やがて音楽の宿、トラップロッジを開業するまで、マリアはアニメも及ばないほどの波乱ずくめの人生を送るのである。





▲2度目のアメリカ訪問の際、トラップ一家は、入国を拒まれ、移民局のあったニューヨーク市沖のエリス島で拘束された（上）エリス島からはマンハッタンの摩天楼が目の前に見える（下）。
Photo：Kaori.Chiba

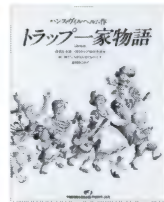


〈原作者〉
マリア・フォン・トラップ
1905-1987

ウィーンの国立師範学校を卒業後、ザルツブルクのノンベルク修道院で修練中、ゲオルク・フォン・トラップ男爵の屋敷に子供達の家庭教師として派遣され、そこでゲオルクと結婚。やがて、夫や子供達と結成したトラップファミリーシンガーズが好評を得るが、1938年、オーストリアにナチスが侵攻すると、家族とともにアメリカに渡り、その後は世界各国を公演して回った。また著書に『The story ofthe Trapp family singers』（邦題：歌うトラップ一家）などがある。



『歌うトラップ一家』
著：マリア・フォン・トラップ
訳：小田部胤明
発行：サンパウロ
（※表紙の写真は晩年のマリア先生）



『トラップ一家物語』
著：ハンス・ヴィルヘルム
訳：ロニー・アレキサンダー、岩倉 務
発行：平和のアトリエ

アニメのオープニングにクレジットされているハンス・ヴィルヘルムはこの絵本の作者。

海のないオーストリアに海軍？トラップ大佐の武勇伝

今は海のない国オーストリアだが、かつて海軍のあった時代がある。それは、19世紀後半オーストリア・ハンガリー帝国の時代だ。

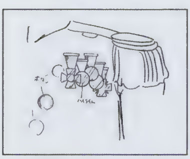
この時代には帝国はトリエステなどアドリア海に面した現在のイタリア北部も領有し、海軍も存在していたのである。トラップ艦長はこの海軍の潜水艦のキャプテンとして活躍し、マリアテレジア勲章を授けられ、男爵の称号を与えられた。

だが、実はこの帝国海軍が存在したのは第一次世界大戦が終わった1918年までのこと。アニメの年齢で計算すると、トラップ艦長はわずか18歳。一体どんな経緯でこの若さで艦長にまで登りつめたのだろうか。物語の中で語られたのはアドリア海で敵艦を追い払ったということだけである。





実在のゲオルクは1880年生まれで、艦長になった頃は30代後半である。



小さいマリアのその後

小さいマリアは病弱で学校に通えないため、マリア先生が家庭教師に呼ばれた経緯があった。アメリカに渡った実在のマリアはその後どうなったのだろうか？

トラップ家の子供達は、アメリカで合唱団として活動した後、それぞれの人生を歩み出した。マリアはなんと宣教師の道を選ぶ。そしてニューギニアへ宣教に赴き、そこで30年間も暮らしていた。若い頃から持病を抱え病気がちだったマリア先生と違い、100歳を超える長寿で、きわめて健康なマリア。人は見かけによらないものである。



マリア先生のおかげでとっても元気になった？

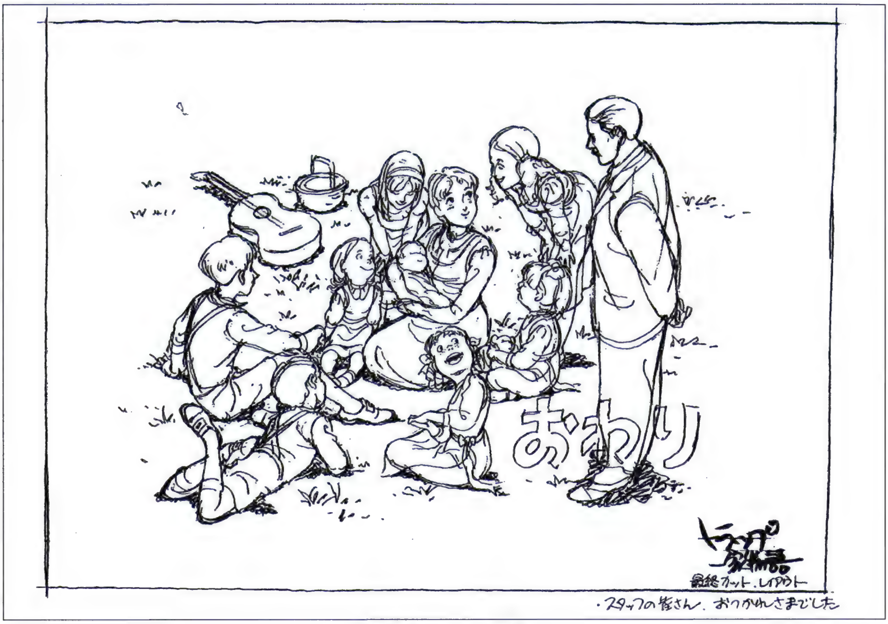
ハンスの実像

実はアニメには大変な誤解がある。執事のハンスがナチス党員になったのは事実だが、トラップ一家を裏切ったわけではないのだ。

戦争中の枢軸国支配下において、ナチス党員であることは何も特別のことではない。彼は党員の立場から屋敷の出来事をナチスに報告せねばならず、それを自ら一家に明かすと「私の前では何も話さないでください」と注意を促した。また、国外への逃亡を勧めたのもハンスだった。彼は間違いなく主人想いの忠実な執事だったのである。



人の良さが描かれていた前半のハンス。それだけにアニメでの描き方が残念。



40話ラストシーン／関修一

メインスタッフ

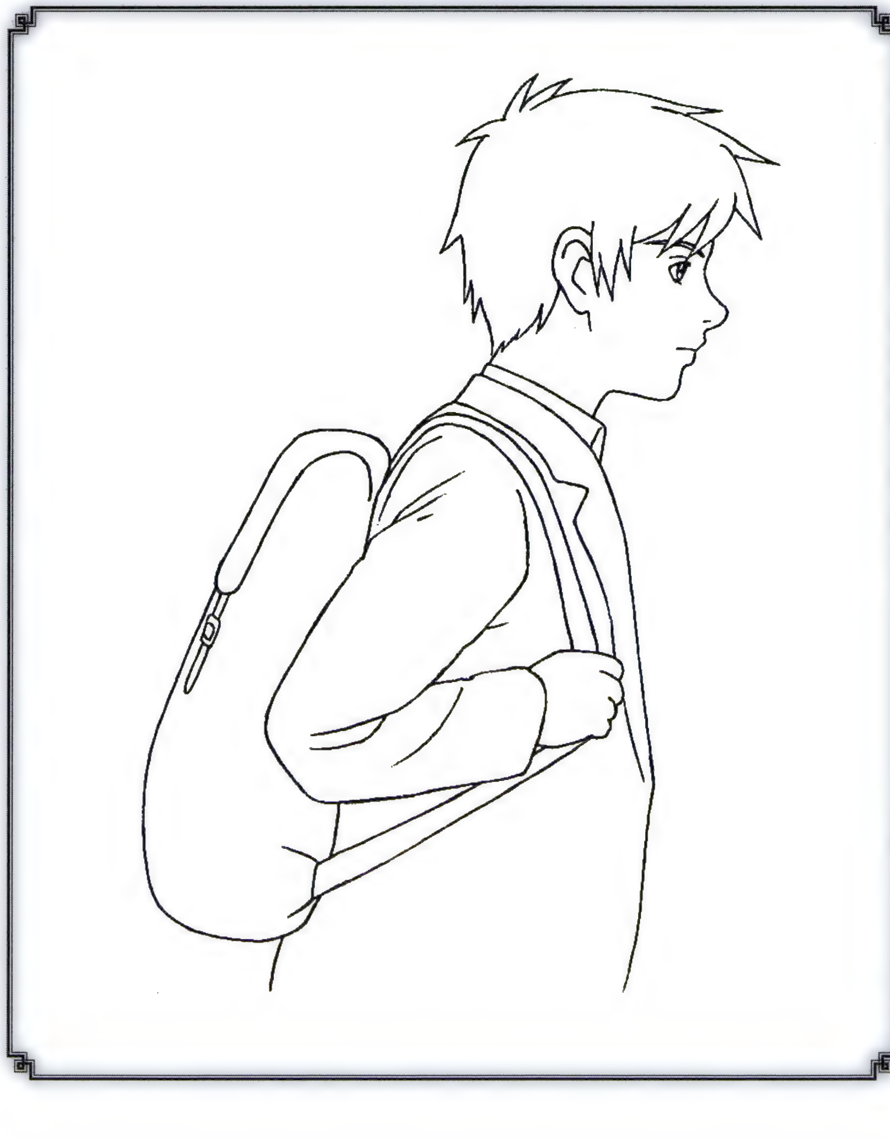
脚本	しろやあよ
音楽	風戸慎介
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	斎藤次郎／佐土原武之／加賀剛／中西伸彰／則座誠／関戸始／楠葉宏三
作画監督	大城勝／加藤裕美／細井信宏／伊藤広治／田中穣／伊武菜鳥／入江篤／遠井和也／田中穣
美術設定	伊藤主計
美術監督	森元茂
撮影監督	森田俊昭
音響監督	藤野貞義
色指定	小山明子／小酒井久代／諸澤千恵子
プロデューサー	松土隆二／和田実（フジテレビ）
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「ドレミの歌（DO-REMI）」 ※初回放送
作詞：Oscar Hammerstein Ⅱ
日本語訳詩：ペギー葉山
作曲：Richard Rodgers
編曲：風戸慎介
歌：伊東恵理／森の木児童合唱団

エンディングテーマ「両手を広げて」
作詞：いしいめぐみ
作曲・編曲：風戸慎介
歌：伊東恵理

ポルフィの長い旅

Mina and Porphyras



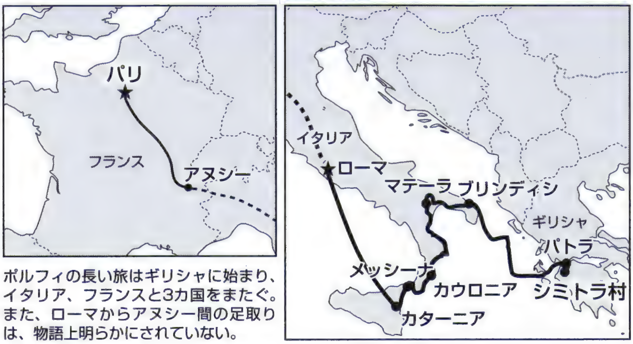
ポルフィの長い旅（ながいたび）



©NIPPON ANIMATION CO.,LTD.

放映期間	2008/01/06〜2008/12/28
話数	52話
原作	ポール・ジャック・ボンゾン「シミトラの孤児たち」

物語の舞台



ポルフィの長い旅はギリシャに始まり、イタリア、フランスと3カ国をまたぐ。また、ローマからアヌシー間の足取りは、物語上明らかにされていない。

History

第2次世界大戦の傷がまだ癒えてないヨーロッパ。ギリシャでは内戦が起き、平和が訪れるまでに更に時間を要した。

世紀	年	出来事
19C	1821	ギリシャ独立戦争
	1830	オスマン帝国から独立、ギリシャ王国に
	1868	明治維新(日)
	1896	近代オリンピック、アテネで初開催
	1897	希土戦争
20C	1912	バルカン戦争(〜1913)
	1914	第1次世界大戦(〜1918)
	1919	希土戦争(〜1922)
	1924	クーデター、共和制に
	1929	世界恐慌
	1935	王政復古
	1939	第2次世界大戦(〜1945) 独・伊・勃が侵攻、分割占領状態
	1942	ギリシャ内戦(〜1949)
	1950	朝鮮戦争(〜1953)
	1952	NATOへ加盟
	1953	ギリシャで大地震
	1968	軍事独裁政権誕生
	1974	民主主義回復、王政廃止、共和制へ
	1981	欧州共同体(EC)加盟
	1993	EU発足
19C	2001	アメリカ同時多発テロ
	2004	アテネオリンピック(2回目)

ストーリー解説

ポルフィは、イオニア海が見える片田舎、シミトラ村に住むギリシャ人の少年。修理工の父、料理の上手な母、妹ミーナ、親友ザイミス、そして気のいい村の人々と、貧しいながらも楽しく幸せに暮らしていた。

父の自動車修理工場が軌道に乗り、ポルフィの夢が現実になろうとしていた、ある夏の日、シミトラ村に悲劇が訪れた。大地震が壊滅的被害を与え、ポルフィから両親を、我が家を、そして夢すらも奪い取ったのだ。

両親に代わって妹のミーナを護ると誓うポルフィだったが、ミーナだけがアメリカの家族に引き取られることになる。引き離されることを恐れ、避難所を逃げ出すふたり。ところがポルフィとはぐれたミーナは誤ってイタリア行きの船に乗ってしまう。

大好きなミーナを探す為、ポルフィの長い旅が始まる。

1953年

冬
- 父アテネへ出稼ぎ

3月
- 父から手紙が来る

4月
- 父帰宅
- ミーナ11歳の誕生日
- パタゴス大ステーション完成

6月
- ポルフィ米軍基地へ

8月12日
- 大地震

9月
- ポルフィ13歳の誕生日
- イタリア行きの船に乗る

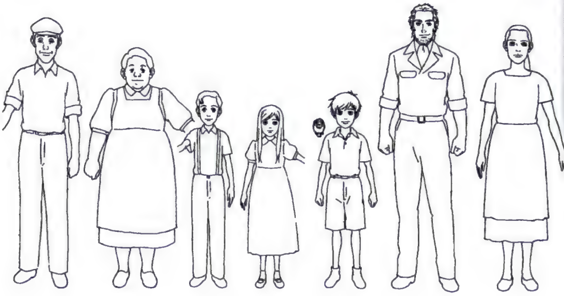
秋
- マテーラのサッシの町へ
- カタロニアのマルティーニ農園へ
- シチリア島へ
- 軍の輸送機でローマへ

晩秋
- 北イタリア、南フランスを放浪

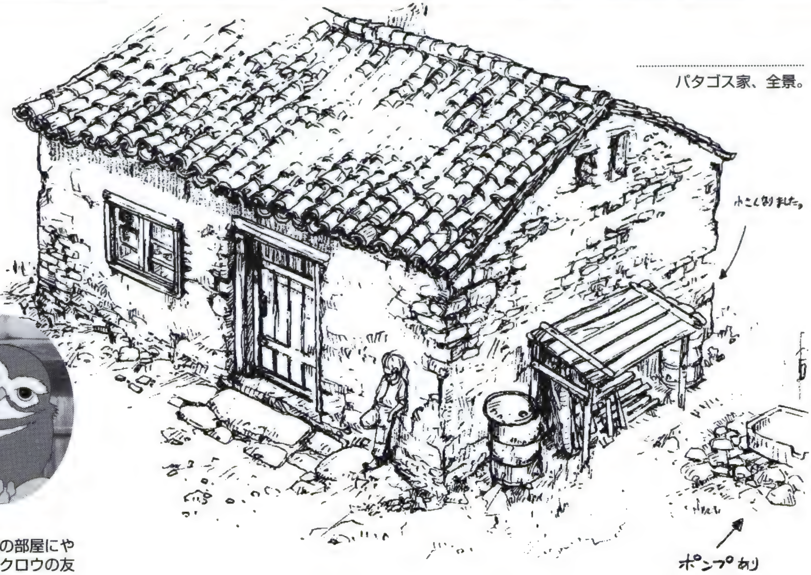
12月
- アレッシアと再会、パリへ
- ミーナ、子役で映画デビュー

12月24日
- ポルフィとミーナ再会

キャラクター対比表。



パタゴス家、全景。





アポロ
ポルフィ達の部屋にやって来たフクロウの友達。旅に同行する。

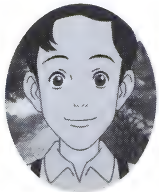
キャラクター紹介



クリストフォール
自動車修理工の父。修理工場を開くため、アテネに出稼ぎに行っていた。修理の腕は一流。



アネーク
料理が上手な母。裕福な家庭に育ったお嬢様だったが、全てを捨ててクリストフォールと結婚する。



ザイミス
ポルフィの大親友で、ミーナとも仲良し。勉強好きで教師になるのが夢。

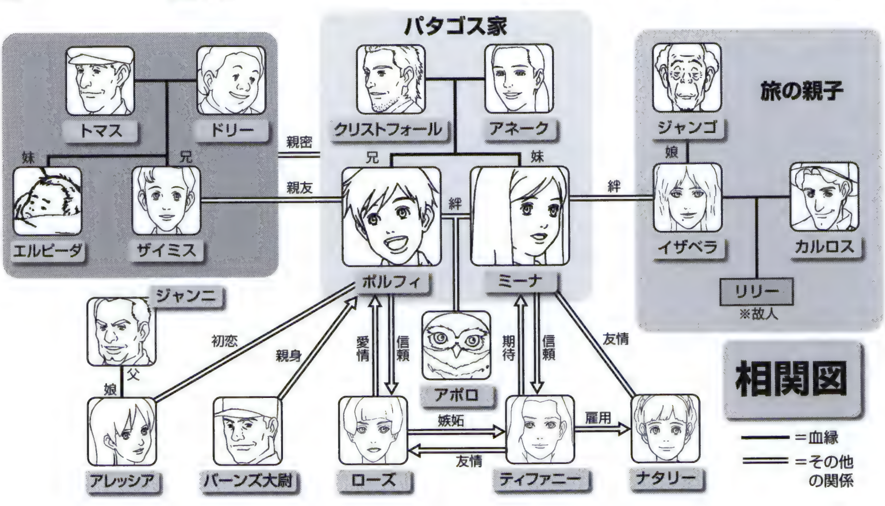


ミーナ
ポルフィの妹。歌やお芝居をする仕事に憧れる。映画『パリの花束』との出会いが人生に深く影響を与えてゆく。

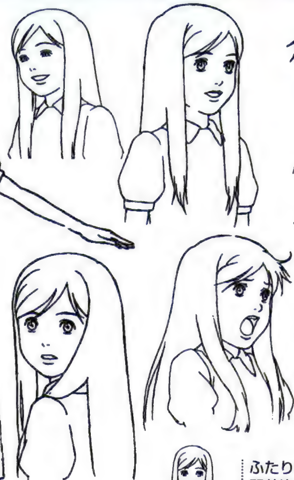


ポルフィ
手先が器用で自動車が大好きな少年。心は真っ直ぐだが思慮が足りない為、とんでもない事態を招くことも。

相関図











ミーナ

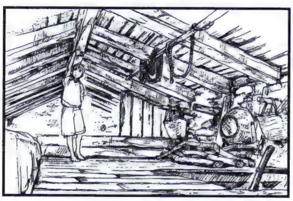
フルネームはマリーナ・パタゴス。春で11歳になる。絵が上手で、舞台の仕事に憧れている。（声：藤村歩）



ふたりの寝間着姿。

ポルフィ

フルネームはポルフィラス・パタゴス。秋で13歳になる。車好きで一目見ただけで名前や製造年などが判る。手先が非常に器用で、父から教わり、簡単な自動車修理なら難なくこなせる。（声：甲斐田ゆき）



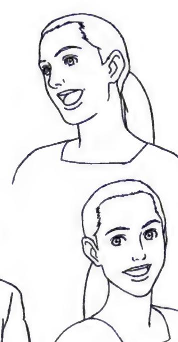
▲二階の屋根裏部屋は子供部屋。

クリストフォール

ポルフィとミーナの父。アテネに出稼ぎに行って資金と工具を揃え、シミトラ村に念願の自動車修理工場を開く（1〜12話）。（声：井上和彦）



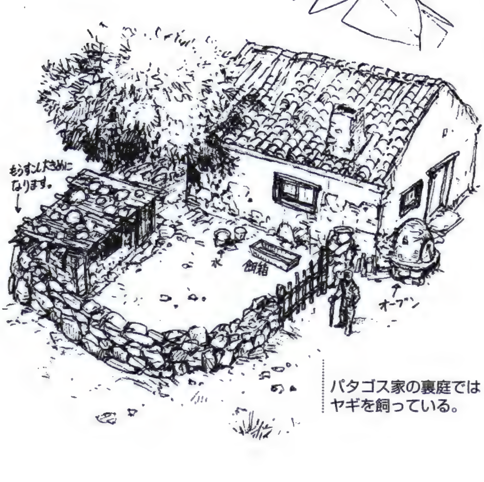




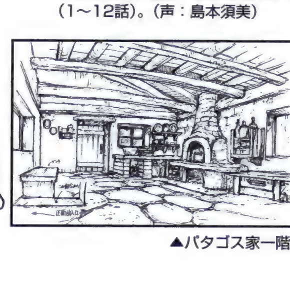


アネーク

ポルフィとミーナの母。ヤニーナ出身のお嬢様だったが、クリストフォールと駆け落ちしてシミトラ村に。今は夫と子供達が一番の宝物である（1〜12話）。（声：島本須美）



パタゴス家の裏庭ではヤギを飼っている。



▲パタゴス家一階。



アポロ

ポルフィ達の部屋にやって来たコキンメフクロウ。その日以来、大切な友達となる（2話～）。

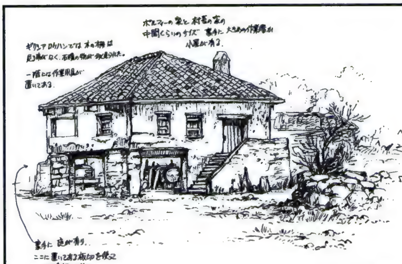


ザイミス

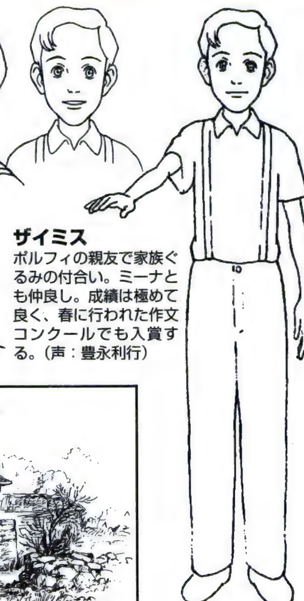
ポルフィの親友で家族ぐるみの付合い。ミーナとも仲良し。成績は極めて良く、春に行われた作文コンクールでも入賞する。（声：豊永利行）



アポロを模した木彫りのペンダント。ポルフィが自作してプレゼントした。ミーナの大切な宝物となる（4話～）。

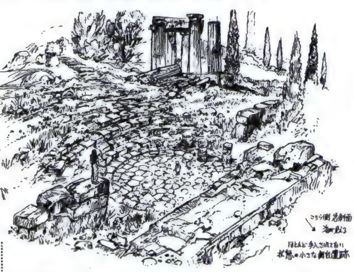


▲ザイミスの家。



トマス

ザイミスの父。クリストフォール同様、幼い頃からシミトラ村にいる。

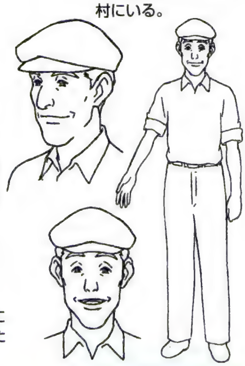


円形劇場。ミーナの誕生日に家族で訪れた、三千年くらい前の遺跡。この日からミーナは舞台に立つことを夢見るようになる（4話）。



ドリー

ザイミスの母。お腹には既にふたり目の赤ちゃんがいた（1話～）。（声：くじら）



ストーリー紹介 1～4話

1話 父さんからの手紙

珍しい車を見かけたポルフィは、近くで見ようと放牧中のヤギをミーナに任せ、ひとりで行ってしまう。戻って来ると、ヤギのペギーがいなくなっていた。

2話 友達がやって来た

出稼ぎの父さんから手紙と贈物が届いた夜、2階の子供部屋に野生のフクロウが訪れた。ミーナはフクロウにアポロと名付け、友達になる。

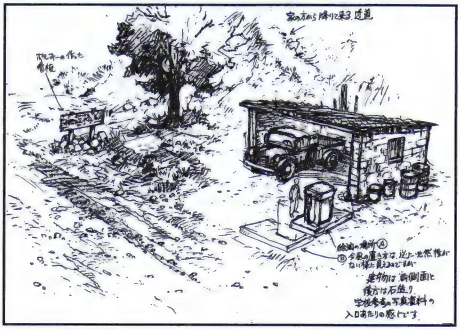
3話 父さんを迎えに

父さんが帰って来る。待ちきれないポルフィとミーナは、一緒にバスターミナルまで迎えに行くことにした。けれど時間を過ぎてもバスは来ない。

4話 ミーナの誕生日

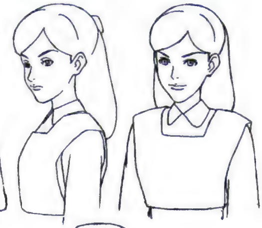
ミーナの誕生日、一家は村長から車を借り、ピクニックに出かける。ポルフィはミーナの誕生プレゼントに、アポロを模した木彫りのペンダントを贈る。

名作メモ シミトラ村から見える海はイオニア海。イオニア諸島のレフカダ島は小泉八雲の出身地でもある。



▲パタゴス大ステーション。修理工場。そしてガソリン給油機。ポルフィの夢が少しずつ現実になっていく。





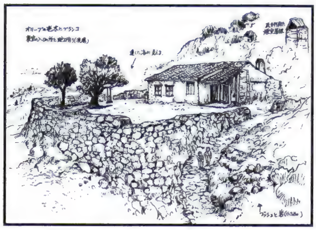
コリーナ

村長の娘。ポルフィ達を見下している所があるが、ザイミスが大好き。祖母から貰ったフランス人形をいつも持ち歩いている（2〜12話）。（声：今野宏美）



トニー

三輪トラックに乗っているおじさん。ポルフィ達を荷台に載せてくれる（1〜14話）。



▲ポルフィ達が通う村の学校。

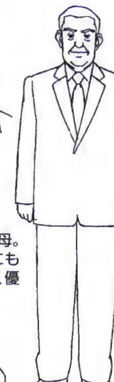




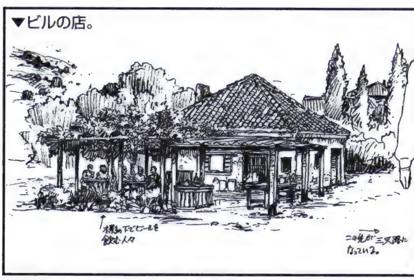
エヴァ

コリーナの母。村の子供達にも分け隔てなく優しい。





村長。娘のコリーナにはとても甘い。

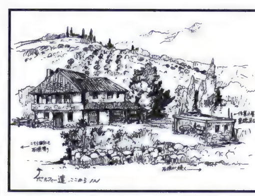


▼ビルの店。



ビル

雑貨屋を兼ねた居酒屋を経営している（1〜13話）。



▲村長の家。車は乗用車とトラックの2台持っている。

ストーリー紹介 5〜8話

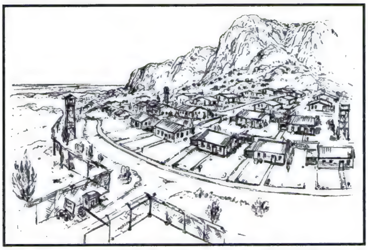
5話 ぼくたちのステーション
父の工場作りを手伝いたくて、学校をさぼるポルフィ。それを止めようとしたザイミスと喧嘩をしてしまい、気まずいことに。仲直りするにはどうすれば…。

6話 イタリアから来た少女
帰宅の途中、ポルフィ達は故障したトラックの親子と出会う。早速父が修理するが、ポルフィは乗っていた女の子を男と間違え、怒らせてしまう。

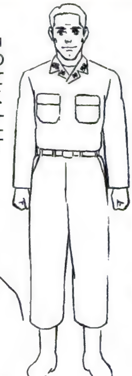
7話 ポルフィの欲しいもの
工場にガソリンの給油機が欲しい父は、銀行に融資を求める為、家族で街へ出かけることにした。父の仕事の間、ポルフィ達は映画を観ることに。

8話 真夜中の作戦
道路に釘をまいて車をパンクさせれば工場のお客が増える。そう考えたポルフィは釘を買い、ベッドで家族が寝静まるのを待つ。そして作戦は実行された。

名作メモ ミーナはギリシャ神話の太陽神からアポロと名付けたと言うが、アポロはローマ神話の太陽神である。

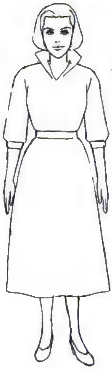

▲米軍基地。ギリシャはNATOに加盟しており、アメリカ軍が駐留している（9話）。

スミス
パタゴス大ステーションに訪れた際、息子のジョンとトムを連れて来る。記念に撮ってくれた写真は、後にミーナ捜索に役立つことに（10話）。



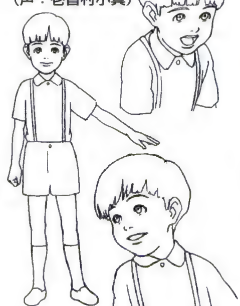
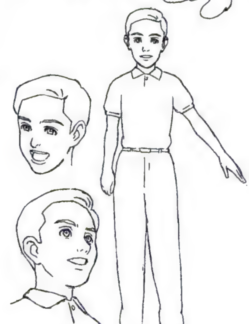
バーンズ
大尉。家族に送る記念写真を撮ろうとシミトラ村近郊に訪れた際、ポルフィと知り合う。ポルフィ達に何かと便宜を図ってくれる（1～29話）。
（声：大友龍三郎）



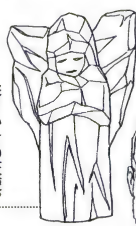

マーサ
ジョンとトムの母。ポルフィ達はおやつをごちそうになる。ミーナとは『パリの花束』で意気投合（9話）。

メアリー
生まれて間もないマーサの娘。あまりの可愛らしさにミーナは感激する（9話）。

トム
ジョンの弟。少し臆病な所がある（9、10話）。
（声：壱智村小真）

ジョン
メジャーリーグを夢見るアメリカ少年。カーブが投げられる（9、10話）。（声：日比愛子）



彫りかけの天使。


木彫りの天使。生まれて来る赤ちゃんの為に、兄となるザイミスが作ることにした。ミーナがデザインし、ザイミスが彫り、ポルフィが最終的に仕上げた（11～13話）。


神父。アレッシアのお母さんに聴こえるようにと、鐘を鳴らし続けるポルフィを、いたずらしてると思い怒鳴りつける（6話）。


▲シミトラ村の教会。

ストーリー紹介 9～12話

9話　新しい世界
バーンズ大尉からの手紙は、パタゴス修理工場を米軍の指定修理工場にしたいという依頼だった。ポルフィとミーナは父と一緒に米軍基地に行く。

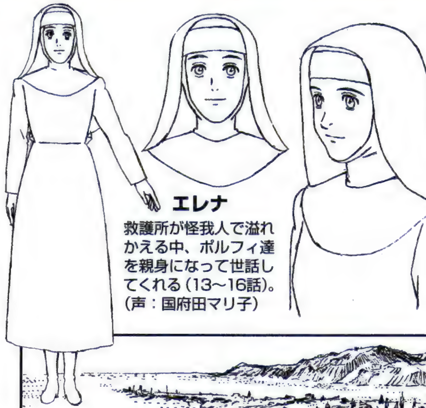
10話　夏の一日
米軍の指定修理工場に指定されたことが噂で広まり、遠くからもお客が来るようになる。ポルフィ達は大忙しだ。そんなとき、ジョンとトムが遊びに来た。

11話　ポンプとアイスクリーム
もうじき産まれる弟か妹の為に、ザイミスは木彫りの人形を彫ることに。そこでミーナはデザインを考え、ポルフィは彫り方を教えると約束する。

12話　運命の日
ミーナの木につぼみができた朝、アポロは何故か餌を食べず部屋にも入らない。井戸からは水が出なくなり、コンクリートにはヒビが入っていた。



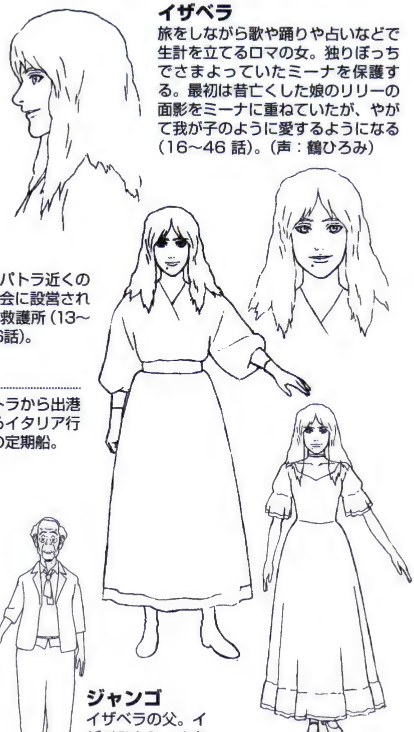
名作メモ　ギリシャの学校の夏休みは、6月半ばから9月半ばまで。3ヶ月もある！！



エレナ
救護所が怪我人で溢れかえる中、ポルフィ達を親身になって世話してくれる（13〜16話）。（声：国府田マリ子）



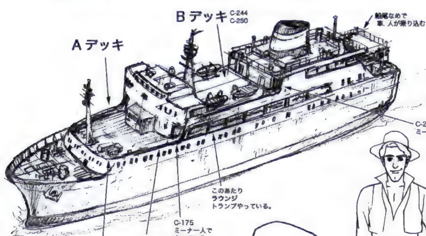
エルピーダ
ザイミスの妹。その名の通り、救護所で生まれた最初の「希望」となる。



イザベラ
旅をしながら歌や踊りや占いなどで生計を立てるロマの女。独りぼっちでさまよっていたミーナを保護する。最初は昔亡くした娘のリリーの面影をミーナに重ねていたが、やがて我が子のように愛するようになる（16〜46 話）。（声：鶴ひろみ）



◀パトラ近くの教会に設営された救護所（13〜16話）。



パトラから出港するイタリア行きの定期船。



カルロス
イザベラの夫。ジャンゴと共にカードで生計を立てるイカサマギャンブラー。自分になつかないミーナを疎ましく思うようになってゆく。（声：青山穣）

ジャンゴ
イザベラの父。イザベラとミーナを温かく見守る。

ストーリー紹介 13〜16話

13話 失ったもの残ったもの
大きな地震が収まり、振り返ったポルフィが見たものは、変わり果てたシミトラ村だった。家族は無事なのか？ 胸騒ぎを覚えたポルフィは家路を急ぐ。

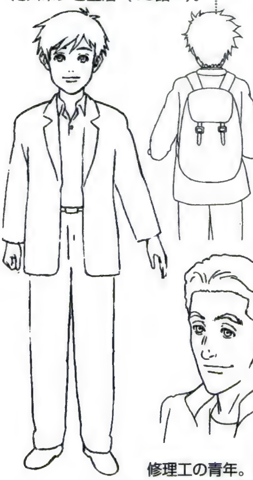
14話 ぼくはミーナを守る
救護所で産まれた新しい命。ザイミスの妹は、地震後初めての希望だった。しかしミーナは、両親を失った悲しみから、心を閉ざしてしまう。

15話 想い出を抱きしめて
ミーナだけ引き取りたいと言う家族がいる。バーンズとエレナの話を立ち聞きしたポルフィは、ミーナと共に救護所から逃げ出してしまう。

16話 海の向こうへ
道に迷い、独り港町パトラまで来てしまったミーナは、母に似た後ろ姿の女性を追いかけ、誤ってイタリア行きの船に乗り込んでしまう。

名作メモ ギリシャの学校制度は新学期が9月始まりであることを除けば日本と同じ。ポルフィは秋から中学生だった。

アンゲロプロスに貰ったリュックと、長旅に備えて調達したズボンと上着（18話～）。

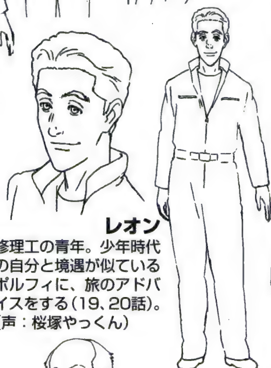


アンゲロプロス
パトラに住む老人。妻にも息子にも先立たれ、独りで暮らしていた（17話）。



▼アンゲロプロスの家。壁塗りの仕事の間、泊めてもらうことに（17話）。



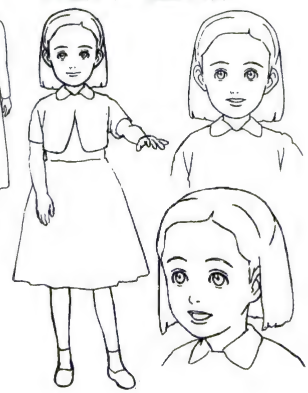


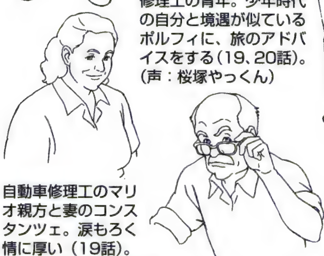
レオン
修理工の青年。少年時代の自分と境遇が似ているポルフィに、旅のアドバイスをする（19、20話）。（声：桜塚やっくん）



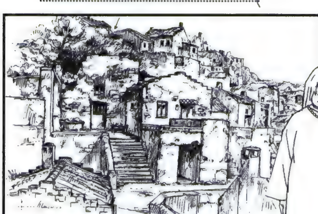
マリカの両親、アルフィオとジェシカ。船に乗っている間、ミーナの手がかりを探してくれた（18話）。

マリカ
アポロをきっかけに知り合う女の子（18話）。（声：西原久美子）





自動車修理工のマリオ親方と妻のコンスタンツェ。涙もろく情に厚い（19話）。



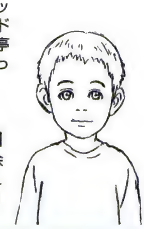
▲洞窟住居、サッシの町にあるドーラの家。



ドーラ
ポルフィを自分の死んだ息子アントニーノと混同し、リュックを隠して引き止めようとする（20、21話）。（声：永澤菜教）



ガスパロ
チロの祖父で、サッシの町の元町長。ドーラの亡くなった亭主とは幼馴染みだった（20、21話）。（声：塚田正昭）



チロ
サッシの町が大好きな男の子。余所者が苦手だったが、一緒にリュックを探してくれた（20、21話）。（声：小松里歌）

ストーリー紹介 17～20話

17話 真っ白な旅立ち
船に乗ったミーナを追おうにも船賃が無い。なんとか仕事を見つけて、まとまったお金を稼がねば。ポルフィは壁塗りの仕事を紹介してもらう。

18話 さよならギリシャ
稼いだお金で長ズボンと上着を買ったポルフィ。出航時間まで船を見ながら待つことにする。するとマリカという少女がアポロに興味津々で声をかけて来た。

19話 イタリアの港で
危うくお金を盗られそうになったポルフィを助けたのは、自動車修理工をしている若者レオンだった。レオンはひとりでいるポルフィを気遣う。

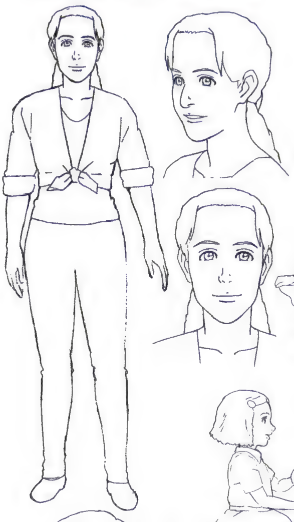
20話 洞窟の街
初めて乗る列車に興奮気味のポルフィだが、北へ向かうはずの列車は、いつの間にか西へと向かっていた。慌てて降りた駅の周囲には人家が無かった。

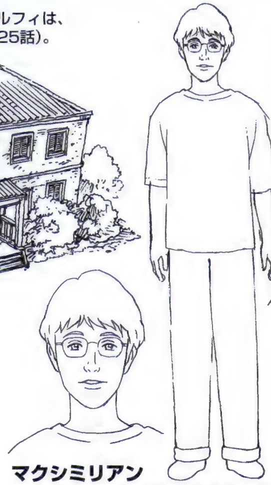
名作メモ　レオンが家族を亡くしたモンテ・カッシーノの戦いは1944年1月～ 5月にかけて4回にわたって行われた。

マルティーニ農園にある民宿。ここでポルフィは、シミトラ村時代の生活を懐かしむ（22〜25話）。

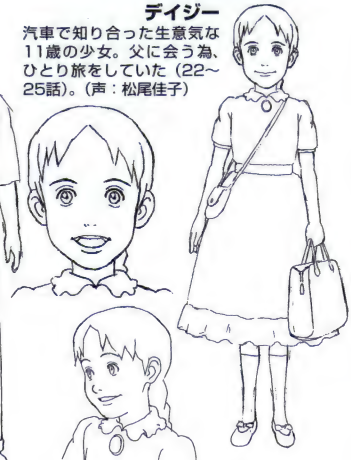


イラーリア
農園の娘。マクシミリアンの恋人だが、何故か結婚はしないと断言する。その言葉の裏には喧嘩別れした親友がいた（22〜25話）。（声：山田栄子）





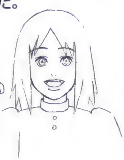
マクシミリアン
汽車で知り合った青年。音楽家を目指し、音楽大学に進学。宛の無い旅をするポルフィをマルティーニ農園に誘う。（22〜25話）。



デイジー
汽車で知り合った生意気な11歳の少女。父に会う為、ひとり旅をしていた（22〜25話）。（声：松尾佳子）

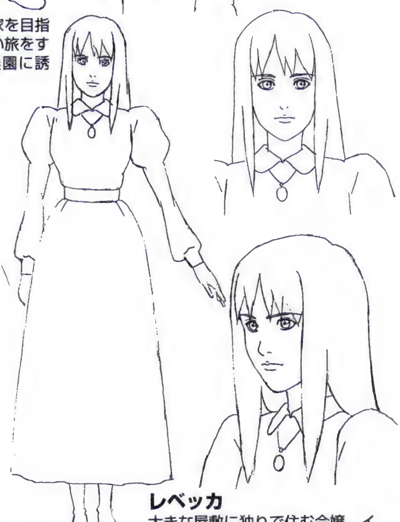


砕いたはずのレベッカの人形は修復されていた。





少女時代のイラーリア（声:久村夏里奈）とレベッカ（声:日高里奈）。イラーリアの誕生日にレベッカはお揃いの人形を贈り、ふたりは永遠の友情を誓い合った（23話）。



レベッカ
大きな屋敷に独りで住む令嬢。イラーリアとは親友だが、ある事をきっかけに絶縁状態に（22〜25話）。（声：高山みなみ）

ストーリー紹介 21〜24話

21話 ドーラとの別れ
ポルフィが目を覚ますとリュックサックが無くなっていた。野犬に盗られたのだろうか。慌てて探しに行くポルフィだが、迷路のような街で迷ってしまう。

22話 線路はつづくよ
ミーナを探してあての無い旅をするポルフィは、列車で知り合った大学生のマクシミリアンに誘われ、彼の恋人の農園に泊めてもらうことになる。

23話 ひび割れた人形
イラーリアの車が故障してしまう。ポルフィは修理に必要な工具を借りる為、近くの屋敷を訪ねる。そこには気の強そうな若い女性が独りで住んでいた。

24話 笑顔の帰る場所
何とかしてイラーリアとレベッカを仲直りさせたい。そう思ったポルフィは、レベッカから想い出の人形を拝借し、カフェでふたりを会わせるよう計画する。

名作メモ ポルフィの時代は過疎化が進んだサッシの町だが、現在は世界遺産へ登録され、人口も増えている。



ドン・バルバッツァ
ニューヨークでファミリーを拡大して来たが、引退して故郷のシチリア島に戻って来た（26～28話）。

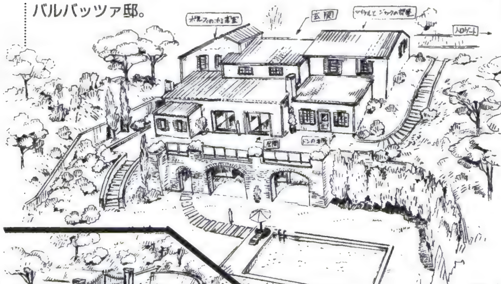


ジャック・バルバッツァ
元アメリカ空軍爆撃機パイロット、朝鮮戦争にも出兵した（26～28話）。
（声：古谷徹）

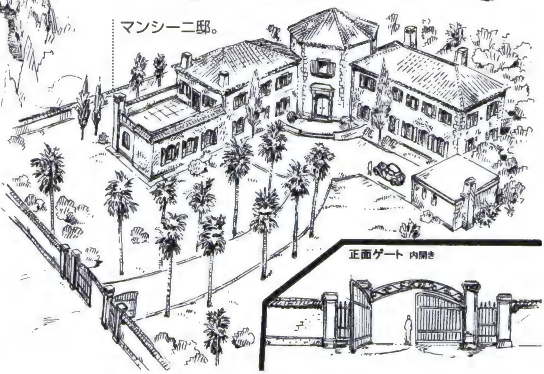


マイケル・バルバッツァ
シチリア島の海辺で魚を捕ろうとしていたポルフィと出会う（26～28話）。
（声：折笠愛）

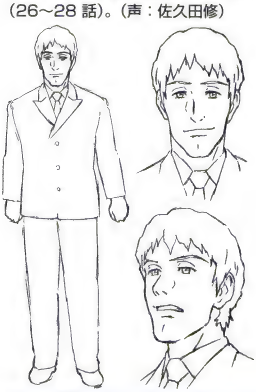
バルバッツァ邸。

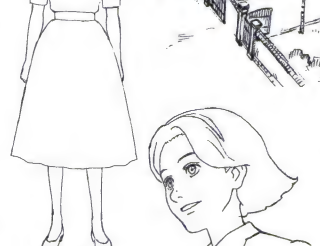


マンシーニ邸。



アンドレ
マンシーニ・ファミリーの若旦那。第二次大戦中、米軍の爆撃で母を亡くし、今でも恨みに思っている。(26～28 話)。(声：佐久田修)





モニカ
アンドレの妹。ジャックと情熱的な恋をする。彼女の作るグラニータは絶品（26～28話）。(声：堀江美都子)



ドン・マンシーニ
アンドレとモニカの父。ドン・バルバッツァとは旧知の仲（28話）。

ストーリー紹介 25～28話

25話 小さな街の小さな友情
町役場にミーナの情報を求めるポスターを出したが、中々成果は上がらない。そんなとき、ポルフィの元に列車で知り合ったデイジーが遊びに来る。

26話 汽笛がきこえたら
間違ってシシリア島に来てしまったポルフィは、旅費を稼ごうと魚を獲る。けれどよそ者が魚を獲ることは禁じられており、マフィアに捕まってしまう。

27話 あなたに届けたい
ポルフィが出会ったマイケルの兄ジャックは、恋人モニカに愛の告白をする。しかし、家がマフィア同士なため、ジャックとモニカは会えなくなってしまう。

28話 シシリアン・ラプソディ
ジャックとモニカの婚約も決まり、掃除も終わった。アンドレは総仕上げとして、ポルフィの為にファミリーの総力を挙げてミーナの手がかりを探す。

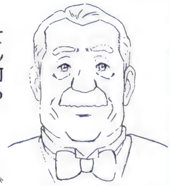
名作メモ ロマ（roma）とは北インドのロマニ系に由来する移動型民族。かつてジプシーと呼称されていた。



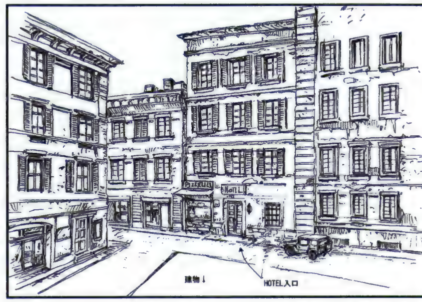
オルガ
ローマでスリをして稼いでいた。ホテルでも盗みを働き、何食わぬ顔で立ち去ろうとした。



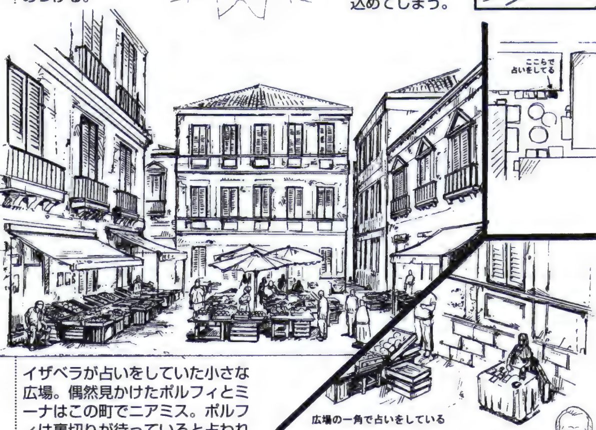
女性客。ホテルの部屋でオルガにバッグを盗まれ、ポルフィの仕業と決めつける。



ブルーノ
ホテルマン。ポルフィを盗みの犯人と思い込み、倉庫に閉じ込めてしまう。



▲格安ホテル。ミーナ捜索の拠点としてポルフィが長期宿泊できるよう、バーンズ大尉が手配してくれた（29～31話）。



イザベラが占いをしていた小さな広場。偶然見かけたポルフィとミーナはこの町でニアミス。ポルフィは裏切りが待っていると占われる（30、31話）。



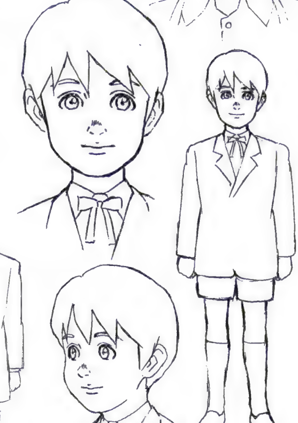
広場の市場で果物を売る屋台のおじさん。その隣でイザベラが占いを、ミーナが呼び込みをしていた（31話）。



オットー
アイゼンベルグの忠実なる執事。車の運転手も兼ねている（32話）。



カール・フォン・アイゼンベルグ
伯爵。ドイツ貴族でハインツの父。ミーナに好意を抱いたハインツの為にミーナを引き取り、立派なレディに育てると約束するが…（32話）。



ハインツ
ドイツの少年。喘息の治療で温泉の街に来ていたが、身近に同じ年頃の子がおらず、呼び込みをしていたミーナに話しかける（32話）。（声：喜多道枝）

ストーリー紹介 29～32話

29話 手紙
イタリア軍ローマ基地に辿り着いたポルフィは、思わぬ人と再会する。バーンズ大尉が待っていたのだ。大尉はザイミスからの手紙を預かっていた。

30話 ローマの道しるべ
ミーナの手がかりを求めて聞き込みを始めるポルフィだが、ローマはあまりにも広かった。挫けそうになったとき、占い師がポルフィに声をかけてくる。

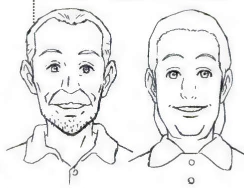
31話 この街のどこかに
ついにミーナの手がかりをつかんだポルフィ。しかし次の朝、ホテルの客から盗みを働いた疑いをかけられ、ポルフィは部屋に閉じ込められてしまう。

32話 ミーナとイザベラ
ミーナは温泉の街で、ドイツから来た貴族の少年ハインツに声をかけられ、思わず逃げ出してしまう。だが、追いかけたハインツが喘息で倒れてしまった。

名作メモ　バーンズ大尉の子は娘がふたり。ポルフィに親切だったのは、元気な息子が欲しかったからかもしれない。

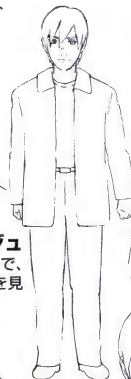



ソフィア
ポルフィを連れ、城壁の街を案内する。祖母が作ってくれた人形ビアンカを大事にするが、足がちぎれかけても修繕しない。天使様にプレゼントする為に…(33話)。(声：山本麻里安)



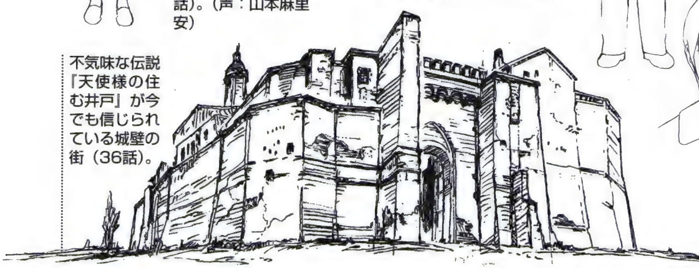
マリカの両親アントニオとマルタ。この街の人々は不気味なくらい良い人達ばかり（33話）。

グイード
共同生活をする少年達のリーダー。明るく、人当たりも良く、口がうまい。ポルフィに近づいた真意とは？（33 話）（声：田中真弓）



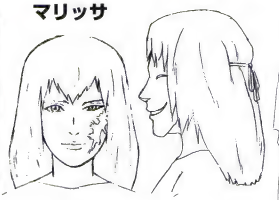



ジョルジュ
無口で不器用者。少年達の中で、ただひとり、ポルフィに敵意を見せるその真意とは？（33話）



不気味な伝説『天使様の住む井戸』が今でも信じられている城壁の街（36話）。

マリッサ
屋敷の火事で両親を失い、自身も顔に醜い火傷と、心に深い傷を負ってしまう。それ以来、奇妙な仮面を被り、誰も友達を作らずに生きて来た。ただひとり、サンドラを除いて…(36話)。(声：日高のり子)






ジュリアーニ
ドイツのサイドカーを乗り回すハイカラな巡回神父。第二次大戦時にギリシャへ進軍した過去がある。（35話）。
（声：池田秀一）



マリッサの家。古びたガソリンスタンドの裏にある。

ストーリー紹介 33～36話

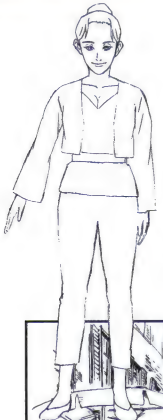
33話 傷だらけの少年たち
ポルフィが故障した車を修理する様を見つめる少年。彼は道を先回りすると親しげに話しかけ、泊まるあての無いポルフィを自分達の寝床へと誘う。

34話 天使へのプレゼント
トラックの運転手の家に泊めてもらったポルフィは、娘のソフィアに誘われ町を探検する。平和な日常。親切な人達。けれど、この町は何かが変だった。

35話 信じるこころ
激しい雨と雷の夜、ポルフィはずぶ濡れなりながら小屋に辿り着く。そこには巡回神父ジュリアーニが雨宿りしていた。次の朝、ポルフィは熱を出す。

36話 仮面の素顔
ポルフィは奇妙な仮面をかぶった少女マリッサと知り合う。ポルフィは友達になるが、そんなマリッサを、一緒に住むサンドラは罵り責め立てる。

名作メモ 33話のソフィア役の声を担当する山本麻里安は、同話の脚本も執筆している。



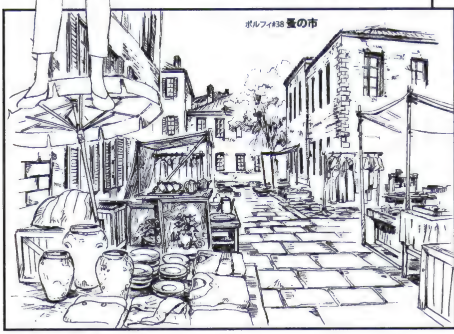


エミリア

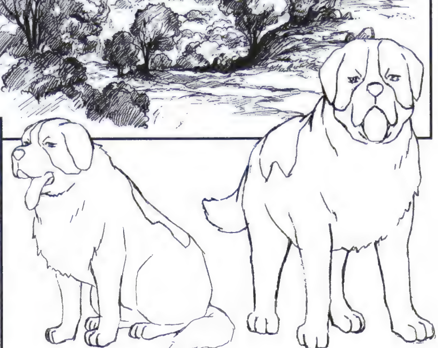
蚤の市で服を売っていた女性。どうしても外せない用事（競馬）があって、ポルフィに店番を任せる。（38話）。（声：岡本麻弥）



▶ベルナルドに導かれ、ポルフィが見た絶景の丘の景色。



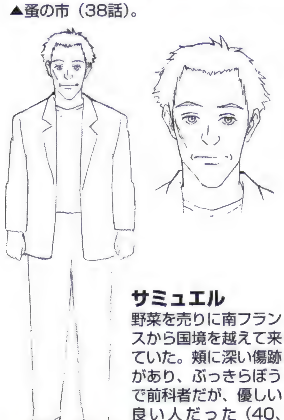
▲蚤の市（38話）。



ベルナルド

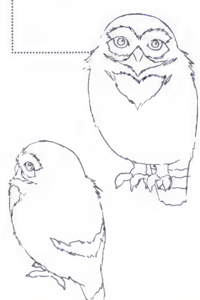
老犬。ポルフィを最期のときを過ごす相手に選び、絶景が見える丘の上へと誘った（37話）。





サミュエル

野菜を売りに南フランスから国境を越えて来ていた。頬に深い傷跡があり、ぶっきらぼうで前科者だが、優しい良い人だった（40、41話）。



アポロが旅の途中で出会う、かわいいメスのコキンメフクロウ。物語上で名前は出なかったが、設定画には『ダイアナ』とある（37話）。





ジーナ

色っぽい化粧と服に身を包み、人気の無い道端で車が止まるのを待っていた。一生懸命生きるポルフィと話すうち、少しだけ優しい気持ちを取り戻す（39話）。（声：柳井久代）

ストーリー紹介 37～40話

37話 ふたりで見る景色
森で野宿をしていたポルフィは、大きな老犬ベルナルドと出会う。ポルフィのリュックをくわえ、誘うように逃げ出すベルナルド。その先にあったのは…。

38話 風に散る
蚤の市で売り子をすることになったポルフィは、思いがけない物を見つける。ミーナが持っているはずの母の銀時計が、出店で売られていたのだ。

39話 君へと続く道
フランス国境を目指しポルフィは北に向かう。泥棒に間違われ、森で迷い、廃屋で野宿しながらも、諦めずミーナとの再会を信じて進む。

40話 国境を目指して
農家に訪れたポルフィは、納屋にあるベッドをみて睡魔に負け、横になって眠り込んでしまう。そこは画家志望のミケーレのアトリエだった。

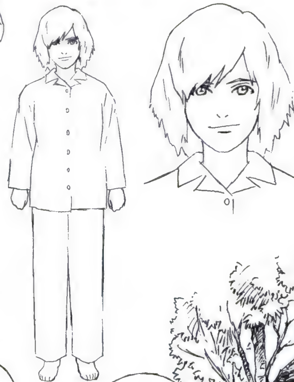
名作メモ 37話に『フランダースの犬』をモチーフにした絵が出るが、ネロの後ろ姿はマルコ・ロッシのようだ。

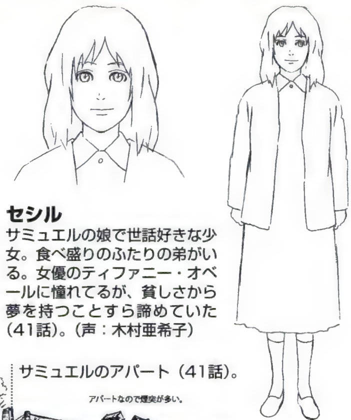


ニコラ&マルセル。マリアンヌを追う警察達（42話）。

マリアンヌ

女囚。娘を取り戻そうと監獄から脱獄するが…（42話）。
（声：冨永みーな）



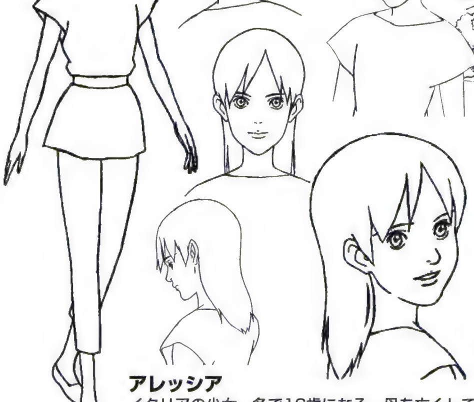


セシル

サミュエルの娘で世話好きな少女。食べ盛りのふたりの弟がいる。女優のティファニー・オベールに憧れてるが、貧しさから夢を持つことすら諦めていた（41話）。（声：木村亜希子）

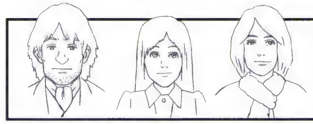
サミュエルのアパート（41話）。



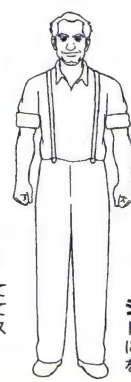


アレッシア

イタリアの少女。冬で16歳になる。母を亡くして以来、トラック運転手の父とヨーロッパ中を回っている。ギリシャで知り合ったポルフィと、フランスで思いがけない再会を果たす（6、44話）。
（声：伊瀬茉莉也）



▲後ろ姿がミーナにそっくりな少女ジゼールと、父ギョーム、母ロマーヌ（43話）。





ジャンニ

トラック運転手。そろそろ年頃になろうとする娘のアレッシアを心配している（6、44話）。

ストーリー紹介 41～44話

41話 南フランスの家族
サミュエルに、娘のセシル達を紹介され、食事までもらうポルフィ。ささやかなお礼にと木切れを集め、セシルの弟達の為に車の模型を作ってやる。

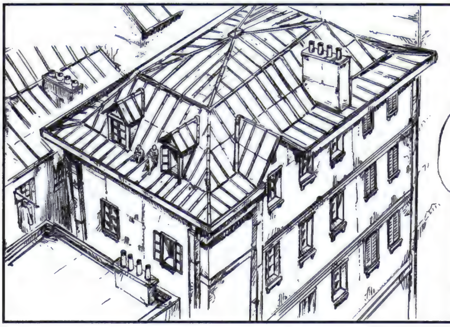
42話 奪われた愛
修理工場で働くポルフィは、その夜、脱走した女囚と遭遇した。娘を取り戻したいと願う女囚マリアンヌの想いを知り、ポルフィは協力を申し出る。

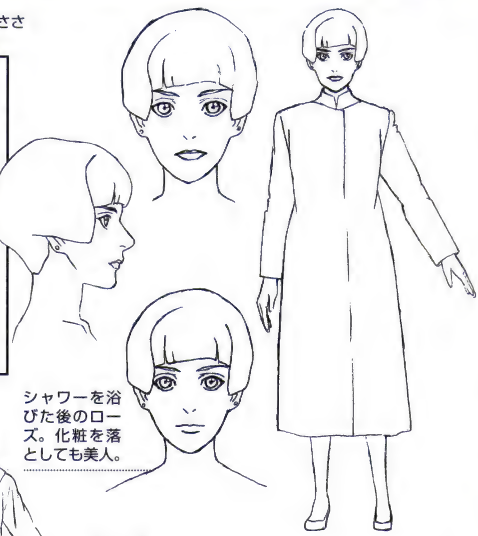
43話 友よ
やっと見つけた旅の占い師の親子は別人だったが、ミーナの有力な情報を得た。再びポルフィは歩き始めるが、目指すパリはあまりにも遠かった。

44話 勇気をあげる
雪の降る夜、アレッシアは父と共にトラックで一路パリへ。その途中、フラフラと歩く人影にトラックは急停止。人影はギリシャにいたポルフィだった。

名作メモ 物語で度々登場するオリーブ。収穫時期はギリシャもイタリアも11月中頃で、ポルフィの旅の時期が推促できる（39話）。

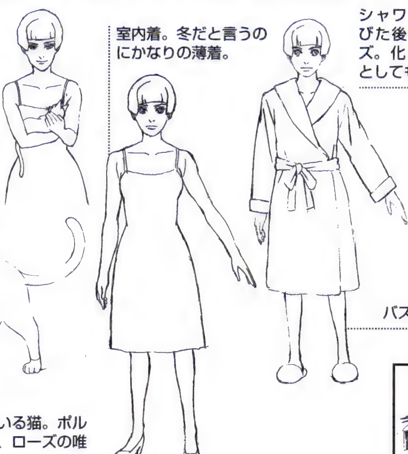
▼ポルフィが居候するローズの住むアパート。最上階がローズのささやかなる『お城』。屋根に寝そべって見る星空は絶景（45話〜）。





シャワーを浴びた後のローズ。化粧を落としても美人。





室内着。冬だと言うのにかなりの薄着。

バスローブ姿。

ローズ
15歳のとき、南フランスの片田舎から女優を夢見てパリにやって来た。だけど10年経った今、何も無い。夢も、誇りも、帰る場所も…。そんなローズにとり、何処までも真っ直ぐでひたむきなポルフィはあまりにも眩しい存在だった。（声：長沢美樹）

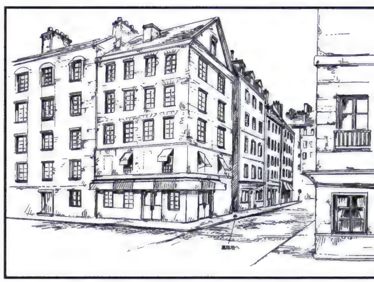
ノワール
ローズの飼っている猫。ポルフィが来るまで、ローズの唯一の家族だった。

アルキス
ギリシャ料理店の料理人。人当たりは良いが、ドライな性格。



クサロプーロス
ギリシャ料理店のオーナー。ポルフィを雇うが、何かに付けてケチを付けて減俸する上、チップまで取り上げた。





▲ギリシャ料理店クサロプーロス亭。ポルフィがここで働き始めて間もなくローズと出会う（45話〜）。

ストーリー紹介 45〜48話

45話 路地裏に咲く薔薇
ひょんなことからギリシャ料理の店で働くポルフィは、女性客が忘れた本を追いかけて渡す。ポルフィにお礼が言いかった彼女は閉店まで外で待っていた。

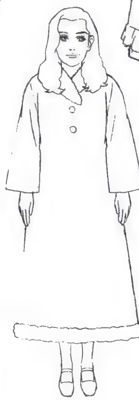
46話 パリのめぐり逢い
イザベラとミーナが占いをしていると、女優のティファニーが現れた。彼女は映画に出る子役を捜しており、ミーナにその役をやってほしいと言うのだ。

47話 新しい扉
全てをティファニーに託し、イザベラはミーナの元を去った。怯えるミーナにティファニーは、映画に出れば、きっとお兄さんも観てくれると説得する。

48話 夢のかけら
売り上げを盗んだと疑われ、両親を侮辱されたポルフィは、怒って店を辞めた。心の傷にも触れてしまい、更にローズの部屋からも追い出されてしまう。

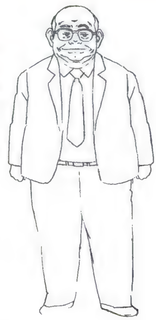
名作メモ　パン屋が地図で指差した現在地はパリ5区のモンジュ通り。近くにはリュクサンブール公園がある（46話）。





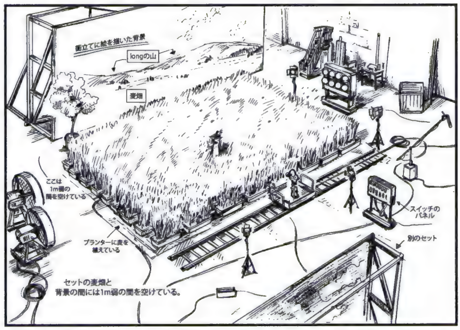
ナタリー
ティファニーの元で働くメイド。仕事柄従順な姿ばかり見せているが、実はもの凄く気が強く、軟派な男が大嫌い。ミーナにとって初めての特別な友達となる（46〜52話）。
（声：川庄美雪）





パスカル
ティファニー専属のドライバー兼マネージャー。後にミーナのマネジメントも兼ねることとなる（46〜52話）。
（声：緒方賢一）

ティファニー・オベール
人気女優。映画の自分の役の子供役を探していたとき、ミーナと運命的に巡り会う。そしてミーナの身を案じていたイザベラからミーナを託されることに（46〜52話）。（声：林原めぐみ）



▲『天使の歌』のラストシーンが撮影されたセット（48話）。






▲映画スタジオ出入り口。守衛が邪魔をしてポルフィひとりでは入れなかったが、ザイミスの協力で侵入に成功する（50、51話）。

アメリ
映画のスタッフでメイク係。ティファニーとローズの数少ない共通の知人。

ストーリー紹介　49〜52話

49話　ランデブー
今日はデートをしようとローズが提案。デートの基本から始めることに。これで大人に一歩近づけると言われ、ポルフィはぎこちなくローズをエスコートする。

50話　うそ
ミーナを見つけたら一緒にギリシャに帰る。ポルフィの言葉にショックを受けたローズは、子役がミーナだと判明しても、別人だったと嘘をついてしまう。

51話　願い
再会したザイミスは、子役はミーナに間違いないと断言した。でもローズは頑なに否定。ザイミスはポルフィに、ローズに内緒で出かけるように言う。

52話　この瞬間のために
外出したローズはわだかまりを捨て、ミーナのことで話をしたいとティファニーに電話する。大切な人に、とっておきのクリスマスプレゼントをする為に。

名作メモ　ザイミスの台詞で出た俳優ジャン・ギャバンは実在の人物で、この年49歳。翌年、代表作『現金に手を出すな』に出演している（51話）。

ポルフィゲスト声優リスト

世界名作劇場の25作目となることを記念し、『ポルフィ』にはこれまでの世界名作劇場を支えた声優陣が、旅の途中で出会う人々や重要な役で出演し、華を添えた。ここでは出演したゲスト声優と、これまで演じた主な役を紙面の許す限り紹介しよう。

ポルフィでの配役 声優名	登場 話数	過去の作品での配役（作品名）
クリストフォール **井上和彦**	1〜12	ギルバート（アン）、ジョン（ルーシー）、アッキ（カトリ）
アネーク **島本須美**	1〜12	**セーラ**（セーラ）、ティンク（ピーターパン）
エレナ **國府田マリ子**	13〜16	プリシラ（ラッシー）
イザベラ **鶴ひろみ**	16〜46	**ペリーヌ**（ペリーヌ）、レオノラ（あしなが）
デイジー **松尾佳子**	22〜25	**マルコ**（三千里）、セオドラ（ラスカル）、ミス・ハリス（アン）、ペニー（トム）、**フローネ**（フローネ）
イラーリア **山田栄子**	22〜25	**アン・シャーリィ**（アン）、ルシエン（アンネット）、ラビニア（セーラ）、ジミー（ポリ）、**ジョオ**（若草）、ジェーン（セディ）、イヴォンヌ（トラップ）、**ジョー先生**（ナンジョー）、ミリガン夫人（レミ）
デュリオ **島田敏**	23〜25	ウィルキンス（セディ）、ジミー（あしなが）、ヘンリー（ブッシュ）、エンリコ（ティコ）、ハミルトン、ロバート・カリー先生（ラッシー）
レベッカ **高山みなみ**	23〜25	ロイ（セディ）、トミー（ナンジョー）
マイケル **折笠愛**	26〜28	**セディ**（セディ）、**ロミオ**（ロミオ）
ジャック **古谷徹**	26〜28	マヌエル（三千里）、トム・サーマン（ラスカル）、フランツ（フローネ）、マルティ（カトリ）、ジム（セーラ）
モニカ **堀江美都子**	26〜28	ドナルド（セーラ）、**ポリアンナ**（ポリ）、コッキー（セディ）、ジュディ（あしなが）、**レミ**（レミ）
フランツ **喜多道枝**	32	**ネロ**（フランダース）、モーツァルト（フローネ）
グイード **田中真弓**	33	ラッシー子犬時代、コリン・ジョーンズ（ラッシー）
マルタ **伊倉一恵**	34	レオ（カトリ）、エリック（セディ）、トートルズ（ピーターパン）
ジュリアーニ **池田秀一**	35	スコット（ティコ）
マリッサ **日高のり子**	36	**ピーターパン**（ピーターパン）
エミリア **岡本麻弥**	38	パレー青春時代（ポリ）、**ジャッキー**（ブッシュ）、渚（ティコ）
マリアンヌ **冨永みーな**	42	アリス（ラスカル）
ティファニー **林原めぐみ**	46〜52	**ナナミ**（ティコ）、ネリー（レミ）
パスカル **緒方賢一**	46〜52	ジョン・ロジャース（トム）、トム爺（ポリ）、スミー水夫長（ピーターパン）、ジョージ・センプル（あしなが）、クランクショウ（ブッシュ）、アル（ティコ）



イザベラの父ジャンゴ役は『ペリーヌ物語』でタルエル工場長を演じた丸山詠二氏。ペリーヌとタルエルが親子関係になったかと思うと、ちょっと面白い。

映画『パリの花束』

第7話においてヤニーナの映画館で上映され、ミーナを夢中にさせると共に視聴者にも大きな衝撃を与えた『パリの花束』。実写映画の中にアニメが描かれることはあっても、アニメの中で実写が上映されるのはあまり例がない。古い白黒の映画で、物語中でハリウッド製作だと明かされるが、いつ頃の作品なのだろうか？

なんと実はこれ、純日本製である。『パリの花束』は『ポルフィ』のために撮影されたもの。ロケ地は千葉県にあるドイツ村。出演者もテレビ番組の再現VTR等に出演する役者だという。映像マジックとは、正にこのことを言うのかもしれない。



「もう一度会えるって信じてた」（ポルフィ）、「私も信じてた。必ず見つけてくれるって」（ミーナ）。

最終回でポルフィとミーナが交わす台詞は、実は『パリの花束』の主人公である王子と、ヒロインであるクリスティーヌが再会を果たしたときに交わされた台詞を引用しているのだ。

原作について

「シミトラの孤児たち」(Les Orphelins de Simitra)は、1964年に講談社・少年少女新世界文学全集21(フランス現代編)として刊行された。放送開始に合わせ、2008年3月に新訳が発行。タイトルも変更されている。

原作のポルフィはギリシャからオランダへ養子に出された後、ミーナを捜す為に一生懸命仕事をしながら、フランスへの長い道のりを旅していく。

〈原作〉



『ポルフィの長い旅』
訳 :村上 能成
発行:岩崎書店

〈原作者〉
ポール・ジャック・ボンゾン
1908−1978

フランス北西部バス・ノルマンディー地方のマンシュ県に生まれる。サン=ロー師範学校卒。1937年より1949年まで教師を務め、その間に児童文学作家として執筆活動を開始。1955年に「シミトラの孤児たち」で世界子供大賞(Price Childhood of the World)およびニューヨーク・ヘラルド・トリビューン賞(Priceof New York Herald Tribune)を受賞。代表作はクロワ・ルス少年探偵団シリーズ(Les SixCompagnons)。日本では全1989年〜1993年に偕成社よりシリーズ10巻が刊行された。

ポルフィは何語を話す?

『ポルフィ』では演出上、全ての言葉が日本語に〝吹き替え〟られているが、実際には国ごとに異なる言語で会話している。ポルフィはいつの間にイタリア語やフランス語を覚えたのだろう?

ヒントは映像にある。第1話でポルフィが父宛てに書く手紙はギリシャ語で、第7話で読むアレッシアからの手紙はイタリア語で書かれている。つまり、ポルフィは旅をする前からイタリア語を(恐らくフランス語も)話せたのだ。

実はポルフィの母アネークは、元々お金持ちのお嬢様で、結婚する前には海外にも行っていた国際人だった。ペリーヌやセーラがそうであったように、ポルフィやミーナも幼い頃から母に異国の言葉を聞かされ、自然と覚えたのだろう。

『ポルフィ』とギリシャ

紀元前から文化や芸術、哲学などに深い影響を与えて来たことからギリシャは『ヨーロッパ文化のゆりかご』と称されることもある。

1952年にNATO(北大西洋条約機構)に加盟しており、ポルフィの時代設定である1953年から米軍基地も是認されている。1967年以降、反米感情の高まりもあるが、NATOやアメリカ無しに国防が成り立たない現実もある。

ギリシャも地震多発国で、ギリシャ人もちょっとした揺れでは驚かないという。物語にも登場する1953年8月12日の大地震は、イオニア諸島の町並に壊滅的被害を与えている。

シミトラ村はどこにある?

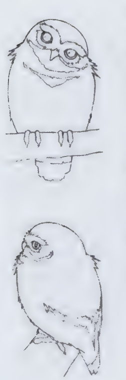
原作のシミトラ村は、ギリシャ北西部にあるエペイロス地方にある。ピンドス山脈のふもとでアルタ県近郊だ。しかしアニメのシミトラ村は、海を越えた西ギリシャ(アハイア県かイリア県)へと変更されている。



アポロはどんなフクロウ?

コキンメフクロウに属する体長25センチ前後の小型のフクロウ。ヨーロッパ、北アフリカ、アジアに生息する。フクロウでは珍しく昼夜を問わず活動。雑食性で寿命は約15年。

神話においては、アテネやミネルバの従者とされ、知恵、芸術、農業を象徴する。古代ギリシャでは、表にアテナを、裏にコキンメフクロウを刻んだコインが造られていた。



Gallery



パタゴス家とイオニア海／坂本信人

メインスタッフ

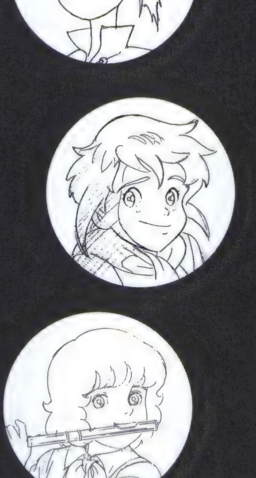
企画	佐野浩平／石川和子
音楽	MOKA☆
キャラクターデザイン・総作画監督	赤堀重雄
美術監督	坂本信人
撮影監督	森下成一／武原健二
音響監督	望月智充
色彩設計	大平敬志
製作管理	早船健一郎
プロデューサー	高橋功／田中敦
監督	望月智充

オープニングテーマ「ポルフィの長い旅」
作詞：岩里祐穂
作曲・編曲：多田彰文
歌：Ikuko

エンディングテーマ「君へと続く道」
作詞：榊原広子
作曲：榊原政敏
編曲：京田誠一
歌：ダ・カーポ





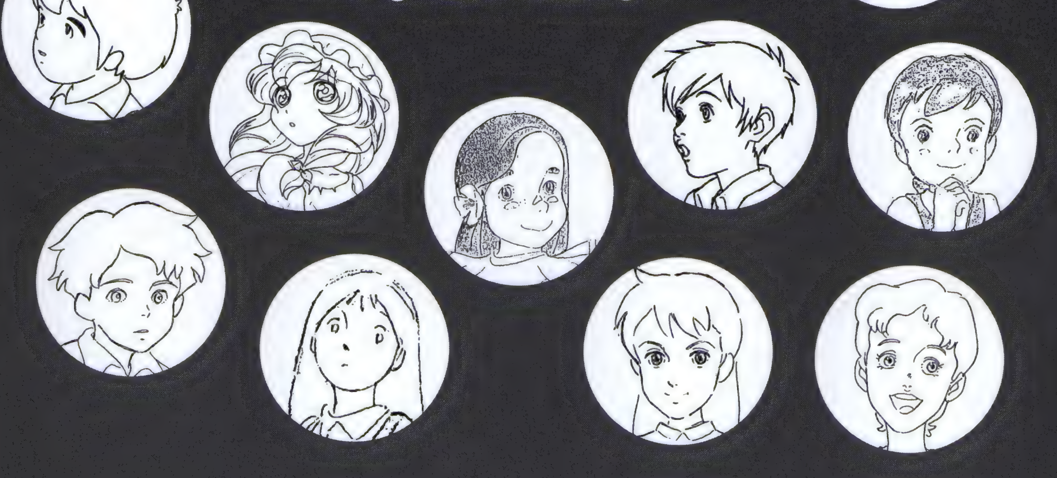


世界名作劇場 コラム

ヨーロッパ編の作品に限らず、
世界名作劇場の全作品を交えたコラムを掲載！

スペシャルインタビュー

放映リスト



シリーズコラム

お母さん大集合！

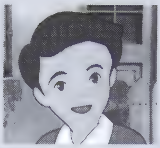
お父さんがどんなに偉大でも、お母さんの愛の深さにはかなわない。名作シリーズのお母さんなら尚のことだ。愛すべき名作主人公を生み、育んでくれたお母さん達を一挙に紹介しよう。

わたしのお母さん

我らが名作主人公を生んでくれたステキお母さん達！

一児の母

少子化が進む現代日本と違い、ひとりっ子主人公は、幼い頃に片親を亡くすという、辛い過去の持ち主が多い。お母さんも、独りで子育てしようと苦労したり、すでに天国に召されていたり…。だけどふたりっきりの親子だけに絆の深さも並大抵ではない。



〈名犬ラッシー〉
メリッサ・キャラクロー

息子ジョン。現代的なお母さん。看護婦をしていて、夫も健在。



〈小公子セディ〉
アニー・エロル

息子セドリック。セディと共に夫の祖父の元へ…。



〈牧場の少女カトリ〉
サラ・ウコンネミ

娘カトリ。出稼ぎに行って行方不明に…。



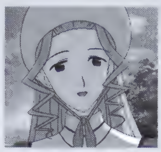
〈フランダースの犬〉
ダース夫人

息子ネロ。大聖堂の聖母マリアの絵に似ているらしい。



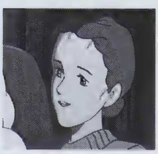
〈七つの海のティコ〉
洋子・シンプソン

娘ナナミ。広島の瀬戸内海の島に実家がある。



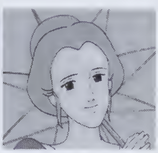
〈少女コゼット〉
ファンティーヌ

娘コゼット。名作史上、最も切ない運命を生きたお母さん。



〈トラップ一家物語〉
クッチャラ夫人

娘マリア。出産は汽車の中だった。



〈小公女セーラ〉
クルー夫人

娘セーラ。彼女はフランス人。夫はイギリス人。



〈愛少女ポリアンナ物語〉
ジェニー・フィテア

娘ポリアンナ。画像は駆け落ち前のもの。



〈ペリーヌ物語〉
マリ・パンダボアヌ

娘ペリーヌ。ペリーヌを誰にでも愛される素晴らしい娘に育てた。その反面、元々身体が弱いのに、アルプス越えなどという『しなくてもよい無茶』をしたために過労で倒れ、還らぬ人に…。本当に娘を想うなら、人を愛するだけでなく、自愛の心を持ってほしかった。

〈家なき子レミ〉
ミリガン夫人

長女レミ、長男アーサー。養子マチア、リカルド、マルセル、ピエール、ジャック、アルベール。養女マリア、リーズ。レミの実母だが、感動の再会の後、レミの仲間だった子供達全員を引き取ってしまう。ふたりの実子と8人の養子、計10人もの扶養者になるとは、お金持ちとはいえ太っ腹すぎ！



わたしのお義母さん

名作主人公を我が子同然に愛し、お母さんの代わりに育ててくれた素敵養育者達。



〈トラップ一家物語〉
マリアの叔母

義務教育が終わるまで育ててもらう。



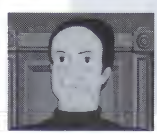
〈トム・ソーヤーの冒険〉
ポリー

トムとシッドの叔母。トムを叱ってばかりなのも愛するが故。



〈愛少女ポリアンナ物語〉
パレー

ポリアンナの叔母。最初は義務で引き取っただけだったが……。



〈赤毛のアン〉
マリラ・カスバート

引き取ったアンを養女にはせず、一個人として愛した。

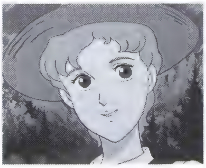


〈家なき子レミ〉
アンヌ・バルブラン

実子に娘のナナもいるが、捨てられていたレミを我が子として育てて来た。

わたしが!? おかあさん？

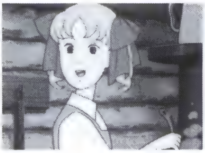
ふしぎな巡り合わせで、母と慕われたステキヒロイン達。ティンカー・ベルに「ニセモノのお母さん」と冷やかされたって、気にしない気にしない。



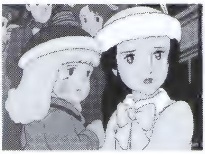
〈トラップ一家物語〉
マリアお母様

長男ルーペルト、長女ヘートヴィッヒ、次男ヴェルナー、次女マリア、三女ヨハンナ、四女マルティナ、五女アガーテ。修道女になるはずが7人のお母さんに！

〈<ピーターパンの冒険〉
ウェンディ母さん



息子カーリー、息子スライトリー、息子トートルズ。食べ盛り、遊び盛りの息子が一度に3人も！



〈小公女セーラ〉
セーラママ

娘ロッティ。寄宿制の女子学校で生徒が一児のママに!?　…なんて書くと、なんだかとってもスキャンダラス♪

〈わたしのアンネット〉
アンネットおかあさん



息子ダニー。天に召された母に代わり、ダニーの母になると宣言。世話をする為、学校にまで連れて行っちゃいます。

二児の母



〈母をたずねて三千里〉
アンナ・ロッシ

長男トニオ、次男マルコ。作品タイトルからも分るように、『三千里』の実質的ヒロインは、フィオリーナではなくアンナお母さんなのだ！



〈わたしのアンネット〉
フランシーヌ・バルニエル

長女アンネット、長男ダニエル。心臓が弱いのに働き者。出産は無理だったのかも。作品タイトル「わたしのアンネット」は彼女の最期の言葉。



〈ポルフィの長い旅〉
アネーク・パタゴス

長男ポルフィ、長女ミーナ。町育ちのお嬢様だったけど、全てを捨てて駆け落ち。だから家族だけが宝物。



〈ナンとジョー先生〉
ジョセフィーン・ベア

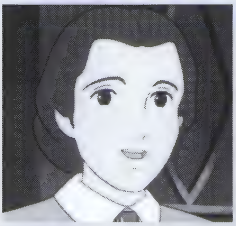
長男ロブ、次男テディ。男勝りのジョー念願の男児。しかも2名。これで公然とおてんばできます。



〈ブッシュベイビー〉
ペニー・ローズ

長男アーサー、長女ジャッキー。絵が趣味。名作一のお気楽お母さん。だって家事はみ～んなハワがやってくれるんだもの。

子沢山の母



〈愛の若草物語〉
メアリー・マーチ

長女マーガレット、次女ジョセフィン、三女エリザベス、四女エイミー。4人の娘が揃いも揃って美少女だなんて、なんだかずるい（笑）。

〈南の虹のルーシー〉
アーニー・ポップル



長女クララ、長男ベン、次女ケイト、三女ルーシー、次男トブ。主人公のお母さんとしては一番の子だくさん。子供達だけでスーパー戦隊が結成できるぞ！

三児の母



〈ふしぎな島のフローネ〉
アンナ・ロビンソン

長男フランツ、長女フローネ、次男ジャック。「こういう事もあろうかと」と、作物の種を隠し持つ、農家系看護婦。フローネからは「妹が欲しい」とせがまれたこともある。もう少し無人島生活が長かったら4人兄妹になっていた？？



〈あらいぐまラスカル〉
エリザベス・ノース

長女セオドラ、次女ジェシカ、長男スターリング。



〈ピーターパンの冒険〉
エリザベス・ダーリング

長女ウェンディ、長男ジョン、次男マイケル。



〈ロミオの青い空〉
ジェシカ

長男ロミオ、次男三男（双子）カルロ&ピエトロ。

シリーズコラム

胸キュン男子大集合

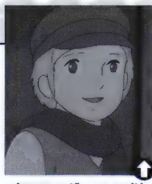
名作シリーズに登場した素敵な男子達を独断と偏見で選んだのがこちら。素敵といってもその基準は様々。あまりその方面には縁がないといわれる名作劇場にも、ホラ、少年からおじ様まで、色々なタイプの男子が揃っています。

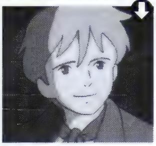
不器用系

信念を貫くためになら我が身すら犠牲にしてしまう。でも残される者の事も、少しは考えて！

〈ロミオの青い空〉
アルフレド

そんなにロミオって素晴らしいの？ う～ん、じゃあしょうがないか…。





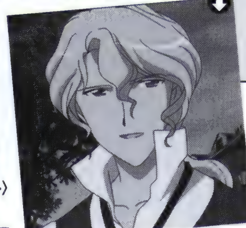
〈フランダースの犬〉
ネロ

もう少しアロアの気持ちも考えてやれと小一時間説教してやりたい。

〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
アンジョルラス

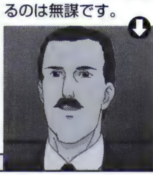
祖国フランスが恋人？ う～ん、じゃあしょうがないか…。





〈トラップ一家物語〉
トラップ艦長

誇りと信念も大切ですが、ナチス占領下でゲシュタポにケンカを売るのは無謀です。



〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
コンブフェール

メガネが時代設定を無視しすぎてるのは見逃してやってください。

病弱美少年

自分ひとりでは歩く事も出来ない。そんな悲しみを背負った母性本能くすぐりまくりの素敵男子。ただし若君限定。



〈ポリアンナ物語〉
ジェミー

ボストン公園の聖フランチェスコで、通称若君ジェームス。



〈家なき子レミ〉
アーサー

病弱だけど車いすをひとりで動かしているので腕力だけハンパないよ！

チョイワル系

ちょいと困った男達。だけどそこがカワイイ…？



〈ふしぎな島のフローネ〉
モートン

チョイワルというか、ツンデレ属性の疑惑あり。港町に行くと何故かモテモテだ。



〈七つの海のティコ〉**ゲイル**

飛行機や銃の扱いもピカイチで、お宝も女の心も狙うナイスガイ。ハードボイルド決めたいがどこかズッコケ。

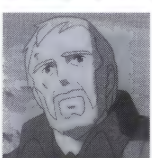
プレイボーイ♥

複数の女の子にちょっかい出したり、無垢な年下のヒロインに親切すぎたり、女性の敵なのか味方なのかよく判らない男子達。けしからん。実にけしからん！



〈ロミオの青い空〉**ロミオ**

ロミオは何も悪くない。彼は目の前の事に一生懸命で、昔の彼女をコロっと忘れてしまうだけなのだ。



〈家なき子レミ〉
ヴィタリス

女の子のスカートをハサミで短く切ったり、未成年を働かせたり…。大胆かつスマートさが魅力♥

〈牧場の少女カトリ〉
アッキ

家畜番の少女にいきなり詩を聞かせたり、絵のモデルになってもらったり…。大胆かつスマートさが魅力♥





〈私のあしながおじさん〉
ジャービス

奨学金を送ってる女の子を口説くとは公私混同もはなはだしい。

〈ペリーヌ物語〉
ファブリ技師

ペリーヌのみならず、ロザリーともやけに親しい。





〈赤毛のアン〉
ギルバート

アンに限らず、色々な女の子にちょっかいを…!? 気になる子は特にからかいたくなるみたいです。

不良系

粋がっていても、本当は寂しがり屋？　…な男子達。



〈ナンとジョー先生〉
ダン

色々な意味でヤンキー。そろそろ現実が見えてきたようで引退を検討中。

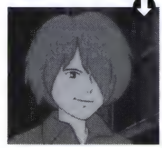


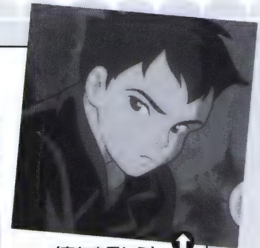
〈ロミオの青い空〉
ジョバンニ

拳ひとつで天下を狙う、番長街道まっしぐらな狼団のリーダー。乱暴者だが筋は通す。

〈ロミオの青い空〉
赤毛のリカルド

狼団一のイケメンだが、器が小さいのが玉に傷。素材は良いのだから精神修行に励んでほしい。



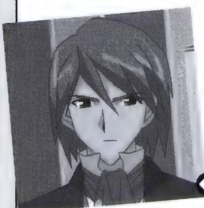


〈家なき子レミ〉
マチア

いいかお前ら、絶対ヴァイオリン番長とか言うなよ！　絶対にだ！

情熱系

一目会ったその日から…。そんな一途な男子達。



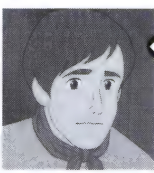
〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
マリウス

いくら好きでもストーカーはいけません。

〈七つの海のティコ〉
スコット

身近に美女がいても、女性は亡き妻ただひとり。今は惚れたクジラを追って夢一途。





〈南の虹のルーシー〉
ジョン

愛するクララの為にオーストラリア永住を決意！

マジワル系

暗黒面に魅了され、一線を越えてしまった悪の華。惚れたら火傷じゃ済まない。

〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
モンパルナス

パトロン・ミネットのメンバー。とってもナルシスト。





〈トラップ一家物語〉
秘密警察将校

トラップ艦長の挑発にもナイスな微笑みで応えるダークなジェントルメン。

従者系

困ったときに助けてくれる、頼もしき男子達。



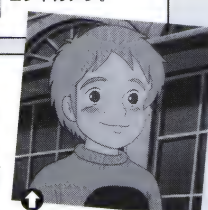
〈ブッシュベイビー〉
テンボ

お嬢さんのためなら火の中水の中銃弾の中。

〈小公女セーラ〉
ラムダス

お嬢様のためなら空も飛びます。





〈小公女セーラ〉
ピーター

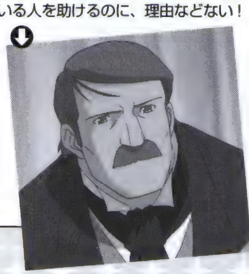
どんなにセーラお嬢様を慕っても、決して一線は越えられない。それは原作に登場しないキャラクターの宿命なのか？　笑顔で別れる最終回が切ない。

スーパーヒーロー！

超人的なパワーを備えた、正義の男子達。

〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
マドレーヌ市長（ジャン・バルジャン）

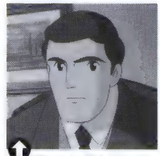
超現場主義のスーパー市長。困っている人を助けるのに、理由などない！



〈母をたずねて三千里〉
ドン・カルロス

曲がった事が大嫌いな昔気質の老ガウチョ。強い上にかっこ良く、ギターの腕も超一流。



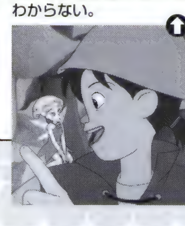


〈家なき子レミ〉
ブレル弁護士

少年探偵団でも率いていそうな体育会系弁護士。東洋武術ジュードーに精通している。

〈ピーターパンの冒険〉
ピーターパン

冒険大好き。ときどき見せるシリアスな顔はハンサム。だけど永遠に乙女心はわからない。



メイドさん♥大集合♪

白いエプロンに身を包み、勤労に勤しむ貧しくも清らかな天使達。彼女達が魅力的に映るのは、私達が清貧に美徳を感じているからであって、萌えなどというヨコシマな心など微塵も無い……まあ、そんなわけで、名作の素敵メイドさん達をご紹介！

〈小公女セーラ〉
ベッキー

名作史上最年少のメイドさん。メイドスキルは限りなく低いが、ドジっ子メイドと割り切れば、その魅力は破壊的。ヨークシャー訛り（東北弁？）も狂おしい程にかわいい。









〈愛少女ポリアンナ物語〉**メアリ**

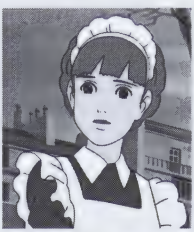
カリウ邸で働くメイドさんのひとり。大都市ボストンだけあって、ナンシーと比べて洗練されている。

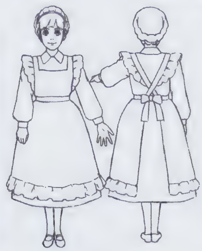




〈愛少女ポリアンナ物語〉**ナンシー**

若輩ながらハリントン邸の家事の全てを一手に担う万能型メイドさん。噂好き、恋愛中毒なのが玉に傷。





〈ポルフィの長い旅〉**ナタリー**

人気女優ティファニーに雇われているメイドさん。外出時もメイド服を貫くプロ根性はあっぱれである。職業柄従順に振る舞うが、性格は結構キツい。そのギャップもまた魅力である。





〈家なき子レミ〉**ネリー**

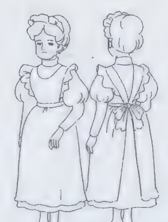
こう見えても25歳。ミリガン夫人の信頼も厚く、レミ探索のためパリに留まる。メイド役を離れたパリ滞在中はエプロン無し。おしゃべりなのが玉に傷のそばかす娘。





〈トラップ一家物語〉**ミミー＆クラリーネ**

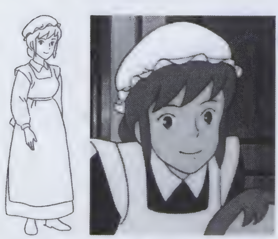
太めの田舎メイドとノッポの都会メイドという、コントラストが素敵なデコボココンビ。





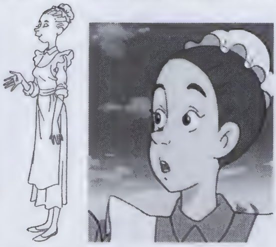
〈小公女セーラ〉**マリエット**

セーラお嬢様の専属として雇われたメイドさんのプロフェッショナル。ギャラもメイドの中では破格かも？



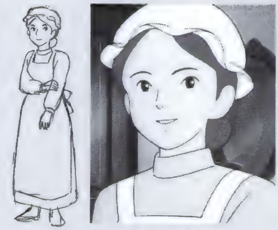
〈ナンとジョー先生〉**メアリ・アン**

こう見えても21歳。彼氏もいる？ ブラムフィールドでは主に食事作りを手伝っている。



〈私のあしながおじさん〉**キャリー**

ロックウィロー農園で働くメイドさん。農場で働くアマサイとラブな関係に。



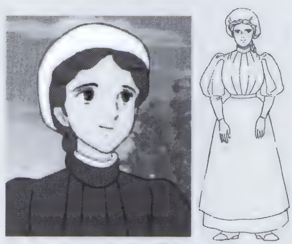
〈ロミオの青い空〉**ピア**

カセラ教授の屋敷で働くメイドさん。教授とは親密に見えるのは気のせい…？



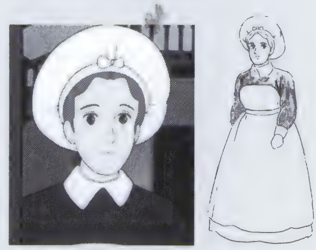
〈ふしぎな島のフローネ〉**マリー**

フローネと仲良し。でもオーストラリア同行まではちょっと無理ってもの…。



〈小公子セディ〉**ジェーン**

ドリンコート伯爵邸で働く地元出身。セディ専属の18歳。若君の命令なら野球だってやります！



〈愛の若草物語〉**エスター**

偏屈なマーサ叔母さまの元で働くメイドさん。かなりの忍耐の持ち主だと思われる。



メイド服姿こそ登場しないが、「三千里」のアンナ母や「カトリ」のサラ母もメイドさんなのだ。



〈ペリーヌ物語〉
アンリエット

ビルフランの屋敷で働くメイドさん。



〈わたしのアンネット〉
スーザン

ギベット医師のもとで働くメイドさん。



〈牧場の少女カトリ〉
セルマ

本物のメイドさんに年齢制限など無い。



〈愛の若草物語〉
ハンナ

マーチ家で働くメイドさん。横幅が…。



〈ブッシュベイビー〉
ハワ

ローズ家で働くメイドさん。メイドは服で決めちゃダメなのだ。

名作執事さんメモリアル

黒服に身を包み、主人に代わって屋敷を取り仕切る忠実なるしもべ達。蝶ネクタイはプライドの証。主人のワガママに振り回されながら、今日も淡々と業務をこなすのだ。



〈名犬ラッシー〉

ラドリング公爵家の執事。



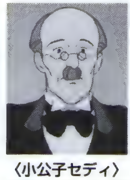
〈七つの海のティコ〉

メルビル家の執事ジェームス。



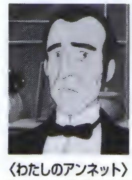
〈トラップ一家物語〉

トラップ男爵の執事ハンス。



〈小公子セディ〉

ドリンコート伯爵の執事ジェファーソン。



〈わたしのアンネット〉

ギベット医師の執事ウェルナー。



〈ペリーヌ物語〉

ビルフランの執事セバスチャン。

世界のお祭り

娯楽らしい娯楽がなかった時代だから、大人も子供もとても楽しみにしていた。名作シリーズに登場した世界の祭りやクリスマスを紹介！

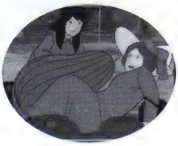
アイリッシュピクニック

アメリカ　ウィスコンシン州

その昔、アイルランドからやって来た開拓者達の秋の収穫を祝うお祭りだったが、今では町を挙げての年中行事になった。目玉はパイ喰い競争、農作物の品評会、馬のレース、移動式の遊園地（31話）。



パイ喰い競争では思わぬ乱入者が現れ、大会を大いに盛り上げた。



祭りにハプニングはつきもの？



巨大カボチャを作って見事銅メダルを取った、オスカー。



品評会（第83回）

カナダ　シャーロットタウン



会場では、農産物や手工芸、美術品、そして新しい農機具などの展示、表彰が行われるのはもちろん、年に一度のお祭りとして様々なアトラクションが華やかに繰り広げられる（32章）。

アメリカのクリスマス

ニュージャージー州



サンタコスチュームに身を包む、ジュディとサリー。赤い服のサンタさんはアメリカ発祥（23話）。

船上のメリークリスマス

ブラックバーンロック号





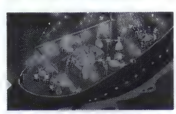


赤道直下12月は夏まっさかり。それでもクリスマス気分を出そうと、乗客の子供達がキリストの誕生劇を披露。「私は悪役のヘロデ王なのよ。イヤになっちゃう」とご不満のフローネ。しかしいざ劇が始まると、すっかりノリノリ♪（6話）

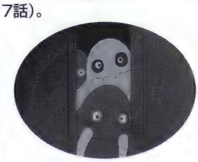
赤道まつり

フォルゴーレ号

赤道を通過する日に行う船上の祭り。この日はちょっとした冗談も許されるらしいが…。やり過ぎるとマルコが泣くので気をつけたい（17話）。

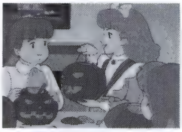
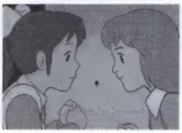




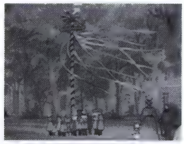


見習いコックに寝起きドッキリを企てる水夫達。仮装も祭りにつきもの？

ハロウィーン・パーティ／メイポール祭
イギリス　ロンドン・ミンチン女子学院

秋に行われるオール・セント・デイの前夜祭。あらゆる妖精が集まり姿を現すと伝えられる。生徒は学院で様々なゲームを催し、楽しい夜を過ごす（41話）。




春の祭。リボンや花などで飾ったメイポールと呼ばれる柱を立て、その周りでミンチン女子学院の女子生徒が踊る。そして生徒の中から5月の女王が選ばれる（18話）。

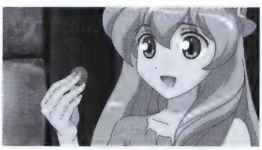
オーストリアのクリスマス
ザルツブルク



イブはキリストの使いでセント・ニコラスが悪魔を連れて来訪。子供達のした良いことを褒めたり、悪いことを叱ったり。悔い改めると誓わねば、悪い子にはプレゼント無しという恐怖の罰が。

クリスマスリースを天井に飾り、キリストの誕生日までの4回の日曜日毎に1本ずつローソクに火を灯して、クリスマスを待つ。そしてキリストへの手紙も忘れずに。秘密の願い事と約束事を書いて窓の所に置いておくと、天使が集めに来てくれる（23、24話）。

フランスのクリスマス
モンフェルメイユ村



クリスマスの夜、良い子にはサンタさんが木靴にコインを入れてプレゼントしてくれる。初めてもらったプレゼントが、見たこともない大きな金貨なのに大喜びのコゼット。「サンタさん、きっと今まで忘れていた分も一緒に持って来てくれたのね」（13話）。



のど自慢大会
フランス シャバノン村

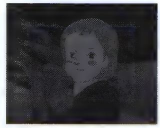


雑貨屋を営むルコントの美声が例年ご婦人達のハートを掴んでいたが、今年は初めて子供も参加。10歳の誕生日を迎えたばかりの歌姫レミが、会場を沸かせた（1話）。

秋祭り／クリスマス
スイス ロシニエール村



村一番の行事はチーズの品評会。村人は民族衣装をまとい、ダンスに興じる。写真中央のルシエンの姉マリーは大の祭り好き。毎年仕事を休んで参加するという熱の入れようだ（8話）。



教会のツリーに飾られたクマの形の生姜パンは、ミサが終わると子供達にプレゼントされる。これが楽しみな子も多い（3、11、35話）。

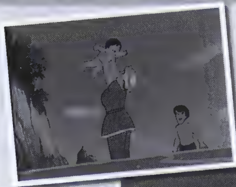
勇者の木登り
スイス ソノーニョ村



棒の天辺のミミズクを取った者が真の勇者として尊敬される…。血湧き肉踊る村祭り一番の行事に、老いも若きも大興奮。参加者ロミオの父も実は優勝経験者。親子揃って勇者になれるか、期待が高まる（1話）。

名作劇場思い出アルバム シリーズコラム

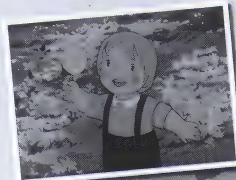
物語の中で思い出のシーンとして描かれていた、幼き日の主人公達。父がいて母がいて――遠い昔のあの頃。本編の中でほんの一瞬だけ見せてくれた幼い笑顔をみてほしい。





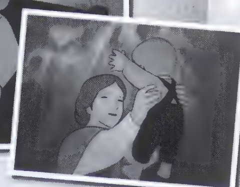
マルコ

幼い頃家族と行った海岸で。お母さんに向かって歩くマルコ。



ジェハンの思い出の中のネロ。

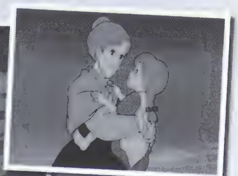




ネロ

2歳のネロがかすかに記憶していたお母さん。





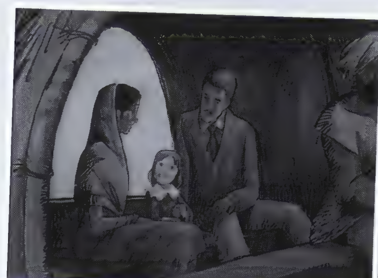
カトリ

お母さんと久しぶりに会えた幼いカトリ。このとき6歳。



セーラ

家族でボートに乗って遊んだインドでの思い出。



ペリーヌ

3歳頃のペリーヌ。お父さんとお母さんと一緒に、インドで。



ポリアンナ

お父さんに“よかった探し”を教えてもらう幼いポリアンナ。

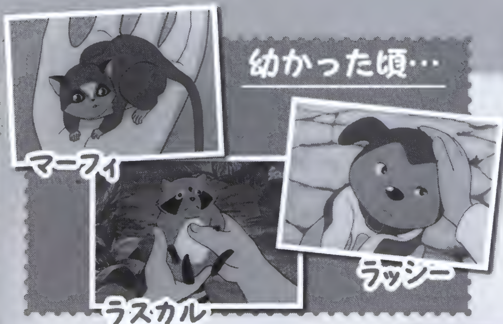




アン

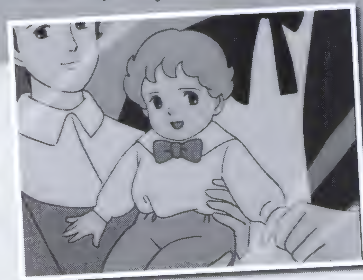
生まれてすぐに両親を亡くし、辛く厳しい幼少時代を送ったアン。

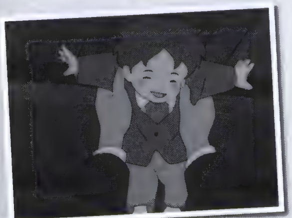
幼かった頃…

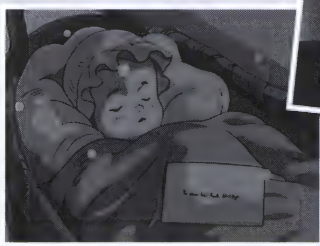


セドリック

思い出の家族写真。セディの表情もあどけない。









ジュディ

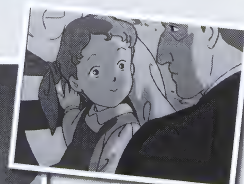
教会の前に捨てられてたジュディ。孤児院が“家”だった。

ロミオ（左）とアンジェレッタ。ふたりとも生まれてすぐに運命の転機を迎える。



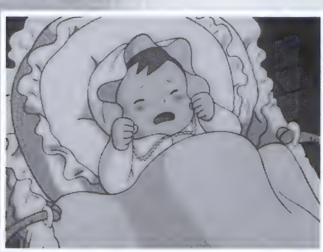
ロミオとアンジェレッタ





マリア

列車の中で生まれたマリア。両親が亡くなった後は苦労の連続だった。



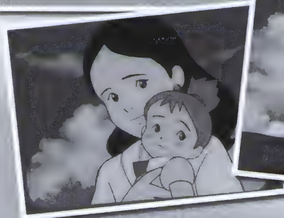
レミ

さらわれてパリの街に捨てられていたレミ。

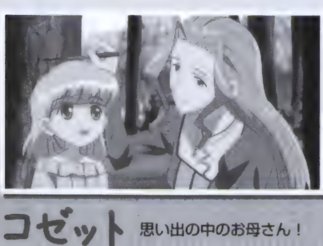


ナナミ

幼い頃からティコと海で暮らしたナナミ。古いフィルムの中、今は亡きお母さんの笑顔が。





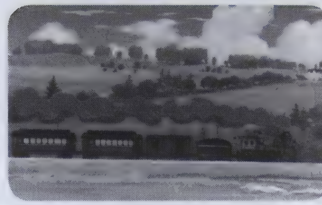


コゼット

思い出の中のお母さん！

シリーズコラム

世界名作劇場の旅

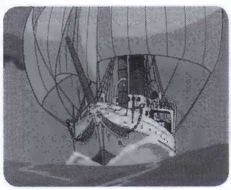


　ある者は希望の土地を目指して、ある者は誰よりも遠くへ。名作劇場では様々な旅が描かれるが、交通が未発展な当時は、それ自体が命がけの大冒険とも言えた。そんな旅エピソードから、移動距離と滞在国の数をチェックしてみた。

(注) 測定は直線距離。概算距離は10km未満切り上げ。物語中1回の旅として最大だった行程のみで比較（セディはイギリス1往復、カトリはヘルシンキへの往復）。滞在国は画面に登場したこと、及び上陸を条件とする。

世界の旅

己の常識や価値観が通用しない未知の世界への旅。これぞ異文化コミュニケーションの真骨頂。



『ピーターパンの冒険』?km
イギリス・ネバーランド
現実世界から夢の世界へ。時空を超越した最も近くて最も遠い旅。

『七つの海のティコ』74,340km以上
コンゴ共和国・エジプト・ギリシャ・イタリア・ポルトガル・カナリア諸島(スペイン)・イギリス・グリーンランド・日本・パプアニューギニア・オーストラリア・マダガスカル
アフリカでの滞在国数など測定不能部分もあるが、判明しているだけでも訪れた国の数は圧倒的。タイトル通り七つの海を股にかけていった。

『母をたずねて三千里』25,910km
イタリア・フランス・ブラジル・アルゼンチン
ヨーロッパから南アメリカへ。母に会うまでだけでも約13530km、およそ3445里。

『ふしぎな島のフローネ』30,210km
スイス・ドイツ・イギリス・オーストラリア
北半球から南半球へ。更に無人島での漂流生活と、距離だけでは測れない苦難の旅。

『小公子セディ』11,160km
アメリカ・イギリス
ニューヨーク、ロンドン間をわずか2話で往復。新興国と伝統国の架け橋となる？

『トラップ物語』6,790km
オーストリア・イタリア・アメリカ
ヨーロッパから自由の国へ。ナチスからの決死の逃避行。

ヨーロッパの旅

ひとつの大陸に様々な国が密集する。西洋文化のるつぼである。

『名犬ラッシー』550km
イギリス国内
スコットランドからヨークシャーへ。主役ラッシーの旅。

『ペリーヌ物語』1,570km
ボスニア・クロアチア・イタリア・スイス・フランス
距離はそれ程でもないが、交通機関を使ったのはパリから僅か一区間だけというのは特筆もの。インドからの旅で考えるとさらに長い旅に。

『ポルフィの長い旅』2,630km
ギリシャ・イタリア・フランス
奇しくもペリーヌの旅ルートの西側を並行するような旅ルート。移動方法も船、列車、飛行機、車、サイドカー、徒歩と多岐にわたる。

『ロミオの青い空』220km
スイス・イタリア
ソノーニョ村からミラノまでの往復。

『家なき子レミ』1,050km
フランス国内
国内移動だけで1,000km以上。さすが旅芸人。

『少女コゼット』410km
フランス国内
パリからモンフェルメイユを経由してモントルイユ・シュル・メールへ。ファンティーヌの通った道をコゼットとガヴローシュが往復。

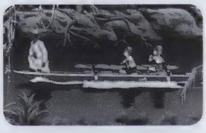
『わたしのアンネット』80km
スイス国内
ロシニエール村から希望の町ローザンヌまで。

『牧場の少女カトリ』210km
フィンランド国内
クウセラ屋敷のあるサロ郊外からヘルシンキ往復。



『赤毛のアン』70km
カナダ国内
アヴォンリーからシャーロットタウンを往復。

『ブッシュベイビー』590km
ケニア国内
ナイロビからモンバサ、さらにヌディへの旅。



『南の虹のルーシー』11km
オーストラリア国内
上陸地点からアデレードの町まで。今は上陸地点もアデレードの市域。路面電車で行ける距離。

アメリカ国内の旅

国内旅行をするだけでとんでもない距離を移動することに。アメリカの広さを実感する。



『ポリアンナ物語』3,280km
アメリカ西部からボストンを経由し、ベルディングスビルのハリントン家へ。

『トム・ソーヤーの冒険』790km
アーカンソー州の農場へ。隣の州でこの距離。

『あらいぐまラスカル』660km
スリーレイクスへ旅。州内移動でこの距離。

『愛の若草物語』590km
ゲティスバーグ近郊からボストン近郊まで。南北戦争で焼け出され叔母の元へ。

『ナンとジョー先生』60km
コンコードからボストンまでお出かけ。

『あしながおじさん』500km
ニューヨーク州のマクブライト家の実家へ。

Special Interview Part1

声優 山田栄子

Profile

山田 栄子（やまだ えいこ）

世界名作劇場シリーズでは声優として、『赤毛のアン』（アン役）、『アルプス物語　わたしのアンネット』（ルシエン役）、『小公女セーラ』（ラビニア役）、『愛少女ポリアンナ物語』（ジミー役）、『愛の若草物語』（ジョオ役）、『小公子セディ』（ジェーン役）、『私のあしながおじさん』（サディ役）、『トラップ一家物語』（イヴォンヌ役）、『若草物語　ナンとジョー先生』（ジョー役）、『家なき子レミ』（ミリガン役）、『ポルフィの長い旅』（イラーリア役）を演じる。ほかに『キャプテン翼』（岬太郎役）、『アニメ三銃士』（アラミス役）、『忍者ハットリくん』（影千代役）など多数ある。現在はフリー。

「行けば交通費がもらえる」からと…

『赤毛のアン』のオーディションを受けたのは、とりあえず、行けば交通費がもらえると宮内幸平さんに言われたからなんです。その頃はまだそんなにアニメの仕事をやっていませんでした。オーディションは結構大勢受けたようです。私が行ったときは殆ど終わっていたらしいんですけれど、何とか無理矢理受けさせてもらいました。

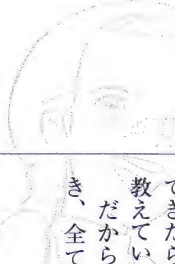
私は文学少女ではなく、スポーツ少女だったので、原作をあまり読んでいなかったんです。だから、『アン』のオーディションといっても、全然受かろうなんて考えてませんでした。ただ二千円もらえるって言われて、「よっしゃ、行く！」という感じです。それで行ったらたくさんセリフを読ませてもらえて、すごく楽しかったんですね。劇団でもそんなにセリフを読ませてもらえなかったので、これは楽しいと思ってべらべら読んでいたら、浦上さん（音響監督）がたくさん注文つけるんです。それも楽しくて、面白いものだなと。そのときは何の緊張もなかったですね。好きなように楽しい楽しいと思ってやっていました。1時間くらいやったのかな、すごい量でした。後で聞いたら、普通はそんなにやらないそうです。

それで二千円もらって、チョコレートパフェか何か食べて帰って、機嫌よく「ああ楽しかったなあ」で、終わっていたら、1、2週間して、もう一回来てくださいって言われたんです。それで慌てて本を買って読んだら、アンは鈴の鳴るようなきれいな声って書いてあるんです。「えーっ、これ私じゃないわ、どうしよう」と思いました。

だから2回目はものすごく緊張しました。そのときはもし受かったらどうしようと余計なことを考えちゃったので、1回目と違って全然できなくて、浦上さんに怒られたんです。「あなた、この間来た人なの？　顔は同じだけど、やってることは全然違うよ」って。私もだんだん涙が出てきちゃって、それでも1時間くらいやったんですけど、浦上さんはすごくがっかりしていました。本当に緊張してできなかったんですよ。帰りがけに「お役に立てなくてすいませんでした」と言ってビービー泣きながら帰ったんです。

でも最初のオーディションのテープを高畑さんがとても気に入ってくれて「2回目は最悪だけど、1回目ができているから、きっとできるよ」ということで、最終的に選んでいただいたみたいですね。

ですから本番を録るようになってか



らも、5話目ぐらい…いやもっとかな？　あのときはこうだったよって、最初のテープを聞かされました。

リンド夫人に怒るところは、最初のオーディションの演技をもとにアニメを作ったそうです。でも、だからといって最初にのびのびと自由にやったときと同じようにと言われてもなかなかできなかったですね。無欲というのは本当に素晴らしいことなんだなと思いました。

『アン』が終わったとき、全てが終わった気が…

女性として、アンという子はすごくわかりました。自分の気持ちでやれたと思います。ただ尺と口の動きを合わせるのが大変だったですね。絵がないし、線がひたすら出てくる（※1）だけです。やる前に必ず一回浦上さんのところに練習に行って、絵コンテで全部指導していただいて、それで絵ができてきたら合わせてみる。すごく丁寧に教えていただきながら演じていました。

だから『アン』の仕事が終わったとき、全てが終わったような気がして…。浦上さんのお宅まで行って、「もう『アン』が終わったので、これで私の一生は終わりました。ありがとうございました」と言ったんです。今思うと本当に変な奴だなあと（笑）。

それだけ気持ちが入っていたんです。『アン』をやっている一年はのめり込んでいました。だからマシュウが亡くなったときは本当に悲しかったですね。

マリラ役の北原さんのところには毎週、絵コンテと台本を届けにいきました。浦上さんに「マリラとは仲良くなった方がいいから、事務所から台本が届くよりも、あなたが届けにいく方がどう？」と言われて。北原さんのお宅に伺うといつもケーキをいただいて、仕事の話はなしで、普通に楽しい話をしていました。いい意味で、すごく子供っぽい、かわいい人でしたね。

自分を本気にさせないのが一番辛かった

『わたしのアンネット』のルシエン、大好きですね。演じていて本当に楽し

Pick UP

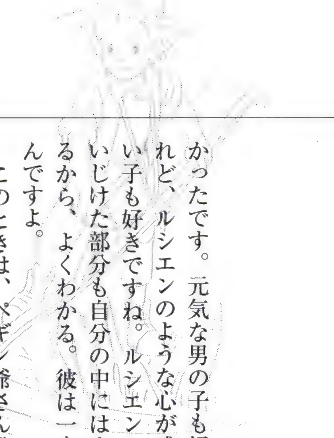
『赤毛のアン』のセリフで思い出すのは…

「『アン』のセリフでパッと思い出すのは、最初の頃のセリフで「グリーン・ゲイブルズのマシュウ・カスバートさんでしょう？　やっぱりそうでしたのね！　よかったわ、お目にかかれて。ひょっとしたら迎えにきて…」とか、その辺りのセリフはもう何回も何回もやっていたんで、ずっと覚えています」



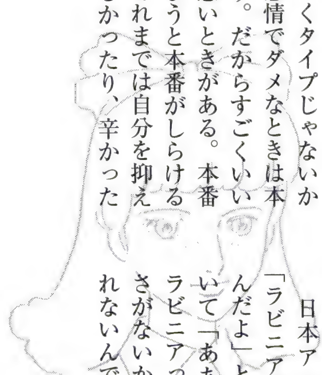
◀1章「マシュウ・カスバート驚く」より。アンとマシュウの初対面。お喋りを始めるアンにマシュウは目を丸くするという印象深いシーン。

（※1）「線がひたすら出てくるだけ」　録音（アフレコ）のときに絵が間に合わないと、セリフの長さだけの棒線が入った映像になることがある。



かったです。元気な男の子も好きだけれど、ルシエンのような心が感じやすい子も好きですね。ルシエンみたいにいじけた部分も自分の中にはすごくあるから、よくわかる。彼は一生懸命なんですよ。

　このときは、ペギン爺さん役の巌金四郎さんがとてもよくしてくださったんです。特に巌さんがルシエンの演技を「アニメっぽくなくて好きだよ」って言ってくれたのが、すごく嬉しかったですね。



　難しさといえば、アフレコはテスト、ラステス（ラストテスト）、本番とあるのですが、ラステスで涙が出ちゃうと、本番で結構しらけてしまう。それが自分でわかったので、ラステスで自分を本気にさせないのが一番辛かった。私はどちらかというと技術的には下手なんですよ。私はセリフをきちっと組み立てていくタイプじゃないから、そのときの感情でダメなときは本当にダメなんです。だからすごくいいときと、すごく悪いときがある。本番前に高揚してしまうと本番がしらけるから、なるべくそれまでは自分を抑えていました。悲しかったり、辛かったりしてだんだんその気になってしまうと、「ああ！　今本気になっちゃいけない、まだダメダメ」って。

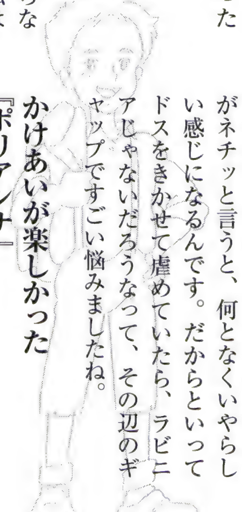
　自分の気持ちをベストな状態に持っていくにはどうすればいいか、それがルシエンを演じているときにわかったんです。

ラビニアをもっと かわいく演じられたら…

　本当にラビニアという役がわからなかったですね。どちらかというと私は表立って「何よっ！」とバーンというタイプだから、ネチネチと虐めるなんてイライラするんです。「あなた嫌いよ」って、はっきり言えばいいのにと思っていました。それに彼女はお嬢様でしょう？　私はお嬢様じゃないし…。

　日本アニメーションの中島さんに「ラビニアだってかわいいところあるんだよ」と、言われました。それを聞いて「ああ、そうか」と思いました。ラビニアって結局寂しい子。本当の強さがないから、セーラみたいに強くなれないんです。だからもっとかわいく演じられたら、意地悪な寂しさが出たんだろうなって。

　最後の方では結構楽しんで虐めていたりしたんですけれど、最初は苦しかったですね。かわいい声でかわいい人がネチッと言うと、何となくいやらしい感じになるんです。だからといってドスをきかせて虐めていたら、ラビニアじゃないだろうなって、その辺のギャップですごい悩みましたね。



かけあいが楽しかった『ポリアンナ』

　『愛少女ポリアンナ物語』で一番印象的なのはミッチ（堀江美都子）の歌った、「星屑のシャンデリア」。あれがすごく好きでした。

　『アンネット』のルシエンでは「ああ、お芝居をやっているんだな」という充実感があったんですが、ジミーはまた違う感じでやれました。ジミーを演じるのがというより、ミッチとやっているのが楽しかったですね。

　『ポリアンナ』は、周りの声優さんとのかけあいが楽しくて。みんなとコミュニケーションができて、相手のセ

リフでこちらの出方を変えられるところが楽しかったですね。スタジオ内もすごく明るかったし、みんなで作っていくという楽しい雰囲気でした。『アンネット』とは全然違う楽しさですね。ルシエンの場合は結構ひとり芝居みたいな、内面を演じていました。それはそれで演じている感じが楽しかったですけれどね。

四姉妹の中では、やっぱり自分はジョオ

『愛の若草物語』のジョオはアンとは全然違うけど、すごく、すごく自分に合ってると思いました。ジョオっていわゆる眼鏡かけたインテリの文学少女じゃないから楽しかったですね。四姉妹の中では自分はジョオだなと思います。他は全然違いますね。でも一番憧れるのはベス。私には絶対無いキャラだから。エイミー役の佐久間レイちゃんは、おしゃまでエイミーのまんまって感じですね。終わった後にも何回か4人で会っていました。

四姉妹役の4人ともすごく仲良かったんです。レイちゃんが、最初の頃に一人一人にそれぞれのキャラクターの人形を作ってくれたんですよ。ジョオは私に。今でもその人形が家にあるんですよ。

むずかしかったジェーン役

『小公子セディ』のときは下手でしたね…。セディの世話をするメイドのジェーンの役ですが、中島さんに「おまえ下手だなあ、セディのこともっとかわいく思わなきゃダメだよ」って言われたんです。この頃まだ私そういう母性本能みたいなのがあんまり無かったから…。今ならよくわかるのね。自分の子供をみてすごくかわいくて、世話するのが楽しく思える。でも当時はそういうのがありませんでしたから。

中島さんにはいつも的を射たことを言っていただけるんです。でも私は「そうか、世話をする楽しさか…。でも世話なんかしたくないなあ」と当時は思っていました。小さい子を世話するメイドさんというのは、もっと愛情があって、ふくらみが出てこないといけないのに、でも結局はセディと対等になってしまいました。ジェーンという役は私には結構難しかったですね。

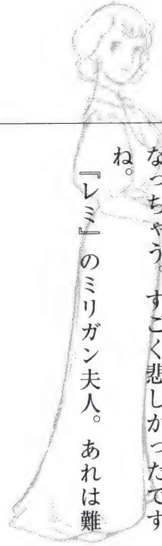
最初はセディのお母さんのオーディションと言われて受けたんです。そうしたら、まるっきりできなくて、「ダメだねえ」って言われて。やっぱりなあと思いつつ、でもそろそろ年齢的にはそういうのやらなきゃなあって思っていたら、ジェーンという保護者的な役をつけていただいたんです。でもあまり上手くできなくて、ずいぶん悩みましたね。

例えばクールな歳のいった女性、というなら難なくできたんですけれど、こういう母性愛的なものは、当時まだ経験が無かったんですね。

すごくいいときに、いい役をやらせてもらえた

『ナンとジョー先生』で、またジョーをやれると決まって、とても嬉しかったですね。ただ、やるって聞いたときには、お腹にふたり目がいたんです。放映中にあたる5月が出産予定だったから、やらせてもらえるのかなって。

一番印象的だったのはダンですね。



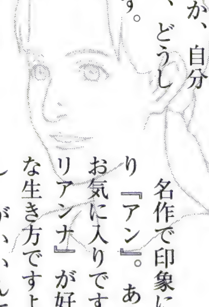
ダンに対するジョー先生が勉強になりました。あのひねくれたダンがジョーを信頼していく。その気持ちをジョーがわかっている。〝ダンが何か悪いことをしても、ああやって私（ジョー）に言いにきたっていうことは、私のこと信じているから〟みたいなセリフがあるんです。ジョー先生の考え方とか、生き方とかすごく勉強になりました。自分もこういうとらえ方をしていかなきゃと思いましたね。

例えば自分の子供にも〝私のことを信頼しているから、わがまま言っているんだ〟という受け取り方になれる。すごくいいときに、いい役をやらせてもらえたと思っています。

『家なき子レミ』は最後の名作劇場だと言われて、寂しかったですね。ミッチと一緒に、本当にこれで終わっちゃうのかしら、残念ねえなんて話していました。安心して子供に見せられる作品がなくなっちゃう。自分達の子供がちょうど感動してもらえる頃になくなっちゃう。すごく悲しかったですね。

『レミ』のミリガン夫人。あれは難しかったです。ああいう品みたいなのは一番自分にない部分だなと思っているので、そういうのが来るとすごく緊張しちゃう。

例えばジョオだったら「これ違うんじゃないの?」って言われても、「いや、そうじゃない、この子はこうだから」と、堂々と言える。自分の中にあるものですから。でも『セディ』のジエーンとか、ミリガン夫人とか、自分にないところをつつかれると、どうしたらいいのかなって思うんです。



『ポルフィ』は、親子で出演しました

『ポルフィの長い旅』の頃、私はもう仕事してなかったのですが、「やりませんか?」と連絡があったんです。そのとき、私の役の小さい頃を娘さんにやってもらえたらと言われて…。娘は声優なんてやったことないのですが、「声を聞かせて」と言うので、カセットに録音して送ったんですね。そうしたら「大丈夫じゃない?」って。ですから『ポルフィ』は、親子で出演しました。娘のセリフはほんの二言三言だったんです。でも、だめですね、自分の子供がそこにいるだけで緊張しちゃって、こっちができないの。娘もいつも大声なのに全然声が出なくて。娘が緊張している倍ぐらい私も緊張して、冷や汗が出ました。

私の人生の半分は名作劇場でした

名作で印象に残っているのはやっぱり『アン』。あとルシエンとジョオはお気に入りですね。作品としては『ポリアンナ』が好きなんですよ。前向きな生き方ですよね。あの〝よかった探し〟がいいんです。あの考えでいくと、ほんと人生ハッピーだなと。

私の人生の半分は名作劇場でしたね。それにいい出会いの場でもありました。例えば、ダイアナ役の高島雅羅。『アン』の後もずっと仲がよくって、お互いいろんな悩みがあったときも電話で夜中ずっと喋っていましたね。今でもダイアナとは一番仲がいいんです。



Special Interview Part2

監督

黒川文男

Profile

黒川 文男（くろかわ ふみお）

『アニメ80日間世界一周』、『リトル・ルル』、『シンドバッドの冒険』などの日本アニメーション作品の演出、監督を務める。世界名作劇場シリーズでは『小公女セーラ』、『愛の若草物語』を監督。

アニメーションには自由がある

僕は元々映画出身です。アニメの世界に入ったのは、TBSにいた大学の先輩が「黒川君、映画はもう駄目だから、テレビの方へ来たらどうか」と声をかけてくれたからです。彼は子ども向けの作品のプロデューサーでした。仕事は無いし、飯は食えないし、好きな映画も観られない。稼がなくちゃと引き受けたのが『怪物くん』の演出だったんです。

映画というのはいかにお金を儲けるかでものを作る世界。PR、今で言えばコマーシャルを作る世界にいたんです。しかも僕はフリーの助監督でした。だからクライアントを満足させないと絶対にOKがもらえない。でもテレビのアニメーションはクライアントではなくスポンサーだから、自分たちの考えで作って〝これでどうだ〟といって金を引き出す仕事なんですね。全然違うんですよ。同じ映像の世界でも、アニメーションは自分の考え方をぶつけられる場所でした。あんな自由はないですね。映画の世界では俳優さんにもよるし、表現できないものもいっぱいある。アニメーションならアングルも自由。ヘリコプターで撮影しないとならないものが簡単にできてしまう。だから僕はアニメーションの世界に行った時すごくうれしかったです。

そうして入ったアニメーションでしたが、『ガッチャマン』をやった後、一度また実写に戻っているんです。仮想敵国を作って地球を侵略させるなんて、あまりにも僕には空想できない世界でした。僕は戦前の生まれだから、戦争のことよく知っているわけです。みんな兵隊に取られて死んだなんてことを…。だからすごく嫌だった。それだけで拒否反応を起こしてしまうわけ。地球の平和って言うけれど心の平和はどうなっているの？ってね。

その後、実写に戻って医学映画で小児ガンを扱った作品を撮っていた時のことです。そこの子どもたちが休みの日にテレビを観ていたんです。たまたまやっていたのが『ハイジ』でした。女の子も男の子も泣きながら観ている。特に驚いたのが、歩けない子どもたちが、歩けないクララを観ていること。自分の思いと一緒になって観ているんですよ。手術しても5年間しか生きられないって子もいたんです。「そう言えば昔、僕もアニメーションをやっていたんだ、この子たちを慰めてあげよう」と、『ハイジ』のセルをあげたら、もう大喜びするんです。子どもたちは自分で額を作って枕元に飾ってくれた。僕、あのときは涙が出ましたね。それで、もう一度アニメーションをやって、子どもたちに希望を与えられる、喜んでもらえる作品を作れたらいいなと思ったんです。

Special Interview

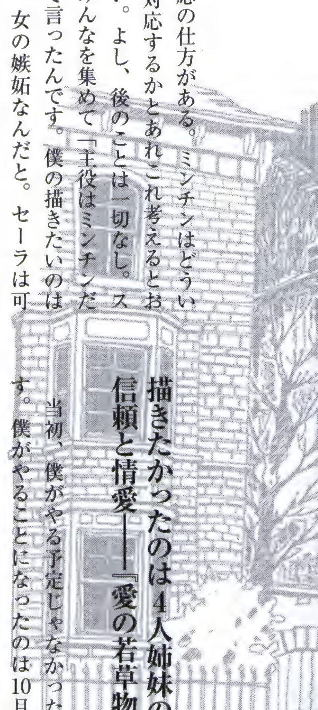
それがアニメーションに戻るきっかけでした。

主役はミンチン！——『小公女セーラ』

前の作品は、視聴率が一桁になって途中で打ち切られそうな状況になったんです。僕は視聴率を上げなきゃならない。失敗したら辞めなきゃならない。『セーラ』はそういう覚悟で引き受けました。

その当時学校でのイジメが社会問題になっていました。なぜそんなことをするんだろう？　と考えたけれど、結局わかりませんでした。〝これは弱ったなあ。俺、また飯食えなくなるなあ〟と。そこで、考え直しました。子どものものを作るというのが間違っているんじゃないかって気がついたんです。登場人物の中にミンチンという大人がいた。そうか、ミンチンを主役にしたらどうなるだろう。ミンチンの生き方を描こうと。それでシナリオライターの中西隆三さんに、「ミンチンを主人公にして女の嫉妬を描いてくれ、あとはどう処理してくれてもかまわない」と頼んだんです。彼女のものの考え方、見方。あれだけの人数の子どもがいるんだから、いろんな対応の仕方がある。ミンチンはどういう風に対応するかとあれこれ考えるとおもしろい。よし、後のことは一切なし。スタッフみんなを集めて「主役はミンチンだよ」って言ったんです。僕の描きたいのは女の性（さが）、女の嫉妬なんだと。セーラは可愛く描いてくれればいいよって。彼女は何も行動を起こさないんだから、いるだけでいいって。みんなびっくりしたんじゃないかな。

原作を読んでも、セーラの心の動きが書かれているだけで、彼女は自分から行動を起こさないんです。だから僕はまごついたし、わからなかった。これは文学の世界なんですね。文学はそれでいい。でもアニメーションでそれを表現するのは難しい。だったらどこかにセーラを動かす何か別の力がなくてはいけない。それがミンチンの嫉妬なんですね。それがあるからこそいろいろできる。そうするとセーラだって、耐えることは耐えるけれど、それができないと人形を抱いて他へ行ってしまう。ドラマというのは、そういう形で起こしていくわけで、主人公というのはそういうふうに動かせばいいんじゃないかなと僕は思うんです。

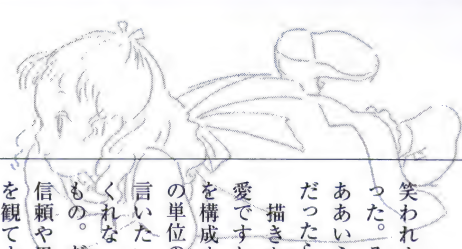


描きたかったのは4人姉妹の信頼と情愛——『愛の若草物語』

当初、僕がやる予定じゃなかったんです。僕がやることになったのは10月の終りか11月くらいで、もう、全部いろんなものはできていました。

急遽、引き受けることになって原作を読んだのですが、たまたま読んだのが村岡花子訳。これが読みにくいんです。でも自分が監督するんだから読まなきゃならない。大阪からの帰りの新幹線で本を読んだのですが、時間を稼ごうとこだまに乗ったんですよ。あの訳はほんとに…進まないんです。それ程読みにくい小説。正直、最後まで読み切れませんでした。実は今でも読んでいません。

それでも引き受けたのは映画の『若草物語』が好きだったからです。高校2年か3年の時に、エリザベス・テーラーとマーガレット・オブライエンの『若草物語』をロードショーでやっていました。マーガレット・オブライエンやエリザベス・テーラーが大好きで、試験の最中に観に行った思い出があります。観てきたら、おまえは馬鹿だ、あれは女の観る映画だって



笑われました。いや、彼女たちは可愛かった。それが印象に残っていたんです。ああいうものを作ればいいのかな、あれだったら僕にもできると思ったんです。

描きたかったのは4人姉妹の信頼と情愛ですね。要するに家庭というのは社会を構成する一番小さな単位でしょう。この単位の中に自由もあるし、束縛もある。言いたいことも言えるけれど、やらせてくれないこともある。それが家族というもの。だけど、そこに貫かれているのは信頼や思いやりなんじゃないかと。映画を観てすばらしいなと感じたのもそういうところでした。

家族なら言いたいことが言える。相手がダメだよと言った時、家族だと〝何でなんだろう?〟と考える余裕がある。相手のものの見方、考え方がわかっているから、理解できるんです。普通、家族以外にあんなことを言えばケンカになる。それが大きくなって国同士になったら、戦争になってしまうわけです。

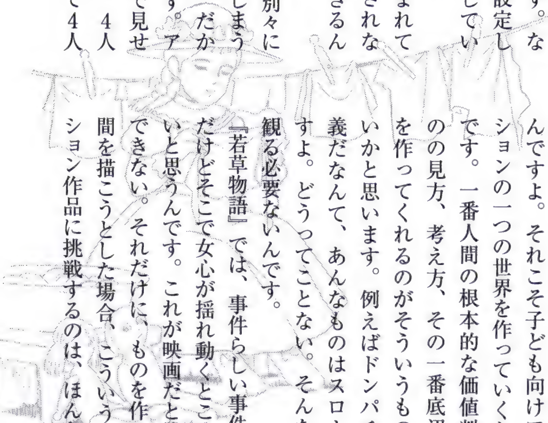
それに彼女たちにはお父さんがいない、女だけのほんとに恐い世界です。だから寄り集まって生きていかなきゃならない。これはおもしろいものが描けるんじゃないかなと。僕の頭の中では『若草物語』というより、4人の家族のそういったものを描いてみたいなと思いましたね。

舞台のように演出した『若草物語』

南北戦争の最中の話ですが、原作にはゲティスバーグの戦いなんて出てこないんです。お父さんが戦争に行って、女だけで生きなきゃならない。家族が強く生きるには、周りにそういう特殊な条件を作っておかないとね。極端なことを言うと、極限状態みたいなところに追い込まないと、人間は正確な反応しないんです。なるほど脚本の宮崎晃さんはうまく設定したなと思いましたよ。原作を拡大していくとああいう風になるんだろうなと。

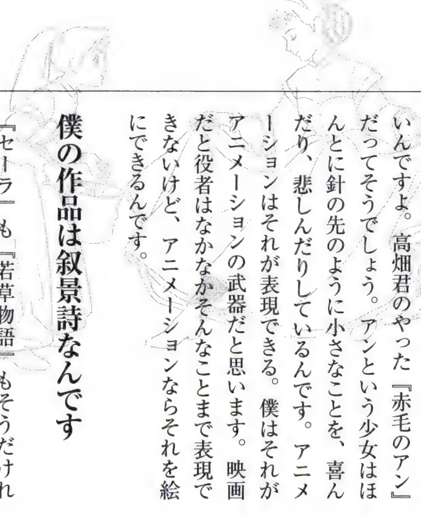
若草物語の原作は、あれだけ読まれていても、映画がそんなにもてはやされないのは、あまりにも原作を追いすぎるんじゃないかなと、僕は思います。

原作のとおり、一つの話で一人一人別々にやっていくと話が繋がらなくなってしまうんです。からませなくてはいけない。だから演出もそういう風にしたつもりです。アップを避けて、できるだけ引いた絵で見せています。四人姉妹を描くのだから、4人を同時に出して、一つのことに対して4人がどう反応するか、そういうところを描かないとおもしろくないでしょう? 一つのことに対して、ベスは、メグは、どういう反応をするかというところを見せたかった。これは舞台と同じですね。作画は大変だったと思いますよ。



日常生活は物語にはならないといわれます。でも物語を作ろうとするからダメなんです。事件があって話が進むのではなくて、人間が動いて小さなところから事件が起きていく。それが人の心を揺さぶるんですよ。それこそ子ども向けアニメーションの一つの世界を作っていくと思うんです。一番人間の根本的な価値判断、ものの見方、考え方、その一番底辺のものを作ってくれるのがそういうものじゃないかと思います。例えばドンパチだ、正義だなんて、あんなものはスローガンですよ。どうってことない。そんなものは観る必要ないんです。

『若草物語』では、事件らしい事件はない。だけどそこで女心が揺れ動くところが面白いと思うんです。これが映画だと難しくてできない。それだけに、ものを作る人が人間を描こうとした場合、こういうアニメーション作品に挑戦するのは、ほんとに楽し



いんですよ。高畑君のやった『赤毛のアン』だってそうでしょう。アンという少女はほんとに針の先のように小さなことを、喜んだり、悲しんだりしているんです。アニメーションはそれが表現できる。僕はそれがアニメーションの武器だと思います。映画だと役者はなかなかそんなことまで表現できないけど、アニメーションならそれを絵にできるんです。

僕の作品は叙景詩なんです

『セーラ』も『若草物語』もそうだけれど、情緒的なシーンって、一切無いはずです。僕、大嫌いなんです。映画っていうのは二つあって、叙情詩にするか叙景詩にするかなんですよ。僕は叙景詩なんです。叙情になってはダメなんだと思う。映画の場合、叙情になると押しつけがましいことをやるようになる。美しいものに対する人の考え方っていうのはそれぞれ違うのにね。でも叙景にするとどういう風にでも解釈できるんです。叙景っていうより叙事詩かな。僕は叙情的なものはどの作品でもやっていないんです。あった方が潤いがあるというのはわかっています。でも無くても作れるならそうしたい。

『セーラ』のラストシーン、セーラの顔は僕がアップにしたんです。アフレコの時に、ラストシーンはずーっと引いてきれいな絵で終わらせようという話がありましたが、僕がダメと言ったんです。『セーラ』はそういう叙情的なシーンを一切見せて無いんですね。あくまでもミンチンのイヤらしさ、女のイヤらしさを描いたのだから、どうしたって中に入っていきたいわけ。だからセーラのアップで終りにしました。

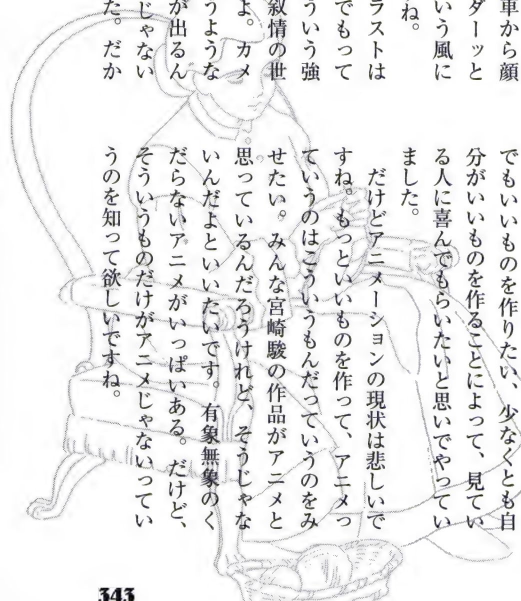
『若草物語』もそう。列車の中のジョオのアップで終わっている。本来ならニューヨークが見えてくるところで、汽車から顔かなんか出して、平原に汽車をダーッと行かせる。他の人だったらそういう風にするんでしょう。でも僕は嫌ですね。

　ジョオは一人で行くんだし、ラストは希望ですよ。完全に自分の意志でもって向こうへ行こうとしている。そういう強い意志の人間をずーっと引いて叙情の世界で終わらせちゃダメなんですよ。カメラが中に入っていって終りというような感じの方が、あの作品のテーマが出るんじゃないか、見ている人もいいんじゃないかと思って、アップで終わらせた。だから僕が今までにやった名作2本っていうのは、そうやって作ったつもりです。

僕にとっての名作劇場

　僕にとって世界名作劇場とは、一言で言えば、僕の飯の種でしたね。それで飯を食えた。おかげでお酒も飲めました。もう、それしかないです。だってみんな飯を食うために生きるんだもの。そういう経済活動の一環としてこの仕事をしました。

　アニメーションはお互い助け合って仕事をしているんです。だってろくろく家に帰れないんですよ。ギャラも雀の涙でね。でもいいものを作りたい、少なくとも自分がいいものを作ることによって、見ている人に喜んでもらいたいと思いでやっていました。

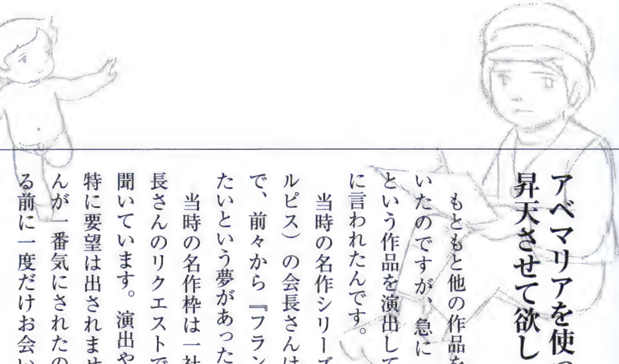


　だけどアニメーションの現状は悲しいですね。もっといいものを作って、アニメっていうのはこういうもんだっていうのをみせたい。みんな宮崎駿の作品がアニメと思っているんだろうけれど、そうじゃないんだよといいたいです。有象無象のくだらないアニメがいっぱいある。だけど、そういうものだけがアニメじゃないっていうのを知って欲しいですね。

Special Interview Part3

監督

黒田昌郎



アベマリアを使って昇天させて欲しい

もともと他の作品をやる予定で準備していたのですが、急に『フランダースの犬』という作品を演出してもらえないかと会社に言われたんです。

当時の名作シリーズのクライアント（カルピス）の会長さんは敬虔なクリスチャンで、前々から『フランダースの犬』をやりたいという夢があったようなんです。

当時の名作枠は一社提供でしたから、会長さんのリクエストであっさり決まったと聞いています。演出や登場人物については、特に要望は出されませんでしたが、会長さんが一番気にされたのは最終話。作品に入る前に一度だけお会いしましたが、最後のシーンだけ、アベマリアを使って昇天させて欲しいとおっしゃってました。

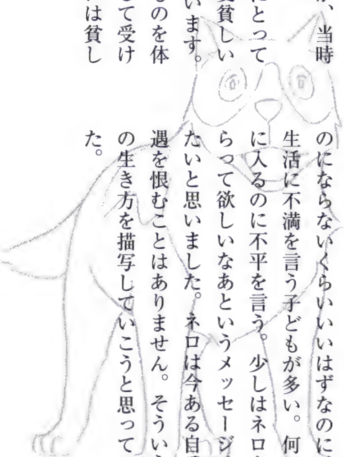
ネロは今あるものに不平を言わない少年

僕はぎりぎり戦前の生まれです。戦争中は疎開していました。群馬県の伊香保温泉だったから、食べるものはなかったですけれど、毎日温泉にだけは浸かっていました。ネロが食べ物に困る話がありますが、当時の私も同じような体験をしました。

当時作品を見ている子どもたちにとっては、ネロとおじいさんの生活が大変貧しい生活だとは感じられなかったと思います。自分たちの生活の中で貧しさそのものを体験していないのですから、実感として受けとめられないと思うので、演出的には貧しさを特に強調するという描写はしませんでした。むしろネロという少年は目的意識が強くて、それで純真で、何を見てもストレートに受け入れる。だから、教会に飾ってある絵を見たい、でもお金がなくて見られないというところを描きました。

ネロは自分の境遇に関しては、一切不平は言いません。おじいさんがいて、アロアがいて、パトラッシュがいれば、もうそれだけで幸せ。ただ一つだけ満ち足りないものがあるとすれば、教会の絵が見たいなと。それから絵を描きたい。それがネロの夢なんですね。

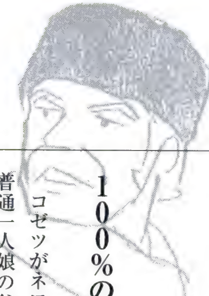
オンエアされた当時（1975年）の日本はもう貧しくて大変な時代じゃなくなっていた。物は有り余って、何か欲しいなと思えば手に入る、親も与えてくれる。当時の子どもたちは、今の子どもたちもそうですけれど、ネロと比べたら環境的に比べものにならないくらいいいはずなのに、日常生活に不満を言う子どもが多い。何でも手に入るのに不平を言う。少しはネロを見ならって欲しいなあというメッセージは送りたいと思いました。ネロは今ある自分の境遇を恨むことはありません。そういう少年の生き方を描写していこうと思っていました。



Profile

黒田 昌郎（くろだ よしお）

演出家。東映動画を経て、日本アニメーションの作品の監督・演出などを担当する。世界名作劇場シリーズでは『母をたずねて三千里』、『ペリーヌ物語』の絵コンテ、『フランダースの犬』『家族ロビンソン漂流記ふしぎな島のフローネ』『ピーターパンの冒険』では監督を務める。



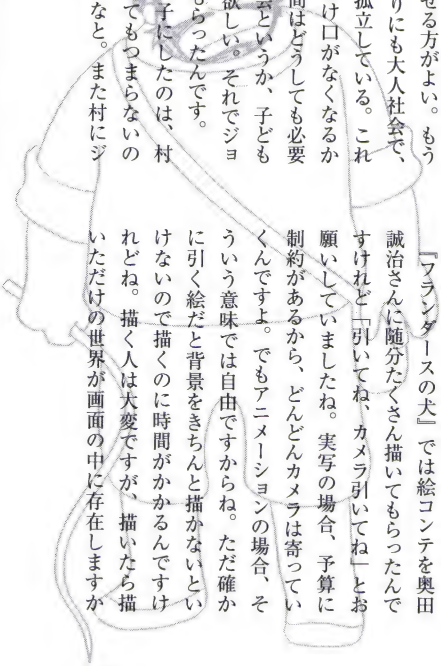
100%の悪はいない

コゼツがネロを嫌うことについてですが、普通一人娘の父親なら、娘が結婚相手なんか連れてきたって〝口も聞かねえぞ〟って思いますよね。だから、コゼツの感情はごく素直な父親の感情だと思います。ドラマの登場人物を設定するにあたって、主人公とそれに対する敵役を置きます。主人公側から見ると敵役＝悪と思いがちです。善玉、悪玉という図式です。しかし私は、主人公の敵役＝悪（ワル）とパターンとして決めつけたくないのです。コゼツもそう。一つは自分の娘のボーイフレンドに対する父親の嫉妬っていうのもあると思うし、もう一つは貧しい村のリーダー的な立場で考えたら、いくらおじいさんがいいよっていうからって、若いくせに絵ばかり描いているネロを、けしからんなと思うでしょう。

それは金物屋やハンスもそうなんですよ。彼らの職業がネロと対立してしまうのです。立場が対立する悪になってしまう。僕はどんな場合でも人物をパターンとして善と悪にはめてしまうのは嫌いなんです。パターンではなく人間くさい生の人間を描写したいのです。それぞれ、人間は個々に弱さを持っている。弱さを持っているから人間らしいんです。100%の悪はいない。図式にはめれば楽ですけれど、人間の描き方としてはあんまり面白くない。

ただ金物屋については人間的な面を描写しないで、悪の代表者という形で描いてしまいました。職業という意味では、もっとちゃんと労働犬というものの存在を町中なんかで見せておかないといけなかったんだろうと思います。時代的にああいう風に犬に労働させるっていうのは当り前だったんですからね。

ノエルじいさんもジョルジュとポールも、全く原作にはないキャラクターです。あの村の中ではコゼツに頭を下げる人間しかいない。それに対しておじいさんやネロが頑張ると敵対関係が強くなるだけで、やっぱり別人からそういうことを言わせる方がよい。もう一つ、ネロの回りがあまりにも大人社会で、その中にネロがポツンと孤立している。これでは子どもの気持ちのはけ口がなくなるから、やっぱり同年代の仲間はどうしても必要かなと。つまり子ども社会というか、子どもだけで話し合える部分は欲しい。それでジョルジュとポールを出してもらったんです。

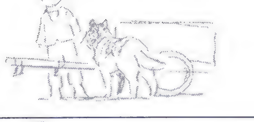


彼らをアントワープの子にしたのは、村の中ばかりだと舞台としてもつまらないので、少しは抜け出したいなと。また村にジョルジュとポールが常時いると、アロアの出番がなくなりますからね。やっぱり村に帰ればアロアがいる、頻度からいえば、アロアとの関係、それを見せておきたかった。

アニメーションは動きの中で表現したい

映像的に画面の構図についていうと、僕はアップが嫌いなんです。表情とセリフを捨てたら何の印象もないというなら、それはアニメーションとしての価値がないんじゃないかなと思うんです。だから極力カメラを引く。基本的にはアニメーションというのは動きの中で表現したいので、セリフ以上に動きで感じてもらう描写をしたいなと。

『フランダースの犬』では絵コンテを奥田誠治さんに随分たくさん描いてもらったんですけれど「引いてね、カメラ引いてね」とお願いしていましたね。実写の場合、予算に制約があるから、どんどんカメラは寄っていくんですよ。でもアニメーションの場合、そういう意味では自由ですからね。ただ確かに引く絵だと背景をきちんと描かないといけないので描くのに時間がかかるんですけれどね。描く人は大変ですが、描いたら描いただけの世界が画面の中に存在しますか



ら。他にも僕はあまりカメラを動かしたくない。オーバーラップも使いたくない。いずれも動きをじっくり見せたいからです。

シリーズもので大事なのは、やはりそこで生きている、そこで生活しているという感じです。見ている人が同じ村の中で生活しているかのように、最初の1クールくらいで定着してくれないと多分ダメだろう。ですからそういう意味でも、あまり変わったアングルは使わない。いつも馴染みの角度でみせる。年がら年中同じところばっかり歩くから面白みも何もないし、52話も作らなきゃいけない。でも、それが観客にとっては、同じ世界に感じられる要素になると思うんです。同じ道を色んな角度から見せていると違って見えてしまう。毎日同じ道を歩いているんだよって、同じ角度で見せないと。ただ退屈ですよね。見慣れてくると飽きてくる。でもそれは逆に大事なことなんです。

尊敬される親父というのが『フローネ』のテーマ

『ふしぎな島のフローネ』。これ、原作が全く架空の島なんですよ。南の動物も出てくれば、北の動物も出てくる。もう、むちゃくちゃなんですね。ほんとにあればびっくりしました。それよりもなによりも一番問題になったのは、フジテレビのプロデューサーが「監督、これ一年間も話を作れるの？　ずっと無人島に行って、他に誰も出てこないよ」って心配したのです。一年の半分以上を無人島で生活しなきゃならないわけです。それで僕は50本分のサブタイトル付の案を書きました。これなら何とかなりそうだねと話が決まったんです。この構成をシナリオライターの松田昭三さんに渡して、それで書いてもらいました。

原作は男の兄弟の話ですが、主人公を女の子に変えて、優等生はやめよう、ちょっと劣等生にしよう、それから美人をやめよう。それが主人公に関しての考え方です。それから、どうも日本アニメの名作って親父の影が薄いんですよね。親父がダメなやつばっかり、あるいはいないかね。どちらかというと母親に支えられている。当時僕には娘がいました。それもあって父親復活というのが欲しかった。父親というのはある意味、どこか尊敬される存在である必要があると思ったんです。

無人島に行っていろんなことをやらなきゃいけないとしたら、〝ああ、さすが親父〟というのを一番見せやすい。尊敬される親父というのをテーマの一つとして据えようと思いました。

無人島だから動ける要素はいっぱいある。キャラクターは対比的に作った方が面白いから、たとえば親父が何でも出来るとしたら、兄貴はまったく動くのがダメで、じっとしてポロンポロン音楽作っている方がいいかなと。そういう風に家族構成のバリエーションを作っていきました。

『フローネ』のメインテーマはファミリーです。都会の社会生活の中で考える家族と、それらが一切なくなったところで考える家族。家族って一体何なのかなあと。それを考えるには、一番にいい素材でした。あることについて父親がどう考えているのか、母親がどう考えているのか、兄弟はどうなのか、それまでの名作シリーズにはそういうところまではあまり触れていなかったですから。

無人島の環境作り

無人島の設定もずいぶん検討しました。他の作品でもそうなんですけれど、やっぱりきちんと平面図を作って、東西南北全部決めて、どこに何があるって決めてからじゃないと入れない。あの時一番問題になったのは木の上に家を建てて、その家から海

が見えるのか見えないのかでした。

　結局、家からは海が見えない事にしたのですが、何で見えなくしたかというと、そこで見えると海を見に行くという行動がなくなっちゃう。家の中から出なくなる。やっぱり芝居を見せるのに家から表へ出て、あちこちウロウロしてもらわないと困るんです。海を見る時には突き出した岩のところまで行って船が来ないかなって見張ろうよと。

　それから家に壁を作ると都会の家の中と同じですよ。じゃあ、窓から外が見えればいいと四方全部外が見えるようにしました。それならどこ見てもジャングルに来たんだってわかる。バナナのような葉っぱで壁を作って、雨が降ればぱたんと閉められる。それも日頃は全部開けて、外が見えるようにしておく。そういう環境作りをしましたね。でもずっとそこにいるのでは飽きるだろうから、どこかで住む場所変える方がいいなあと。それじゃ、パッと変えて岩ばっかりの洞穴に引っ越しするかと。

　同じ無人島なんですけれど、絵柄的にも変化をつけたいし。同じ住まいのままではなくて転々とさせてみる。人物もまったく5人だけじゃ辛い。最初のうちは動物たちがヒョロヒョロ出てくるのもいいでしょうけど、人間が出てこないと波風が立たない。それでモートンとタムタムという少年を出しました。

『ピーターパン』は1話に10000枚かけました

『ピーターパン』に決った時の話ですが、今までの名作シリーズの作り方をどんな風に変えてもいいから、視聴率だけは取って欲しいと言われました。ずっと今まで女性ファンを引っ張ってきたけれど、ピーターパンで男性のファンを集めようと。

　あのときはこれからのシリーズの中にラスカルを必ず入れるようにとも言われました。その命令に忠実に従ったのは僕だけですね（笑）。『ピーターパン』の年に日本アニメーションの看板キャラクターがラスカルになったんですよ。森やすじさんの描いたペロのキャラクターが東映の看板になっているんですけれど、それと同じようにラスカルを看板にするので、ラスカルを『ピーターパン』で出してくれと。まあ『ピーターパン』というのは何でもありの世界ですからね。

　第一回目の放送（※1）は、1話と2話がまとめて長尺になっていますけれど、あれで、2万5千枚くらい使っています。例えば、名作シリーズは1話につき6000枚から多い時は8000枚かかっているんですが、『ピーターパン』は10000枚かけています。特にピーターパンの場合、全身が動いて、それが10000枚ですから、そりゃあ凄まじいものがありましたよ。あの頃やっていた枚数の少ない作品だったら『ピーターパン』1本で、3本か4本作れたでしょう。

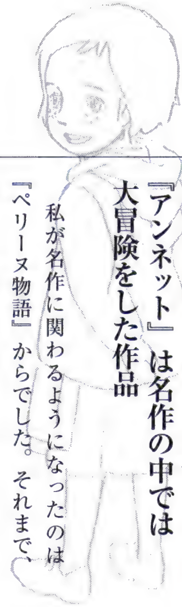
　名作シリーズ、ああいう（作品を見る）時代は終わったんでしょうね。当時と比べて、今はもう気軽に海外旅行もできる。海外の生活などもドキュメンタリー番組で知り尽くしている人たちに、欧米の生活をきめ細かく見せても、色あせてしか映らないでしょう。名作シリーズの後半、視聴率が下がったことはそのことを物語っていると言えますね。

　今、日本の制作現場は作り手にとっては大変環境が悪くなっています。本数が多いこともあるのですが、時間も人手も足りない中で、制作システムがきちんと機能しない状況が出ています。「手抜き」と言ったら語弊がありますが、手抜きせざるを得ない。分業態勢があまりに進み過ぎてスタッフのコミュニケーション不足。制作のポイントでのチェックも海外外注という中で満足にできないなど。大手数社を除いては、良質の作品を作るための場が確保できない。アニメの将来にとって、残念なことですね。

（※1）一回目の放送　1話と2話は続けて1時間枠で放映された。

Special Interview Part4

監督
楠葉宏三



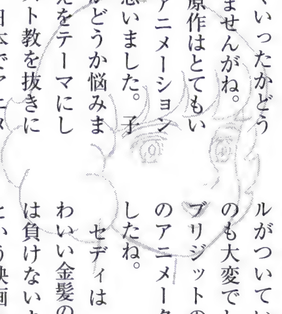
Profile

楠葉 宏三（くすば こうぞう）
1971年に東京ムービーに入社。日本アニメーションに移籍後、1981年に『フーセンのドラ太郎』で監督デビュー。世界名作劇場シリーズでは、監督として『アルプス物語 わたしのアンネット』、『愛少女ポリアンナ物語』、『小公子セディ』、『トラップ一家物語』、『若草物語 ナンとジョー先生』、『ロミオの青い空』、『家なき子レミ』のシリーズ最多7本を担当し、『七つの海のティコ』などでは絵コンテ、演出として参加。2004年からフリーランスとなり、『ドラえもん（新シリーズ）』の総監督に就任。

『アンネット』は名作の中では大冒険をした作品

私が名作に関わるようになったのは『ペリーヌ物語』からでした。それまで、同じ日本アニメで『小さなバイキングビッケ』などの作品をやっていたので、名作を担当すると決まった時には非常に緊張しました。名作での初めての監督作品は『わたしのアンネット』です。

名作の中では大冒険をした作品ですね。デビュー作でいきなりこんな難しい作品にあたって損したなと思いました（笑）。基本的にはアンネットが主役ですが、私は、この物語はルシエンの話だと思って作りました。ルシエンとペギンじいさん、このふたりの話に力を入れたんです。アンネットは、名作の中では唯一といってよいほど負の正義というテーマを持ったキャラクターでした。主人公を悪者キャラにしていいのか非常に悩みましたね。だからアンネットとダニーに負の部分を負わせた代わりに、ルシエンをプラスに置いたつもりです。それがうまくいったかどうかは、いまだにはっきりしませんがね。『わたしのアンネット』の原作はとてもいい話なんですけど、これをアニメーションにするのは相当難しいと思いました。子どもたちが理解できるのかどうか悩みましたね。原作は聖書の教えをテーマにしているので、信仰、キリスト教を抜きにすると難しい話なんです。日本でアニメ化するには、子ども同士や親子の愛に立ち返ってやるしかない。



タイトルの『わたしのアンネット』ですが、原作の意味でいえば、〝わたし〟とは神様の事で、神様のアンネットなんです。でも私は、〝わたし〟とは見ている視聴者である子供達自身でいいと思っています。作り手である私にとっても〝自分のアンネット〟だと思って作りました。

一番大事なのは丹念に作ること

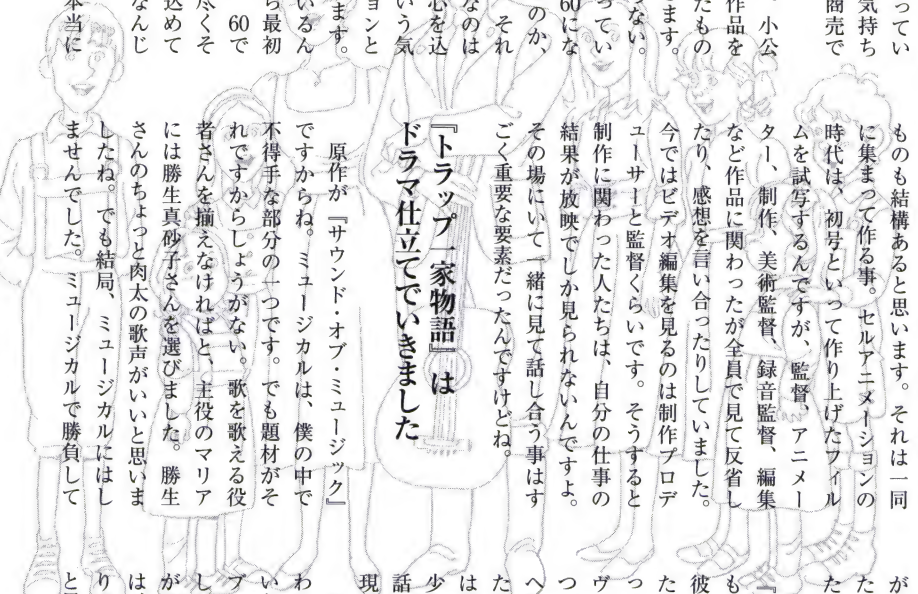
絵の話になりますが、アニメーションでは豪華さを出すのが苦手なんですよ。『小公子セディ』は貴族の話でしたから、宮殿のような背景も出てきますが、どうしても絵ではちゃちに見えてしまう。衣装は特にそうです。それにレースやフリルがついている衣装は、描くのも動かすのも大変でした。中でも、貴族の女の子ブリジットの服はヒダが多くて作画担当のアニメーター達みんなにいやがられましたね。

セディは『小さな恋のメロディ』のかわいい金髪の男の子、マーク・レスターには負けないようにしたんです。『小公子』という映画も見ましたけど、あれなら作れるだろうという気がしましたし、「絶対俺が作ったほうが面白くなる、面白いものを作ってみせる」と、妄想心を持って

いました。実際そうなったかは大いに疑問ですが、やっているときはそう思っていましたね。そのくらい、生意気な気持ちじゃないと、監督なんてできない商売でしょう。

一番大事なのは丹念に作ること。小公子セディ』だけではないですが、作品を作るときは、最初に自分の意図したものとは違い、色々な条件がついてきます。そして、その中で作らなければならない。100％面白い作品を作ろうと思っていたのが色々な条件が出てきて80や60になる。そこでめげていい加減に作るのか、80や60の中でベストを尽くすのか、それは考え方だと思います。一番大事なのは丹念に作る事です。言い換えれば心を込めて作る。やっぱり作り手がそういう気持ちを持っていないと、アニメーションといえども画面にちゃんと出てきます。「あ、この人これだけ考えて作っているんだ」というのは伝わります。だから最初の見込みが100だったからこそ、60で作る事になってもそこでベストを尽くそうと思ってやっていました。心を込めて丹念に作る事、今だからこそ必要なんじゃないかなという気はしています。

今の世の中、デジタル化されて本当に便利なんですよ。その一方で、無くしたものも結構あると思います。それは一同に集まって作る事。セルアニメーションの時代は、初号といって作り上げたフィルムを試写するんですが、監督、アニメーター、制作、美術監督、録音監督、編集など作品に関わったが全員で見て反省したり、感想を言い合ったりしていました。今ではビデオ編集を見るのは制作プロデューサーと監督くらいです。そうすると制作に関わった人たちは、自分の仕事の結果が放映でしか見られないんですよ。その場にいて一緒に見て話し合う事はすごく重要な要素だったんですけどね。

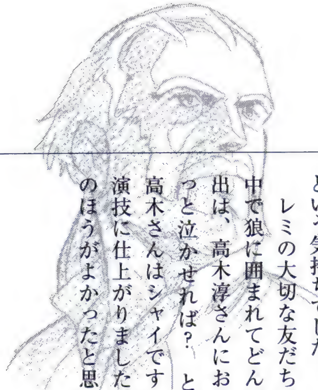


『トラップ一家物語』はドラマ仕立てでいきました

原作が『サウンド・オブ・ミュージック』ですからね。ミュージカルは、僕の中で不得手な部分の一つです。でも題材がそれですからしょうがない。歌を歌える役者さんを揃えなければと、主役のマリアには勝生真砂子さんを選びました。勝生さんのちょっと肉太の歌声がいいと思いましたね。でも結局、ミュージカルにはしませんでした。ミュージカルで勝負してもジュリー・アンドリュースにかなうわけがないですから。歌のシーンはありましたが、あくまでドラマ仕立てでいきました。

『トラップ一家物語』では、なんといっても脚本のしろやあよさんの存在感です。彼女の力が大きかったですね。一番驚いたのが、名作アニメ史上初めて初潮を扱ったシーンがあった事でした。長女ヘートヴィッヒがマリアと意見が合わず何かにつけて反抗するんですけど、その場面でヘートビッヒに初潮が訪れるシーンがあったのです。シナリオが上がってきたときはびっくりしましたが、しろやさんは、少女から女性へ成長する重大な出来事を話に絡めて、二人の心の交流を見事に表現してくれました。

執事のハンスがある日突然に性格が変わりますが、狂気というのはたぶんそういう事だろうと思います。『サウンド・オブ・ミュージック』の中でも描かれていましたね。昨日まで友達だと思っていた人が突然裏切ってしまう。ナチスの時代では、そういう事が日常茶飯事としてまかり通るんですね。本当に怖い時代だったと思います。ですから、あのスキンヘッド



の将校は、あえて銀河万丈さんにしました。あの美声で演じていただければナチスの怖さがより強調できると思いましたから。

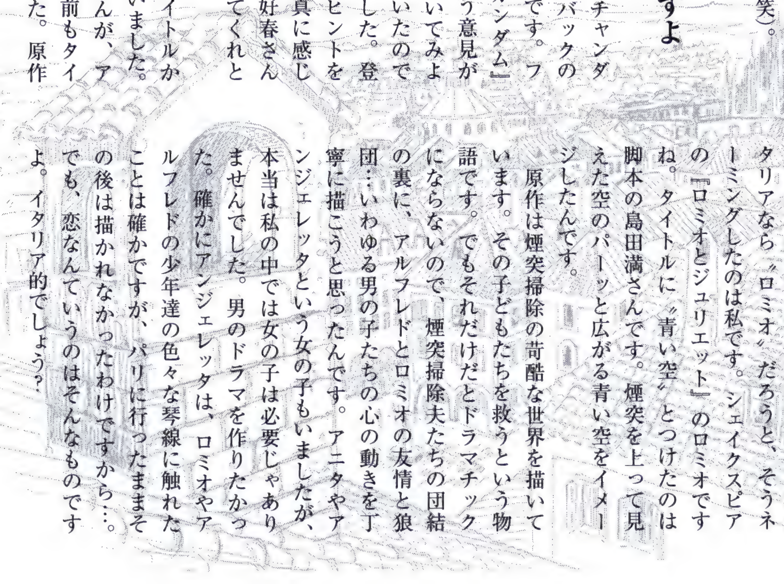
私が担当した話は人が死ぬ作品が多くて…

残念ながら『家なき子レミ』でシリーズは一旦、終わりになりました。でも作っている現場では、シリーズの最後という意識より面白くていいものを作りたいという気持ちの方が強かったようです。

『家なき子レミ』は『名犬ラッシー』の後で準備期間が半年間だから、もちろんロケハンに行く暇はないわけです。でもフランスの資料はたくさんありましたし、名作の美術をずっと担当されていた伊藤主計さんにお願いしましたから大丈夫だという気持ちでした。

レミの大切な友だちの犬たちが雪山の中で狼に囲まれてどんどん死んでいく演出は、高木淳さんにお願いしました。もっと泣かせれば？　と言ったんですが、高木さんはシャイですからね。押さえた演技に仕上がりました。でも結果的にそのほうがよかったと思います。それにしても、私が担当した話は人が死ぬ作品が多くて…。最後はハッピーエンドになるんですけど、途中は悲惨な話ばっかりです。「なんで俺のところばかりこんな話がくるんだ」って思っていました（笑）。

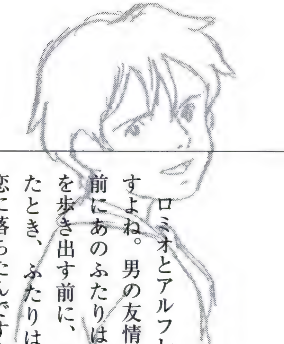
ロミオとアルフレド、ふたりは恋に落ちたんですよ



『ロミオの青い空』ですが、マーチャンダイジング用のアルフレドのオールバックの髪型、あれは仮キャラだったんです。フジテレビの当時の局プロが（『ガンダム』の）シャアの髪型がいいなという意見がありまして、「じゃあ、ひとつ描いてみよう」と。これが意外と似合っていたので今のアルフレドの髪型になりました。登場する子どもたちは写真集からヒントを得ました。スイスの子どもの写真に感じのいい子がいたんですよ。佐藤好春さんにはその写真集の人物に近づけてくれという話をしました。

原作は『黒い兄弟』というタイトルから、最初は黒人の話かと思っていました。だからというわけではありませんが、アニメ化に際しては、主人公の名前もタイトルも変えようと考えていました。原作の主人公の名前は『ジョルジュ』ですが、音の響きが主人公らしくない。仲間の連中が「ジョルジュー」って呼んでも「ええっ？」って感じになるじゃないですか。イタリアなら〝ロミオ〟だろうと、そうネーミングしたのは私です。シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』のロミオですね。タイトルに〝青い空〟とつけたのは脚本の島田満さんです。煙突を上って見えた空のパーッと広がる青い空をイメージしたんです。

原作は煙突掃除の苛酷な世界を描いています。その子どもたちを救うという物語です。でもそれだけだとドラマチックにならないので、煙突掃除夫たちの団結の裏に、アルフレドとロミオの友情と狼団…いわゆる男の子たちの心の動きを丁寧に描こうと思ったんです。アニタやアンジェレッタという女の子もいましたが、本当は私の中では女の子は必要じゃありませんでした。男のドラマを作りたかった。確かにアンジェレッタは、ロミオやアルフレドの少年達の色々な琴線に触れたことは確かですが、パリに行ったままその後は描かれなかったわけですから…。でも、恋なんていうのはそんなものですよ。イタリア的でしょう？



ロミオとアルフレド、あれは一目惚れですよね。男の友情がどうのこうのという前にあのふたりは、恋人同士。苦難の道を歩き出す前に、リンゴの事件で出会ったとき、ふたりは一目惚れしたんです。恋に落ちたんですよ。そう考えなければ、あれほどの固い絆は持てなかった筈です。

　ロミオはアンジェレッタの後、ビアンカに心が移ります。それはビアンカに兄のアルフレドの面影を見たからですよ。やっぱりロミオにはアルフレドなんです。

　本当はもっとじっくり描きたかったですね。そうできなかったのは30数本という、予定よりもずいぶん短い中で描くことになったためです。当初は45本くらいの予定でしたが、特番がどんどん入ってきて、色々なところを削らなければならなかった。野球の投球でいえばストレート一本。カーブやシュートもなしで、必要なところだけを描くしかなかったんです。しかも一番困ったのは、特番が入るのが未確定だったことです。こういう話にしようと3ヶ月前から準備するわけですけど、特番が入らない場合もある。その場合の穴をどうやって埋めようかという問題も出てきます。そういった変更の度合いが一番多かったのが『ロミオ』でした。だから予備に2本ぐらい別の話を用意していました。20話「テオじいさんの人形劇」がそう。これこそ穴埋めの外伝です。テオじいさんのデザインを森先生（森康二氏）にしたのは、キャラクターデザインの佐藤好春さんのたっての希望でした。

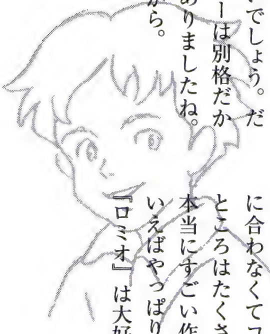
　本当は『トム・ソーヤー』みたいな話を作りたかったですね。ただ、まわってきたのがほとんど耐える少年少女の話。涙の中から立ち上がるっていうお話だから、主人公も笑いよりは涙のほうが似合うんでしょうけど、ちょっと泣かせすぎでしたかね。

　絵柄も大いに影響されます。絵柄によって演出が引っ張られるんです。それにキャラクターも一年間かけて成長しますから、それをちゃんと描き分けられるキャラクターデザイナーや作画監督にお願いしていました。キャラクター自身が成長していくのに、キャラクターがそのままっていうわけにはいかないでしょう。だから名作劇場のアニメーターは別格だからって敬遠される場合もありましたね。表情芝居も多い作品でしたから。

世界名作劇場とは何か?

　難しいですね。世界名作劇場は、高畑さんがおやりになった頃の物語的な影響力はすごくあったと思うんですよ。下地を作ったのは高畑さん。そこからアニメがドラマとして見られるようになった。世界名作劇場は、全ての作品が、〝こういうものはやってはだめ〟という規制をちゃんと守り、尚かつ良質な映像、物語を子どもたちに提供しようという姿勢があったと思います。それが22年続いた理由だと思う。ただその定義を言えるほど、私の中ではまだ整理がついてないんです。7本やりましたけど、全てよかったかどうかは自分の中で整理しているような段階ですから。

　でも自分の関わった作品は全部好きです。私にとっての最高峰は演出助手で参加した『赤毛のアン』。スケジュールが間に合わなくてコマ撮りしたとか、大変なところはたくさんありましたけど、でも本当にすごい作品でした。…でも本音をいえばやっぱり『ロミオの青い空』かな。『ロミオ』は大好きです！



Special Interview Part3

キャラクターデザイン

佐藤好春

Profile

佐藤 好春（さとう よしはる）

キャラクターデザイン、作画監督。日本アニメーション、スタジオジブリなどを経て、キャラクターデザイナー、作画監督として多くの作品に参加。現在も日本のアニメーションの第一線で活躍する。『愛少女ポリアンナ物語』、『若草物語ナンとジョー先生』、『ロミオの青い空』のキャラクターデザイン、『となりのトトロ』、『おもひでぽろぽろ』で作画監督を担当。

現場の雰囲気がよかったので続けてこられた

アニメーターになったのは、『アルプスの少女ハイジ』や名作が好きだったから。でもその当時はアニメーターのなり方なんてわからなかったんです。浪人途中で、日本アニメーションで募集があったので、自分で電話して、応募したら受かってしまった。その後は森康二さんの研修を受けて…。そんなことを話すのもなんだか照れくさいですが。

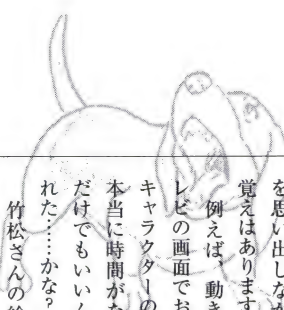
『赤毛のアン』の動画が最初の仕事でした。近藤喜文さんにずいぶんお世話になったのと、当時いた動画の方々の先輩にずいぶん良くしてもらったので、（この仕事を）続けてこれたと思います。新人の研修期間は3ヶ月でした。でも当時は1週間に1本の制作体制だったので、僕を含めて2～3人いた新人もお構いなしに組み入れられました。動画も毎週1回徹夜があったんですよ。新人が1週間にできる動画なんてたかが知れているのですが、自分たちにとっては本当にすごいことでした。

スケジュールがすごい中で、現場が新人を育ててくれたというか…。でも現場の雰囲気がよかったので続けてこられたんじゃないかと思います。忙しいだけに、殺気立っているだけだったらつぶれていたかもしれないです。苦しい中でも毎週1本いいものをあげていく。一番最初に関わった作品が、そうやって制作する先輩方の姿勢を見ながらやれたので、モノ作りはこういうものが基本だと身体に染みついたのかもしれません。その当時はただ、いい人に巡り会えたこと、『アン』が好きだったから楽しかったことだけでしたが、長い年月この世界にいて、振り返ってみてそう思いますよね。

初めての作画監督は『アンネット』

『わたしのアンネット』で初めて作画監督（以後、作監）を担当しました。（作監をやることは）楠葉さんに説得された記憶があります。始めは原画で入ったんです。その後に作監をやってくれって言われた気がしますね。だから、1話は原画、2話で作監をやりました。自分でもそのスケジュールでやるなんて信じられなかったです。アンネットは1本の1／4ぐらいの原画を担当しました。今となっては信じられない量です。

『アンネット』は竹松一生さんが初めてキャラクターデザインを担当された作品でした。自分は、竹松さんのキャラ表を見て似せて描いているつもりだったんですけど、自分の絵のクセが丸いっていうか、コロコロした方にいっちゃうんです。その当時は必死だったので、右も左もわからない。作監とは？ って、誰が教えてくれるわけでもない。でも、近藤さんがやっていたこと、教えてくれたこと、『南の虹のルーシー』で斎藤博監督から作画について学んできたこと



を思い出しながら、作監に活かしていった覚えはあります。

例えば、動きを全部みられなくても、テレビの画面でお客さんが一番見るところは、キャラクターの目とか鼻、輪郭線とかです。本当に時間がなかったら、そういうところだけでもいいんじゃないかってことを言われた……かな？

竹松さんの絵はリアルな方向ですよね。おばあさんとかおじさんとかの、大人のキャラクターがすごく難しかったような記憶があります。それがやっているうちに自分の描きやすい方向に進んでいきました。だんだん開き直ったのかもしれないです。

原画のときは、自分の持ち分のところをなんとか上手く見せたいとか、自分の持ってるものをいかに出してやろうか、という感覚だった気がします。他をみる余裕がないっていうか、自分の持ち分で手一杯なんです。

でも作監となると30分1本の全体の演出がもっと見えてくる。原画と作監は違うんですね。それを『アンネット』の作監のときに、周りからも言われたし、自分なりにもなんとかしなきゃって、そんな状態だった気がします。

『カトリ』のエンディングに四苦八苦

『牧場の少女カトリ』の演出は斎藤博さんでした。『ルーシー』の時に斎藤さんとウマが合ったっていうか、お世話になったんですよ。斎藤さんもアニメーターをやっていらしたので、『巨人の星』の話とか色々面白い話を聞かせてもらっていました。

『カトリ』は最初にエンディングをやりました。斎藤さんから絵コンテを任されたんです。エンディングのデモテープを渡されて「やってみてよ」って言われ四苦八苦しました。フレームのどこにテロップが入るかを知ったのはその時です。絵のパターンとかも全部自分で決めました。今見ると動きとか絵とか拙いけど、元気というか新鮮な感じが出ているんじゃないかな。

『カトリ』のキャラクターは自分には合っていると思いました。どちらかというと描きやすい印象がありました。でもやっぱり後から見ると恥ずかしいですけどね。キャラクターデザインの高野登さんはOHプロの方でしたが、打ち合わせとか、社内に来られたときには話をしました。上手な先輩から色々吸収してやろうっていう気がありました。

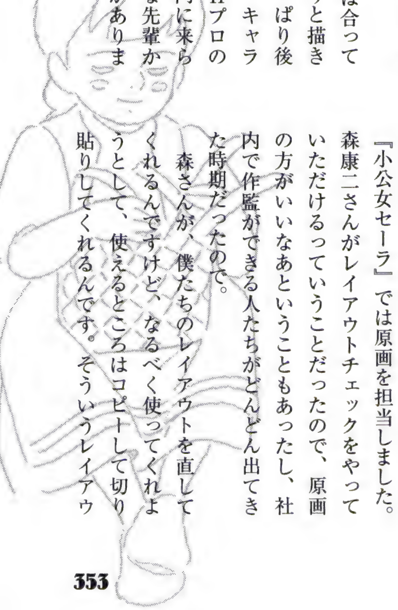
『カトリ』のときは、社内班に原画に新しい方が入ってきていて、「いろんなことをやってやろう！」という意気込みで、やたらと枚数を描いていましたね。『カトリ』の始めの頃にやった湖の水の処理とかすごい枚数だったので、大変だった記憶があります。船を漕いで島に行く話だったと思うけど、あれが一番印象に残っていますね。

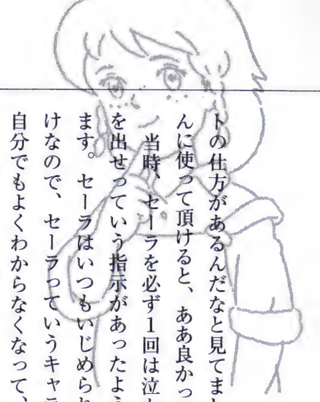
後半はキャラクターの顔がどんどん長くなっちゃった。今となっては恥ずかしいのですが、そのときも必死だったから、高野さんのキャラ表を見て、勝手に面長だと思いこんでいたんでしょうね。

森康二さんに使ってもらえて嬉しかった『セーラ』

『小公女セーラ』では原画を担当しました。森康二さんがレイアウトチェックをやっていただけるっていうことだったので、原画の方がいいなあということもあったし、社内で作監ができる人たちがどんどん出てきた時期だったので。

森さんが、僕たちのレイアウトを直してくれるんですけど、なるべく使ってくれようとして、使えるところはコピーして切り貼りしてくれるんです。そういうレイアウ





トの仕方があるんだなと見てました。森さんに使って頂けると、ああ良かったと。

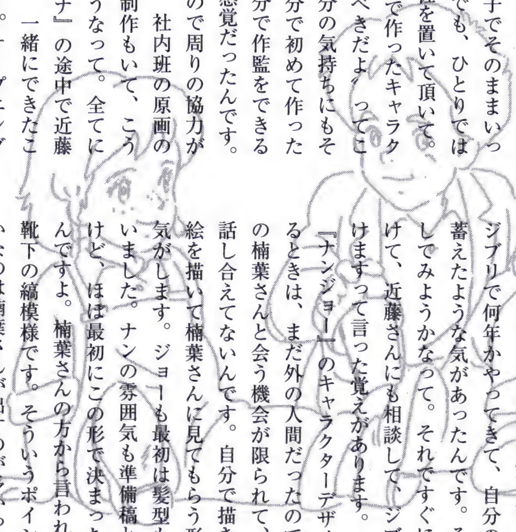
当時、セーラを必ず1回は泣かせろ、涙を出せっていう指示があったような気がします。セーラはいつもいじめられているだけなので、セーラっていうキャラクターが自分でもよくわからなくなって、監督の黒川さんに聞いた覚えがあります。そうすると黒川さんが、「セーラは主役じゃない、ミンチン先生が主役だ」って。女性のエゴだというんです。黒川さんが面白い人だったから仕事とは関係ないエピソードはたくさん覚えているんですよ。不思議と仕事の中身は全然覚えていないけど（笑）。

その頃、フジテレビでファンレターの数が溜まると、スタッフルームに貼ってありましたね。そういうものを見るとこっちも真剣に作らなくちゃいけないんだなっていう気になりましたね。

全てに精一杯だった『ポリアンナ』

『愛少女ポリアンナ物語』で初のキャラクターデザインを担当しました。だから『セーラ』は途中で抜けちゃったんです。これもまた楠葉さんでした。楠葉さんとはずいぶんと相性がいいっていうか、縁があったんでしょうね。楠葉さんから出されたイメージで描きましたが、ポリアンナの準備稿は今とずいぶん違いますよ。ハイジみたいにコロコロしてました。自分はハイジみたいなのが好きなんです。キャラクターデザインをやってみて自分は引き出しの数が少ないなと痛感しましたね。つなぎの服のイメージも確か楠葉さんが考え出してくれたんです。

『ポリアンナ』では、ほぼ全部の作監を担当しましたが、どうしてそうなったのかわからないです。何かの拍子でそのままいっちゃったんでしょうね。でも、ひとりでは見きれないから、作監補佐を置いて頂いて。



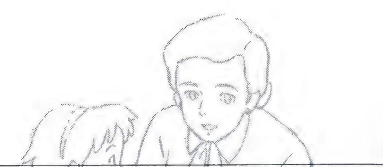
近藤喜文さんに、〝自分で作ったキャラクターは自分で責任を持つべきだよ〟ってことも言われたんです。自分の気持ちにもそれは強くありました。自分で初めて作ったキャラクターだから、自分で作監をできるならやってみようという感覚だったんです。でもスケジュールもあるので周りの協力がないとできないですよね。社内班の原画の人とか、演出の方たち、制作もいて、こういうことができたんだろうなって。全てに精一杯でした。『ポリアンナ』の途中で近藤さんも戻ってきてくれて、一緒にできたことはやっぱりよかったです。オープニングが途中で変わりますが、近藤さんが中心になってやってくれてすごく助かったし、内容もよかったと思います。

ジブリで得た手応え

『ナンとジョー先生』は、ジブリをやりながら描いたものなんですよ。名作らしい絵にしたいっていう話で頂いたと思います。じゃあ、僕の今持っている描きやすい絵でいいんですよね？ と聞いた覚えがあります。ジブリで何年かやってきて、自分の中では蓄えたような気があったんです。それを出してみようかなって。それですぐに引き受けて、近藤さんにも相談して、ジブリを抜けますって言った覚えがあります。

『ナンとジョー』のキャラクターデザインをするときは、まだ外の人間だったので、監督の楠葉さんと会う機会が限られて、あまり話し合えてないんです。自分で描きやすい絵を描いて楠葉さんに見てもらう形だった気がします。ジョーも最初は髪型も違っていました。ナンの雰囲気も準備稿とは違うけど、ほぼ最初にこの形で決まっちゃったんですよ。楠葉さんの方から言われたのは、靴下の縞模様です。そういうポイントみたいなのは楠葉さんが出すのが多かったです。

『ナンジョー』は作監も担当しました。わ



りと順調にできたような…。気分的な問題ですが、前に日本アニメーションでやったよりも違う感覚で仕事ができたっていうのはありますね。手応えを感じました。芝居や、画面の作り方とか、ジブリで見てきたものがあったから。前はわからなかったんです。ベテランの方たちがいなくて、若い人たちと一緒に、こうかな?ああかな?と作ってきた部分があった。

ジブリでは宮崎駿さんを始め、すごい人たちとやっていたわけですから、自分で見て、吸収してきた部分、アニメーションのセルの、例えば水の処理だったらこれがやりやすいとかね。レイアウトの取り方だとか。そういうことを見てきたから、やりやすかったんでしょうね。

アルフレドのオールバック

『ロミオの青い空』が大人の女性層に受けたと聞きますが、制作している時はまったく知らなかったんです。いつもの感覚でやっていました。ただ、『ロミオ』では男の子の気持ち、団結、友情がわかりやすかったですね。連続もののいいところで終わるのが面白いなって。

アルフレドをオールバックにしてほしいっていうのは楠葉さんの要求だったんですよ。僕じゃないです。それが不評だったんですよ。フジテレビのプロデューサーからも不評で、変えないといけないというので、じゃあどうしようかってことで前髪を垂らしたんです。

『ロミオ』は、最初に森やすじさんのすごくいい絵があったから、キャラクターが決まるまでは相当大変でしたよ。日本アニメーションに戻ってきて、引き出しの数が増えただろうと自分では思いこんでいたんです。でも『ナンジョー』では描きやすい絵を描いていただけでした。キャラクターデザインとして初めて取り組んだといえるのは、『ロミオ』だったかもしれませんね。シナリオからプロットを読んで、キャラクターのイメージを自分で造り上げていって、ああでもないこうでもないと楠葉さんと話をして、でも決まらない。最終的にロミオが決まったのは企画の佐藤昭司さんのおかげなんですよ。佐藤さんが、『ハイジ』のスイスロケで撮った村の子供たちの写真を持ってきて、この男の子の表情がいいんだよって僕に見せてくれたんです。それを元にして描いたんですよ。そしたら一発で楠葉さんからOK出たし、周りからの反応も良かった。そういうことで出来上がったんですよ。

無意識にハイジになってしまう

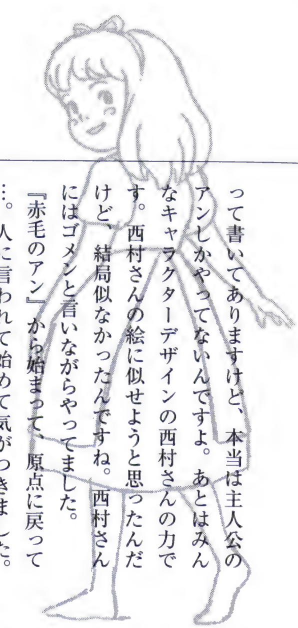
『ロミオ』の少女キャラで、お気に入りっていうか、苦労して作ったのはアニタですね。アニタがなかなか決まらなくて…。ビアンカとアンジェレッタの方が先に決まったんですよ。アンジェレッタは病弱だから面長にして、髪の毛は長いけれども結うだろうと。

ビアンカは気が強いっていうことで、ショートカットにして、目はきつめにして、ビアンカが決まった頃にはアルフレドもあの髪型になってたので、髪型もアルフレドに似せようと思ってたんだよね。すんなりと決まったんですよ。

でもこの幼なじみだけが…。あの服装にしようって決まったのも確か楠葉さんがスイスの民族衣装の資料を持ってきて、やっぱりハイジに近かったのかな。それでだんだんと決まっていったような。自分は『ハイジ』を見て育ったんですよね。自分では無意識にハイジになっちゃって、それでこのキャラクターだけは苦労した覚えがあるんですよ。

『アン』で始まって『アン』に戻る

『こんにちはアン』では、キャラクター原案



って書いてありますけど、本当は主人公のアンしかやってないんですよ。あとはみんなキャラクターデザインの西村さんの力です。西村さんの絵に似せようと思ったんだけど、結局似なかったんですね。西村さんにはゴメンと言いながらやってました。

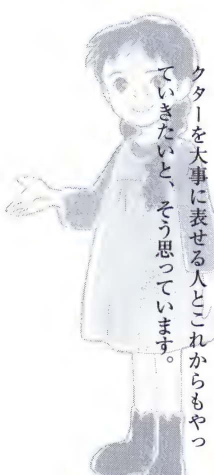
『赤毛のアン』から始まって、原点に戻って…。人に言われて始めて気がつきました。自分でも感慨深い気がします。これも縁だから『こんにちはアン』で何か出来ることを始めたいなというのはありますね。名作的な作品をもうちょっと残したいですね。今、『こんにちはアン』が終わって、社内もまた充実してきたんじゃないのかな。これから若い人たちがもうちょっと覚えてくれると面白いものが出来るんじゃないかという気がするんですよ。それでもう少し粘ってみようかなと。僕も若い人と一緒にやって何かもらえるものがあるんじゃないかという気がしています。

僕にとっての名作劇場

……僕の原点はやっぱり近藤さんなので、『アン』のキャラクターデザインが僕にとっての名作かな。自分にとっては、近藤さんや森さんからのルーツにある絵が大きいんじゃないかと思います。

僕にとっての名作劇場とは、アニメーションの仕事としての全てになるのかもしれません。結局、名作に戻ってきていますから。名作から始まって、色々なものを吸収したいと思って外に出てやってきましたけど、結局また名作に戻ってきているんです。僕にとっては、作品的にも絵的にもこれが好きなんだと。他の作品でも色々な生活芝居をやっていますけど、名作の生活芝居……自分たちのやってきた作品の中では、『ふしぎな島のフローネ』辺りから若い連中でやってきたもの、それが自分の全てだったんだなって思いますね。

前はそういう事は思わなかったんです。アニメーターとして、上手くなりたいと追い求めて、焼きもちを焼くとか色々ありましたけど…そんな事は関係なくなって。結局、名作みたいな作品でキャラクターの性格や動きの中で面白い芝居ができるとか、そういうものを続けていけたら幸せな気分じゃないかな。だから、演出的にもキャラクターを大事に表せる人とこれからもやっていきたいと、そう思っています。



Pick UP

今回の描きおろしについて

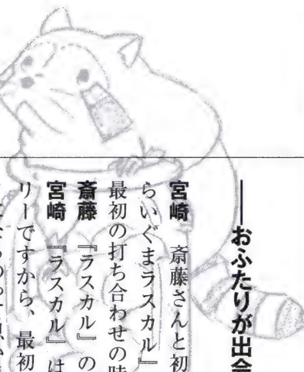
「水彩にして本当に良かったと思いますね。このときは自分に時間が無かった事もあって、これを描いていた当時はゲーム会社にいたんですが、そちらで絵を描ける方に水彩で色を塗って貰いました。その方も名作が大好きだったので僕が下描きで何度も描いたものに「このキャラクターは可愛くない」とダメ出しをされたりして、ここまでいったもので…。自分ひとりだけだったら、描きやすいほうにいってしまったと思います。第三者から言われたからここまで出来たし、自分の中ではまとまって出来ているほうかなと思いますね。人に見られても恥ずかしくないかな、と」



▲「世界名作劇場シリーズ メモリアルブック ヨーロッパ編」、「世界名作劇場シリーズ メモリアルブック アメリカ＆ワールド編」(2009年7月発売) の2冊のカバーは佐藤氏の描きおろし。生誕35周年を迎えた世界名作劇場のキャラクター達が、ファンに向けてメッセージを届けているというコンセプト。2冊は並べると一枚の絵になる。

Special Interview Part6

監督
斎藤 博 × 宮崎 晃
脚本家



——おふたりが出会ったのは?

宮崎　斎藤さんと初めて会ったのは『あらいぐまラスカル』の脚本を提出して、最初の打ち合わせの時だろうと思います。

斎藤　『ラスカル』の時ですかね。

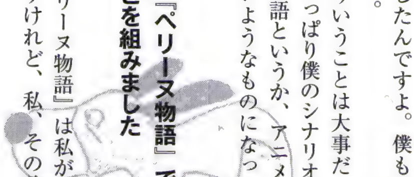
宮崎　『ラスカル』は原作がドキュメンタリーですから、最初はこれが本当にアニメになるのって思いました。僕はアニメーションというのは全然違うものを考えていましたから、「こんな地味なノンフィクションがアニメになるの?　面白いの?」と思ったんですね。ところが監督の遠藤（政治）さんは、「なります!面白いです!」というんですよ。あの確信はすごかった。例えばあらいぐまの習性でラスカルが、食べる前に角砂糖を洗い溶けてしまったので驚くという場面があるのですが、「これが面白いのか」と思ったんです。遠藤さんは面白いと言うんですね。そりゃ、実写でやれば、びっくりする人もあるだろうけれど、アニメだったらいくらでもそんなことできるわけですから。内心では遠藤さんの確信を疑っていたんです。でもうれしいことに僕が間違っていました。

斎藤　動物で何とかなるっていうところは、あったかもしれません。アニメーションをやっていると、その辺で何とかしようという感覚はあるんじゃないでしょうか。『ペリーヌ物語』や『牧場の少女カトリ』で犬のバロンやアベルが物語の進行に関係なく勝手に動く。あれは遠藤さんが『ラスカル』の時にやったんです。彼も画面の中でラスカルをちょこちょこちょこちょこ動かしたんですよ。僕もちょっと真似しました。

宮崎　そういうことは大事だったかもしれない。やっぱり僕のシナリオだけでやったら、絵物語というか、アニメーションとは言えないようなものになったかもしれませんね。

——次の『ペリーヌ物語』で監督と脚本のコンビを組みました

斎藤　『ペリーヌ物語』は私がやることになるんですけれど、私、その前に会社で



Profile

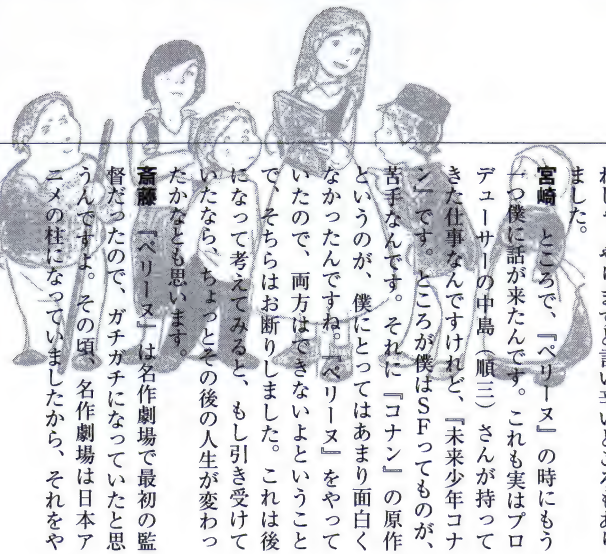
斎藤 博（さいとう ひろし）

監督、演出家。日本初の連続短編テレビアニメ『インスタント・ヒストリー』など、多数のアニメ作品を手がける。世界名作劇場シリーズでは、演出として『あらいぐまラスカル』、『ペリーヌ物語』などで参加。絵コンテでは『あらいぐまラスカル』、『ペリーヌ物語』、『赤毛のアン』、『ふしぎな島のフローネ』、『小公子セディ』、『大草原の小さな天使 ブッシュベイビー』で参加。『ペリーヌ物語』、『トム・ソーヤーの冒険』、『南の虹のルーシー』、『牧場の少女カトリ』では監督を務める。

Profile

宮崎 晃（みやざき あきら）

脚本家。『なつかしい風来坊』など、多数の助監督、監督業を務める。『あらいぐまラスカル』で初のアニメーションの脚本を手がける。他にも世界名作劇場シリーズでは、『ペリーヌ物語』、『トム・ソーヤーの冒険』『南の虹のルーシー』、『牧場の少女カトリ』、『愛の若草物語』、『大草原の小さな天使 ブッシュベイビー』の脚本を書く。



喧嘩して、もう辞めるって、会社へ行かなかったんです。だから『ペリーヌ』も最初、私はやらないって言ったんです。ところが他にやる人がいなかったのか、どうしてもやってくれと言われました。それで、最終的にはやるという話になりました。

宮崎　意志が弱いんだ（笑）。まあ、喧嘩というかちょっと意見が合わなかったんでしょうね。

斎藤　そうだったと思います。だから、それじゃ、やりますと言い辛いところもありました。

宮崎　ところで、『ペリーヌ』の時にもう一つ僕に話が来たんです。これも実はプロデューサーの中島（順三）さんが持ってきた仕事なんですけれど、『未来少年コナン』です。ところが僕はSFってものが、苦手なんです。それに『コナン』の原作というのが、僕にとってはあまり面白くなかったんですね。『ペリーヌ』をやっていたので、両方はできないよということで、そちらはお断りしました。これは後になって考えてみると、もし引き受けていたなら、ちょっとその後の人生が変わったかなとも思います。

斎藤　『ペリーヌ』は名作劇場で最初の監督だったので、ガチガチになっていたと思うんですよ。その頃、名作劇場は日本アニメの柱になっていましたから、それをやるっていうのはすごいプレッシャーでした。出だしなんか、本当に困りましたね。これ、どういう風に演出するんだろうって思ったのは覚えています。お父さんが亡くなって、母と娘が旅立とうというところ、あれはガチガチになって描いています。ガチガチぶりが非常に出たフィルムになりました。今思えば、あんなにガチガチになることないじゃないかと思うんですけれど、名作劇場っていうのは我々にとっても、特別な番組だったわけです。

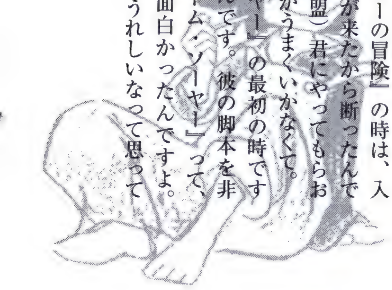
宮崎　名作劇場以前のアニメのあり方は実写とは違っていたんですよ。僕は全くアニメの脚本を知らない。だから僕は劇映画やテレビドラマを書くのと同じように書いているんですね。ただテレビドラマじゃ、ラスカルをあんな風に動き回らせることはない。それはアニメだからと思ってやったんですけれど、いずれにしても、いわゆるアニメって感覚がなかったんですね。それまで、アニメっていうのはこうやるもんだっていう、どこか違った感じがあったんじゃないかな。例えば『トムとジェリー』、ああいうのがアニメーションの面白さだと。そういうものとは全然違ったのを僕が書いたから、斎藤さんのようにアニメ界の常識に囚われていない人でさえも、ずっとこれでやっていくのか？　どこへ行くの？　魅力は？　どこに面白さのポイントがあるの？　そういうことをちょっと捕まえきれなかったんだと思います。

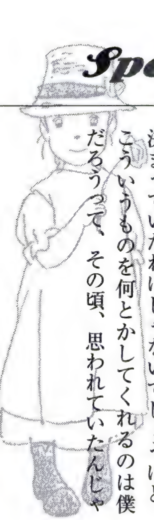
斎藤　しかも前に私がやってたのが『天才バカボン』でしたから（笑）。そんなのばっかりやっていましたから、宮崎さんの脚本見た時には参りました。それと『ペリーヌ』の時はロケハンに行けなくて、悔しかったのを覚えています。普通は5月までに制作スタートなんですけれど、9月スタートでしたから、本当に遅かったんです。しかも話数が多くて、1月1日から大晦日まで53話。よっぽど、運が悪いんだと思いました（笑）。あの頃は、宮崎さんには、愚痴ばっかり言って悪いことしました。

——再び『トム・ソーヤーの冒険』でご一緒に？

宮崎　『トム・ソーヤーの冒険』の時は、入院していた時に依頼が来たから断ったんです。代わりに加藤（盟）君にやってもらおうと思ったら、なんかうまくいかなくて。

斎藤　『トム・ソーヤー』の最初の時ですね。私も悪かったんです。彼の脚本を非難してしまった。『トム・ソーヤー』って、原作読むとえらく面白かったんですよ。これをできるのか、うれしいなって思って





いました。その想いが過剰だったということなのかな。加藤さんに厳しいことを言っちゃったんです。こちらも焦っているというか、私にとって非常に重要な作品になるなと勝手に思っていたんですね。

宮崎　『トム・ソーヤー』みたいに原作が面白いとなると、それぞれ読んだ人がイメージ浮かべるじゃないですか。斎藤さんも浮かべたんでしょう。『ラスカル』の原作を読んだ時なんか、アニメになるの？と思うじゃない？　そういうところへこれを頼りにすればできそうだって脚本が来ればよかったんですからね。僕だって『トム・ソーヤー』の冒頭だったら、斎藤さんをがっかりさせたかもしれません。斎藤監督としてはおいおいこんなに面白いのに、こうやって出なきゃいけないのかという思いをさせたんじゃないかな。

——一方、『南の虹のルーシー』は全く無名の作品でした

宮崎　そうなんです。『南の虹のルーシー』ですよ、苦労したのは。原作が本当につまらないものでした。この作品を決めた時点では、脚本は僕が担当するって決まっていたわけじゃないでしょうけど、こういうものを何とかしてくれるのは僕だろうって、その頃、思われていたんじゃないですかね（笑）。

斎藤　脚本が宮崎さんだったのは、私にとっては幸運でした。

宮崎　企画する方達も、古臭いのはやりたくないって感覚はあったんでしょう。同じ名作でもね。『ルーシー』の頃は、そういう古いのは忘れ去られる時代だった。それで、一生懸命知られていない名作を探そうと思ったんでしょう。

斎藤　高畑さんが『アルプスの少女ハイジ』をやった時には、こんな古典的なものをどうしてやるんだって文句を言っていた。やってみたら、これは非常に丁寧にやっていかないとどうにもならないというので、そうしていました。

宮崎　あれだけの小説だといろんなエピソードを付け加えることが可能ですから、最後は作れるんですよね。でも『ルーシー』はどうしようもなかった。これがヨーロッパの話なら、まだ、ヨーロッパの小説のいろんなところから引っ張ってくるとか考えられるけれど、オーストラリアは何もないんですよ。よく斎藤さんもやりましたよね。

斎藤　宮崎さんの脚本さえ来れば何とかなるんです。安心していたんですよ。『ルーシー』の1話はイギリスのヨークシャーの冬から始まる。あれはすごかったね。びっくりしました。へえ、脚本家ってこういうものかと思いました。

——名作劇場といえば物語の舞台へロケハンに行きますが、おふたりは？

斎藤　『トム・ソーヤー』が最初でした。うれしかったですね。もう、足が地面に付いていないという状態。ほとんど、上の空で、1週間か10日、ウロウロしていただけです。ハンニバルの町を見て、それから船に乗って下りました。セントルイスまで行って、そこで私、自費でいいからしばらくいたいって言ったんですけれど、強引に連れて帰ってこられましたね。

宮崎　きっと置いておくと、アメリカに住んじゃうんじゃないかと思われたんじゃないんですか？

斎藤　ただアメリカ人をもうちょっと知りたいと思っていました。いたってどうにもならないんですけれどね。

宮崎　それは違いますよ。『カトリ』の前にフィンランドへ行ったか、行かないかじゃ、全然違うもの。そりゃ、行ったからストーリーがうまくいくとか、そういうことはない。でも演出の場合は、行ったと行かないじゃ、全然違いますよね。『カトリ』は原作を読んでから行きましたが、あの原作はひどく悲惨な話でした。当時流行っていたドラマの『おしん』と同じ。

ところが、フィンランドに行ったら、そういうのとは全く違うフィンランドがありました。人々の心の大らかさというのでしょうか。行ったことで、フィンランドという国のあり方みたいなものがよくわかったんです。それで、『カトリ』は原作と同じにはできないなと思いました。

宮崎　フィンランドに行ったのは確か夏です。ホームステイを2箇所。若い夫婦の家と、長老の家みたいな感じのところに泊めてもらいました。

斎藤　あれはよかった。

宮崎　長老のところはたくさんの家族がいましたし、若夫婦の家族も快く日本人を泊めてくれるんです。5人も。精神の豊かさみたいなものがフィンランドにはあると感じましたね。

——演出と脚本の連携について、どう思われますか?

斎藤　宮崎さんと出会う前、私は『天才バカボン』とか『巨人の星』とか、そういう名作とは全然違うものをやっていたんです。それで、その時は脚本を変えることばかりやっていたんです。おごっていた部分もありますし、そうやっていることで仕事をやっている充実感を感じるようなところもありました。ところが、『山ねずみロッキーチャック』の時だったと思うのですが、絶対変えるなって言われたんです。それで困ったんですね。変えて面白くすることに夢中になっていたので、脚本をビシっと読むことをしてこなかったんですよ。脚本をきちんと読むってことができなくなっていたんです。だから、やっぱりちょこちょこ変えてしまうんですね。それで、また怒られる。そんなことを繰り返していました。ようやく、きちっとなったのは宮崎さんの脚本を受け取ってからです。だから脚本どおり描くというのは、多分私は形から入ったんだと思います。しかも遠藤さんの後について仕事していましたから、自然に宮崎さんの脚本に当たるわけです。それで、脚本通り描いてみると、意外と楽なんですね。私はスタートがギャグマンガでした。実はギャグマンガの脚本については、今でもあれが脚本と言えるのかなあと思っているんです。あれは自分の腹の中、飛び回って、できるだけ幅を広げて描くわけです。スタートがそこだから、きちんとした脚本でも、そんなことをやってしまったんですね。

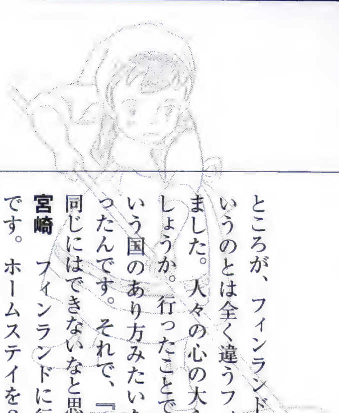
宮崎　演出というのが、斎藤さんにとって脚本も含めて、新しく作り上げるということだったんでしょうね。アニメーションの監督というのはそういうものだというのがあったし、実際ギャグマンガみたいなものが主流だったから、これは自分でやるものだと。また、そうやってやらなかったら面白いものもできなかったかもしれないですよ。きっとシナリオ支配はありえないんですよ、ギャグマンガでは。

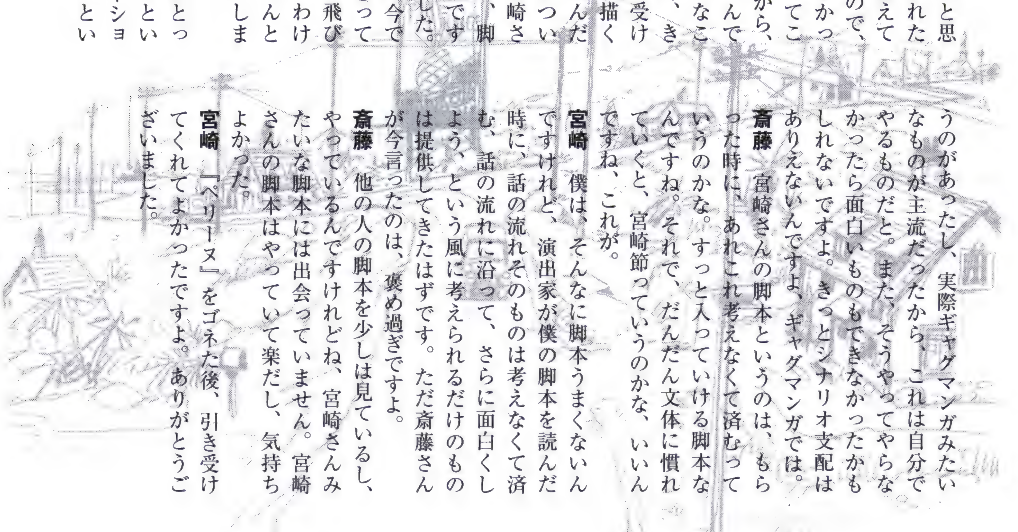
斎藤　宮崎さんの脚本というのは、もらった時に、あれこれ考えなくて済むっていうのかな。すっと入っていける脚本なんですね。それで、だんだん文体に慣れていくと、宮崎節っていうのかな、いいんですね、これが。

宮崎　僕は、そんなに脚本うまくないんですけれど、演出家が僕の脚本を読んだ時に、話の流れそのものは考えなくて済む、話の流れに沿って、さらに面白くしよう、という風に考えられるだけのものは提供してきたはずです。ただ斎藤さんが今言ったのは、褒め過ぎですよ。

斎藤　他の人の脚本を少しは見ているし、やっているんですけれどね、宮崎さんみたいな脚本には出会っていません。宮崎さんの脚本はやっていて楽だし、気持ちよかった。

宮崎　『ペリーヌ』をゴネた後、引き受けてくれてよかったですよ。ありがとうございました。





Special Interview Part7

企画・製作 佐藤昭司 × プロデューサー 中島順三

Profile

佐藤 昭司（さとう しょうじ）

日本アニメーションの創立メンバー。日本アニメーション株式会社でながらく企画部長を務める。企画・制作として多数の作品の製作を行い、世界名作劇場シリーズは初期から参加している。現在は顧問として活躍している。

Profile

中島 順三（なかじま じゅんぞう）

アニメーションプロデューサー。日本アニメーションの創立メンバー。1973年に『山ねずみロッキーチャック』でプロデューサーとしてデビュー。以後、多数の日本アニメーション作品の製作を行い、世界名作劇場シリーズは初期から参加している。現在は録音制作会社の有限会社サンオンキョー、代表取締役。

やっぱり知名度だということで『小公女セーラ』を

佐藤　このシリーズは基本的には女性が主人公で感動的なものをやる、ということになっていたんです。ただ物語の舞台は、出来るだけ毎回変えようと思っていました。いつも候補としてあがっていた『秘密の花園』のように、有名な作品はたくさんあるのだけど、舞台も含めて選んでいくんです。当時のフジテレビのプロデューサーの方達も、この枠に関しては一生懸命スタッフの一員としてやってくれたんです。『わたしのアンネット』が決まったときも面白かったですね。原作は「雪のたから」という本です。クリスチャン系の本だけ売っている書店で見つけたんですが、読んだら結構おもしろかったので候補の中に入れていたんです。たまたま当時のフジテレビのお偉いさんがクリスチャンで「これがいい」と言って決まりました。

『牧場の少女カトリ』の頃までは、まだ知られていない名作を開拓しようと挑戦していたんですけど、視聴率が低迷してきて…。それでやっぱり知名度が必要だということで『小公女セーラ』が選ばれました。その『セーラ』が視聴率をぐっと上げた。そういう意味では大御所が出てきたって感じだったんです。

『ピーターパンの冒険』、あれはファンタジーですよね。たびたびファンタジーものもやりたいという意見は出ていたけれど、ファンタジーものはこの路線では無しということでした。それを『ピーターパン』の場合は、知名度があるということで初めてやったんです。

僕にとって『ロミオの青い空』はずっと前からやりたかった作品でしたね。この原作は『黒い兄弟』といって、実話に



もとづいた物語でテレビシリーズにするにも充分内容がありました。40話くらいで終わるのがもったいなかった作品です。

　毎回、次の名作を決めていくのはいろいろ大変だったんです。『トラップ一家物語』や『名犬ラッシー』は著作権が大変だったしね。

中島　『ピーターパン』は、原作者から権利を引き継いだロンドンの小児病院が許可してくれた。だけど映画の権利は別のところが持っていて、権利取得では色々と大変だったんです。

「ネロには死んでもらいましょう」

中島　『フランダースの犬』についてですが、「殺さないで」という嘆願書がフジテレビにも、うちにも来ていました。原作通りにネロは死ぬ事にしたのはカルピスの会長さんですよ。最終回はどうするという話になって、社長以下、作曲家までみんなカルピスに呼び出されて、それで黒田さんが絵コンテを作って、こういうプランにしています、と説明したんです。この作品に一年間思い入れをしてきて見ていた子供に、最後に主人公が死ぬというのは酷だろうという人達はたくさんいましたから。僕もそうでした。だから、あいまいに吹雪の中をフェイドアウトして、死ぬのかどうかわからないまま終わらせたいと言っていたんです。でもカルピスの会長さんは「ネロには死んでもらいましょう」とおっしゃった。

佐藤　カルピスの会長さんがクリスチャンでした。ネロは死んで幸せになるんだ、それでいい、だから死んでもらう。でも一年間ずっとネロに子供達が感情移入して一緒に生きてきたわけじゃないですか。それが最後に死んじゃうってなかなか納得できないものがありましたね。

『子鹿物語』も企画によく上った作品でしたが、最後、仲良しになった鹿を撃ち殺さないといけなくなるんです。それをシリーズでやると、一年間子鹿と少年の交流をずっと描くことになる。だから最後に殺してしまうというのは相当大変なことなんです。映画でやるなら『フランダース』も、貧乏で、苦労して亡くなるんだと感動的にもっていけるかもしれないけど、日常の生活をずっと一緒に見てきたのに、最後は死ぬだと、子供達はなかなかついていけない場合もあるだろうと思うんです。それをあえて「死んでもらいます」というのは会長さんの英断だったんでしょうね。

中島　それでカルピスさんは、ネロの死ぬところには、ミッチミラー合唱団という、その頃売れていた男性コーラスを提案してきたんです。調べたら〝実現の可能性はあるけど、金額は分からないし、返事を待っていると半年かかるか一年かかるかもわからない〟といわれました。そんなに待てないということで、結局「アベ・マリア」をはめようという話になりました。

佐藤　すごいオーケストラだったね。

中島　そうそう。

佐藤　そこのシーンだけのためにやったんだよね。

　カルピスの会長はテレビで子供達に名作を見せたいという気持ちがあったんだろうと思います。そうでないとこういう路線は生まれなかったでしょうね。一時期カルピスが業績悪くなった時期がありました。それで『赤毛のアン』で半分提供になったんです。その後花王や味の素になり、それからハウスが少しずつ入って、『小公女セーラ』のときにハウス名作劇場ってことになったんです。それから最後までずっとハウスですね。でも名

作シリーズの後半は特番などがどんどん入って、もうシリーズといえない状態でしたね。

中島　バレーボールで4週間空いたものもあるね。

佐藤　こういう連続ものは途中で切れるとダメじゃないですか。視聴率もだんだん落ちていくし。名作もこれで終わったな、みたいな感じでしたね。名作は日曜日の一番いい時間にやっていたんです。一月からスタートして12月に終わるのは、NHKの大河ドラマとこの世界名作劇場の二つだけでした。長寿番組はたくさんありますが、これだけ長く続いて毎年一本ずつ違う作品をやったアニメーションは名作劇場だけです。本数が一番多かったのは『ペリーヌ物語』。1月1日に始まって12月31日に終わったから53話ありました。

名作から新人の声優さんが育ってきている

佐藤　アフレコの思い出ですが、『家なき子レミ』のとき、最後ヴィタリスが死ぬところで、堀江さんがアフレコ出来なかったんですよ、泣いちゃって。もう台詞を言う前に泣くんです。二人でずっと旅をしていて毎週一緒にやっているから、気持ちが入ってしまうんですよ。『アンネット』のときもそうでした。山田栄子さんと潘恵子さんは仲良しだけど、アンネットとルシエンがけんかしていると、スタジオに入っても一緒に座らないんですよね。なんか気まずくなって、相手の目を見るのが恥ずかしいんだって。それだけ声優さん達も気持ちが中に入っていく、そういうシリーズだったんですね。

『ラスカル』ではあらいぐまの鳴き声を野沢雅子さんがやったんですよね。あれはよかったよね。

中島　ベテランもだけど新人の声優さんもずいぶん育っているよね。

佐藤　名作からみんな育ってきている。新しい人を育てたんです。

中島　声のイメージが強い人は全部外しました。新しい人を探したんです。

佐藤　周囲にはちゃんとしたベテランを当てたけど、主役は新人を探したんですね。だからオーディションの意味があったんです。山田栄子さんは『赤毛のアン』の頃はまだ上手くしゃべれなくて、大変な絞られ方をしたんだから。本番の前に録音監督のところへ行って絞られてもう泣き出すくらいやっていたんですよ。

中島　『アン』のときは、それこそアフレコのときに絵がないんだから。その頃は夜中に編集して明け方につなげていた。朝、録音監督の浦上靖夫さんが打合せにくるんですよ。それで高畑さんと打合せして絵の説明を受けていました。高畑さんがいつもアフレコに立ち会えるわけじゃないからね。

佐藤　『ペリーヌ』の鶴ひろみさんも新人だったね。高校生だった。

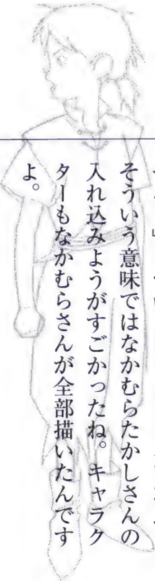
キャラクターについては全部思い入れがあります

佐藤　思い入れがあると言えば、『家なき子レミ』だよね。『レミ』に一番思い入れがあるというわけではないけれど、直接関わった仕事として最後だったから。レミはなぜ女にしたのかなんて、いろいろ言われたけど…。それから僕は企画だからやっぱり『アン』は大きいですね。でもキャラクターとしての思い入れとなると、ラスカルとかスターリング、マルコやネロもそうだし…。キャラクターについては全部思い入れがあります

よ。『ティコ』なんか一から作りましたから。ナナミという名前をつけるのもね。作品がいいかどうか別として『ティコ』は作っていて面白かったね。あの船のメンバーもまとまっていたし、広尾さんの本も面白かった。

『ピーターパン』の第1話もよかったですね。あの1話と2話、枚数もものすごく使っているし、後半のアクションなんかすごい。なかむらたかしさんがすごい絵コンテをやったんだから。

中島　1万枚くらい使っているでしょう？　オープニングだけで2000枚いったかもしれないね。『ピーターパン』は最初、いのまたむつみさんにキャラクターを描いてもらったんですよ。結構かわいかったんです。なかむらたかしさんに見せたら「キャラクターをこれでやるんじゃ僕には…」とか言うんです。だったらなかむらさんの好きなキャラクターで一度描いてと。そしたらいいキャラクターが上がってきた。「じゃ、こっちでやろう」っていうことになったんです。そういう意味ではなかむらたかしさんの入れ込みようがすごかったね。キャラクターもなかむらさんが全部描いたんですよ。

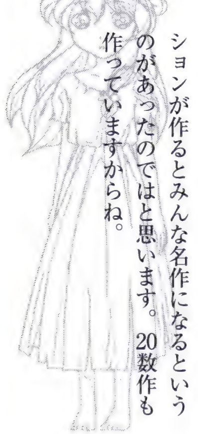


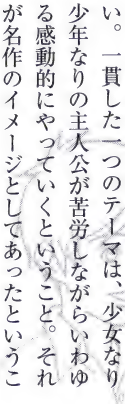
佐藤　『レミ』の辺りになると、キャラクターについて、目を大きくしろとか、今までの路線とは違う感じでやろう、少女漫画風にやろうなど、要求がどんどん強くなっていきました。結局レミは要望に沿うようなキャラクターにしましたが、最後はやっぱり名作っぽい感じにはなりましたね。今、『こんにちはアン』（※取材当時）、近藤さんの描いた『赤毛のアン』のキャラクターを元に佐藤好春さんが描いていると、どうしてもその世界は出来てくる。今度は僕、期待しているんです。

名作劇場は ある意味で伝統です

佐藤　昔は、テレビアニメーションの新作として海外の児童文学をとりあげることはなかったんです。手塚治虫さんなどの漫画を原作にした、いわゆる〝アニメーション〟をやっていた。このシリーズでヨーロッパなどの児童文学を取り上げて〝名作劇場〟というのが定着したんです。そこから生まれた作品は、知名度を別としても、名作劇場としてキャラクターや世界観からあんまり逸脱していない。一貫した一つのテーマは、少女なり少年なりの主人公が苦労しながらいわゆる感動的にやっていくということ。それが名作のイメージとしてあったということですね。シリーズ後半になると、いわゆる名作劇場という形ができているから、そこで放送すれば〝名作〟になったと思うんです。他の局でも『秘密の花園』や『宝島』とかいろんな名作ものを何本かシリーズとして始めた時期があるでしょう。だけど結局、定着しないで終わりました。この名作劇場はある意味で伝統というのでしょうか、日本アニメーションのイメージとしての形を作ったんじゃないかと思いますね。キャラクターなど、変えろとよく言われました。でもそういうことからいえば、宮崎駿さんのジブリの作品だってみんなキャラクターが同じですよ。だけどキャラクターはみんな一つひとつ独立して違ったキャラクターを持っているわけだから。

　でも多少顔が違っても、名作劇場の大きなくくりとして、形はやっぱり崩されてない。外側からみても、日本アニメーションが作るとみんな名作になるというのがあったのではと思います。20数作も作っていますからね。



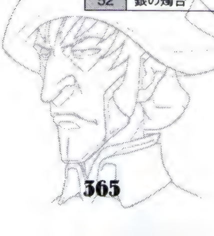


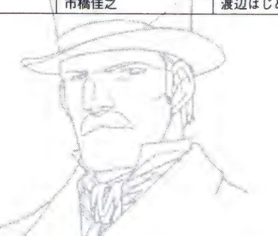
※リストの作品順は本書の掲載順に準じています。
※各話スタッフリストは当時のエンディングを参考に作成しています。

レ・ミゼラブル 少女コゼット



話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	ファンティーヌとコゼット	金春智子	桜井弘明	市橋佳之	藤原宏樹
2	ジャン・ヴァルジャンの秘密	金春智子	桜井弘明	棚橋一徳	山本径子
3	新しい友だちシュシュ	丸尾みほ	四分一節子	棚橋一徳	阿部千秋
4	お母さんの手紙	平見瞠	岡本英樹	赤城博昭	加瀬政広
5	ジャヴェールの疑惑	横谷昌宏	四分一節子	土屋日	南伸一郎
6	コゼットの誕生日	池田眞美子	四分一節子	清水明	清水恵蔵、三浦洋祐、佐藤友子
7	迷子のエポニーヌ	丸尾みほ	井硲清高	赤城博昭	藤原宏樹
8	お母さんのスカート	平見瞠	四分一節子	棚橋一徳	山本径子
9	テナルディエの悪だくみ	金春智子	四分一節子	岡嶋国敏	Son Gil-young
10	迷いのマドレーヌ	横谷昌宏	佐藤雄助	川西泰二	宍戸久美子
11	サンプリスの嘘	池田眞美子	小滝礼	荻原露光	渡辺章
12	ひとりぼっちのコゼット	金春智子	四分一節子	清水明	清水恵蔵、三浦洋祐
13	ジャン・ヴァルジャンとコゼット	金春智子	桜井弘明	市橋佳之	藤原宏樹、志田ただし
14	二人きりの旅	池田眞美子	四分一節子	棚橋一徳	山本径子
15	二人の絆	横谷昌宏	井硲清高	佐々木皓一	梶浦紳一郎
16	パリのゴルボー屋敷	金春智子	尼野浩正	川西泰二	宍戸久美子
17	迫り来るジャヴェール	丸尾みほ	四分一節子	清水明	清水恵蔵、三浦洋祐、枡井一平、阿部千秋
18	忘れていた再会	平見瞠	井硲清高	岡嶋国敏	Son Gil-young
19	預けられたコゼット	平見瞠	福田道生	市橋佳之	藤原宏樹
20	修道院の日々	横谷昌宏	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
21	マリウス・ポンメルシー	池田眞美子	桜井弘明	佐々木皓一	飯飼一幸
22	それぞれの旅立ち	丸尾みほ	福田道生	橋口洋介	宍戸久美子
23	パリの空の下で	金春智子	四分一節子	清水明	桝井一平
24	リュクサンブールの出会い	平見瞠	井硲清高	梅本唯	服部聰志
25	届かぬ思い	池田眞美子	小滝礼	市橋佳之	渡辺はじめ
26	パリのすれちがい	横谷昌宏	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
27	飛び出した女の子	金春智子	福田道生	石川敏浩	梶浦紳一郎
28	拾われた手紙	平見瞠	井硲清高	荻原露光	川口弘明
29	テナルディエの罠	池田眞美子	井硲清高	橋口洋介	宍戸久美子
30	残されたコイン	横谷昌宏	四分一節子	清水明	桝井一平
31	穏やかなプリュメ通り	池田眞美子	梅本唯	梅本唯	服部聰志
32	あの日の面影	平見瞠	小滝礼	市橋佳之	藤原宏樹
33	あきらめかけた再会	横谷昌宏	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
34	象の中の子供たち	丸尾みほ	福田道生	福本潔	昆進之介、中野彬子
35	パトロン・ミネットの脱獄	横谷昌宏	井硲清高	園田雅裕	三浦貴弘
36	病める都・パリ	平見瞠	四分一節子	清水明	桝井一平
37	マリウスの誤算	島田満	井硲清高	荻原露光	川口弘明
38	コゼットとエポニーヌ	金春智子	桜井弘明	梅本唯	服部聰志
39	1832年6月5日	横谷昌宏	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
40	革命の夜	池田眞美子	福田道生	安藤健	松岡謙治
41	エポニーヌの恋	平見瞠	小滝礼	市橋佳之	宍戸久美子
42	マリウスからの手紙	横谷昌宏	四分一節子	清水明	小林ゆかり、桝井一平
43	ガヴローシュの願い	金春智子	井硲清高	園田雅裕	藤原宏樹、渡辺はじめ
44	未来へのともしび	金春智子	藤森久	梅本唯	をがわいちろを
45	パリの下水道	島田満	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
46	ジャヴェールの正義	池田眞美子	桜井弘明	安藤健	松岡謙治
47	心の絆	平見瞠	井硲清高	津田義三	をがわいちろを
48	コゼットとマリウス	金春智子	四分一節子	清水明	桝井一平
49	私のお母さん	金春智子	藤森久	市橋佳之	宍戸久美子
50	永遠のリング	横谷昌宏	小滝礼	梅本唯	をがわいちろを
51	明かされた真実	金春智子	四分一節子	棚橋一徳	鈴木伸一
52	銀の燭台	金春智子	桜井弘明	市橋佳之	渡辺はじめ





ロミオの青い空

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	アルプス！小さな村の大事件	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
2	運命のはじまり・炎の中の家族	島田満	宮下新平	宮下新平	大城勝、佐藤好春
3	さよなら・ぼくの村	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
4	似顔絵の少年	島田満	楠葉宏三	宮下新平	大城勝、佐藤好春
5	酒場での一夜	島田満	岩本保雄	岩本保雄	アベ正己
6	舟が沈む!!嵐の中の友情	島田満	楠葉宏三	宮下新平	井上鋭、佐藤好春
7	天使の住む家	島田満	松川智充	松川智充	大城勝、佐藤好春
8	天使からの贈り物	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
9	月夜のラブレター	島田満	佐々木和宏	宮下新平	大城勝、佐藤好春
10	青空のスケッチブック	島田満	有原誠治	岩本保雄	北崎正浩
11	友だちになろう！	島田満	松川智充	松川智充	井上鋭、佐藤好春
12	霧の街に消える	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
13	地下水道での再会	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
14	逃げるんだ!!早く	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝、佐藤好春
15	火をともせ！11人の誓い	島田満	松川智充	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
16	ライバルはアルフレド！	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
17	聖バビラ教会の決闘	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
18	朝日にとどけ！団結の歌	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
19	おばあちゃんは魔法使い	島田満	松川智充	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
20	テオじいさんの人形劇	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
21	アンジェレッタの秘密	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
22	おばあさまに会えた！	島田満	楠葉宏三	宮下新平	大城勝、佐藤好春
23	さよなら…ぼくの天使	島田満	楠葉宏三	宮下新平	井上鋭、佐藤好春
24	ねらわれた兄妹	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
25	再会！ビアンカとアルフレド	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
26	誇り高き魂	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
27	長い一日のはじまり	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
28	貴公子アルフレド	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
29	永遠のアルフレド	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春
30	最後の誓い	島田満	横田和善	宮下新平	大城勝、佐藤好春
31	本当の宝物	島田満	宮下新平	宮下新平	佐藤好春
32	素敵なクリスマスイブ	島田満	横田和善	西田健一	佐藤好春
33	空へ！自由の翼にのって	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭、佐藤好春



フランダースの犬



話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	少年ネロ	吉田義昭	黒田昌郎	坂井俊一
2	アロアと森へ	吉田義昭	柴田一	坂井俊一
3	アントワープの町で	吉田義昭	山崎修二	坂井俊一
4	新しい友達	吉田義昭	山崎修二	坂井俊一
5	パトラッシュ	吉田義昭	奥田誠治	羽根章悦
6	がんばれパトラッシュ	吉田義昭	斧谷稔	羽根章悦
7	スープをおのみ	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
8	ほえたよ おじいさん	加瀬高之	斧谷稔	羽根章悦
9	おもいでの鈴	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
10	アロアのブローチ	伊東恒久	奥田誠治	羽根章悦
11	エリーナの花畑	伊東恒久	斧谷稔	羽根章悦
12	おじいさんの小さな壺	加瀬高之	奥田誠治	岡田敏靖
13	ナポレオン時代の風車	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
14	夜空に描いた絵	吉田義昭	奥田誠治	羽根章悦
15	古い帳簿	吉田義昭	高畑勲	羽根章悦
16	10サンチームの写生帳	吉田義昭	奥田誠治	羽根章悦
17	丘の上の木の下で	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
18	いたずらっ子のクロ	加瀬高之	横田和善、佐々木正広	岡田敏靖
19	金物屋が村に	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
20	どこまでも	加瀬高之	奥田誠治	岡田敏靖
21	船で来たお客さま	吉田義昭	奥田誠治	羽根章悦
22	イギリスからの贈物	松島昭	奥田誠治	岡田敏靖
23	アロアの誕生日	加瀬高之	奥田誠治	羽根章悦
24	アロアの絵	中西隆三	奥田誠治	岡田敏靖
25	アロアがいない	雪室俊一	奥田誠治	羽根章悦
26	さようならアロア	雪室俊一	奥田誠治	岡田敏靖
27	アロアのいないクリスマス	佐藤道雄	奥田誠治	羽根章悦
28	親切な貴婦人	佐藤道雄	奥田誠治	岡田敏靖
29	ルーベンスの2枚の絵	高山由起子	奥田誠治	羽根章悦
30	雪の中の約束	高山由起子	奥田誠治	岡田敏靖
31	ネロの決意	安藤豊弘	奥田誠治	羽根章悦
32	大きなカシの木	安藤豊弘	西牧秀雄	岡田敏靖
33	こころの手紙	佐藤道雄	奥田誠治	羽根章悦
34	ヌレットおばさん	佐藤道雄	奥田誠治	岡田敏靖
35	お帰りアロア	雪室俊一	奥田誠治	岡田敏靖
36	アロアのくすり	雪室俊一	水沢わたる	羽根章悦
37	うれしい知らせ	安藤豊弘	横田和善	羽根章悦
38	ネロの大きな夢	雪室俊一	奥田誠治	羽根章悦
39	心をつなぐ二つの旗	雪室俊一	奥田誠治	羽根章悦
40	おじいさんの口笛	雪室俊一	奥田誠治	岡田敏靖
41	なつかしい長い道	安藤豊弘	奥田誠治	羽根章悦
42	となりに来た人	佐藤道雄	柴田一	岡田敏靖
43	アロアのおてつだい	佐藤道雄	奥田誠治	羽根章悦
44	おじいさんへのおみやげ	佐藤道雄	奥田誠治	岡田敏靖
45	ひとりぼっちのネロ	安藤豊弘	奥田誠治	羽根章悦
46	おじいさんの顔	安藤豊弘	奥田誠治	岡田敏靖
47	風車小屋の火事	佐藤道雄	奥田誠治	羽根章悦
48	なくなった仕事	佐藤道雄	奥田誠治	岡田敏靖
49	描けたよおじいさん	雪室俊一	奥田誠治	羽根章悦
50	発表の日	雪室俊一	奥田誠治	岡田敏靖
51	二千フランの金貨	中西隆三	奥田誠治	羽根章悦
52	天使たちの絵	中西隆三	奥田誠治	岡田敏靖





ペリーヌ物語



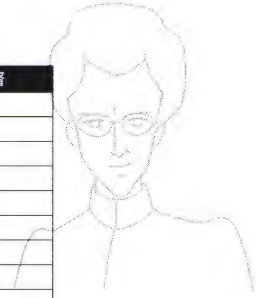
話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	旅立ち	宮崎晃	斎藤博	小川隆雄
2	遠い道	宮崎晃	とみの喜幸	百瀬義行
3	おかあさんのちから	宮崎晃	高畑勲	村田耕一
4	泥だらけの伯爵	宮崎晃	斎藤博	小川隆雄
5	おじいさんと孫	宮崎晃	とみの喜幸	百瀬義行、小川隆雄
6	二人の母	宮崎晃	高畑勲	百瀬義行、小川隆雄
7	サーカスの少年	宮崎晃	黒田昌郎	村田耕一
8	酔っぱらいロバ	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
9	商売がたき	宮崎晃	とみの喜幸	小川隆雄
10	写真機どろぼう	宮崎晃	池野文雄	百瀬義行、小川隆雄
11	バロンがんばる	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
12	たった二人の観客	宮崎晃	池野文雄	村田耕一
13	アルプス越え	宮崎晃	斎藤博	小川隆雄
14	美しい国で	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
15	フランス! フランス!	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
16	おかあさんの決意	宮崎晃、加藤盟	黒田昌郎	桜井美知代
17	パリの宿	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
18	シモンじいさん	宮崎晃	黒田昌郎	桜井美知代
19	パリの下町っ子	宮崎晃	とみの喜幸	小川隆雄
20	パリカールとの別れ	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
21	最後の言葉	宮崎晃	黒田昌郎	百瀬義行
22	忘れられない人々	宮崎晃	池野文雄	百瀬義行
23	ひとりぼっちの旅	宮崎晃	黒田昌郎	小川隆雄
24	美しい虹	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
25	パリカール！ 私のパリカール！	宮崎晃、佐藤嘉助	池野文雄	小川隆雄
26	親切なルクリおばさん	宮崎晃、佐藤嘉助	黒田昌郎	百瀬義行
27	おじいさんの冷い顔	宮崎晃、佐藤嘉助	池野文雄	小川隆雄
28	パンダボアヌ工場	宮崎晃、佐藤嘉助	池野文雄	百瀬義行
29	池のほとりの小屋	宮崎晃、佐藤嘉助	黒田昌郎	小川隆雄
30	自分の力で	宮崎晃	とみの喜幸	百瀬義行
31	お客様を迎えて	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
32	名前の秘密	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
33	テオドールの財布	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
34	忘れられない一日	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	百瀬義行
35	英語の手紙	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	小川隆雄
36	よろこびと不安	宮崎晃、加藤盟	斎藤博	桜井美知代
37	おじいさんの大きな手	宮崎晃、加藤盟	黒田昌郎	小川隆雄
38	すてきなワンピース	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	百瀬義行
39	インドからきた手紙	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	小川隆雄
40	バロンの災難	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	桜井美知代
41	お城のような家	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	小川隆雄
42	ロザリーの悲しみ	宮崎晃	斎藤博	関修一、百瀬義行
43	日曜日。ペリーヌは…	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
44	いじわるな夫人	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	桜井美知代
45	ボスニアからの知らせ	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	小川隆雄
46	ビルフランの悲しみ	宮崎晃	池野文雄	百瀬義行
47	オーレリィの顔	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
48	火事	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
49	幸せの涙が流れる時	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
50	初雪の降った日	宮崎晃	池野文雄	百瀬義行
51	おじいさんの目	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄
52	忘れられないクリスマス	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
53	春の訪れ	宮崎晃	池野文雄	小川隆雄





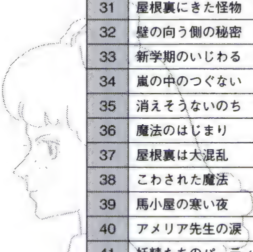


小公女セーラ





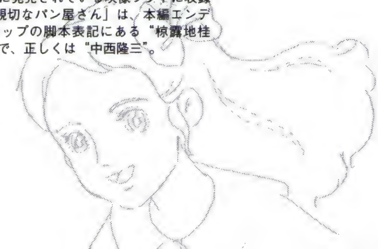
話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	ミンチン女子学院	中西隆三	※	才田俊次
2	エミリー人形	中西隆三	※	才田俊次
3	はじめての授業	中西隆三	坂本雄作	才田俊次
4	親友アーメンガード	中西隆三	※	才田俊次
5	泣き虫ロッティ	中西隆三	坂本雄作	山崎登志樹
6	灰かぶりベッキー	中西隆三	黒田昌郎	大谷敦子
7	代表生徒	中西隆三	鈴木幸雄	山崎登志樹
8	親切なお嬢様	中西隆三	坂本雄作	大谷敦子
9	インドからの手紙	中西隆三	※	山崎登志樹
10	二つのプレゼント	中西隆三	黒田昌郎	才田俊次
11	プリンセスの誕生日	中西隆三	坂本雄作	山崎登志樹
12	屋根裏の暗い部屋	中西隆三	坂本雄作	大谷敦子
13	つらい仕事の日	中西隆三	※	石井邦幸
14	深夜のお客さま	中西隆三	平林淳	山崎登志樹
15	街の子ピーター	中西隆三	坂本雄作	大谷敦子
16	ロッティの冒険	椋露地桂子	坂本雄作	石井邦幸
17	小さな友メルの家族	椋露地桂子	※	山崎登志樹
18	悲しいメイポール祭	中西隆三	腰繁男	大谷敦子
19	インドからの呼び声	中西隆三	※	山崎登志樹
20	謎の特別室生徒	中西隆三	腰繁男	石井邦幸
21	涙の中の悲しみ	中西隆三	矢沢則夫	大谷敦子
22	屋根裏のパーティー	中西隆三	※	山崎登志樹
23	親切なパン屋さん	中西隆三	矢沢則夫	石井邦幸
24	エミリーの運命	中西隆三	※	大谷敦子
25	一日だけのシンデレラ	中西隆三	※	山崎登志樹
26	年少組の小さな先生	中西隆三	岡部英二	石井邦幸
27	デュファルジュ先生の帰国	中西隆三	楠葉宏三	大谷敦子
28	夏休みの大騒動	中西隆三	岡部英二	山崎登志樹
29	ベッキーの里帰り	中西隆三	黒田昌郎	石井邦幸
30	インドからきた紳士	中西隆三	※	大谷敦子
31	屋根裏にきた怪物	中西隆三	岡部英二	山崎登志樹
32	壁の向う側の秘密	中西隆三	※	石井邦幸
33	新学期のいじわる	中西隆三	岡部英二	大谷敦子
34	嵐の中のつぐない	中西隆三	岡部英二	山崎登志樹
35	消えそうないのち	中西隆三	楠葉宏三	石井邦幸
36	魔法のはじまり	中西隆三	吉田健二郎	大谷敦子
37	屋根裏は大混乱	中西隆三	矢沢則夫	山崎登志樹
38	こわされた魔法	中西隆三	鈴木幸雄	石井邦幸
39	馬小屋の寒い夜	中西隆三	矢沢則夫	大谷敦子
40	アメリア先生の涙	中西隆三	鈴木幸雄	山崎登志樹
41	妖精たちのパーティ	中西隆三	鈴木孝義	石井邦幸
42	雪の日の追放	中西隆三、鎌田秀美	樋口雅一	大谷敦子
43	幸せの素敵な小包	中西隆三	鈴木孝義	山崎登志樹
44	おお　この子だ！	中西隆三	鈴木孝義	石井邦幸
45	ミンチン院長の後悔	中西隆三	鈴木孝義	大谷敦子
46	また逢う日まで	中西隆三	鈴木孝義	山崎登志樹



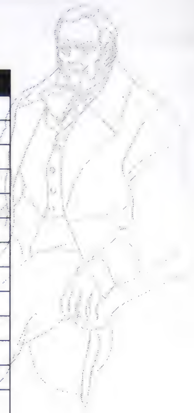
※スタッフロールに表記なし。
※これまでに発売されている映像ソフトに収録の「23話 親切なパン屋さん」は、本編エンディングテロップの脚本表記にある"椋露地桂子"は誤りで、正しくは"中西隆三"。





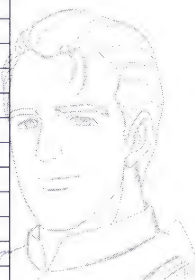


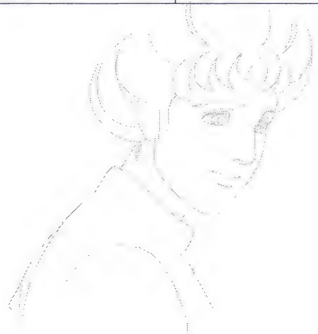
小公子セディ



話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	ニューヨークはぼくの街！	石森史郎	※	しまだひであき
2	ぼくにおじいさんがいた!!	石森史郎	※	しまだひであき
3	おじいさんは悪いひと？	石森史郎	※	本木久年
4	ぼくはなにも知らなかった！	石森史郎	※	前田英美
5	死なないで父さん！	石森史郎	※	しまだひであき
6	母さん、ぼくは泣かないよ！	石森史郎	池野文雄	山崎登志樹
7	ぼくが母さんを守る！	石森史郎	※	本木久年
8	母さんは、絶対に悪くない！	石森史郎	※	しまだひであき
9	母さんが・・・・倒れた！	石森史郎	池野文雄	山崎登志樹
10	いやだ!!イギリスなんか行きたくない！	石森史郎	※	藤井裕子
11	ウソだ!!ぼくが貴族になるなんて！	石森史郎	黒田昌郎	しまだひであき
12	さようなら!!ぼくの街ニューヨーク！	石森史郎	池野文雄	本木久年
13	どうして母さんと離れてくらすの?!	石森史郎	※	山崎登志樹
14	猛犬デューガルはぼくの友だち!!	石森史郎	池野文雄	しまだひであき
15	母さんの悪口は言わないで!!	石森史郎	※	藤井裕子
16	コッキーはおちゃめな女の子!!	石森史郎	※	桜井美知代
17	うれしい！やっとおじいさんに会える!!	石森史郎	池野文雄	賀川愛
18	おじいさん！ぼくがセディです!!	石森史郎	池野文雄	しまだひであき
19	馬に乗れるなんてほんとうに素敵だ！	石森史郎	池野文雄	山崎登志樹
20	おいしい？釣り名人のおくりもの!!	石森史郎	黒田昌郎	しまだひであき
21	四ツ葉のクローバーがくれた勇気！	石森史郎	黒田昌郎	賀川愛
22	セディが起こした奇跡!!	石森史郎	※	山崎登志樹
23	母親には絶対に会わすな!!	石森史郎	黒田昌郎	しまだひであき
24	おじいさんの嫌いなアメリカ人の手紙！	石森史郎	池野文雄	山崎登志樹
25	未来の名君セディ・初めての仕事！	石森史郎	※	賀川愛
26	落馬！大怪我!?ぼくが悪いんです！	石森史郎	黒田昌郎	しまだひであき
27	いつの日かドリンコート伯爵になる！	石森史郎	池野文雄	山崎登志樹
28	プレイボール！伯爵対セディ！	石森史郎	斉藤博	しまだひであき
29	伯爵が怒った！ニューイックを呼べ!!	石森史郎	辻伸一	賀川愛
30	母さんの病気はぼくがなおす！	石森史郎	黒田昌郎	山崎登志樹
31	おじいさんは鬼伯爵なんかじゃない！	石森史郎	鈴木孝義	しまだひであき
32	本当だよ！これ母さんの馬車なんだ！	石森史郎	斉藤博	山崎登志樹
33	奇跡！きまぐれ？伯爵の決意！	石森史郎	辻伸一	賀川愛
34	コッキー危ない！崩れ落ちたレンガ!!	石森史郎	斉藤博	しまだひであき
35	助けてセディ！消えたコッキーのなぞ！	石森史郎	斉藤博	山崎登志樹
36	サーカスにつれてって！村の収穫祭	石森史郎	鈴木孝義	しまだひであき
37	僕におばあさんがいた！母さんの味方？	石森史郎	辻伸一	賀川愛
38	危うしセディ！ロンドンからの知らせ!!	石森史郎	※	山崎登志樹
39	僕はニセモノ？現れたもう一人の若君！	石森史郎	※	しまだひであき
40	僕は、リトルプリンスじゃない！	石森史郎	※	山崎登志樹
41	セディが狙われる?!悪女ミンナの陰謀！	石森史郎	辻伸一	賀川愛
42	ミンナの秘密！アメリカからの電報！	石森史郎	※	しまだひであき
43	おめでとう！君こそリトルプリンスだ！	石森史郎	※	山崎登志樹

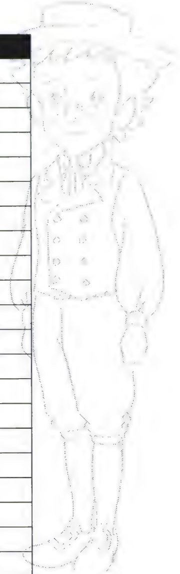
※スタッフロールに表記なし。



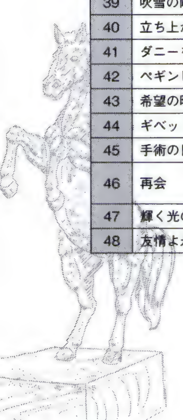




アルプス物語　わたしのアンネット



話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	アンネットとルシエン	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
2	ソリ競争の日に	吉田憲二	黒川文男	佐藤好春
3	愛と悲しみと	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
4	おかあさんになったアンネット	吉田憲二	黒川文男	竹松一生
5	あたらしい家族	吉田憲二	横田和善	佐藤好春
6	牧場にて	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
7	チーズを作ろう	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
8	秋まつりの日に	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
9	村に汽車がやって来た	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
10	ふたりの冒険旅行	吉田憲二	清瀬二郎	竹松一生
11	クリスマスの贈り物	吉田憲二	横田和善	佐藤好春
12	白い森のできごと	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
13	すれ違うこころ	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
14	おそろしい出来事	吉田憲二	清瀬二郎	佐藤好春
15	ダニーを助けて！	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
16	病院	吉田憲二	岡部英二	竹松一生
17	森の老人	吉田憲二	清瀬二郎	佐藤好春
18	ダニーの松葉杖	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
19	思いがけない診断	吉田憲二	清瀬二郎	竹松一生
20	ノアの方舟	吉田憲二	清瀬二郎	佐藤好春
21	罪の重さ	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
22	ダニーの宝物	吉田憲二	清瀬二郎	竹松一生
23	悲しい嘘	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
24	アンネットの涙	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
25	おもいでの牧場	吉田憲二	清瀬二郎	竹松一生
26	遠い雲遠い日々	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
27	ニコラス先生の教え子たち	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
28	展覧会にむけて	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
29	こわされた夢	吉田憲二	清瀬二郎	佐藤好春
30	後悔の涙	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
31	峠へつづく道	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
32	伝えたい真実	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
33	勇気ある告白	吉田憲二	清瀬二郎	前田英美
34	さようならフランツ	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
35	心の扉をひらいて	吉田憲二	清瀬二郎	佐藤好春
36	よみがえった友情	吉田憲二	杉村博美、斉藤次郎	前田英美
37	二人のたからもの	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
38	ルシエンの誓い	吉田憲二	杉村博美、斉藤次郎	佐藤好春
39	吹雪の峠をこえて	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
40	立ち上がれルシエン	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
41	ダニーを診てくれますか	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
42	ペギンじいさんの秘密	吉田憲二	杉村博美、斉藤次郎	前田英美
43	希望の町ローザンヌ	吉田憲二	楠葉宏三	竹松一生
44	ギベット家のひとびと	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
45	手術の日	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美
46	再会	吉田憲二	楠葉宏三、杉村博美、斉藤次郎	竹松一生
47	輝く光の中で	吉田憲二	楠葉宏三	佐藤好春
48	友情よ永遠に	吉田憲二	楠葉宏三	前田英美





家なき子レミ

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	悲しい誕生日	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝
2	さよなら　お母さん	島田満	高木淳	高木淳	井上鋭、森川聡子
3	ヴィタリス一座	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝
4	素敵な贈り物	島田満	寺東克己	高木淳	井上鋭
5	奇跡のマリア像	島田満	飯島正勝	西田健一	大城勝
6	幻のおかあさん	島田満	高木淳	高木淳	井上鋭
7	もうひとつの家族	小山真弓	寺東克己	楠葉宏三	大城勝
8	さよなら私たちの家	小山真弓	鈴木孝義	高木淳	井上鋭
9	運命の出会い	小山真弓	楠葉宏三	楠葉宏三	丸山宏一
10	ひとりぼっちのアーサー	小山真弓	鈴木孝義	高木淳	大城勝
11	ペンダントの秘密	小山真弓	寺東克己	藤本次朗、西田健一	井上鋭
12	悲しみの雪山	小山真弓	高木淳	高木淳	丸山宏一
13	雪の日の別れ	小山真弓	楠葉宏三	楠葉宏三	井上鋭
14	新しい旅の始まり	小山真弓	楠葉宏三	高木淳	大城勝
15	新しい仲間	小山真弓	寺東克己	西田健一	井上鋭
16	雨の日の子猫	小山真弓	飯島正勝	西田健一	井上鋭
17	地下迷路での誓い	小山真弓	楠葉宏三	高木淳	丸山宏一
18	すれちがう母と子	小山真弓	杉島邦久	楠葉宏三	井上鋭
19	旅の一家	小山真弓	高木淳	平川達也	丸山宏一
20	心の友達	小山真弓	楠葉宏三	西田健一	大城勝
21	想い出のバイオリン	小山真弓	楠葉宏三	高木淳	大城勝
22	地下からの生還	小山真弓	飯島正勝	西田健一	井上鋭
23	ふたりの願い	小山真弓	寺東克己	高木淳	丸山宏一
24	引き裂かれた愛	小山真弓	杉島邦久	楠葉宏三	井上鋭
25	脱出!	小山真弓	高木淳	高木淳	大城勝、丸山宏一
26	私のお母さん	小山真弓	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝、井上鋭

ピーターパンの冒険

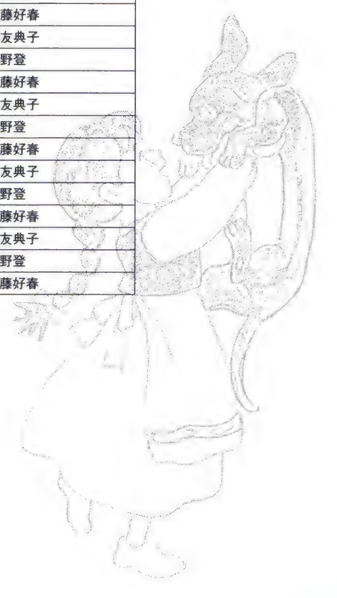
話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	演出補	作画監督
1	早く来て！ みんなの憧れピーターパン	雪室俊一、島田満	※	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
2	ネバーランドへGo！ Go！ Go！	雪室俊一、島田満	※	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
3	海賊が出た！ 夢と冒険の国ネバーランド	雪室俊一	辻伸一	※	松見真一	川崎博嗣、大久保富彦
4	登場！ 時計ワニはフック船長の友だち？	雪室俊一	吉田茂承	※	斎藤次郎	大久保富彦
5	フック船長はミシンの音が大嫌い！	雪室俊一	古川順康	※	松見真一	川崎博嗣、大久保富彦
6	ジョンの初恋？ おてんば娘現れる！	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	遊佐和重
7	ウェンディ頑張る！ 卵は誰にも渡さない	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦、石之博和
8	作戦開始！ 時計ワニを笑わせろ！	雪室俊一	腰繁男	※	斎藤次郎	大久保富彦、川崎博嗣
9	ネバーランドの法律？ 毎日が誕生日だ！	島田満	楠葉宏三	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
10	怪しげな行動！ ジョンを尾行しろ	雪室俊一	辻伸一	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
11	新兵器！ 水陸両用シンデレラの馬車？	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	遊佐和重
12	海賊も逃げる？ マイケルの怖い話！	島田満	黒川文男	※	斎藤次郎	沖浦啓之、大久保富彦、川崎博嗣
13	救出作戦開始！ ピーターパンを助けろ	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	川崎博嗣、大久保富彦
14	スノルム山の悪魔とマイケルの勇気	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	遊佐和重
15	フックを裏切れ！ 海賊をやめたチェッコ	雪室俊一	黒川文男	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
16	ウェンディ怒る！ ピーターパンて大嫌い	島田満	楠葉宏三	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
17	ジョンが眠れない！ 眠りの精を捕まえろ	雪室俊一	辻伸一	鈴木孝義	※	遊佐和重
18	勇気を示せトートルズ！ 海賊の旗を奪え	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
19	フックの決意！消えた海賊船の謎？	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
20	絶体絶命！ ウェンディが霧の谷に消えた	島田満	松見信一、 斎藤次郎	※	松見真一	沖浦啓之
21	ウェンディを救え！ 命をかけたティンク	島田満	楠葉宏三	※	斎藤次郎	大久保富彦、川崎博嗣
22	秘密兵器始動！ フック船長最後の切札	島田満	辻伸一	※	松見真一	川崎博嗣、大久保富彦
23	謎が深まる！ ティンクの故郷を探せ	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	ふるたしょうじ
24	恐ろしい黒マントの集団と謎の美少女！	雪室俊一	辻伸一	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
25	お帰りティンク！ 妖精の国はふしぎな国	雪室俊一	楠葉宏三	楠葉宏三	※	石之博和
26	復活フック船長！ 空飛ぶ海賊船建造計画	島田満	鈴木孝義	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦
27	ジョンの憧れ！ 木馬に乗った騎士	雪室俊一	横田和善	横田和善	※	ふるたしょうじ
28	悪魔になったウェンディ	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	沖浦啓之
29	妖精プシケ！ 勇気を出して飛びたて	雪室俊一、島田満	辻伸一	※	斎藤次郎	大久保富彦
30	浮上開始！ フックの空飛ぶ海賊船	雪室俊一	矢沢則夫	※	松見真一	川崎博嗣
31	夢がない！ 飛べなくなったピーターパン	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	賀川愛
32	海賊と一緒に探せ、白い鏡の謎	雪室俊一	辻伸一	※	松見真一	大久保富彦
33	ルナの涙！ 私はダークネスの魔女？	雪室俊一	古川順康	※	斎藤次郎	川崎博嗣
34	汽笛が聞こえる？ 幽霊機関車を探せ！	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	谷口守泰
35	強敵！ 手を組んだフックとダークネス	雪室俊一	辻伸一	※	斎藤次郎	賀川愛
36	冒険中止？ みんなの胸がドキドキ痛い！	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
37	史上最大の迷路！ ダークネス城への道	雪室俊一	古川順康	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦、 牧由尚、箕輪博子
38	黒い鏡始動！ ネバーランドが大ピンチ	雪室俊一	楠葉宏三	※	松見真一	賀川愛
39	フックの野望！ ダークネス城を乗っ取れ	雪室俊一	楠葉宏三	※	斎藤次郎	谷口守泰
40	最後の決戦！ ピーターパン対フック船長	雪室俊一	辻伸一	※	松見真一	大久保富彦、川崎博嗣
41	さよならピーターパン！ 夢と冒険の国	雪室俊一	黒田昌郎、 なかむらたかし	※	斎藤次郎	川崎博嗣、大久保富彦

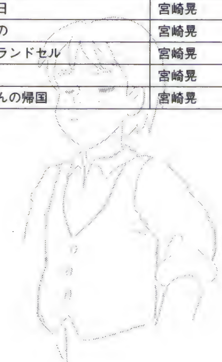
※スタッフロールに表記なし。

牧場の少女カトリ

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	別れ	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
2	友だち	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
3	春のあらし	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
4	決意	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
5	出発	宮崎晃	清瀬二郎	保谷裕江
6	主人	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
7	奥様	宮崎晃	楠葉宏三	佐藤好春
8	災難	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
9	愛情	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
10	約束	宮崎晃	楠葉宏三	佐藤好春
11	喧嘩	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
12	手紙	宮崎晃	楠葉宏三	高野登
13	素敵な贈物	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
14	はじめての招待	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
15	おもいがけないお給料	宮崎晃	楠葉宏三	高野登
16	迷子になった羊	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
17	狼を退治する日	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
18	二つの火事	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
19	隣どおし	宮崎晃	楠葉宏三	佐藤好春
20	来た人と去る人	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
21	アベルが狙われた	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
22	春を待ちながら	宮崎晃	清瀬二郎、楠葉宏三	佐藤好春
23	熊と牛はどちらが強いか	宮崎晃	清瀬二郎、楠葉宏三	森友典子
24	出会いと別れ	宮崎晃	清瀬二郎、楠葉宏三	高野登
25	島での出来事	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
26	助けてくれた人	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
27	都会育ち	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
28	新しい生活	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
29	夢を見ていた	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
30	美しい白鳥のように	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
31	本が送られて来た	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
32	魔法の本と悪魔	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
33	喜びと悲しみ	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
34	ヘルシンキ行き	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
35	父と娘	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
36	奥様の決意	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
37	迷子のアベル	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
38	それぞれの道	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
39	ハルマ屋敷のパーティ	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
40	道づれ	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
41	トゥルクの人々	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
42	絵のない絵本	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
43	自動車に乗った！	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
44	にくらしい娘	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
45	疲れた一日	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
46	美しいもの	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春
47	お土産のランドセル	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
48	ああ入学	宮崎晃	清瀬二郎	高野登
49	おかあさんの帰国	宮崎晃	清瀬二郎	佐藤好春

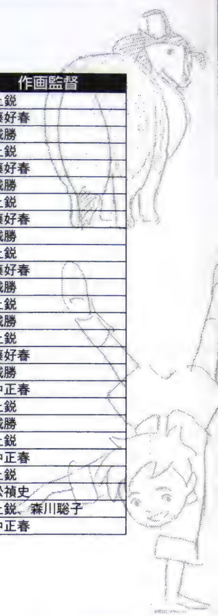






名犬ラッシー

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	ひとりじゃない	松井亜弥	片渕須直	片渕須直	井上鋭
2	大さわぎの留守番	松井亜弥	片渕須直	片渕須直	佐藤好春
3	さよならラッシー	松井亜弥	片渕須直	片渕須直	大城勝
4	父さんの給料日	松井亜弥	片渕須直、青山弘	片渕須直	井上鋭
5	ごちそう求めて6マイル	松井亜弥	ワタナベシンイチ	片渕須直	佐藤好春
6	嵐の中をかけぬけろ	松井亜弥	小林孝志	片渕須直	大城勝
7	マフラー泥棒を捕まえろ	三井秀樹	片渕須直	片渕須直	井上鋭
8	ラッシーなんか大嫌い	松井亜弥	片渕須直	片渕須直 、藤本次朗	佐藤好春
9	空から来たおてんばお嬢様	松井亜弥	片渕須直	片渕須直 、藤本次朗	大城勝
10	はじめてのケーキ作り	三井秀樹	寺東克己	片渕須直 、藤本次朗	井上鋭
11	プリシラ・最後のわがまま	松井亜弥	藤森一真	藤本次朗	佐藤好春
12	火事をおこしたのは誰だ	松井亜弥	寺東克己	片渕須直	大城勝
13	サンディは牛どろぼう?	松井亜弥	片渕須直	中西伸彰	井上鋭
14	怪しい大男を追跡しろ!	松井亜弥	寺東克己	中西伸彰	大城勝
15	アイアンの無実をはらせ!	松井亜弥	寺東克己	藤本次朗	井上鋭
16	急げ! ホッパー先生を助けろ	三井秀樹	神谷純	藤本次朗	佐藤好春
17	カリー先生の結婚	松井亜弥	飯島正勝	西田健一	大城勝
18	大騒動! サーカスの象が逃げた	三井秀樹	寺東克己	藤本次朗	森中正春
19	コリンの初恋とたからもの	松井亜弥	中西伸彰	中西伸彰	井上鋭
20	大変だ! 母さんが倒れた	三井秀樹	飯島正勝	藤本次朗	大城勝
21	おばあちゃんに会いたい	松井亜弥	片渕須直	中西伸彰	井上鋭
22	ジョンの決意・鉱山を救え!	松井亜弥	紅優	吉田健次郎	森中正春
23	頑張れジョン・ラッシーを守れ!	松井亜弥	片渕須直	藤本次朗	井上鋭
24	消息不明・ラッシーを捜せ!	松井亜弥	片渕須直	中西伸彰	平松禎史
25	お帰りラッシー	松井亜弥	紅優	片渕須直	井上鋭、森川聡子
26	夢に向かって走れ!	松井亜弥	片渕須直	片渕須直	森中正春



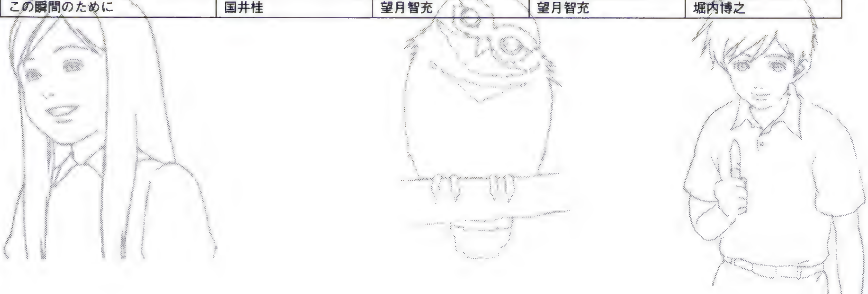
トラップ一家物語

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	私、修道女志願です	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	入江篤
2	シスターとしての未来	しろやあよ	楠葉宏三、中西伸彰	楠葉宏三	加藤裕美
3	艦長と7人の子供たち	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝
4	26人目の家庭教師	しろやあよ	関戸始	楠葉宏三	入江篤
5	マリアは騒ぎの張本人	しろやあよ	斎藤次郎	斎藤次郎	加藤裕美
6	迷子とはらぺこ騒動	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝
7	大人は信じられない	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	加藤裕美
8	礼儀作法が大事です!?	しろやあよ	楠葉宏三、中西伸彰	楠葉宏三	大城勝
9	トラップ男爵の婚約者?	しろやあよ	斎藤次郎	斎藤次郎	加藤裕美
10	ミシンとヴァイオリン	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	大城勝
11	どろんこ遊びは最高!	しろやあよ	佐土原武之、中西伸彰、楠葉宏三	楠葉宏三、佐土原武之、中西伸彰	加藤裕美
12	マリア風チョコレートケーキ	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	田中穣
13	ドン・キホーテの初恋	しろやあよ	楠葉宏三、斎藤次郎	斎藤次郎	大城勝
14	オルゴールの秘密	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	加藤裕美
15	マルティナと熊のニコラ	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	遠井和也、細井信宏
16	マリア先生がいない家	しろやあよ	佐土原武之、中西伸彰、楠葉宏三	楠葉宏三、佐土原武之、中西伸彰	大城勝
17	傷ついた子鹿	しろやあよ	楠葉宏三、斎藤次郎	斎藤次郎	田中穣
18	生きとし生けるもの	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	加藤裕美
19	イヴォンヌ姫のお土産	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	伊武菜鳥、細井信宏
20	それぞれの人生	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝
21	トラップ男爵の決断	しろやあよ	則座誠、斎藤次郎、楠葉宏三	斎藤次郎	田中穣
22	1人で生きてゆける?	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	加藤裕美
23	天使への願い事	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	伊武菜鳥、細井信宏
24	クリスマス・キャロル	しろやあよ	佐土原武之、中西伸彰、楠葉宏三	楠葉宏三、佐土原武之、中西伸彰	大城勝
25	白銀のアルプスにて	しろやあよ	則座誠、楠葉宏三	則座誠	田中穣
26	オレンジと花の苗	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	加藤裕美
27	昨日・今日・明日	しろやあよ	斎藤次郎	斎藤次郎	細井信宏
28	いたずらアガーテ	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	大城勝
29	妻になる人、母になる人	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	加藤裕美
30	結婚してくれますね!?	しろやあよ	斎藤次郎、則座誠、楠葉宏三	斎藤次郎	田中穣
31	神様の思し召し	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	細井信宏
32	七月の花嫁	しろやあよ	中西伸彰	楠葉宏三、中西伸彰	大城勝
33	本当の家族	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	加藤裕美
34	ファミリー合唱団誕生	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	細井信宏
35	歌声は風にのって	しろやあよ	則座誠、楠葉宏三	則座誠	田中穣
36	ナチス侵攻	しろやあよ	斎藤次郎	斎藤次郎	大城勝
37	あたらしいご挨拶	しろやあよ	加賀剛	楠葉宏三、加賀剛	伊藤広治
38	ハンスの秘密	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	細井信宏
39	誇りと信念	しろやあよ	楠葉宏三	則座誠	田中穣
40	さようならわが祖国	しろやあよ	楠葉宏三	楠葉宏三	大城勝



ポルフィの長い旅

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	父さんからの手紙	国井桂	望月智充	望月智充	赤堀重雄
2	友達がやってきた	国井桂	小林治	城所聖明	菱沼祐樹、加藤真人
3	父さんを迎えに	国井桂	金澤勝眞	清水一伸	服部憲知、松岡秀明、栗原学
4	ミーナの誕生日	国井桂	牧野行洋	中川聡	飯野利明
5	ぼくたちのステーション	谷口純一郎	立場良	立場良	高鉾誠
6	イタリアから来た少女	国井桂	望月智充	岡崎幸男	水川弘理
7	ポルフィの欲しいもの	国井桂	細谷秋夫、望月智充	細谷秋夫	武内啓
8	真夜中の作戦	谷口純一郎	上原秀明、望月智充	上原秀明	菱沼祐樹、深町明良
9	新しい世界	国井桂	寺東克己	奥野浩行	奥野浩行
10	夏の一日	谷口純一郎	小林治	川西泰二	KWON UNI
11	ポンプとアイスクリーム	国井桂	山本寛、望月智充	鎌仲史陽	羽生貴之
12	運命の日	国井桂	室谷靖	細川秀樹	Kim Dae Hoon、Kim Gi Du
13	失ったもの残ったもの	国井桂	山本靖貴	山本靖貴	加藤真人
14	ぼくはミーナを守る	国井桂	寺東克己	花井宏和	谷津美弥子
15	想い出を抱きしめて	国井桂	藤森久	立場良	高鉾誠
16	海の向こうへ	国井桂	小林治	高山蒔	深町明良、菱沼祐樹
17	真っ白な旅立ち	望月智充	木村隆一	中村圭三	武内啓
18	さよならギリシャ	国井桂	高柳哲司	川西泰二	KWOUN YUN HEE
19	イタリアの港で	司馬元	藤森久	鎌仲史陽	飯飼一幸
20	洞窟の街	谷口純一郎	望月智充	川西泰二	Kim Dae Hoon、Woo Seung Wook
21	ドーラとの別れ	谷口純一郎	山本靖貴	山本靖貴	加藤真人
22	線路はつづくよ	国井桂	小林治	山崎茂	富沢和雄
23	ひび割れた人形	国井桂	藤森久	立場良	高鉾誠
24	笑顔の帰る場所	谷口純一郎	高柳哲司	内田信吾	深町明良、菱沼祐樹
25	小さな街の小さな友情	国井桂	寺東克己	土屋康郎	武内啓
26	汽笛がきこえたら	司馬元	小林治	川西泰二	KWOUN YUN HEE
27	あなたに届けたい	司馬元	藤森久	鎌仲史陽	飯飼一幸
28	シシリアン・ラプソディ	司馬元	高柳哲司	関田修	Kim Dae Hoon
29	手紙	国井桂	望月智充	望月智充	菱沼祐樹
30	ローマの道しるべ	国井桂	山本靖貴	山本靖貴	加藤真人
31	この街のどこかに	谷口純一郎	高柳哲司	立場良	高鉾誠
32	ミーナとイザベラ	司馬元	寺東克己	土屋康郎	武内啓
33	傷だらけの少年たち	谷口純一郎	高柳哲司	内田信吾	深町明良、菱沼祐樹
34	天使へのプレゼント	山本麻里安	望月智充	川西泰二	KWOUN YUN HEE
35	信じるこころ	司馬元	安濃高志	大関雅幸	張裕植
36	仮面の素顔	国井桂	寺東克己	Kim Dae Hoon	Kim Dae Hoon
37	ふたりで見る景色	司馬元	山本靖貴	山本靖貴	加藤真人
38	風に散る	綿紀和	小林治	立場良	高鉾誠
39	君へと続く道	国井桂	芝山努	小澤慎一郎	市来剛
40	国境を目指して	谷口純一郎	高柳哲司	土屋康郎	重松しんいち、都竹隆治
41	南フランスの家族	谷口純一郎	内田信吾	内田信吾	深町明良、菱沼祐樹
42	奪われた愛	司馬元	芝山努	川西泰二	KWOUN YUN HEE
43	友よ	国井桂	望月智充	矢野篤	市来剛
44	勇気をあげる	司馬元	高柳哲司	江崎慎平	藤原宏樹
45	路地裏に咲く薔薇	国井桂	山本靖貴	山本靖貴	今井一暁
46	パリのめぐり逢い	谷口純一郎	高柳哲司	高橋成世	Kim Dae Hoon
47	新しい扉	国井桂	小林治	立場良	高鉾誠
48	夢のかけら	司馬元	高柳哲司	鎌仲史陽	飯飼一幸
49	ランデブー	谷口純一郎	内田信吾	内田信吾	深町明良、菱沼祐樹
50	うそ	国井桂	藤森久	筑紫大輔、高橋順	武内啓
51	願い	国井桂	望月智充	川西泰二	Kim Dae Hoon
52	この瞬間のために	国井桂	望月智充	望月智充	堀内博之



Contents 目次

世界名作劇場シリーズ
メモリアルブック
ヨーロッパ編

2010年5月4日　初版発行

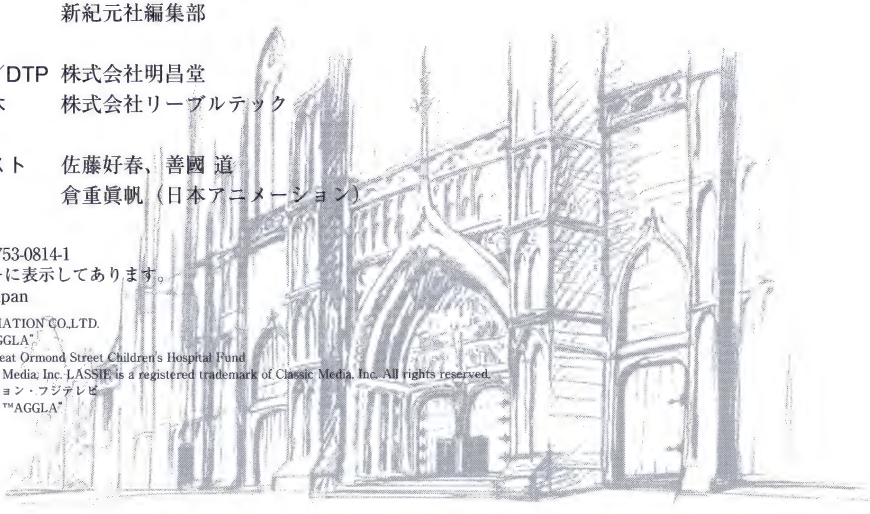
発行者　大貫尚雄
発行所　株式会社新紀元社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-19
楠本第3ビル4F
TEL：03-3291-0961
FAX：03-3291-0963
郵便振替 00110-4-27618

著　ちばかおり
編集協力　ちば童画舎、古仁屋次郎
編集　新紀元社編集部

デザイン／DTP　株式会社明昌堂
印刷／製本　株式会社リーブルテック

表紙イラスト　佐藤好春、善國 道
監修　倉重眞帆（日本アニメーション）

ISBN978-4-7753-0814-1
定価はカバーに表示してあります。
Printed in Japan



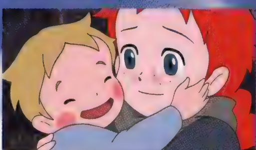
特別付録

こんにちはアン
Before Green Gables

世界名作劇場第26作目「こんにちはアン〜Before Green Gables」の設定とストーリーを紹介。









わたしの名前はアン
おしまいにeが付くアンよ！

STORY

グリーンゲイブルズでの幸せな日々を過ごす前の6歳の幼いアン・シャーリーの物語。生まれてすぐに両親を亡くしたアンは、貧しいトーマス家に引き取られることになった。アンは家の手伝いで忙しい毎日を送っていたが、どんなときでも楽しくて独創的な想像をすることで、辛い日々を明るく過ごしていた。美しいカナダの大自然を舞台に、『赤毛のアン』の新しい物語が始まる。

監　　督：谷田部　勝義
シナリオディレクター：島田満
キャラクター原案　：佐藤好春
キャラクターデザイン・作画監督：西村貴世
美術監督：森元茂
色彩設計：小松原智子
音　　楽：高梨康治、水谷広実、藤澤健至

放送期間：2009/04/05~2009/12/27
話　　数：39話
原　　作：バッジ・ウィルソン
「Before Green Gables」

佐藤好春氏の原案イラスト







アン・シャーリー

生まれたばかりで両親を亡くし、孤児になった女の子。小さなときからとてもおしゃべりで、辛い境遇でも明るさを失わず、どんなことにも好奇心を持つ。（声：日高里菜）

男の子達にからかわれている赤毛とそばかすがコンプレックス。

トーマス家の末っ子、ノア。アンが名付け親。生まれた時からアンが世話をしているため、アンに懐く。

アンがもらったネコで“ロキンバー”と名付ける。トーマス家で飼うことに。

トーマス家

孤児になったアンが引き取られた家。大黒柱のバートはお酒のせいで働かず、ジョアンナが一家を支えている為に生活はとても貧しい。アンは優しいエリーザのことは大好きだが、下の男の子達からはからかわれてばかりいる。





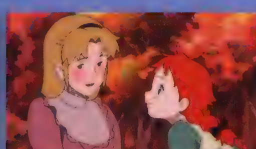
物語の舞台





19世紀半ば。カナダ東部にある半島、ノヴァスコシア州にある小さな田舎町ボーリングブロークから物語は始まる。ボーリングブロークは架空の町。

Story Digest

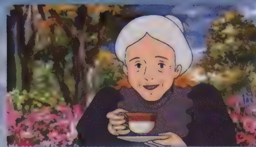







ボーリングブロークの町でトーマス一家とともに暮らすアン。貧しく厳しい暮らしの中、大切な人との出会いと別れを経験しながら、たくましく生きていく。ある日のこと、バートは帰らぬ人となり、アンとトーマス家との別れが待っていた。

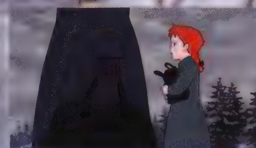
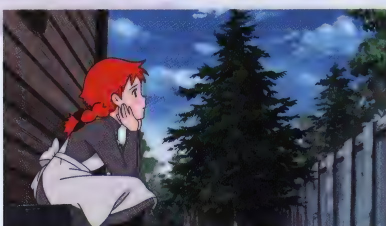


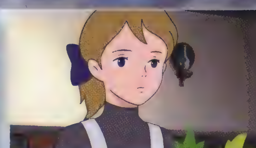



製材所を営むハモンド家に引き取られたアン。そこには3組の双子を含めて8人の子供がおり、今まで以上に忙しい毎日を過ごしていた。そんな中、ハモンド家の主人であるケンドリックが病気で亡くなってしまう。



引き取り手のいないアンはホープタウンにある、孤児院へ送られる。厳しい院長や自分と同じ孤児の少女達との出会い…。そして4ヶ月経ったある日、アンの運命を変える"11歳の女の子をひとり引き取りたいと言う申し出"が書かれた手紙が届く。




プリンセスエドワード島行きの船に乗ったアン。その瞳にはまだ見ぬ世界が広がる。

そして、『赤毛のアン』の物語へ……。



世界名作劇場シリーズ メモリアルブック ヨーロッパ編



既刊案内



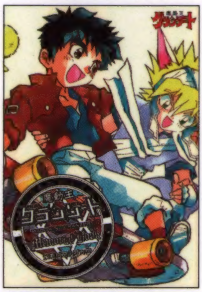
勇者シリーズ メモリアルブック
超勇者伝承
定価：本体2,600円（税別）



エルドランシリーズ
メモリアルブック
定価：本体2,600円（税別）



魔神英雄伝ワタル
メモリアルブック
定価：本体2,500円（税別）



魔動王グランゾート
メモリアルブック
定価：本体1,900円（税別）



GEAR戦士 電童
メモリアルブック
定価：本体2,000円（税別）



無人惑星サヴァイヴ
メモリアルブック
定価：本体2,000円（税別）



覇王大系リューナイト
メモリアルブック
定価：本体2,000円（税別）



デジモンシリーズ メモリアルブック
デジモンアニメーションクロニクル
定価：本体2,600円（税別）

9784775308141

1920074028009

ISBN978-4-7753-0814-1
C0074 ¥2800E

定価：本体2,800円（税別）

フランダースの犬

ロミオの青い空

小公女（プリンセス）セーラ

アルプス物語 わたしのアンネット

牧場の少女カトリ

トラップ一家物語（いっかものがたり）

ポルフィの長い旅（ながいたび）

家なき子レミ

ペリーヌ物語

小公子（しょうこうし）セディ

ピーターパンの冒険（ぼうけん）

名犬ラッシー

レ・ミゼラブル 少女コゼット